

一般国道157号鶴来バイパス改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

野々市町

末松遺跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

すえ まつ 遺 跡
末 松 遺 跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会
(財) 石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は末松A遺跡の第1～3次発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県石川郡野々市町末松地内である。
- 3 調査原因は一般国道157号鶴来バイパス改築工事であり、同事業を所管する建設省北陸地方建設局金沢工事事務所（現 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所）が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は石川県立埋蔵文化財センター（以下県立埋文センター）が、昭和60（1985）年度から平成4（1992）年度にかけて現地調査・出土品整理を実施した。平成14年度から平成16年度にかけて財団法人石川県埋蔵文化財センターが整理・報告書刊行を実施した。
- 5 調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査は昭和60（1985）年度から昭和62（1987）年度に実施した。期間・面積・担当者は下記のとおりである。

第1次調査

期 間 昭和60（1985）年7月17日～昭和60（1985）年12月14日
面 積 2,600㎡
担当者 米沢義光（主事）



第2次調査

期 間 昭和61（1986）年8月1日～昭和61（1986）年12月10日
面 積 2,800㎡
担当者 北野博司（主事）

第3次調査

期 間 昭和62（1987）年6月24日～昭和62年（1987）年11月19日
面 積 4,000㎡
担当者 北野博司（主事）

- 7 出土品整理は昭和63年度・平成3・4年度に県立埋文センターが、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。平成14年度から平成16年度にかけて、財団法人石川県埋蔵文化財センターが報告書作成に係る整理を実施し、調査部調査第1課が担当した。
- 8 遺構・遺物図のデジタル化及び図版編集を（株）セビアスに委託して行った。
- 9 報告書の執筆・刊行は平成16（2004）年度に実施し、調査部調査第1課が担当した。本書の執筆は第3章第5節1項および第4章第1節を布尾和史（調査部調査第1課主任主事）が担当し、その他の執筆および編集は柿田祐司（調査部調査第1課課主査）が行った。
- 10 調査には下記の機関、個人の協力を得た。
国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所、野々市町教育委員会、北野博司、望月精司（五十音順、敬称略）
- 11 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 12 本書についての凡例は下記のとおりである。

- (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
- (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
- (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。
- (4) 遺物実測図については須恵器の断面は黒塗り、内黒土器は、赤彩土器はで示した。
- (5) 発掘調査年次毎に付け直されていた遺構名称を次のように統一した。
竪穴建物：S I、掘立柱建物：S B、溝：S D、土坑：S K、穴：P、性格不明遺構：S X
また、河道・大溝といった遺構の性格を表す名称についてはあえて修正しなかった。
- (6) 発掘調査が3年にわたり、その度新規に遺構番号が付けられており混同するおそれがあるため、以下のようにその発掘調査年次の西暦下二桁を遺構番号の頭に付けた。
例：1985年度のS I 0 1 = 8 5 S I 0 1、1986年度のS I 0 1 = 8 6 S I 0 1

目 次

第 1 章 調査に至る経緯と経過	1
第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 調査の経過	1
第 2 章 遺跡の位置と歴史的環境	3
第 1 節 遺跡の位置	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 節 末松遺跡群の調査	7
第 3 章 調査の概要	11
第 1 節 末松 A 遺跡の調査	11
第 2 節 1985年度の発掘調査	12
第 3 節 1986年度の発掘調査	51
第 4 節 1987年度の発掘調査	131
第 5 節 その他の時代の遺物	239
第 6 節 遺物観察表について	255
第 4 章 まとめ	311
第 1 節 縄文時代から弥生時代	311
第 2 節 古代前半期の末松 A 遺跡	313

挿図目次

第1図	野々市町の位置	1	第40図	1986年度調査グリッド設定図	51
第2図	調査年度別範囲	2	第41図	1986遺構全体図	52
第3図	末松A遺跡の位置と周辺の遺跡	4	第42図	86調査区壁土層断面実測図1	53
第4図	調査された末松遺跡群と試掘調査によって確認された遺跡範囲	9	第43図	86調査区壁土層断面実測図2	54
第5図	1985・1986・1987合成全体図	11	第44図	1986平面図分割範囲図	55
第6図	1985年度調査グリッド設定図	12	第45図	1986平面図1	56
第7図	1985遺構全体図	13	第46図	1986平面図2	57
第8図	85調査区西壁土層断面実測図1	14	第47図	1986平面図3	58
第9図	85調査区西壁土層断面実測図2	15	第48図	86SI11実測図	59
第10図	1985平面図分割範囲図	16	第49図	86SB01実測図	60
第11図	1985平面図1	17	第50図	86SK22・24・26実測図	61
第12図	1985平面図2	18	第51図	1986平面図4	63
第13図	85SD01・02・03・05実測図	19	第52図	86SI10実測図1	64
第14図	1985平面図3	20	第53図	86SI10実測図2	65
第15図	85SI01実測図	21	第54図	86SI08・09実測図1	67
第16図	85SI04、85SK01・02・03、85SD04・06・07・08実測図	22	第55図	86SI08・09実測図2	68
第17図	1985平面図4	23	第56図	86SB02実測図	70
第18図	85SI05・06実測図1	24	第57図	1986平面図5	71
第19図	85SI05・06実測図2	25	第58図	86SI07実測図	72
第20図	85SI02、85SD09実測図	26	第59図	1986平面図6	74
第21図	1985平面図5	28	第60図	86SI02実測図	75
第22図	85SI03、85SK04・05、85SD10・11実測図	29	第61図	86SB03実測図	76
第23図	1985平面図6	30	第62図	86SB05実測図	77
第24図	85SI07、85SK06・10、85P25実測図	31	第63図	86SB06実測図	78
第25図	85SB01、A6ピット実測図	32	第64図	86SB07実測図	79
第26図	85SB02、85SD11・12実測図	33	第65図	86SB17実測図	80
第27図	1985平面図7	36	第66図	1986平面図7	82
第28図	85SK07、85SD13・14実測図	37	第67図	86SI01・03実測図1	83
第29図	1985平面図8	38	第68図	86SI01・03実測図2	84
第30図	1985平面図9	39	第69図	86SI04実測図	85
第31図	85SI01出土遺物実測図	42	第70図	86SI06実測図	86
第32図	85SI02・03出土遺物実測図	43	第71図	86SB08実測図	87
第33図	85SI05出土遺物実測図	44	第72図	86SB09実測図	88
第34図	85SI06出土遺物実測図1	45	第73図	86SB10実測図	89
第35図	85SI06出土遺物実測図2	46	第74図	86SB18実測図	90
第36図	85SI07出土遺物実測図	47	第75図	1986平面図8	91
第37図	85包含層出土遺物実測図1	48	第76図	86SB11実測図	92
第38図	85包含層出土遺物実測図2	49	第77図	86SB12実測図	93
第39図	85包含層出土遺物実測図3	50	第78図	86SB13実測図	94
			第79図	86SB16実測図	95
			第80図	86SB20実測図	96
			第81図	1986平面図9	98

第82図	86SI05実測図	99	第127図	87SI01実測図 1	149
第83図	86SB14実測図	100	第128図	87SI01実測図 2	150
第84図	86SB15実測図	101	第129図	87SK11実測図	151
第85図	86SB19実測図	102	第130図	1987平面図 2	152
第86図	1986平面図10	103	第131図	1987平面図 3	153
第87図	1986平面図11	104	第132図	87SK02・05実測図	154
第88図	86SI12実測図	105	第133図	1987平面図 4	155
第89図	86SB21実測図	106	第134図	87SI03実測図	156
第90図	86SK01S実測図	109	第135図	1987平面図 5	157
第91図	86SI01出土遺物実測図	110	第136図	1987平面図 6	158
第92図	86SI02出土遺物実測図 1	111	第137図	1987平面図 7	159
第93図	86SI02出土遺物実測図 2	112	第138図	1987平面図 8	160
第94図	86SI03・04出土遺物実測図	113	第139図	87SI06・07実測図	161
第95図	86SI04・06出土遺物実測図	114	第140図	87SI10実測図	162
第96図	86SI05・07出土遺物実測図	115	第141図	1987平面図 9	163
第97図	86SI08出土遺物実測図	116	第142図	87SI08実測図	164
第98図	86SI08・09出土遺物実測図	117	第143図	1987平面図10	165
第99図	86SI10出土遺物実測図	118	第144図	1987平面図11	166
第100図	86SI10・11・12出土遺物実測図	119	第145図	1987平面図12	167
第101図	86ピット出土遺物実測図	120	第146図	87SX01実測図	168
第102図	86土坑・ピット出土遺物実測図	121	第147図	1987平面図13	170
第103図	86SK01S出土遺物実測図	122	第148図	87SK17・18・21・22・30・37実測図	171
第104図	86河道出土遺物実測図1	123	第149図	1987平面図14	172
第105図	86河道出土遺物実測図 2	124	第150図	1987平面図15	173
第106図	86河道出土遺物実測図 3	125	第151図	護岸礫群、87SK27実測図	174
第107図	86包含層出土遺物実測図 1	126	第152図	1987平面図16	176
第108図	86包含層出土遺物実測図 2	127	第153図	87SI09実測図	177
第109図	86包含層出土遺物実測図 3	128	第154図	87大溝土層断面図 1	178
第110図	86包含層出土遺物実測図 4	129	第155図	87大溝土層断面図 2	179
第111図	86包含層出土遺物実測図 5	130	第156図	中近世河道たちわり土層断面図	180
第112図	1987年度調査グリッド設定図	131	第157図	86SI13・87SI04出土遺物実測図	183
第113図	1986-1987遺構全体図	132	第158図	87SI02出土遺物実測図	184
第114図	1987遺構全体図	133	第159図	87SI01出土遺物実測図 1	185
第115図	87調査区西壁土層断面図 1	135	第160図	87SI01 出土遺物実測図 2	186
第116図	87調査区西壁土層断面図 2	136	第161図	87SI03出土遺物実測図 1	187
第117図	87調査区西壁土層断面図 3	137	第162図	87SI03出土遺物実測図 2	188
第118図	87調査区西壁土層断面図 4	138	第163図	87SI10・06出土遺物実測図	189
第119図	1986-1987平面図分割範囲図	139	第164図	87SI07出土遺物実測図	190
第120図	1986-87平面図 1	140	第165図	87SI08・09出土遺物実測図	191
第121図	86SI13・87SI04実測図	141	第166図	87SX01出土遺物実測図 1	192
第122図	1986-87平面図 2	143	第167図	87SX01出土遺物実測図 2	193
第123図	87SI02実測図	144	第168図	87SX01出土遺物実測図 3	194
第124図	87SB01実測図	145	第169図	87SX01出土遺物実測図 4	195
第125図	87SB02実測図	146	第170図	87ピット等出土遺物実測図	196
第126図	1987平面図 1	148	第171図	87SK出土遺物実測図 1	197

第172図	87SK出土遺物実測図2	198	第204図	87大溝(42ライン)出土遺物実測図1	230
第173図	87SX02出土遺物実測図	199	第205図	87大溝(42ライン)出土遺物実測図2	231
第174図	87SX02・03出土遺物実測図	200	第206図	87包含層出土遺物実測図1	232
第175図	87大溝(33ライン)出土遺物実測図1	201	第207図	87包含層出土遺物実測図2	233
第176図	87大溝(33ライン)出土遺物実測図2	202	第208図	87包含層出土遺物実測図3	234
第177図	87大溝(34ライン)出土遺物実測図	203	第209図	87包含層出土遺物実測図4	235
第178図	87大溝(35ライン)出土遺物実測図1	204	第210図	87包含層出土遺物実測図5	236
第179図	87大溝(35ライン)出土遺物実測図2	205	第211図	87包含層出土遺物実測図6	237
第180図	87大溝(36ライン)出土遺物実測図1	206	第212図	試掘トレンチ出土遺物実測図	238
第181図	87大溝(36ライン)出土遺物実測図2	207	第213図	85・86縄文・弥生遺物実測図	241
第182図	87大溝(36ライン)出土遺物実測図3	208	第214図	87縄文・弥生遺物実測図	242
第183図	87大溝(36ライン)出土遺物実測図4	209	第215図	85A6ピット出土遺物実測図	243
第184図	87大溝(36ライン)出土遺物実測図5	210	第216図	85包含層出土遺物(中世以降)実測図1	244
第185図	87大溝(37ライン)出土遺物実測図1	211	第217図	85包含層出土遺物(中世以降)実測図2	245
第186図	87大溝(37ライン)出土遺物実測図2	212	第218図	86包含層等出土遺物(中世)実測図	246
第187図	87大溝(37ライン)出土遺物実測図3	213	第219図	金属製品実測図	247
第188図	87大溝(37ライン)出土遺物実測図4	214	第220図	石製品実測図1	248
第189図	87大溝(37ライン)出土遺物実測図5	215	第221図	石製品実測図2	249
第190図	87大溝(38ライン)出土遺物実測図1	216	第222図	石製品実測図3	250
第191図	87大溝(38ライン)出土遺物実測図2	217	第223図	石製品実測図4	251
第192図	87大溝(38ライン)出土遺物実測図3	218	第224図	石製品実測図5	252
第193図	87大溝(39ライン)出土遺物実測図1	219	第225図	石製品実測図6	253
第194図	87大溝(39ライン)出土遺物実測図2	220	第226図	石製品・銭貨実測図	254
第195図	87大溝(39ライン)出土遺物実測図3	221	第227図	遺物計測部位	255
第196図	87大溝(40ライン)出土遺物実測図1	222	第228図	蓋杯の重ね焼き分類図	256
第197図	87大溝(40ライン)出土遺物実測図2	223	第229図	遺物分布図	312
第198図	87大溝(40ライン)出土遺物実測図3	224	第230図	末松A遺跡竪穴建物群構成	315
第199図	87大溝(40ライン)出土遺物実測図4	225	第231図	竪穴建物の規模	316
第200図	87大溝(40ライン)出土遺物実測図5	226	第232図	群別竪穴建物平面図1	317
第201図	87大溝(41ライン)出土遺物実測図1	227	第233図	群別竪穴建物平面図2	318
第202図	87大溝(41ライン)出土遺物実測図2	228	第234図	群別竪穴建物平面図3	319
第203図	87大溝(41ライン)出土遺物実測図3	229			

表目次

第1表	末松A遺跡周辺の遺跡一覧1	5	第3～56表	遺物観察表	257～310
第2表	末松A遺跡周辺の遺跡一覧2	6	第57表	土器・打製石斧の出土点数(グリッド毎)	311

図版目次

図版1	航空写真1	図版5	85SI03・05・06
図版2	航空写真2	図版6	86SI08・09・10ほか
図版3	航空写真3	図版7	86SI08・09・10
図版4	85SI01・02	図版8	86SI08

- 図版9 86SI10・SB01
 図版10 86SB02・86SI07
 図版11 86SI01・02・03ほか
 図版12 86SI01・02
 図版13 86SI04・06
 図版14 1987調査区全景
 図版15 87SI01・03ほか
 図版16 87SI09全景ほか
 図版17 1985年度調査1 (1985年度調査区全景)
 図版18 1985年度調査2 (85SI01)
 図版19 1985年度調査3 (85SI01・02)
 図版20 1985年度調査4 (85SI03・04)
 図版21 1985年度調査5 (85SI05・06)
 図版22 1985年度調査6 (85SI05・06)
 図版23 1985年度調査7 (85SI05・06)
 図版24 1985年度調査8 (85SI06)
 図版25 1985年度調査9 (85SI07)
 図版26 1985年度調査10 (85SB01・85SI07)
 図版27 1985年度調査11 (85SK01・02・03・04・05・06・09・10)
 図版28 1985年度調査12 (85P25・P41・39・85SD01・02・03・04・05)
 図版29 1985年度調査13 (85SD06・07・08・09・10)
 図版30 1985年度調査14 (85SI01・05・06・07・85SD11・12・13・14)
 図版31 1985年度調査15 (A6ピット・航空写真)
 図版32 1986年度調査1 (86SI08・09・10)
 図版33 1986年度調査2 (86SI10)
 図版34 1986年度調査3 (86SI10)
 図版35 1986年度調査4 (86SI10)
 図版36 1986年度調査5 (86SI08・09)
 図版37 1986年度調査6 (86SI08)
 図版38 1986年度調査7 (86SI08・09)
 図版39 1986年度調査8 (86SI08・09)
 図版40 1986年度調査9 (86SI05・06)
 図版41 1986年度調査10 (86SI07)
 図版42 1986年度調査11 (86SI01・02・03)
 図版43 1986年度調査12 (86SI02)
 図版44 1986年度調査13 (86SI02)
 図版45 1986年度調査14 (86SI01・02・03)
 図版46 1986年度調査15 (86SI03・04)
 図版47 1986年度調査16 (86SI04)
 図版48 1986年度調査17 (86SB01・02)
 図版49 1986年度調査18 (C8より北側調査区全景)
 図版50 1986年度調査19 (掘立柱建物跡群)
 図版51 1986年度調査20 (86SB03・15)
 図版52 1986年度調査21 (県道北・南調査区全景)
 図版53 1986年度調査22 (県道北調査区全景)
 図版54 1986年度調査23 (86SB21・86SK01S)
 図版55 1986年度調査24 (86SI12・13)
 図版56 1986年度調査25 (86P110)
 図版57 1986年度調査26 (県道北調査区P12N)
 図版58 1986年度調査27 (軒丸瓦・県道北調査区SK06N・86SI08・09・10調査風景・県道北調査区調査風景・県道南調査区調査風景)
 図版59 1987年度調査1 (C17・20全景)
 図版60 1987年度調査2 (D19・26・B19・29全景)
 図版61 1987年度調査3 (87SI02・04)
 図版62 1987年度調査4 (87SI02)
 図版63 1987年度調査5 (87SI02)
 図版64 1987年度調査6 (87SI01)
 図版65 1987年度調査7 (87SI01)
 図版66 1987年度調査8 (87SI01)
 図版67 1987年度調査9 (87SI03・87SB01)
 図版68 1987年度調査10 (87SI03)
 図版69 1987年度調査11 (87SI03)
 図版70 1987年度調査12 (30-42全景)
 図版71 1987年度調査13 (87SI06・07・10)
 図版72 1987年度調査14 (87SI06・07)
 図版73 1987年度調査15 (87SI06・07)
 図版74 1987年度調査16 (87SK22)
 図版75 1987年度調査17 (87SI08・87SX02)
 図版76 1987年度調査18 (87SK21・87SX01)
 図版77 1987年度調査19 (87SI09)
 図版78 1987年度調査20 (87SI09)
 図版79 1987年度調査21 (河道・護岸施設)
 図版80 1987年度調査22
 図版81~85 1985年度調査出土遺物
 図版86~96 1986年度調査出土遺物
 図版97~120 1987年度調査出土遺物
 図版121 1987年度調査・試掘調査出土遺物
 図版122 縄文・弥生時代・A6ピット出土遺物
 図版123 中近世出土遺物
 図版124 中近世出土遺物・金属製品
 図版125~127 石製品
 図版128 石製品・銭貨

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

国道157号線は、石川県金沢市を起点とし終点を岐阜県岐阜市とする202.6kmの区間をいう。石川郡野々市町から白山市鶴来の区間では、家屋が続き道幅も狭く、きついカーブの箇所も多かったため、交通の混雑や安全確保を図る必要があった。これらの問題に対処するため、1970年度に「鶴来バイパス」の計画線調査が着手され、1974年度に事業化がなされた。鶴来バイパスとは、白山市乾町～白山市鶴来白山町までの延長13.2kmをいう。そして1977年度に工事着手となり、鶴来バイパス関連の埋蔵文化財発掘調査が、本報告の「末松A遺跡」のほか「白山遺跡」「白山町墳墓遺跡」「安養寺遺跡」「木津遺跡」「清金アガトウ遺跡」「橋爪遺跡」「乾遺跡」で行われている。

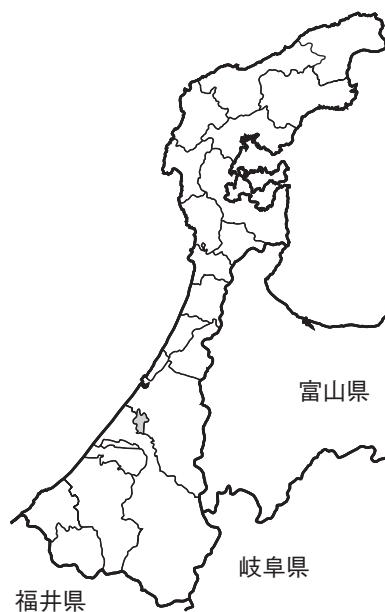
1980年度から1983年度までに鶴来町白山町から安養寺町までの区間が暫定2車線供用された。末松A遺跡の調査は、加賀産業道路から一般国道8号線に接続するおよそ3kmの工事に伴うものである。

石川県立埋蔵文化財センター（以下県立埋文センター）は、建設省北陸地方建設局金沢工事事務所（以下金沢工事事務所）の依頼を受け、1984年度に鶴来バイパス路線内の松任市木津地内から野々市町末松地内にかけて分布調査を行った。その結果この区間に4箇所の発掘調査必要範囲がある旨を金沢工事事務所に回答した。当初は末松遺跡の名称が与えられ、1980年度に石川県教育委員会が発行した石川県遺跡地図の末松A・C遺跡の範囲内と考えられていた。そして1984年度に第1次調査が行われた。1985年度も引き続き発掘調査が行われたが、遺構の遺存状態が良くないことから同年に再度野々市町末松地内から同町清金地内にかけて分布調査が行われた。その結果周知の末松A・C遺跡、清金アガトウ遺跡に該当する部分で遺物包含層等が確認されたが、先に設定した調査区域の変更をする必要が生じた。そして当初設定した調査区域の変更をする旨の協議が金沢工事事務所と行われた。遺跡名称はそのまま変更されず、同年末松遺跡の第2次調査が行われた。1986年度には第3次調査、1987年度には第4次調査となった。

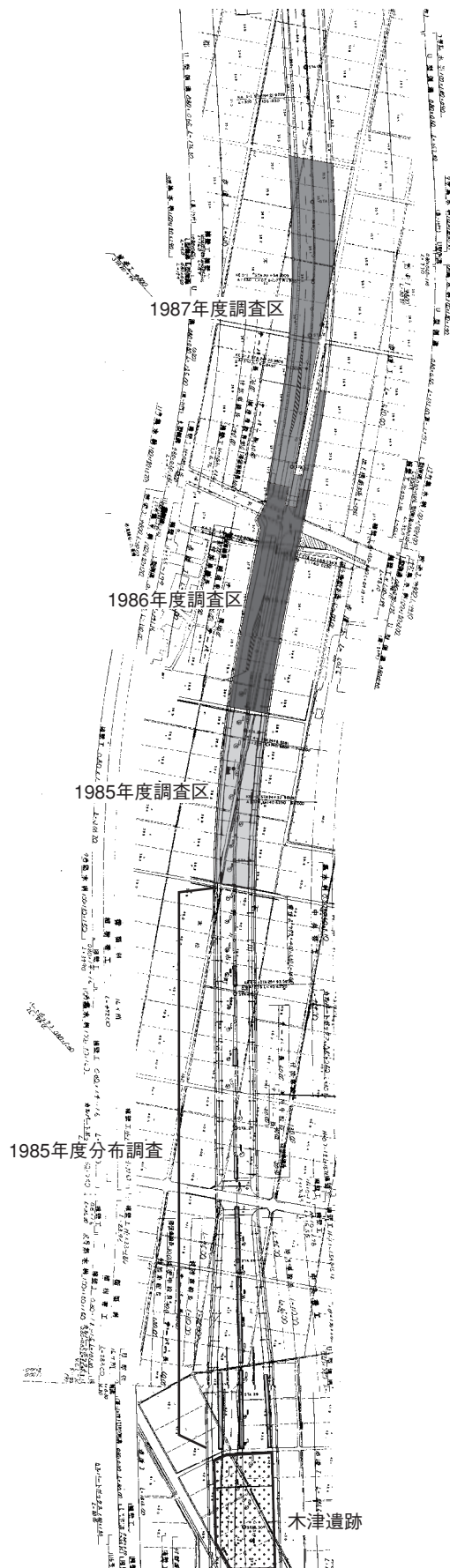
1992年度に石川県教育委員会が発行した石川県遺跡地図では、第1次調査区とその調査区に繋がる第2次調査区の一部が木津遺跡となっている。また、末松A・C遺跡は末松A遺跡となっている。よって本報告書中では、1985年度に末松A遺跡で開始された発掘調査を末松A遺跡第1次調査とし、1986年度調査を第2次調査、1987年度を第3次調査として報告する。

第2節 調査の経過

末松A遺跡の第1次調査は、1985年度に行われた。当初の発掘調査対象面積は6,000m²であった。木



第1図 野々市町の位置



第2図 調査年度別範囲（国土交通省作成平面図使用）

津遺跡の第2次調査で遺構が希薄であったため再度分布調査が行われた。木津遺跡から末松A遺跡までの範囲においては、約925m²のトレンチ調査で確認が行われている。そして末松A遺跡部分を対象面積2,600m²として発掘調査が行われた。調査では、7世紀末頃から8世紀後半頃と考えられる竪穴建物が検出されている。また中世の土師器埋納ピットが検出され、中世土師器の編年の示標となっている。

1986年度には対象面積2,800m²で第2次調査が行われた。第1次調査と同じく7世紀末頃から9世紀後半にかけての集落跡が検出された。7世紀末から8世紀中頃までは竪穴建物が主体で、8世紀後半以降掘立柱建物に切り替わる状況が良くわかる。また、末松廃寺と同范の軒丸瓦が出土している。竪穴建物(86SI07)からは須恵器の壺ないし瓶の口頸部を打ち欠いた中から、管状土錘が10点納められた状態で出土した。

1987年度には対象面積3,000m²で第3次調査が行われたが、一部遺構の検出量が少なく調査の進捗状況により、最終的な実績面積は4,000m²の調査となった。遺構の検出が少ない範囲1,400m²に対しては手実測を、残りの2,600m²に対しては空中写真測量を行った。調査範囲の北端で検出された竪穴建物(87SI09)は、壁溝内に石列を伴う構造を持つもので県内では他に類例がない。竪穴建物には、青野型や近江型の土師器煮炊具を出土するものがある。古代の遺物が大量に出土した大溝には、一部護岸施設が設けられておりその機能が注目される。

1992年度には、1986年度に調査した86SI07について補足調査を県立埋蔵文化財センターが職員のみで行った。

出土品の整理は、1988・1991・1992年度に調査年次ごとに記名～トレースまでの作業を社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。

また、遺構図・遺物図のデジタル編集図化を平成15・16年度に株式会社セビアスに委託して行った。第1次調査から第3次調査までの図面類をデジタル化し編集した。遺物はデジタルカメラで撮影した。本報告書の図面・写真類はすべてデータ化されており、今後の2次の活用も十分可能である。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

末松A遺跡は、石川県石川郡野々市町末松地内に所在する。野々市町は石川県のほぼ中央に位置し、金沢市の南西部と白山市の北東部に接している。町域は約13.56km²、人口は42,960人で人口密度は3,168人/km²（平成16年度）と県下では最も人口密度の高い自治体となっている。末松地区は野々市町の南西端にあたり、加賀産業道路や本発掘調査の原因となった鶴来バイパスが交差する近辺にあり、現代の交通の要衝となっている。また近年は、のどかな田園地帯の風景も徐々に変化し、新たに住宅地ができるなどその風景は急速に変化している。

末松A遺跡は、標高35～42mの手取川扇状地扇中央部に立地している。手取川扇状地は、標高80mの白山市鶴来付近を扇頂とし、約120°の角度で北西に開いている。現在の手取川は白山市鶴来付近から流れを北から西に向けて日本海に注いでいるが、古くはたびたび氾濫を起こしその流路を少しずつ西へと変えていった。富樫、郷、中村、山島、大慶寺、中島、新砂川の七ヶ用水が手取川支流の名残とされている。現在は扇状地の大部分が水田化され一見平坦なように見えるが、古くは微高地や微低地が入り組んだ複雑な地形をしていたと考えられる。周辺の遺跡の分布や、発掘調査の成果などからそれら島状微高地に立地する遺跡が南北にまとまりをもっていると考えられている。

末松A遺跡は西方約500mにある国指定史跡末松廃寺を始めとし、その周辺に所在する遺跡を含んでひとつの遺跡群（末松遺跡群）を形成していると考えられる。末松遺跡群は七ヶ用水のうち東から2本目、郷用水系の中流域に位置している。

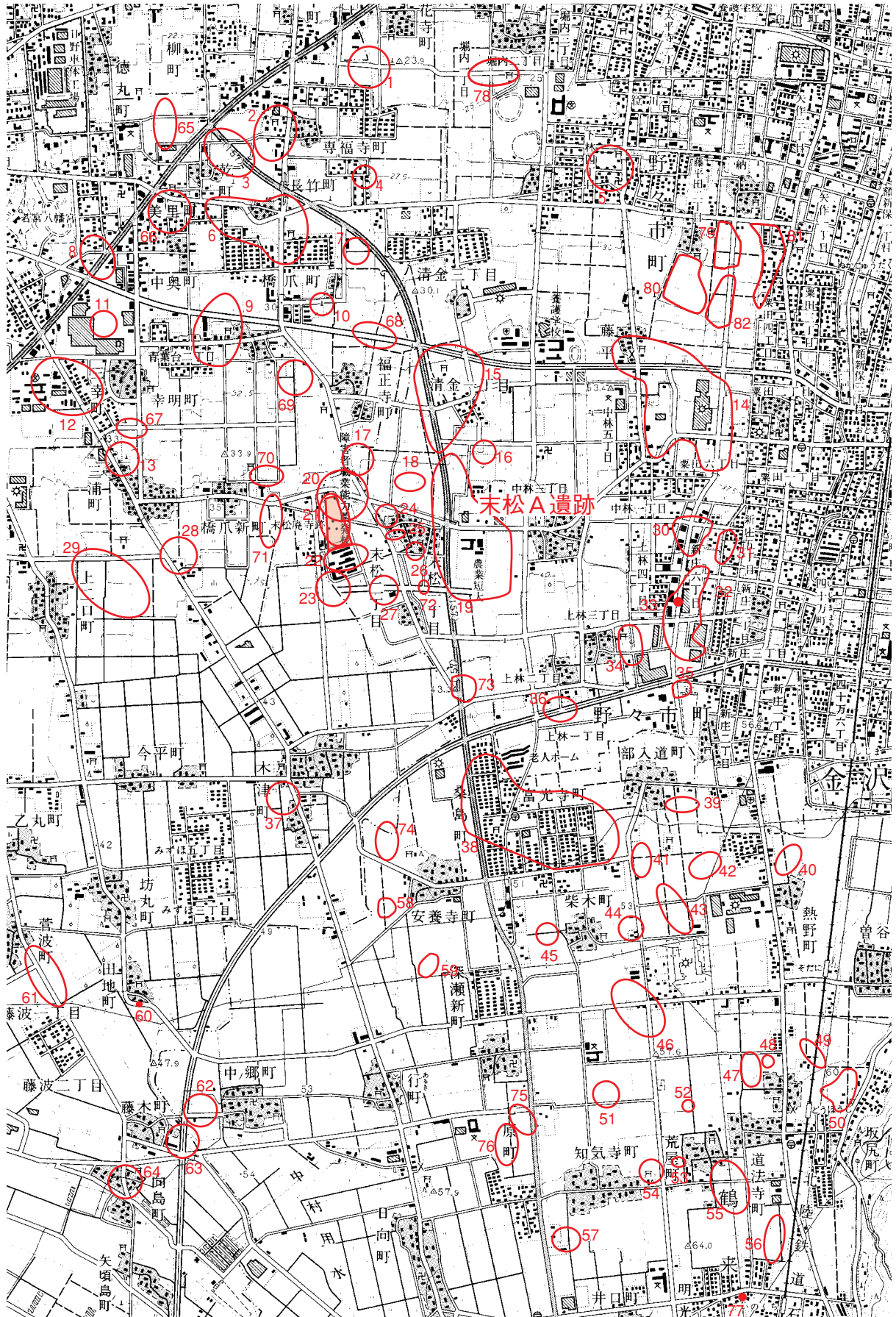
第2節 歴史的環境

縄文時代後晩期から弥生時代初めの遺跡は低地部での確認例が多いが、白山市旭遺跡、金沢市新保本町チカモリ遺跡、米泉遺跡、野々市町御経塚遺跡など、扇端部に大規模な集落遺跡が展開している。これら大集落形成の背景には自噴水に恵まれた環境にあったからと考えられている。

扇中央部では東側で金沢市馬替遺跡、野々市町三納アラミヤ遺跡（81）など縄文時代後期の遺物がまとまって出土する例が知られる。長竹遺跡（6）では縄文時代晩期の土坑群と比較的まとまった量の遺物が出土している。遺構を伴う遺跡は他に乾町遺跡（3）下層などごくわずかに認められるのみである。鶴来バイパス関連の調査などで、晩期の土器片と打製石斧が広域にわたって散発的に出土することが知られており、末松A遺跡（19）でも出土している。このあり方は弥生時代前期にいたるまで、扇状地上で発掘される多くの遺跡で認められる。

弥生時代中期頃になると、周辺の遺跡分布は手取川扇状地扇端部や松任平野沖積地など低地側に際立った偏りを示している。大規模な灌漑を要しない低湿地域での初期稲作農耕のあり方を示しているものと考えられている。

弥生時代後期から古墳時代前期には、扇中央部の松任市上二口遺跡（29）、野々市町上新庄ニシウラ遺跡（35）、末松廃寺（21）、橋爪新A遺跡（70）などで集落跡が確認されている。扇頂部に近い荒屋遺跡（55）、七原町A遺跡（75）、七原町B遺跡（76）でも当該期の集落跡が確認されている。小規模ながらも扇状地上を流れる河川と結びついた形での集落の運営が開始されることとなる。古墳時代



第3図 末松A遺跡の位置と周辺の遺跡 (S = 1/25,000) 「国土地理院発行2万5千分の1地形図(松任・栗生合成)」

番号	名称	所在地	現状	時代	出土品	備考
1	田中ノダ遺跡	松任市田中町	水田	弥生、古墳	弥生土器、土師器	1983年松任市教委発掘調査。一部野々市町に広がる。
2	専福寺遺跡	松任市専福寺町	社地、宅地他	中世	五輪塔、仏具（銅製）、花器	
3	乾町遺跡	松任市乾町	水田、道路	縄文～近世	縄文土器、弥生土器、石製品、木製品、金属製品、須恵器、土師器、珠洲焼、越前焼、輸入陶磁、鉄製錐、管玉、勾玉、玉未成品、土偶、打製石斧、磨製石斧、石鎌、肥前系陶磁器、越中瀬戸、明染付、焼塩壺、漆器椀、粉挽臼、茶臼、火鉢、銅銭、包丁、鎌、石鉞、ドリル、環状石斧、石剣（棒）、岩偶（版）、石冠、石皿	1990、91年（社）石川県埋蔵文化財保存協会発掘調査。配石墓、土坑墓等検出。1992年松任市教委発掘調査。
4	高田遺跡	松任市専福寺町	水田、宅地	縄文、平安	打製石斧、土器	
5	三林館跡	石川郡野々市町下林	社地	近世（安土桃山）		
6	長竹遺跡	松任市長竹町	水田	縄文、古墳、平安、中世、近世	打製石斧、磨製石斧、縄文式土器、長輪塔、土師器、珠洲焼、越前焼、灯明皿、磁器	1975年県教委分布調査。1976年県教委発掘調査。1990、91年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
7	橋爪遺跡	松任市橋爪町	水田	縄文、弥生、中世、近世	打製石斧、縄文土器（晩期）、弥生土器、青磁、珠洲焼	1990年（社）石川県埋蔵文化財保存協会発掘調査。
8	幸明経塚	松任市幸明町	水田、道路	近世（安土桃山）	経石	西方寺跡と複合。「石川訪古遊記」
8	西方寺跡	松任市幸明町	水田、道路	近世（安土桃山）	五輪塔	幸明経塚と複合。
9	橋爪ガンノアナ遺跡	松任市橋爪町	水田	奈良、平安	須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、石器、鉄製品、木製品、鉾、刀子、焼石、小刀	1992、94、95年松任市教委発掘調査。1999年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。1999年調査遺構河跡1条、掘立柱建物4棟、土坑2基、溝2条、小穴多数。
10	橋爪松の木遺跡	松任市橋爪町	水田	中世	五輪塔、宝篋印塔	
11	幸明遺跡	松任市幸明町	水田	奈良、平安	須恵器、土師器	1991年松任市教委一部調査。堅穴、掘立柱建物検出。1991、92、93年松任市教委発掘調査。
12	三浦遺跡	松任市三浦町	校地、水田、道路	弥生、古墳、奈良、平安、中世	土師器、須恵器、施釉陶器、土錘、フイゴ羽口、鉾、鉄製品	1965、91、92、93年松任市教委発掘調査。1965年県教委発掘調査。1984、88、90、91、95年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。住居跡、小鍛冶跡等検出。
13	三浦常在光寺跡	松任市三浦町	水田	中世（鎌倉）	土器	
14	栗田遺跡	石川郡野々市町栗田、中林、本町5丁目	工場、水田、宅地	縄文、奈良、平安、中世、近世	縄文土器、石器、打製石斧、須恵器、土師器、刀子、砥石、鉄滓、銅滓、陶磁器	1989、90、92、93、95、96年（社）石川県埋蔵文化財保存協会、野々市町教委発掘調査。1989、90、92、93、95～97、99、2000年野々市町教委発掘調査。
15	清金アガトウ遺跡	石川郡野々市町上清金	水田、道路	縄文、弥生、奈良、平安、中世	縄文土器、土師器、須恵器、珠洲焼、鉄製品、打製石斧、鉄製犁先	1988～90、96年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。（社）石川県埋蔵文化財保存協会発掘調査。1995年野々市町教委発掘調査。
16	末松信濃館跡	石川郡野々市町末松	宅地	中世		もとは濠跡ありという。1996年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
17	末松福正寺遺跡	石川郡野々市町末松・松任市福正寺町	水田	古墳、奈良、平安	土師器、須恵器、鉄製品	松任市福正寺町にまたがる。1996年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
17	福正寺跡	石川郡野々市町末松	水田	平安、不詳	須恵器、五輪塔、宝篋印塔	
18	末松B遺跡	石川郡野々市町末松	水田	弥生、奈良	高杯	1995年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
19	末松A遺跡	石川郡野々市町末松、中林2丁目	校地、水田、道路	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世	打製石斧、土師器、須恵器、石器、炭化材	1985～89年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。1992、96、2000年野々市町教委発掘調査。1998、2003年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
20	末松ダイカン遺跡	石川郡野々市町末松	水田、果樹園、道路	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世	縄文土器、弥生土器、鉄製品、石器、須恵器、土師器、宝篋印塔、五輪塔、鉄製紡錘車	1977年県教委発掘調査。89、95、96年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
21	末松廃寺	石川郡野々市町末松	公園、水田	弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世	銀製和銅開珎、軒丸瓦、平瓦、鷲尾瓦塔、須恵器、土師器、近世陶磁器、石器、鉄製品	国指定史跡。史跡公園環境整備事業完了。1996、97年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。1966、67年野々市町教委発掘調査。
22	大館館跡	石川郡野々市町末松	水田、果樹園	平安、中世（室町）	土器	
23	末松砦跡	石川郡野々市町末松・松任市木津町	校地	不詳	土師器	松任市木津町にまたがる。
24	古元堂館跡	石川郡野々市町末松	宅地	不詳		もとは濠跡ありという。
25	末松C遺跡	石川郡野々市町末松	宅地、水田、校地	奈良、平安	瓦、土師器、須恵器	1992年野々市町教委発掘調査。
26	末松古墳	石川郡野々市町末松	社地	古墳		円墳
27	法福寺跡	石川郡野々市町末松	水田	不詳	五輪塔、宝篋印塔	
28	三浦高麗野遺跡	松任市三浦町	宅地、工場	中世（鎌倉）	五輪塔、宝篋印塔	
29	上二口遺跡	松任市上二口町	水田	古墳、奈良、平安	土師器、須恵器、帯金具（銅製巡方）	1981年石川県立埋蔵文化財センター分布調査、発掘調査。堅穴、掘立柱建物等検出。
30	下新庄アラチ遺跡	石川郡野々市町上林・新庄	宅地、道路、水田	古墳、奈良、平安	須恵器、土師器、砥石	1991、92、94、96年野々市町教委発掘調査。
31	下新庄タナカダ遺跡	石川郡野々市町新庄	水田	奈良、平安	須恵器、土師器、石器	1994年野々市町教委発掘調査。
33	上林古墳	石川郡野々市町上林	道路	古墳（後期）	須恵器	横穴式石室。1991年野々市町教委発掘調査。
34	上林テラダ遺跡	石川郡野々市町上林	道路、水田	奈良	須恵器、土師器、石器	1990年野々市町教委発掘調査。
34	上林新庄遺跡	石川郡野々市町上林・新庄	道路、水田	縄文、古墳、奈良、平安	縄文土器、石器、須恵器、土師器、鉄製品、石製品	1990、91、93～95年野々市町教委発掘調査。
35	上新庄ニシウラ遺跡	石川郡野々市町新庄	道路、体育施設	古墳、奈良	須恵器、土師器、弥生土器、土製品	1989年野々市町教委発掘調査。

第1表 末松A遺跡周辺の遺跡一覧1

第2節 歴史的環境

番号	名称	所在地	現状	時代	出土品	備考
36	上林遺跡	石川郡野々市町上林	水田、道路	弥生、平安	弥生土器、石斧、土師器、石帯、須恵器、鉄製品	1974年県教委発掘調査。旧安養寺遺跡上林地区。1997年野々市町教委発掘調査。
37	法蓮寺跡	松任市木津町	宅地、水田	不詳		
38	柴木遺跡	石川郡鶴来町柴木	畑地	平安（後期）	須恵器、土師器	1974年県教委発掘調査。1991石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
38	安養寺遺跡	石川郡鶴来町柴木	畑地	弥生、奈良、平安	須恵器、土師器、緑釉・灰釉陶器、銅銭、漆碗、石帯	1974年県教委発掘調査。1981年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。1988、97年鶴来町教委発掘調査。
39	部入道A遺跡	石川郡鶴来町部入道	水田	奈良、平安		
40	熱野遺跡	石川郡鶴来町熱野	水田	平安、中世		1990年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
41	部入道B遺跡	石川郡鶴来町部入道	水田	奈良、平安		1990年石川県立埋蔵文化財センター分布調査。1991年熱野遺跡発掘調査となる。
42	部入道C遺跡	石川郡鶴来町部入道・熱野	水田	奈良、平安		1990年石川県立埋蔵文化財センター分布調査。1991年熱野遺跡発掘調査となる。
43	新荒屋遺跡	石川郡鶴来町新荒屋	水田	奈良、平安	土師器、須恵器	1991年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
44	柴木東遺跡	石川郡鶴来町柴木	畑地、水田	奈良、平安	杯	
45	柴木D遺跡	石川郡鶴来町柴木	水田	奈良、平安	土師器、須恵器、中世陶磁器	旧柴木B遺跡を含む。1991年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
46	柴木南遺跡	石川郡鶴来町知気寺・柴木・部入道	畑地	平安（前期）	須恵器杯・蓋、土師器壺・杯	
47	道法寺遺跡	石川郡鶴来町道法寺	水田	奈良、平安		1988、90年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
48	道法寺C遺跡	石川郡鶴来町道法寺	水田	平安		
49	道法寺B遺跡	石川郡鶴来町道法寺	水田	奈良		
50	坂尻遺跡	石川郡鶴来町坂尻	水田	奈良、平安		
51	知気寺B遺跡	石川郡鶴来町知気寺	水田	平安	須恵器、土師器	1990年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
52	荒屋B遺跡	石川郡鶴来町荒屋	水田	弥生		
53	荒屋集落遺跡	石川郡鶴来町荒屋	畑地	平安	須恵器、土師器	
54	知気寺遺跡	石川郡鶴来町知気寺	水田	平安	杯	1990年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
55	荒屋遺跡	石川郡鶴来町荒屋	水田	縄文、弥生、古墳	打製石斧、石鏃、弥生土器	1985年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
56	道法寺南遺跡	石川郡鶴来町道法寺	水田	平安	須恵器	1988年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
57	井口B遺跡	石川郡鶴来町井口	水田	不詳		
58	安養寺B遺跡	石川郡鶴来町安養寺	水田	平安		
59	安養寺C遺跡	石川郡鶴来町安養寺	水田	平安		
60	田地古墳	松任市田地町	道路、畑地	古墳	須恵器、刀子、銀環	市指定史跡。横穴式石室（全長約7m）。1970年松任市教委発掘調査。
61	菅波遺跡	松任市菅波町	水田、道路	中世		
62	来同本覚寺跡	石川郡鶴来町中ノ郷	水田	中世	珠洲焼	
63	園ノ道観音跡（藤木氏館跡）	松任市藤木町	水田、道路	不詳		青銅製懸仏、十一面観音座像。
64	林四郎左エ門館跡	松任市向島町	宅地	不詳		「宝永誌」
65	乾町三月田遺跡	松任市乾町	水田	中世	青磁碗・皿、珠洲、越前、鉢、甕、土師器皿、刀子、釘、銅銭、砥石	2001年松任市教育委員会発掘調査。
66	中興・長竹遺跡	松任市中興町・長竹町	不詳	弥生、古墳、奈良、平安、中世	縄文土器、弥生土器、勾玉、剝貫円盤、土師器、珠洲焼、青磁類他	1993～97年松任市教委新発見、発掘調査。
67	幸明おとまる田遺跡	松任市幸明町	不詳	不詳		2003年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
68	福正寺ゴクメマチ遺跡	松任市福正寺町	不詳	古墳、奈良、平安、中世	須恵器、土師器、紡錘車	1996、97年松任市教委新発見、発掘調査。
69	橋爪B遺跡	松任市橋爪町	水田	弥生、古墳、奈良、平安、中世	須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、石器、金属製品、木製品、青磁、珠洲焼、中近世陶磁器、骨片	2000年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。1999年調査遺構河跡1条、掘建柱建物4棟、土坑2基、溝2条、小穴多数。
70	橋爪新A遺跡	松任市橋爪新町	不明	弥生～中世	弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器	1999年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。1999年調査遺構掘建柱建物4棟、周溝を持つ平地式建物1棟、土坑、溝、小穴。
71	橋爪新B遺跡	松任市橋爪新町	不明	弥生～中世	弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器	1999年（財）石川県埋蔵文化財センター発掘調査。1999年調査遺構溝、小穴。
72	末松しりわん遺跡	石川郡野々市町末松	不詳	奈良、平安、中世		1996年野々市町教委発掘調査。
73	木津遺跡	松任市木津町	水田、道路	弥生～中世	弥生土器（柴山出村式）、土師器、須恵器、珠洲焼、陶磁器	1984、85年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
74	安養寺念仏林遺跡	石川郡鶴来町安養寺町		中世	五輪塔	1994年の分布調査で五輪塔出土
75	七原町A遺跡	石川郡鶴来町七原町	不詳	弥生、平安	弥生土器、緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、土師器	1998年鶴来町教委新発見、発掘調査。
76	七原町B遺跡	石川郡鶴来町七原町				
77	井口遺跡	石川郡鶴来町井口	宅地、水田	縄文（晩期）	土器	八日市新保式、新光明団地敷地で一部損壊。
78	堀内館跡	石川郡野々市町堀内町	不詳	弥生、中世、近世		1995、96年野々市町教委新発見、発掘調査。
79	三納トヘイダゴシ遺跡	石川郡野々市町本町	不詳	平安、中世		2000年野々市町教委発掘調査。
80	藤平田ナカシギジ遺跡	石川郡野々市町藤平田・三納				
81	三納アラミヤ遺跡	石川郡野々市町三納	不詳	奈良、平安		2002年野々市町教委発掘調査。
82	三納ニシヨサ遺跡	石川郡野々市町三納	不詳	中世		2000、2002年野々市町教委発掘調査。

第2表 末松A遺跡周辺の遺跡一覧2

中・後期では松任市木津遺跡（73）、末松A遺跡（19）で竪穴建物が確認されているが、散発的な状態であり本格的に扇状地開発に乗り出したとは思えないが、積極的な働きかけが始まったとは言えるだろう。

飛鳥時代になると上林新庄遺跡（32）、福正寺コゴメマチ遺跡（68）、木津遺跡（73）で7世紀前半の集落が見つまっている。しかしこれらは次の7世紀後半以降の集落の増大には直接繋がらない単発的なものであり、まだ本格的な扇状地開発とは言えないと考えられる。しかしながら、7世紀前半の河原石積横穴式石室を内蔵した田地古墳（60）、横穴式石室基底部のみが検出された上林古墳（33）、実態不明ながら末松古墳（26）があることから、それらを築造した集落が存在するはずである。上林古墳は上林新庄遺跡（32）西側一帯に展開する住居群が想定されている〔横山2000〕。古墳を築造した集団が、7世紀後半からの本格的な扇状地開発と末松廃寺の建立にどれだけ関わったのかは検討すべき課題である。

7世紀後半以降は末松廃寺（21）の建立を含め一気に集落が増大する。末松A遺跡（19）、末松ダイカン遺跡（20）などの郷用水流域、上林新庄遺跡（32）、下新庄アラチ遺跡（30）などの富樫用水流域、上二口遺跡（29）などの中村用水流域などのそれぞれの用水の中流域で集落が確認できる。これらの遺跡からは近江型や青野型といった土師器煮炊具が出土しており、畿内外縁部にその出自をもつ集団の関与が考えられる。彼の地から移住してきた集団によって、7世紀後半以降手取川扇状地の開発が本格的に開始されたものと考えられる。

奈良・平安時代になると遺跡の密度はいっそう高くなる。扇端部では東大寺領横江庄遺跡、上荒屋遺跡といった初期荘園関連の遺跡がある。扇央部では末松A遺跡（19）を始めとし、7世紀後半に集落が成立ないし増大した遺跡は10世紀前半頃まで続くものが多い。10世紀以降は、安養寺遺跡（38）や末松廃寺（21）などで規模の大きな建物を伴う新たな集落の展開が見られ、周辺部でも散布地が増加する。

中世の集落に関しては状況が明らかなものは少なく、近年の発掘調査により、三浦遺跡（12）、野々市町の三納ニシヨサ遺跡（82）や三納トヘイダゴシ遺跡（79）、粟田遺跡（14）、末松A遺跡（19）などで、掘立柱建物や竪穴状遺構からなる集落跡が検出されているのみである。

第3節 末松遺跡群の調査

ここでいう末松遺跡群とは、末松廃寺を中心に形成された遺跡群を指すこととする。末松遺跡群は、県立埋蔵文化財センター、（財）県埋蔵文化財センター、野々市町教育委員会等で発掘調査が行われている。第4図で示した遺跡のこれまでの調査成果の概要について見てみることにする。

県立埋蔵文化財センターが1995年度に農道建設で調査した末松ダイカン遺跡では、竪穴建物12棟と小型竪穴建物と考えられる7棟、掘立柱建物23棟以上が検出されている。トレンチ調査でありその全形が分かるものは少ないが、Ⅱ2期〔田嶋1988〕と考えられる1号竪穴建物からは、近江型と青野型の土師器甕が出土している。4号竪穴建物からも近江型と青野型の土師器甕が共伴している。竪穴建物の主体はⅡ2ないしⅡ3期のものと考えられる。それ以降は掘立柱建物が主体となっていくと考えられる。他に製塩土器の出土、置きカマドの出土、フイゴ羽口の出土が注意される。1996年度には前年度の西側でトレンチ調査が行われた。竪穴建物6棟が検出されている。その内3・4号竪穴住居跡はⅡ2期頃のものと考えられ、カマドを南東角に設けている。

末松B遺跡は排水路敷設のため調査が行われている。掘立柱建物1棟のほか土坑4基などが検出さ

れている。遺構は希薄で末松ダイカン遺跡と連続し、その縁辺部と考えられている。末松A遺跡とは鞍部を挟んでおり連続していないものと考えられている。

末松福正寺遺跡では幅の狭い調査区の中で、複雑に遺構が切り合った状態で検出されている。竪穴建物6棟以上が検出されている。Ⅱ1～Ⅱ3期の時期と考えられ、南東角にカマドを設置するものや、壁柱をもつものが検出されている。またカマドの構築材として使用されたと考えられる四角柱に整形した凝灰岩が出土している。鶴来バイパス関連で調査した末松A遺跡でも同様なものが出土しておりその関連性が注目される。

国指定史跡末松廃寺の東側および南東側を調査した部分では、廃寺の前面にあたる南東側調査区では遺構はほとんど検出されず、空地地となっている。これは「寺」の前面と言うことで何らかの規制がかかった結果と考えられている。一方東側では末松廃寺の創建期から再建されたと考えられている平安時代中期（10世紀頃）まで竪穴建物や掘立柱建物が見られる。その内SI1とされる竪穴建物は、全形は不明なものの、カマドが南東角にあることと壁柱を持つことが判明している。Ⅱ3～Ⅲ期頃のものと考えられる。他にも南東角にカマドを持つSI5があり、Ⅱ2～Ⅱ3期頃の時期が考えられる。末松廃寺の前面では建物規制が行われたが、その裏側に当たる部分ではそれは見られず、西側部分は調査されておらず未確認であるが、むしろ関連施設が建てられていたと考えられている。その他弥生時代の竪穴建物が1棟検出されている。

1996年度に行われた清金アガトウ遺跡の発掘調査では竪穴建物が2棟検出されている。Ⅱ3～Ⅲ期頃と考えられる。遺物を見ると遺跡はⅥ期頃まで続くようである。1988～1990年度にも鶴来バイパス関連で県立埋蔵文化財センターと（社）石川県埋蔵文化財保存協会によって発掘調査が行われている。未報告であり詳細については不明であるが、竪穴建物16棟や掘立柱建物6棟等が検出されている。末松A遺跡の北端部では1987年度調査で87SI09が検出されているが、そのあり方から考えると遺跡はさらに北西側に展開していると思われ、清金アガトウ遺跡に繋がる可能性がある。おそらく清金アガトウ遺跡では、Ⅱ2期から始まる集落が展開するものと考えられる。

（財）県埋蔵文化財センターが農道建設で調査した末松A遺跡では、8世紀代と考えられる小型竪穴建物が1棟、9世紀代と考えられる2×3間の総柱の掘立柱建物1棟が検出されている。他に河川が検出されており、8～9世紀代の遺物が出土している。おそらく県立埋蔵文化財センターが1987年度に調査した際に検出した大溝（本報告）と同一のものと考えられる。この調査区は1986年度調査区の西側に当たる。遺構はその調査区と比較すれば希薄となっていることから末松A遺跡の縁辺部に当たると考えて良いが、8世紀代の小型竪穴は河川の西側にあることから新たな集落がさらに西側に展開していくことも考えられる。

次に野々市町教育委員会が調査したものについて見てみる。末松A遺跡や末松しりわん遺跡、清金アガトウ遺跡などの報告がある。まず末松A遺跡の発掘調査は、鶴来バイパスと（財）県埋蔵文化財センターが調査した調査区の間で行われている。土坑やピットが検出されているが、竪穴建物や掘立柱建物等は検出されていない。Ⅳ期を中心とした遺物が出土しており、やや様相が異なるようである〔横山2001〕。清金アガトウ遺跡では、掘立柱建物3棟が検出されている。出土した遺物を見るとⅤ～Ⅵ期のものが中心となっている〔田村2000〕。

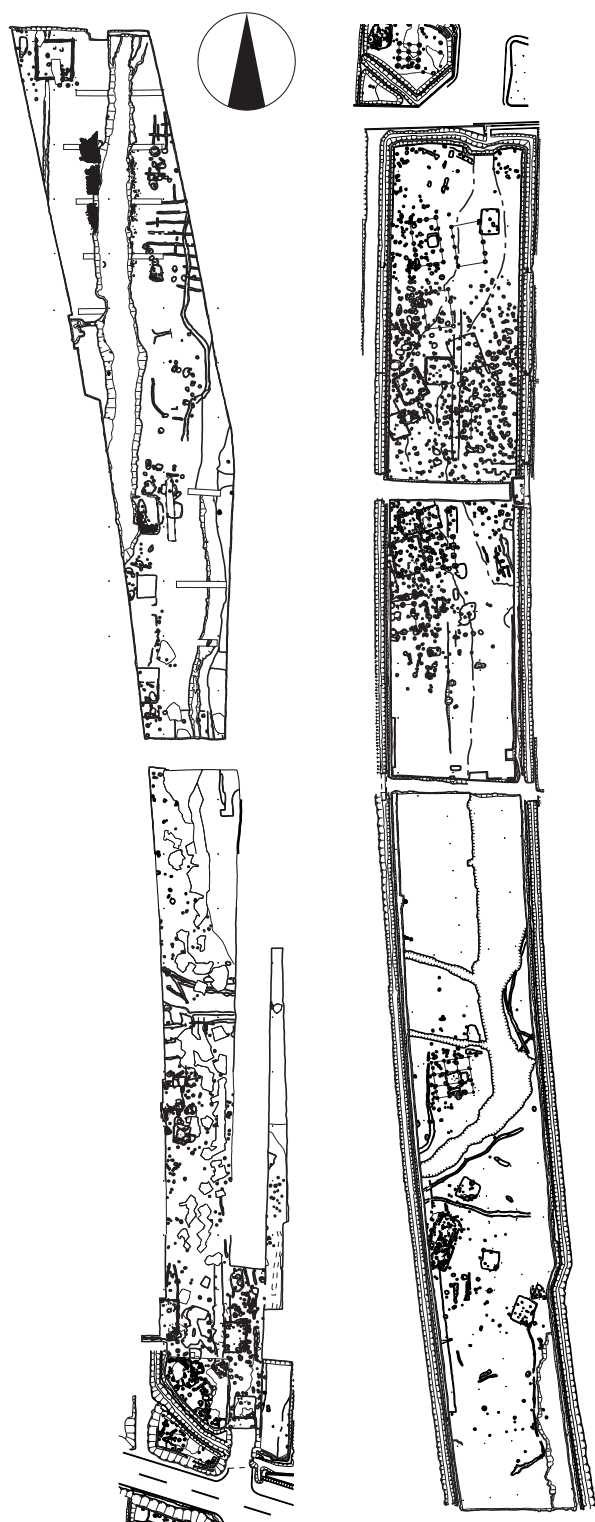
末松A遺跡は、そのほか畝溝や道路状遺構が検出された地区〔北野1989〕、畝溝や道路状遺構、近世河道等が検出された地区〔山田2004〕がある。これらは、本報告の末松A遺跡の東側にあたり、竪穴建物や掘立柱建物等が希薄となっている。おそらく微低地となっており遺跡の縁辺にあっていると考えられる。また1987年度調査で確認された大溝と、1998年度に（財）県埋蔵文化財センターが発

掘調査した範囲で検出された河川は同一のものと考えられ、大溝を挟んで集落が展開していることが分かる。この大溝は灌漑用水と考えられ大規模な扇状地開発が行われたことを物語る遺構であろう。

末松廃寺周辺に所在する末松遺跡群では、末松廃寺周辺の纏まり、末松集落付近を中心とした纏まり、末松A遺跡、清金アガトウ遺跡、末松信濃館跡の纏まりが捉えられている。さらに東の栗田遺跡、上林新庄遺跡、上新庄ニシウラ遺跡などの纏まりも捉えられており、それらの中には鞍部らしきものが認められ、いわゆる島状微高地となっていると考えられている [本田2000]。それらの集落はほぼ同時期に成立ないし急増したと考えられ、その集落内容も非常に良く似ていると評価できる。青野型や近江型といった土師器煮炊具や製塩土器の出土、側柱堅穴建物、堅穴部の南東角にカマドをもつなどである。末松遺跡群中の各集落がそれぞれ独自に成立したとは考えがたく、それらの建物構造や集落構造を規制することができる大きな力によるものと考えられる。7世紀第3四半期に建立された末松廃寺もその中の一つであり、7世紀前半の上林古墳や田地古墳などを築いた勢力の力がどの程度であったのかは難しい問題であるが、在地勢力のみでは到底なしえなかったものと考えられる。その集落を築いた人々は、近江や丹波といった畿内外縁部を中心とした移住集団であったと考えられ、その背景には国家的政策による手取川扇状地の開発があったと考えられる。

第3章 調査の概要

第1節 末松A遺跡の調査



第5図 1985・1986・1987合成全体図

各年次ごとにそれぞれ調査の概要について次節以降詳述するが、ここでは3カ年行われた鶴来バイパス関連の発掘調査についてその概観と、遺構・遺物等に関する記述方法について示す。

既に調査の経緯と経過で述べたが、当初は末松A・C遺跡として発掘調査が行われた。末松A遺跡は縄文時代、末松C遺跡は奈良・平安時代で、同一の範囲を指していたが、現在は統一され末松A遺跡の名称が与えられている。

鶴来バイパスに係る発掘調査総面積は、約9,600m²である。調査範囲は南北約540m、東西は約20mである。遺構検出面の標高をみると、1985年度調査区の南端で39.20mを測る。1986年度調査区の中央付近では37.50m、1987年度調査区の北端では35.00mを測る。その比高差は4m余りで、一見平坦に見えるがかなりの傾斜がある。

3カ年の調査では、各調査年次すべてで竪穴建物が検出されている。一部は古墳時代に遡るが、ほとんどは7世紀後半から8世紀前半代に収まる。最も濃密に竪穴建物・掘立柱建物を検出したのは1986年度調査区であり、末松A遺跡における古代集落の中心であったと考えられる。1987年度調査区の北端で竪穴建物を1棟検出しているが、末松A遺跡は更に北西側に延びている可能性が高い。

遺構・遺物の記述に関しては、それぞれ分けて記述するが、遺構から出土した遺物については遺構とともに記述する。またそれらの規模については、mとcmを適宜使い分ける。遺物の時期について述べる部分では、遺跡の中心が古代であることから、特に断らずに○期といった場合は田嶋編年 [田嶋1988] を指すこととする。

第2節 1985年度の発掘調査

1. 調査の概要

現地調査は1985（昭和60）年7月17日～同年12月14日まで行われた。発掘調査面積は2,600m²で南北に約130m、東西に約20mの調査区である。遺構検出面の標高は南端で39.2m、北端で38.1mとなっている。検出された主な遺構は、竪穴建物7棟、掘立柱建物2棟、土坑10基、溝14条、ピット多数である。それら遺構のほとんどは調査時に名称が与えられているものであるが、掘立柱建物2棟については、本報告書で新たに復元ないし改変したものである。大部分の遺構は飛鳥・奈良時代といった古代前半期にあたるが、復元した掘立柱建物の内1棟は総柱であり、また包含層出土遺物などから中世前期以降に下る建物である。24区A6で検出した土師器埋納ピットから出土した土師器皿は、14世紀後半から末頃に位置づけられている〔藤田1992〕もので、85SB01から比較的近距离にある。その土師器の年代が、建物の時期を示す可能性もある。他に調査区北端から24区A4・5にかけて中近世の河道が検出されている。

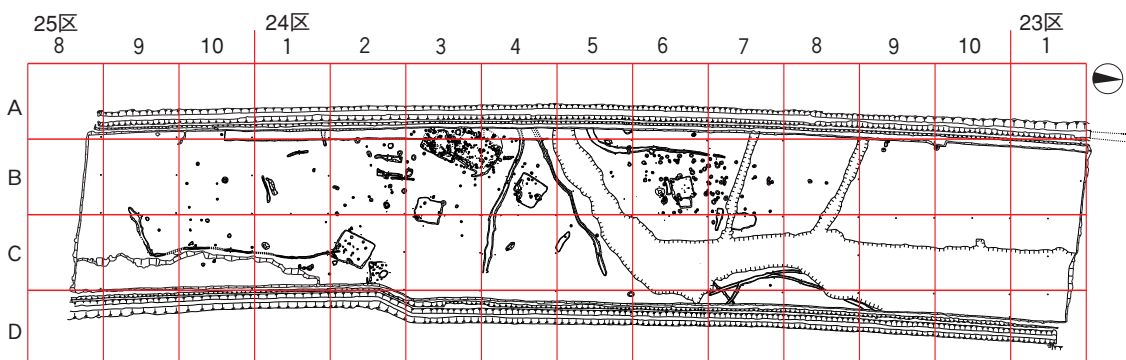
2. グリッドの設定

調査区のグリッドは、鶴来バイパスのセンターを基準として南北に長軸を、これに直交するラインを横軸として10mピッチの方眼を組みグリッドとしている。長軸は数字を用い、短軸はアルファベットを用いて、南西杭をグリッド名としている。また、工区名称23・24・25区をグリッド名の頭に付してグリッド番号を付けなおしている。よって「24区C9」のように表すが、「23区C9」といったC9が重複することとなりやや複雑となっている。

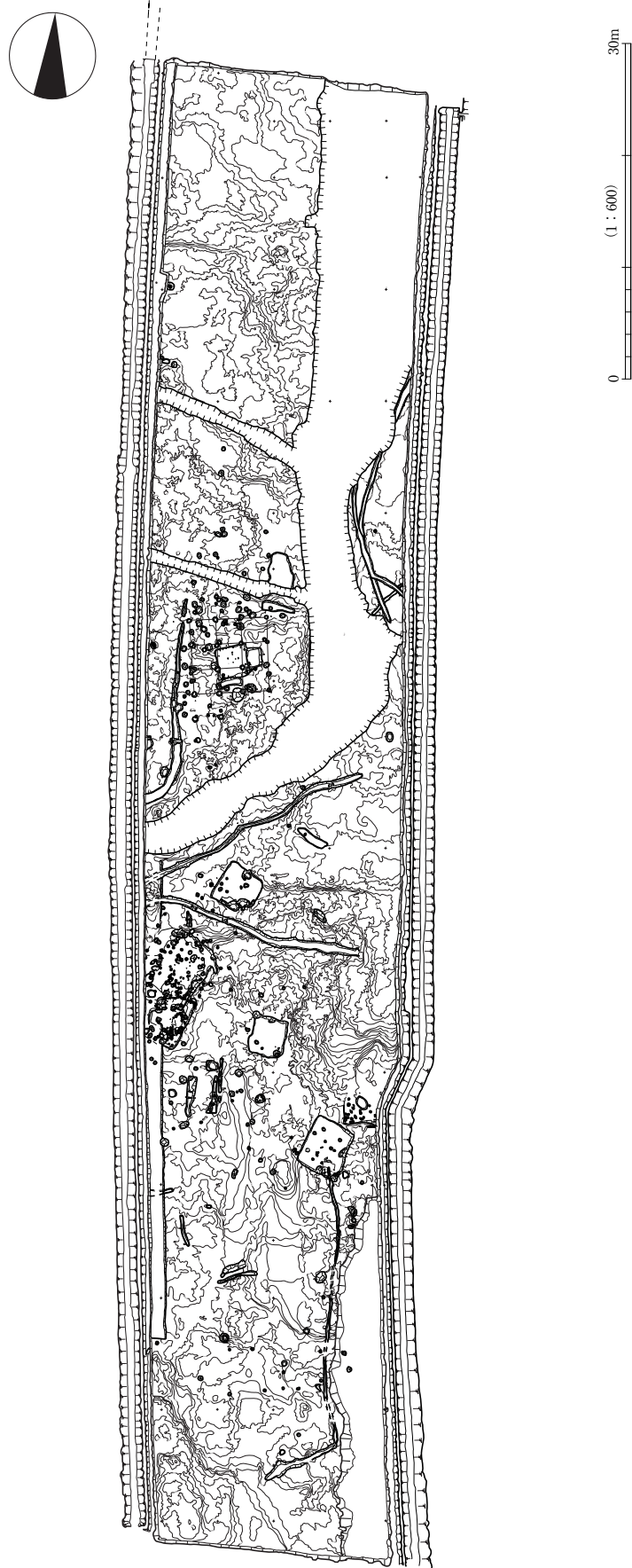
25区C9杭は平面直角座標第Ⅶ系ではX = 56251.2067、Y = -51172.6153となり、23区C1ではX = 56370.9289、Y = -51180.2081となる。

3. 基本層序

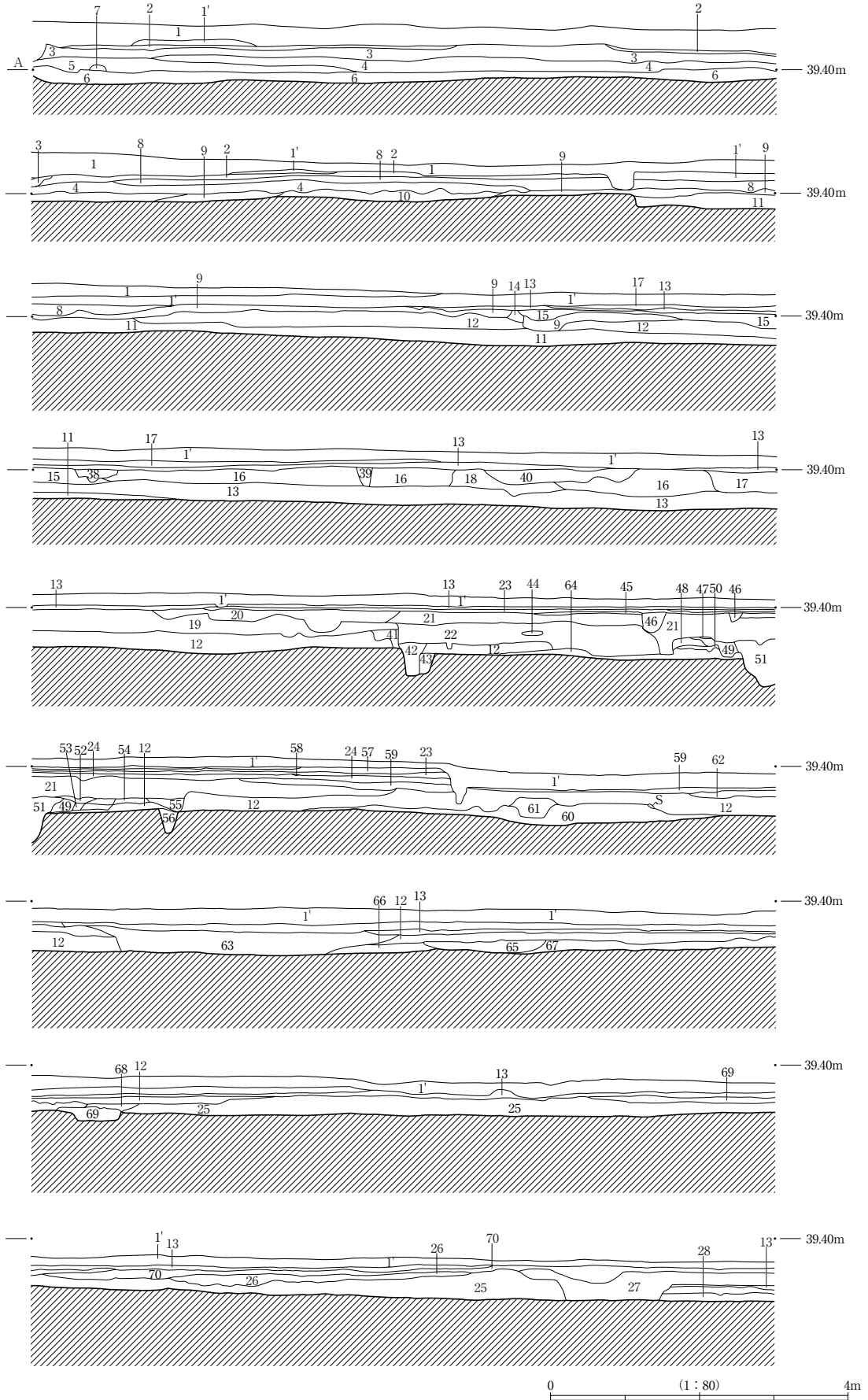
表土から遺構検出面までは約50～80cm程度で、まず耕土とその床土がありその下は暗灰色ないし灰褐色等の粘質土となる。そして遺構検出面までは砂質土となる。大きくその土壌の質から3層に分けることが可能だが、色調のほか含有物等地点によって相違がある。



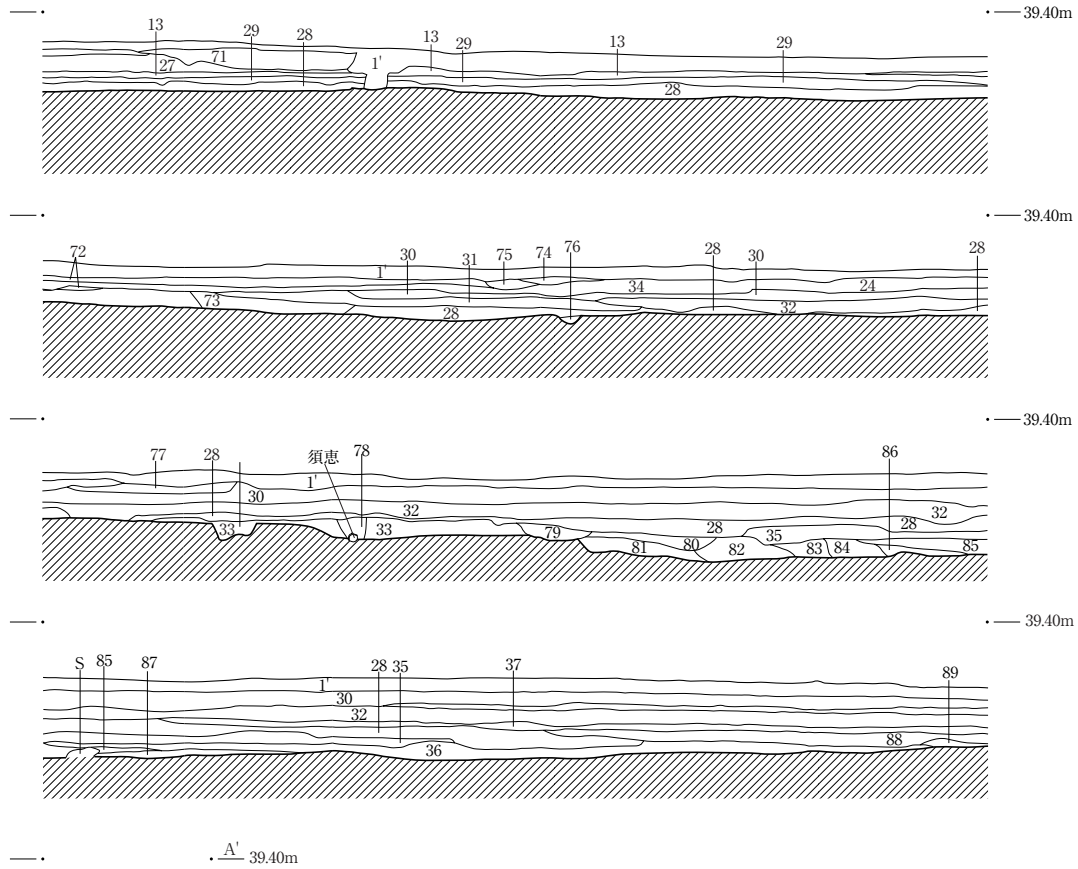
第6図 1985年度調査グリッド設定図



第7図 1985遺構全体図



第 8 図 85調査区西壁土層断面実測図 1



- | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 耕土 (暗灰色。) 1'. 暗灰色 (やや褐色味。) 2. 黄灰色粘 (床土。) 3. 灰色粘 (やや褐色味あり、客土?) 4. 灰褐色粘砂 (灰色強い。) 5. 灰褐色粘砂 (灰色粘ブロック・鉄分あり。) 6. 暗灰褐色粘砂 7. 不明 8. 明灰褐色粘 9. 褐灰色砂質土 (やや暗い。) 10. 明茶灰色砂質土 (鉄分含む、ブロック混入、特に上層の境目多し。) 11. 淡褐灰色砂質土 12. 暗褐灰色砂質土 13. 黄茶灰色粘砂 14. 灰褐色砂質土 15. 褐灰色砂質土 (やや明るい。) 16. 明褐灰色砂質土 17. 淡黄茶灰色粘砂 18. 淡褐灰色砂質土 19. 褐灰色砂質土 20. 褐灰色砂質土 (灰色強い。) 21. 暗灰褐色砂質土 22. 灰褐色砂質土 23. 黄茶褐色粘砂 24. 暗灰褐色砂質土 (炭化物混入。) 25. 灰褐色砂質土 (礫) 26. 灰茶褐色粘 27. 灰色粘 28. 茶褐色粘 (やや黄色味あり。) 29. 灰褐色粘砂 30. 灰褐色粘 (茶褐色粘ブロック混入。) 31. 灰褐色粘 32. 暗灰褐色粘砂 33. 暗褐灰色砂質土 34. 灰褐色粘 (褐色ブロック混入、やや黄色味あり。) 35. 灰茶褐色砂 | <ul style="list-style-type: none"> 36. 灰褐色砂質土 (褐色砂ブロック混入、やや黄色味あり。) 37. 暗褐灰色粘 38. 灰褐色砂質土 (遺構。) 39. 褐灰色砂質土 (炭化物混入、やや茶色味。) 40. 褐灰色砂質土 (炭化物混入。) 41. 灰褐色砂質土 (やや褐色味。) 42. 灰褐色砂質土 (明褐灰色砂ブロック、炭化物混入。) 43. 明褐灰色砂質土 44. 黄褐色粘土 45. 黄褐色砂質土 46. 黒褐色砂質土 (炭化物混入。) 47. 黄褐色粘土 48. 灰褐色砂質土 (黄灰砂・褐色砂ブロック多量。) 49. 灰褐色砂質土 (褐色砂ブロック混入。) 50. 灰色砂質土 51. 灰褐色砂質土 (茶褐色砂・淡灰砂・灰色粘ブロック多量。) 52. 赤灰褐色砂質土 (炭化物混入。焼土。) 53. 灰色砂質土 54. 灰褐色砂質土 (淡灰砂ブロック多量混入。) 55. 灰褐色砂質土 (やや暗い、濁灰砂ブロック混入。) 56. 灰褐色砂質土 (やや暗い。) 57. 黄灰褐色粘 58. 灰褐色粘 59. 褐灰色砂質土 (褐色砂ブロック混入。) 60. 淡灰褐色砂質土 61. 灰褐色砂質土 62. 灰褐色粘砂 63. 旧用水 (灰色粘、礫。) 64. 明灰褐色砂質土 65. 灰褐色砂質土 (遺構 (溝)、やや黄色味あり。) 66. 灰褐色砂 67. 黄灰褐色砂質土 68. 黄茶褐色砂質土 69. 暗灰褐色砂質土 69'. 灰褐色粘 (褐色ブロック混入。) | <ul style="list-style-type: none"> 70. 灰褐色粘 (やや暗い。) 71. 黄灰褐色粘 72. 淡灰色粘 73. 灰褐色粘砂 (灰色強い。) 74. 灰色粘 (やや褐色味あり。) 75. 灰色粘 (やや明るい。) 76. 茶褐色砂質土 77. 灰色粘 78. 暗褐灰色砂質土 79. 灰褐色砂質土 80. 灰褐色砂質土 (灰色強い。) 81. 淡灰褐色砂質土 82. 不明 83. 暗灰茶褐色砂質土 84. 褐灰色砂礫? (粗い砂質土。) 85. 暗灰褐色砂質土 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

0 (1:80) 4m

第9図 85調査区西壁土層断面実測図2

4. 遺構と遺物

遺構の記述については、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、ピット等の順に詳述する。遺構図は、1/100平面図を調査区の南から順に配置し、その平面図の範囲ごとに個別の遺構図を配置している。次節以降も同様の配置を採っている。また、竪穴建物・掘立柱建物についてはその規模のほかに主軸方位を述べるが、これは座標北から何度東ないしは西に振っているかである。座標北は、座標原点から離れるに従い真北を示さないことから、末松A遺跡付近の座標北は真北から約20分程度西に振っている。

竪穴建物

85S101 (第14・15・31・220図)

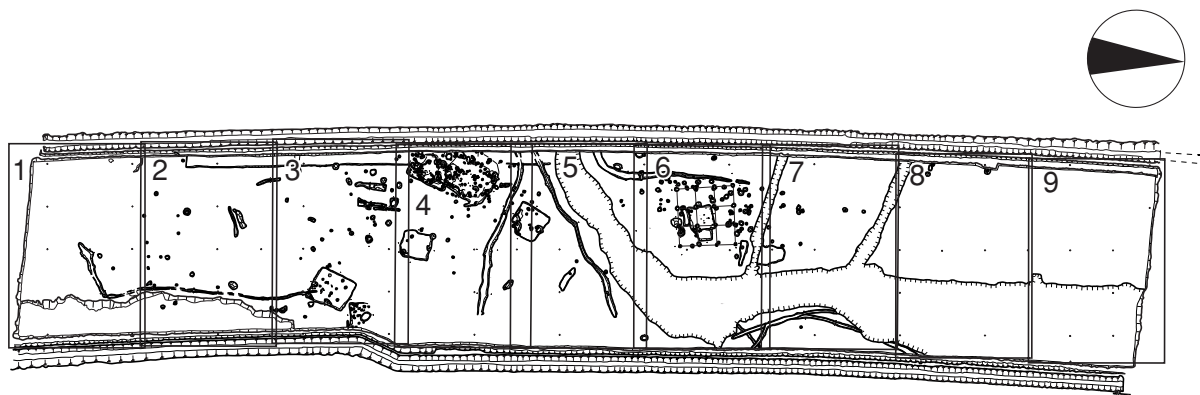
24区C2で検出されている。平面形は長方形で、長軸4.8m、短軸3.9mを測る。平面積は約18.7m²である。竪穴部の深さは検出面より約10cm余りと浅いので、削平をかなり受けている可能性もある。主軸は南北方向で、東に約28°振っている。支柱穴は2本竪穴部の北側に確認できる。おそらく4本支柱となると考えられるが、他に柱穴となりそうなピットは竪穴部およびその外側では確認できない。カマドは南東角に設けられている。貯蔵穴とみられるピットが、カマドの南西際に設けられている。その深さは床面より約25cmである。

出土遺物には、1～8・1271～1273がある。これらの時期は概ねⅡ2期に位置づけられるものである。1は須恵器椀G。2・3は赤彩土師器椀で3は内面に暗文が見られる。4は土師器椀で内面に暗文が見られる。5～8は土師器の長胴甕である。1271～1273は石製品である。1271はカマドの前面で出土している。石質は安山岩で表裏に磨面が見られる。1272はカマド構築材ではないかと考えられる。石質は凝灰岩である。1273は竪穴部中央で出土しているが、カマドの構築材もしくは支脚かもしれない。

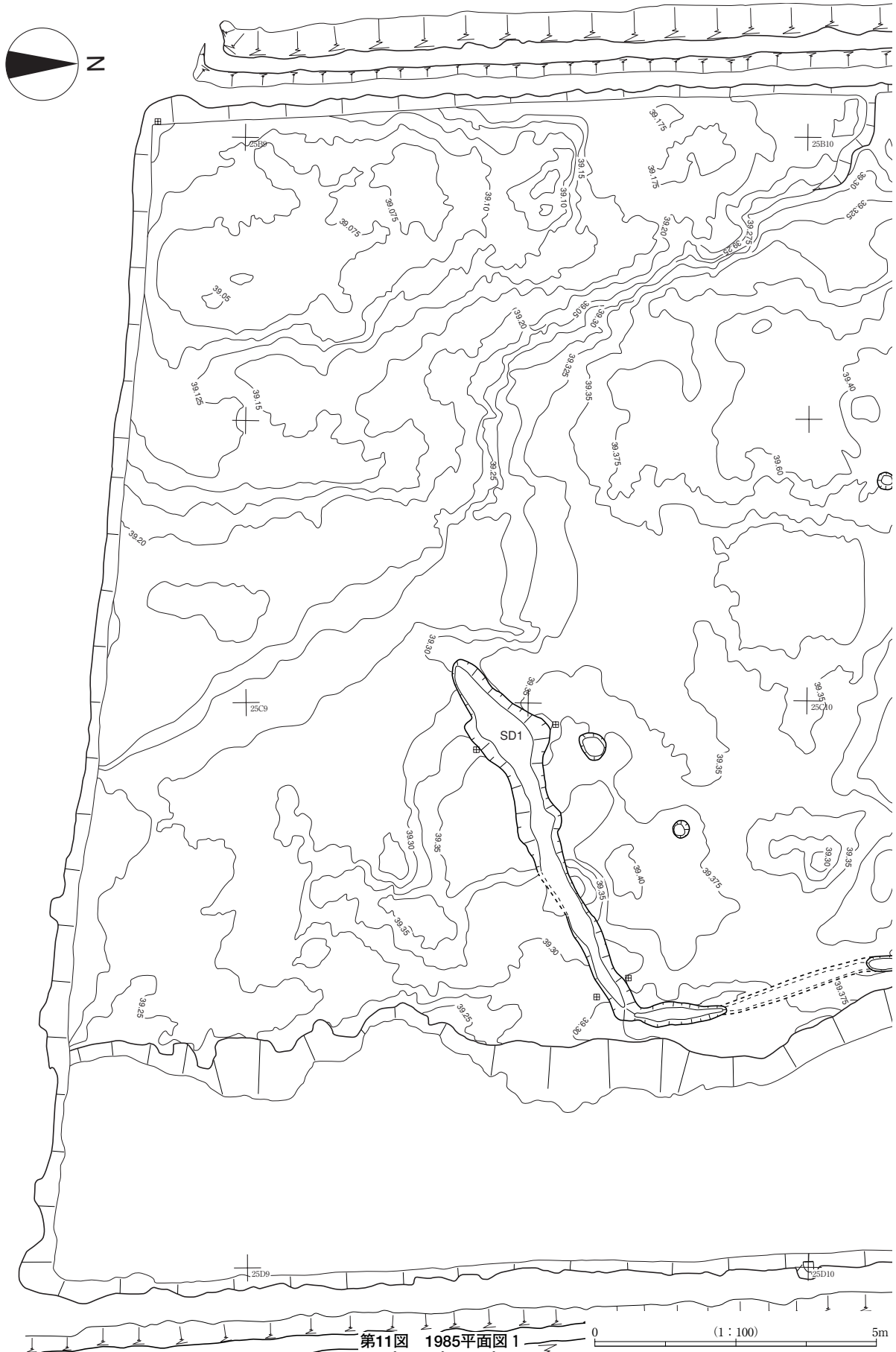
85S102 (第17・20・32図)

24区B・C3で検出されている。平面形態は方形である。長辺約3.3m、短辺約3mを測る。平面積は約9.9m²である。竪穴部の深さは検出面より約10cm未満と浅い。主軸は南北方向で、東に約5°振っている。支柱穴は確認されていない。南東角に焼土を伴うピットがあり、カマドの痕跡であろうと考えられる。

出土遺物には9～14がある。9は赤彩土師器で、体部上半が欠損しているため詳細は分からないが、

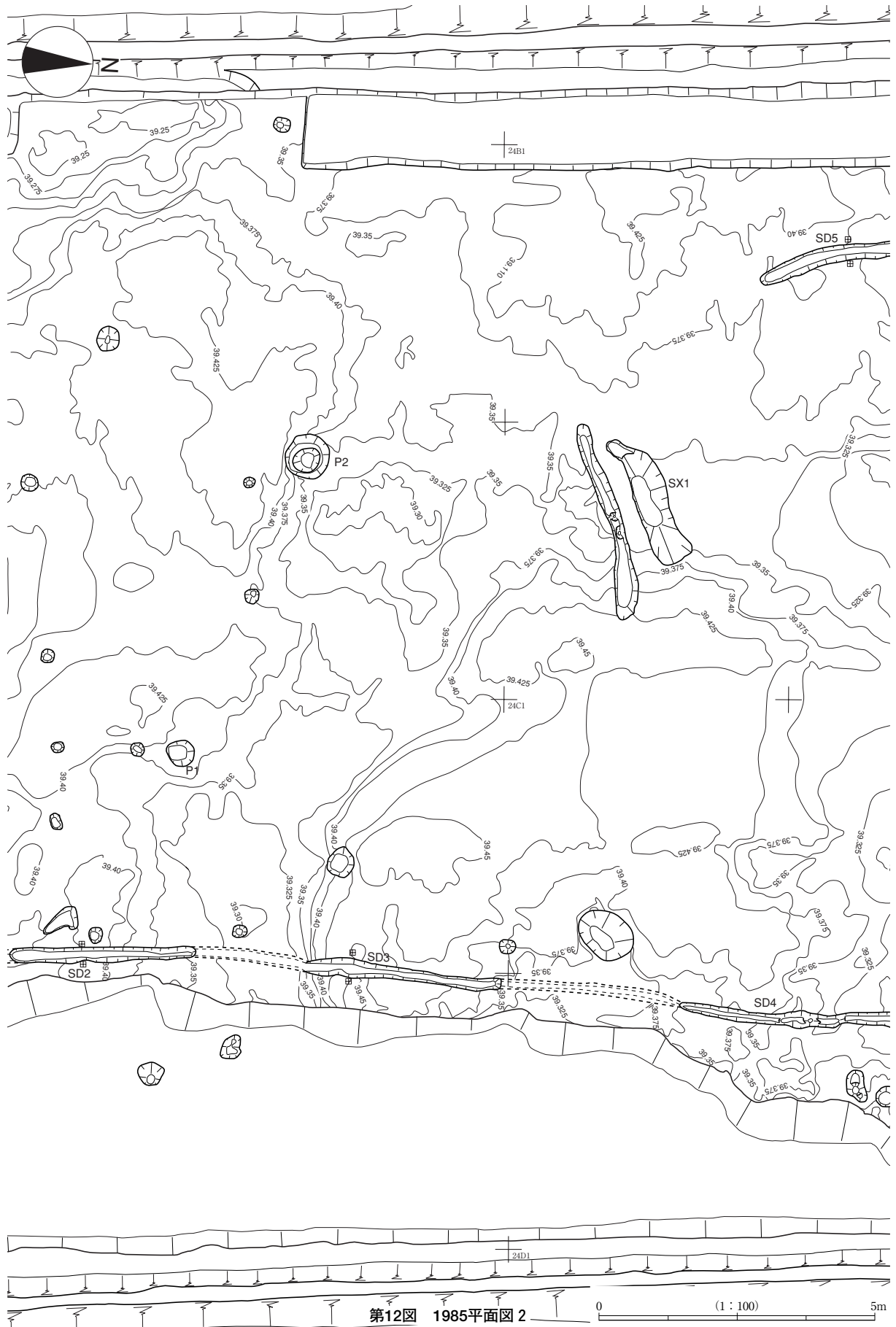


第10図 1985平面図分割範囲図

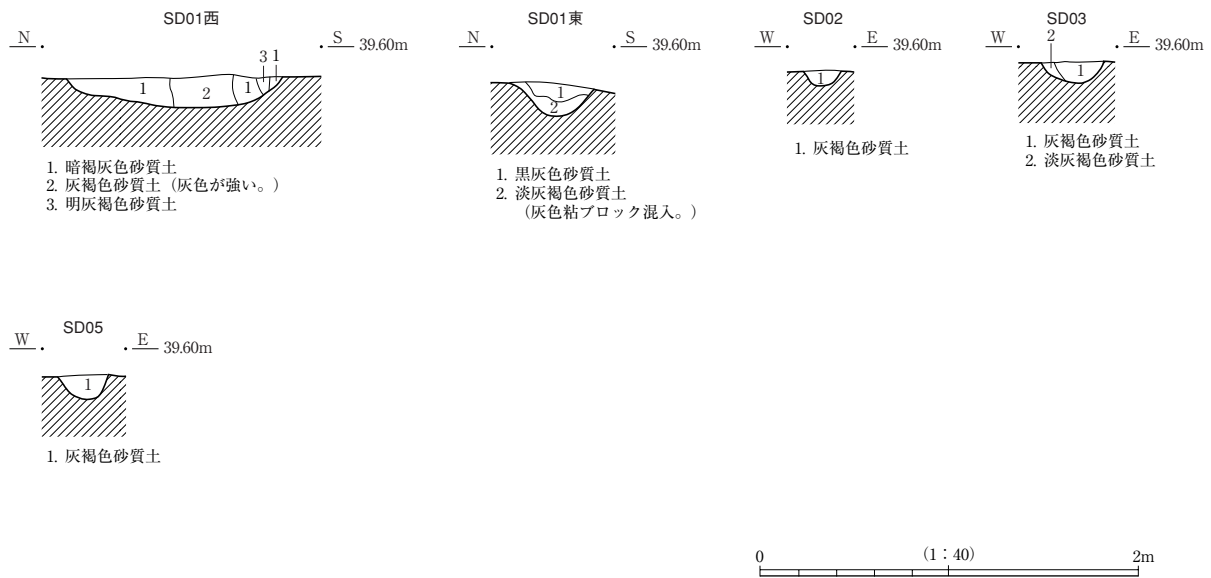


第11図 1985平面図1

第2節 1985年度の発掘調査



第12図 1985平面図 2



第13図 85SD01・02・03・05実測図

鉢であろうか。10・11は長胴甕。12～14は小甕である。11～13は内面あるいは外面にカキメ調整が見られる。これらの時期は概ねⅡ2期頃と考えられる。

85S103 (第21・22・32図)

24区B4で検出されている。平面形態は方形で、1辺が約3.6mでほぼ正方形を呈する。その平面積は約12.9m²となる。竪穴部の深さは検出面より約10cmと浅い。主軸を南北方向と見ると、東に約31°振っている。支柱穴や壁柱は確認されていない。カマドは南東角の土坑様の落ちがその痕跡と考えられる。また、その西隣にある同じく土坑様の落ちが貯蔵穴となるかもしれない。出土遺物は15がある。土師器の長胴甕でありその時期はⅡ3期である。

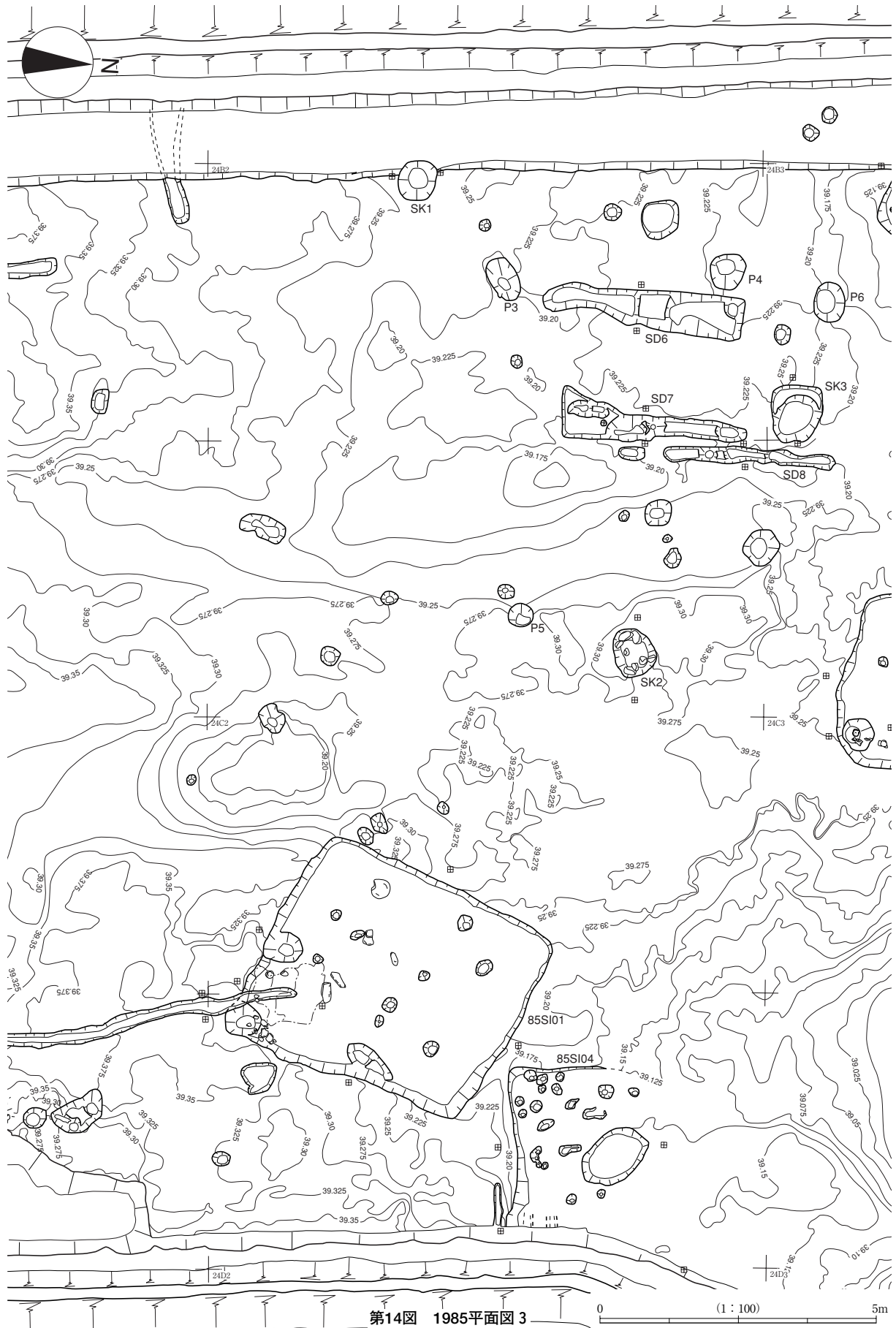
85S104 (第14・16図)

24区C2で検出されている。その平面形態は、ほとんどが調査区外、または削平等により正確には不明であるが、遺存している南西角部分から方形と考えられる。遺存している部分からこの竪穴建物の主軸を取ると、西に約2.5°振っている。規模は不明で、竪穴部の深さは検出面より約10cm弱である。竪穴部には支柱穴は確認できない。中央部にある土坑は、この竪穴建物に伴うものと考えられるが、性格は良く分からない。この竪穴建物の時期は不明である。

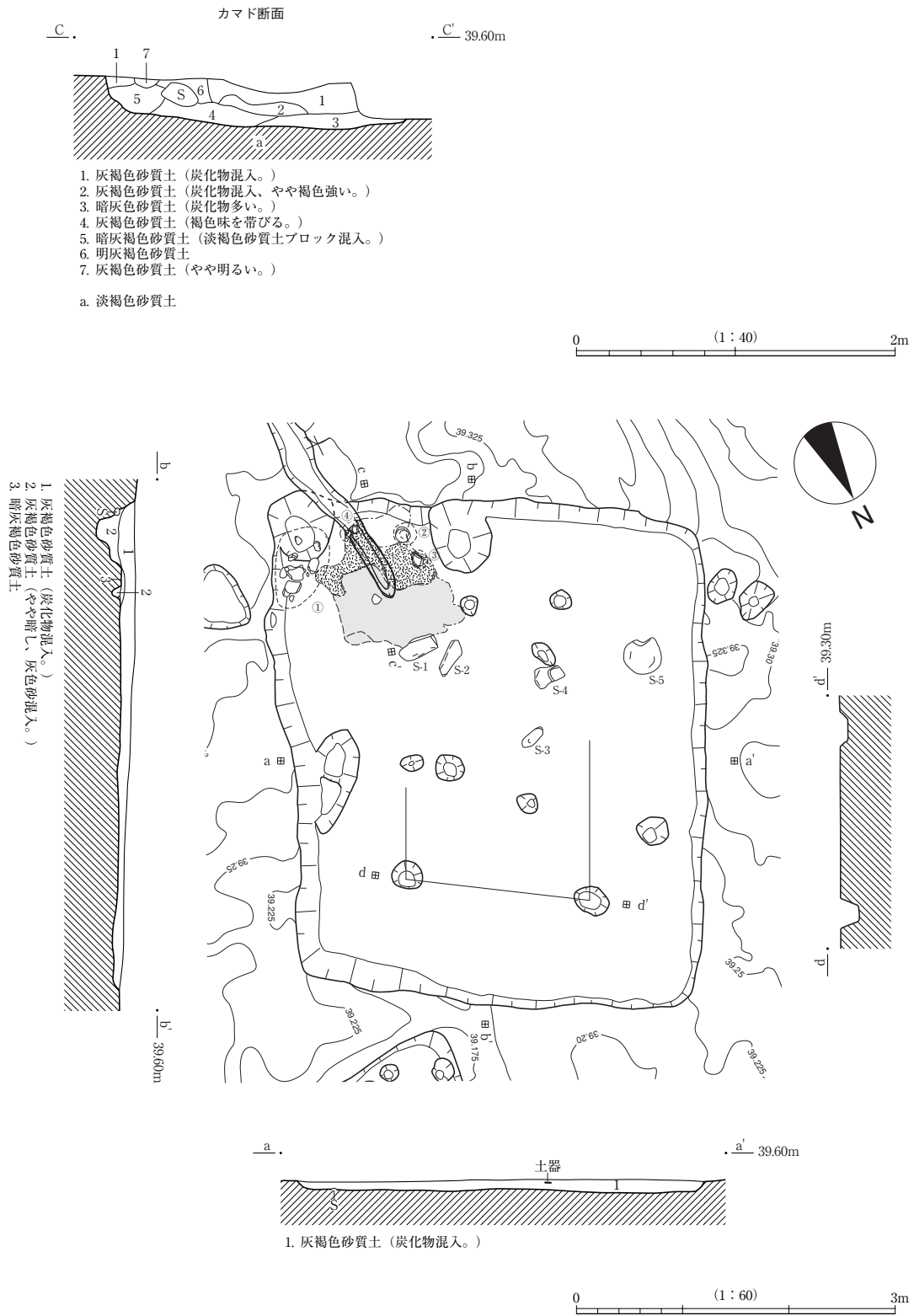
85S105 (第17・18・19・33図)

24区A・B3で検出されている。平面形態は、西側が調査区外に延びていることや、85SI06と切りあっているためその全形はわからないが、方形であると考えられる。東側の1辺は約5mである。もう1辺も同様の規模とすれば、平面積は約25m²となる。竪穴部の深さは検出面より約20cm未満である。黄褐色粘土が貼床と考えられ、1点破線で示してある部分がその範囲である。南東部にある網掛部分が焼土等の範囲を示しカマドの痕跡と考えられるが、竪穴壁よりもかなり内側にある。支柱穴をもつと考えられるが、良く分からない。また壁柱についても竪穴部壁際に小ピットが見られるが、柱穴となるかは不明である。85SI06との新旧関係は、土層の切り合いを見る限り85SI06が新しいと考えられる。

第2節 1985年度の発掘調査

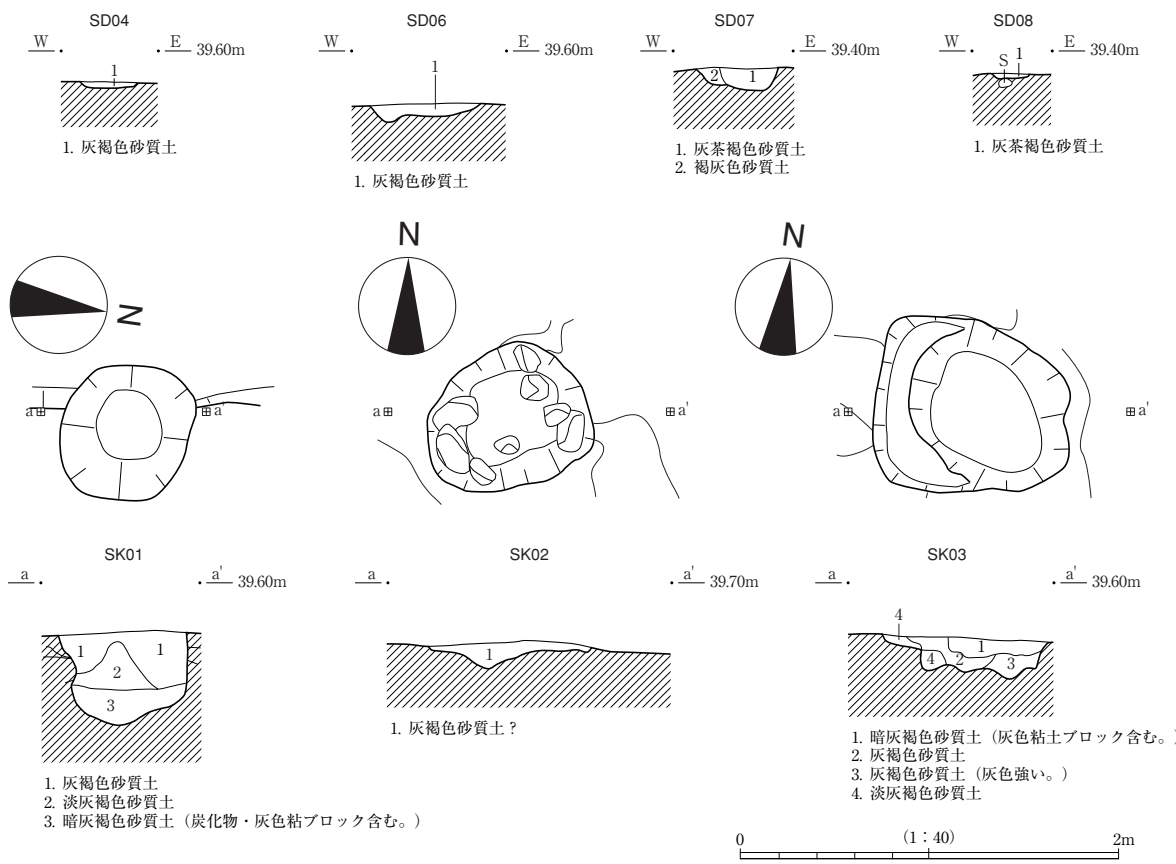
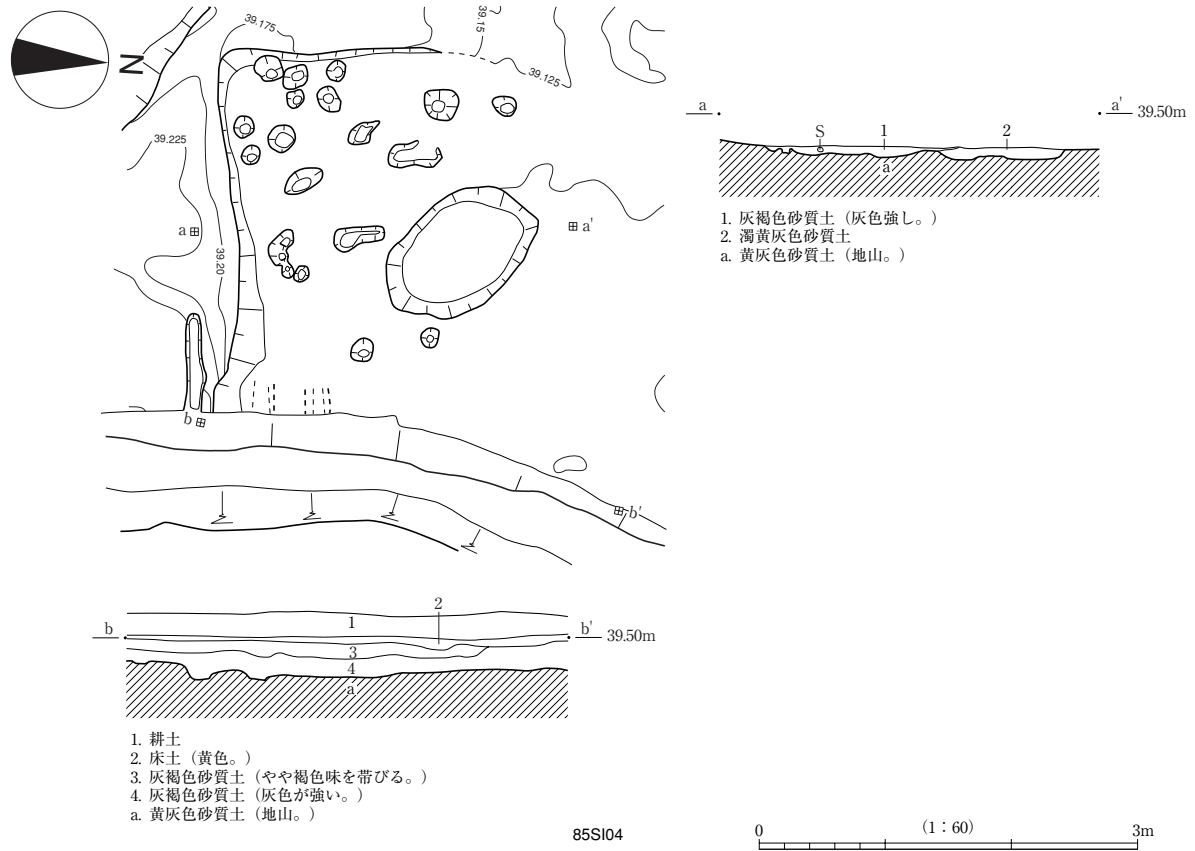


第14図 1985平面図3

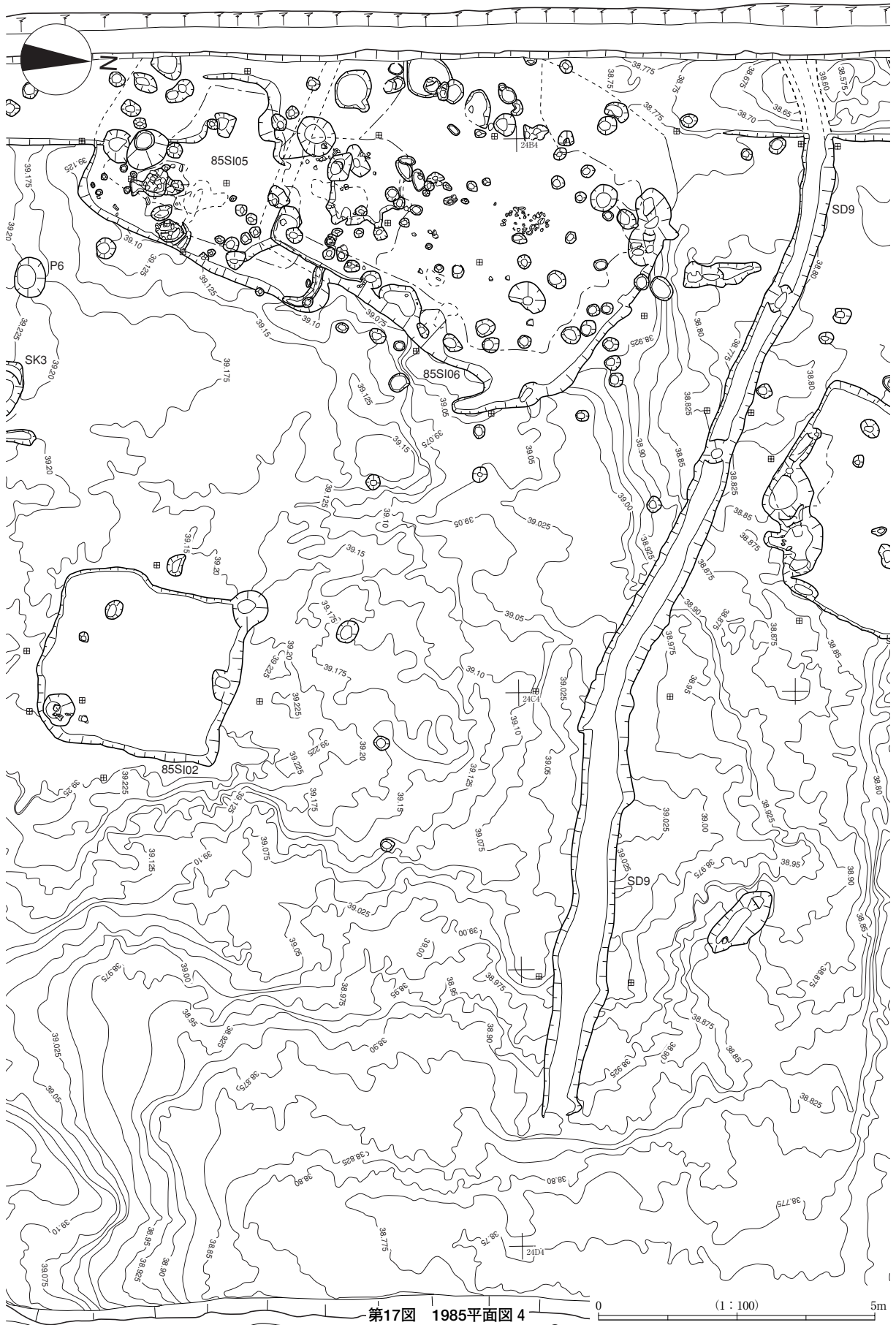


第15図 85SI01実測図

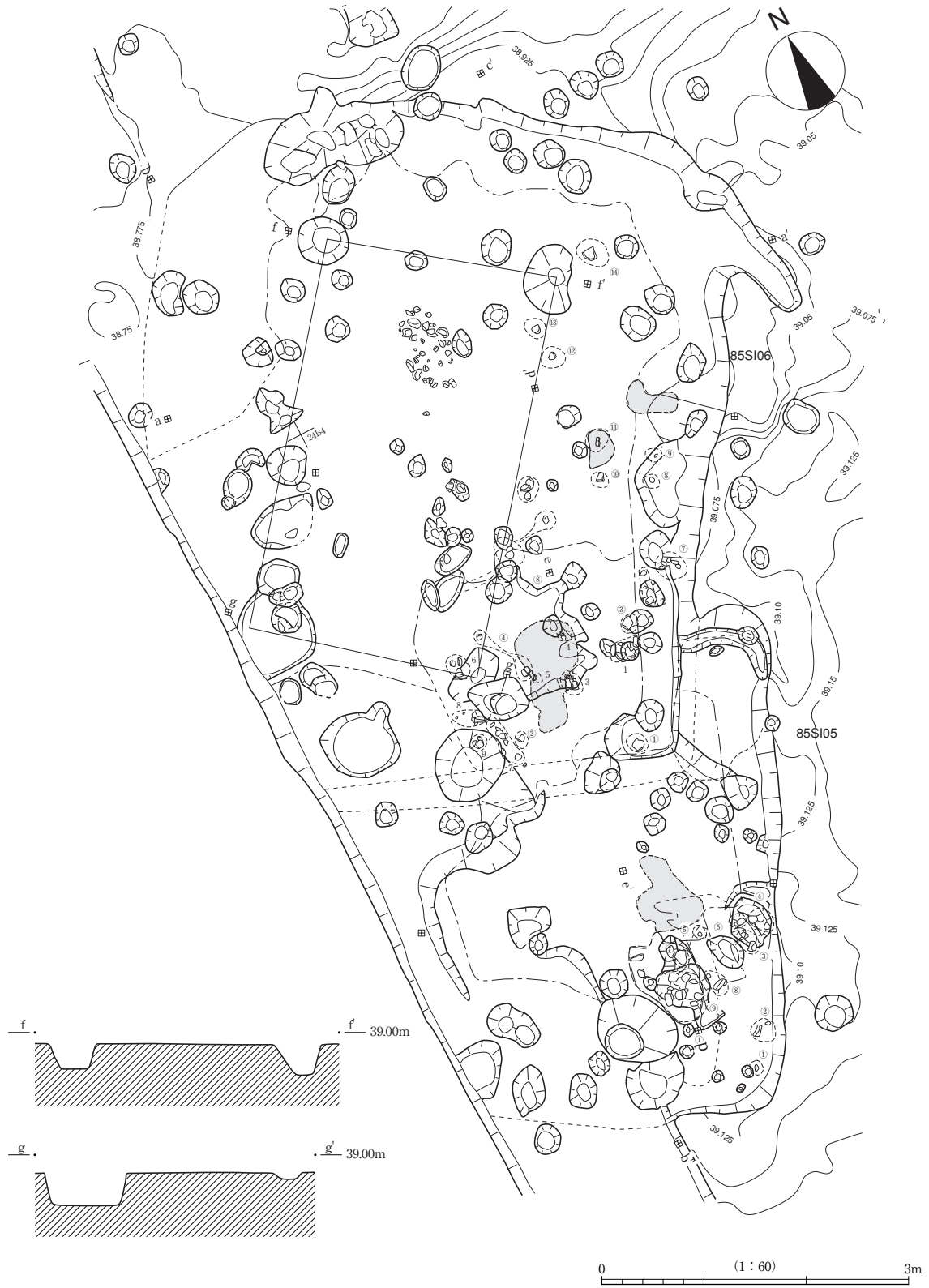
第2節 1985年度の発掘調査



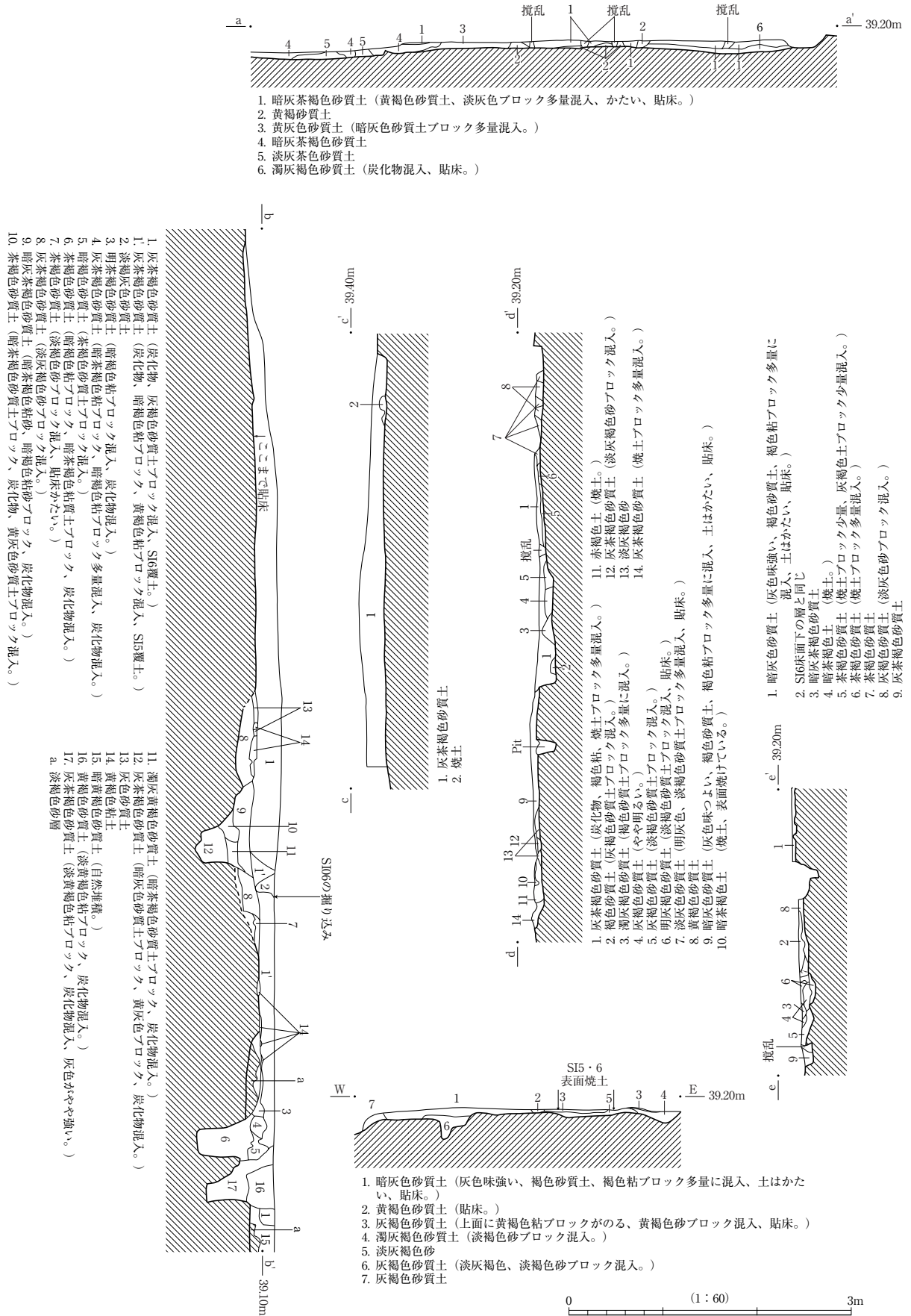
第16図 85SI04、85SK01・02・03、85SD04・06・07・08実測図



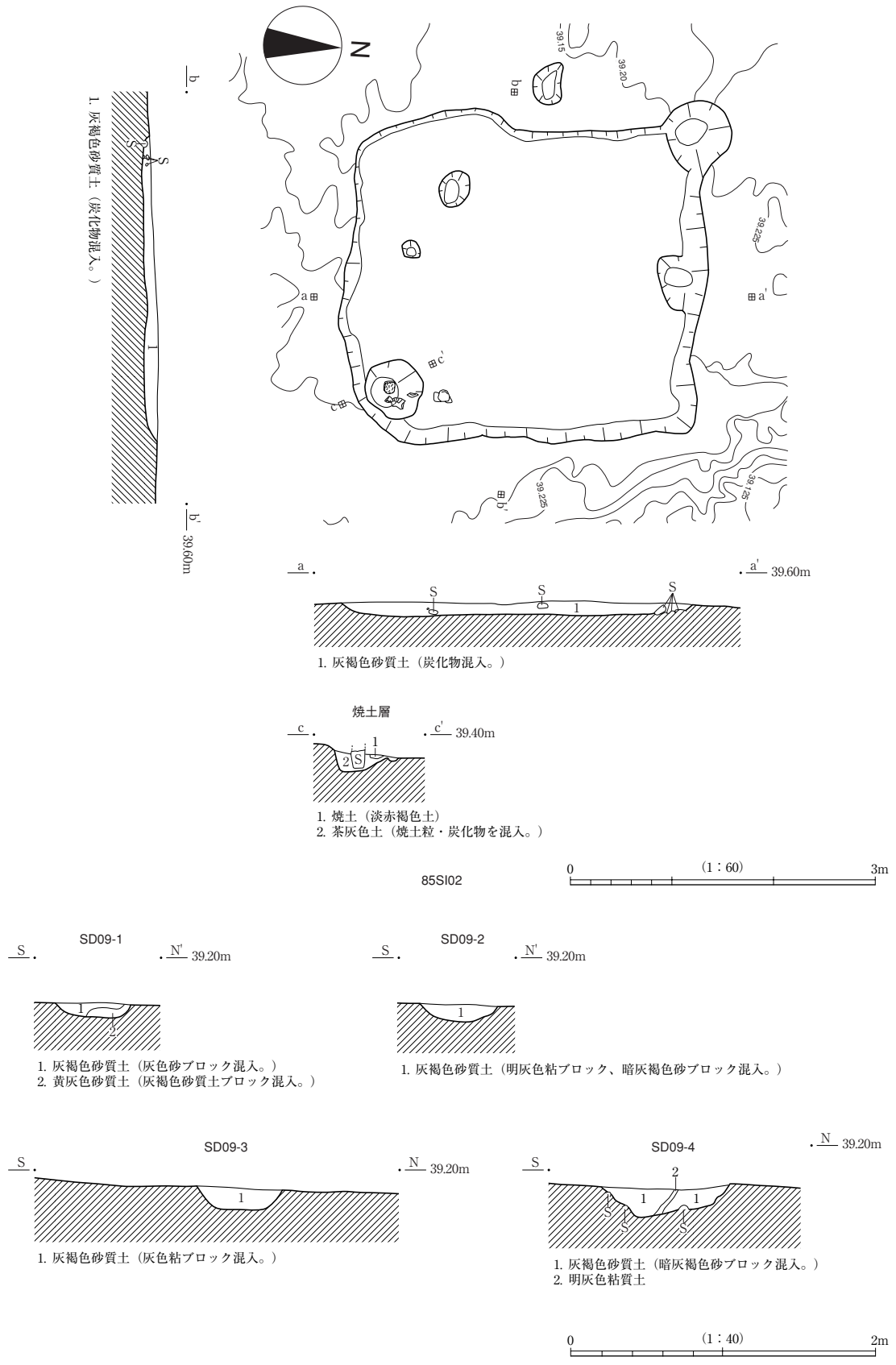
第17図 1985平面図 4



第18図 85SI05・06実測図1



第19図 85SI05・06実測図2



第20図 85SI02、85SD09実測図

出土遺物は16～27がある。16は須恵器杯B蓋である。Ⅱ3期頃のものと考えられる。17は内黒の土師器高杯の杯部である。外面には脚部との接合のためのキザミが見える。Ⅱ2期頃のものであろうか。18～22は土師器の小甕。24～27は土師器長胴甕である。そのうち20～22・25・26は近江型甕〔大崎1993〕と言われるもので、口縁部が内湾気味に立ち上がるのが特徴である。また、ハケメ調整が主体で、外面体部下半はケズリ調整を行う。18・19・24・27もハケメ調整が主体である。23は製塩土器で棒状尖底土器である。これらの遺物の時期はⅡ2～Ⅱ3期と考えられる。

85S106 (第17・18・19・34・35図)

24区A・B3・4で検出されている。平面形態は、西側が調査区外あるいは削平により判然としたないが、長方形であると考えられる。東側の1辺は約6m、北側は約5.5m前後を測る。平面積は約33m²となる。竪穴部の深さは検出面より深いところで約30cmである。1点破線で表されている範囲は、貼床が検出された部分である。南東角近くにある網掛部が焼土等の検出範囲で、カマドの痕跡と考えられる。支柱穴は4本で、竪穴壁付近に見られるピットが壁柱となる可能性もある。85SI05よりは土層の切り合いから新しいと考えられる。

出土遺物は28～44がある。28～30は須恵器で、28は杯B蓋、29は杯B、30は杯Aである。これらはⅡ3期のものと考えられる。31～33は赤彩の土師器で、31・33は椀A、32は承盤である。32・33には暗文が入る。これらもⅡ3期と考えられる。34は製塩土器である。おそらく棒状尖底土器の体部破片であろう。Ⅱ2ないしⅡ3期のものと考えられる。35～37・39・40は土師器小甕である。36・39のようなカキメ調整を施すものが見られる。38は須恵器甕の底部付近の破片である。41～44は土師器の長胴甕である。41にはカキメ調整が見られる。これらの時期は概ねⅡ2・3期であろう。85SI05で見られた近江型の土師器煮炊具は存在せず、カキメ調整を施したものが見られるようになっている。

85S107 (第23・24・36・219図)

24区B6で検出されている。平面形態は方形で、1辺約2.8mの正方形を呈する。その平面積は約7.8m²となる。検出面よりの深さは約25cmを測る。主軸は西に約13°振っている。柱穴およびカマド等は検出されていない。

出土遺物は45～52が須恵器で、45～49が杯B蓋、50・51が杯A、52が甕である。53～56は土師器で、53・54が小甕、55・56が長胴甕である。いずれもⅣ1～Ⅳ2期あたりのものと考えられる。他に1253～1256の鉄製品が出土している。1253・1254は鎌、1255・1256は器種不明である。

竪穴部の平面積は約8m²未満で、居住用と考えるのは難しい。近くに母屋となるような建物も見当たらないが、鉄鎌が出土することなどから倉庫的機能を持った建物と考えられようか。または、85SB02が竪穴外柱穴となり建物内の土間部として理解できるかもしれないが検討を要する。

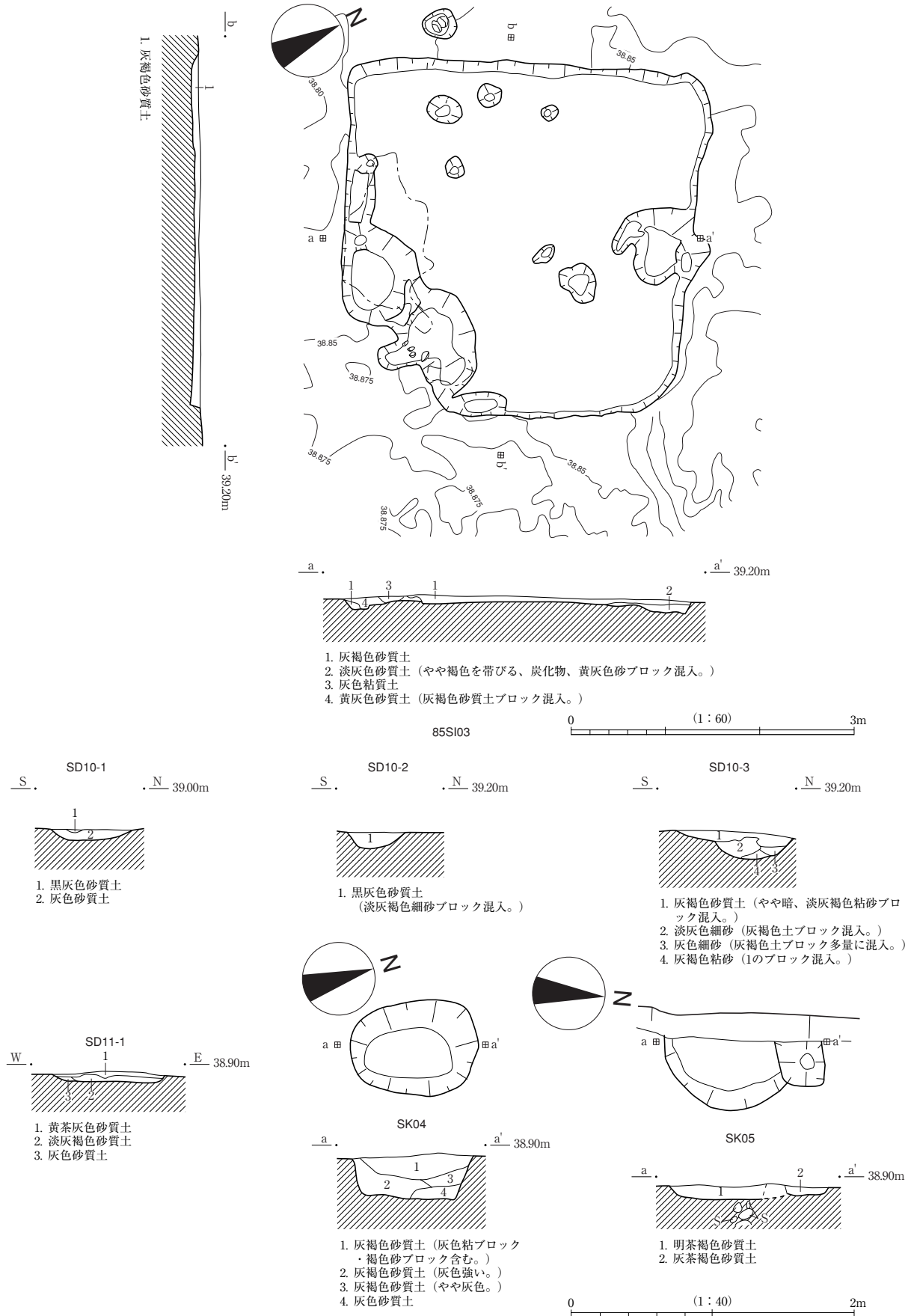
掘立柱建物

85SB01 (第23・25・219図)

24区B6・7で検出されている。調査時には3×3間の総柱建物として復元されている。南側にも柱穴が見えることから、完全に建物柱穴が検出されているわけではないが、ここでは3×4間の総柱建物として報告する。またP19を含めばさらに延びる可能性もある。

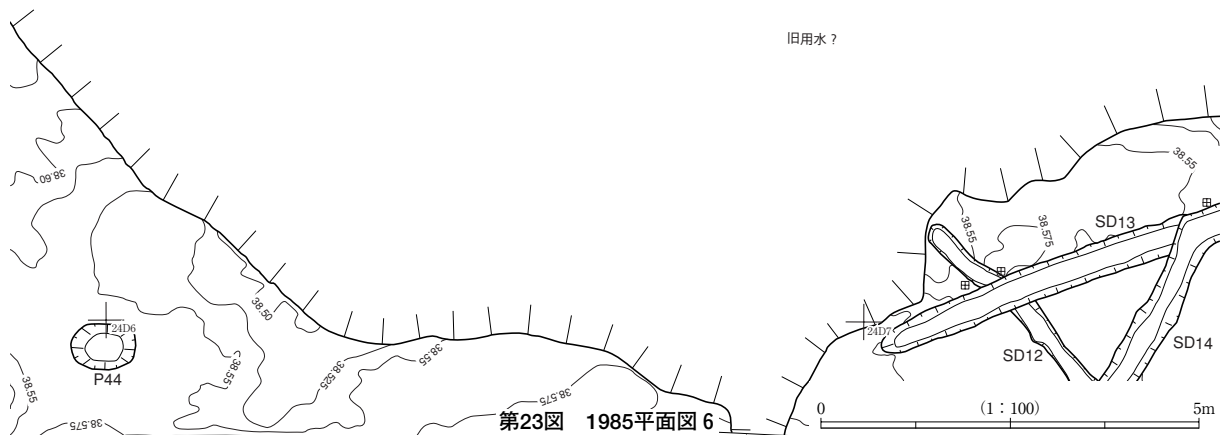
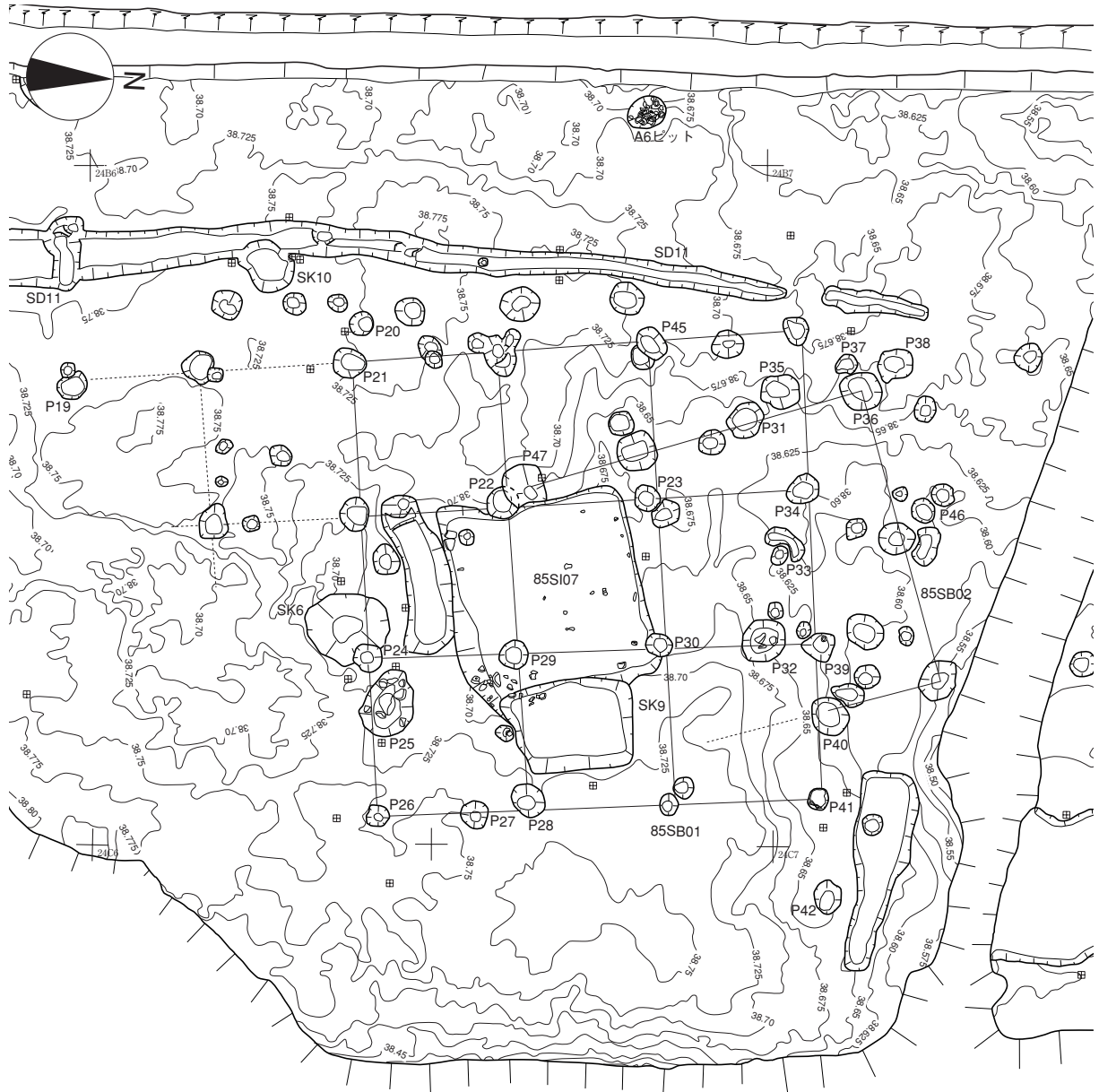
梁間・桁間ともに約2.3mで東西方向に約6.5m、南北方向に約8.8mを測る。平面積は約57m²となる。主軸は西に約6°振っている。中世の建物と考えられるが、詳細な時期は良く分からない。地鎮関連の遺構と考えられるA6ピットと同時期で14世紀後半から末頃の可能性もあろう。詳しくは後述するが、P41からは1268の刀が出土している。

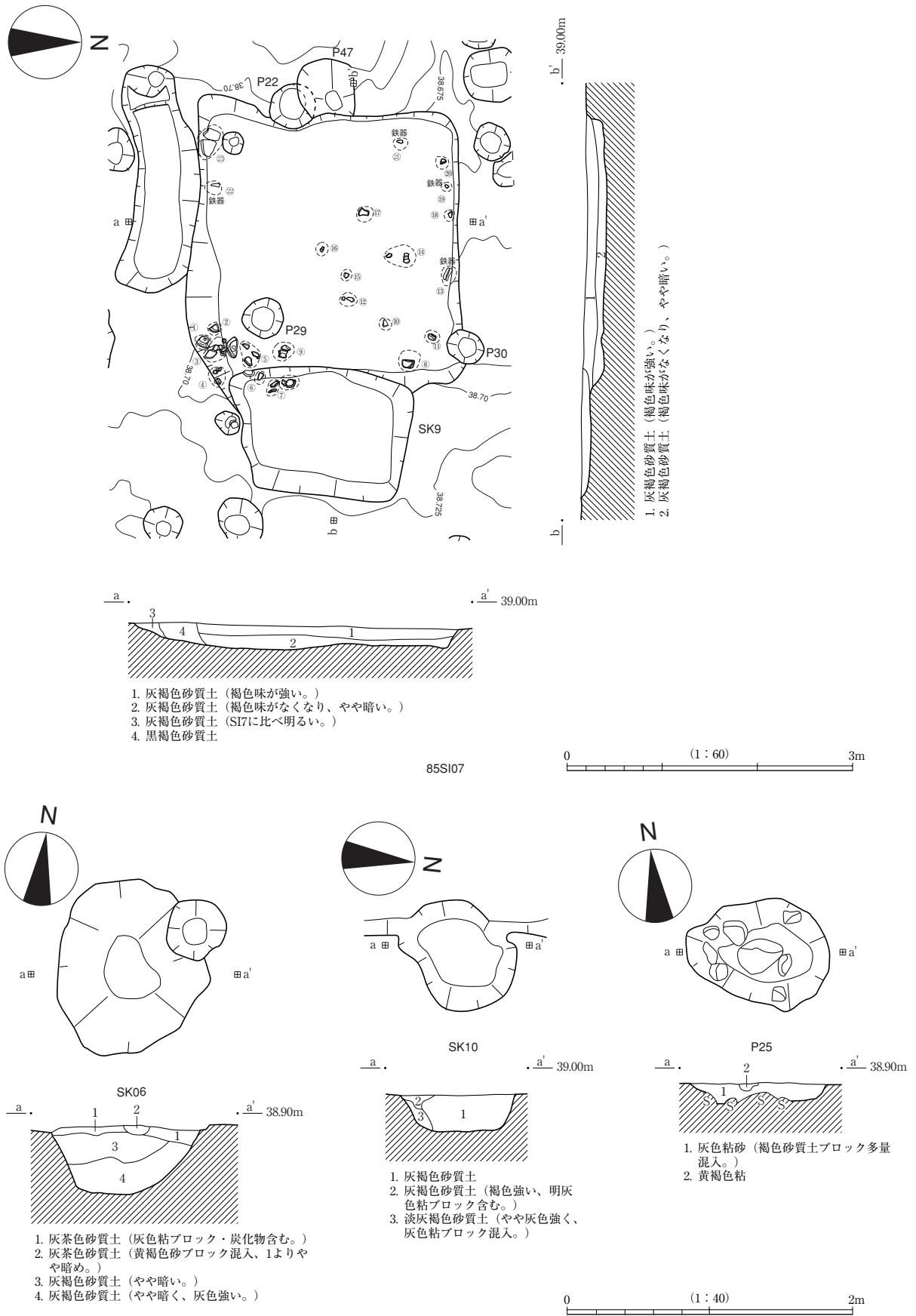




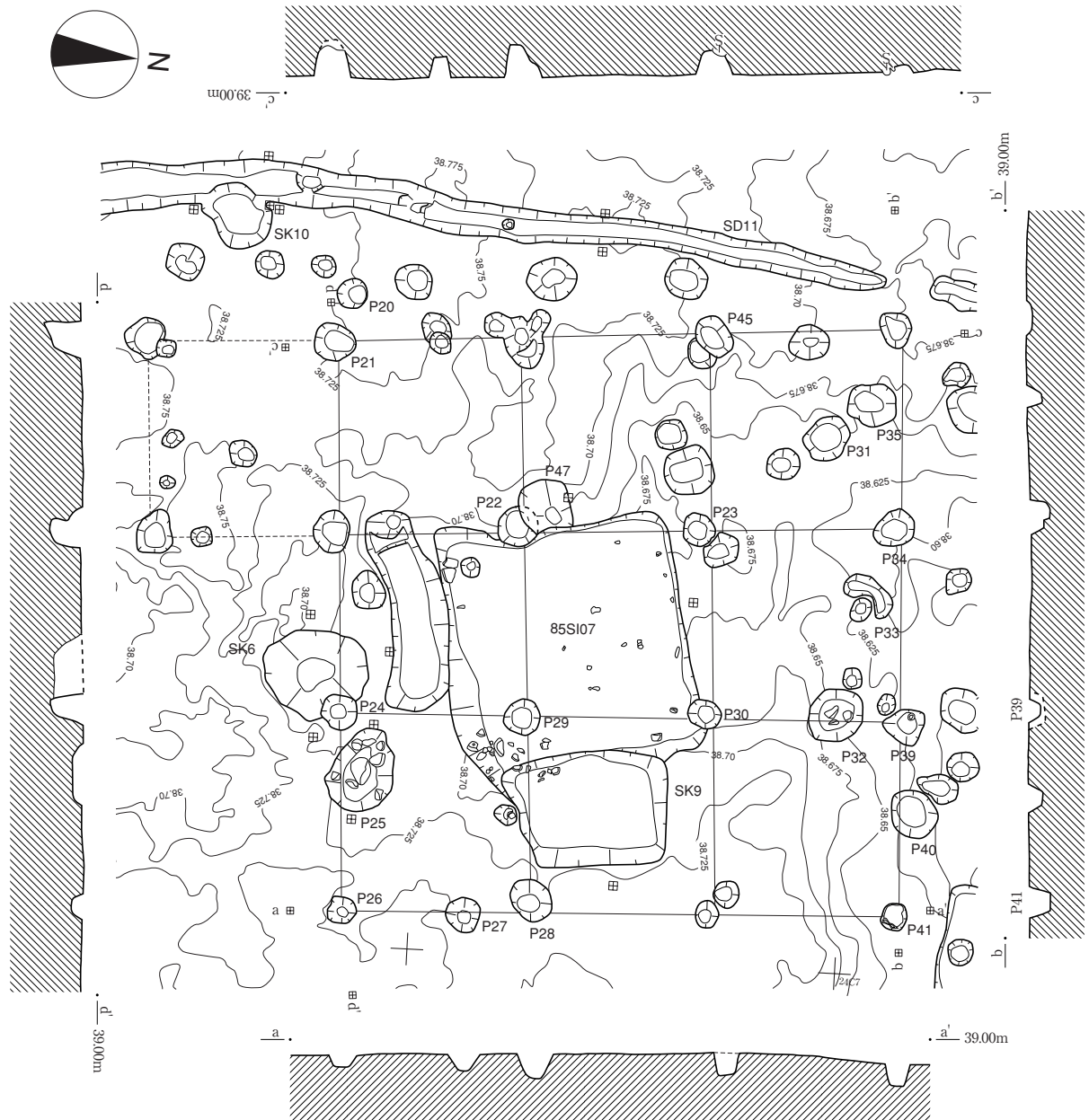
第22図 85SI03、85SK04・05、85SD10・11実測図

第2節 1985年度の発掘調査

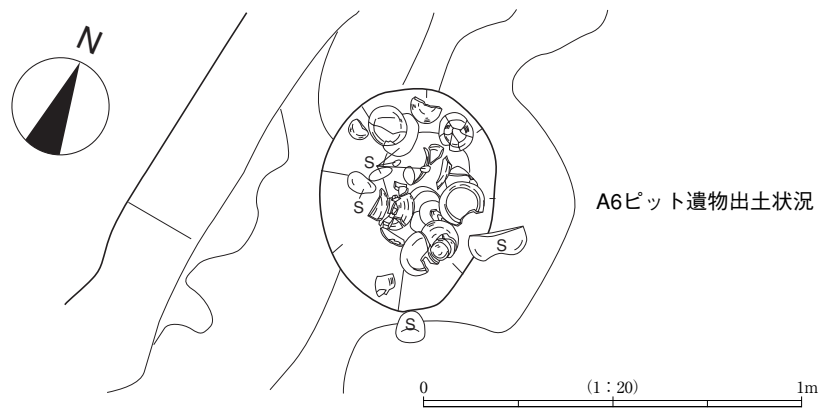




第24図 85SI07、85SK06・10、85P25実測図

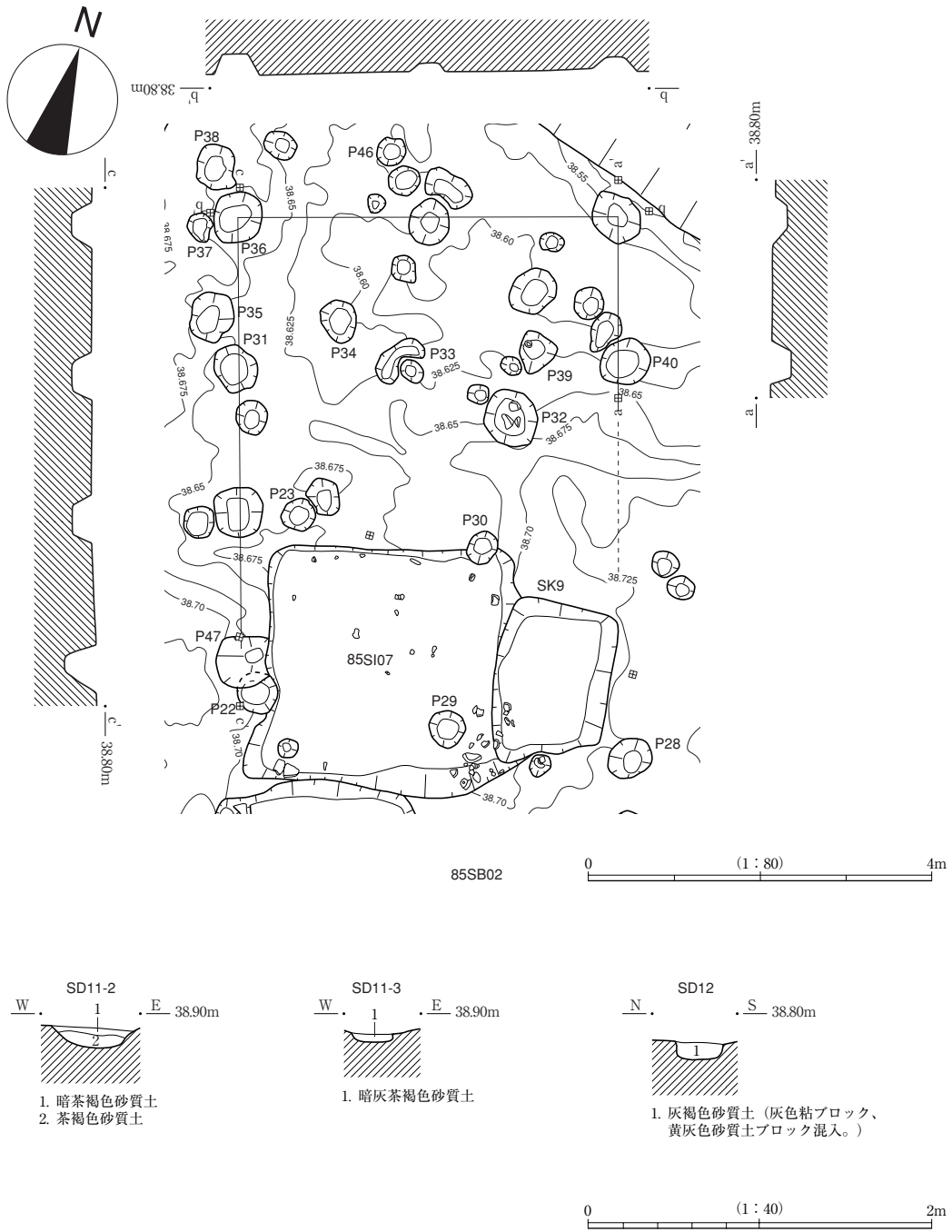


85SB01 0 (1 : 80) 4m



A6ピット遺物出土状況

第25図 85SB01、A6ピット実測図



第26図 85SB02、85SD11・12実測図

85SB02 (第23・26図)

24区B6・7で検出されている。調査時には建物として復元はされていない。本報告時の図上復元である。2×3間の側柱の建物として復元したが、南側の柱列は検出されていない。梁桁は4.5m、桁桁は5.2mを測り、平面積は約23m²である。主軸は西に約19°振っている。さらにP27を南東角の柱として延ばすことも可能とすれば、2×4間の建物となり桁桁は7.1mで平面積は約32m²となる。また、前述の85SI07をその建物内に取り込むという見方も可能となる。

土坑

85SK01 (第14・16図)

24区B2で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約80cm、短軸約65cm、検出面よりの深さは約50cmを測る。埋土は灰褐色砂質土、淡灰褐色砂質土、暗灰褐色砂質土といった砂質土である。性格および時期については良く分からない。

85SK02 (第14・16図)

24区B2で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約90cm、短軸約70cm、検出面よりの深さは約15cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。東西の壁際に石が検出されている。その性格および時期については良く分からない。

85SK03 (第14・16図)

24区B3で検出されている。平面形態は東側が崩れているが方形に近い。南北方向に約90cm、東西方向に約1m、検出面よりの深さは約20cmを測る。西側は段掘状になっている。埋土は灰褐色砂質土等の砂質土である。その性格および時期については良く分からない。

85SK04 (第21・22図)

24区B5で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約90cm、短軸約70cmを測る。検出面よりの深さは約30cmである。断面形態は箱型を呈する。埋土は灰褐色砂質土、灰色砂質土といった砂質土である。その性格や時期については不明である。

85SK05 (第21・22図)

24区A5で検出されている。調査区外に延びているため平面形態は推定だが、円形に近いと考えられる。ほぼ半分程度検出されていると考え、直径約1mを測る。検出面よりの深さは約10cmである。埋土は明茶褐色砂質土である。その性格や時期については不明である。

85SK06 (第23・24図)

24区B6で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約1.3m、短軸約1mを測る。検出面よりの深さは約50cmである。埋土は灰茶色砂質土、灰褐色砂質土といった砂質土である。85SB01を構成する柱穴に切られていることから、それよりも古い時期と考えられるがどれほど遡れるか不明。

85SK07 (第27・28図)

24区C7で検出されている。平面形態は旧河道に流れ込む溝に切られ南側は不明だが不整な角丸長方形である。長軸は残存長で約3m、短軸は約2.1mを測る。検出面よりの深さは約10cmである。埋土は灰褐色砂質土、黄灰色砂質土である。その性格および時期は良く分からない。

85SK09 (第23・24図)

24区B6で検出されている。平面形態は長方形で、長辺約1.5m、短辺約1.2mを測る。検出面よりの深さは約10cm未満である。85SI07を切っていることから、それ以降のものと考えられる。ただし出土遺物の状況を見ると、85SI07から連続していることからある時点では共に機能したいたとも考えられ

る。85SI07の付帯施設であると考えられようか。

85SK10 (第23・24図)

24区B6で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約85cm、短軸約60cmを測る。検出面よりの深さは約30cmである。断面の形態は箱型を呈する。埋土は灰褐色砂質土、淡灰褐色砂質土といった砂質土である。その性格や時期については不明である。

溝

85SD01 (第11・13図)

25区B・C9で検出されている。後述の85SD02・03・04と別の遺構番号が与えられているものと同一の溝である。幅約50cmから1mで、深さは検出面より約20cmを測る。東西方向から約100度の角度で南北方向へと向きを変えている。埋土は灰褐色砂質土、黒灰褐色砂質土等である。

85SD02 (第12・13図)

25区C10で検出されている。幅約20cm、検出面より深さ約10cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。

85SD03 (第12・13図)

25区C10で検出されている。幅約32cm、検出面より深さ約10cmを測る。埋土は灰褐色砂質土、淡灰褐色砂質土である。

85SD04 (第12・16図)

24区C1で検出されている。幅約30cm、検出面より深さ約5cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。SD01～04の時期は、85SI01よりも遺構の切り合いから新しく、II 2期以降であるが詳細は不明である。その性格についても不明といわざるを得ない。

85SD05 (第12・13図)

24区B1で検出されている。幅約30cm、検出面より深さ約15cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。検出されている長さは約3m弱で、その方向は南北方向である。埋土はSD01～04と同一と考えられるので、同時期の遺構であろう。

85SD06 (第14・16図)

24区B2で検出されている。幅約60cm、検出面よりの深さ約10cmを測る。検出されている長さは約3.6mである。その方向は南北方向で、埋土は灰褐色砂質土である。

85SD07 (第14・16図)

24区B2で検出されている。幅約45cm、検出面よりの深さ約10cmを測る。検出されている長さは約3.3mである。その方向は南北方向で、埋土は灰茶褐色砂質土、褐灰色砂質土である。

85SD08 (第14・16図)

24区B2・3で検出されている。幅約20cm、検出面よりの深さ約5cmを測る。検出されている長さは約3.1mである。その方向は南北方向で、埋土は灰茶褐色砂質土である。

SD06はその埋土からSD01～05と同時期、SD07・08はその両者は同時期と考えられるが、埋土の色調がその他の溝とは異なっており時期が違うと考えられるが、新旧は不明である。

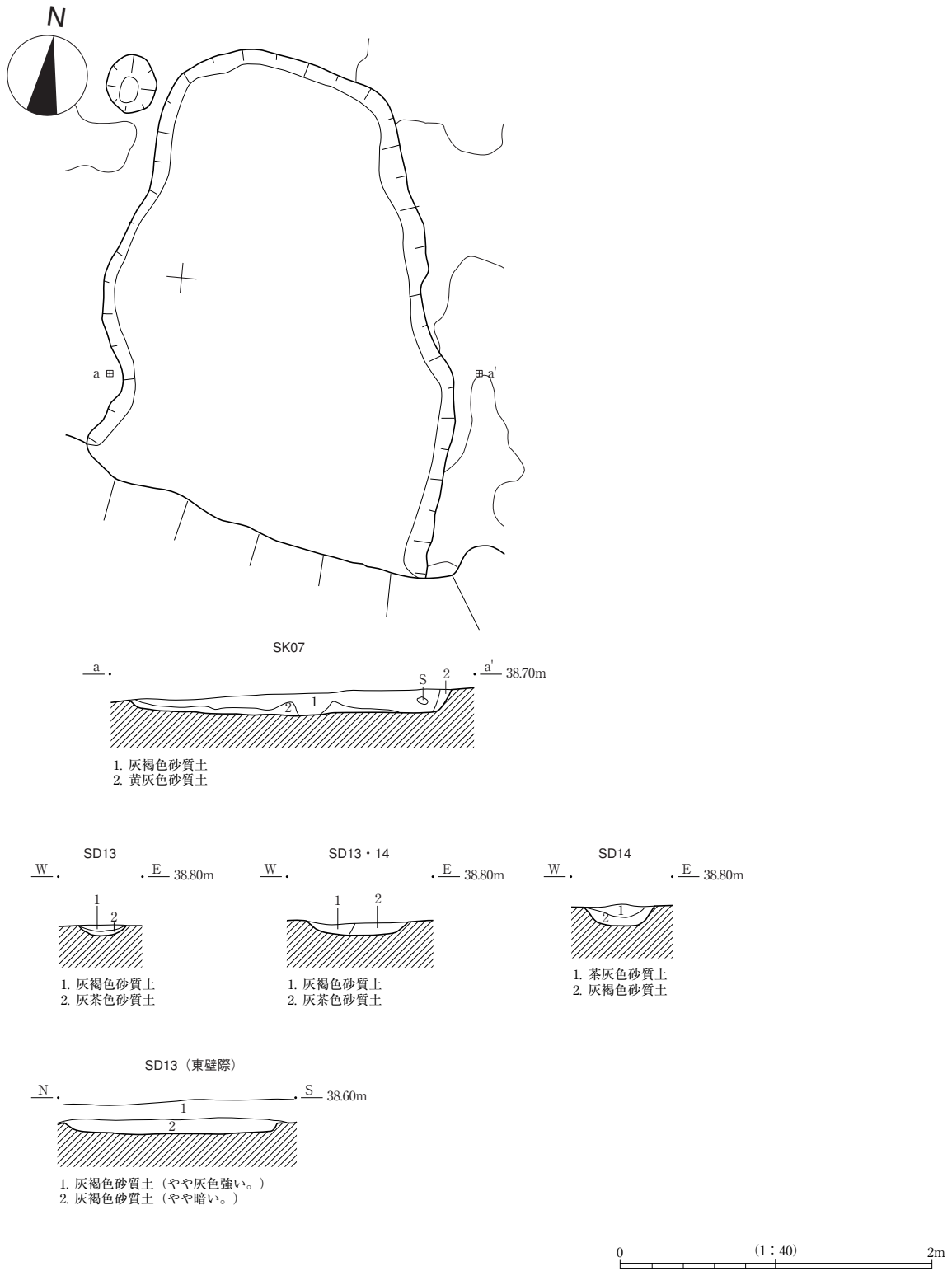
85SD09 (第17・20図)

24区A～C4で検出されている。調査区を東西に横断する溝で、約20m余りが検出されている。幅は約50～80cmで、検出面よりの深さは約10～20cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。埋土の特徴からその時期は、SD01～05と同時期であると考えられ、区画溝とも考えられるが詳細は良く分からない。

第2節 1985年度の発掘調査

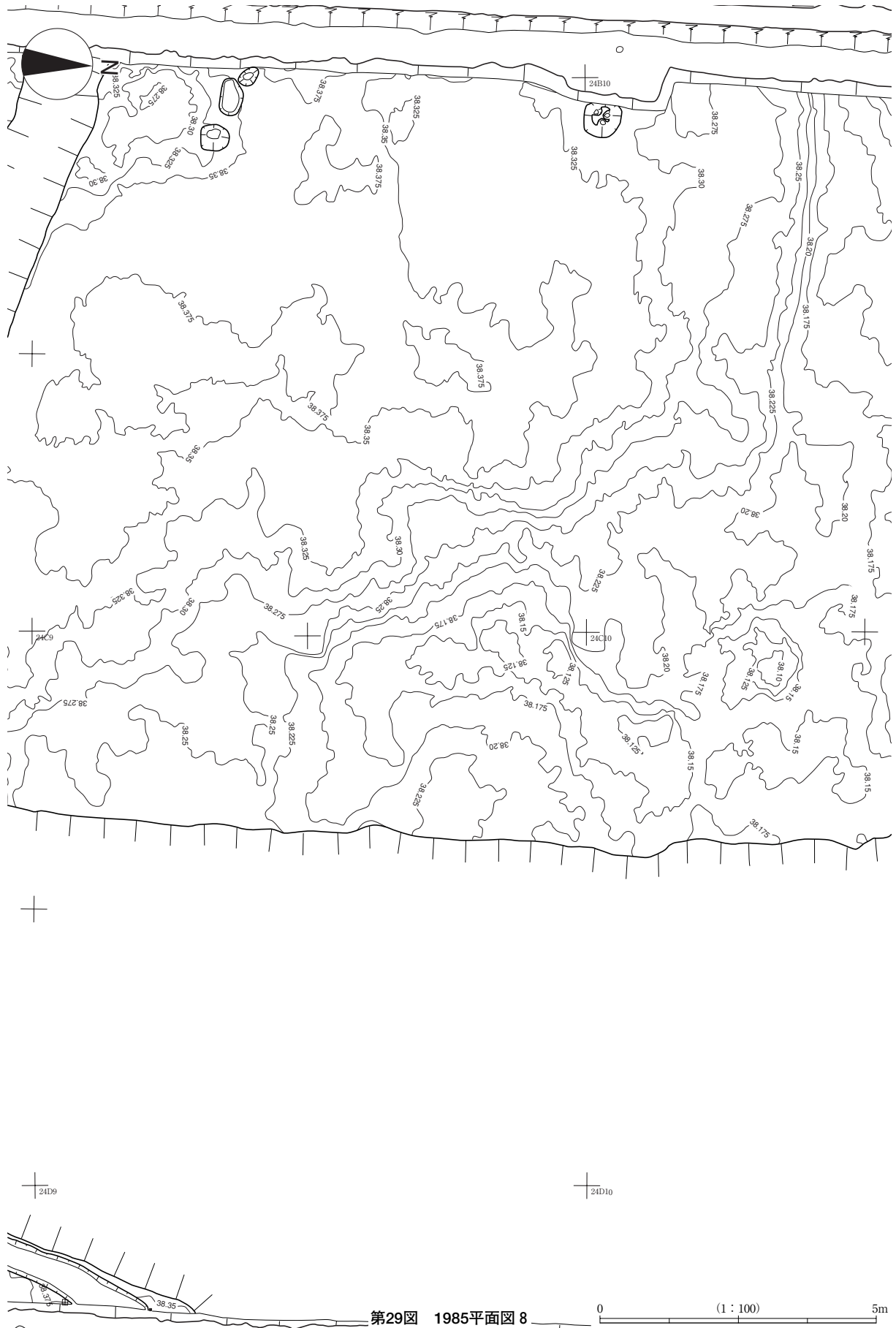


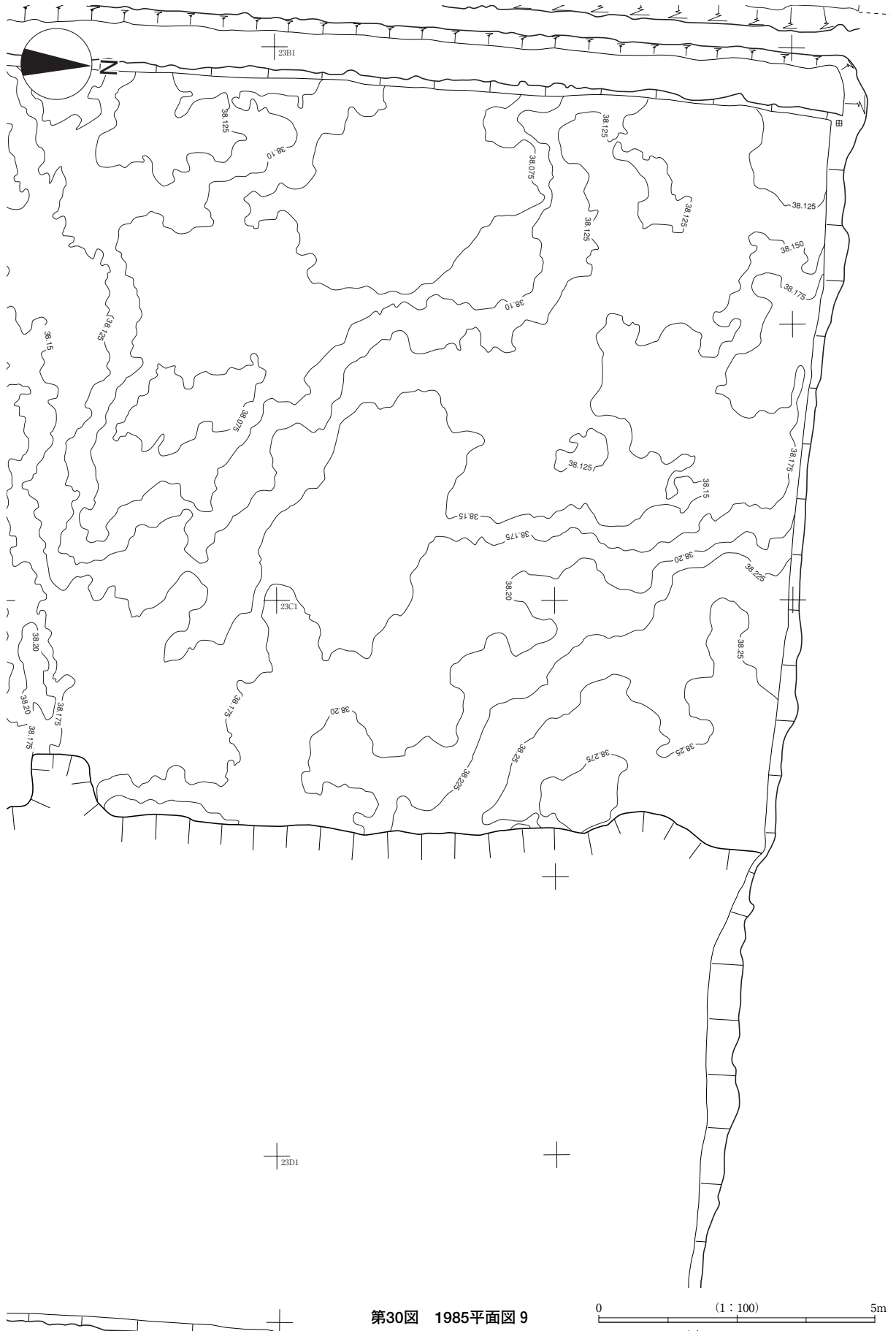
第27図 1985平面図7



第28図 85SK07、85SD13・14実測図

第2節 1985年度の発掘調査





第30図 1985平面図9

85SD10 (第21・22図)

24区A～C4・5で検出されている。調査区を南西から北東方向へそのすぐ北側にある旧河道に沿って延びている。調査区内で約21.5mを測る。幅は約40～80cmで、検出面よりの深さは約10～20cmを測る。埋土は黒灰色砂質土、灰色砂質土、灰褐色砂質土、灰色細砂などである。SD01～05とは異質な埋土であるので、時期が異なる可能性がある。旧河道と同時期かもしれない。

85SD11 (第21・22・23・26図)

24区A・B5～7で検出されている。24区B6付近で東西から南北方向へ向きを変え延びている。調査区内で約19mを測る。幅は約20～80cmで、深さは検出面より約10cm弱を測る。埋土は黄茶灰色砂質土、淡灰褐色砂質土、灰色砂質土等である。上記の溝とは埋土の特徴が異なり、85SB01に伴う中世段階の区画溝とも考えられる。

85SD12 (第23・26図)

24区C・D7で検出されている。後述のSD13・14に切られている。幅は約30cm、検出面よりの深さは約10cmを測る。埋土は灰褐色砂質土である。

85SD13 (第23・27・28図)

24区C・D7・8で検出されている。旧河道に沿って弧を描き途中切られるが、調査区内で長さ約19.2m検出されている。幅は約30cm、検出面よりの深さは約10cm未満を測る。埋土は灰褐色砂質土、灰茶色砂質土といった砂質土である。遺構の切りあい関係から、SD14よりも古い。

85SD14 (第27・28図)

24区C・D7・8で検出されている。旧河道に沿って弧を描き北端で切られている。調査区内で長さ約11m検出されている。幅は約45cm、検出面よりの深さは約15cmを測る。埋土は茶灰色砂質土、灰褐色砂質土といった砂質土である。遺構の切りあい関係から、SD13よりも新しい。

河道 (第21・23・27・30図)

24区A4から23区C・D1にかけて検出されている。幅は約2.8mから10m未満を測る。検出面よりの深さについては、図面上でみる限り差がなく不明である。調査されていない可能性もある。調査区西壁断面で見ると、その深さは約40cm以上あったことが分かる。この河道は中近世の旧河道と考えられている。1986・1987年度調査でも検出されている。

ピット

85P25 (第23・24図)

24区B6で検出されている。平面形態は不整楕円形である。長軸約1m、短軸約50cmを測る。検出面よりの深さは約10cmである。埋土は灰色粘砂、黄褐色粘で、石も検出されているが、その性格や時期については不明である。

85P41 (第23・219図)

24区B7で検出されている。85SB01の北東角の柱穴である。1268の刀が出土している。建物廃棄時に入れられたものであろうか。

A6ピット (第24・25・215図)

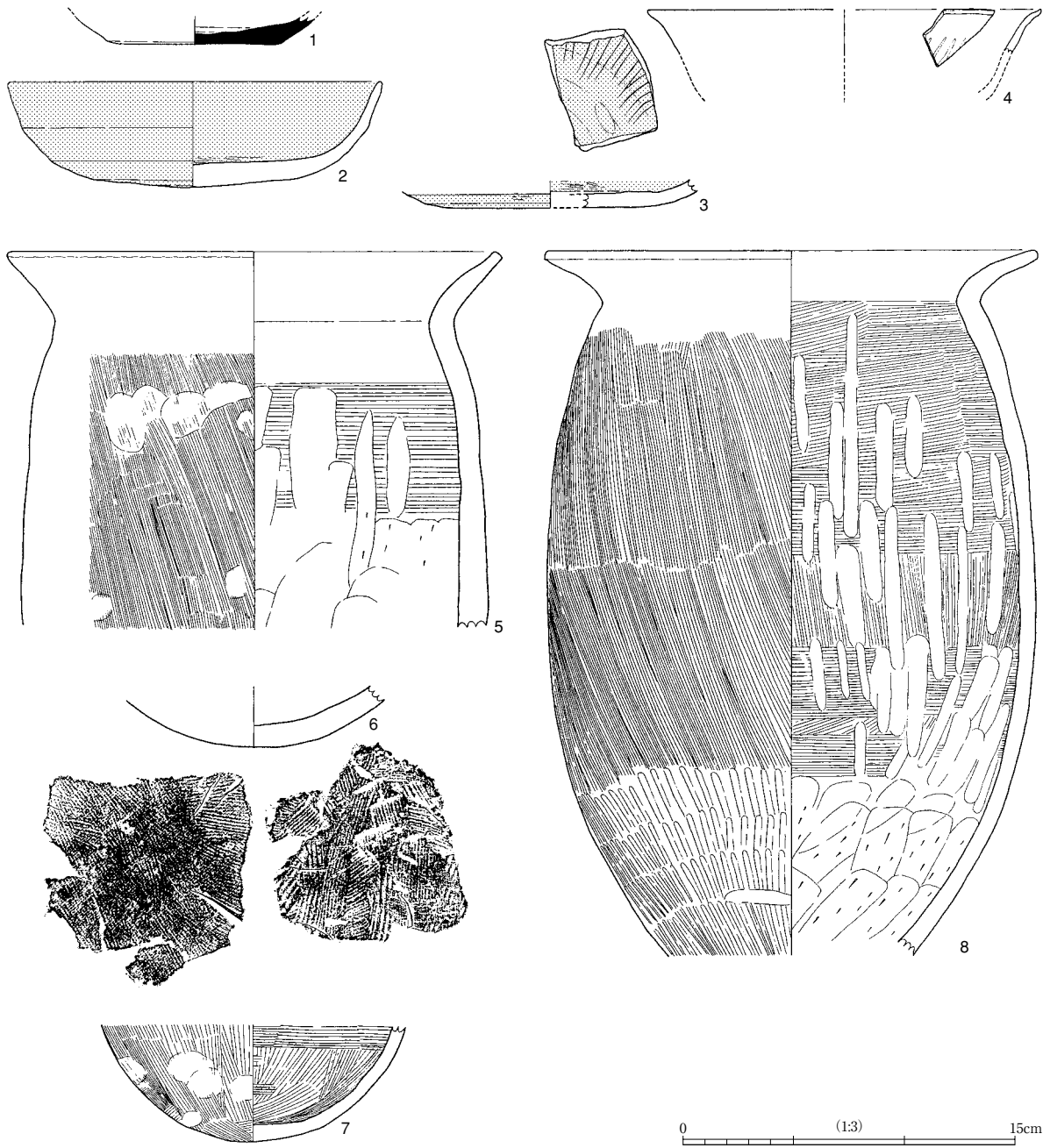
24区A6で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約60cm、短軸約44cmを測る。検出面よりの深さは約40cmである。1151～1199の土師器皿が一括で出土した。土師器埋納ピットで、その性格は地鎮祭祀に伴うものと考えられる。それら土師器皿は14世紀後半から末頃と考えられており〔藤田1992〕、加賀地域における土師器皿編年の基準資料の一つとなっている。85SB01に伴うものかもしれないが調

査区外に中世の集落が展開している可能性もあり即断はできない。

5. 遺 物

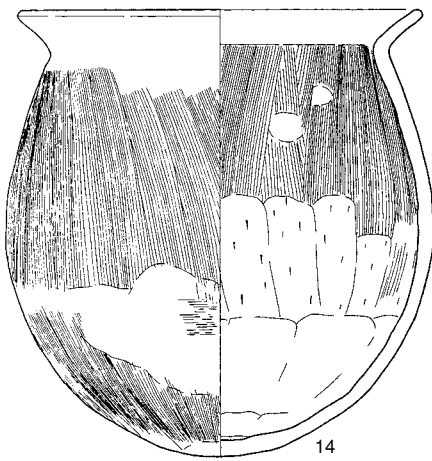
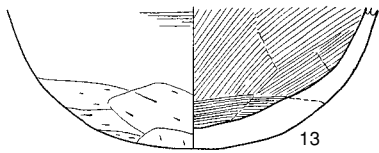
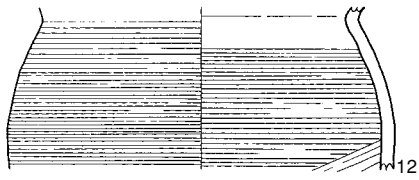
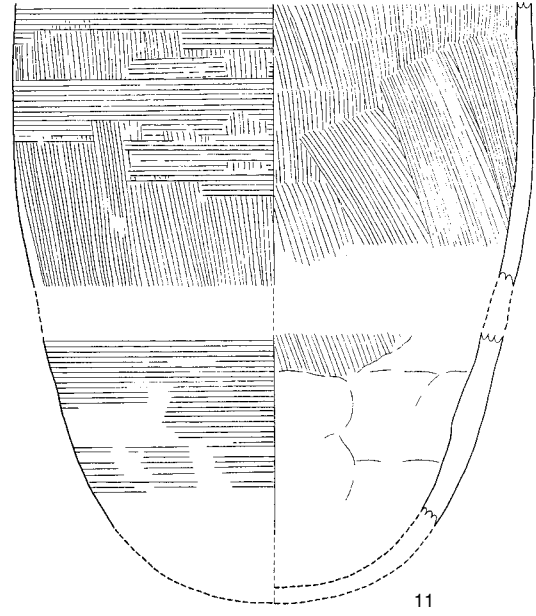
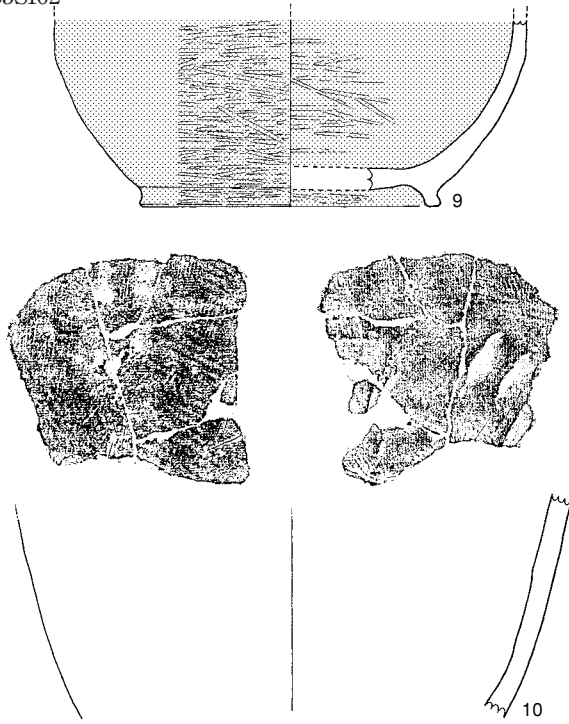
包含層出土遺物

57～73は須恵器杯B蓋である。57・58は杯Aの蓋であるかもしれない。74～84は須恵器杯Bである。85～99は須恵器杯Aである。100・101は須恵器椀である。102～104・106・107は赤彩土師器である。105は土師器椀で内面に放射暗文が見られる。108は土師器椀BでⅦ2期頃と考えられ、末松A遺跡の古代の遺物では最も新しい時期の資料となる。109～115は須恵器瓶類である。116は有脚の短頸壺で無蓋のものである。117～119は須恵器甕で、119は大甕となる。120は丸瓦片で、能美市にある湯屋窯跡の製品と考えられる。121～125は土師器長胴甕である。123には外面にタタキの痕跡が残っているが、内面はハケメ調整で当て具の痕跡を消している。126は土師器小甕である。127は把手付きの甑ないしは鍋と考えられる。128は製塩土器で、棒状尖底土器であろうか。129～131は土師器鍋である。131には内外面ともカキメ調整が施されている。

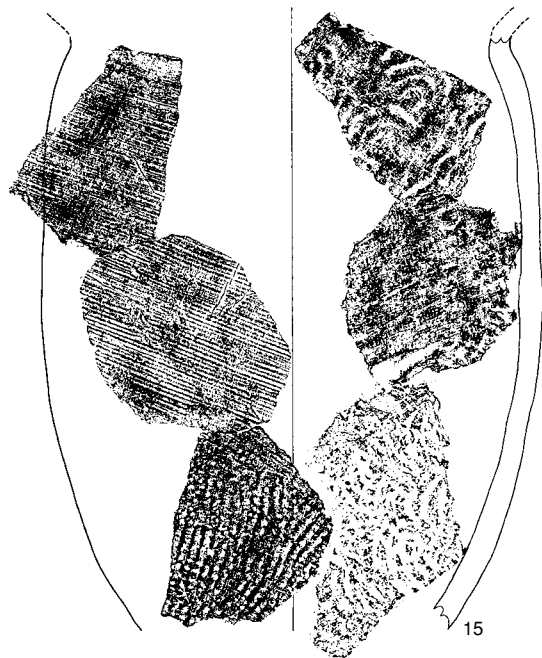


第31図 85SI01出土遺物実測図

85SI02

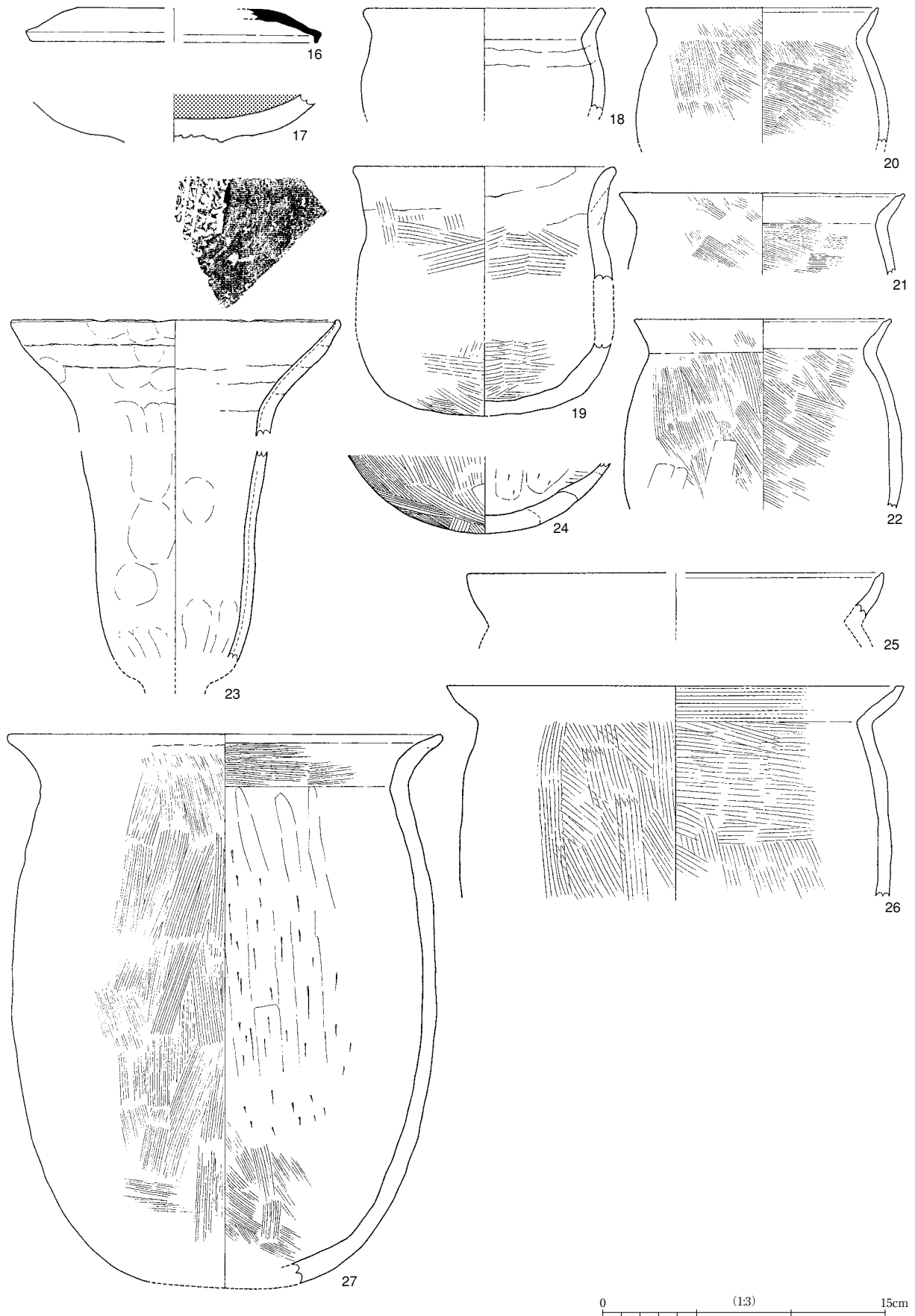


85SI03

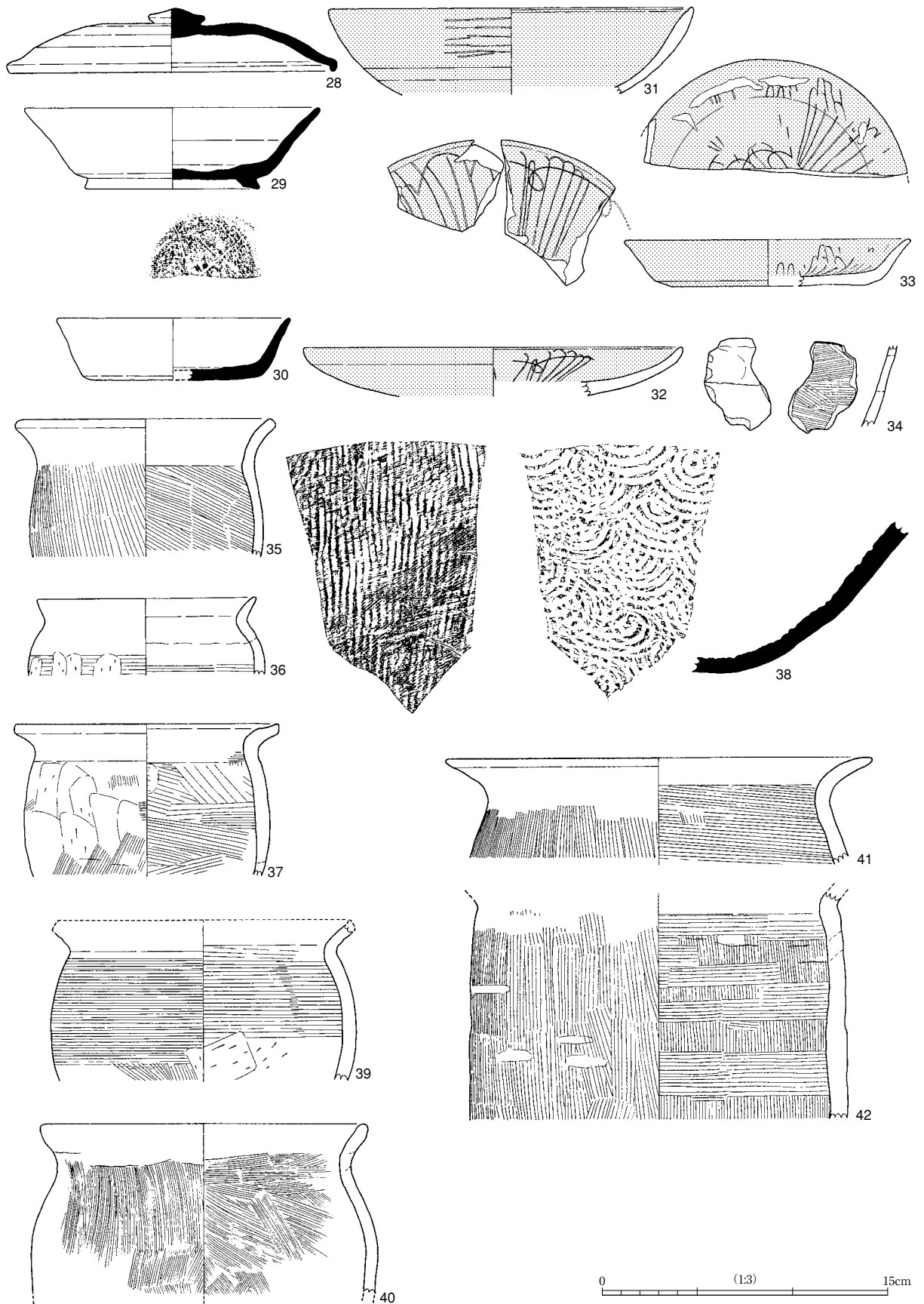


0 (1:3) 15cm

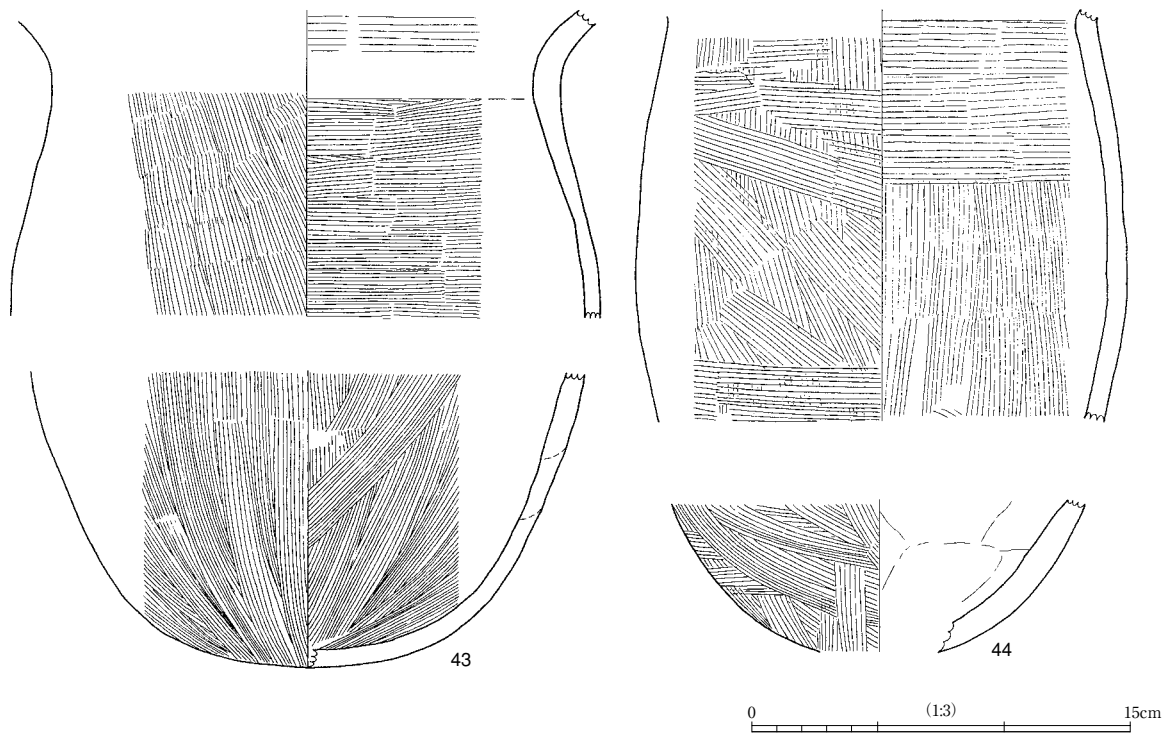
第32図 85SI02・03出土遺物実測図



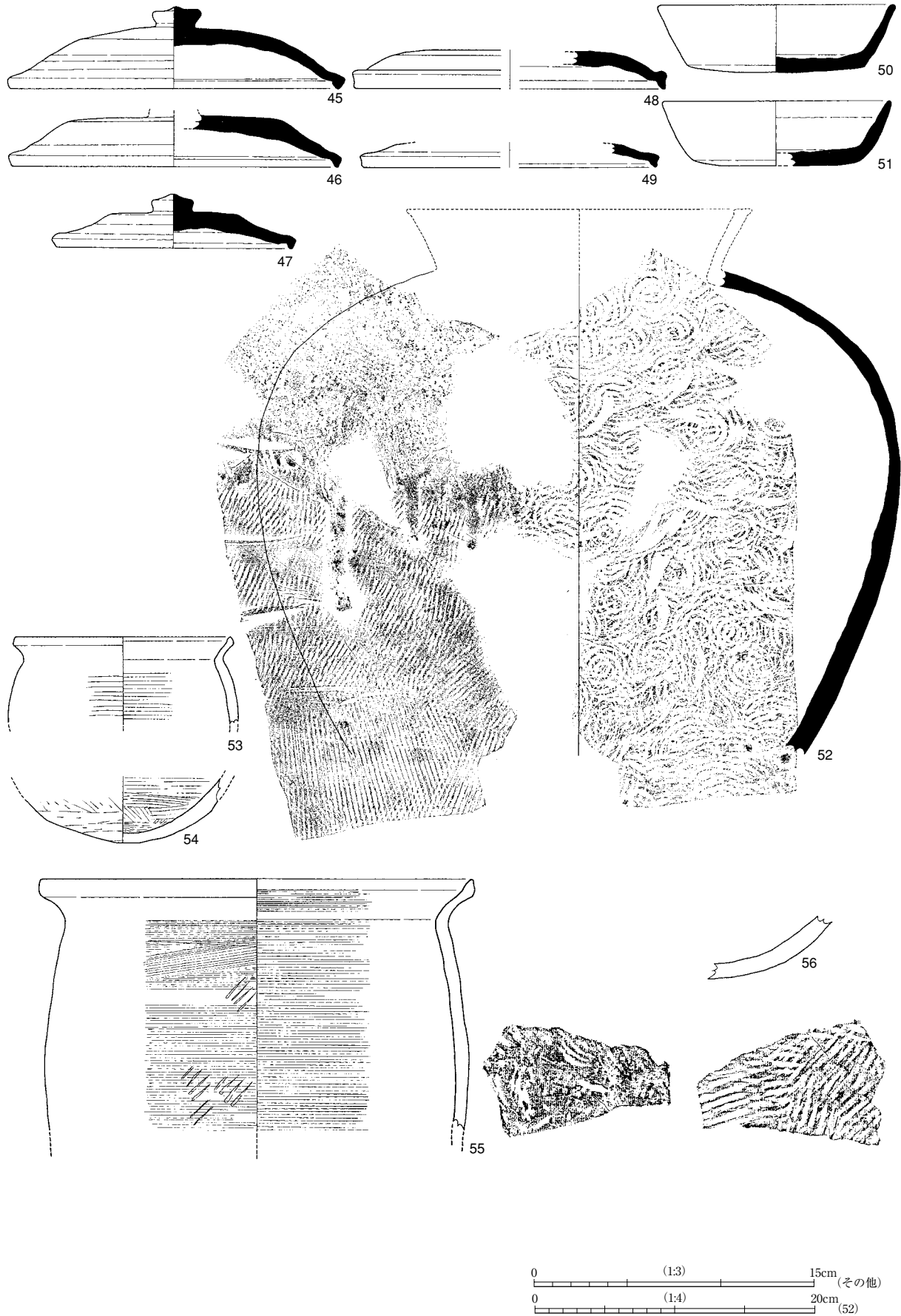
第33図 85SI05出土遺物実測図



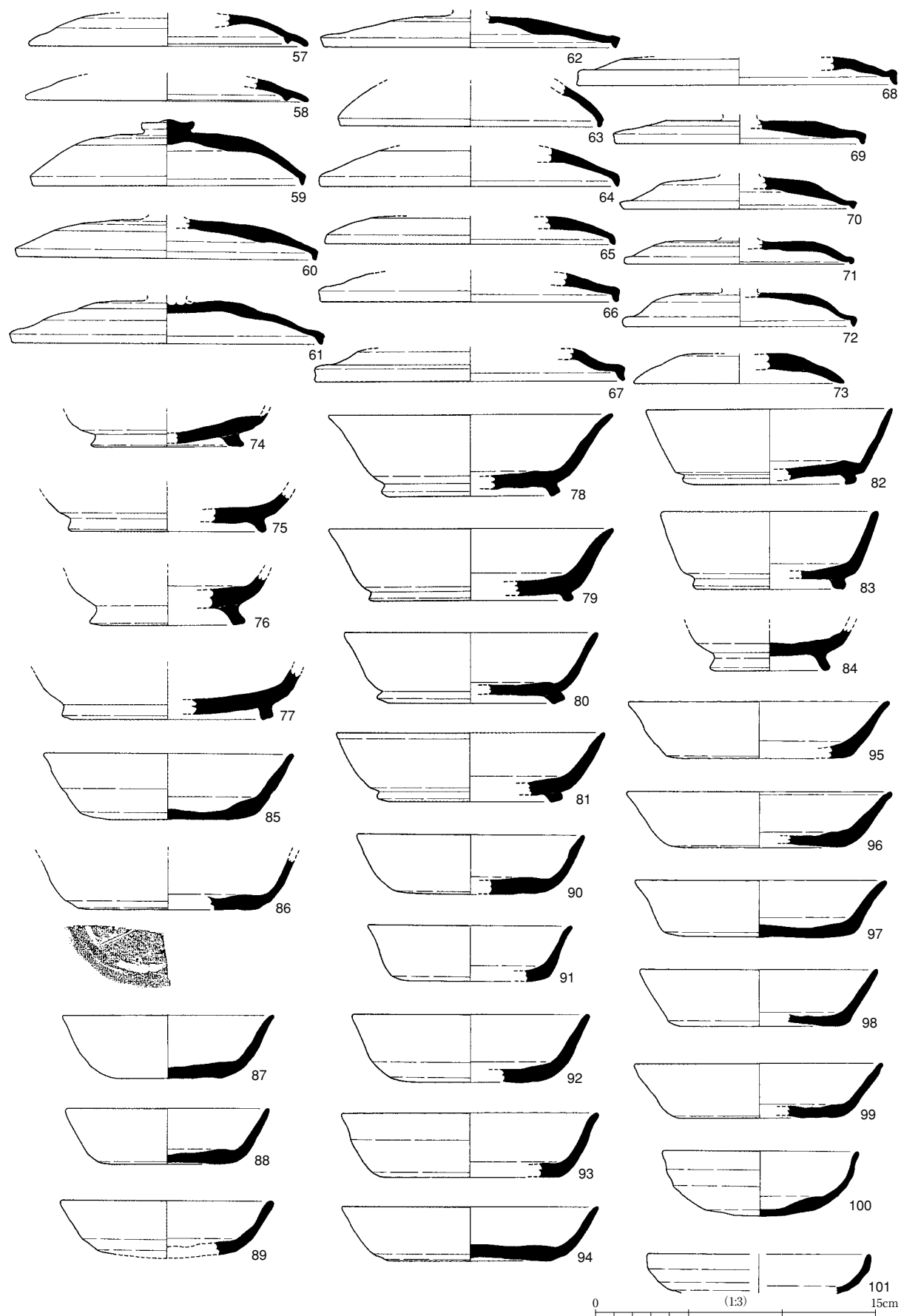
第34図 85SI06出土遺物実測図1



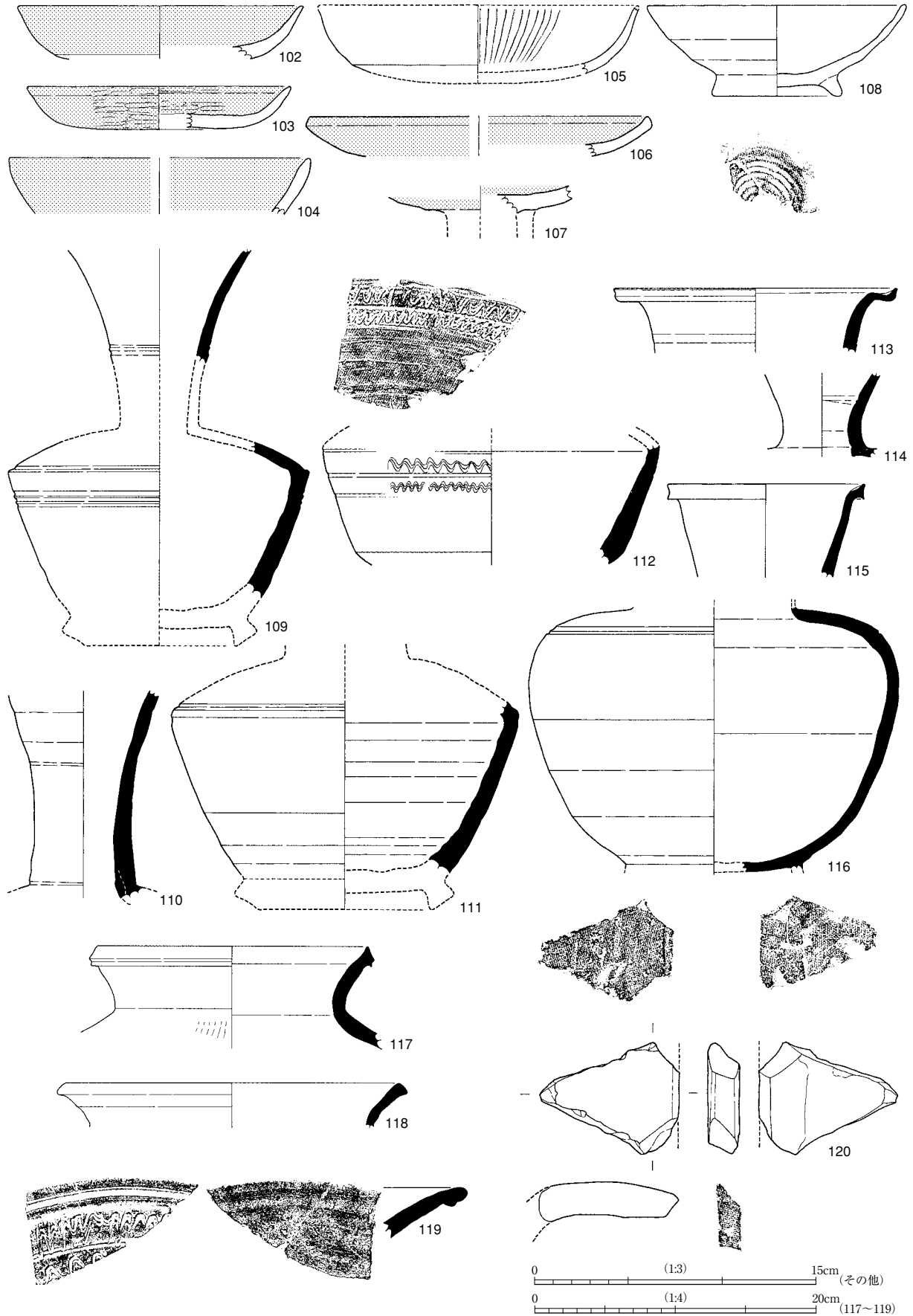
第35図 85SI06出土遺物実測図2



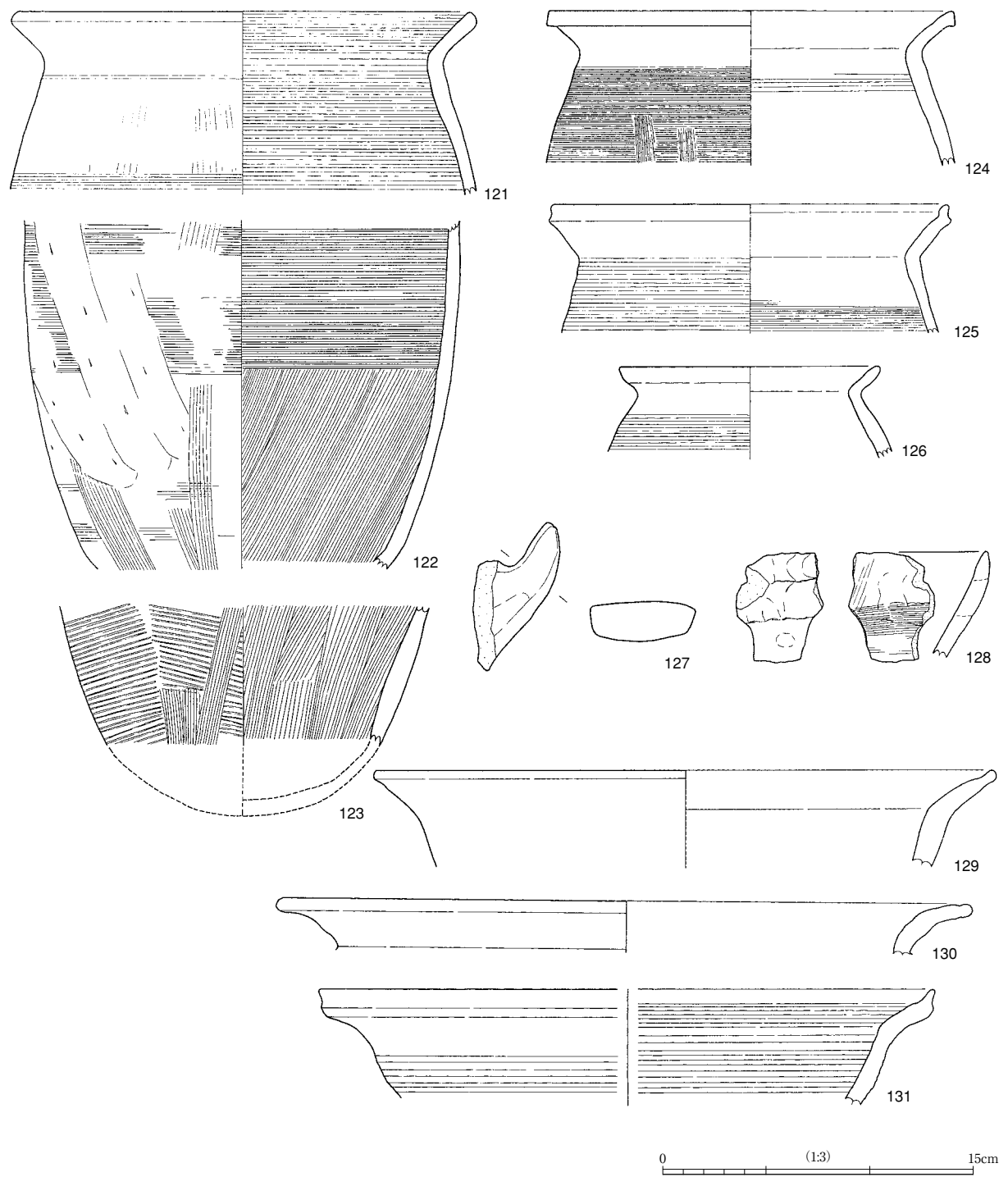
第36図 85SI07出土遺物実測図



第37図 85包含層出土遺物実測図1



第38図 85包含層出土遺物実測図 2



第39図 85包含層出土遺物実測図3

第3節 1986年度の発掘調査

1. 調査の概要

現地調査は1986（昭和61）年8月1日～同年12月10日まで行われた。発掘調査面積は、南北に約170m、東西に約24mの範囲の内、県道額谷・三浦線や農道等を除く2,800m²である。遺構検出面の標高は南端で38.0m、県道額谷・三浦線際では37.0mを測り、1987年度調査区と接する部分では36.8mを測る。鶴来バイパスに係る末松A遺跡の発掘調査では、最も遺構が検出されている調査となっている。

検出された主な遺構は、遺構番号の付いているもので竪穴建物13棟、掘立柱建物21棟、土坑35基、溝10条、ピット多数である。掘立柱建物については調査担当者が復元したものと、本報告書作成に際し図上復元したものがある。1985年度調査に引き続き、飛鳥・奈良時代が遺構・遺物の中心時期となるが、掘立柱建物のほとんどは平安時代に入るものと考えられる。竪穴建物を中心とした集落構造から掘立柱建物を中心としたものへと変化していることが良く分かる。竪穴建物には古墳時代中期に遡ると考えられるものも1棟検出されている。遺物では縄文・弥生時代に遡る土器や打製石斧が出土しているが、遺構にはほとんど伴わない。また調査区を南北に縦断するように河道が検出されているが、1985年度でも検出されている旧河道の延びと考えられる。概してその深さは浅く、古代の遺構に与えている影響は少ない。

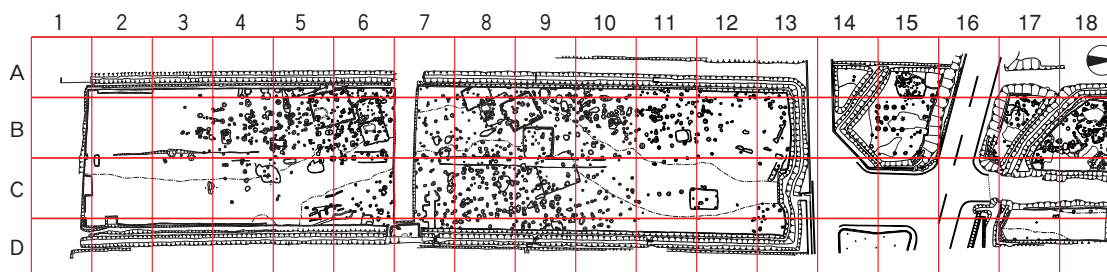
2. グリッドの設定

調査区のグリッドは、鶴来バイパスのセンターを基準として南北に長軸を、これに直交するラインを横軸として10mピッチの方眼を組みグリッドとしている。長軸は数字を用い、短軸はアルファベットを用いて、南西杭をグリッド名としている。1985年度調査区を踏襲しているように見えるがそうではない。グリッド名は工区名を付けず、A2、B7のように表すが、南北の長軸が1985年度とはずれている。1986年度調査では新たに方向を決めて打ち直している。ちなみに長軸は座標北から東に2.5°振っている。

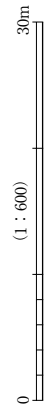
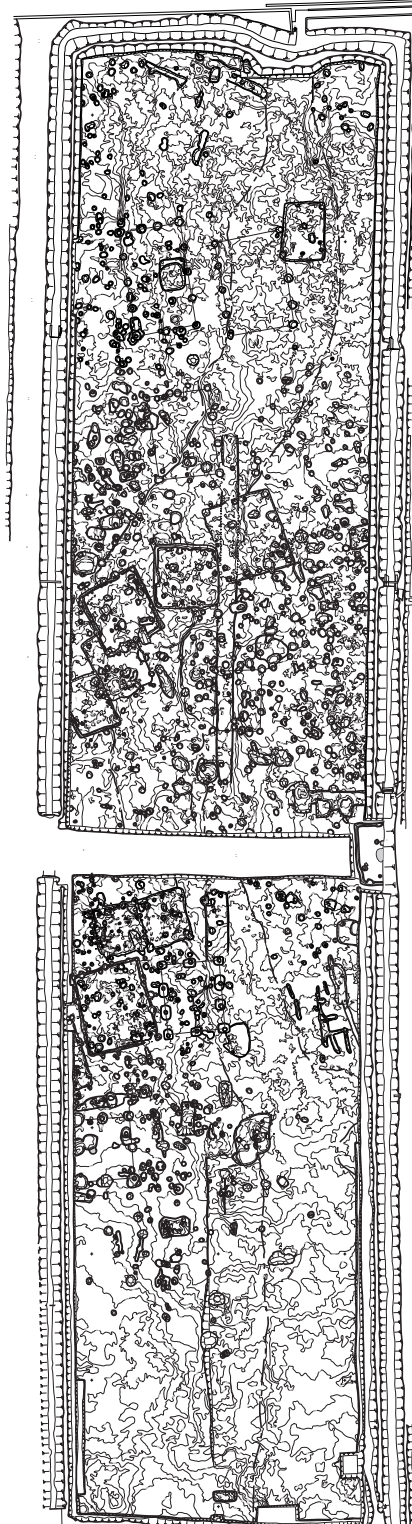
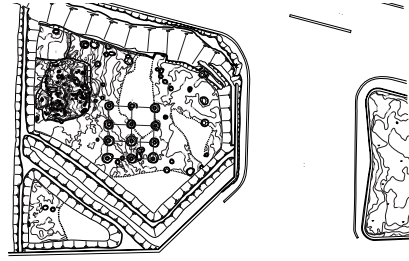
C2杭は平面直角座標Ⅶ系ではX = 56385.3068、Y = -51179.2628となり、C13杭ではX = 56495.1654、Y = -51174.7074となる。

3. 基本層序

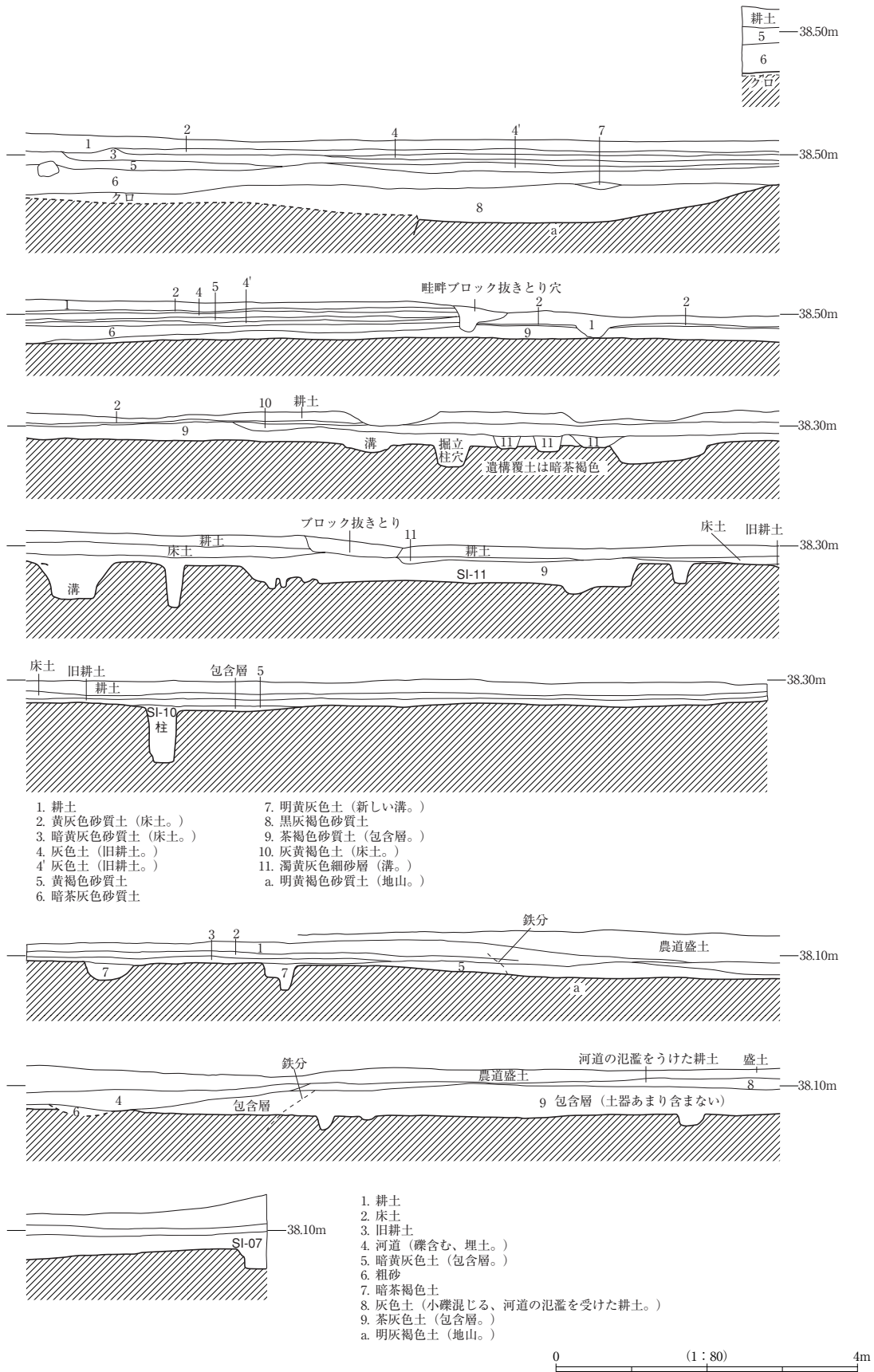
耕土とその床土は厚さ約25cm前後で、調査区全面で確認されている。一部いつまで遡るか分からない



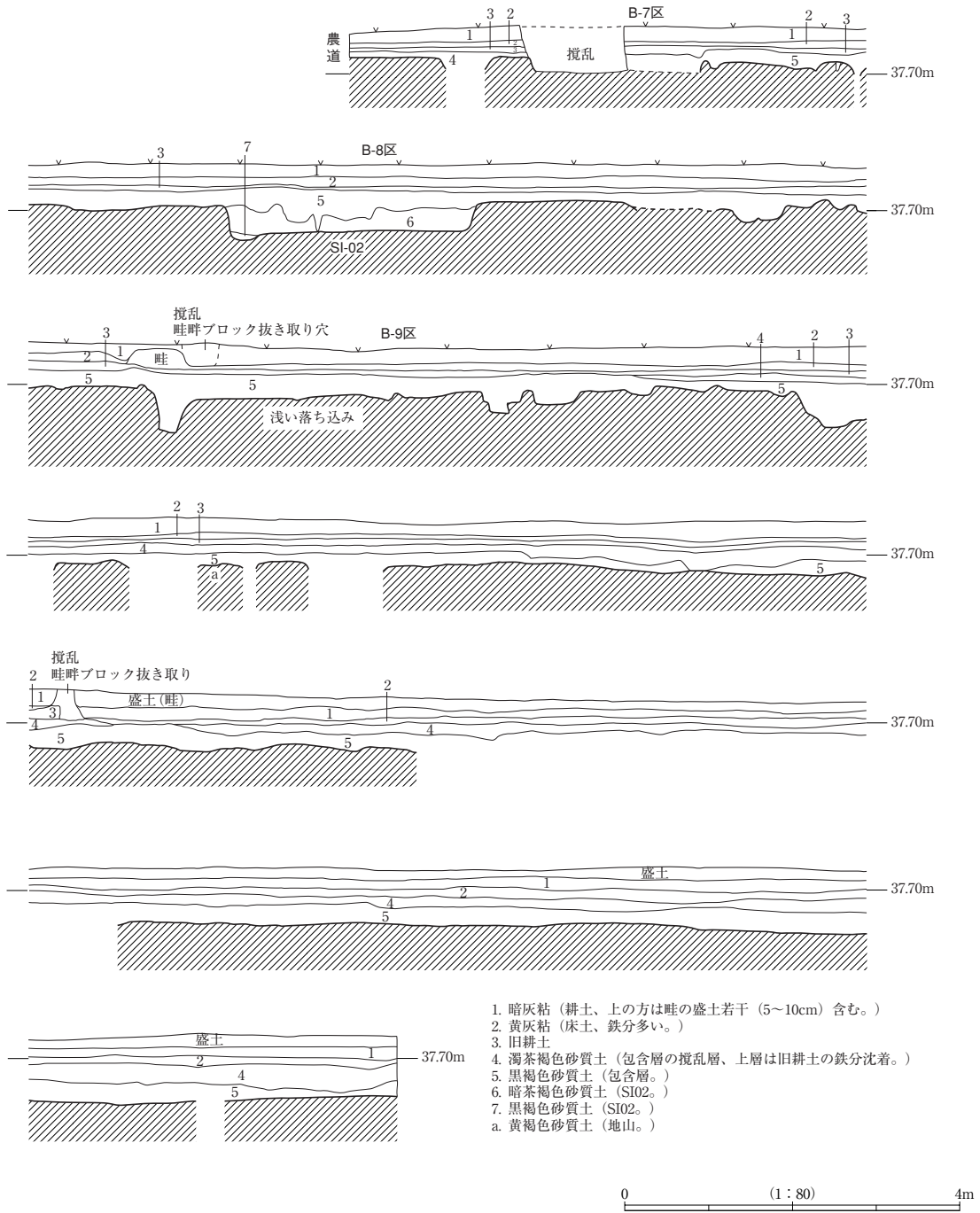
第40図 1986年度調査グリッド設定図



第41図 1986遺構全体図



第42図 86調査区壁土層断面実測図1



第43図 86調査区壁土層断面実測図2

いが旧耕土が確認されている箇所もある。1～6ラインでは茶褐色砂質土といった包含層が見られ、厚いところで約15cm前後で場所によっては耕土直下が遺構面となっている部分もある。7～13ラインでは、包含層の黒褐色砂質土に達する前に、濁茶褐色砂質土といった耕作によると考えられる攪拌を受けた土層が見られる。包含層は厚さ約25cm前後である。

4. 遺構と遺物

竪穴建物

86S101 (第66・67・68・91図)

A・B8で検出されている。平面形態は長方形である。86SI03とは北東部で、86SI02とは南西部で切り合う。短辺は約4.1m、長辺は約5.2mを測る。その平面積は約21.3m²である。主軸方位は西に約26.5°振っている。竪穴部の深さは検出面より約30cmを測る。主柱穴、壁柱についてはいずれも良く分からない。カマドも検出されていない。南西角に土坑が掘られており、おそらく排湿を意図した施設と考えられる。埋土の状況からは、貼床は確認できない。また、切り合い関係から86SI02・86SI03よりは新しいことが分かる。

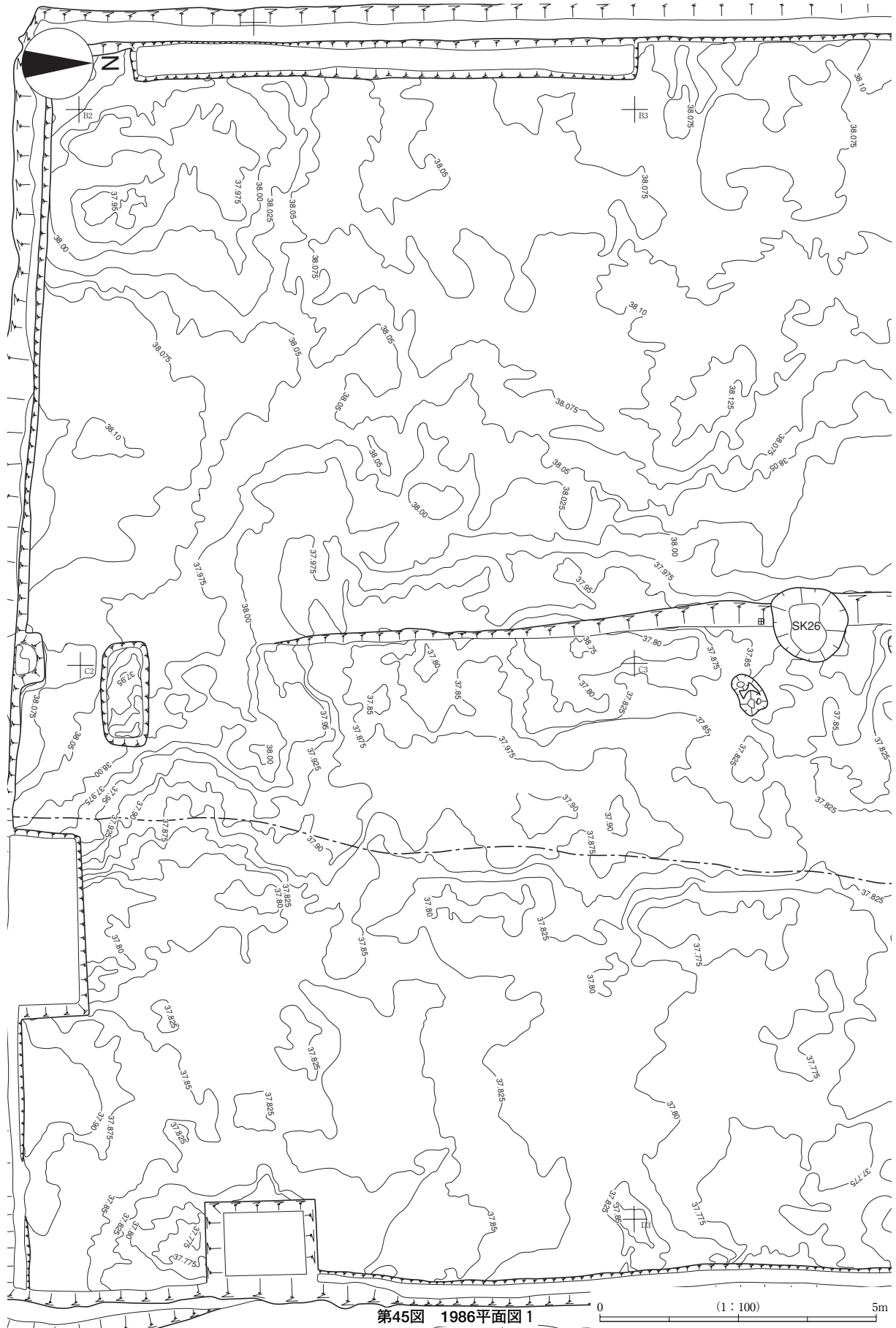
出土遺物には132～139がある。132は赤彩土師器椀である。内面には放射暗文が見える。133・134は土師器小甕である。135・136・138は土師器長胴甕である。133～135は外面ハケメ、内面ケズリ調整を行う。136・138はタタキ成形と、カキメ調整を行っている。137は製塩土器である。139は土師器鍋である。タタキ成形した後、外面はカキメ調整で内面はハケメ調整を行う。これらの時期はⅡ2・3期頃と考えられる。

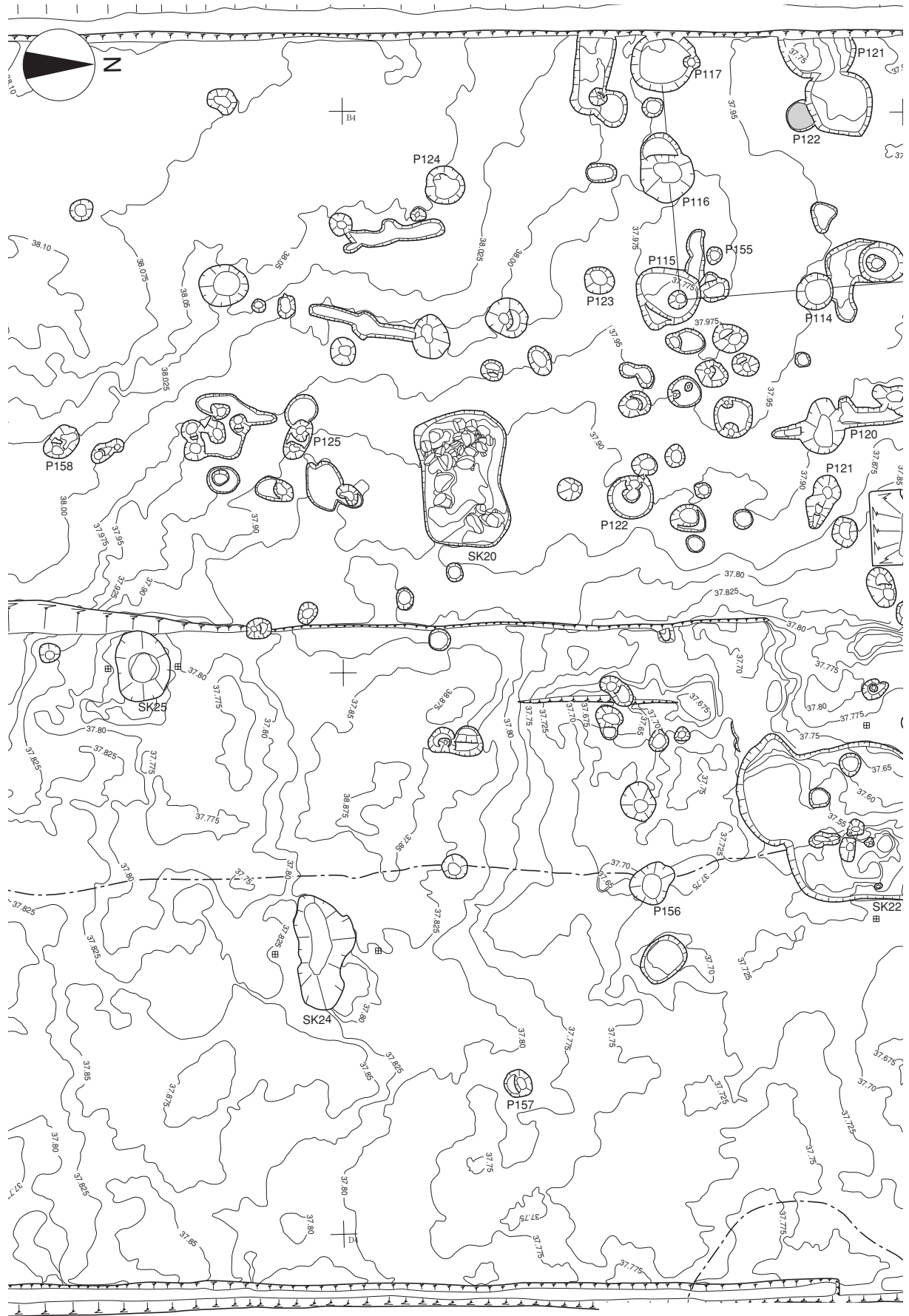
86S102 (第59・60・92・93・219図)

A・B8で検出されている。平面形態は北西部が一部調査区外に延びるものの、長方形である。また北東角は86SI01と切り合っている。短辺が約3.5m、長辺が約4.5mを測る。その平面積は約15.8m²となる。竪穴部は検出面より深さ約30cmを測る。主柱穴および壁柱は検出されていない。竪穴の主軸方位を南北にとると、西に約22°振っている。カマドは北東角に検出されており、南東角で検出されることが多い当遺跡内では異質な感がある。また竪穴中央部では、焼土が検出されており炉と考えられる。埋土の状況からは貼床は確認できない。切り合い関係から86SI01よりも古いことが分かる。遺物の出

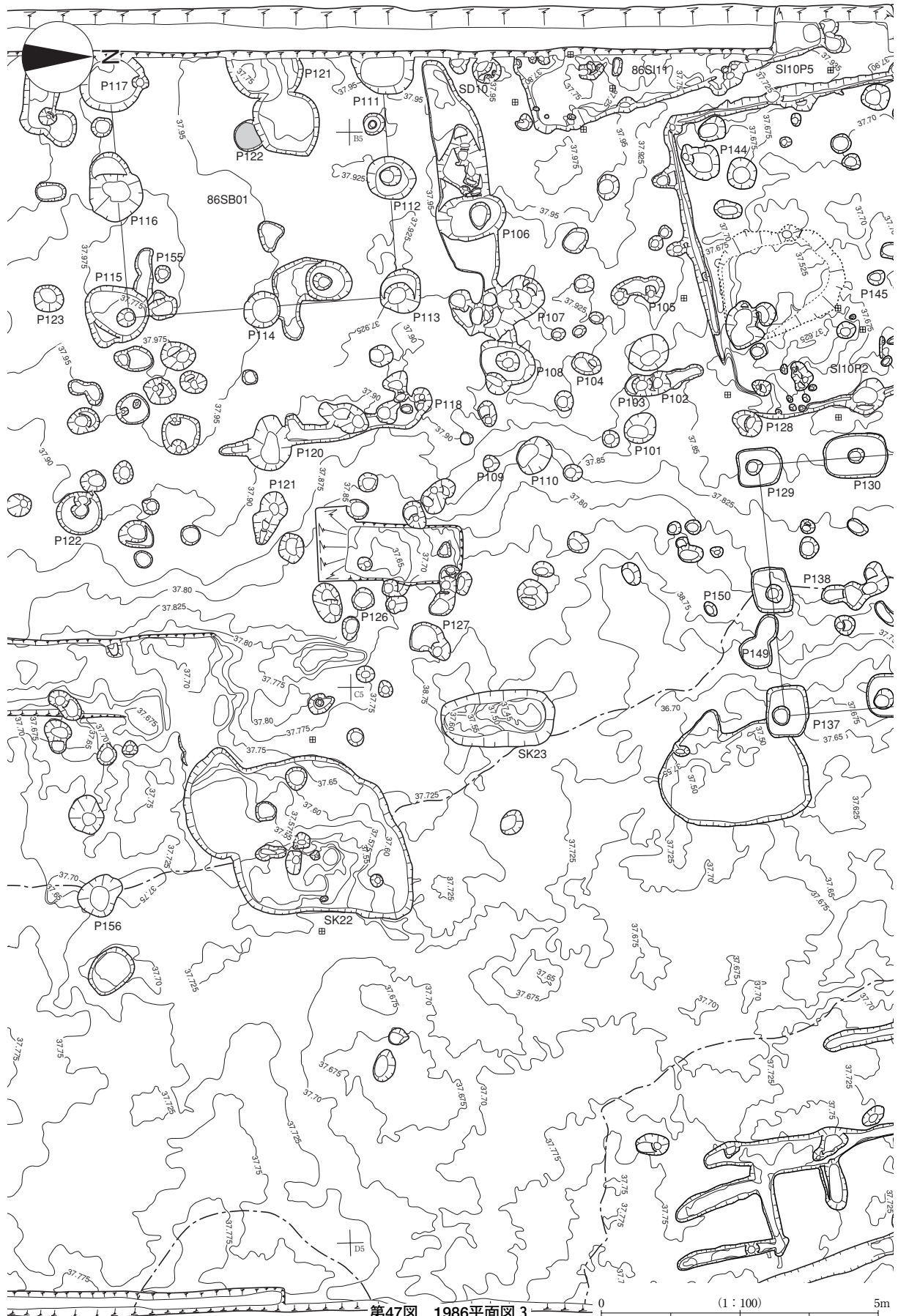


第44図 1986平面図分割範囲図

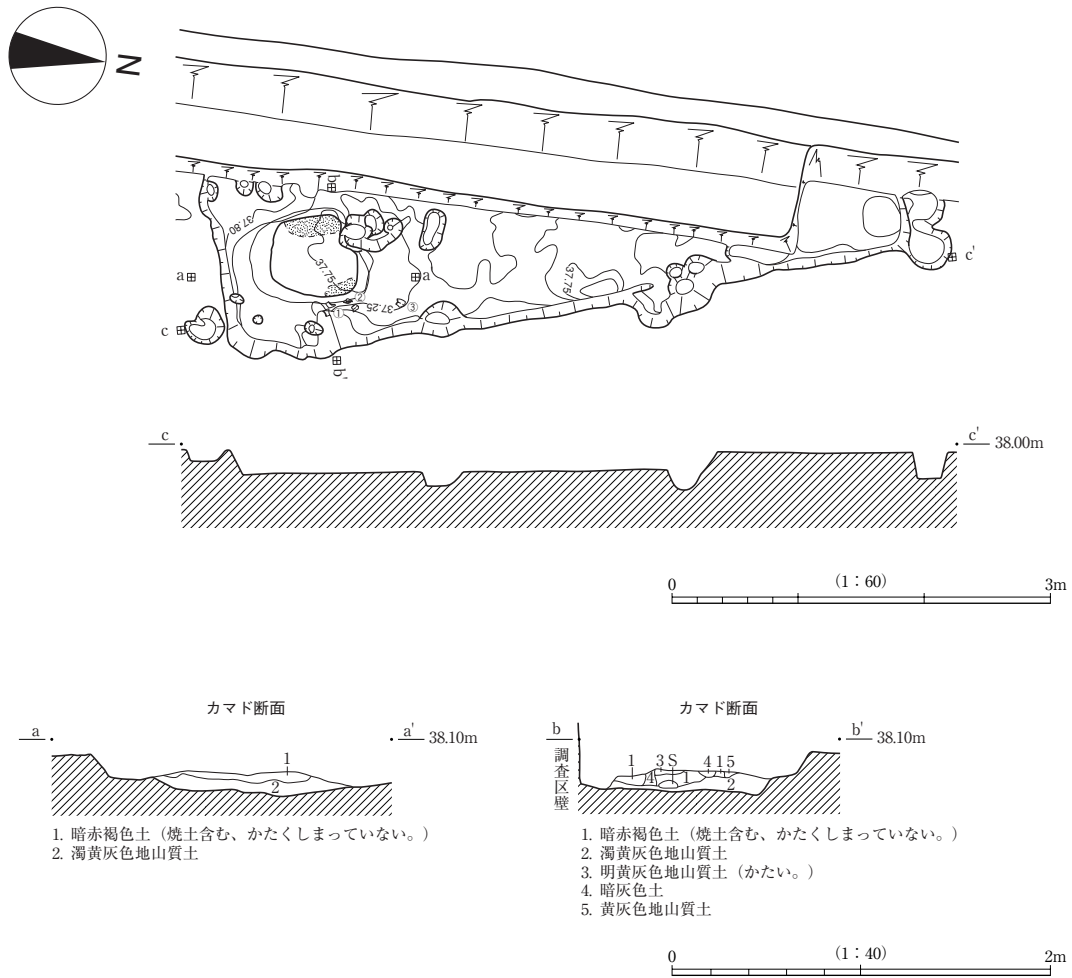




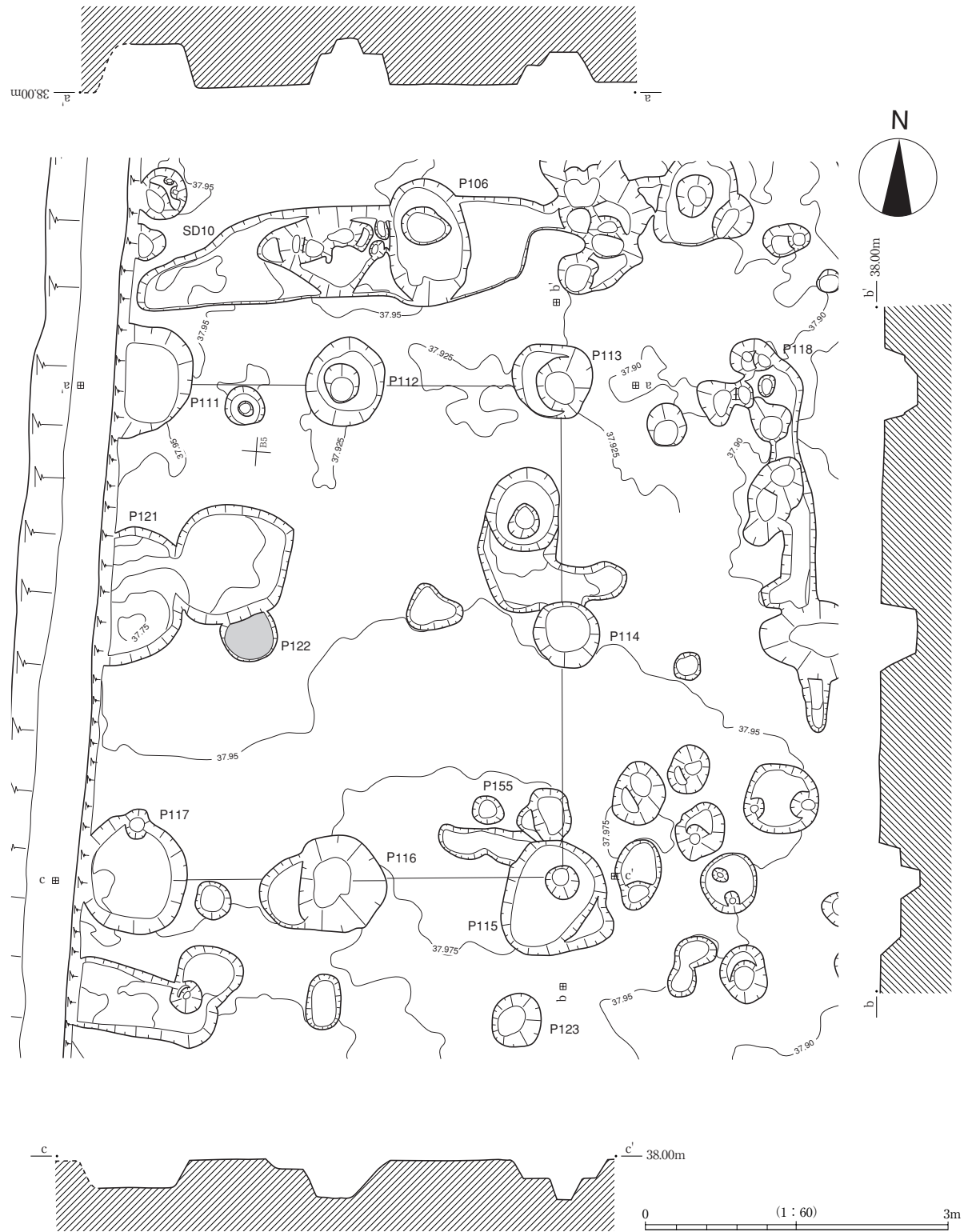
第46図 1986平面図 2



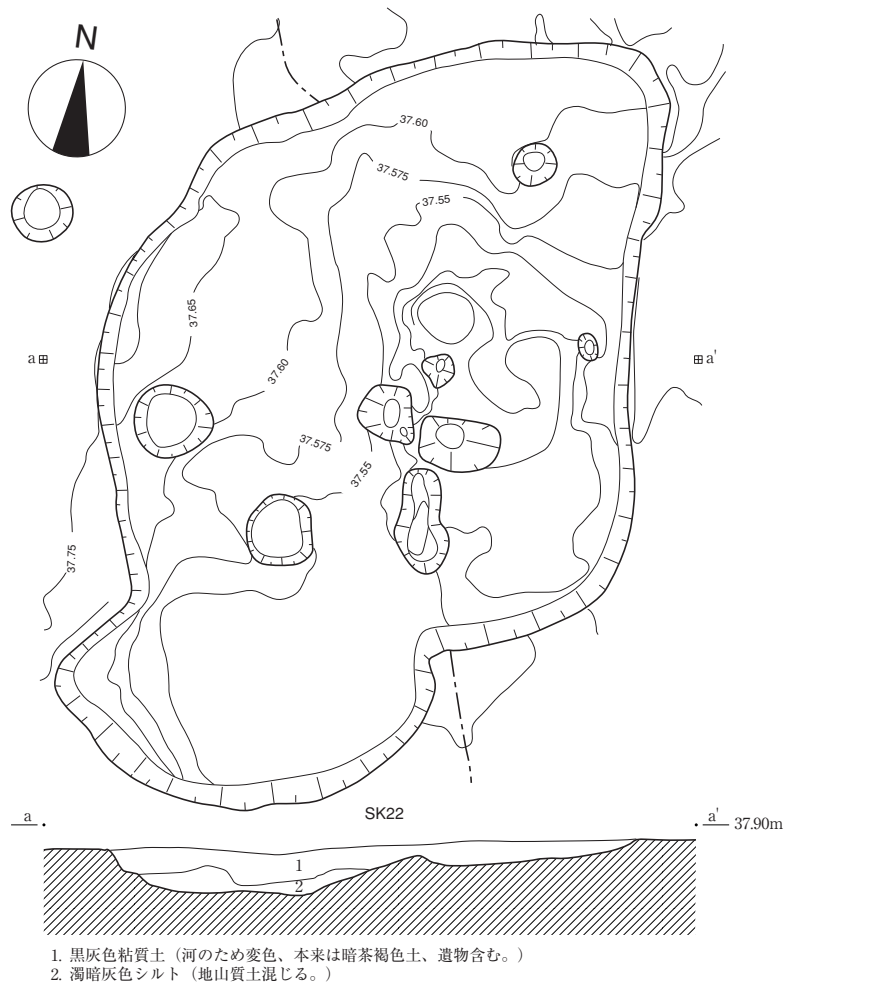
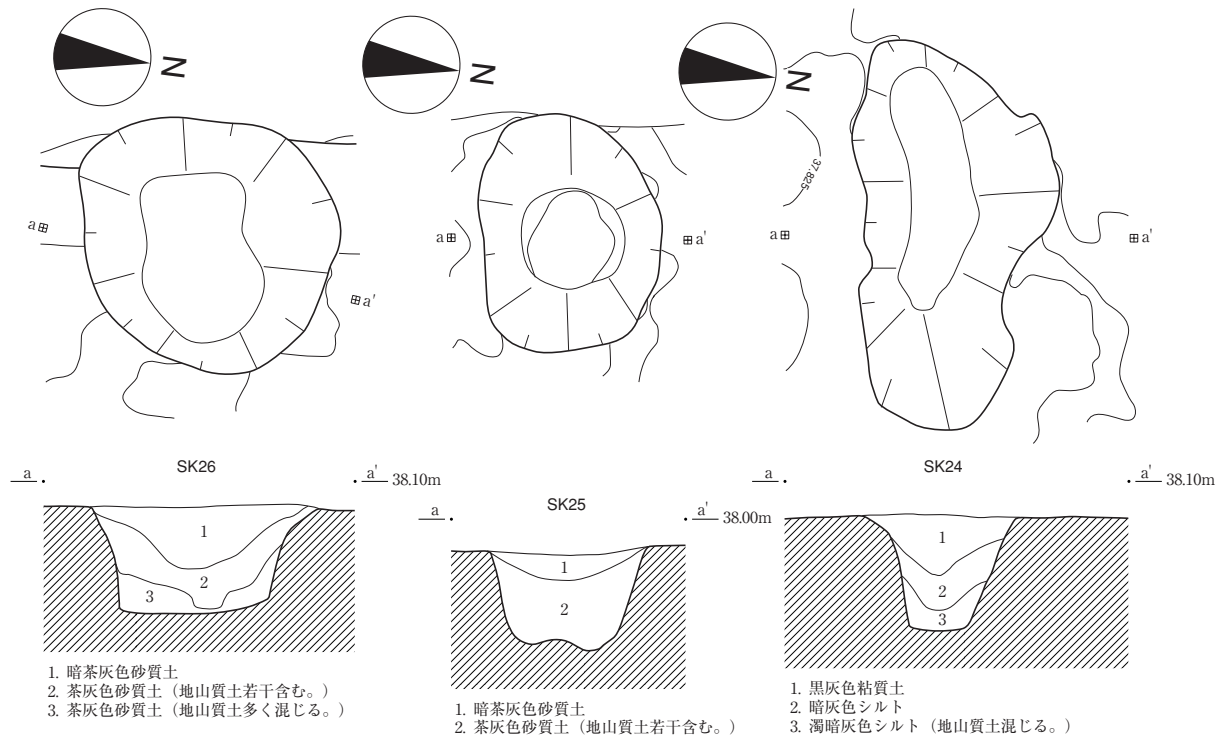
第47図 1986平面図3



第48図 86S111実測図



第49図 86SB01実測図



第50図 86SK22・24・26実測図

土状況を見ると、竪穴北東部のカマド周辺からが多い。

出土遺物には140～156がある。140は須恵器杯B蓋である。141は杯Aである。140はⅡ2期、141はⅡ3期頃と考えられる。142は土師器の椀である。底部破片で、外面下半にケズリ調整を行っている。また胎土調整を行っており、赤っぽく焼けている。143は赤彩土師器で内面に放射暗文が見られる。外面には上半にミガキ、下半にケズリ調整を行っている。器種は椀ないし鉢である。144は土師器の鉢と考えられる。外面にミガキ、内面は底部付近はケズリ、体部はミガキ調整を行っている。これも胎土調整を行っていると考えられ、赤っぽく焼けている。145～152は土師器長胴甕である。145～148は近江型の長胴甕と考えられる。149は内外面にカキメ調整を施すものである。150～152は内外にハケメ調整を施す在地の長胴甕で、そのうち152には海綿骨針が多量に含まれている。153・154は土師器小甕である。内外にハケメ調整を施す。これら土師器の時期は、Ⅱ2～Ⅱ3期頃と考えられるが、煮炊具はⅡ2期中心と考えられる。155・156は製塩土器で、155は棒状尖底土器、156は丸底土器になると考えられる。製塩土器も須恵器・土師器と同様にⅡ2～Ⅱ3期頃と考えておきたい。他には、1257・1258の刀子が出土している。いずれも木質が残っているものである。

86S103 (第66・67・68・94・219図)

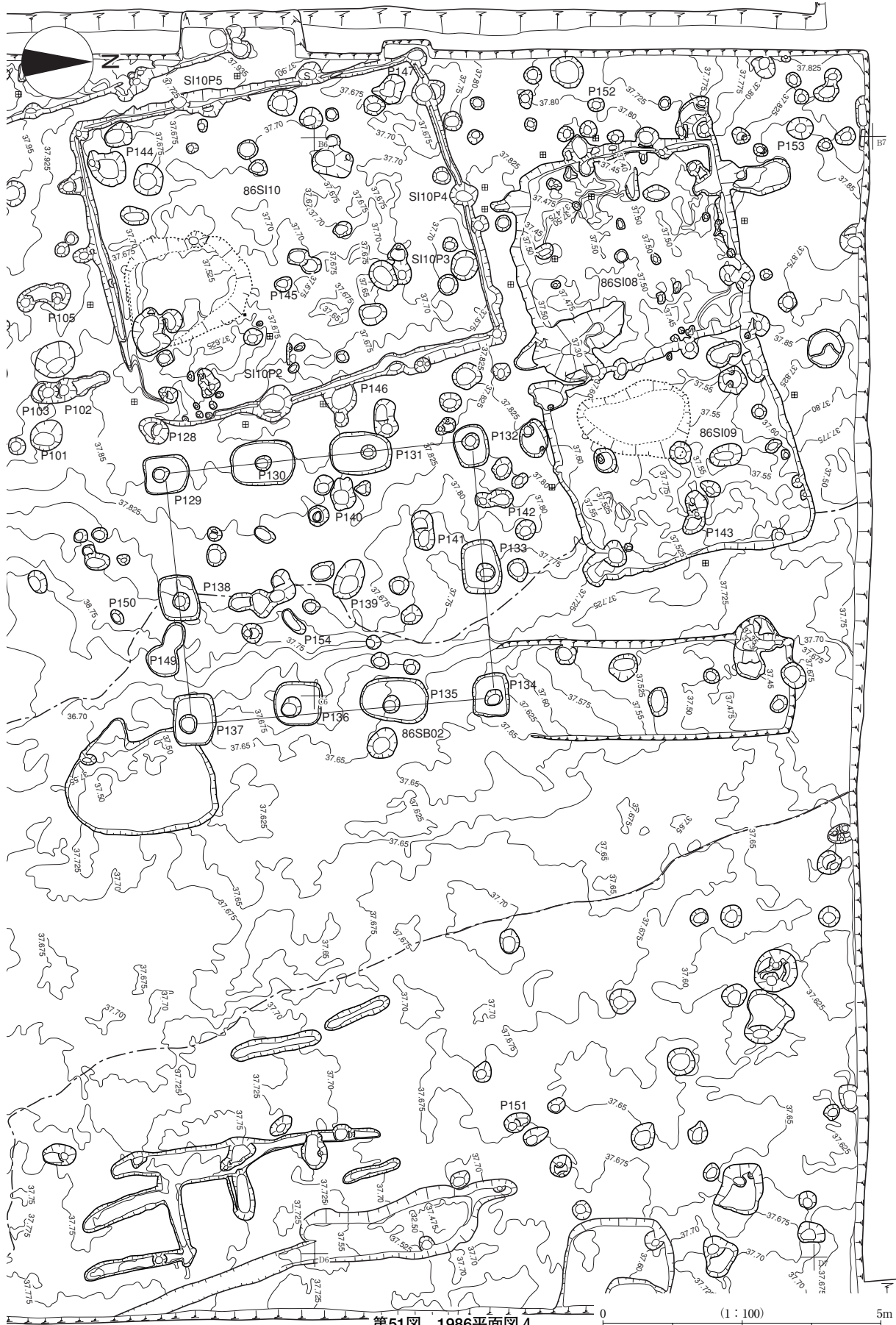
A・B8・9で検出されている。平面形態は長方形で短辺は約5.2m、長辺は約5.6mを測る。南西部で86SI01と切り合っている。その面積は約29.1m²で、主軸方位は西に約25.5°振っている。竪穴部の深さは検出面より約25cmを測る。主柱穴は4本で、南側の2本は壁溝内にある。壁柱をもち2×3間に復元できる。壁柱の底面までは検出面より約60cm、竪穴部底面より約30cmとしっかりとしたものである。南西部壁溝の外側に接する2つの柱穴が入り口施設の痕跡かと考えられ、その柱間は約1.3mである。ただし主柱穴SI3P5がその間にあることから入り口としては使用し難いようにも見え、竪穴建物の入り口部がどのような構造であったのか不明な点が多いので即断はできない。カマドは検出されていない。北西部に壁溝と接し不定形の土坑があり、排湿機能をもつと考えられているものである。埋土の状況からは貼床は確認できていない。遺構の切り合い関係を見ると、86SI01よりは古いことが分かる。

出土遺物には157～168がある。157・158は須恵器杯B蓋である。159は須恵器杯Bである。160は須恵器高杯である。161は須恵器杯Aで有蓋の可能性もある。これら須恵器の時期はⅡ2～Ⅱ3期頃と考えられる。162・163は内黒土師器椀である。162はおそらくⅠ期頃、163はずっと新しくⅦ期頃でどちらも混入したものと考えられる。164は土師器椀である。165は土師器小甕である。外面にカキメ調整が施されている。いずれもⅡ2～Ⅱ3期頃の製品であろう。166～168は土師器鍋である。いずれも口縁部のみの破片で、168には内面にカキメ調整が施されている。166・168は口縁端部を丸くしている。167は口縁端部に面を取っている。これらの時期は、Ⅱ2～Ⅱ3期頃と考えられる。1259は鉞滓と考えられるものである。

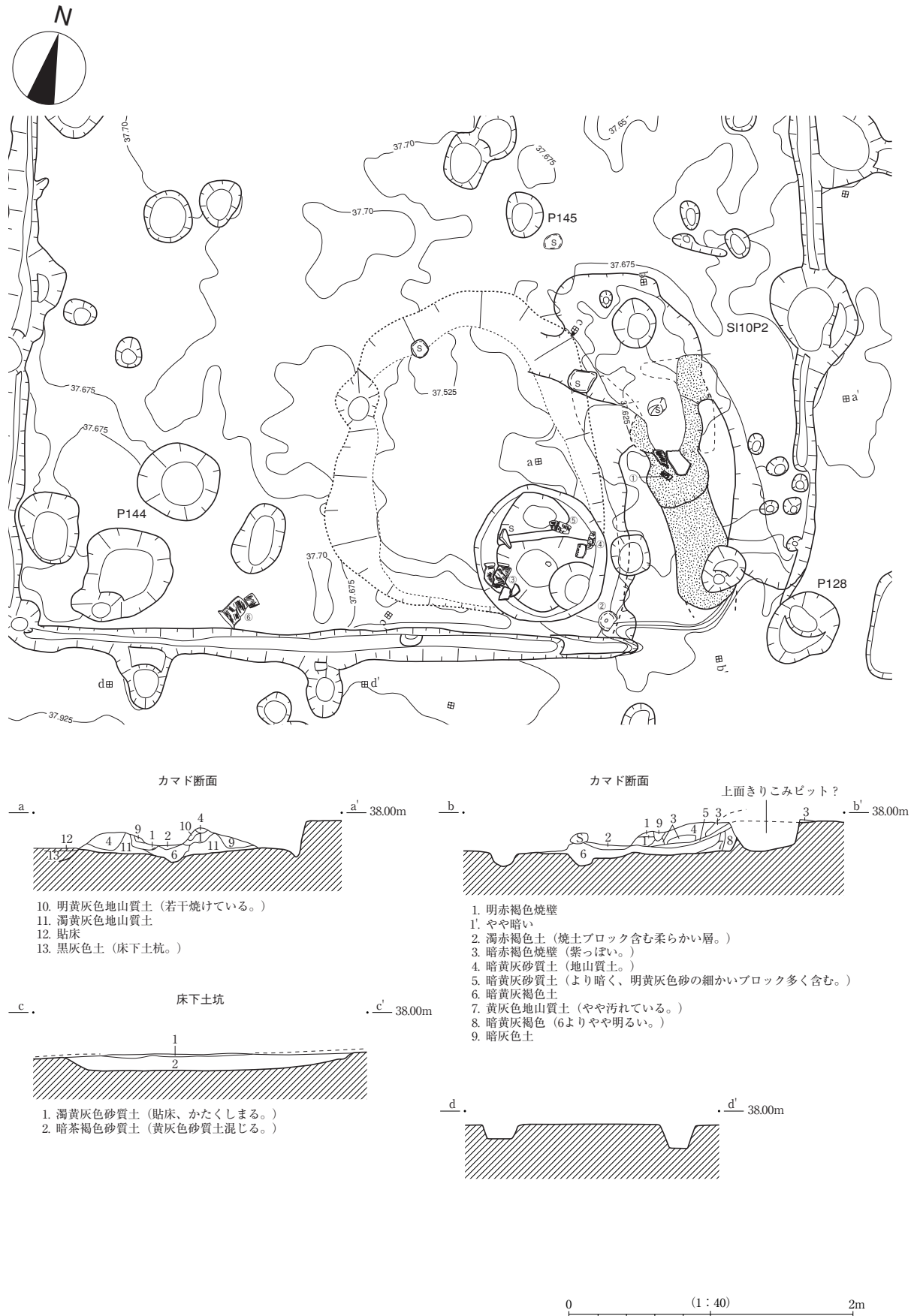
86SI01よりは遺構の切り合い関係から古いことは間違いないが、86SI02との関係では遺物の時期から少し新しいと考えられる。いずれにせよ86SI01・02・03には大きな時期差は見られず、連続的に立て替えられていったものと考えられる。

86S104 (第66・69・94図)

B9で検出されている。平面形態は方形で、1辺約5.1mを測りほぼ正方形を呈する。その面積は約26m²となる。主軸を南北にとると方位は約2.5°東に振っている。竪穴部の深さは、検出面より約13cm程度と浅い。主柱穴は4本で、そのうち南側の2本は壁際にある。壁溝は南側には検出されていない。カマドは検出されていないが、焼土や炭の分布、構築材として使用した可能性がある石の位置



第51図 1986平面図4



- 10. 明黄灰色地山質土 (若干焼けている。)
- 11. 濁黄灰色地山質土
- 12. 貼床
- 13. 黒灰色土 (床下土坑。)

- 1. 明赤褐色焼壁
- 1'. やや暗い
- 2. 濁赤褐色土 (焼土ブロック含む柔らかい層。)
- 3. 暗赤褐色焼壁 (紫っぽい。)
- 4. 暗黄灰砂質土 (地山質土。)
- 5. 暗黄灰砂質土 (より暗く、明黄灰色砂の細かいブロック多く含む。)
- 6. 暗黄灰褐色土
- 7. 黄灰色地山質土 (やや汚れている。)
- 8. 暗黄灰褐色 (6よりやや明るい。)
- 9. 暗灰色土

- 1. 濁黄灰色砂質土 (貼床、かたくしまる。)
- 2. 暗茶褐色砂質土 (黄灰色砂質土混じる。)

第53図 86S110実測図2

から、南東角にあったと考えてよさそうである。竪穴中央部にも焼土が検出されており、炉である可能性が高い。また、埋土の状況からは貼床の痕跡は確認されていない。

出土遺物は169～185がある。169・170は土師器碗である。169は胎土調整を行い赤っぽく発色させている。内面には放射暗文が見られる。いずれもⅡ3期頃の製品であろうか。171～174・178～184は土師器長胴甕である。171・173は口縁部の特徴や調整のあり方から、近江型の長胴甕と考えられるものである。172は外面ハケメ調整、内面ナデ調整を施すもので異質な胎土である。174は内外面にカキメ調整が見られるもので、口縁端部は面を取っている。178・179は体部破片で、内外面にカキメ調整を施されている。180・181は同一個体と考えられるもので、口縁部は面取りされ体部はタタキ成形で、内面はナデ調整で当具の痕跡を消している。182は外面にはカキメとタタキ痕が、内面はカキメと当具痕が見られる。183は外面にはタタキ痕、内面には同心円文B類の当具痕が見られる。175～177は土師器小甕である。185は製塩土器で棒状尖底土器になると考えられる。これら土師器・製塩土器の時期は概ねⅡ3期頃を中心として一部Ⅱ2期に遡るものもあると考えられる。

86S105 (第81・82・96図)

C11・12で検出されている。平面形態は長方形で短辺は約3.4m、長辺は約4.7mを測り、その平面積は約16m²となる。竪穴部の深さは検出面より約10cmと浅い。埋土の状況を見る限り貼床は行われていない。北東角にあるピット等が柱穴となるかもしれないが、主柱穴および壁柱とするにはやや難しい。カマドも検出されていない。主軸方位は東に約2°振っている。

出土遺物には187～190がある。187・188は須恵杯B蓋である。189は土師器長胴甕の体部破片である。190は土師器小甕である。底部には回転糸切り痕が残る。これらの時期はⅡ3～Ⅲ期頃と考えられる。須恵器に比して土師器がやや新しいようである。

86S106 (第66・70・219図)

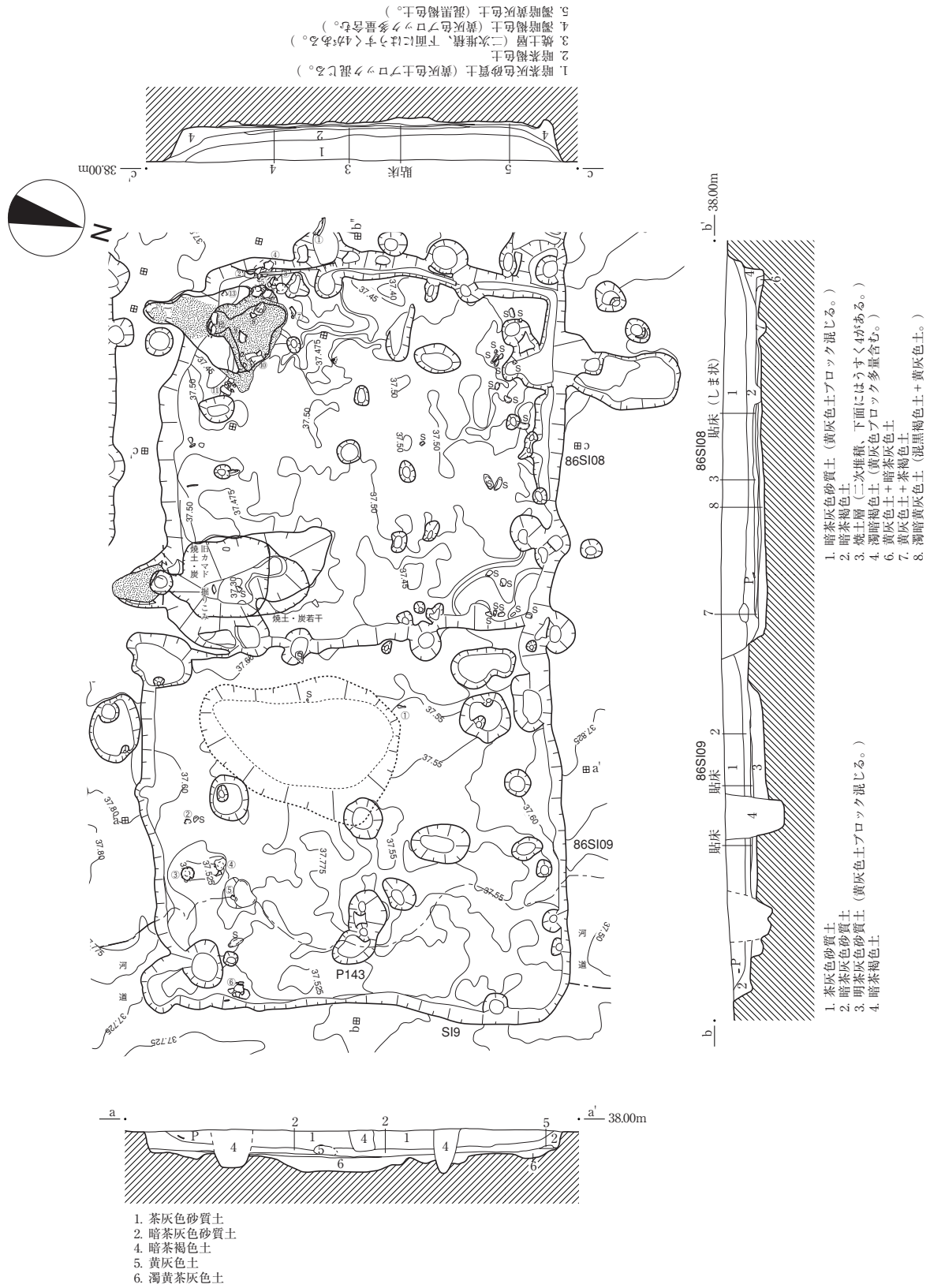
B・C9で検出されている。平面形態は長方形で短辺は約5.5m、長辺は約6.4mを測る。その平面積は約35.2m²となる。竪穴部の深さは検出面より約10cmと浅い。貼床の範囲は明確ではないが、埋土の状況を見るとほぼ全面に貼られているようにも見える。貼床の厚さは約5cmで、平面では壁溝は検出されていないが、竪穴壁際の貼床されていない部分が壁溝状となっている。主柱穴は4本確認されており、そのうち南側の2本は壁際に寄っている。壁柱をもちやや柱間の間隔が崩れているが、2×3間となっている。南側竪穴外に、壁を少し切って2本の柱穴がその間隔約1.7mで並んでいる。これも入り口施設の痕跡と考えられる。主軸方位は西に約15.5°振っている。カマドは検出されていないが、南東角に焼土が広い範囲で検出されており、その痕跡と考えられる。

出土遺物には186の赤彩土師器碗がある。胎土調整を行い、外底面は手持ちヘラケズリされている。Ⅱ3期頃の製品であろう。他にカマド付近から1262の鉄滓が出土している。

86S107 (第57・58・96図)

D6・7で検出されている。1986年度調査当時は、南西角と北西角の2カ所の壁溝が検出されているのみで、1992年度に東側に拡張し、建物のおおよそ半分程度を検出したと考えられる。平面形態は方形で、南北方向の1辺は約4.7mを測る。正方形に近い形態と仮定するとその平面積は約22m²となる。調査区東壁際に並ぶ2つのピットが柱穴であれば、4本主柱の建物が考えられる。中央部のアミ掛け部分は焼土が検出されている範囲で、炉が想定できようか。竪穴部の深さは、検出面より約25cmを測る。

出土遺物には191～204がある。191は須恵器杯Bである。192は須恵器で頸部より上がないが、おそらく長頸瓶であろう。193は須恵器杯B蓋である。これらの須恵器はⅡ2期頃であろうと考えられる。193～202は土錘である。これらは192の長頸瓶内に納められていたものである。収納容器として長頸



第54図 86SI08・09実測図1

瓶を使用していたとすれば、頸部より上の欠損は意図的であったと考えられよう。204は置カマドである。全形を復元するほどの破片は出土していないが、推定復元でその器高は約38.4cm、口径は15.5cmとなる。焚口をU字状に切り抜き、廂を付けるタイプである。土鍾および置きカマドの時期は、須恵器と同じくⅡ2期頃と考えられる。

86S108 (第51・54・55・97・98・219・220図)

B6で検出されている。平面形態は方形で、1辺約3.8mを測りほぼ正方形を呈する。平面積は約14.5m²となる。竪穴部の深さは検出面より約40cmである。支柱穴は良く分からないが、壁柱がみられる。ややわかりづらいが、おそらく2×3間であろう。南北方向を主軸とすると西に約14°振っている。カマドは2基検出されており、南東角はその痕跡が残っているだけなので古く、南西角が新しい。いずれも竪穴部外まで煙道が延びている。古いカマドは破壊されており分からないが、新しいカマドの規模は、煙道部分も含めれば縦に約1.4m、横に約1mを測る。

埋土の状況から一度竪穴を掘り込んだ後、整地して貼床を行っていると考えられる。すぐ東隣に86SI09があるが、切り合い関係から新しいことが分かる。

205～227の土器、1260・1261の金属製品、1274の石製品が出土している。205～207は須恵器杯B蓋である。全形は分からないが、全体的に扁平な形態と考えられる。208・209は須恵器杯Bである。210・211は須恵器杯Aである。これらの須恵器はその特徴などからⅡ3期頃と考えられる。212～215は土師器小甕である。いずれも内外面ハケメ調整を行うものである。216～224は土師器長胴甕である。217・218は同一個体の可能性があり、平底を呈する特徴から東日本系のもと考えられる。外面は体部上半から底部にかけて縦方向の削りを施し、内面は縦方向のハケ調整を行っている。224の長胴甕体部破片には内外にタタキの痕跡が残る。これら土師器の小甕・長胴甕の時期は、須恵器の供膳具と同じくⅡ3期頃と考えられる。225は製塩土器である。棒状尖底土器の口縁部かと考えられる。226・227は土師器鍋である。227は近江型のものである。225～227もⅡ3期頃と考えられる。1260・1261は刀子である。木質部分が残っている。1274はもともとは円形のものと思われ、敲打痕と熱を受けた痕跡がある。

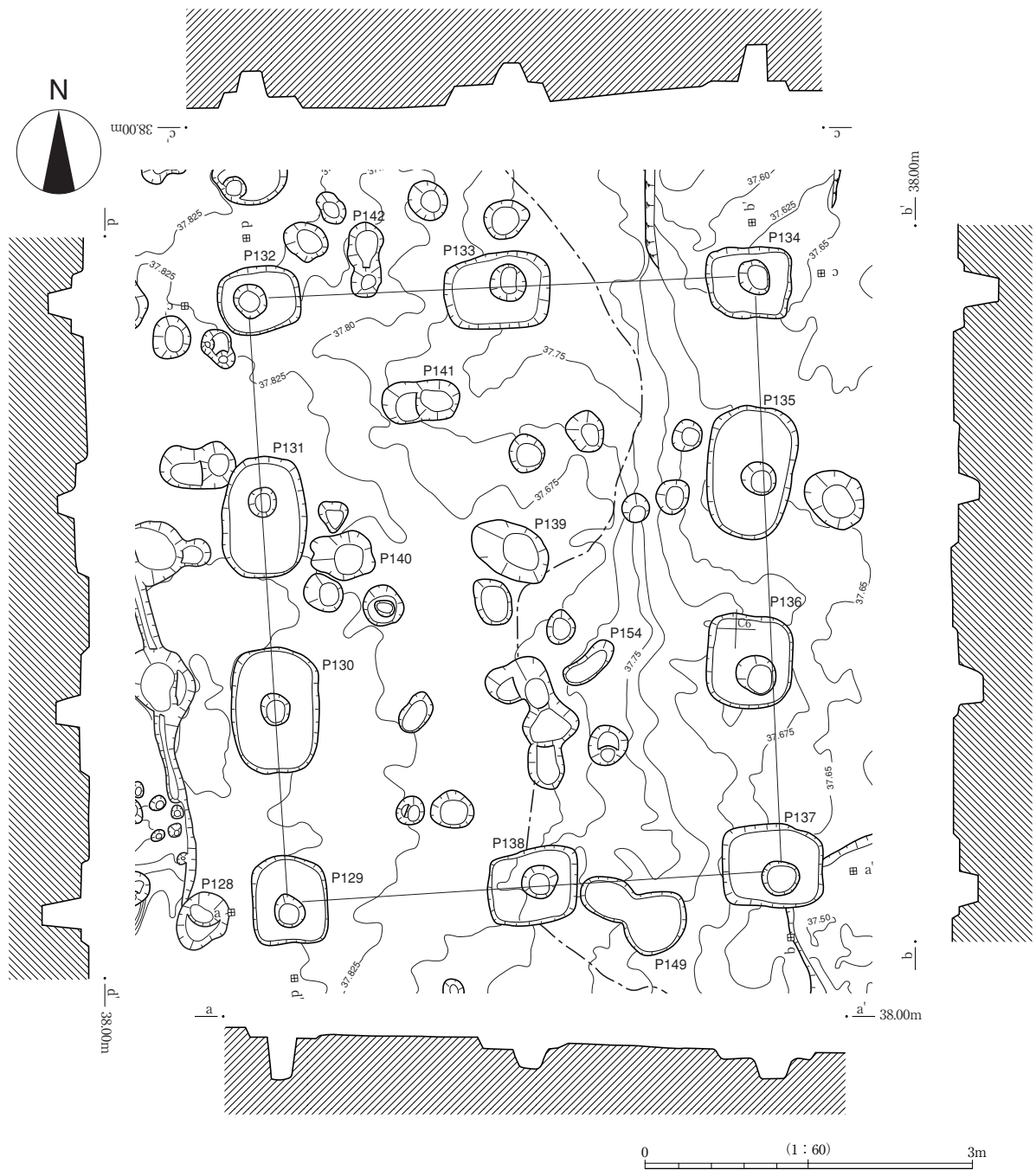
86S109 (第51・54・55・98図)

B6で検出されている。平面形態は方形で、86SI08に西側を切られているため東西方向がやや短く見えるが実際は1辺約4mの正方形に近い形態と考えられ、その平面積は約16m²となる。南北方向を主軸とすると西に約16°振っている。竪穴部の深さは、検出面より約40cmで貼床までは約25cmである。支柱穴については良く分からない。また、86SI08のように壁柱も検出されていない。カマドは検出されていないが、竪穴壁の南東部の形状がカマドの煙道部のようにも見え、その部分に有った可能性もあろう。南西部には床下に土坑が掘られている。竪穴内の排湿機能をもった施設であると考えられている。埋土の状況を見ると、竪穴部を掘り込んだ後に整地し貼床を行っている状況がわかる。

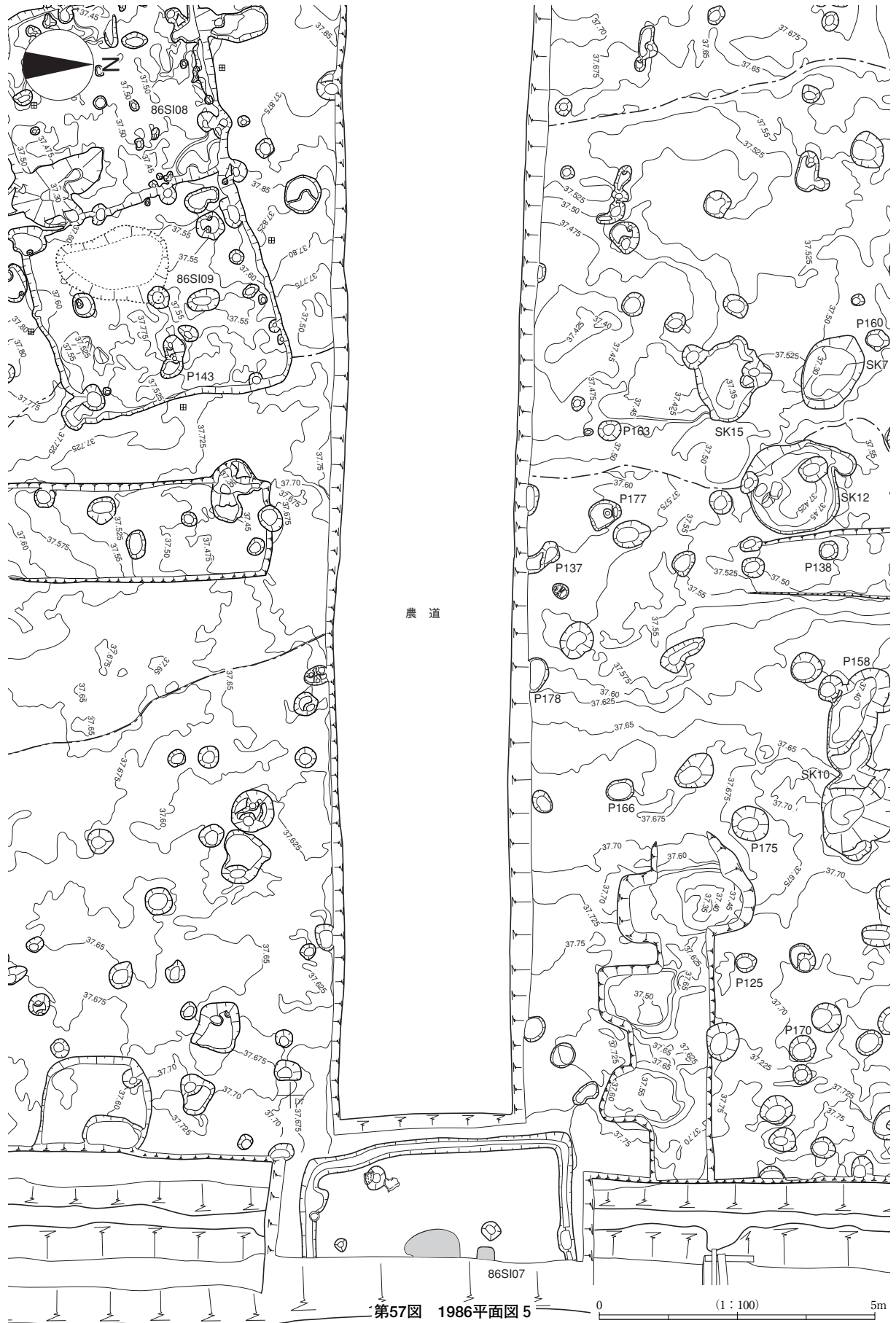
出土遺物には228～235がある。228～230は須恵器杯B蓋である。231は土師器で内黒の無台椀である。232～234は土師器小甕、235は土師器鍋である。内外面にカキメ調整が施されている。231はⅠ1期ないしそれより古いと考えられ、混入の可能性が高い。その他はⅡ2～Ⅱ3期頃と考えられる。埋土の切り合い関係から86SI08が新しく、出土遺物の時期から見ればその建て替えは、おそらく埋め戻し後すぐに行われたと考えられよう。

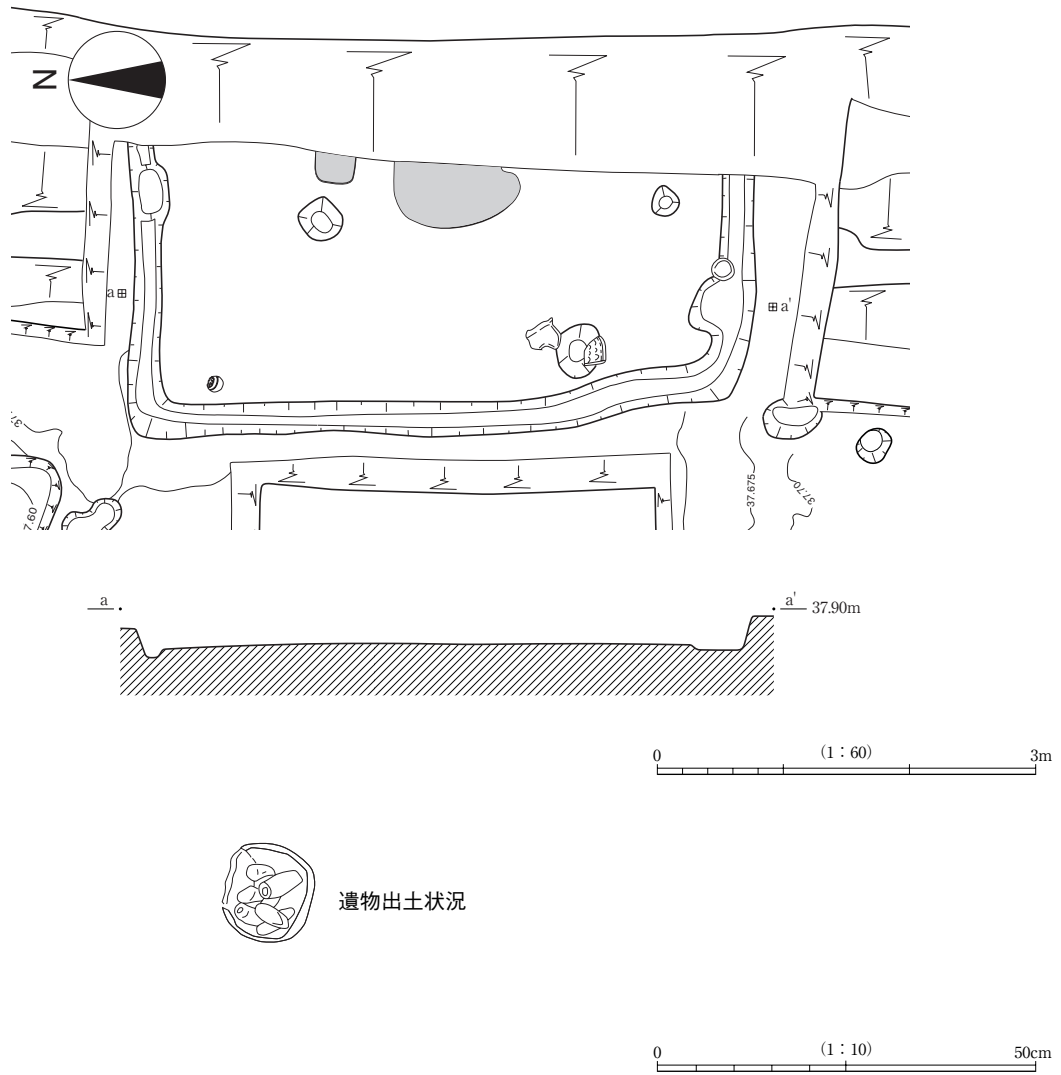
86S110 (第51・52・53・99・100・221図)

A・B5・6で検出されている。平面形態は長方形で、長辺約6.5m、短辺約5.5mを測る。平面積は約35.8m²である。竪穴部の深さは、検出面より約25cmである。南北方向を主軸とすると西に約10°振っ



第56図 86SB02実測図





第58図 86SI07実測図

ている。支柱穴は北東角が検出されていないが、4本であると考えられ、全体的に南側によっている。また、壁柱をもち2×3間となっている。カマドは南東角に設けられており、1275の凝灰岩を四角柱に成形し、カマドの袖石として使用している。カマドの規模は、南北に約1.6m、東西に約1mである。その西隣にあるピットが貯蔵穴である可能性をもつ。さらにその下には土坑がある。竪穴内の排湿機能をもった施設であると考えられている。

埋土の状況を見ると、竪穴部を掘り込んだ後に壁柱とおそらく壁を設置していると考えられ、その後床面を整地したものであろう。支柱についても同様と考えるのが無理がない。また、カマドのある南東部には壁溝が巡らない。カマドの煙道が竪穴外に延びるためかと考えられるが、壁の構造がこの部分だけ異なるのは間違いなかろう。南西部の竪穴外に2本柱穴が見られるが、その柱間は約1.3mである。建物への入り口に当たると考えられ、そのための施設の痕跡であろう。

236～256の遺物が出土している。236～238は須恵器杯B蓋である。239は須恵器杯Bである。240は図面では須恵器となっているが、内黒の土師器碗でⅥ3期頃と考えられ、おそらく混入であろう。241・242は杯Aである。242は有蓋のものである。243はハソウである。244・245は土師器高杯で、244は内黒である。246・247は土師器小甕。248～252は土師器長胴甕。248は内面にカキメ調整を施す。249・251は内外面にタタキの痕跡を残す。253は土師器把手付甕。256は土師器鍋。254・255は製塩土器で、254はおそらく丸底土器となり255は棒状尖底土器であろう。これらの土器の時期はⅡ2期頃であろう。1275は凝灰岩でカマドの袖石として使用されていたものである。上下は欠損して分からないが、四角柱に成形するためのノミ痕がそのほかの四面に見られる。

86S111 (第47・48・100図)

A5で検出されている。平面形態はほとんどが調査区外に延びており全形は分からないが、方形である。東側の1辺は約5.5mを測る。正方形に近ければ、その平面積は約30m²となる。南北方向を主軸とすると西に約14°振っている。竪穴部の深さは検出面より約20cmである。支柱穴は確認できていないが、東側の壁際に見られるピットが壁柱になると考えられる。最も深いもので検出面より約30cmである。カマドは南西角に設けられている。257・258の土師器が出土している。257は小甕で、258は長胴甕である。これらの時期はⅡ3期頃と考えられる。

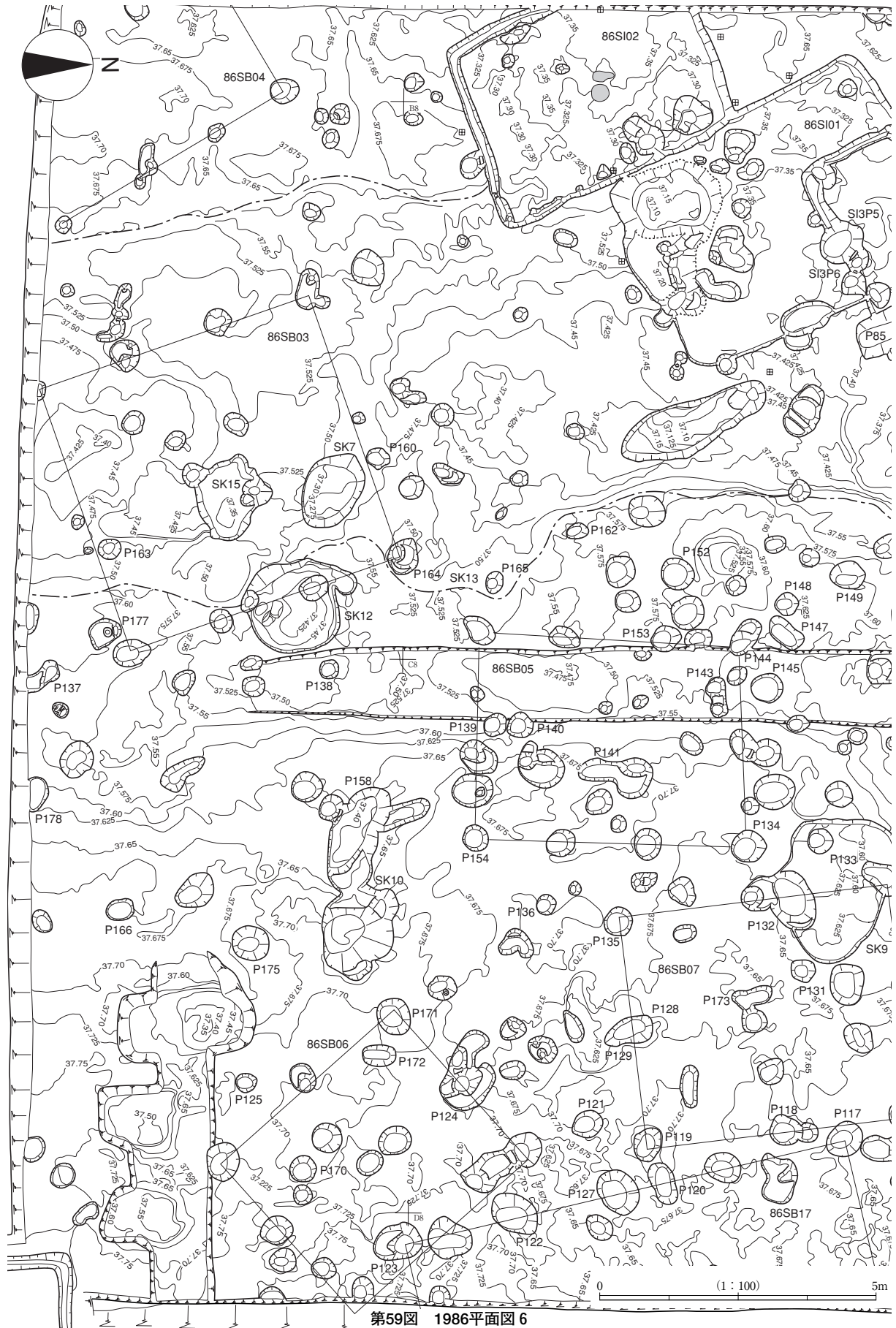
86S112 (第87・88・100図)

県道額谷・三浦線南隣の調査区のA15で検出されている。平面形態は方形であると考えられるが、ほとんどが調査区外に延び、南東角のみの検出であるためその全形・規模は不明である。竪穴部の深さは検出面より約25cmを測り、貼床までは約20cmである。壁溝は貼床を貼った後に掘り込んだか、壁溝を意図して貼床を行ったかは分からない。支柱穴かと考えられるピットが1基検出されており、おそらく4本支柱となるであろう。出土遺物には259・260がある。259は土師器高杯で、260は土師器甕である。いずれも古墳3様式Ⅱ期〔田嶋1996〕頃のものであろう。

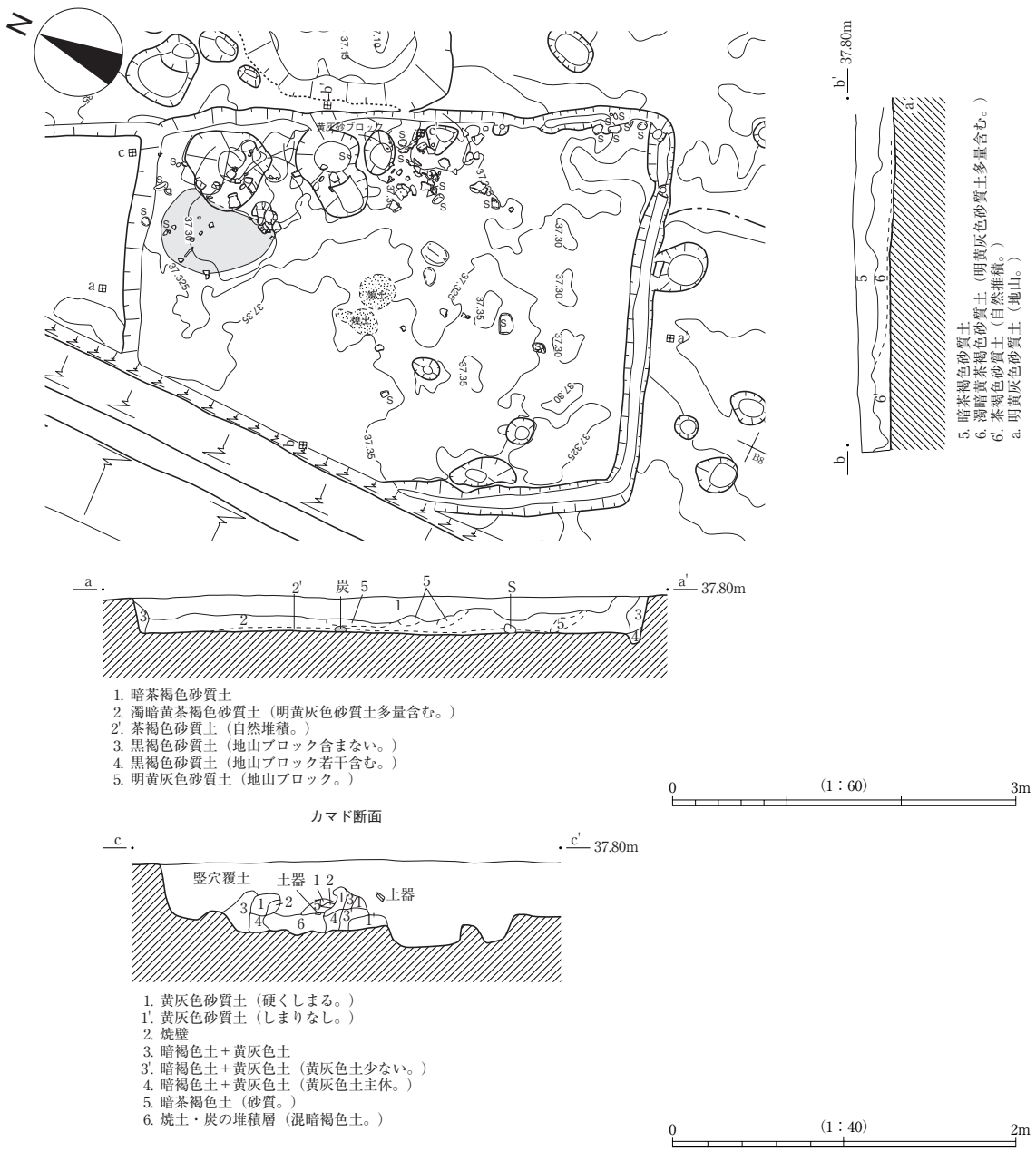
掘立柱建物

86SB01 (第47・49・101図)

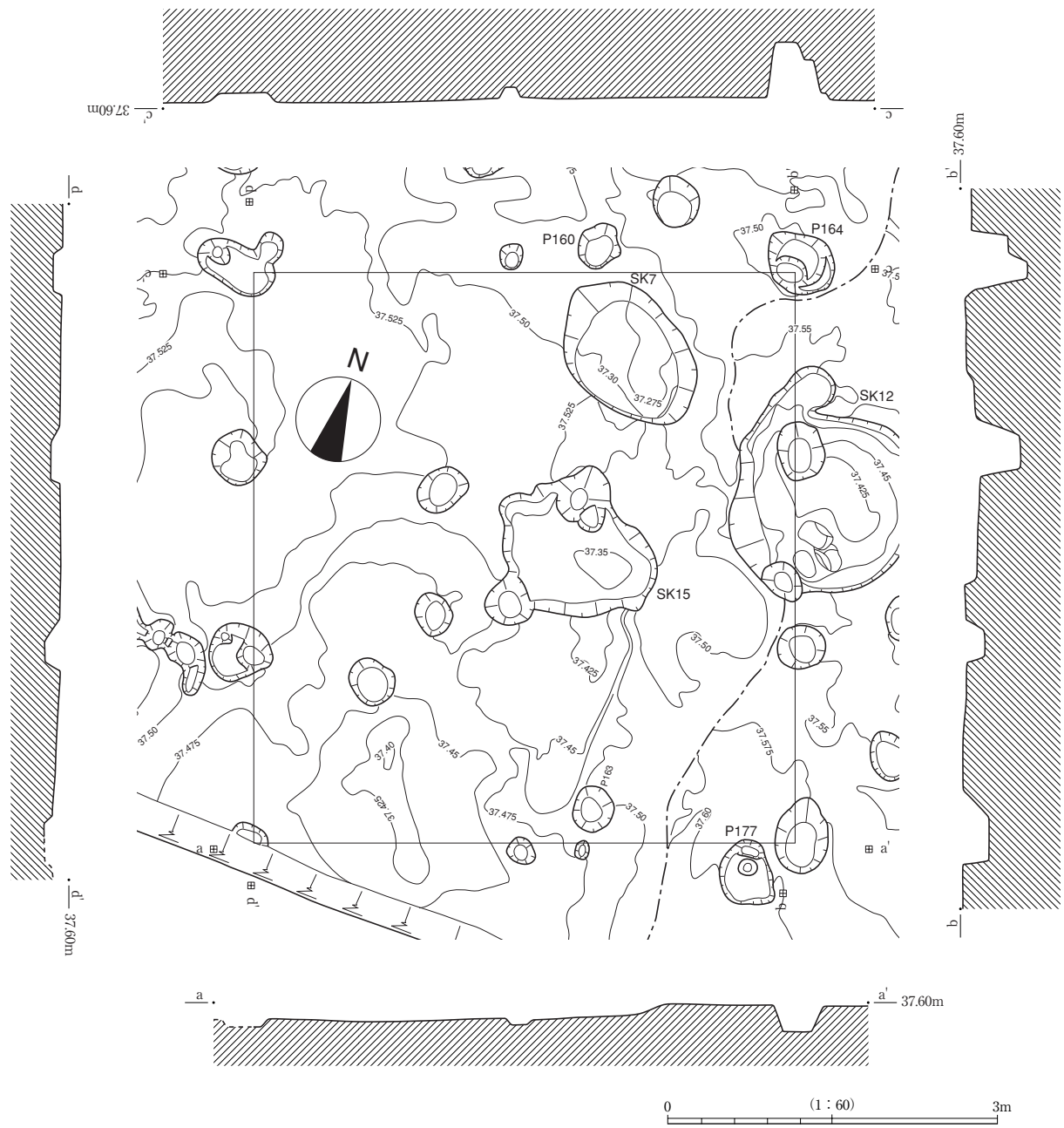
A・B4・5で検出されている。調査区外に西側が延びるのでその全形は分からないが、2×3間以上の側柱建物である。梁桁は約4.9m、桁桁は検出されている2間分で約4.2mである。2×3間の建物であった場合、その平面積は約31m²となる。東西棟の建物で、南北方向を主軸とした場合約1.5°西に振っている。P113からは273の須恵器杯Aが出土している。時期はⅤ2期と考えられる。廃棄年代は9世紀前半頃と考えられよう。



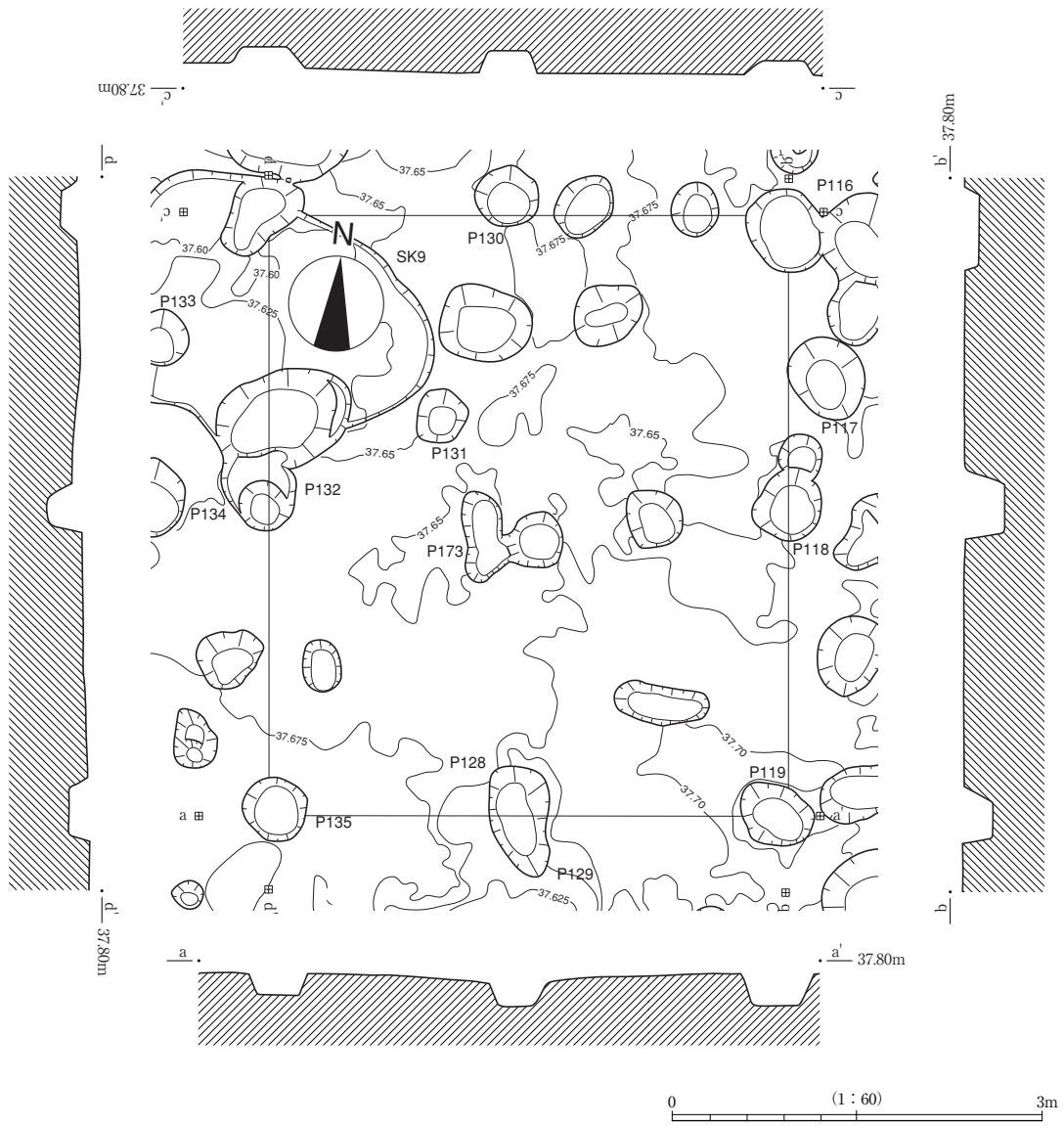
第59図 1986平面図6



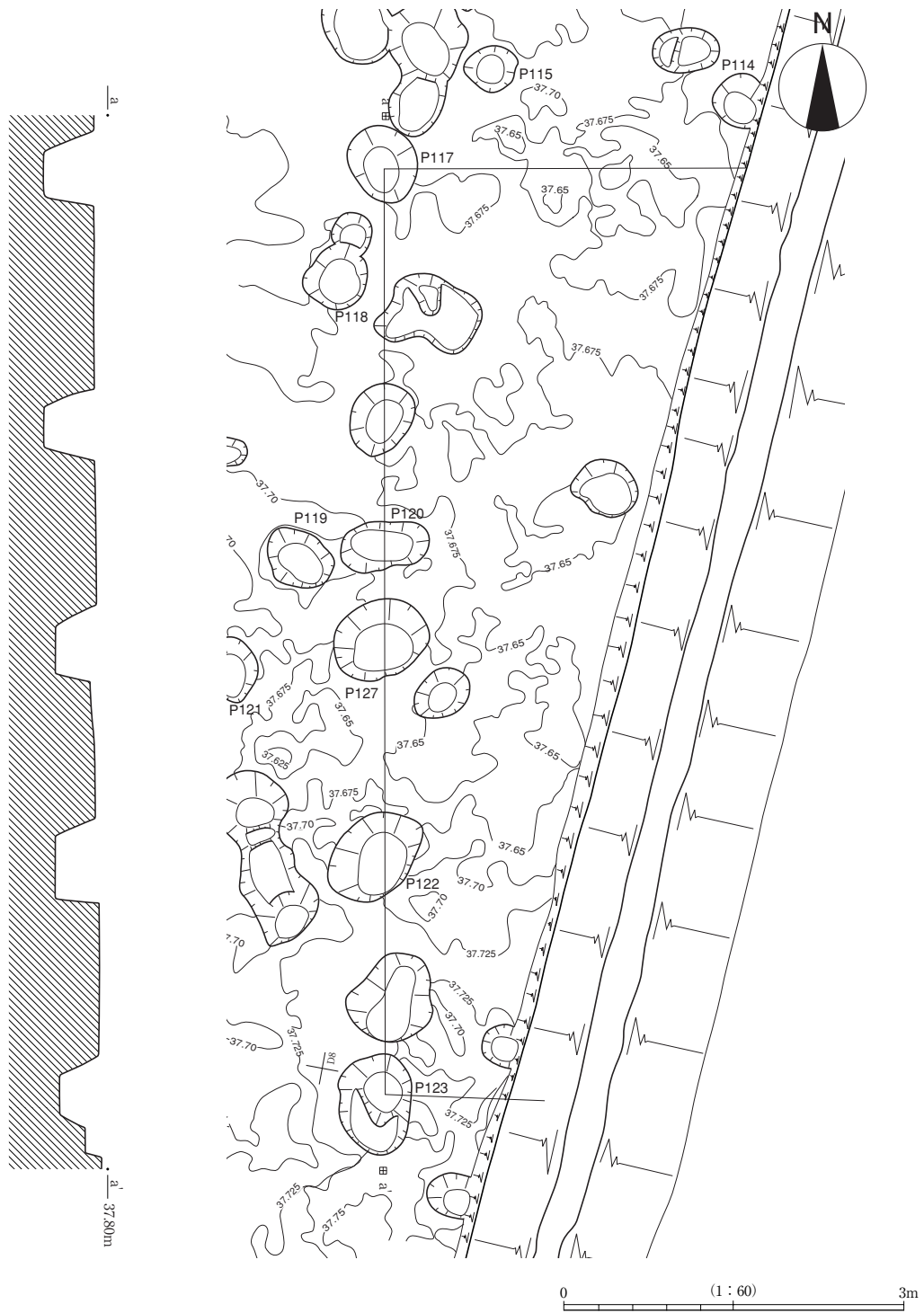
第60図 86SI02実測図



第61図 86SB03実測図



第64図 86SB07実測図



第65図 86SB17実測図

86SB02 (第51・56・101図)

B・C5・6で検出されている。2×3間の側柱建物である。梁桁は約4.7m、桁桁は約5.5mで平面積は約23m²である。南北棟の建物で、主軸は約3°西に振っている。P136からは279の土師器長胴甕が出土している。口縁部だけの破片であるが、内外にカキメ調整を施す。Ⅱ3ないしⅢ期頃の製品と考えられる。8世紀代の建物であろうか。

86SB03 (第59・61図)

B7で検出されている。2×3間の側柱建物である。梁桁は約5m、桁桁は約5.3mを測る。平面積は約26.5m²である。建物の主軸は西に約17.5°振っている。主軸方位が、86SI08・09といった竪穴建物とよく似た方位を取ることからそれらと同時期の可能性がある。

86SB04 (第59図)

B7で検出されている。北東側の柱列3間分しか検出されていないので規模は不明である。建物の主軸は西に約29°振っている。

86SB05 (第59・62・101図)

C7・8で検出されている。2×3間の側柱建物である。梁桁は約3.8m、桁桁は約4.8mを測る。平面積は約18.2m²である。建物の主軸は東に4°振っている。北西角のP144から280の須恵器甕が出土している。Ⅱ3～Ⅲ期頃の製品であろうか。

86SB06 (第59・63図)

C・D7・8で検出している。2×2間の側柱建物あるいは総柱となるかもしれない。梁桁は約3.5m、桁桁は約4.3mを測る。平面積は約15m²である。建物の主軸は西に約39°と大きく振っている。

86SB07 (第59・64・101図)

C8で検出されている。2×2間の側柱建物あるいはP173を含んで総柱となるかもしれない。梁桁は約4.2m、桁桁は約4.8mを測る。平面積は約20m²である。建物の主軸は西に約5.5°振っている。P128から276の須恵器杯Bが出土している。Ⅱ3期の製品と考えられる。

86SB08 (第66・71図)

C8・9で検出されている。2×2間の側柱建物である。梁桁は約3.8m、桁桁は約4.4mを測る。平面積は約16.7m²である。建物の主軸は西に約8°振っている。

86SB09 (第66・72・101図)

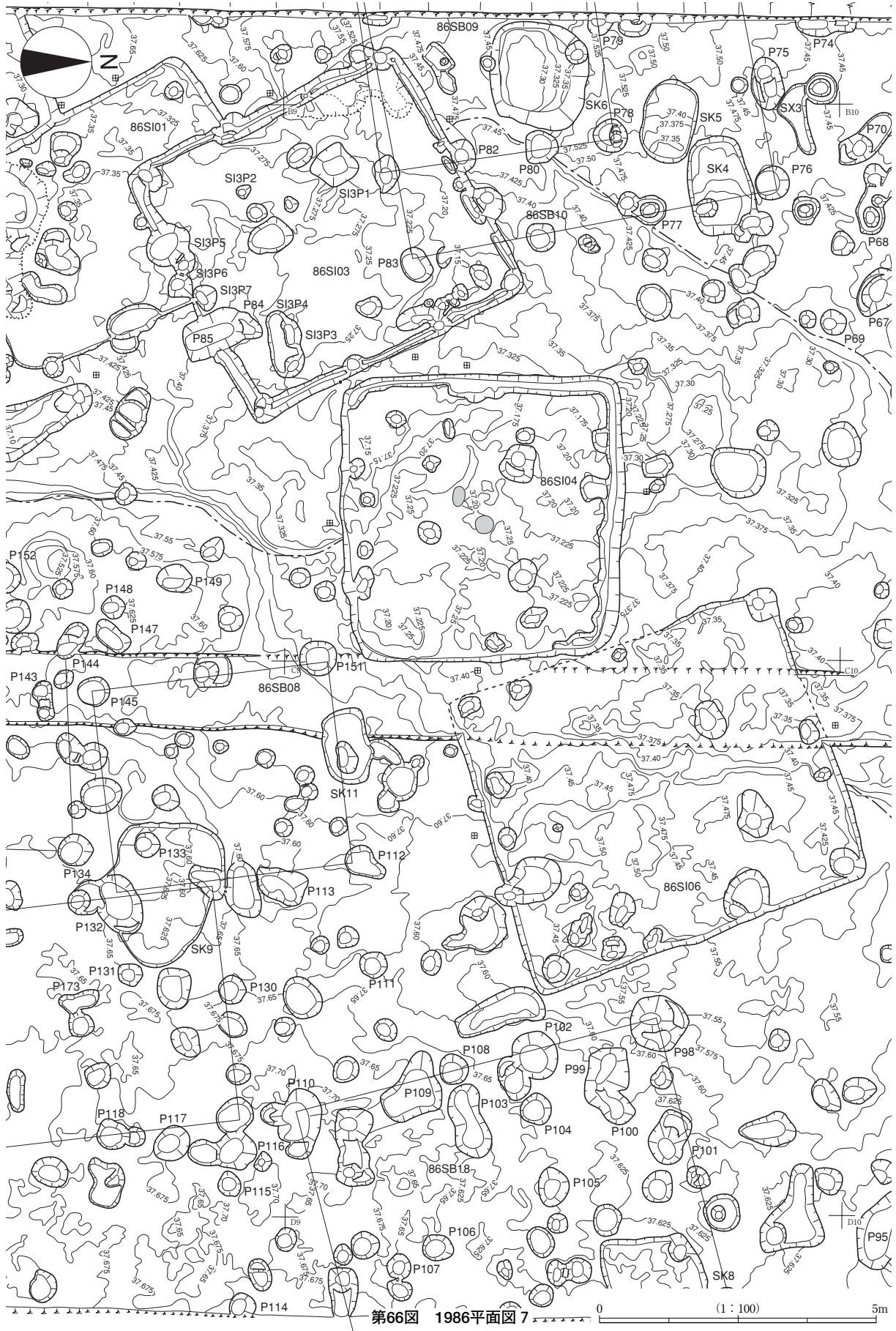
A・B9で検出されている。西側は調査区外に延びているため全形は分からないが、東側柱列は3間検出されている。これを桁と見れば2×3間の建物と考えられる。桁桁は約4.3mとなり、梁桁を復元すると約4.2mとなる。平面積は約18m²となる。主軸方位は西に約7°振っている。P80からは271の須恵器椀Gが出土している。Ⅱ1～Ⅱ2期の製品と考えられる。

86SB10 (第66・73図)

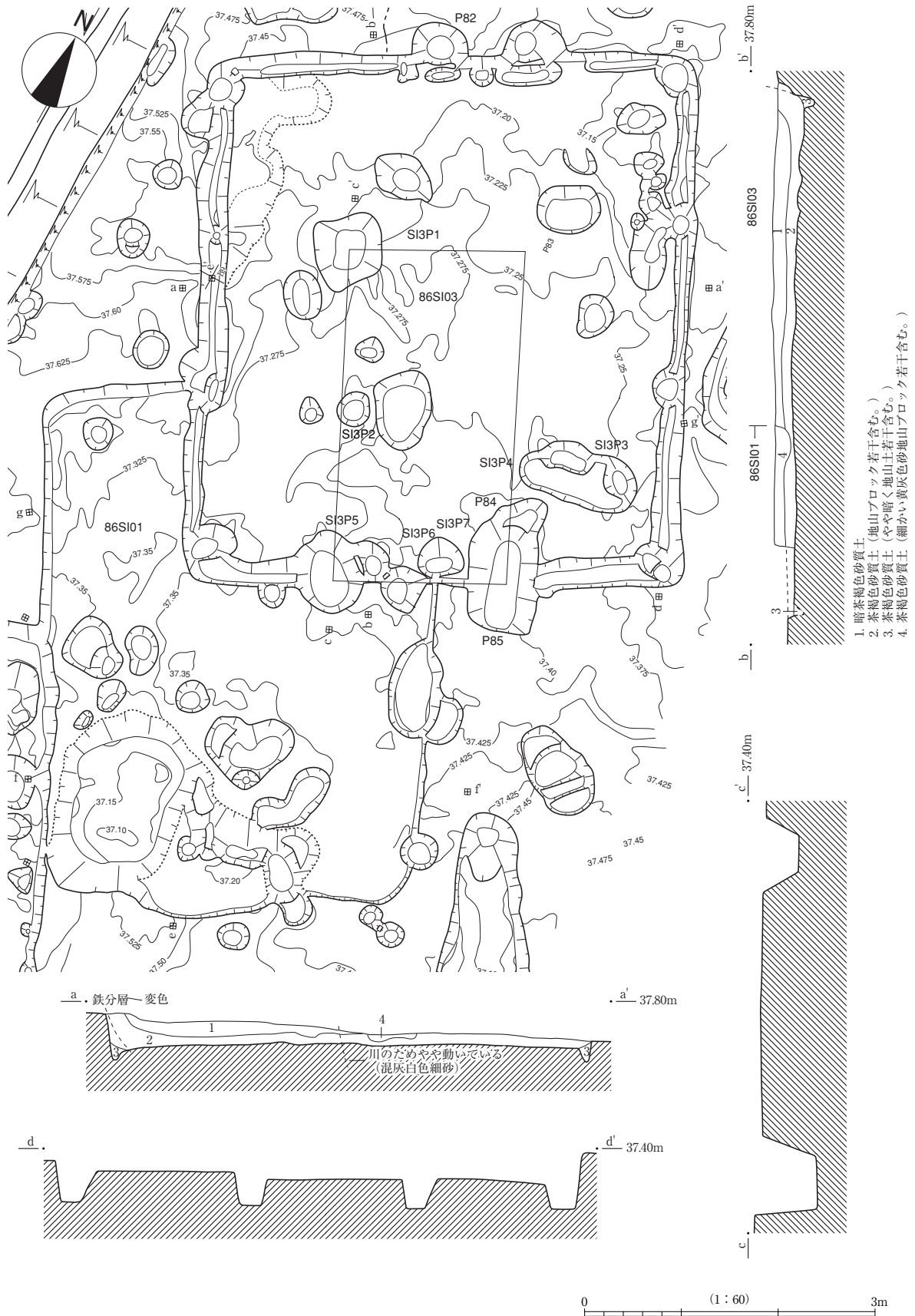
A・B9で検出されている。西側が調査区外に延びているため全形は分からないが、側柱の建物で、東側の柱列は3間分検出されている。これを桁とすると桁桁は約6.6mを測る。梁桁は何間になるか難しいが、2間とすると梁桁は約4.4mとなり、平面積は約29m²となる。主軸方位は西に約8.5°振っている。

86SB11 (第75・76・101図)

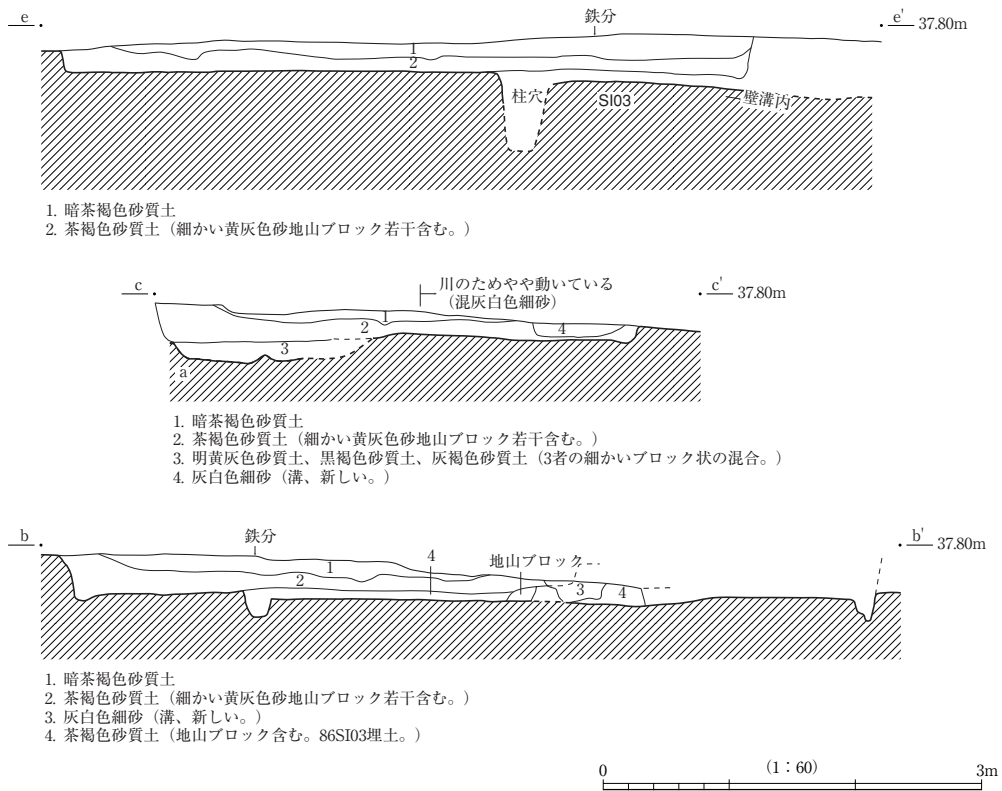
A・B10で検出されている。西側は調査区外に延びているため全形は分からないが、東側の柱列は2間分検出されている。おそらく2×2間の総柱建物になると考えられる。梁桁・桁桁とも約5.0mで平面形態はほぼ正方形で、平面積は約25m²となる。主軸方位は西に約4°振っている。東側柱列P58



第66図 1986平面図 7



第67図 86SI01・03実測図1



第68図 86SI01・03実測図2

からは274の土師器鍋である。V 2～VI 1期頃の製品と考えられる。

86SB12 (第75・77・101図)

A・B10で検出されている。西側は調査区外に延びているため全形は分からないが、東側の柱列は3間分検出されている。おそらく2×3間の側柱建物になると考えられる。梁桁は約5.1m、桁桁は約6.6mを測り、その平面積は約33.7m²となる。建物の主軸は西に約5°振っている。東側の柱列P57からは270の土師器小甕が出土している。時期はIV～V期頃と考えられる。

86SB13 (第75・78図)

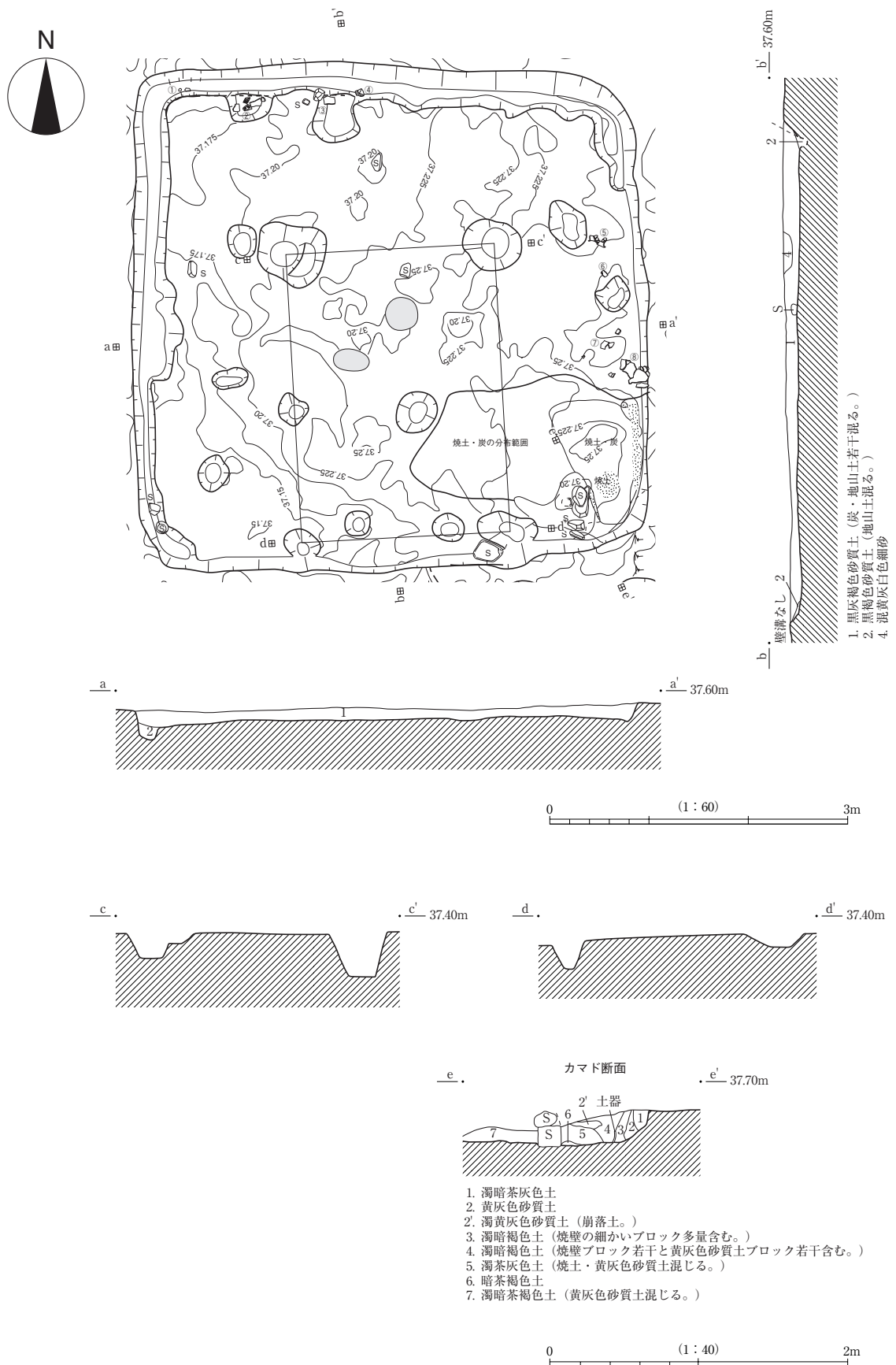
B10で検出されている。2×3間の側柱建物である。梁桁は約4.9m、桁桁は約6.8mを測り、その平面積は約33.3m²となる。建物の主軸は西に約5°振っている。

86SB14 (第81・83・101図)

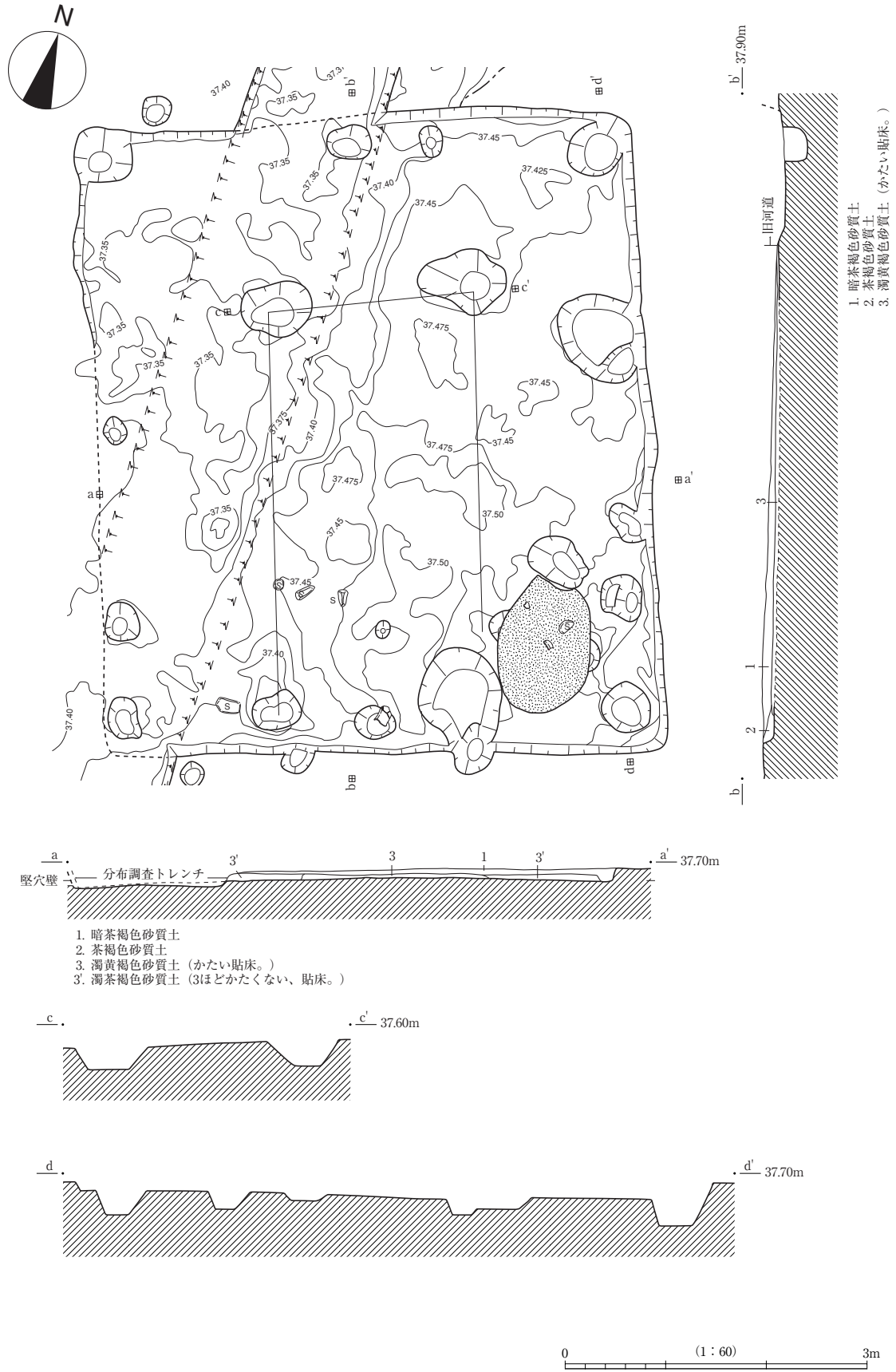
B11・12で検出されている。2・3×4間の側柱建物である。梁間は北側で3間、南側は2間となる。梁桁は約4.9m、桁桁は約8.2mを測り、その平面積は約40.2m²となる。建物の主軸は西に約7°振っている。西側柱列P13からは261の須恵器杯Aが出土している。Ⅲ期頃の製品と考えられる。

86SB15 (第81・84図)

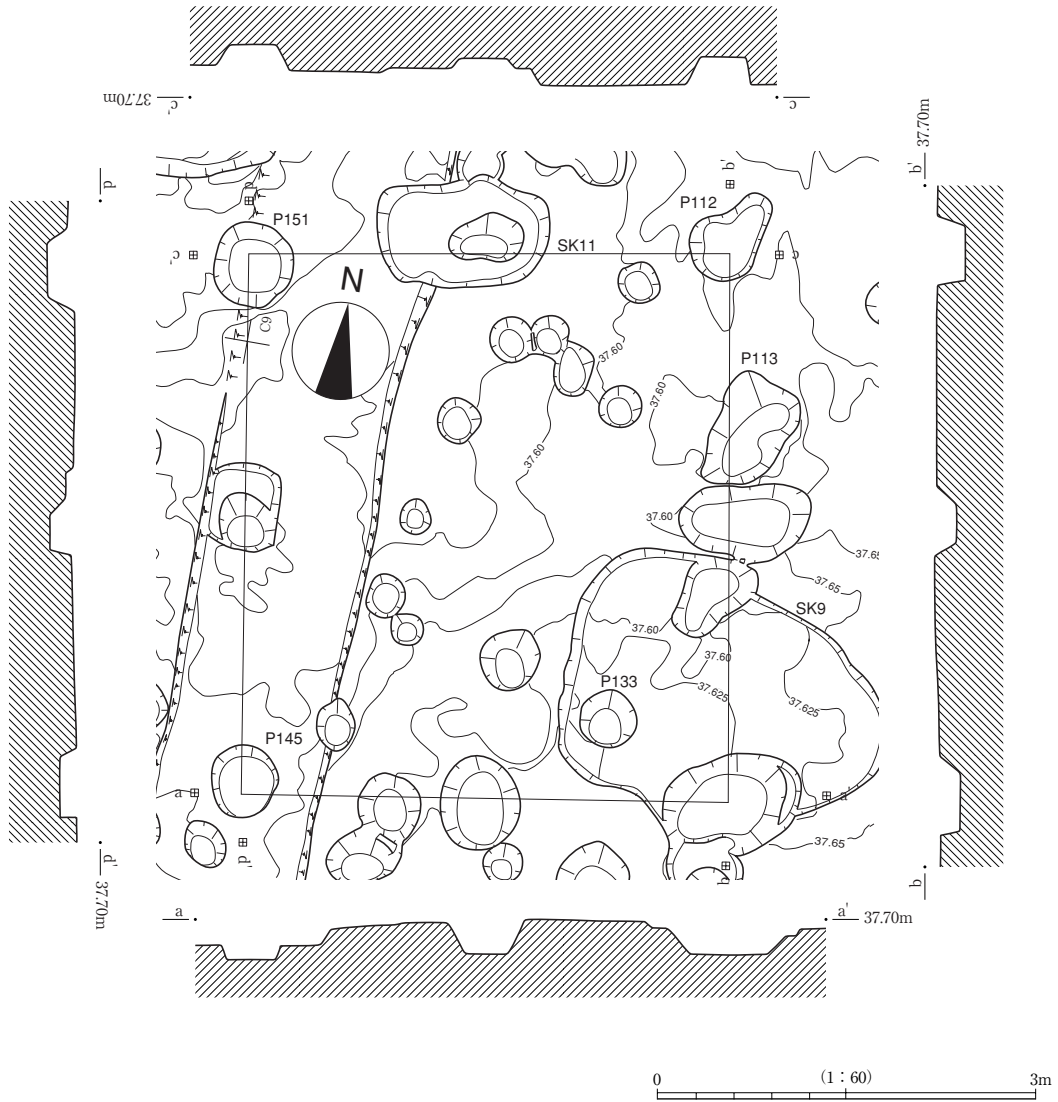
C11で検出されている。1×4・5間の側柱建物である。柱穴が確実なのは4間分であるが、北にさらに西側柱列が延びている可能性もあるので5間もありうる。1×4間であった場合、梁桁約5.3m、桁桁約7.5mを測り、その平面積は約39.8m²となる。1×5間でであった場合は、桁桁約9.7mを測りその平面積は約51.4m²となる。建物の主軸は西に約7°振っている。



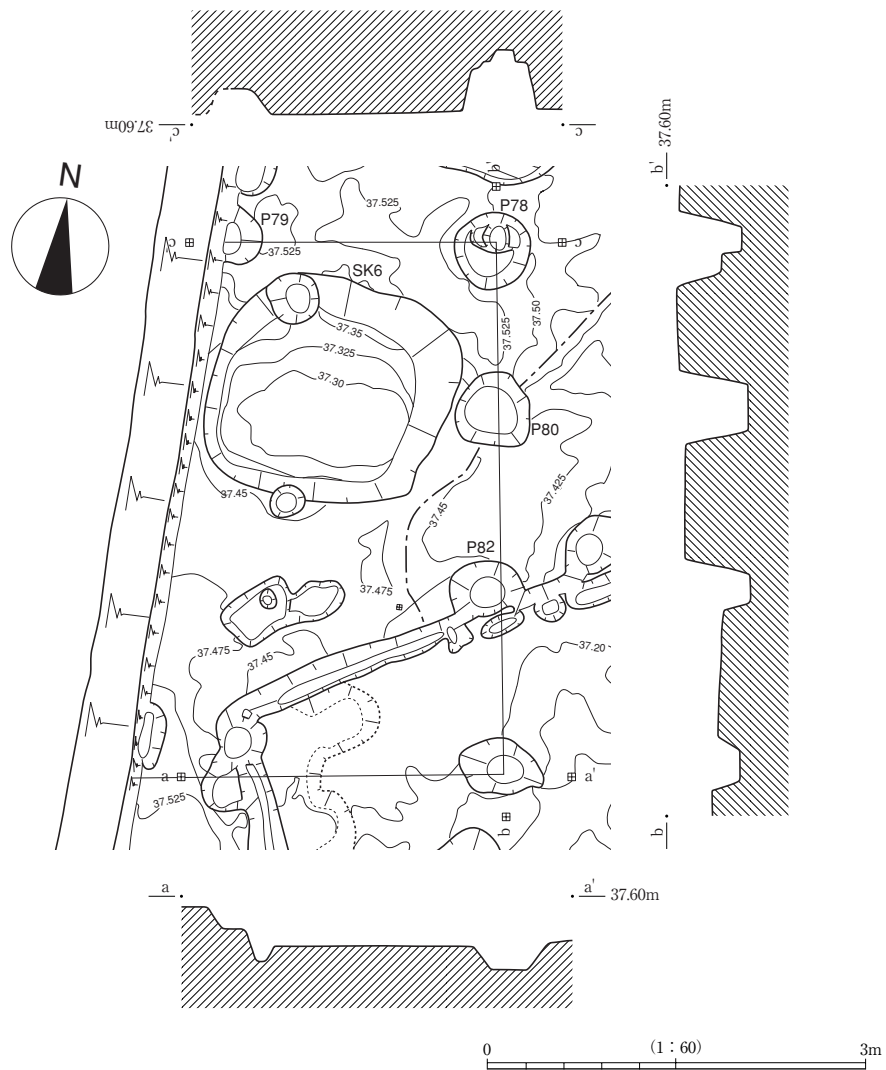
第69図 86SI04実測図



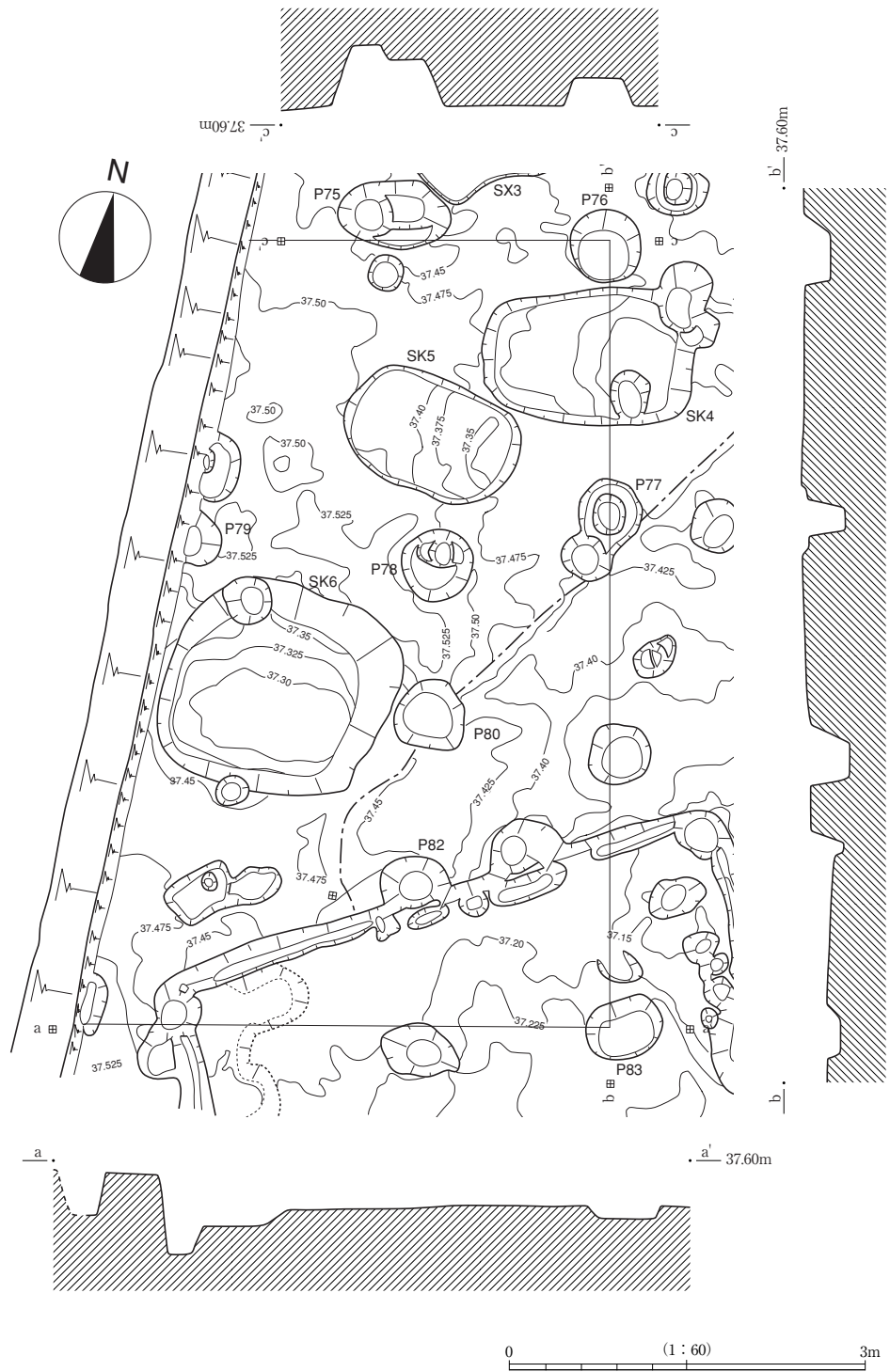
第70図 86SI06実測図



第71図 86SB08実測図



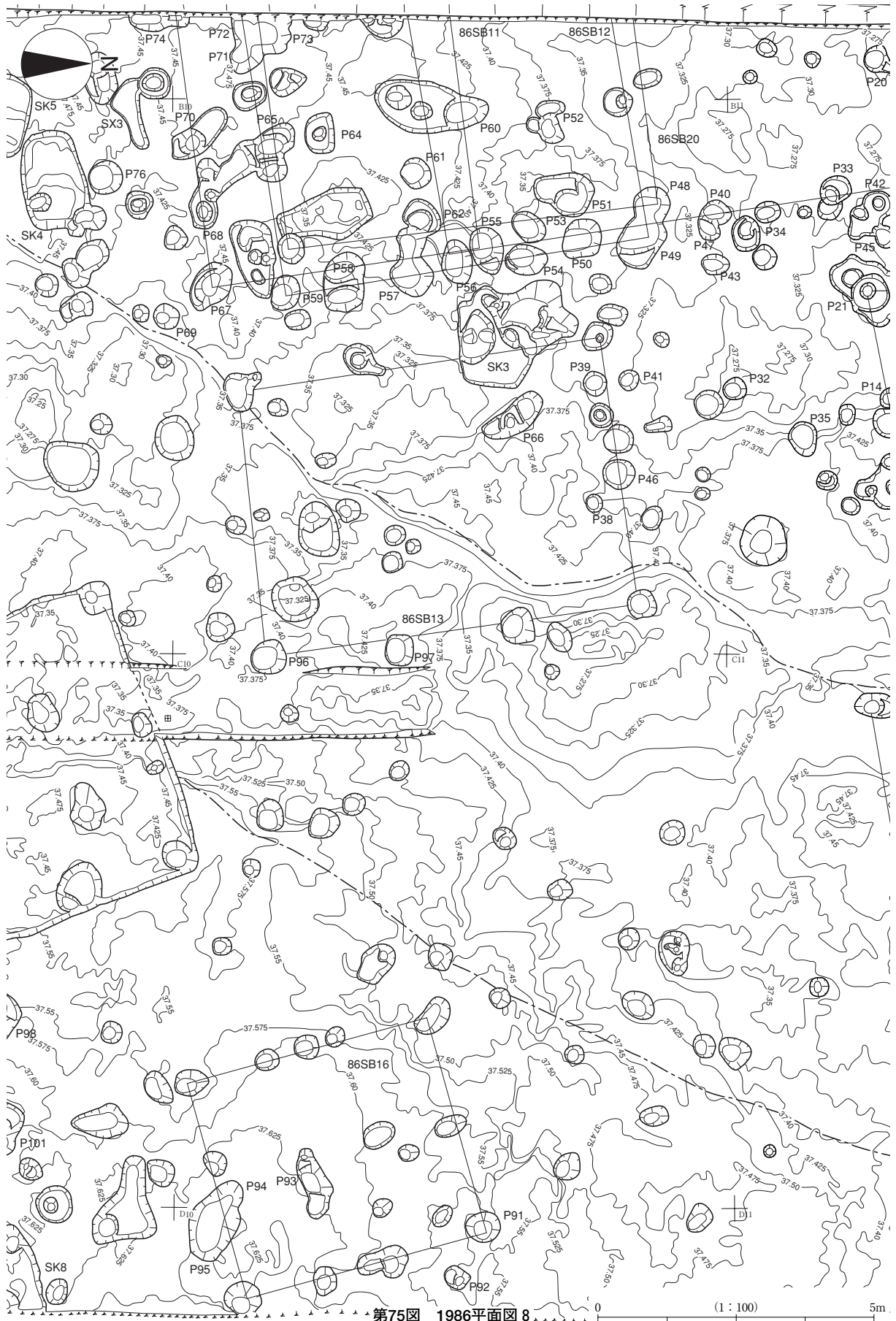
第72図 86SB09実測図



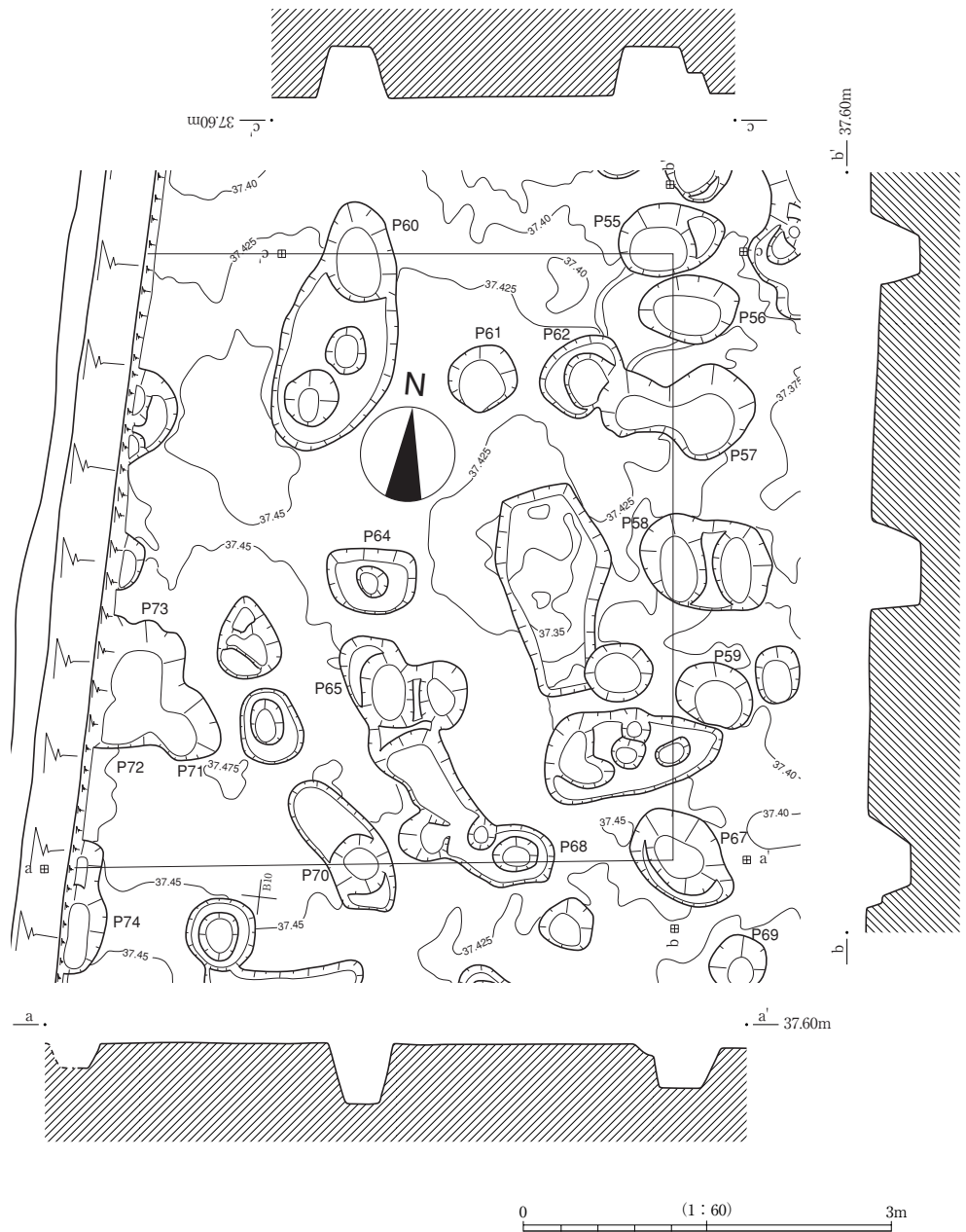
第73図 86SB10実測図



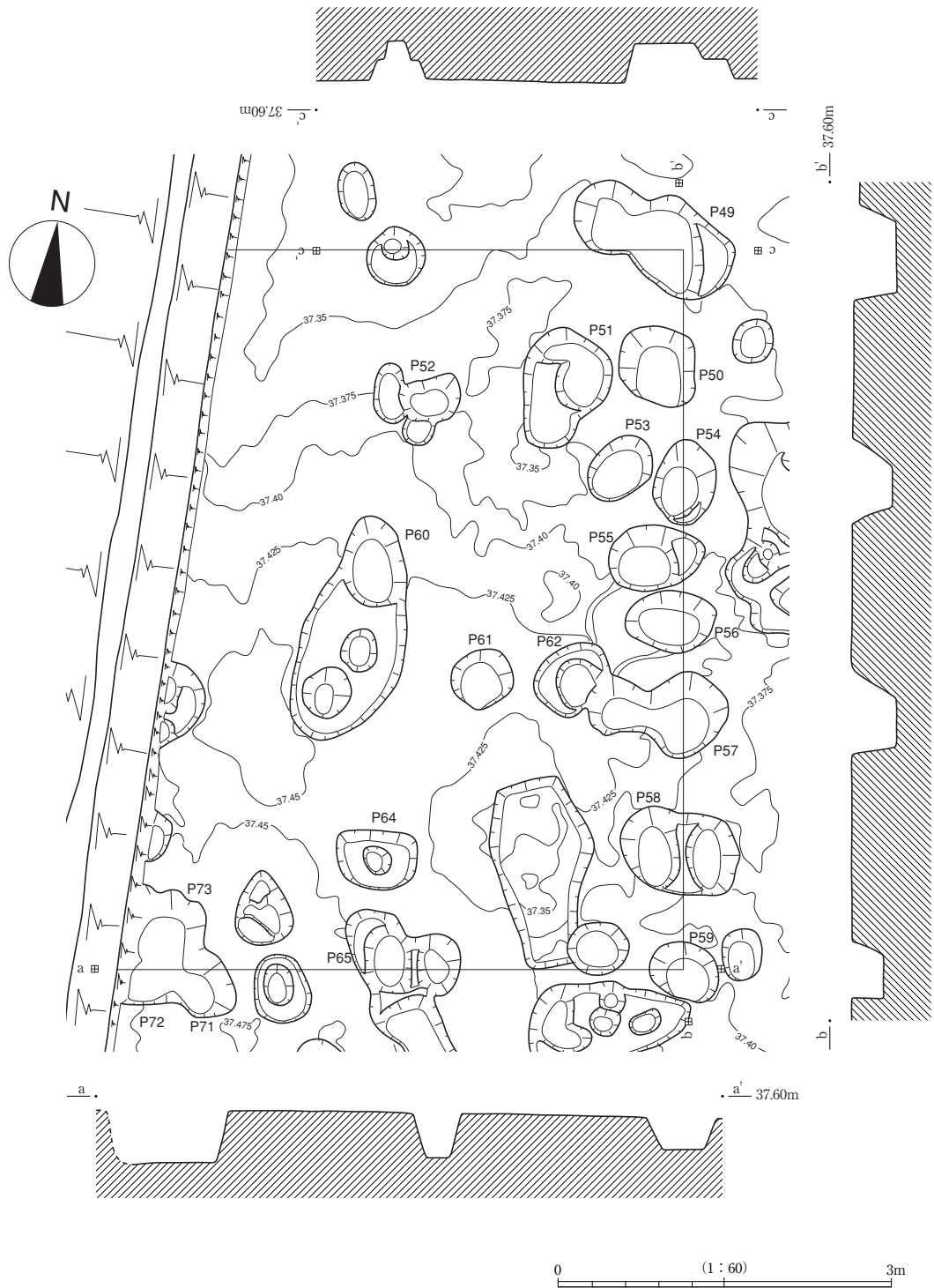
第74図 86SB18実測図



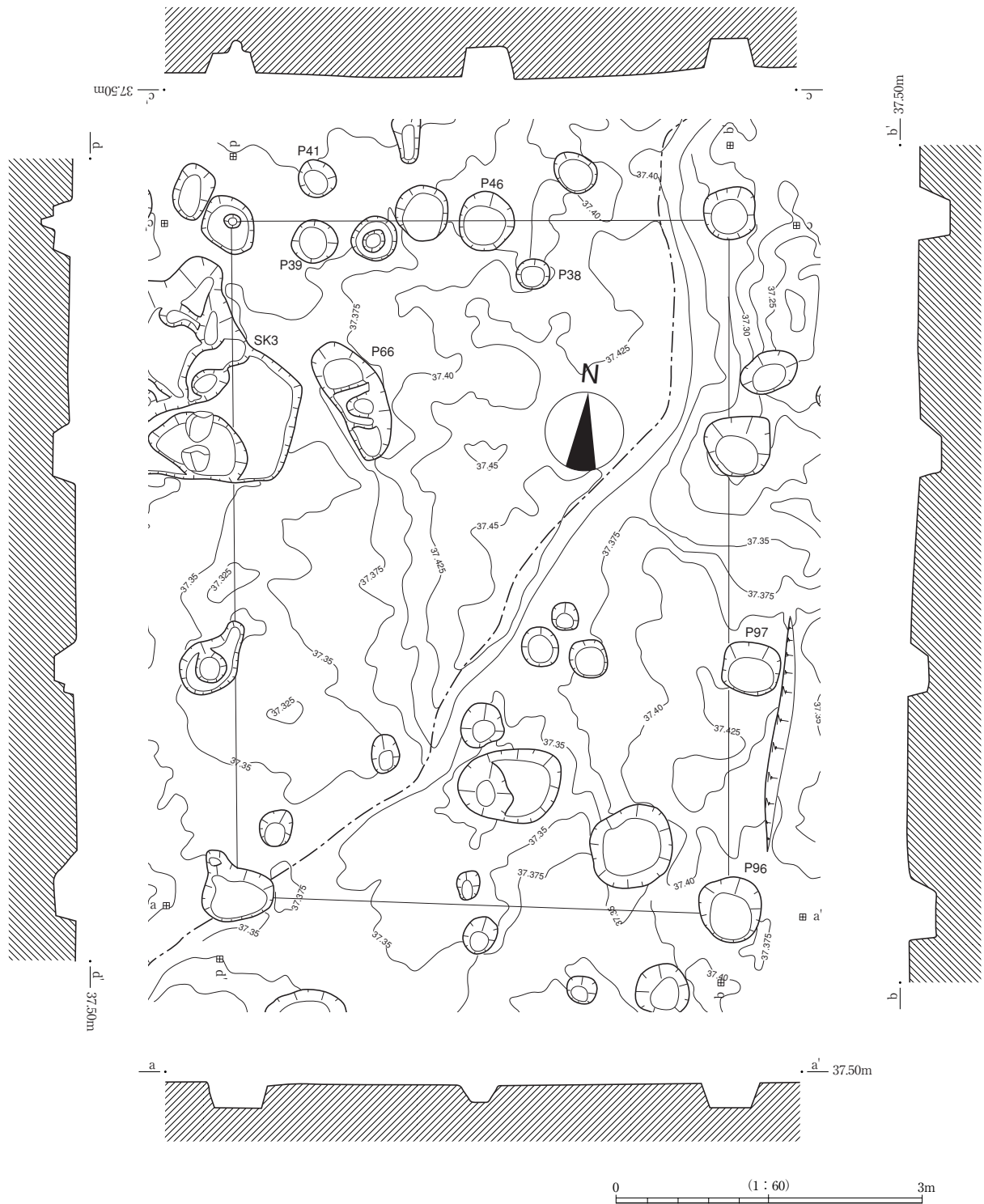
第75図 1986平面図 8.



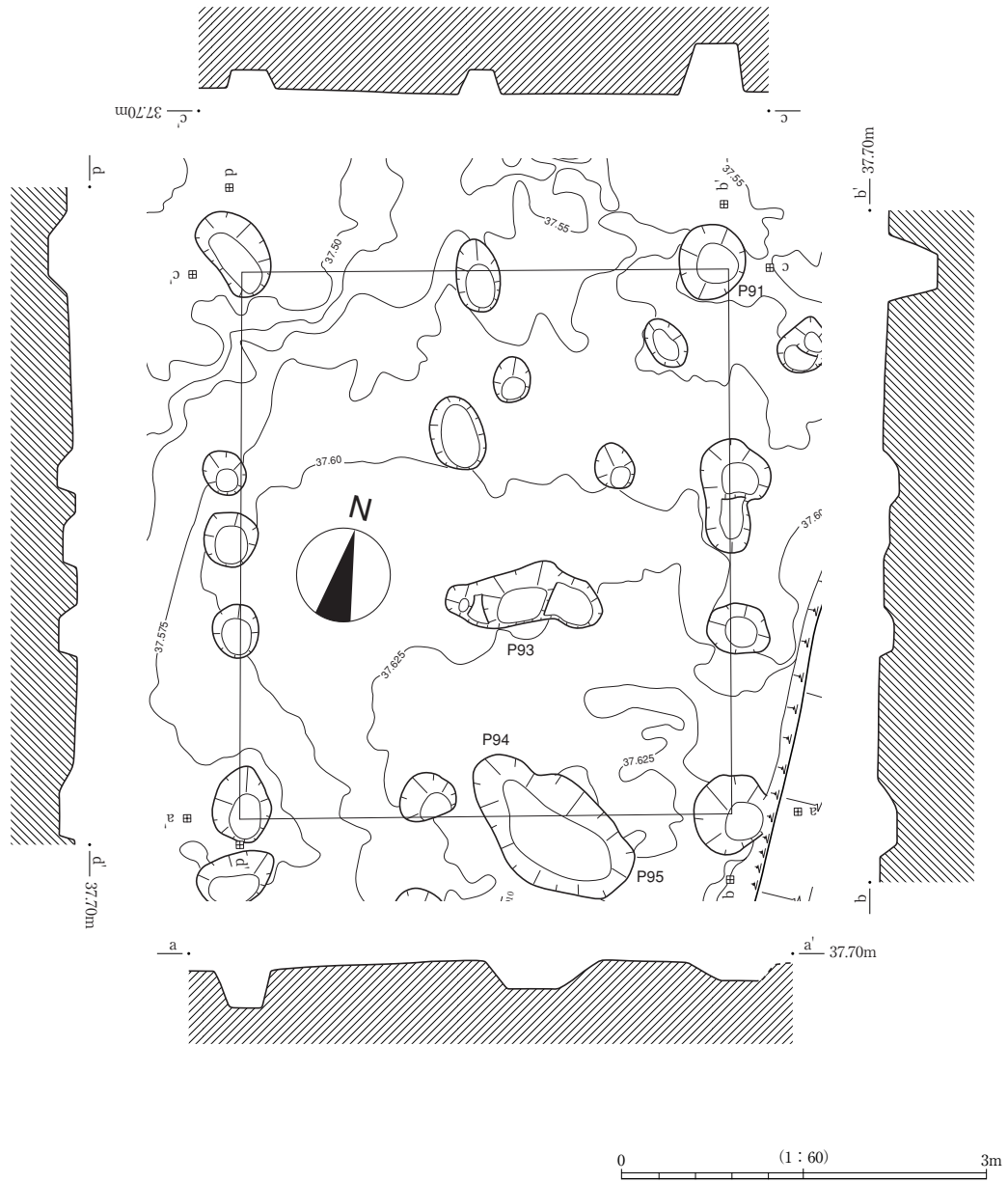
第76図 86SB11実測図



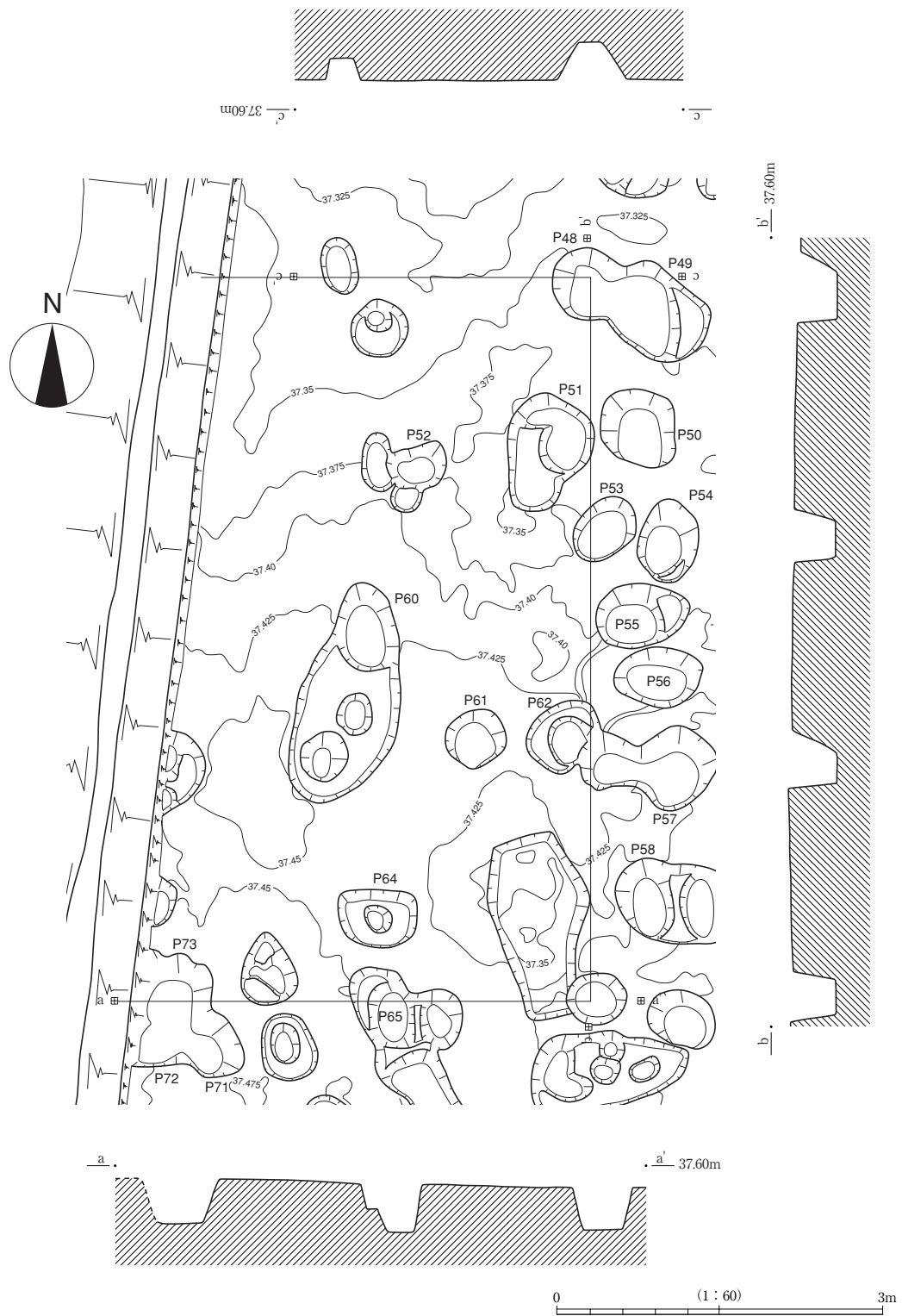
第77図 86SB12実測図



第78図 86SB13実測図



第79図 86SB16実測図



第80図 86SB20実測図

86SB16 (第75・79・101図)

C・D10で検出されている。2×3間の側柱建物である。梁桁は約4.0m、桁桁は約4.5mを測り、その平面積は約18m²となる。桁桁の2間目の間にピットがあり、それも建物に伴う可能性がある。建物の主軸は西に約14°振っている。南側柱列P94からは272の須恵器杯Aが出土している。時期はⅢ期と考えられる。

86SB17 (第59・65・101図)

D8で検出されている。西側の柱列4間分のみで、大部分は調査区外にあり規模は不明である。南に1間延びる可能性もある。おそらく1×4間という側柱建物になると考えられ、その場合は桁桁約8.2mを測る。建物の主軸は西に11°振っている。P122から278の土師器小甕が出土している。時期はⅡ2かⅡ3期頃かと考えられる。建物はもっと新しく9世紀代と想定している。

86SB18 (第66・74・101図)

C・D9で検出されている。東側は調査区外に延びているため全形は分からないが、西側の柱列は3間分検出されている。これを桁とすると桁桁は約6.7mを測る。梁桁はおそらく2間になると考えると、2×3間の側柱建物となる。梁桁5.9mを復元すると平面積は約39.5m²となる。主軸方位は西に約13°振っている。南西角のP110からは269の須恵器杯B蓋と275の須恵器高杯が出土している。いずれもⅣ1期と考えられる。

86SB19 (第81・85・101図)

A・B10・11で検出されている。西側は調査区外に延びているため全形は分からないが、東側の柱列は3間分検出されている。おそらく2×3間の側柱建物と考えられるが、北側と南側の柱間が違うのでそう単純ではないかもしれない。2×3間とした場合は、梁桁を約4.3mと復元し、桁桁は約7.1mを測り、その平面積は約30.5m²となる。建物の主軸は西に約7°振っている。南東角のP50からは266の須恵器杯Aが出土している。Ⅵ2期頃と考えられる。

86SB20 (第75・80図)

A・B10で検出している。西側は調査区外に延びるため全形は分からないが、東側の柱列は3間分検出されている。おそらく2×3間の側柱建物と考えられる。梁桁は約4.0m、桁桁は約6.7mを測り、その平面積は約26.8m²となる。建物の主軸方位は西に約4°振っている。

86SB21 (第87・89図)

県道額谷・三浦線南際調査区で、B14・15で検出されている。2×3間の総柱建物である。梁桁は約3.6m、桁桁は約4.1mを測り、その平面積は約14.8m²である。建物の主軸は東に約3°振っている。高床の倉庫と考えられる。

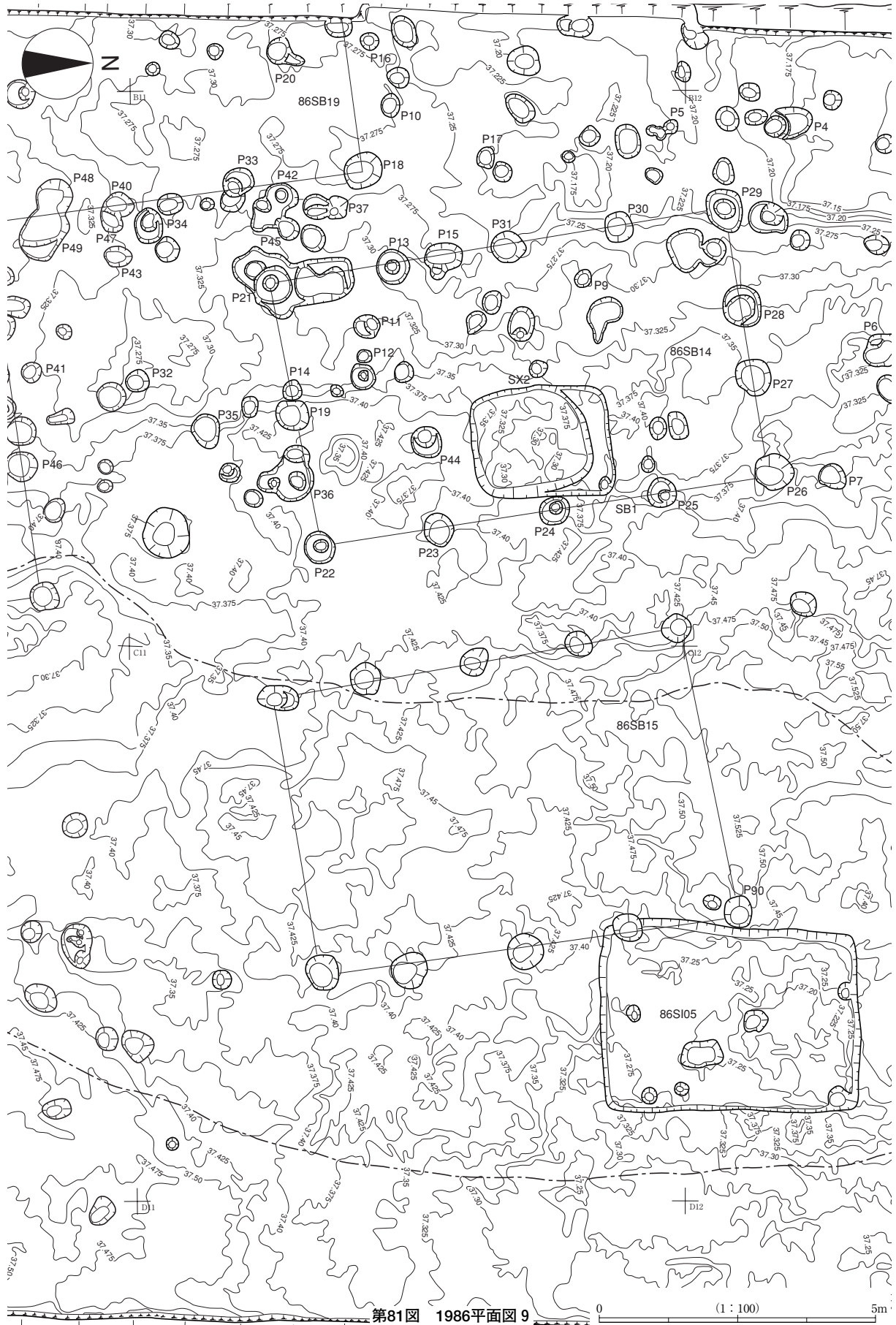
土坑

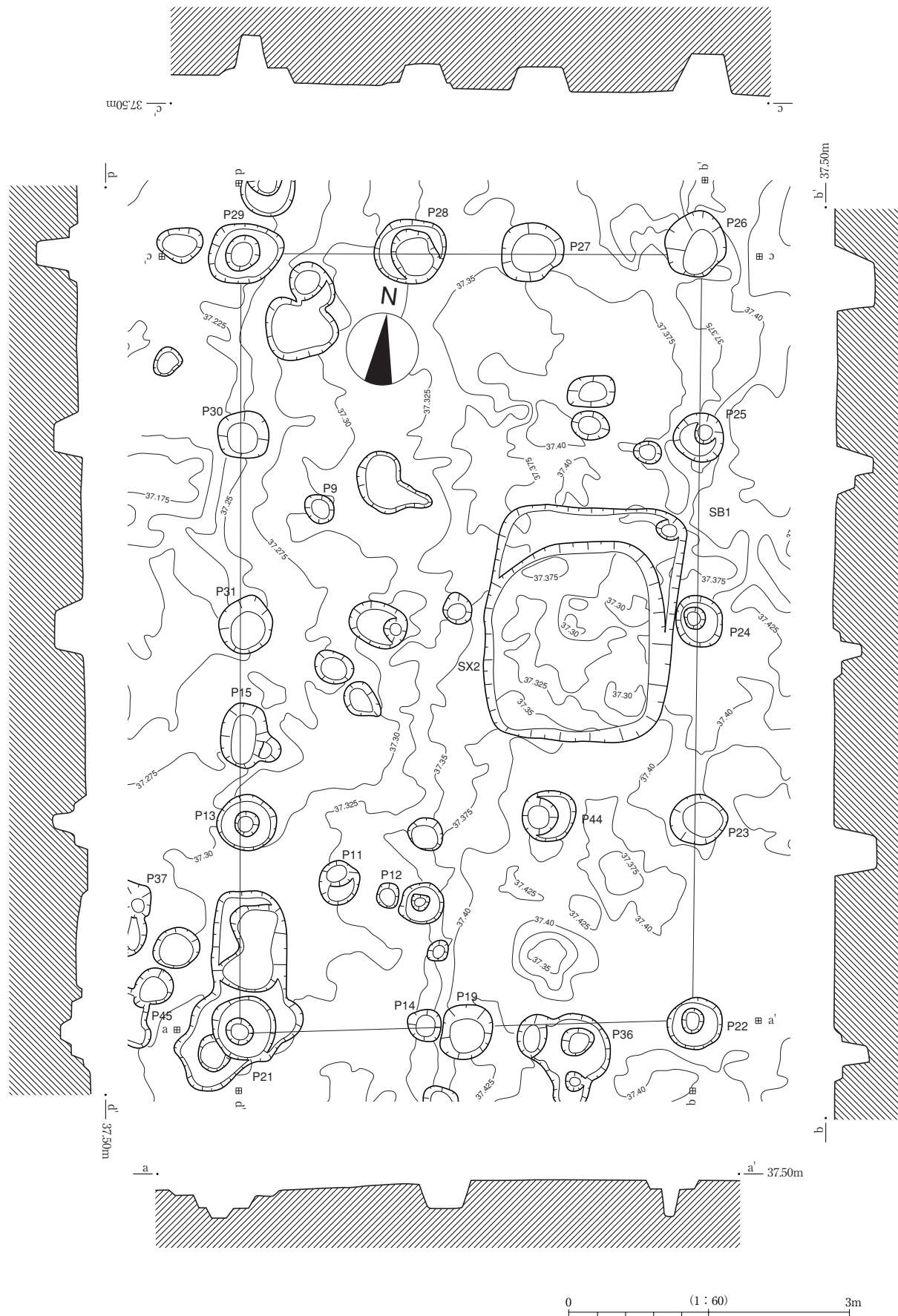
86SK04 (第74・102図)

B9で検出されている。平面形態は隅丸長方形を呈する。長軸約1.7m、短軸約1.2mを測る。検出面よりの深さは約20cmを測る。282の須恵器杯B、283の土師器長胴甕が出土している。いずれもⅣ1期頃のものと考えられる。

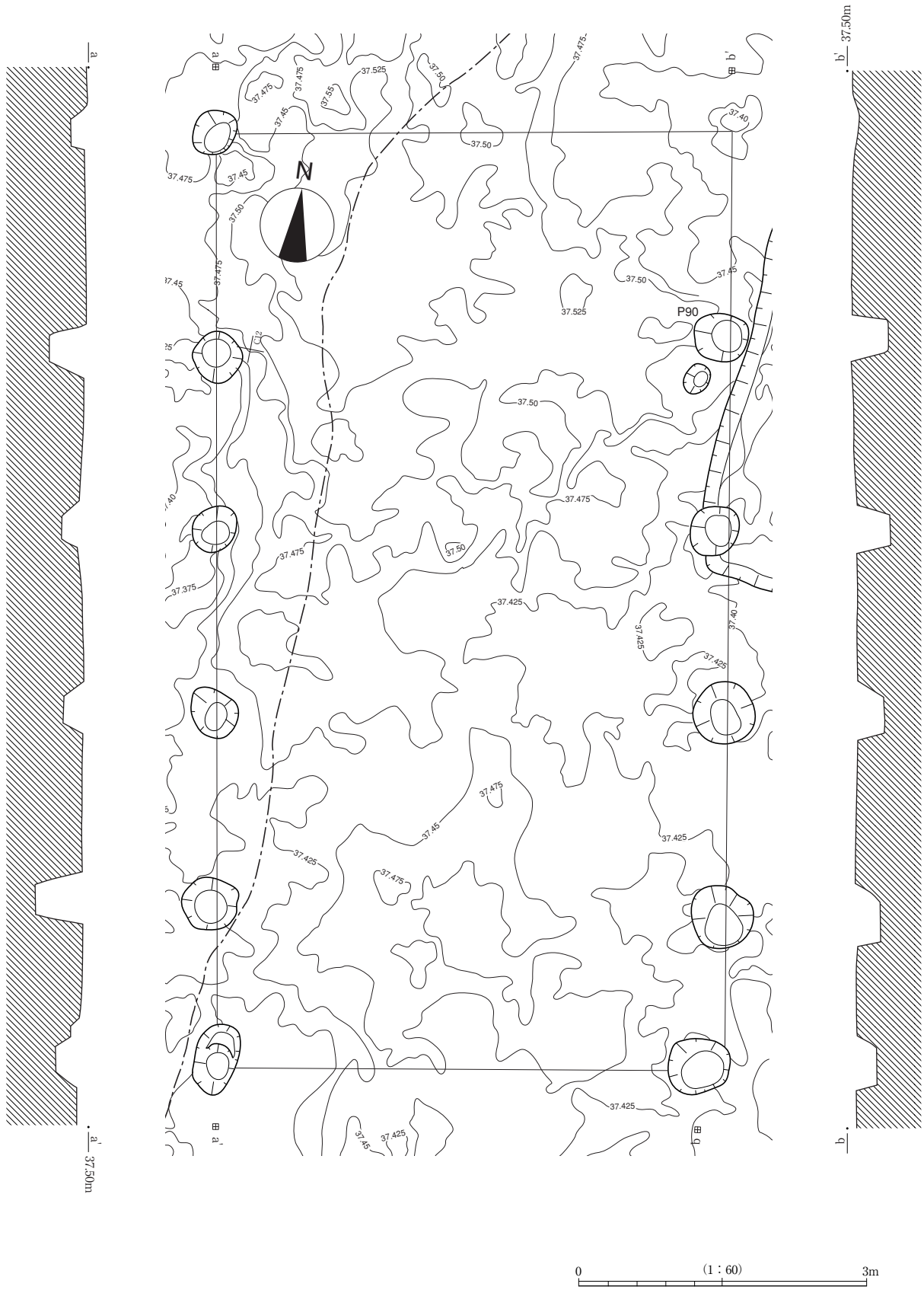
86SK08 (第75・102図)

D9で検出されている。方形の土坑であるが、調査区外に延びるため全形は不明である。検出面よりの深さは約10cmである。284の土師器長胴甕、285の土師器小甕が出土している。ⅢないしⅣ期頃のものであろう。





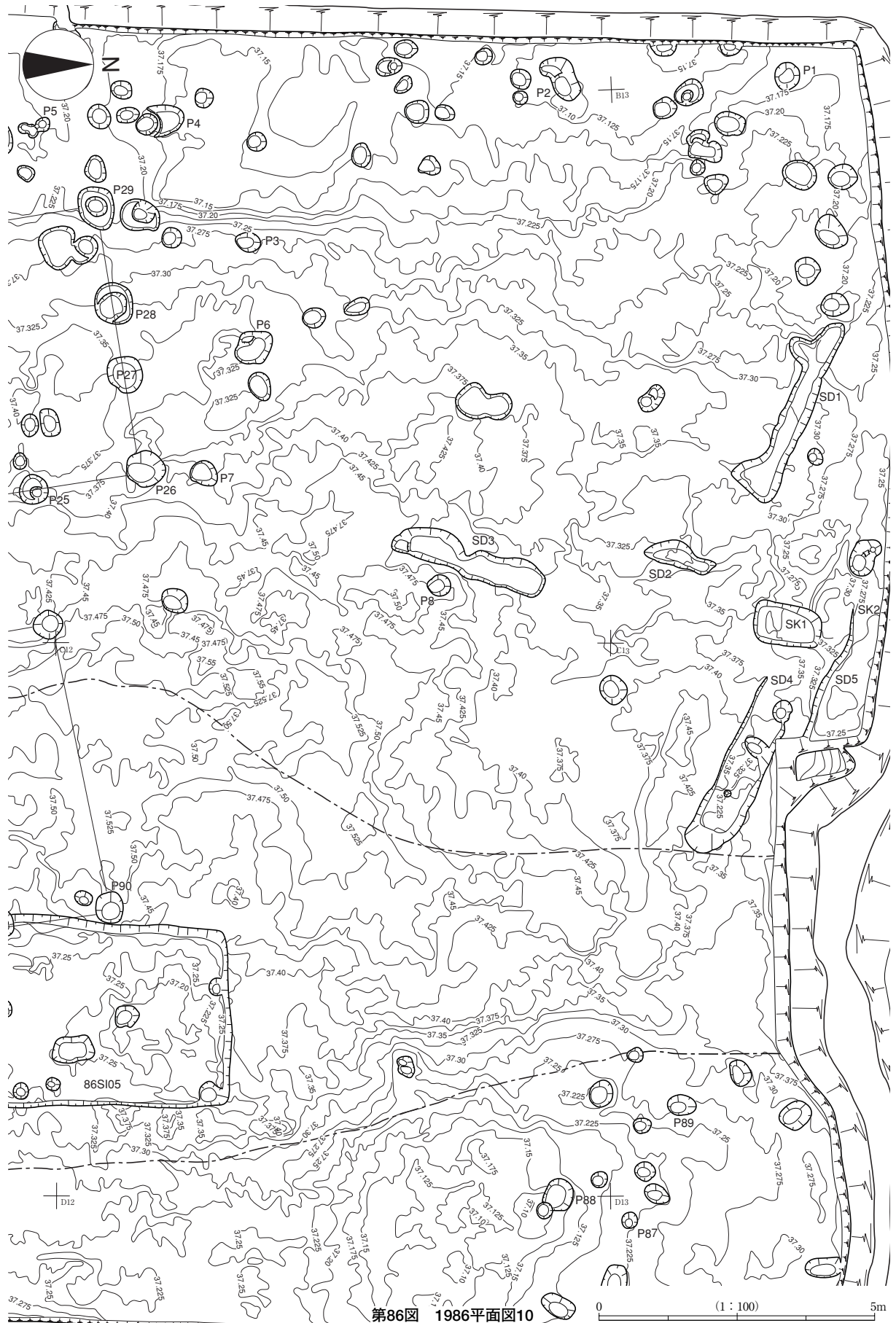
第83図 86SB14実測図



第84図 86SB15実測図



第85図 86SB19実測図

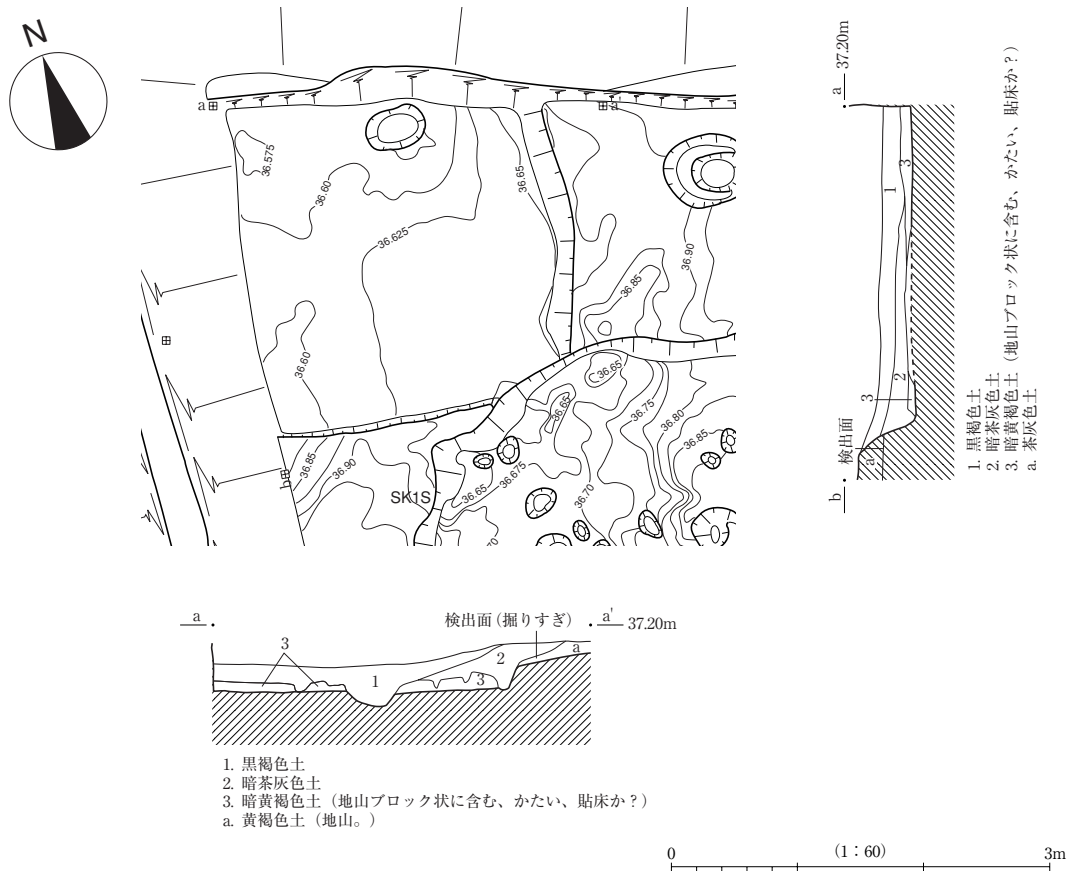


第86図 1986平面図10



第87図 1986平面図11

0 (1:100) 5m



86SK09 (第66・102図)

C8で検出されている。平面形態は不整な楕円形を呈する。長軸は約2.6m、短軸は約1.8mを測る。検出面よりの深さは約5cm程度と極めて浅い。286の須恵器杯Aが出土している。IV1期頃のものと考えられる。

86SK10 (第59・102図)

C7で検出されている。平面形態は不定形で、長軸は約1.8m、短軸は約1.5mを測る。検出面よりの深さは約35cmである。287の須恵器杯Bが出土している。II2期頃のものと考えられる。

86SK21 (第47・102図)

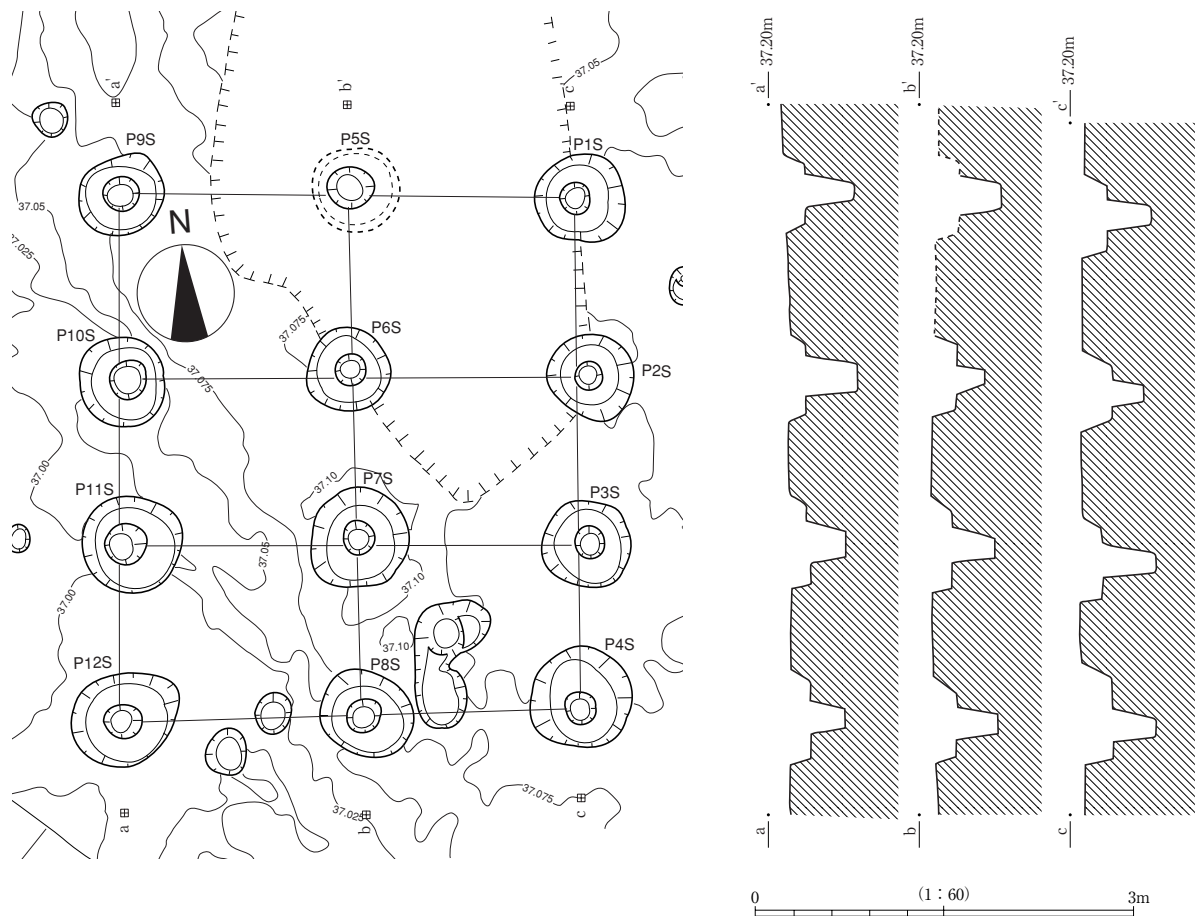
C5で検出されている。86SB02のP137と切り合っている。平面形態は不定形で、長軸は約2.7m、短軸は約1.7mを測る。深さは検出面より約20cmである。288の土錘が出土している。

86SK22 (第47・50・102図)

C4・5で検出されている。平面形態は不定形であるが、南北方向に長軸を測ると約4.7m、短軸は約3mとなる。検出面よりの深さは約25cmで断面形状は掘鉢状を呈する。埋土は黒灰色粘質土、濁暗灰色シルトといった粒径の細かい土である。出土遺物には289~291がある。289は土師器長胴甕、290は土師器鍋、291は土師器小甕である。これらの時期はII3~III期頃と考えられる。

86SK24 (第46・50図)

C3で検出されている。平面形態は細長い長楕円形で、長軸約2.1m、短軸約80cmを測る。検出面よ



第89図 86SB21実測図

りの深さは約60cmで、断面形状は箱型を呈する。埋土は黒灰色粘質土、濁暗灰色シルトといった粒径の細かい土である。その性格および時期については、埋土の特徴がSK22と類似することから同時期の可能性もあろうが性格について良く分からない。

86SK25 (第46・50図)

B3で検出されている。平面形態は長楕円形で、長軸約1.3m、短軸約95cmを測る。検出面よりの深さは約50cmで、断面形状は箱型を呈するが、中央部分が盛り上がっている。埋土は暗茶灰色砂質土、茶灰色砂質土といった砂質土である。その性格および時期については良く分からない。

86SK26 (第45・50図)

B3で検出されている。平面形態は不整円形で、長軸約1.5m、短軸約1.3mを測る。検出面よりの深さは約55cmで、断面の形状は箱型を呈する。埋土は暗茶灰色砂質土、茶灰色砂質土といった砂質土である。平面形態や断面形状、埋土からSK25と同様な性格をもった遺構であると推定できるが、その性格および時期については良く分からない。

86SK01S (第87・90・103図)

県道額谷・三浦線南隣の調査区のA・B15で検出されている。平面形態は隅丸方形を呈する。長軸は約5.2m、短軸は約3.9mを測る。検出面よりの深さは約25cmで、断面の形状は凹凸の激しいものとなっている。小ピットも多数見られ、その性格は良く分からないが、307～321の多くの遺物が出土している。307は須恵器杯A蓋で、II 2期頃であろう。308は須恵器杯B蓋で、II 3期頃であろう。309

は須恵器杯Aで、有蓋のものでⅡ2期頃であろう。310は須恵器椀で、Ⅱ2期頃であろう。311は須恵器杯Bで、Ⅲ期頃であろうか。312・313は内黒土師器高杯である。Ⅱ1・2期頃のものであろうか。314は鉢である。Ⅱ3期頃のものであろうか。315・316は土師器小甕である。いずれも内外面にカキメ調整を施すもので、Ⅱ3期頃のものであろうか。317は土師器長胴甕で、外面はハケ調整を施し、内面は体部下半はケズリで、上半には指頭圧痕等が見える。Ⅱ2期頃のものであろうか。318は土師器鍋で、上半部は内外面ともカキメ調整を施し、外面下半はケズリ調整を行っている。Ⅱ2・3期のものであろう。319は須恵器横瓶で、320は須恵器平瓶で、321は須恵器甕である。

86SK01N (第122・102図)

B18で検出されている。平面形態は不定形で、長軸約3.1m、短軸約1.9mを測る。検出面よりの深さは約20cmである。293の須恵器杯B、294の土師器で長胴甕の体部破片が出土している。Ⅳ期頃のものであろうか。

86SK03N (第122・102図)

B・C18で検出されている。平面形態は不定形で、攪乱等に切られている。残存部分での長軸は約3.1m、短軸は約2.2mを測る。検出面よりの深さは約30cmである。295・296の須恵器杯B蓋、297の杯B、298の杯Aが出土している。

86SK06N (第120・102図)

B17で検出されている。平面形態はおそらく半分以上が調査区外に延びているため不明である。調査した部分から復元すると隅丸形状になるのかもしれない。検出面よりの深さは約40cmを測る。299～303の出土遺物がある。299・300は須恵器杯B蓋である。301は須恵器杯Aである。302は須恵器瓶類の底部破片であろうか。303は土師器長胴甕である。これらの時期は、301がⅣ期まで下がるかもしれないが、他はⅡ2～Ⅱ3期頃と考えられる。

86SX02 (第81・102図)

B11で検出されている。平面形態は方形である。長軸約2.5m、短軸約2.0mを測る。検出面よりの深さは約10cmと浅い。292の土師器小甕が出土している。Ⅳ期頃のものと考えられる。86SB14と方向を揃えているようにも見え、その付帯施設である可能性も考えられる。

溝

河

調査区を南北に縦断して検出されている。1985年度調査区でも検出されており、その際には中近世河道とされていたものである。本調査区でも比較的浅い状態で検出されており、古代の遺構面にはそれほど影響を与えてはいないと考えられる。

322～345の出土遺物がある。322～325は須恵器杯B蓋である。326は須恵器杯Bである。327・328は須恵器杯Gである。329は須恵器杯Aで、底部外面に「明月」と2文字墨書されている。331は須恵器杯Aで、底部外面に「平□」と墨書されている。332の須恵器杯には、「平□」と墨書されている。329・331はⅥ1期頃のものであろう。330は須恵器杯Aである。333は須恵器皿Bである。334は須恵器高杯である。330はⅤ1期、333はⅥ1期、334はⅡ2期頃のものであろう。335は内黒土師器皿Bである。Ⅵ2期頃のものであろうか。336は土師器小甕である。Ⅱ3期頃のものであろうか。337・338は土師器鍋である。いずれも外面は体部下半をケズリ調整、上半部をハケメ調整を行う。内面はハケメ調整である。口縁端部は面を取っている。Ⅱ2期頃のものと考えられる。339は土錘である。340～345は須恵器甕である。Ⅱ2～Ⅲ期頃のものと考えられる。

ピット

86P66

B10で検出されている。検出面よりの深さは約30cmである。器種は不明であるが、1267の鉄製品が出土している。

86P12N (第120・102図)

B18で検出されている。検出面よりの深さは約35cmである。308の近江型の土師器長胴甕が完形で出土している。近江では土坑に土器棺として埋納する例が湖西南部地域において多く見られるようである [大崎1993]。当出土例もおそらく土器棺と考えられ、近江での風習をそのまま持ち込んだ可能性が高い。

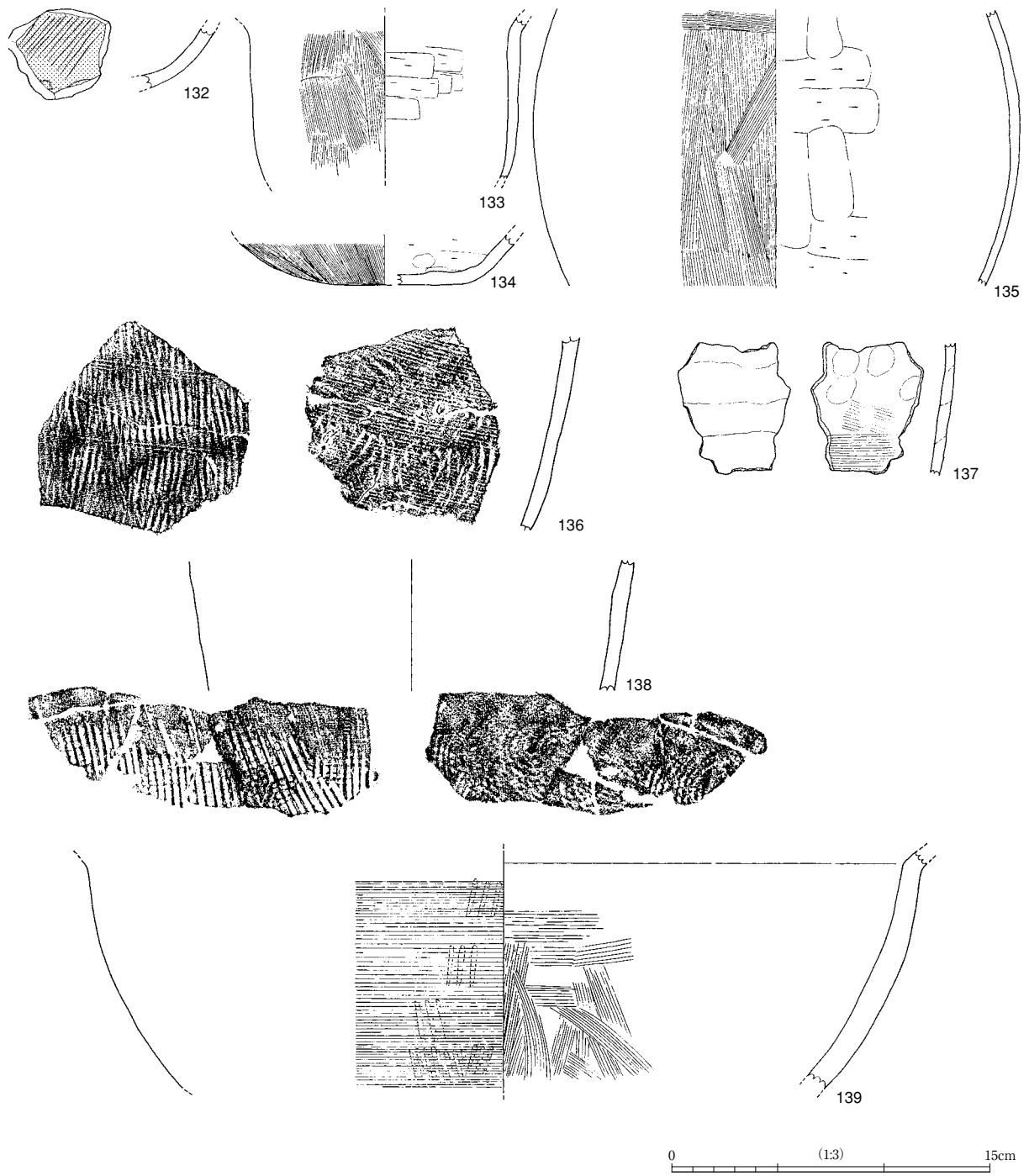
86P13N (第120・102図)

B17で検出されている。検出面よりの深さは約30cmである。304・305が出土している。304は須恵器杯A蓋、305は平瓶の口縁部破片である。いずれもⅡ1～Ⅱ2期頃のものと考えられる。

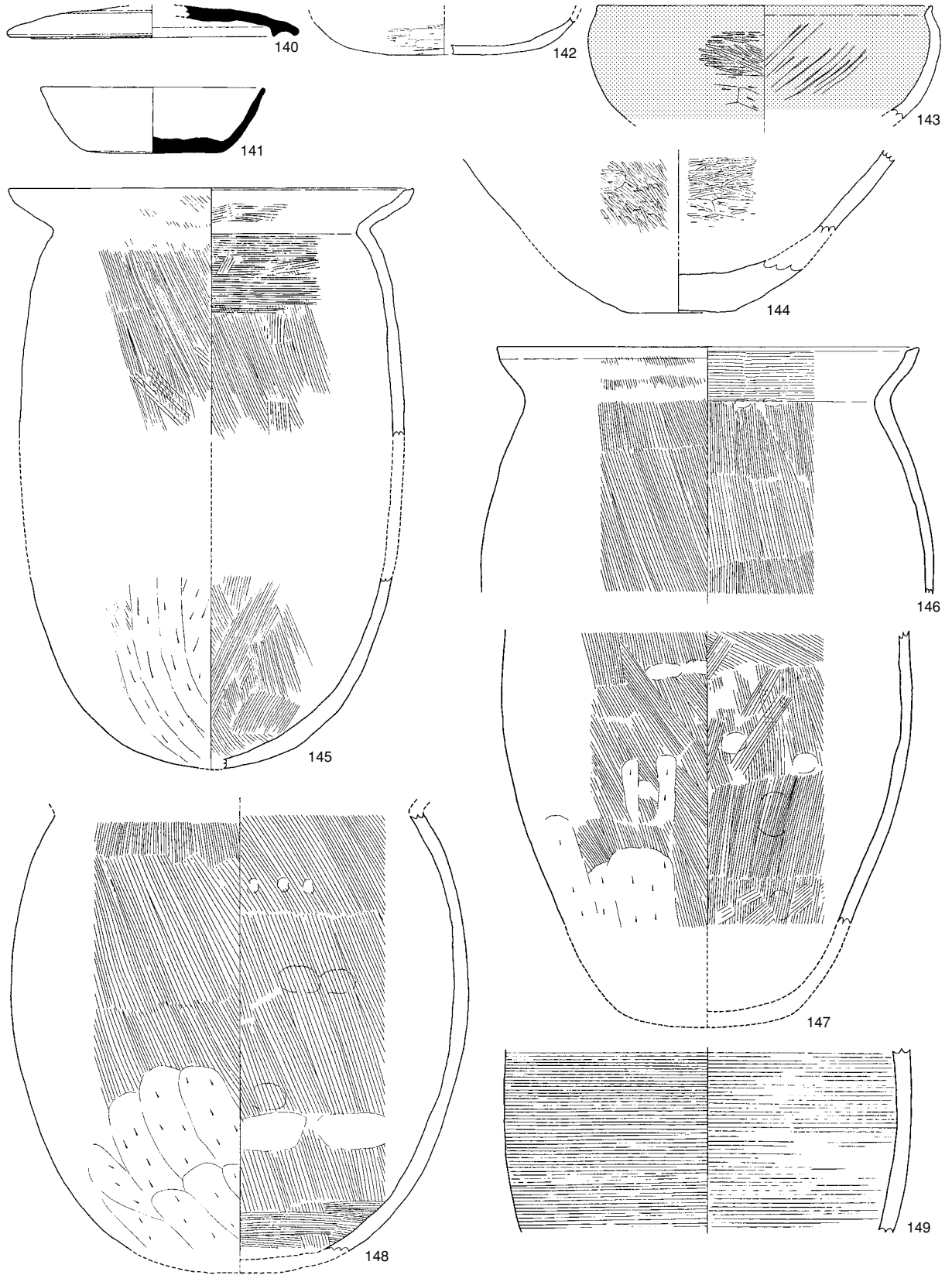
5. 包含層出土遺物

346～356は須恵器杯B蓋である。347～350はⅡ3期頃と考えられ、355・356はⅤ期頃でその他はⅣ期頃と考えられる。357～362は須恵器杯Bである。357はⅡ2期、360はⅡ3期、358・359はⅢ期、361・362はⅣ期頃と考えられる。363～365は須恵器皿Bである。364の底部外面には「八十」と墨書されている。2文字であるのか1文字であるのか不明である。これら皿BはⅥ期と考えられる。366は須恵器高杯である。Ⅱ期頃のものであろうか。367は須恵器で稜椀の体部破片であろうか。Ⅳ期頃のものと考えられる。368は須恵器で短頸壺の底部破片と考えられる。369・370は須恵器椀である。Ⅱ期頃のものと考えられる。371～375は須恵器杯Aである。372はⅡ期、371・373はⅢ期、374はⅤ期、375はⅥ期と考えられる。376・377は須恵器盤Aである。いずれもⅤ期のものと考えられる。378は須恵器鉄鉢である。Ⅱ3～Ⅳ期頃と考えられる。379は内黒土師器椀である。Ⅶ期のものと考えられる。380は土師器高杯の脚部破片と考えられる。Ⅰ期頃のものであろうか。381・382は土師器小甕である。いずれも内外面にカキメ調整が施されている。Ⅱ3～Ⅲ期頃のものと考えられる。383～388は土師器長胴甕である。383はⅥ期頃のものと考えられ、384・386・387はⅡ3～Ⅲ期、385はⅡ2～Ⅱ3期、388はⅢ～Ⅳ期頃と考えられる。389は土師器鍋である。Ⅱ2～Ⅱ3期頃のものであろう。390は把手付の鍋である。内外面にカキメ調整が施されている。Ⅱ2～Ⅱ3期頃のものであろう。391は須恵器の把手付鉢である。Ⅱ3～Ⅲ期頃のものであろう。392は須恵器長頸瓶である。Ⅱ3～Ⅲ期頃のものであろう。393は短頸壺である。Ⅲ～Ⅳ期頃のものであろうか。394は須恵器長頸瓶である。Ⅲ～Ⅳ期頃のものであろう。395は短頸壺蓋である。Ⅲ期頃のものであろうか。396は上が短頸壺の口縁部破片で、下が長頸瓶である。底部には亀板の痕跡が明瞭に残る。短頸壺がⅢ期頃、長頸瓶はⅣ～Ⅴ期頃のものであろう。397は須恵器平瓶の口縁部破片である。Ⅱ～Ⅲ期頃のものであろう。398は須恵器長頸瓶である。Ⅴ期頃のものであろうか。399は須恵器広口瓶である。Ⅲ期頃のものであろう。400・401は須恵器横瓶である。Ⅱ～Ⅲ期頃のものであろう。402～406は須恵器甕である。Ⅱ2～Ⅲ期頃のものであろう。407は土師器で置きカマドの破片である。Ⅱ2期のものであろうか。408はフィゴの羽口である。409は土錘である。包含層の出土遺物を見るとⅡ期～Ⅶ1期頃までの資料が見られる。

410は軒丸瓦である。辰口町湯屋古窯跡の製品で間違いはない。単弁6葉蓮華文軒丸瓦で、外区に鋸歯文を入れる。411は平瓦で、これも湯屋古窯跡の製品であろう。凸面には斜格子文が明瞭に見ら

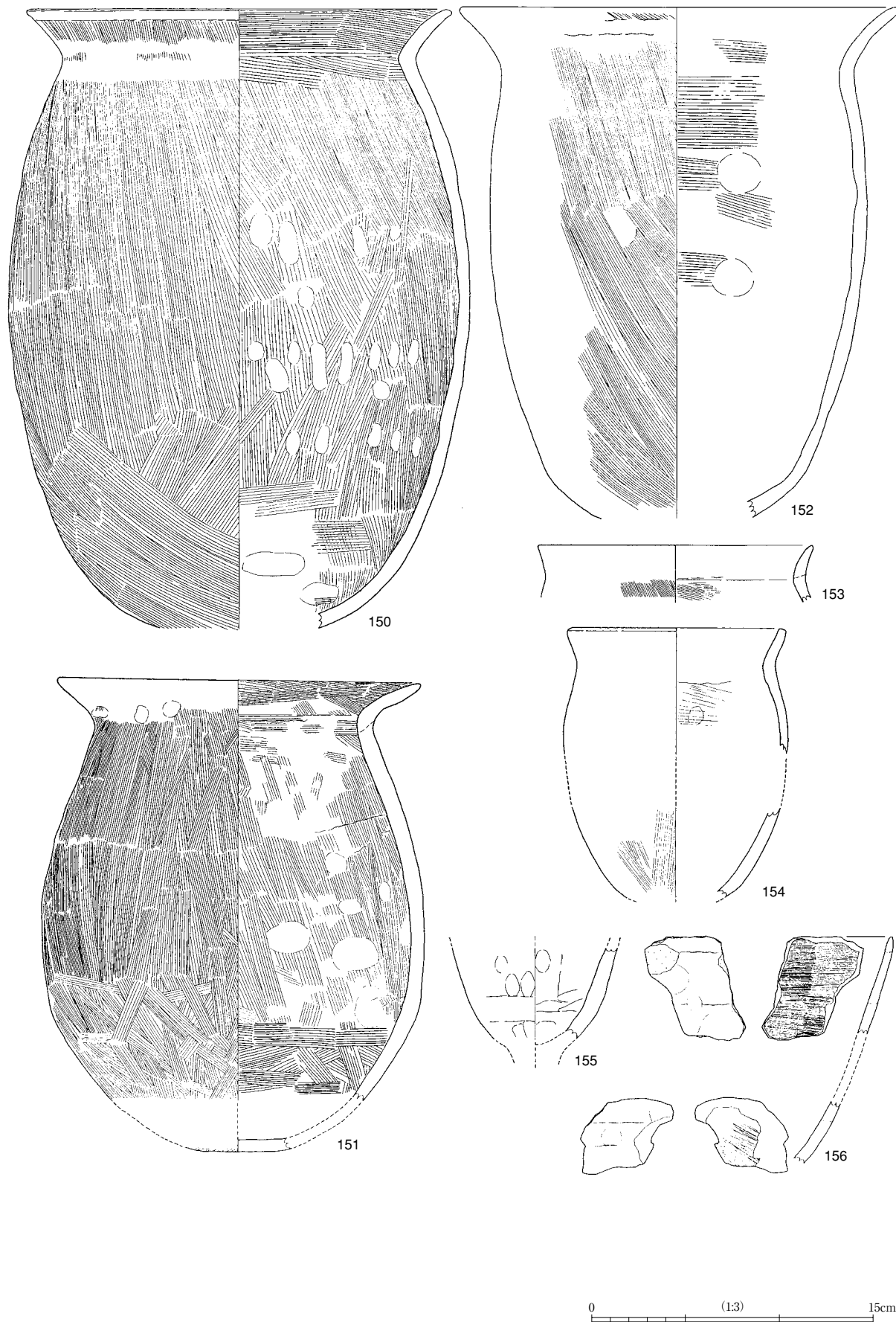


第91図 86SI01出土遺物実測図

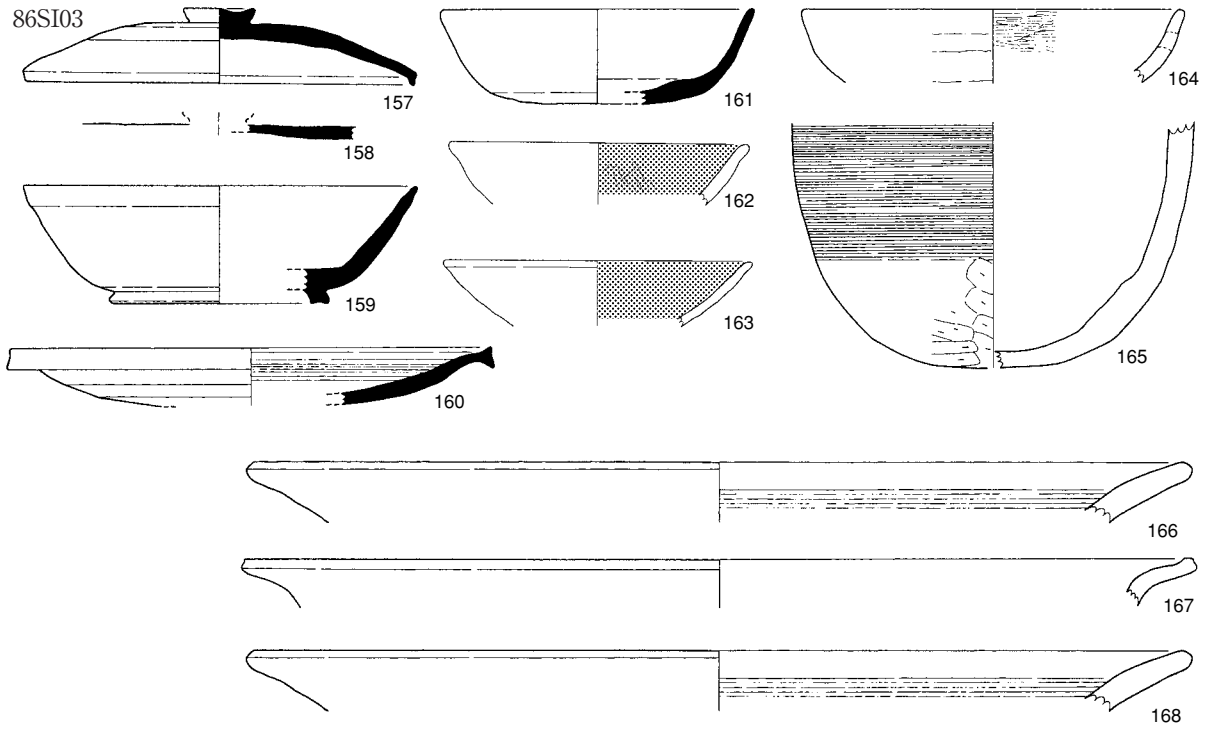


0 (1:3) 15cm

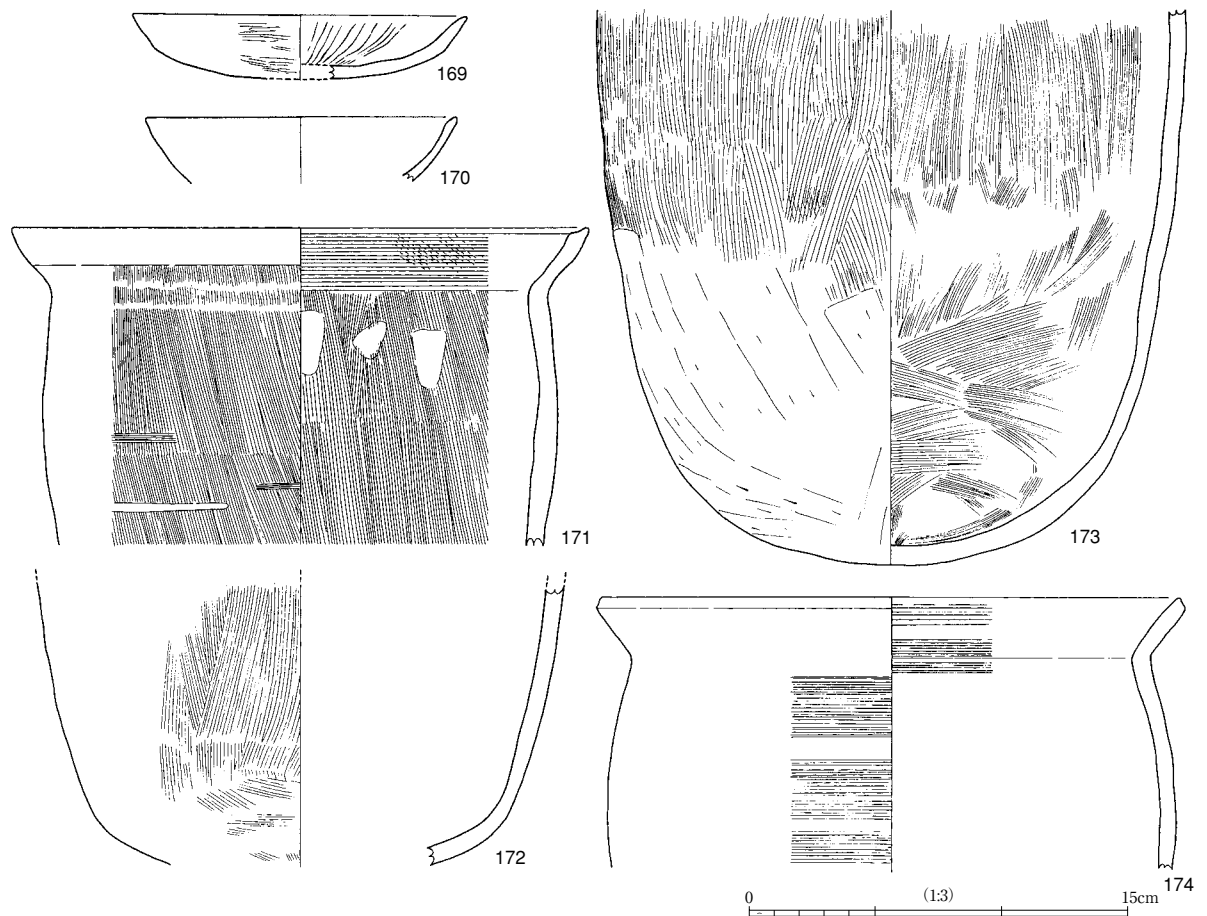
第92図 86SI02出土遺物実測図1



第93図 86SI02出土遺物実測図2

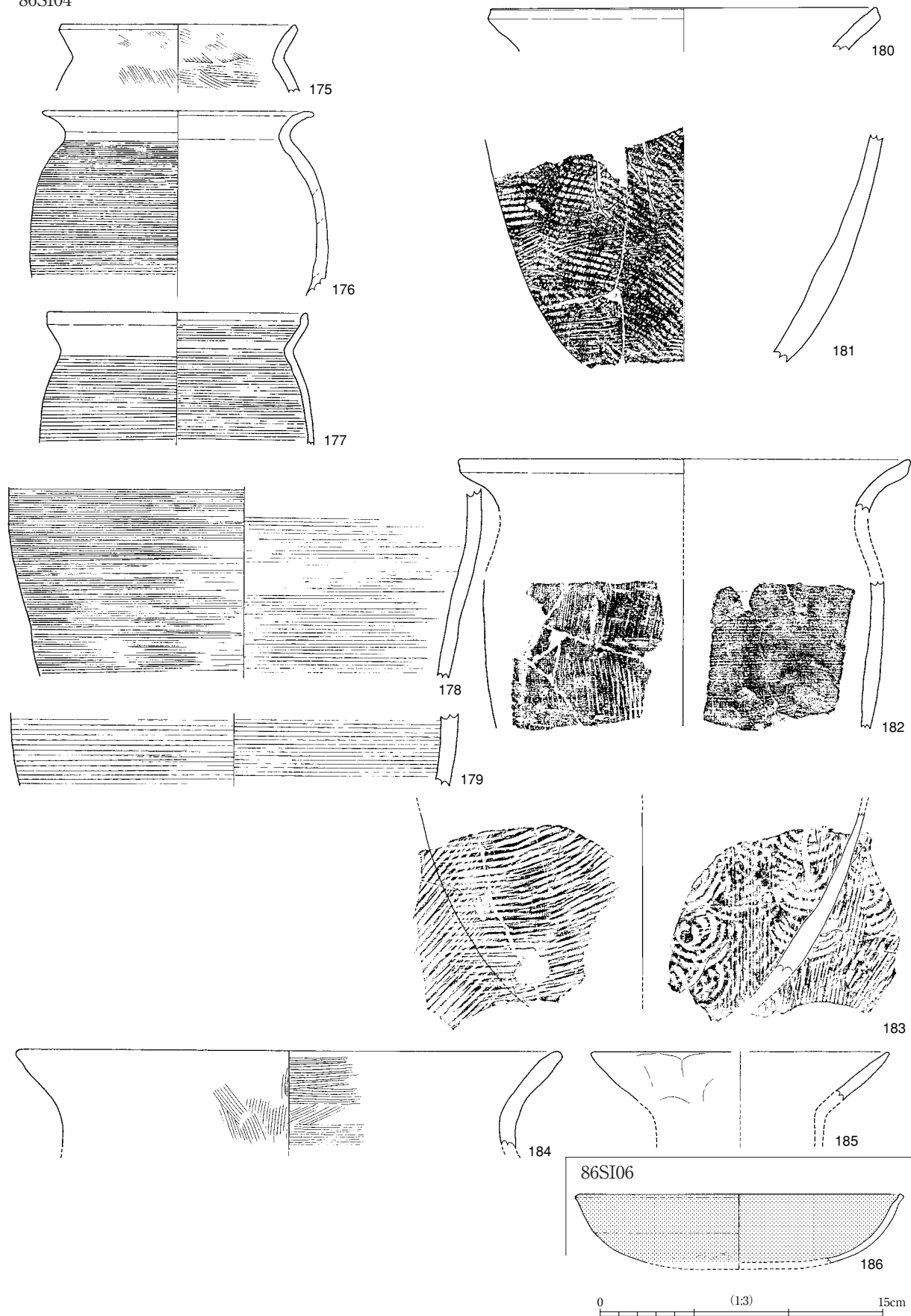


86SI04



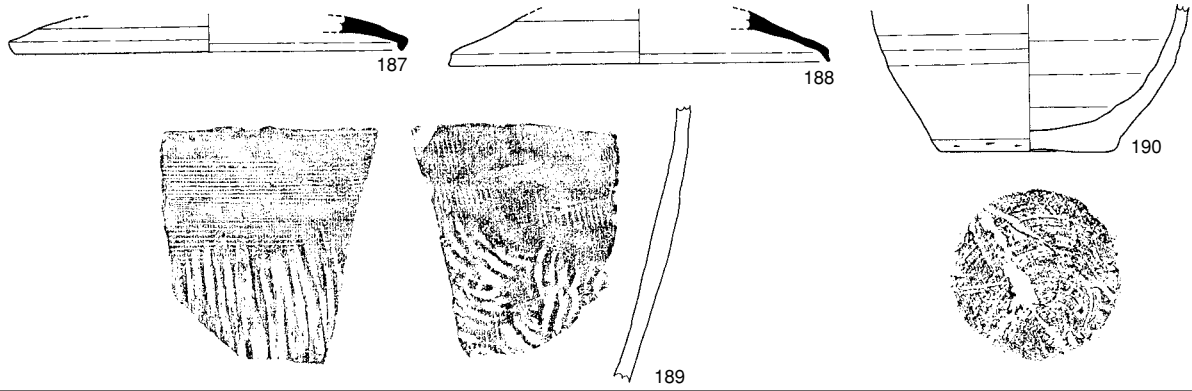
第94図 86SI03・04出土遺物実測図

86SI04

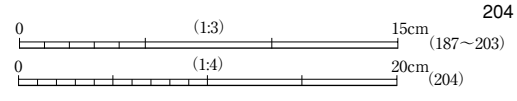
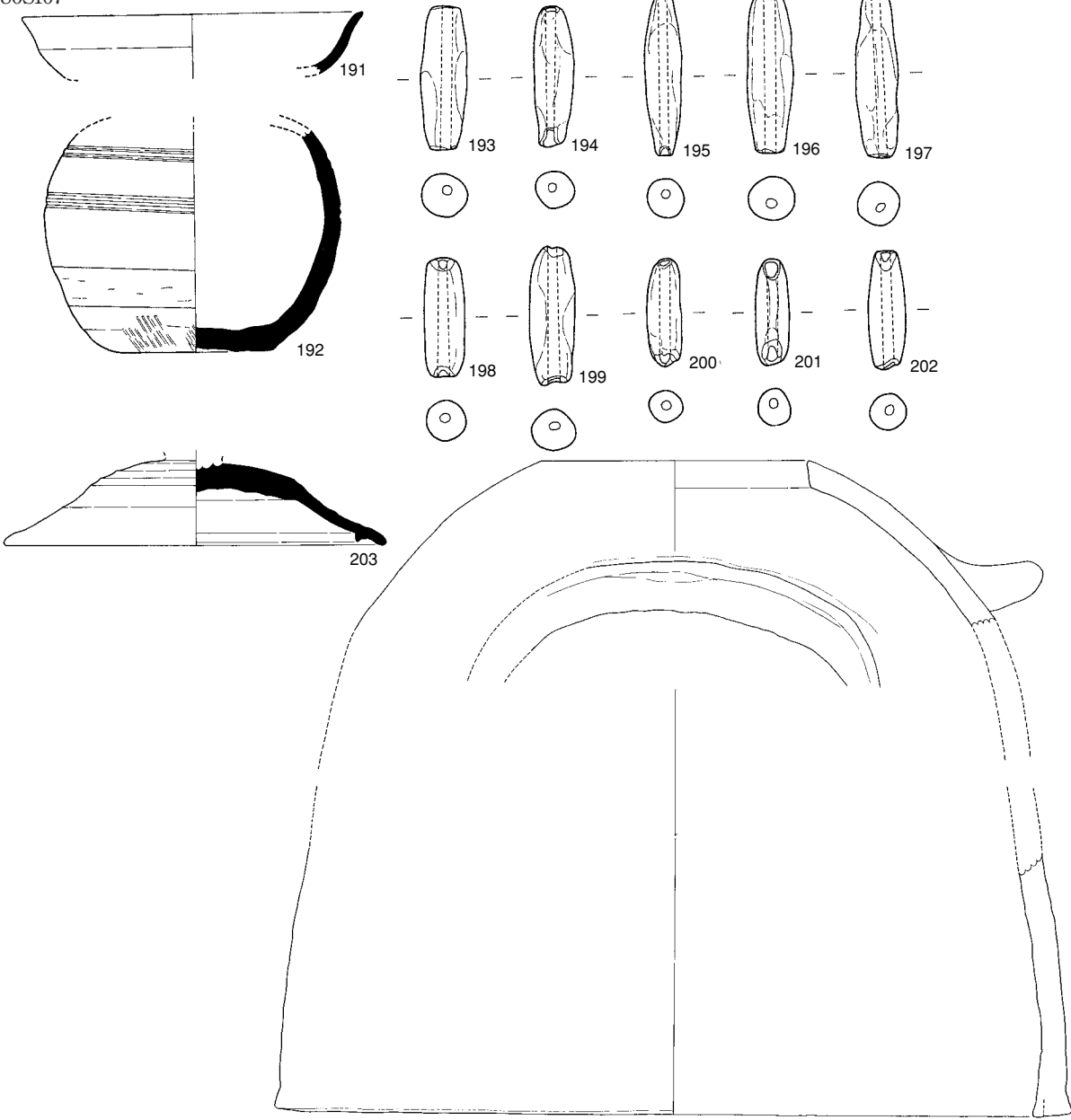


第95図 86SI04・06出土遺物実測図

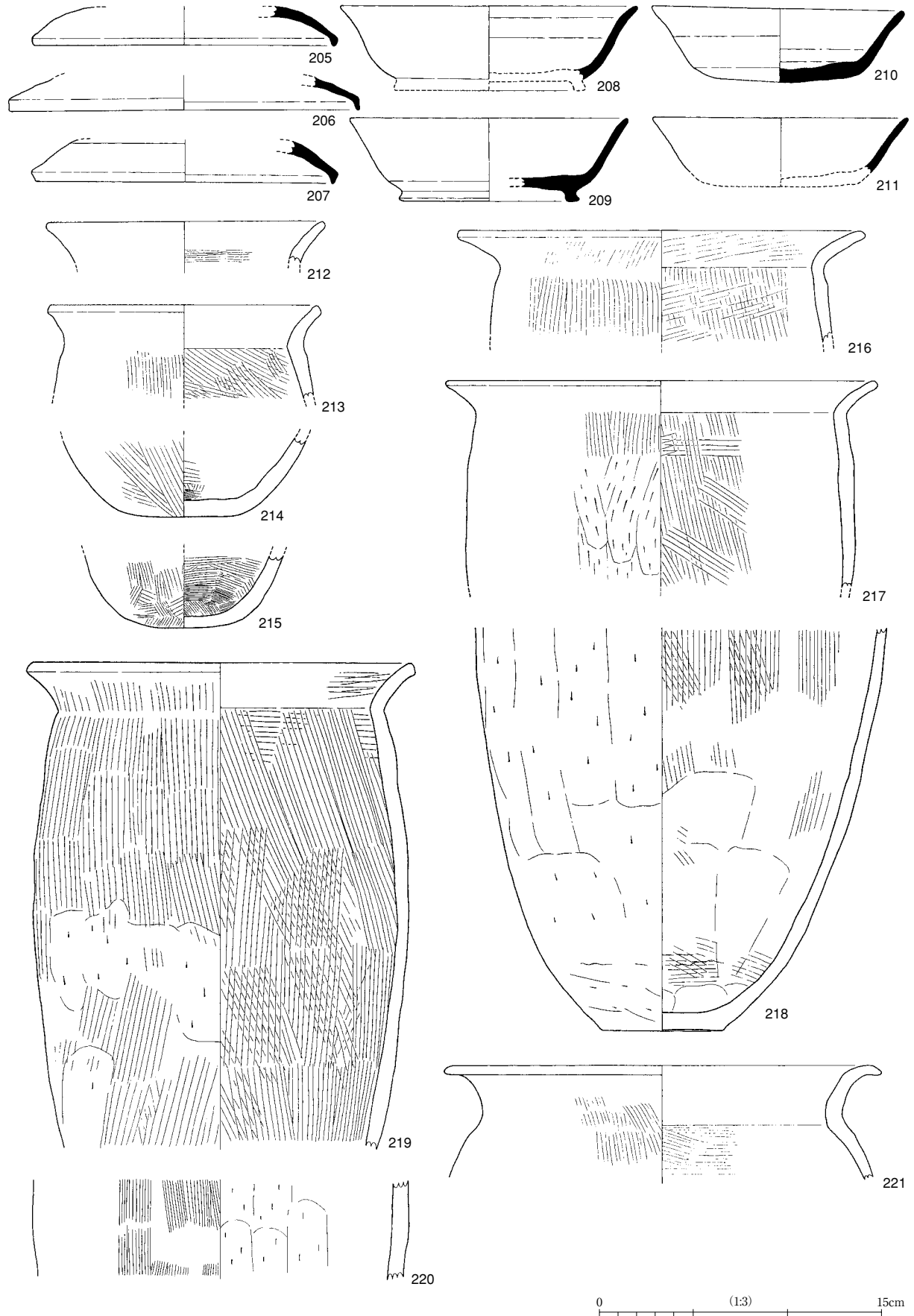
86SI05



86SI07



第96図 86SI05・07出土遺物実測図

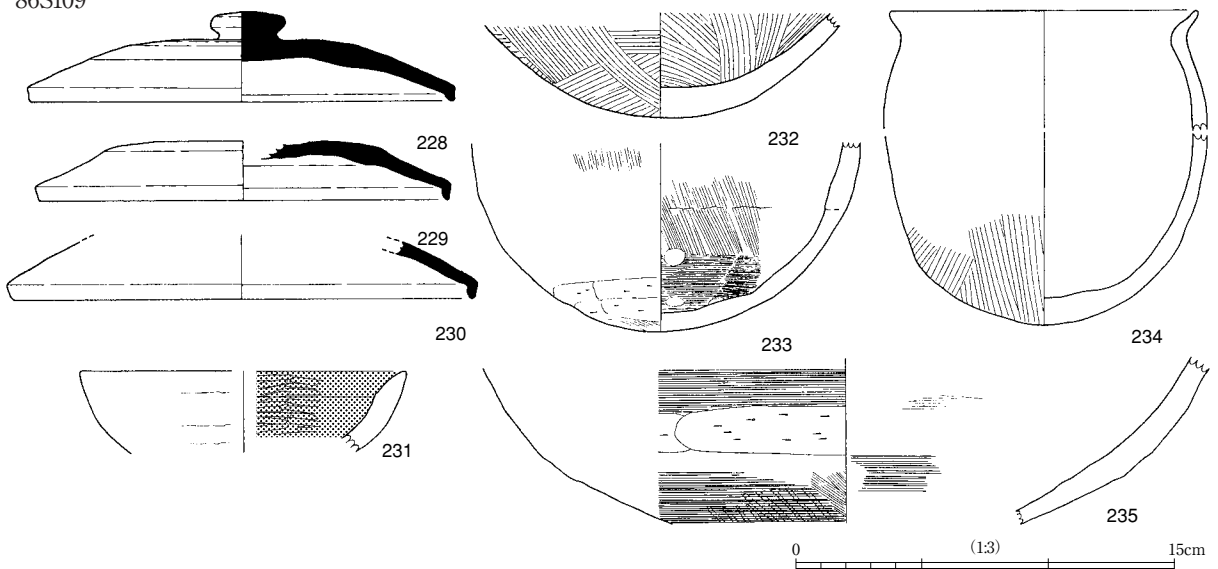


第97図 86SI08出土遺物実測図

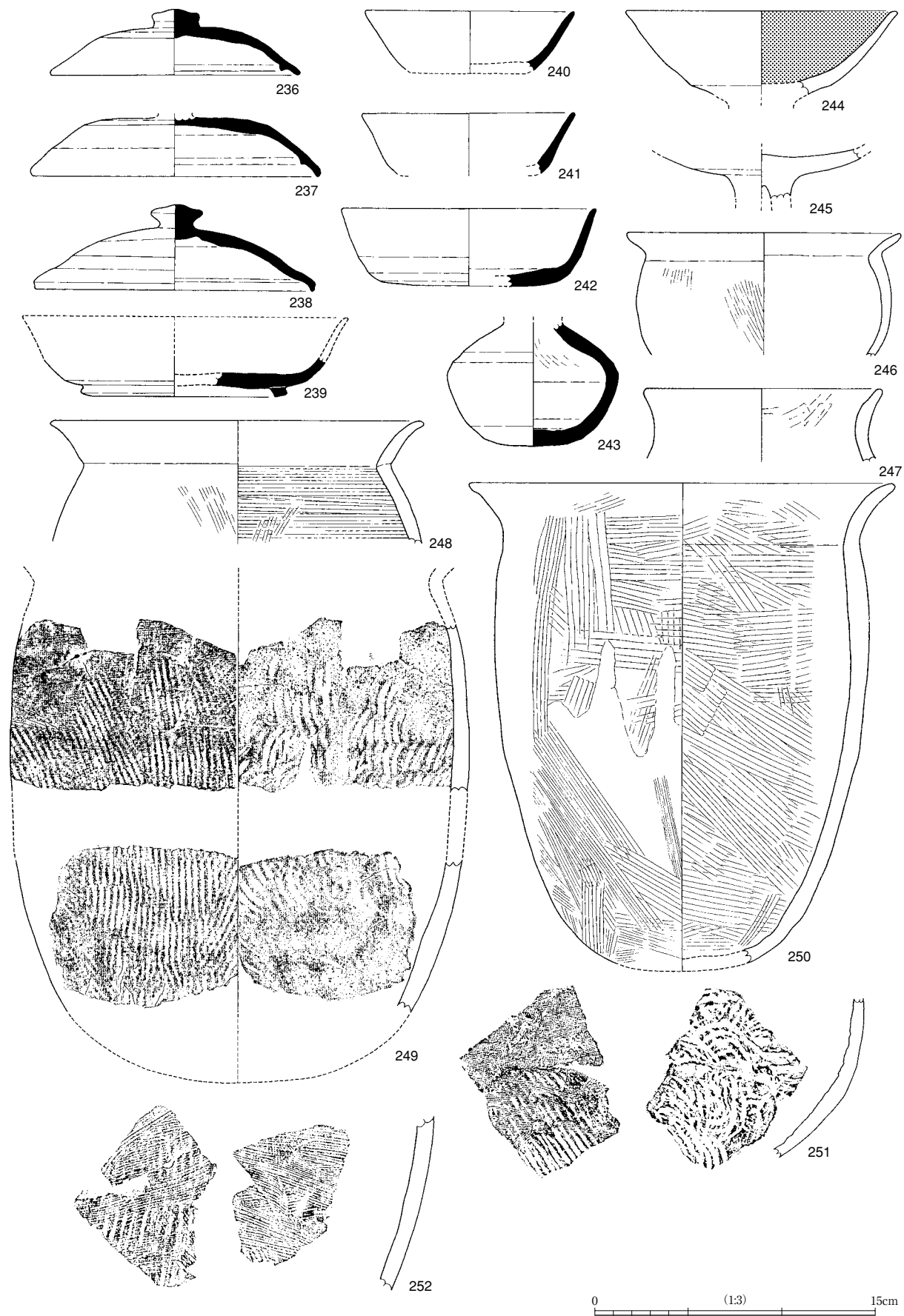
86SI08



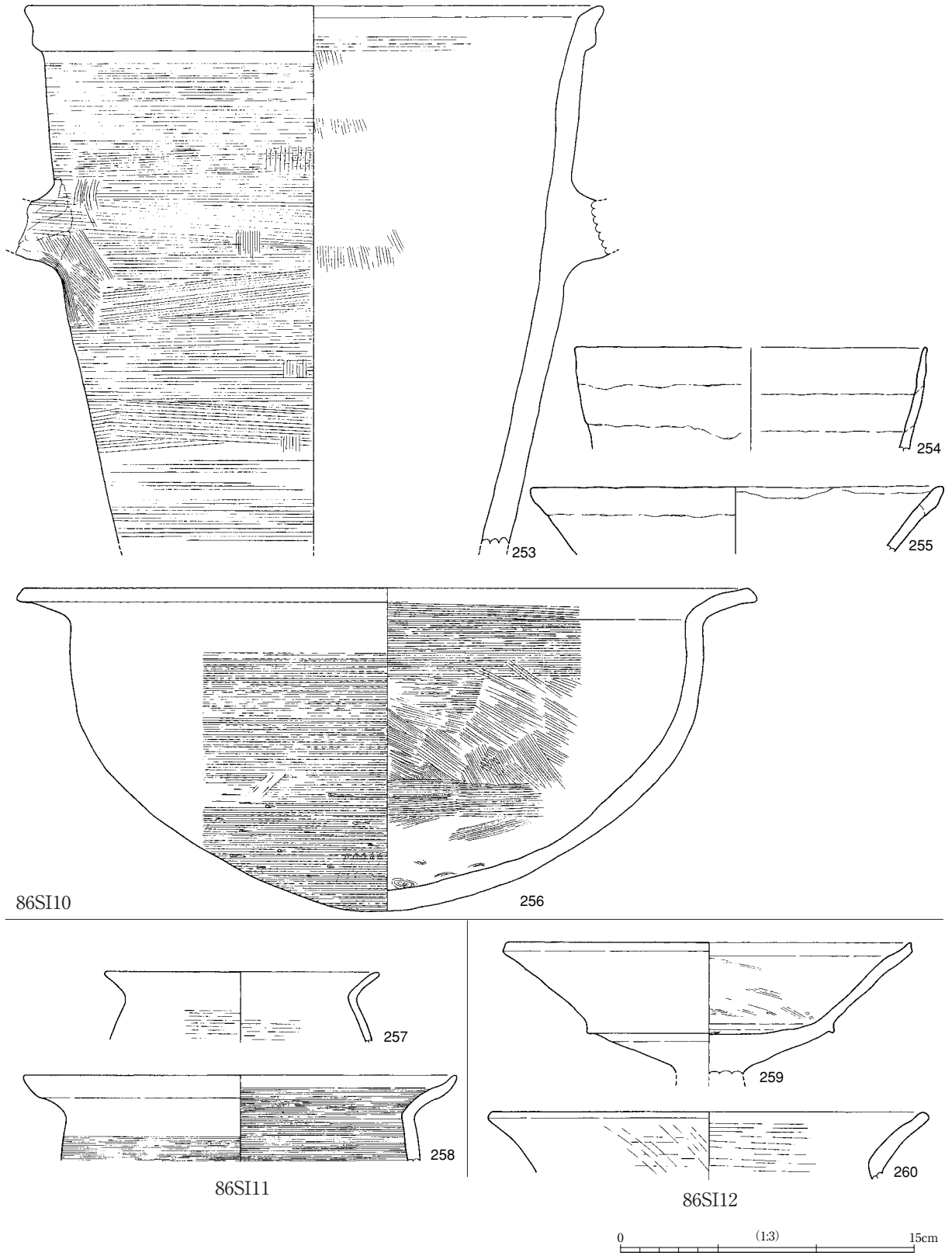
86SI09



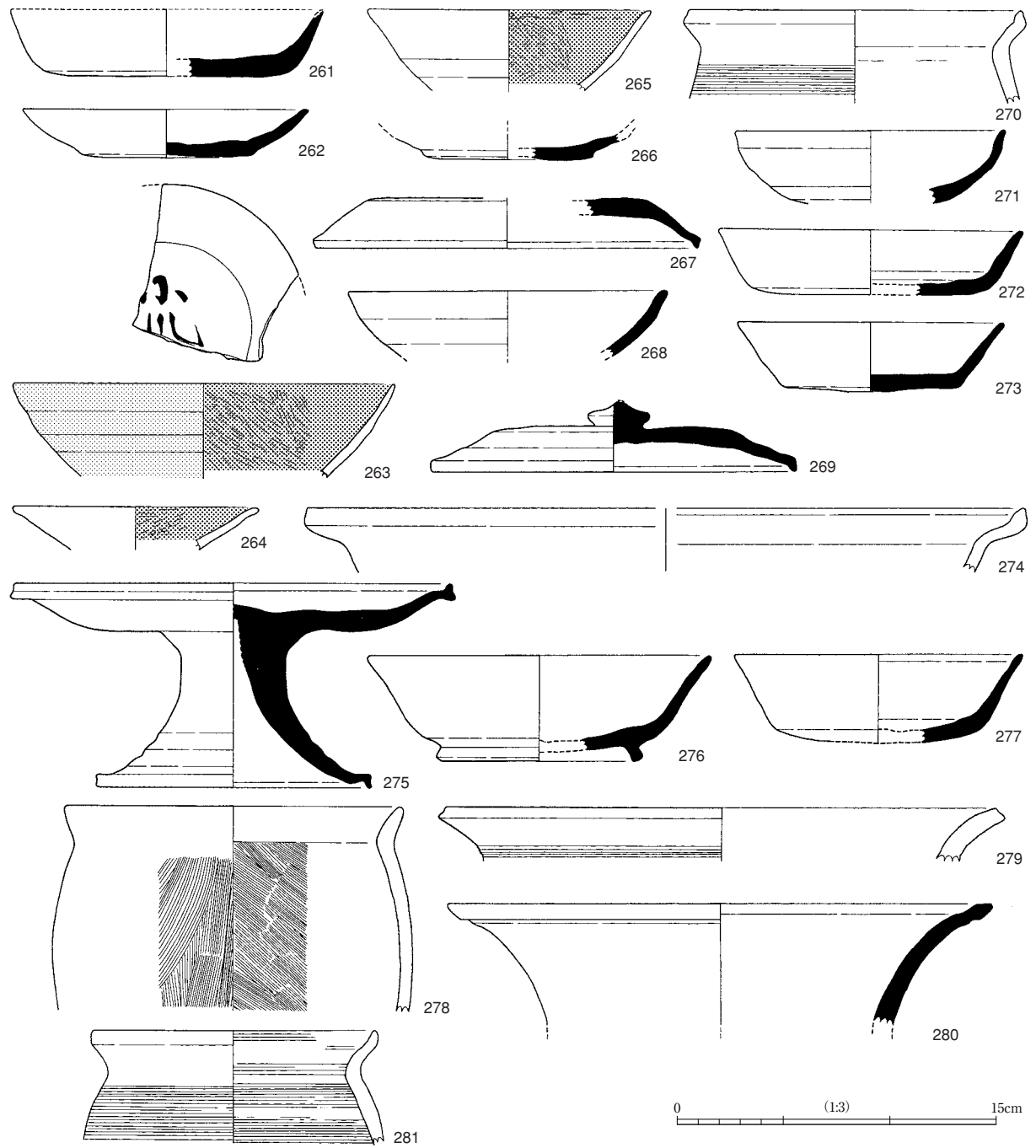
第98図 86SI08・09出土遺物実測図



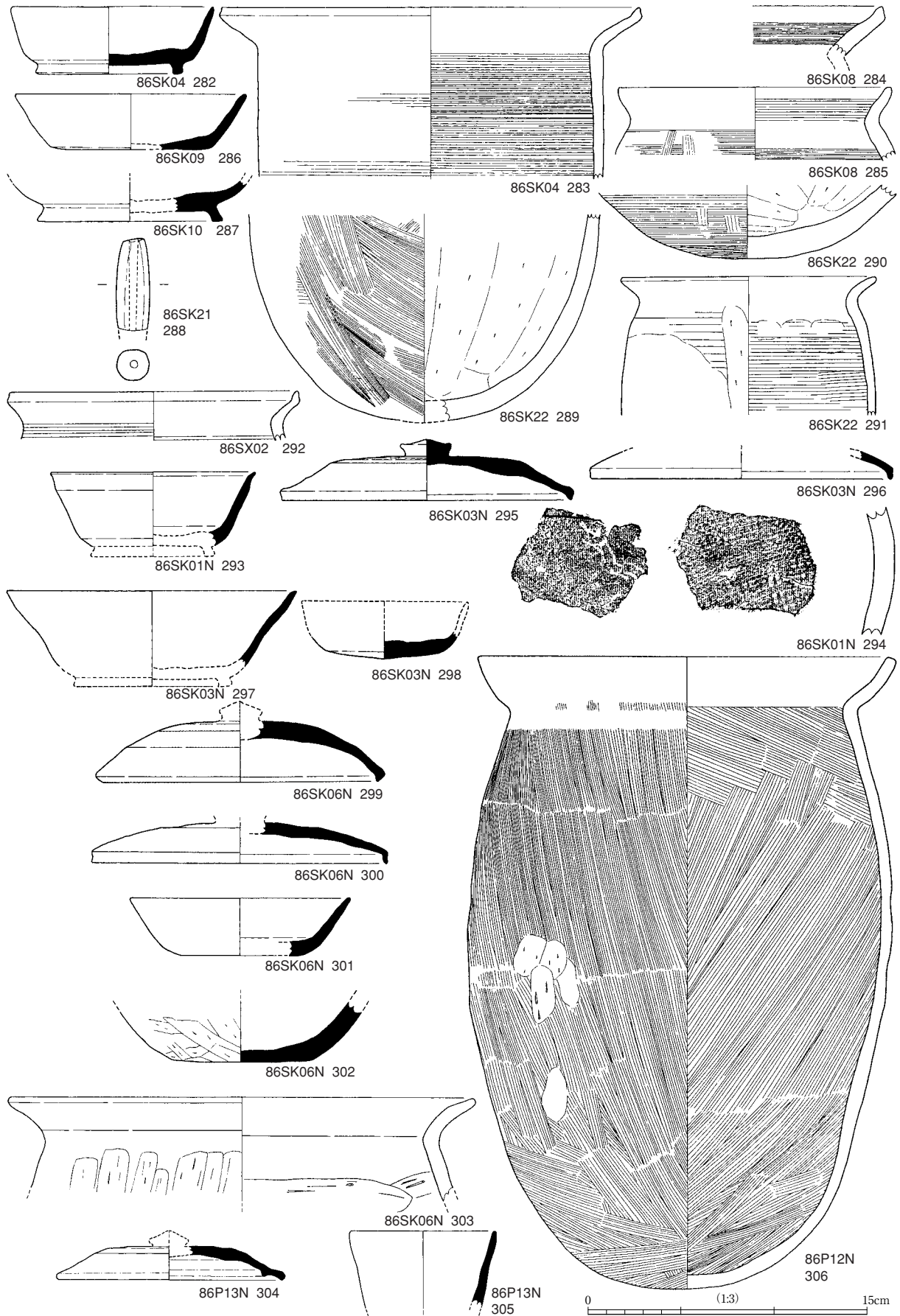
第99図 86SI10出土遺物実測図



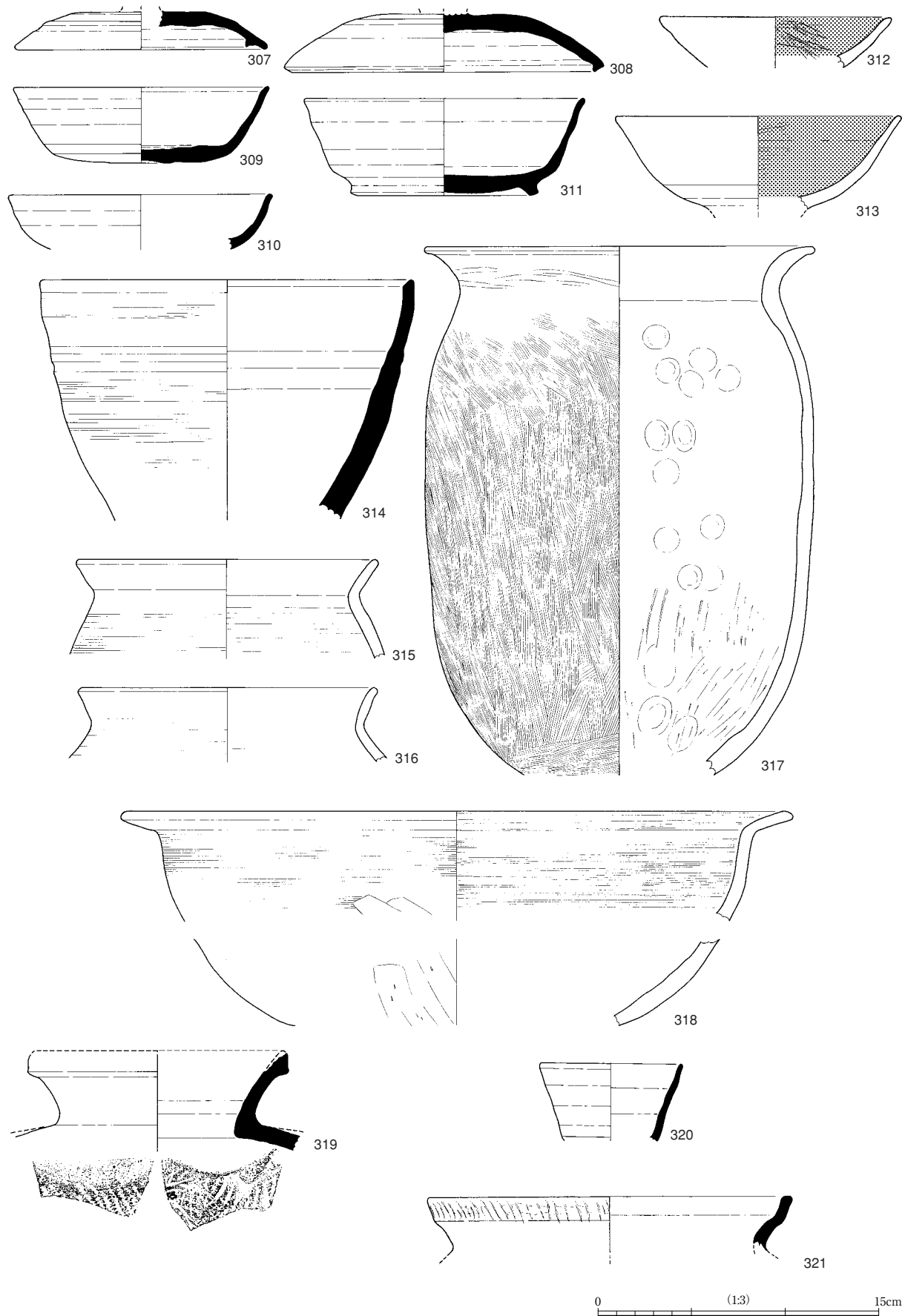
第100図 86SI10・11・12出土遺物実測図



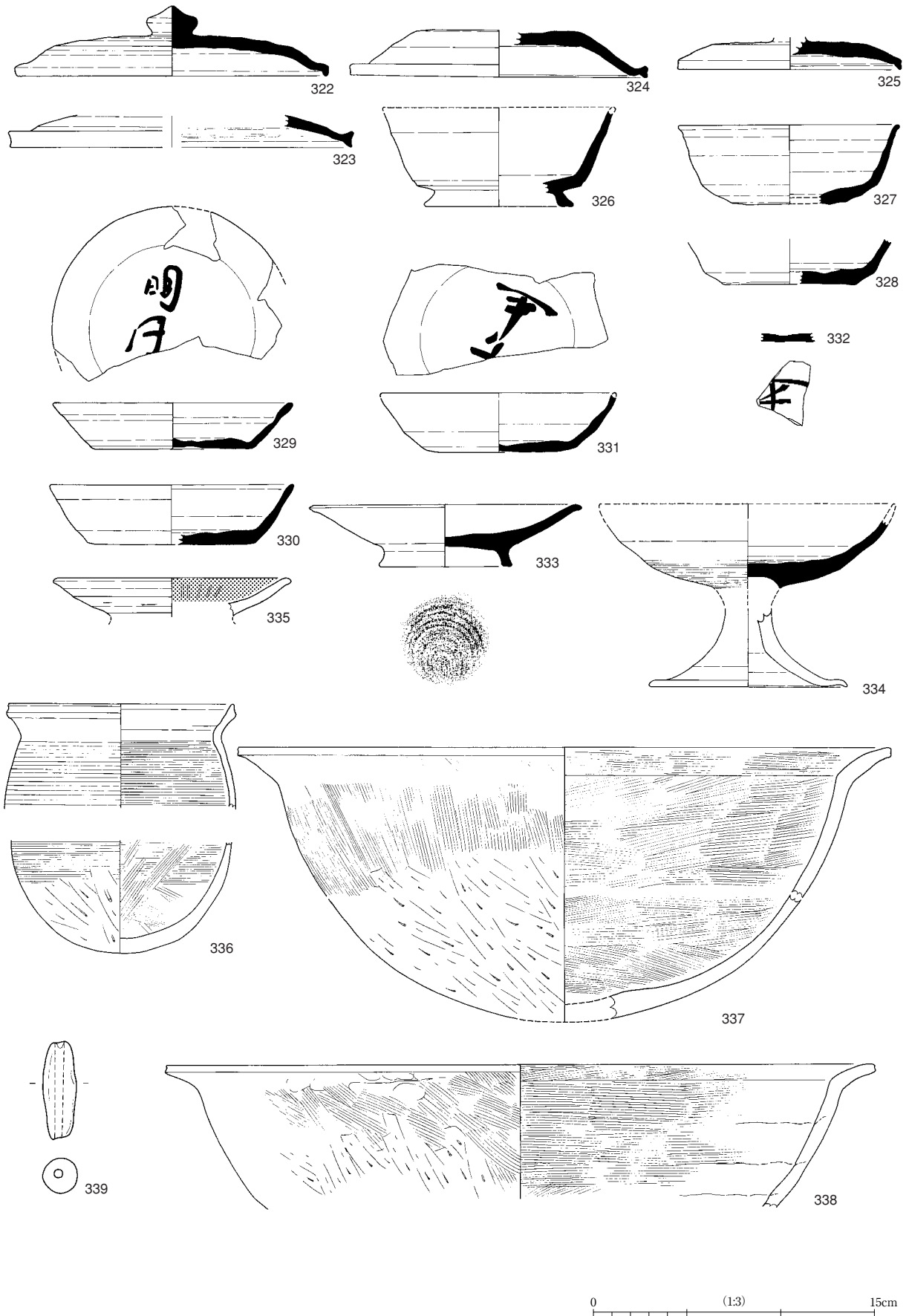
第101図 86ピット出土遺物実測図



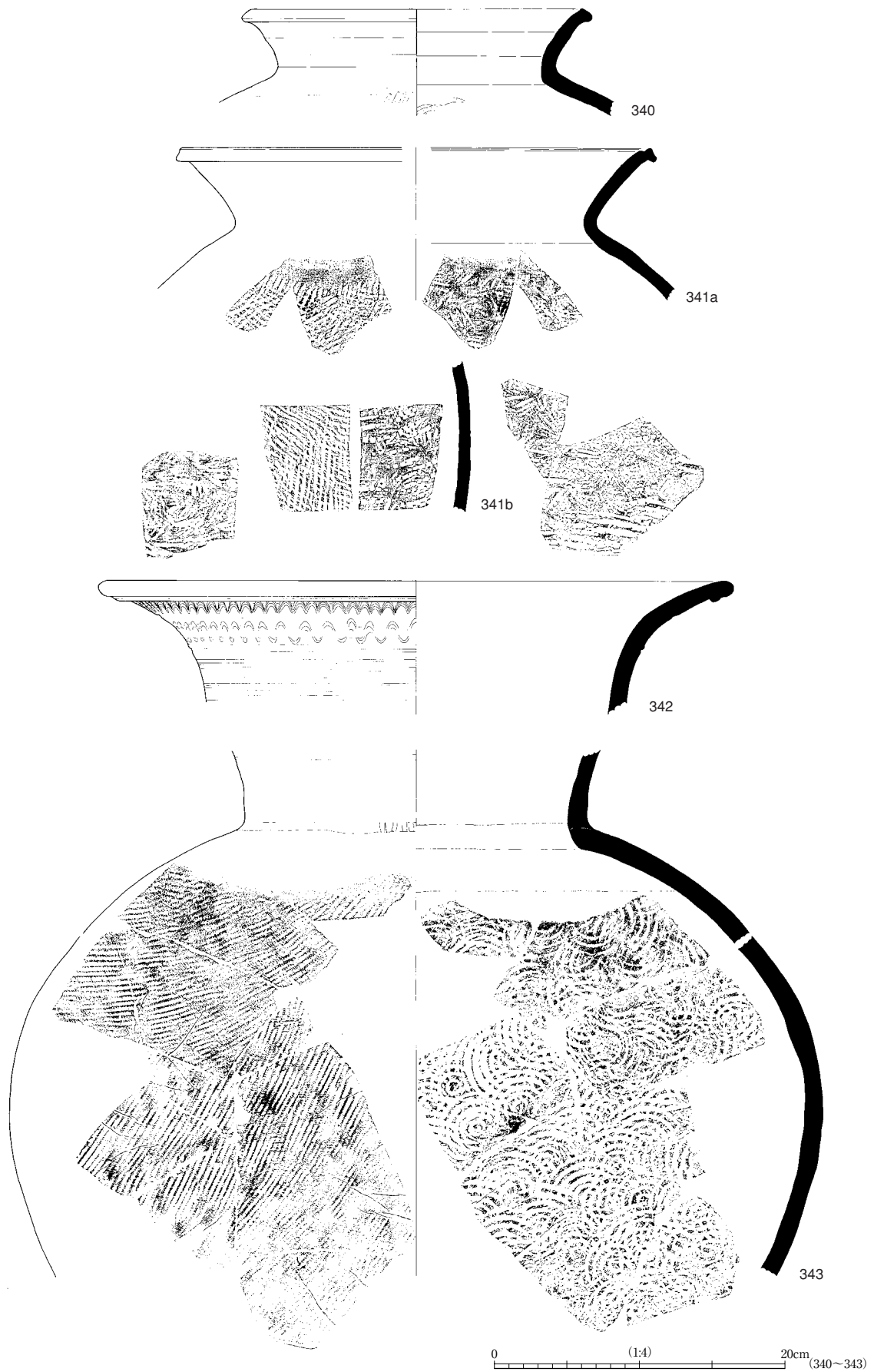
第102図 86土坑・ピット出土遺物実測図



第103図 86SK01S出土遺物実測図



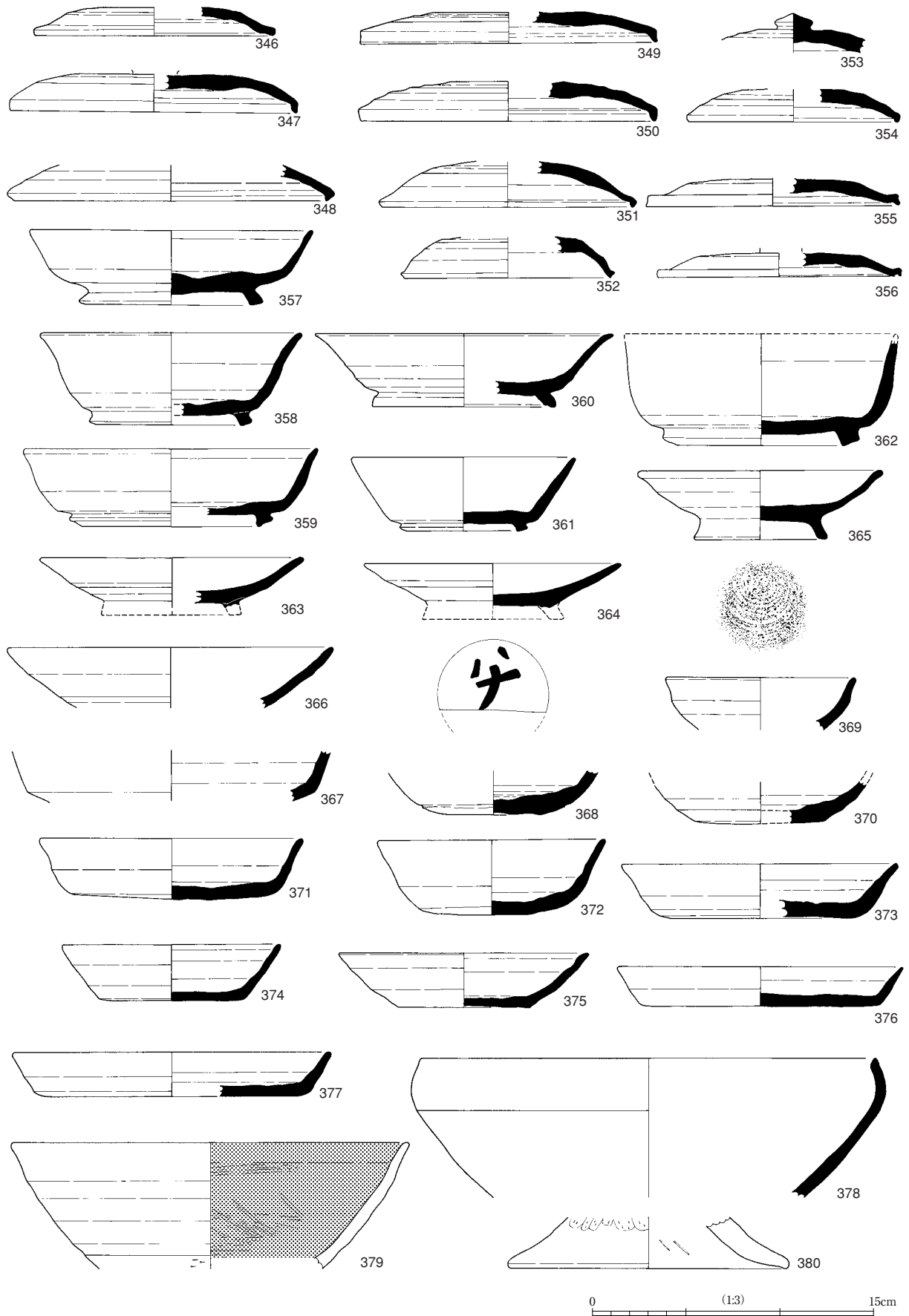
第104図 86河道出土遺物実測図1



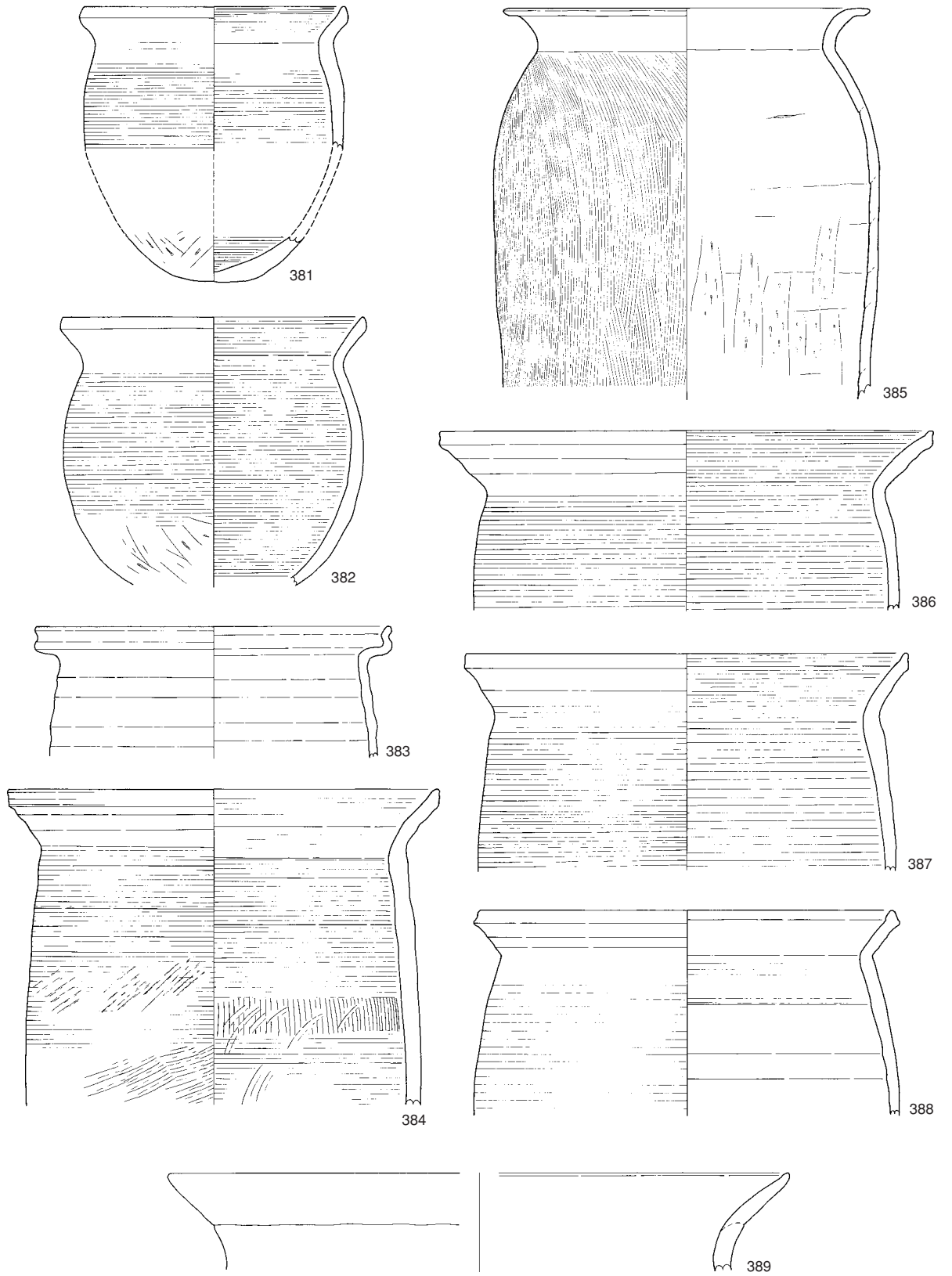
第105図 86河道出土遺物実測図2



第106図 86河道出土遺物実測図3

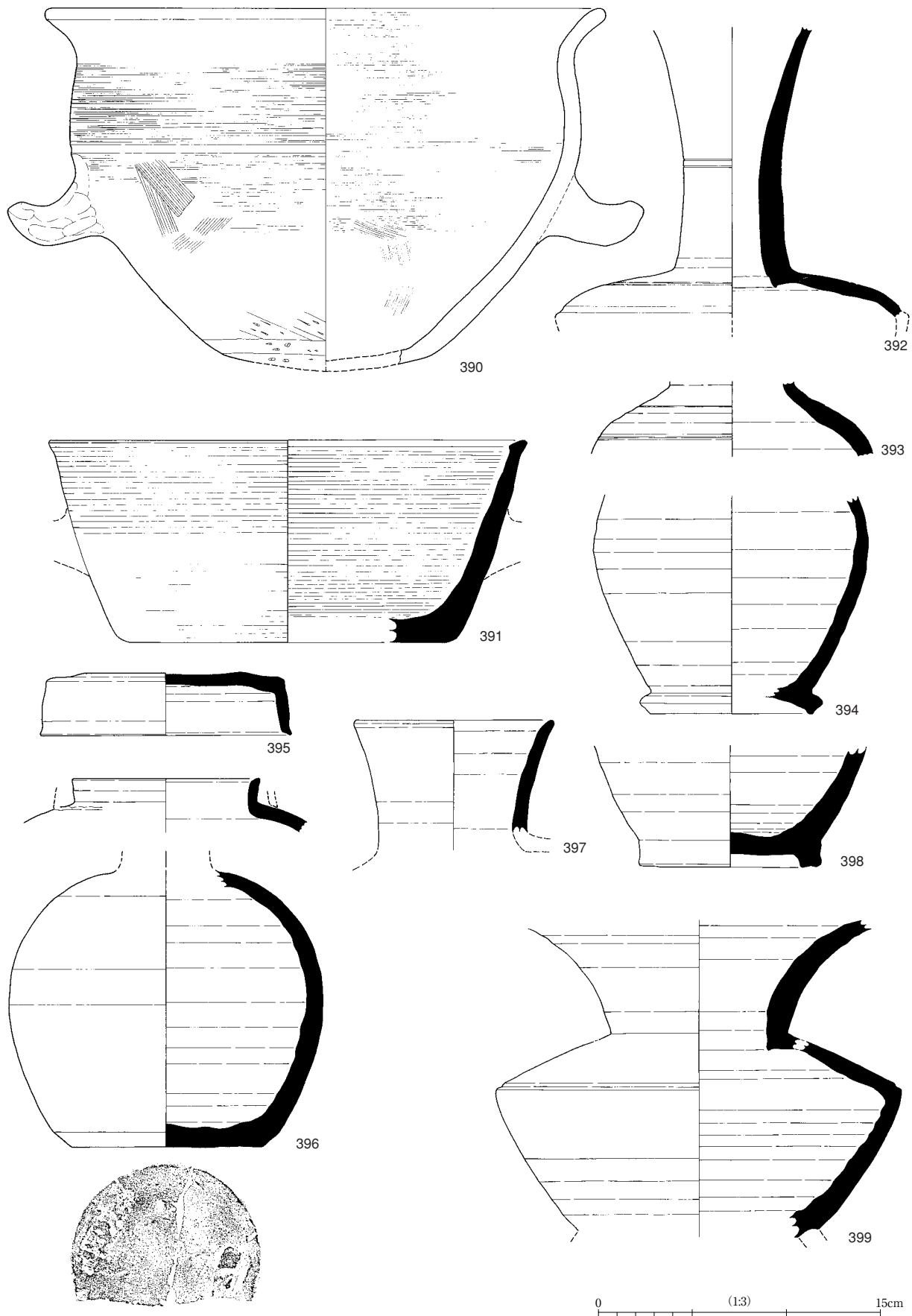


第107図 86包含層出土遺物実測図1

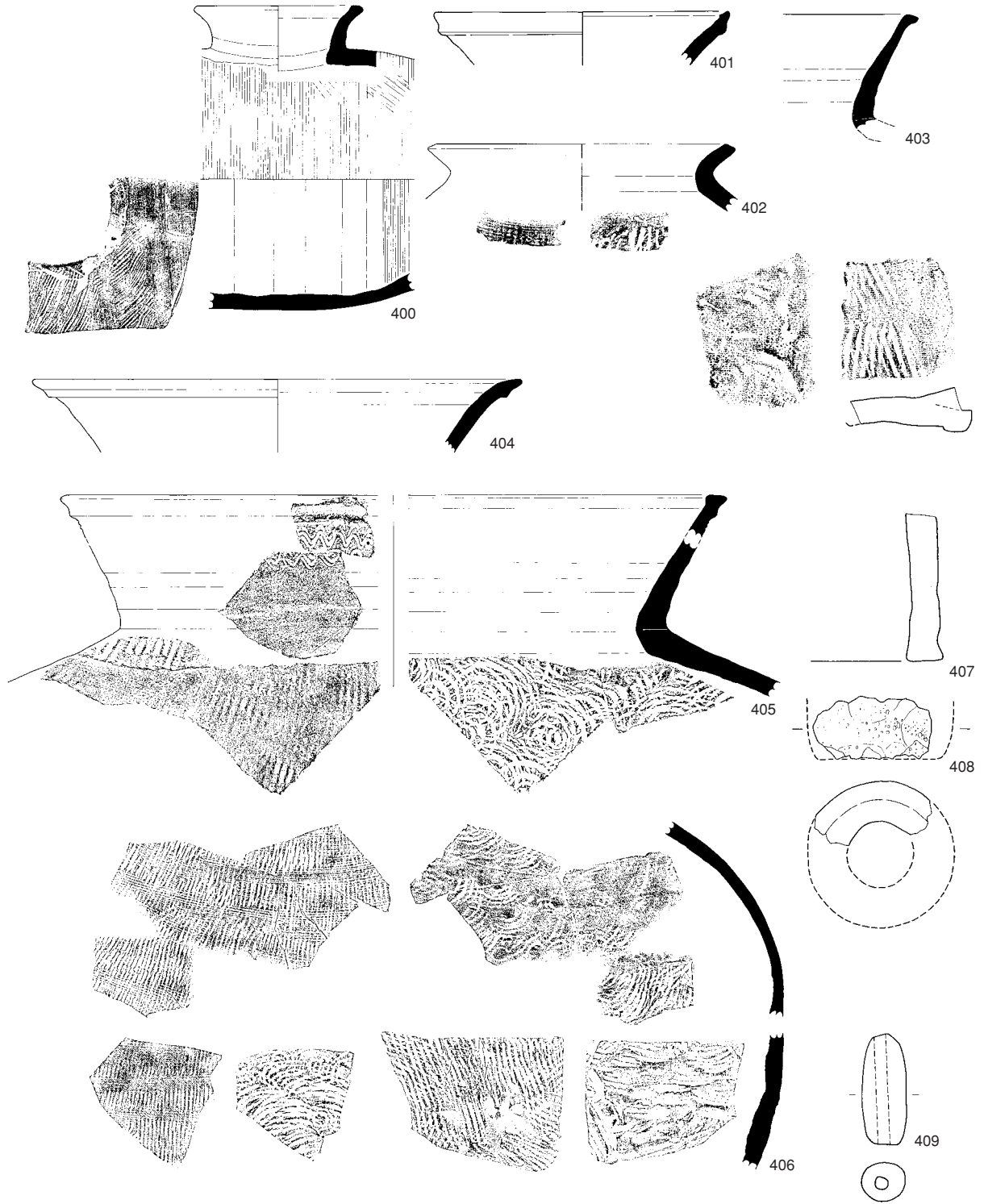


0 (1:3) 15cm

第108図 86包含層出土遺物実測図2



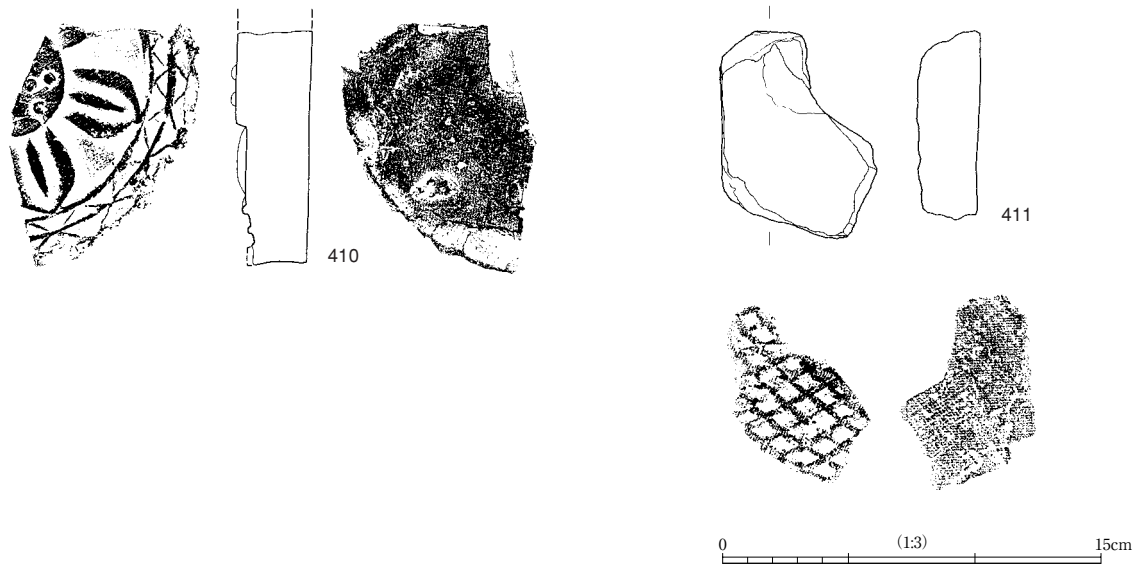
第109図 86包含層出土遺物実測図3



0 (1:3) 15cm (401・407~409)

0 (1:4) 20cm (400・402~406)

第110図 86包含層出土遺物実測図4



第111図 86包含層出土遺物実測図5

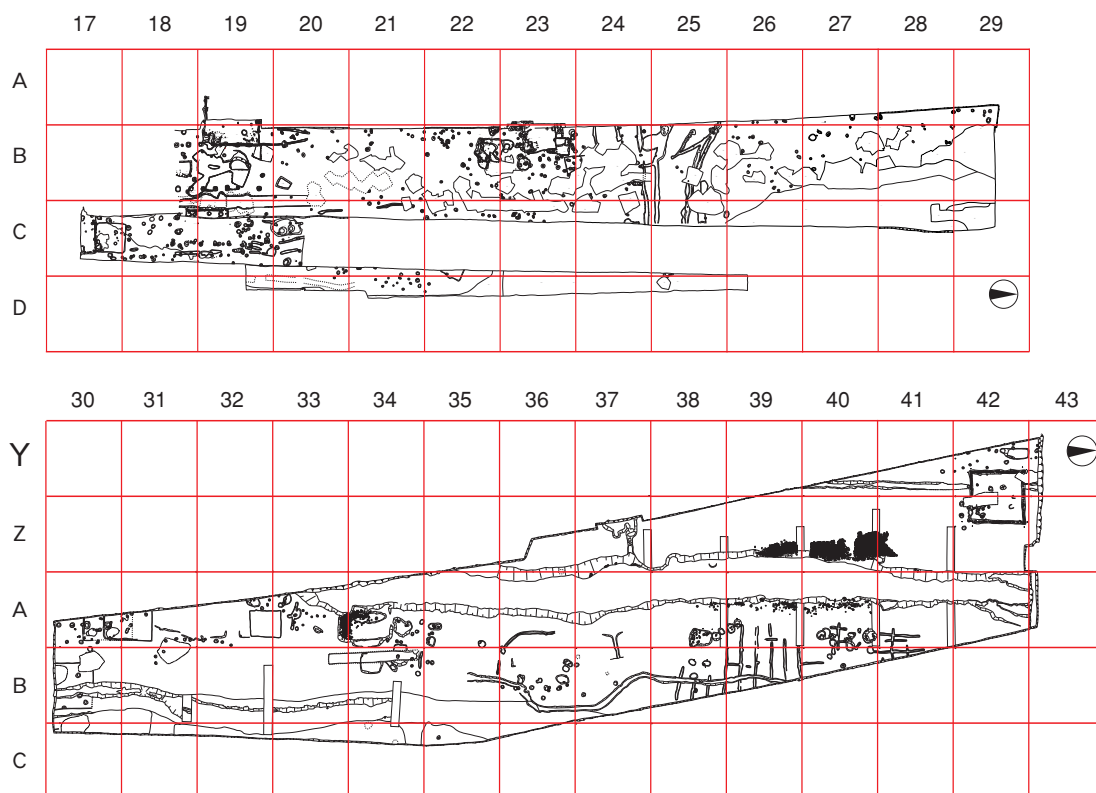
れ、酸化冷却であり末松廃寺出土平瓦Ⅱ類にあたる [木立1985]。これら瓦の時期は概ねⅡ2期に位置づけられている。

第4節 1987年度の発掘調査

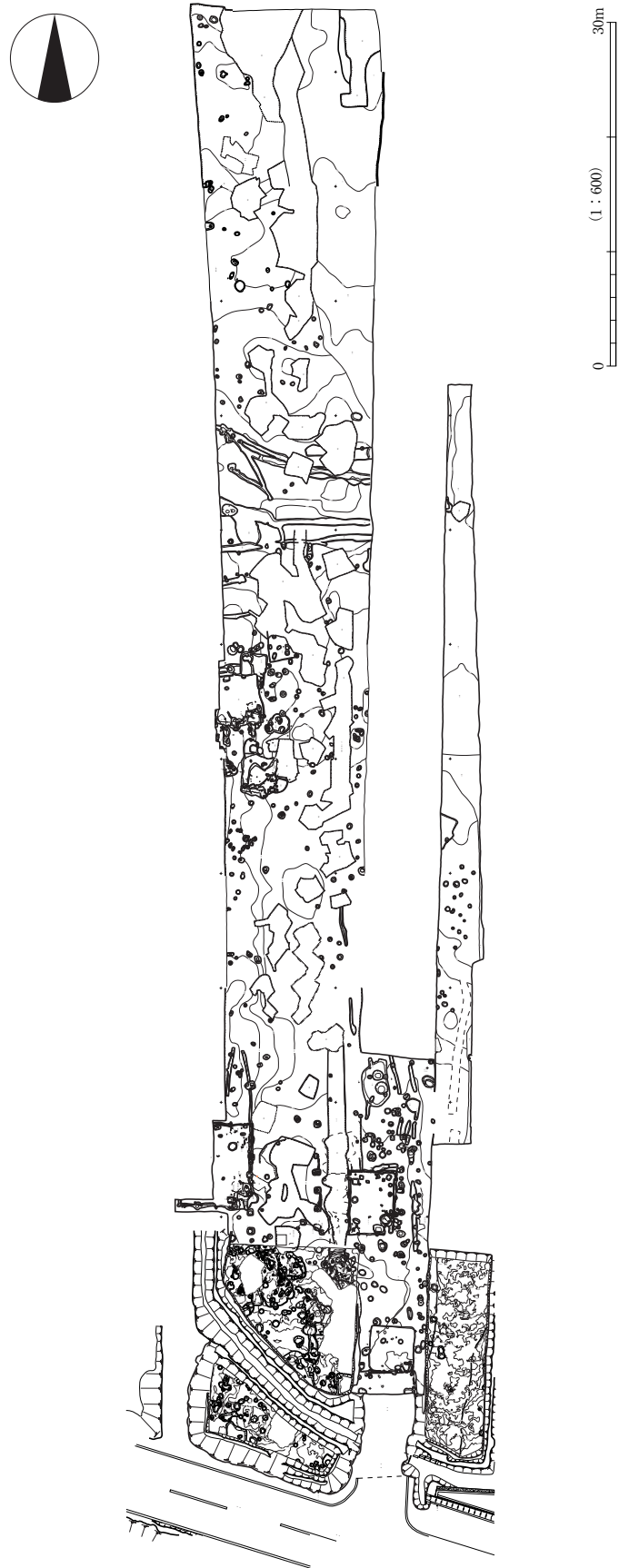
1. 調査の概要

現地調査は1987（昭和62）年6月24日～11月19日まで行われた。発掘調査面積は、南北に約260m、東西に約20mの範囲の内、農道等を除く4,000m²である。遺構検出面の標高は、1986年度調査区と接する部分では36.8m、北端では35.0mとなっている。17ラインから29ラインの調査区においては、遺構の密度が薄いという理由から手実測により遺構平面図が作成されている。30から43ラインの調査区においては、空中写真測量が行われている。

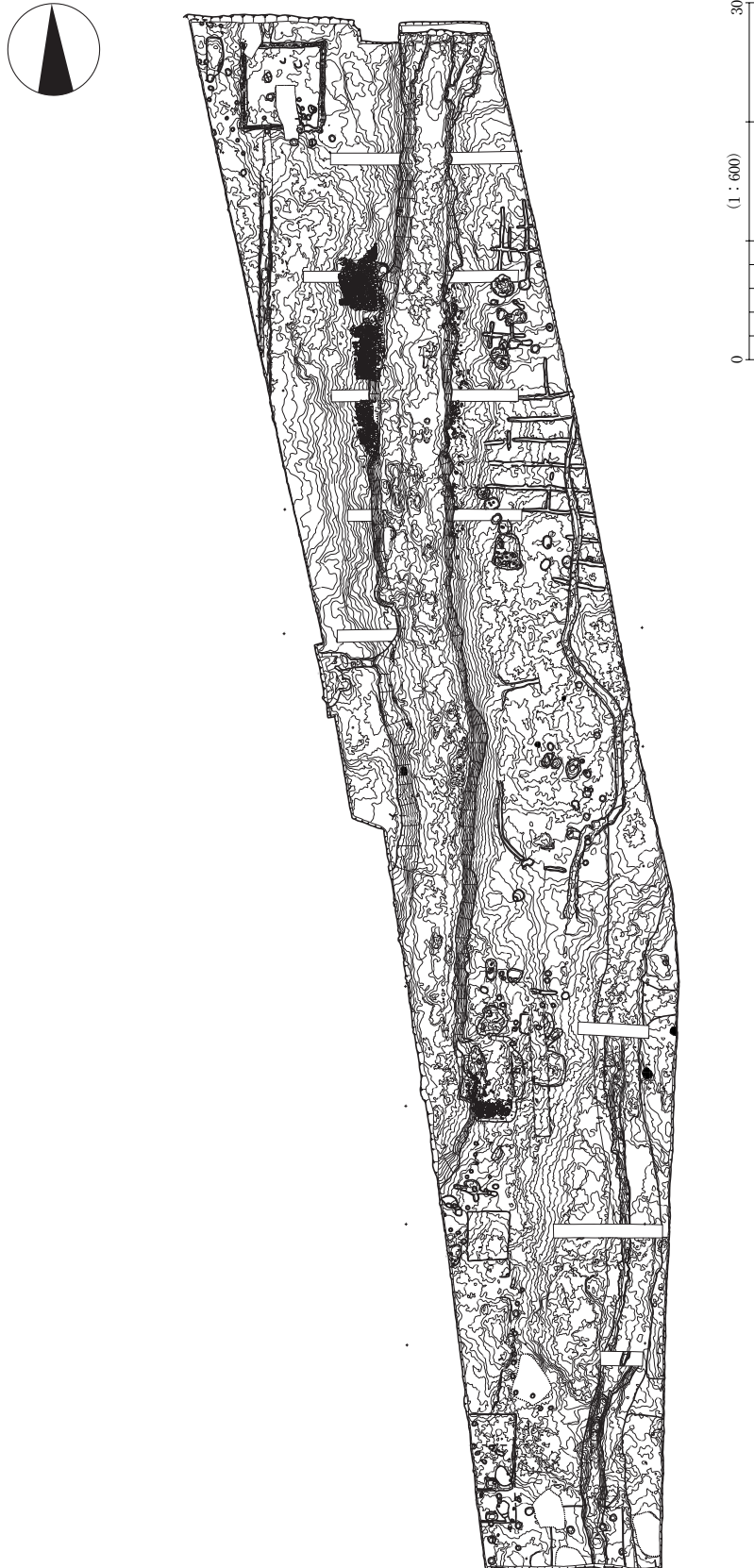
検出された主な遺構は、遺構番号の付いているもので竪穴建物10棟、掘立柱建物2棟、土坑47基、溝38条、ピット多数である。1985・1986年度調査と同様に、飛鳥・奈良時代が遺構・遺物の中心時期となるが、掘立柱建物は平安時代に入るものと考えられる。33ラインから43ラインにかけて大溝が検出されており、大量の古代の遺物が出土している。古代の遺物の中には砥石を転用したと考えられる石製榑が出土している。またこの大溝左岸には護岸施設をもつ部分も見られ、その施設より北側約10m付近には、壁溝内に敷石をした竪穴建物が検出されている。1985・1986年度でも検出された旧河道も延びてきており、過去2年度の調査とは違いかなり深いものとなっている。1986年度調査区と比較するとやや遺構密度は低下し遺跡の縁辺部的様相を見せるが、調査区北端で竪穴建物（87SI09）が検出されていることを考慮すると、そこで遺跡が途切れてしまうわけではなく末松A遺跡という範囲内の縁辺部にあたり、かつ新たな古代の集落が始まる部分に当たると考えられる。



第112図 1987年度調査グリッド設定図



第113図 1986-1987遺構全体図



第114図 1987遺構全体図

2. グリッドの設定

調査区のグリッドは、鶴来バイパスのセンターを基準として南北に長軸を、これに直交するラインを横軸として10mピッチの方眼を組みグリッドとしている。長軸は数字を用い、短軸はアルファベットを用いて、南西杭をグリッド名としている。1986年度調査区から踏襲して付けられており、調査区が徐々に西側にカーブすることによって、北端部分ではZやYの呼称が使われている。グリッド名は工区名を付けず、A2、B7のように表すが、ちなみに長軸は座標北から東に2.5°振っている。

平面直角座標第Ⅶ系では、C31杭は $X = 56674.9125$ 、 $Y = -51167.2979$ 、Z43杭は $X = 56796.0314$ 、 $Y = -51192.3136$ となる。

3. 基本層序

耕土とその床土は厚さ約15～30cm前後で、調査区全面で確認されている。調査区20～38ラインまでは比較的厚く、それより北側になると薄くなっている。39ラインよりも北側になるとほぼ耕土直下が遺構検出面となっている。20～26ラインまでは耕土・床土直下の暗茶褐色砂質土が遺物包含層と考えられる。25～29ラインまでの耕土直下の黄褐色土は縄文・弥生時代の遺物包含層と見られている。30～33ラインでは、耕土・床土直下の暗茶褐色砂質土・暗灰色砂質土が約10～20cmの厚さをもち遺物包含層となっている。濁黄褐色砂質土が古代の遺構検出面となっているが、汚れており約30cm下の明褐色砂質土地山まで掘り下げ遺構を確認している。33～36ラインの調査区壁には大溝がかかっており、この部分ではその大溝が埋まった後の窪みに堆積したと見られるやや粘性の黒灰褐色土が見られる。大溝より北側36～43ラインでは耕土と遺構検出面との間に約10～25cm程度の暗灰色砂・黄灰褐色砂質土中に2～5mm程度の砂礫を含んだ層が見られる。

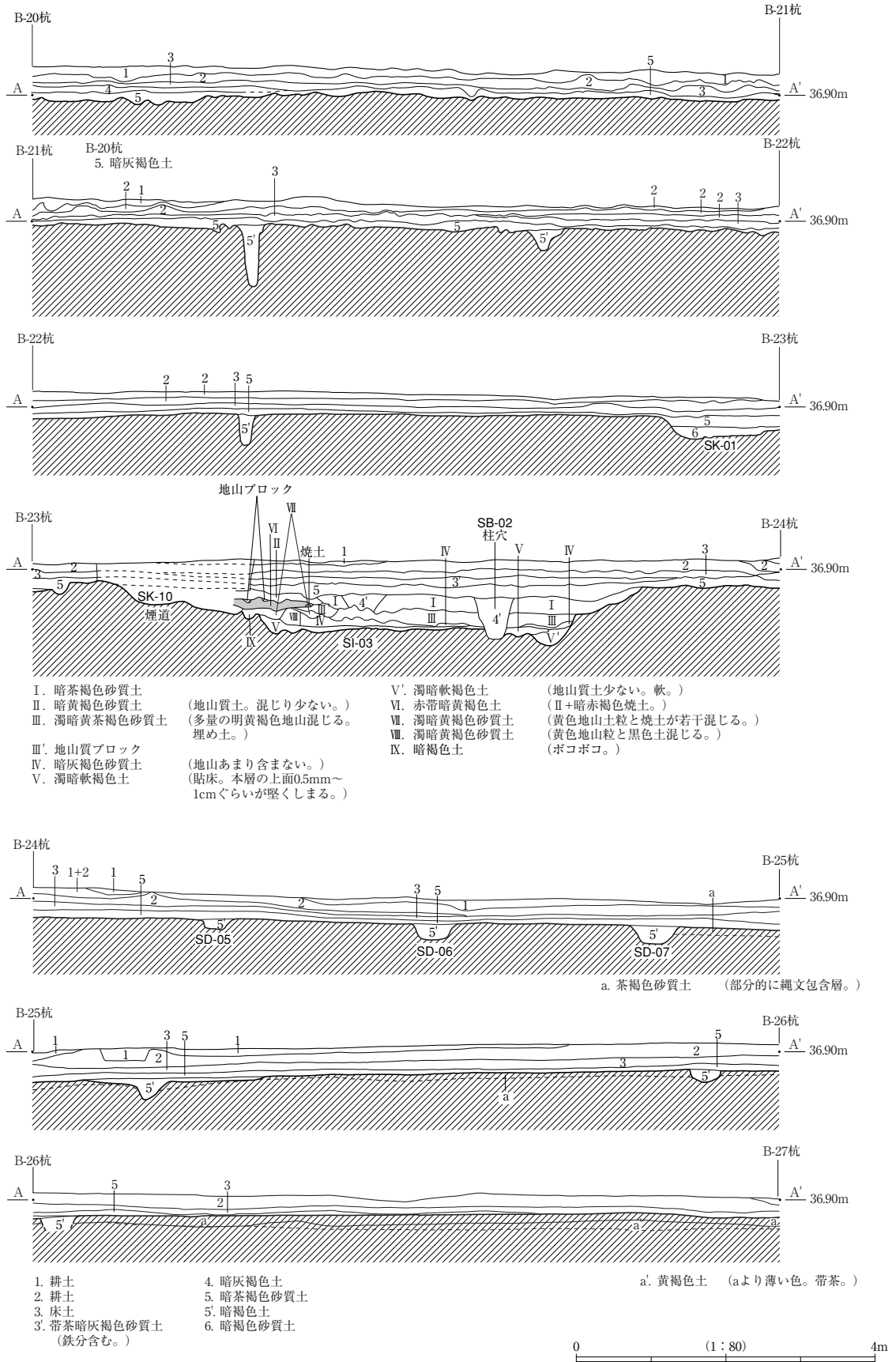
4. 遺構と遺物

竪穴建物

86S113 (第120・121・157図)

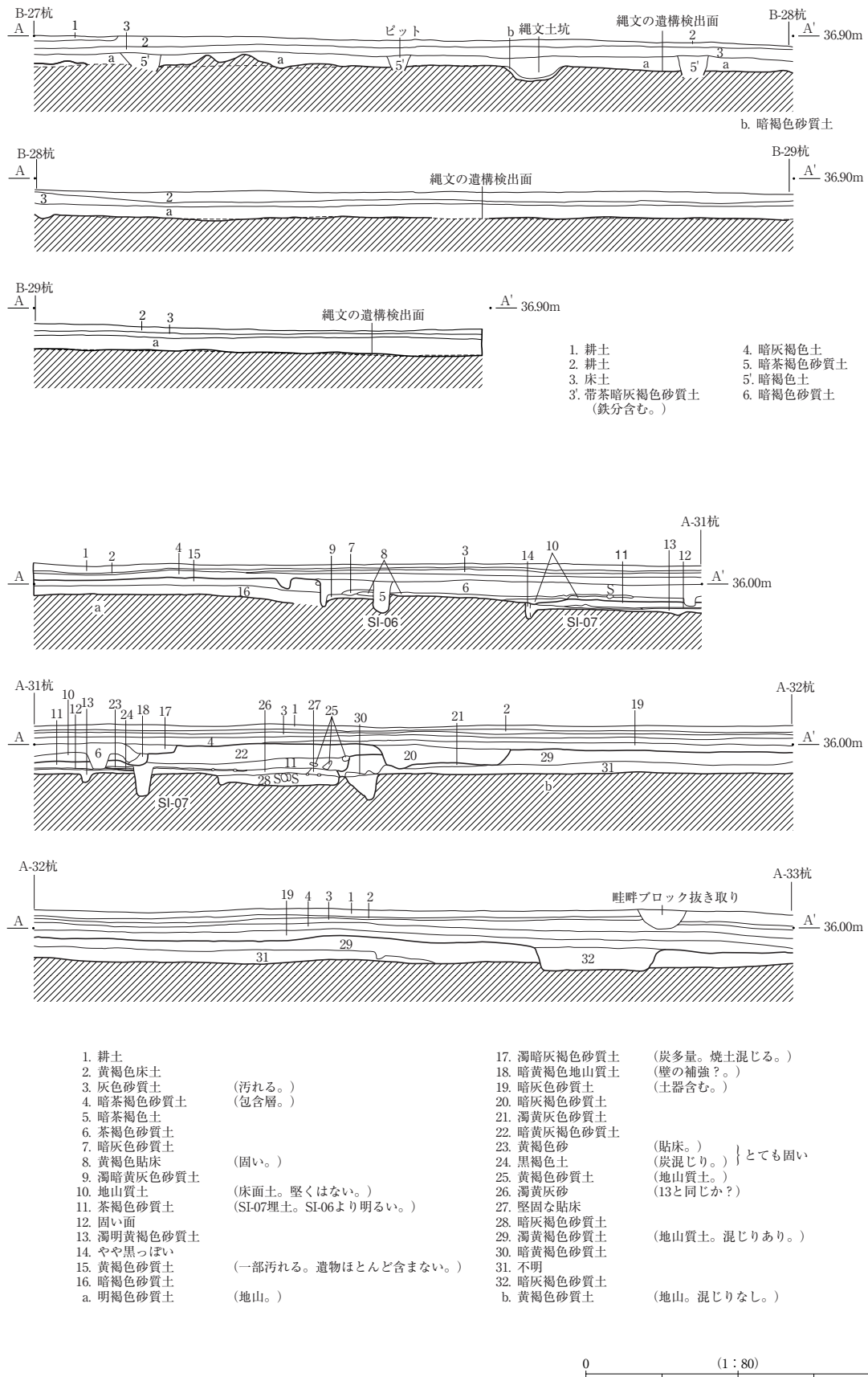
C17で検出されている。1986年度調査で北西角が、1987年度調査でその東側が検出された。遺構名称は1986年度調査を引き継いでおり前節で報告すべきだが、その大半が1987年度調査区で検出されているためここで報告する。平面形態は竪穴部南側のほとんどが調査区外に延びているため不明であるが、方形であると考えられる。北側の1辺は約6.9mを測る。主柱穴は2基検出されており、4本主柱となると考えられる。北側竪穴壁には壁柱も見られ、3間分検出されているものと見られる。主軸方位を南北にとった場合、東に約1°振っている。1986年度調査区とはややずれて接合している点、主柱穴と壁柱の配置から2棟切り合っている可能性もあるかと考えられる。竪穴部の深さは検出面より約25cmを測り、埋土からは貼床をした痕跡は分からない。1986年度の調査区では床下土坑が検出されている。排湿機能を意図したものと考えられる。

出土遺物には412～419がある。412～416は須恵器杯B蓋である。417は須恵器杯Bである。これらはⅡ3期の製品と考えられる。412・416はⅡ2期まで遡る可能性もある。418は土師器長胴甕の体部破片である。外面には平行タタキ見られるが、内面は当具痕をハケメ調整で消している。Ⅱ2ないしⅡ3期頃の製品であろう。419は土師器鍋である。外面は上半にカキメ調整、下半にケズリ調整を行う。内面は上半にカキメ調整、下半にハケメ調整を行っている。口縁端部は面を取っている。おそら



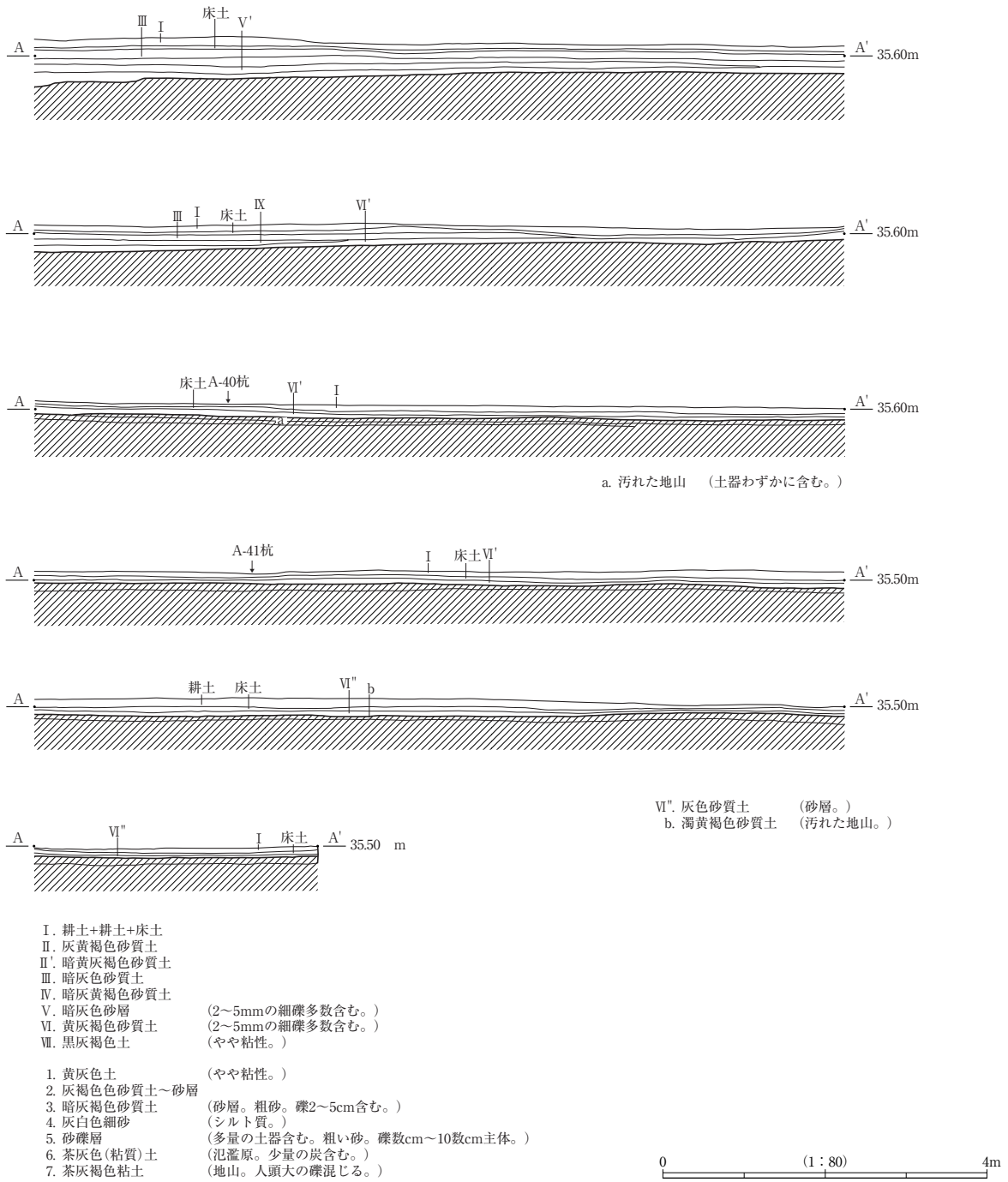
第115図 87調査区西壁土層断面図1

第4節 1987年度の発掘調査



第116図 87調査区西壁土層断面図2

第4節 1987年度の発掘調査



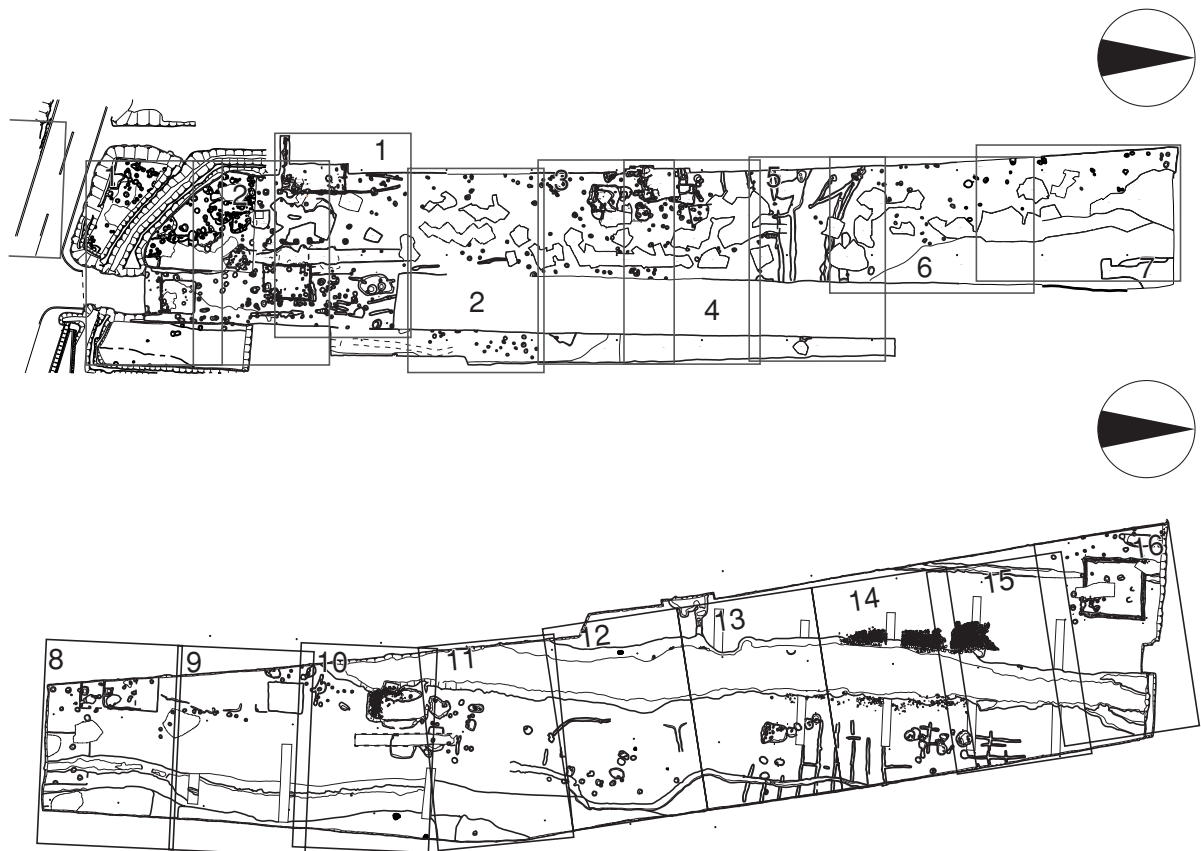
第118図 87調査区西壁土層断面図4

くⅡ3期頃の製品と考えられる。

87S101 (第126・127・128・159・160・221図)

A・B19で検出されている。西側部分は調査区外に延びているため全形は不明であるが、3つのコーナーが確認されているので、平面形態は長方形であると分かる。長辺は約7.2m、短辺は約6.4mを測り、その平面積は約46.1m²となる。支柱穴は4本と考えられ、その内の南側の2本は竪穴壁を切り込んでいる。壁柱もあるが何間となるかよく分からない。南側の壁柱はかなり間隔が狭く、約1.2mで4間程度確認できる。カマドは南東角に設置されており、竪穴の一部を掘り残して構築されている。凝灰岩の切石をカマドの袖部分の芯材として使用している。そしてその間にある自然石がカマドの支脚かと考えられる。カマドの規模は幅約1.1m、長さ約1mを測る。煙道は南東から南の方へ向きを変え竪穴外に延びていく。カマドの南西側には貯蔵穴と見られる土坑が掘り込まれている。方形の土坑で、竪穴床面の検出面より深さ約30cmを測る。竪穴の一部を掘り残してカマドを設置することや、南東角に位置するなどの諸特徴は青野型住居跡¹⁾に類似するように見える。後述するが、近江型の長胴甕が出土しており、遺物の面からは青野型住居とは言えないようである。埋土の状況から、一度竪穴部を掘り込んだ後に貼床をし、柱穴や壁溝を掘削しているようである。

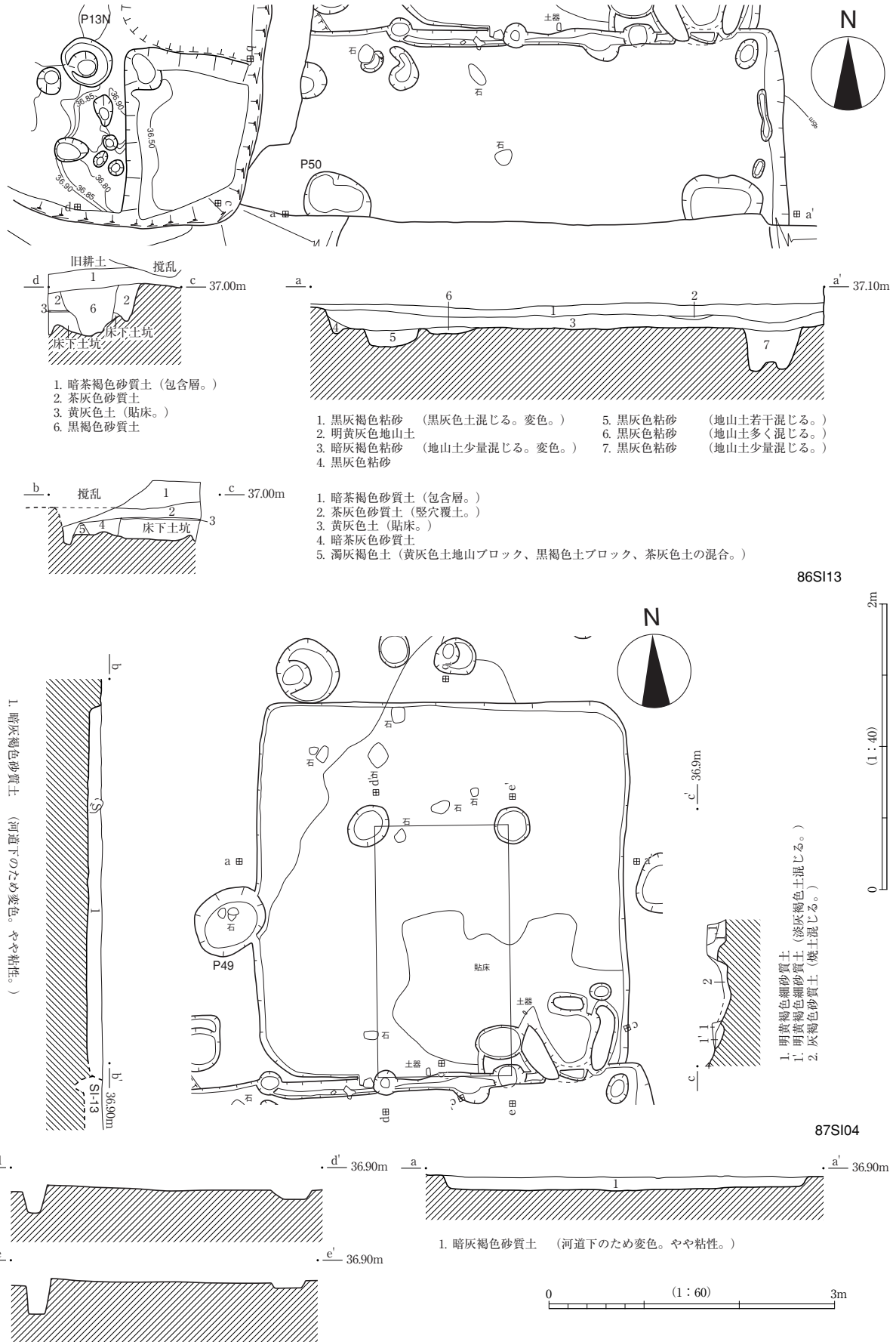
出土遺物には438～461がある。438は須恵器杯B蓋である。439～442は須恵器杯Bである。443～445は須恵器杯Aである。これら須恵器の内443は有蓋の杯AでⅡ2期と考えられるが、他はⅡ3期頃と考えられる。446は赤彩土師器椀である。447は赤彩土師器の高杯の杯部ないし椀と考えられる。これらはⅡ3期の製品と考えられる。448・449は内黒土師器である。これらもⅡ3期頃の製品と考えら



第119図 1986-1987平面図分割範囲図



第120図 1986-87平面図1



第121図 86SI13・87SI04実測図

れる。449は杯部と脚部が離れているが、接合のためと考えられる同心円状の刻みが確認でき、更に使用時にはがれたため再度接合しようと考えたのか、黒色の漆のような物質が塗布されている。450は土師器片口鉢と考えられる。これもⅡ3期頃であろうか。451～455は土師器小甕である。456～460は土師器長胴甕である。456・457は近江型甕である。これら土師器小甕・長胴甕の時期はⅡ3期と考えられる。461は製塩土器のおそらく丸底土器で、Ⅱ3期頃の製品であろうか。

87S102 (第122・123・158・221図)

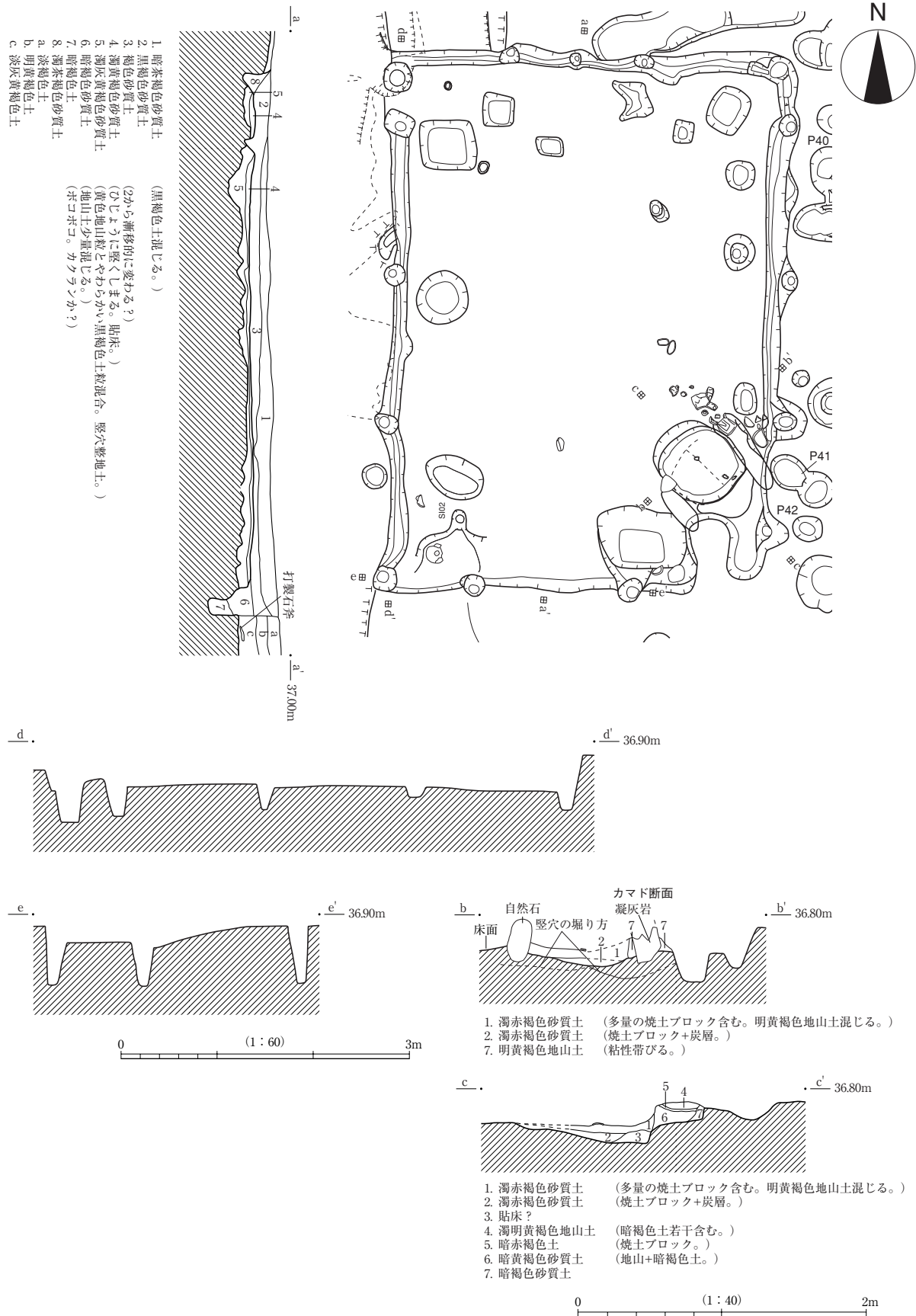
C18・19で検出されている。平面形態は長方形で長辺約5.6m、短辺約4.3mを測り、その面積は約24m²となる。竪穴部の深さは検出面より約25cmを測る。主軸は東に約2°振っている。主柱穴となるようなピットは西側壁際に3基並んではいるがはっきりとしない。壁柱は検出されており、南北方向に4間、東西方向に3ないし4間分見られる。カマドは南東角に設置されており、竪穴の一部を掘り残して構築されている。凝灰岩等の礫をカマドの袖部分の芯材として使用している。煙道は南東方向から南の方へ向きを変え竪穴外に延びていくものと考えられる。カマドの南西際には貯蔵穴と見られる土坑が掘り込まれている。方形の土坑で竪穴床面よりの深さは約45cmである。87SI01と非常に良く似た構造であり、これも青野型住居と類似した構造をしていると考えたい。後述するが、遺物では青野型の長胴甕が出土しており、87SI01とは違い遺物もその補強材料となっている。

出土遺物には424～437が出土している。424・425は須恵器杯B蓋で、424には返りがある。426・427は須恵器杯Bである。428は須恵器円面硯で、脚部部分の小破片である。429～431は土師器小甕である。432～434は土師器長胴甕である。433は口縁部に強いヨコナデで段々を作り出すもので、青野型甕〔石崎1996〕と言われるものである。外面はハケ調整を施し、内面にはハケ調整と体部下半はケズリ調整を行う。青野型には胴が長いものと球胴系のものがあるが、433は球同形になると考えられる。その色調は赤っぽく、胎土調整をしているようである。ほかの土師器煮炊具とは明らかに異なる特徴を有している。434は底部をタタキ出した後、外面はハケ調整を行い、内面は当具の痕跡をケズリで消している。435・436は土師器鍋である。435は口縁端部に面を取るもの、436は外面にハケ調整を行っている。437は製塩土器である。これら須恵器及び土師器の時期は概ねⅡ2期と考えられる。また1278の砥石が出土している。

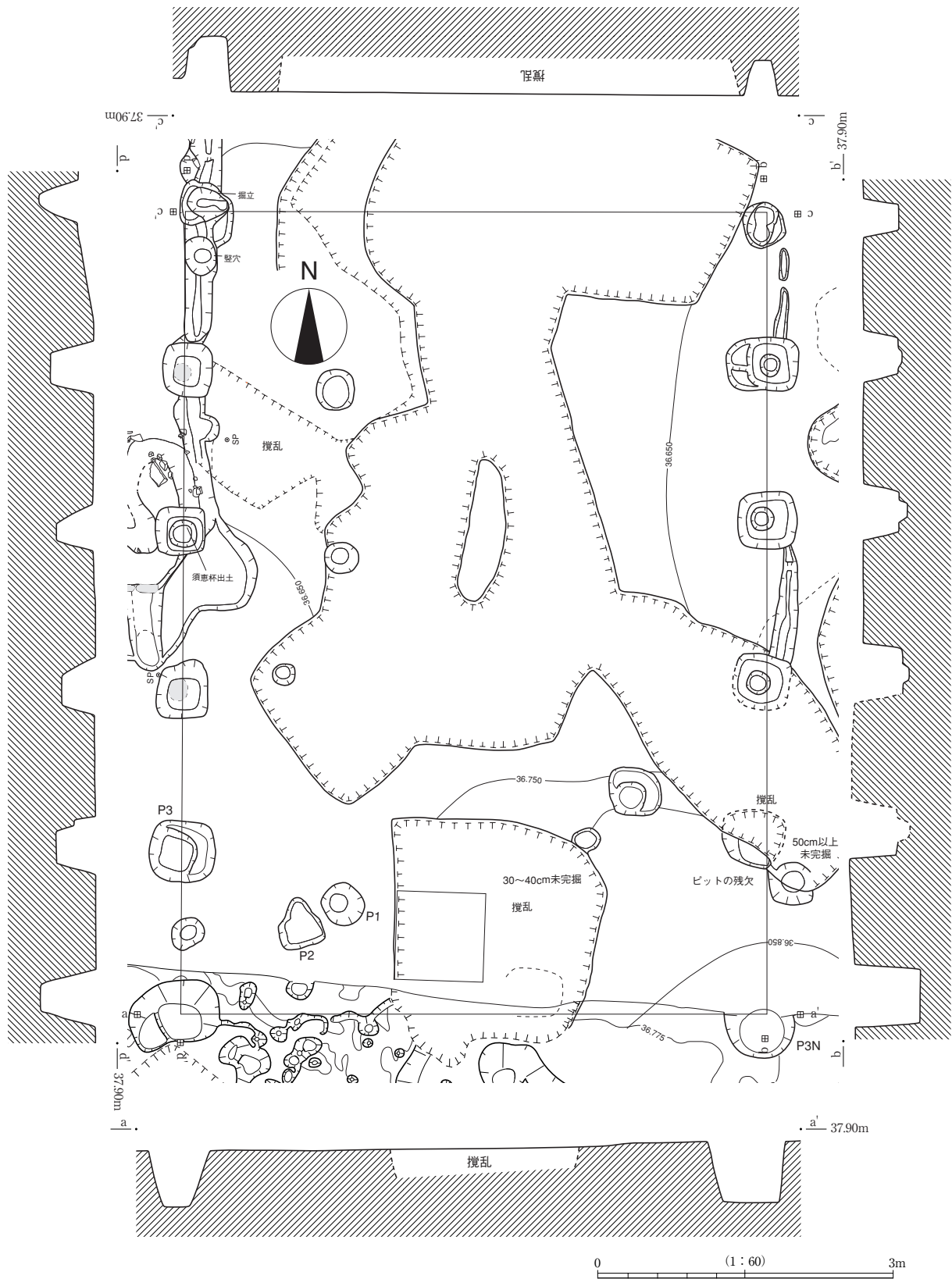
87S103 (第133・134・161・162・219図)

B23で検出されている。平面形態は西側が一部調査区外に延びて全形は分からないが、方形であると考えられる。南側の辺は約4.2m、東側は4.5mを測り、その面積は約18.9m²となる。北側の段掘部分まで含めば長軸は約5.0mとなりその面積は約21m²となる。竪穴部の深さは検出面より約60cmを測る。主軸は西に約4°振っている。主柱穴は検出されておらず、また壁柱も分からない。壁溝も検出されていない。カマドは南東角に設けられており、煙道が竪穴外に延びている。埋土の状況から竪穴部を掘り込んでから整地し貼床をしていることが分かる。

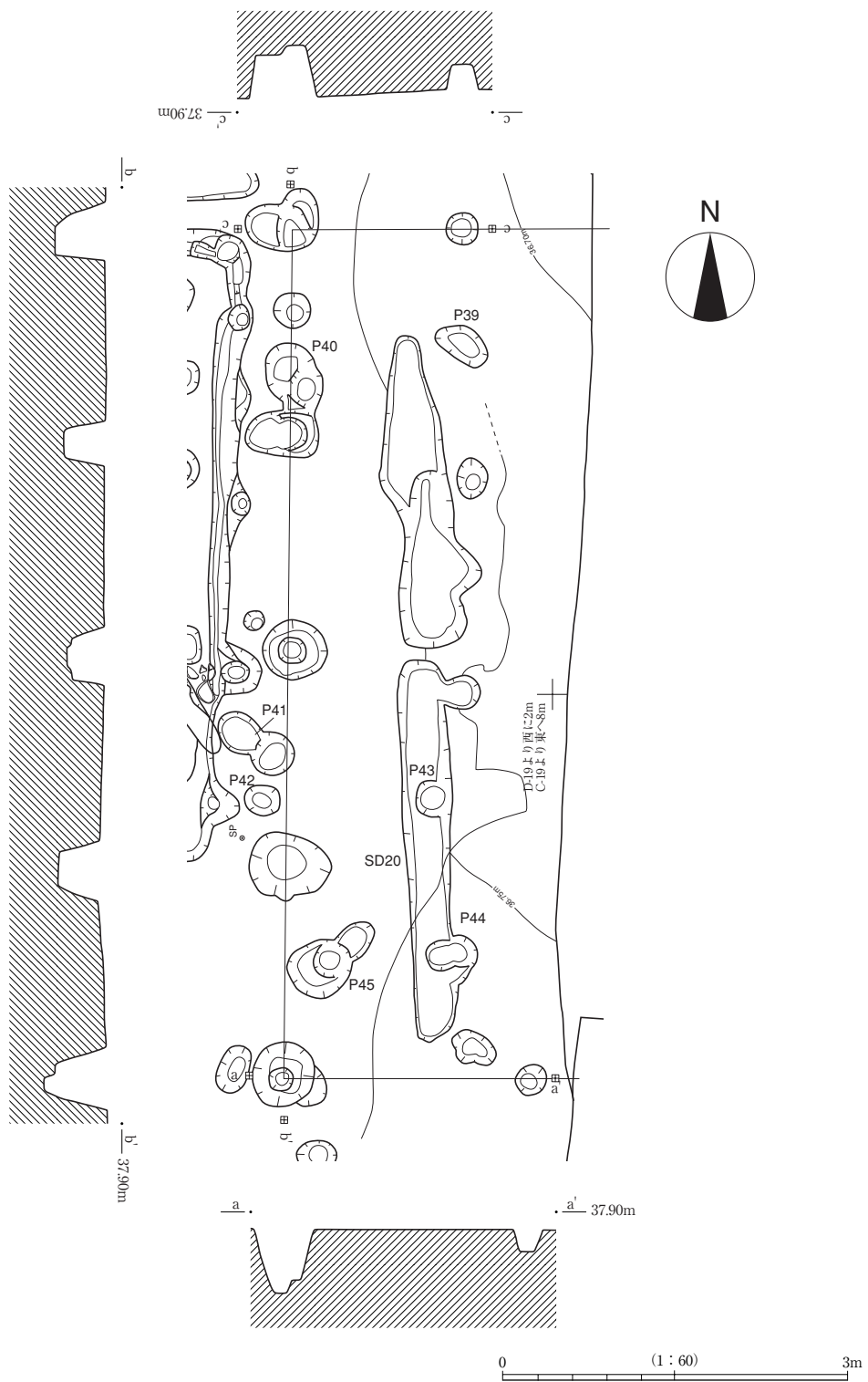
出土遺物には462～480がある。462は須恵器杯B蓋である。Ⅱ2期の製品であろう。463は須恵器杯B蓋である。Ⅱ3期と考えられる。464～471は土師器小甕である。内外面ともカキメ調整を施すものが多く、底部がわかる469は丸底で、467平底である。472～479は土師器長胴甕である。473・474は体部下半にタタキ目があり、叩き出して体部を丸底化しているものと考えられる。478は底部叩き出しを行った後に内面はハケ調整を行い消している。480は土師器鍋である。叩き出して丸底化しておりカキメ調整等を行う。これら土師器煮炊具の時期は、472の長胴甕はⅡ2期ないしはそれよりも古い可能性があるが、その他はⅡ3期頃の製品と考えられる。1263・1264の鉄製品も出土しているが、いずれも小片で全形は良く分からない。1263は刀子の破片かと考えられる。



第123図 87SI02実測図



第124図 87SB01実測図



第125図 87SB02実測図

87S104 (第120・121・157図)

C17で検出されている。平面形態は方形で、1辺約3.9mの正方形である。その平面積は約15.2m²で、竪穴部の深さは検出面より約15cmを測る。南北方向を主軸とすると東に約4.5°振っている。主柱穴は4本検出されており、そのうち南側の2本は南側の壁を切り込んでいる。カマドは南東角に設けられており、その規模は幅約1m、長さは約1m検出されている。煙道の掘り込み等は86SI13と切りあっているため明らかではない。カマドから北西方向に貼床が検出されているが、竪穴中央部までしか確認されていない。埋土は1層であり、埋め戻しが行われた可能性がある。また明確な切り合いは分からないが、86SI13よりも新しいものと考えられる。

出土遺物には420～423がある。420須恵器杯Aである。IV2期頃かと考えられ、混入の可能性が高い。421は土師器小甕である。内外ともにカキメ調整が施され、口縁端部は上方にやや延びている。IV1期頃の製品と考えられ、カマド中央部から出土しているがこれも混入の可能性が高い。422・423は土師器長胴甕である。422は底部破片で、外面はケズリで内面はハケ調整を施している。423は底部付近、体部上半、口縁部の破片であるが、同一個体と考えられる。底部付近は外面ケズリで内面はハケ調整を施す。体部上半は内外面ともカキメ調整を施している。口縁部は端部を欠損しているので分からないが、面を取っていると考えられる。422・423はおそらくII2ないしII3期頃のものと考えられ、この竪穴建物の時期を表していると考えられる。

87S106 (第138・139・163図)

A30・31で検出されている。平面形態は西側が調査区外に延びていることや87SI07と切りあっていることから良く分からないが、おそらく長方形であろう。その規模についても良く分からないが、復元されている長辺の長さは約6.5mを測る。竪穴部の検出面よりの深さは削平を大きく受けているらしくほとんどない。カマドは南東角に設けられていたことがその痕跡により判断されている。その南西際に方形の貯蔵穴が設けられている。検出面よりの深さは約40cmである。主柱穴は良く分からないが、貯蔵穴南側の竪穴外にあるピットがそれにあたる可能性もある。その場合は4本主柱を想定したいが、それに組み合う柱穴が竪穴内には見当たらない。

出土遺物には484～490がある。484は須恵器杯Aである。485・486は土師器小甕、487～490は土師器長胴甕である。これらの土師器煮炊具はカキメ調整を内外面とも施す。須恵器・土師器ともII3期頃のものであろう。

87S107 (第138・139・164図)

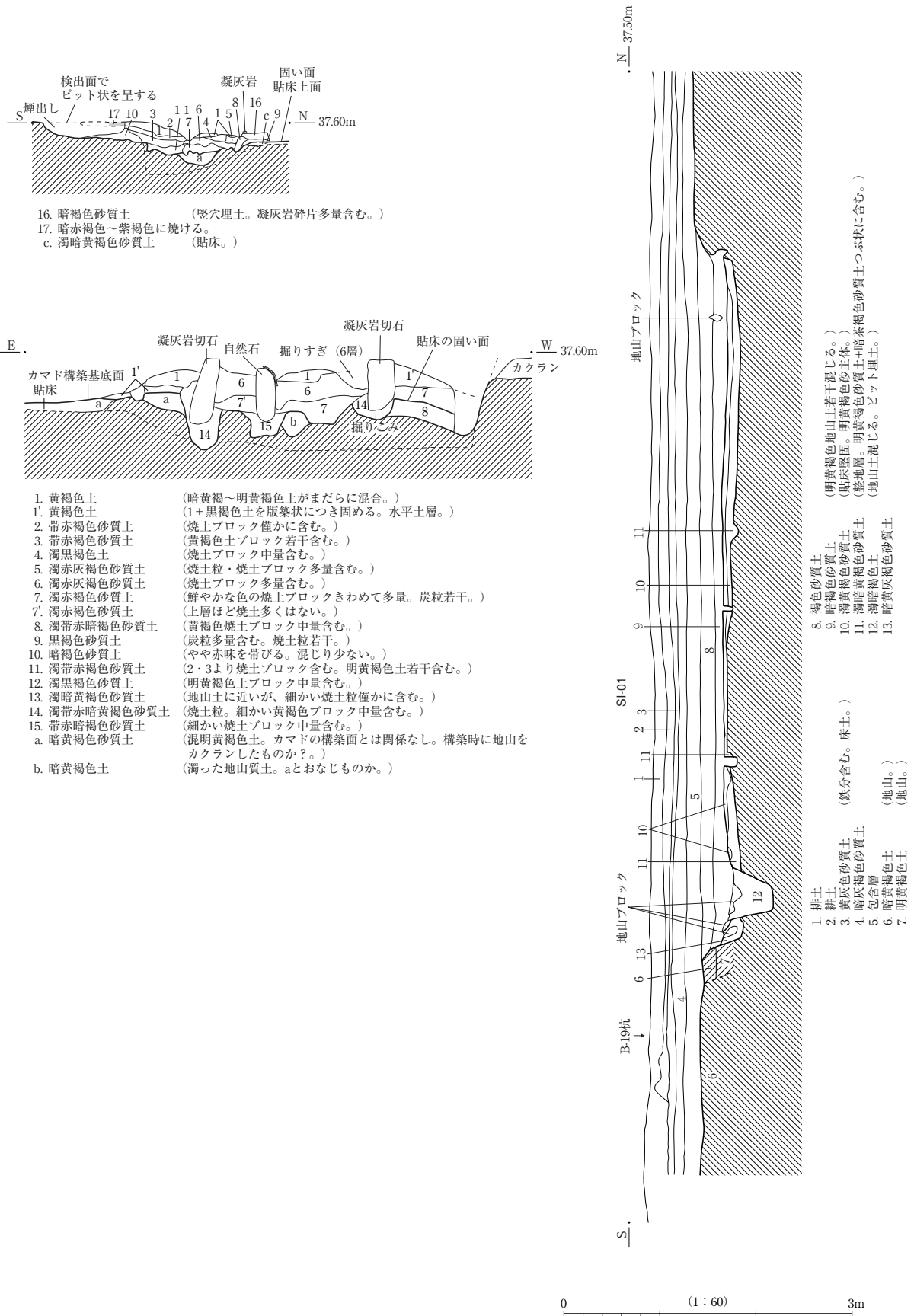
A30・31で検出されている。平面形態は西側が調査区外に延びているため全形は不明であるが長方形であろう。長辺は約6.4mを測る。竪穴部の検出面よりの深さは削平を大きく受けているためほとんどない。カマドは南東角に設けられている。その南西際には方形の貯蔵穴が設けられ、検出面よりの深さは約40cmを測る。主柱穴は貯蔵穴の南際の竪穴壁を切るピットを当てれば、竪穴中央部にある焼土際のピットも主柱穴と考えられ、4本主柱が復元できる。東側壁溝内にピットが確認でき、これが壁柱となるかもしれない。

出土遺物には491～502がある。491・492は須恵器杯B蓋である。493は須恵器椀である。494は須恵器杯Bである。495は赤彩土師器で椀であろうか。496は土師器椀で底部外面には糸切り痕跡があり、体部下半を手持ちヘラケズリしている。これらの時期は、491はII2ないしII3期頃で、494はやや新しくIII期まで下がるかもしれない。そのほかはII3期頃と考えられる。497～501は土師器小甕である。500・501は内外面ともカキメ調整を施している。これらの時期はII3期と考えている。502は製塩土器で丸底土器であろうか。これもII3期頃と考えられる。

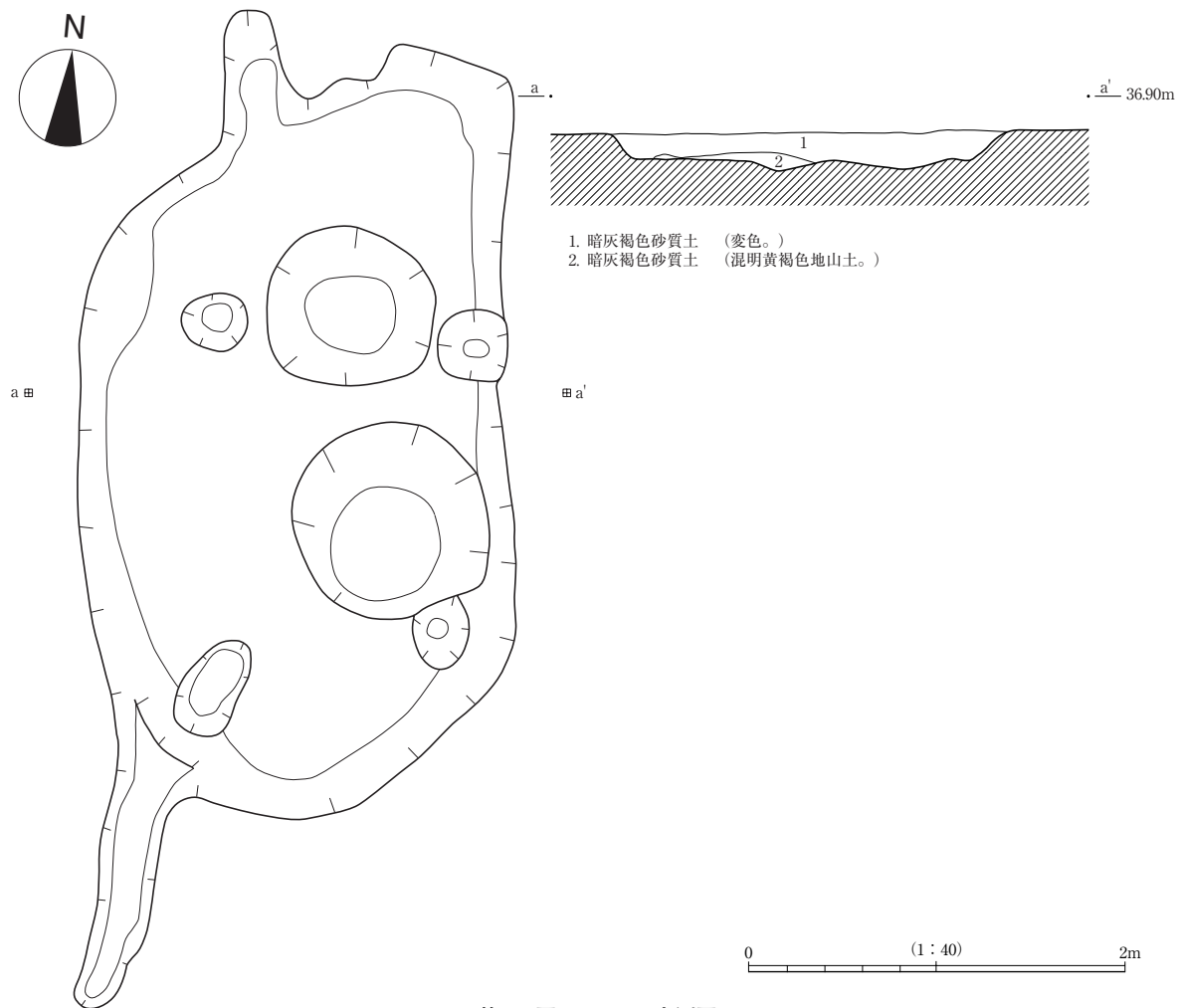
第4節 1987年度の発掘調査



第126図 1987平面図 1



第128図 87SI01実測図2



この竪穴建物は、その土層断面の観察から87SI06よりも古いことが判明している。出土した遺物にはそれほど時期差がないように見えるが、Ⅱ3期でも若干古いものなのかもしれない。

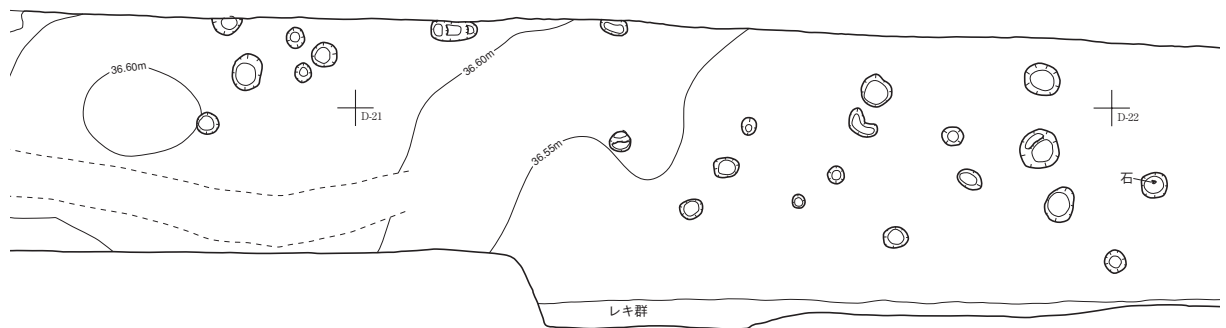
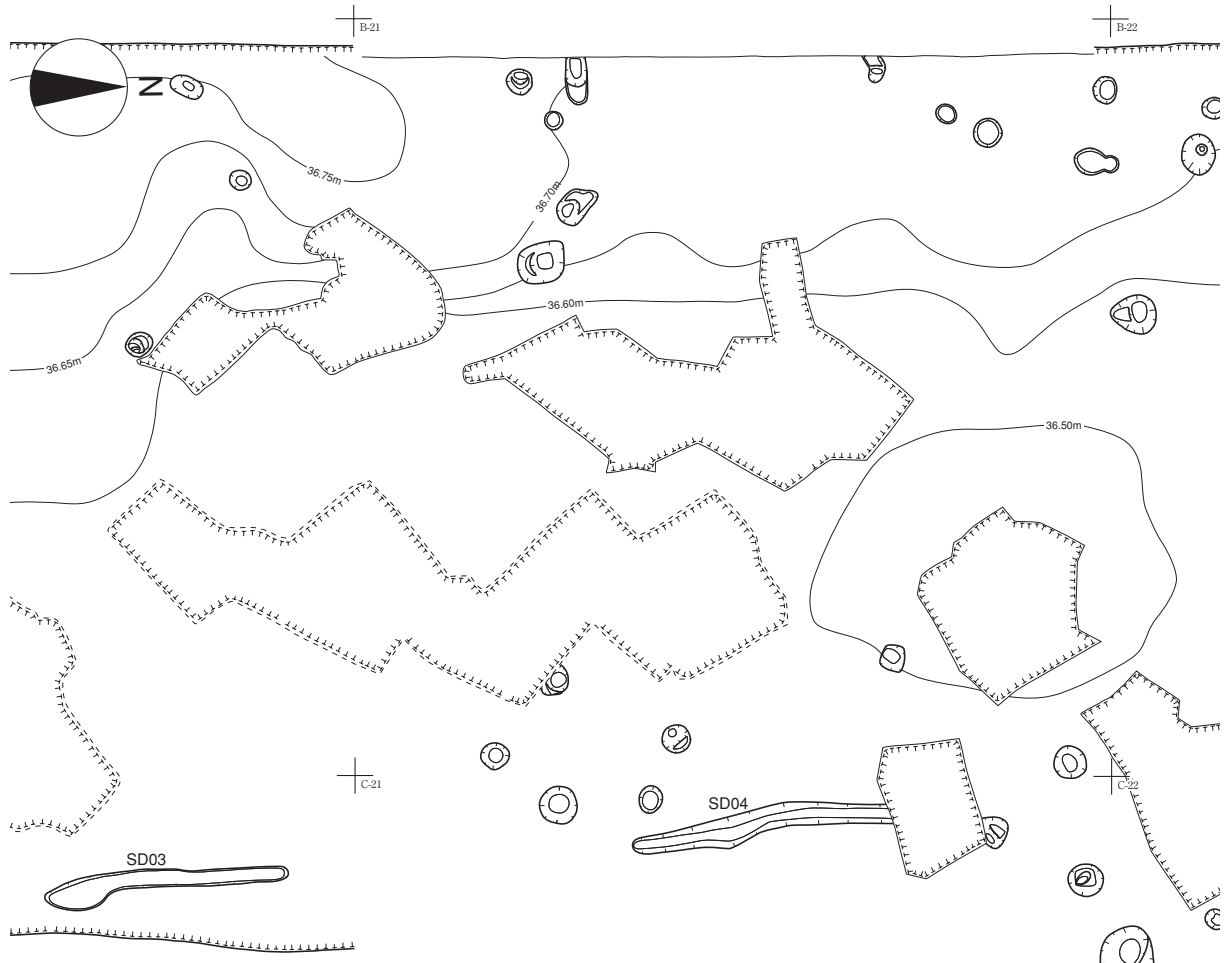
87S108 (第141・142・165図)

A32・33で検出されている。平面形態は長方形である。長辺は約4.0m、短辺は約3.4mを測り、その平面積は約13.6m²となる。竪穴部の深さは検出面より約5cmと浅く、かなり削平を受けているものと考えられる。主軸は東に約1.5°振っている。支柱穴およびカマドは確認されていない。

出土遺物には503～505がある。503は須恵器杯B蓋である。504は須恵器甕である。505は土師器鍋である。これらの時期は503はⅡ3期、504はⅡ2期、505はⅢ期とやや時期幅があるものと考えられる。

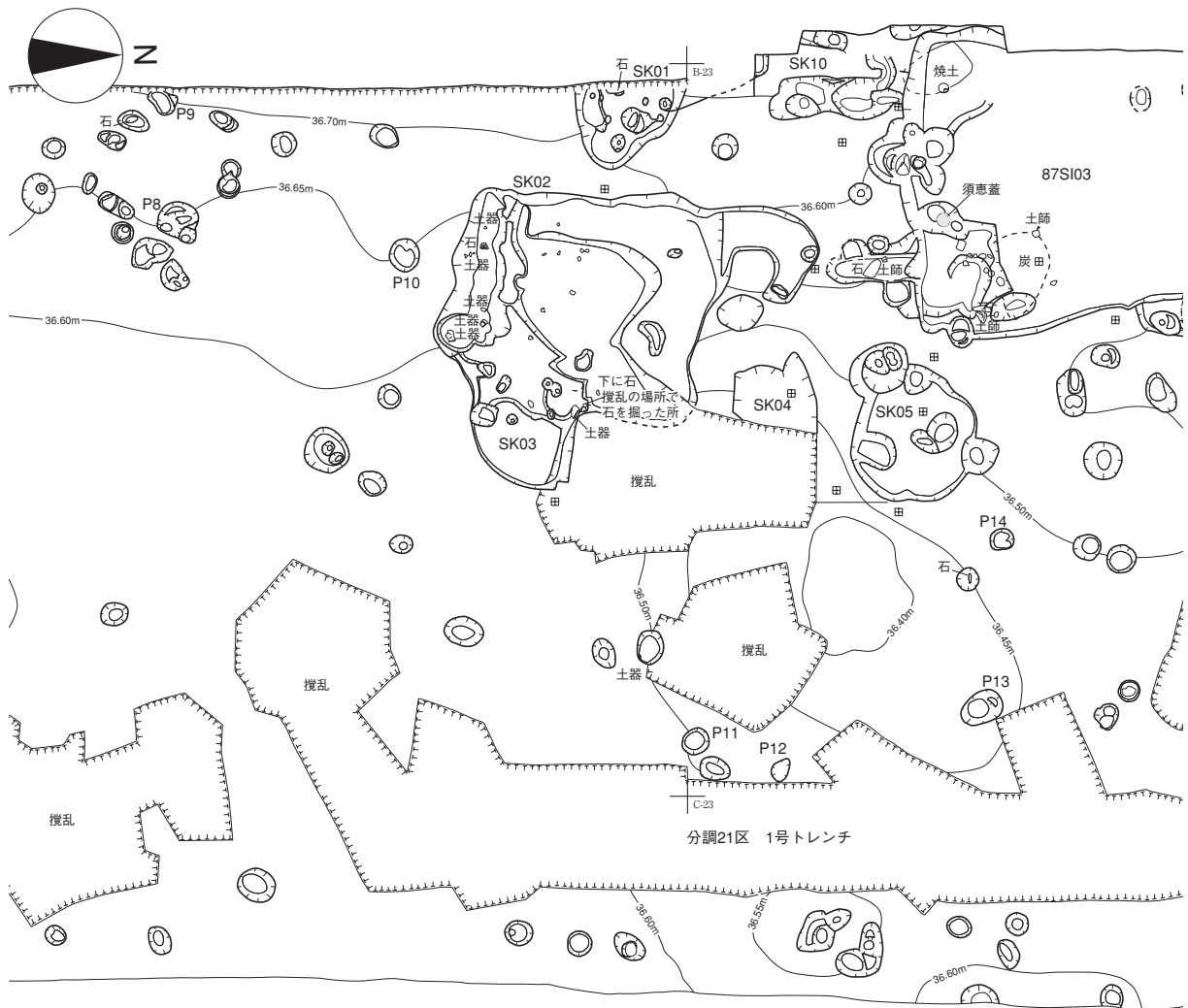
87S109 (第152・153・165図)

Y・Z42で検出されている。平面形態は方形であり、長辺約7.3m、短辺約7.1mを測りほぼ正方形に近いものである。その平面積は約51.8m²である。竪穴部の深さは、かなり削平を受けているらしくほとんど掘り込みはない。支柱穴は4本であると考えられるが、北東の1本が検出されていない。南側の2本は竪穴外で検出されている。カマドは焼土や炭の分布範囲などその痕跡から、南東角に設けられていたと考えられる。主軸は東に約1.5°振っている。



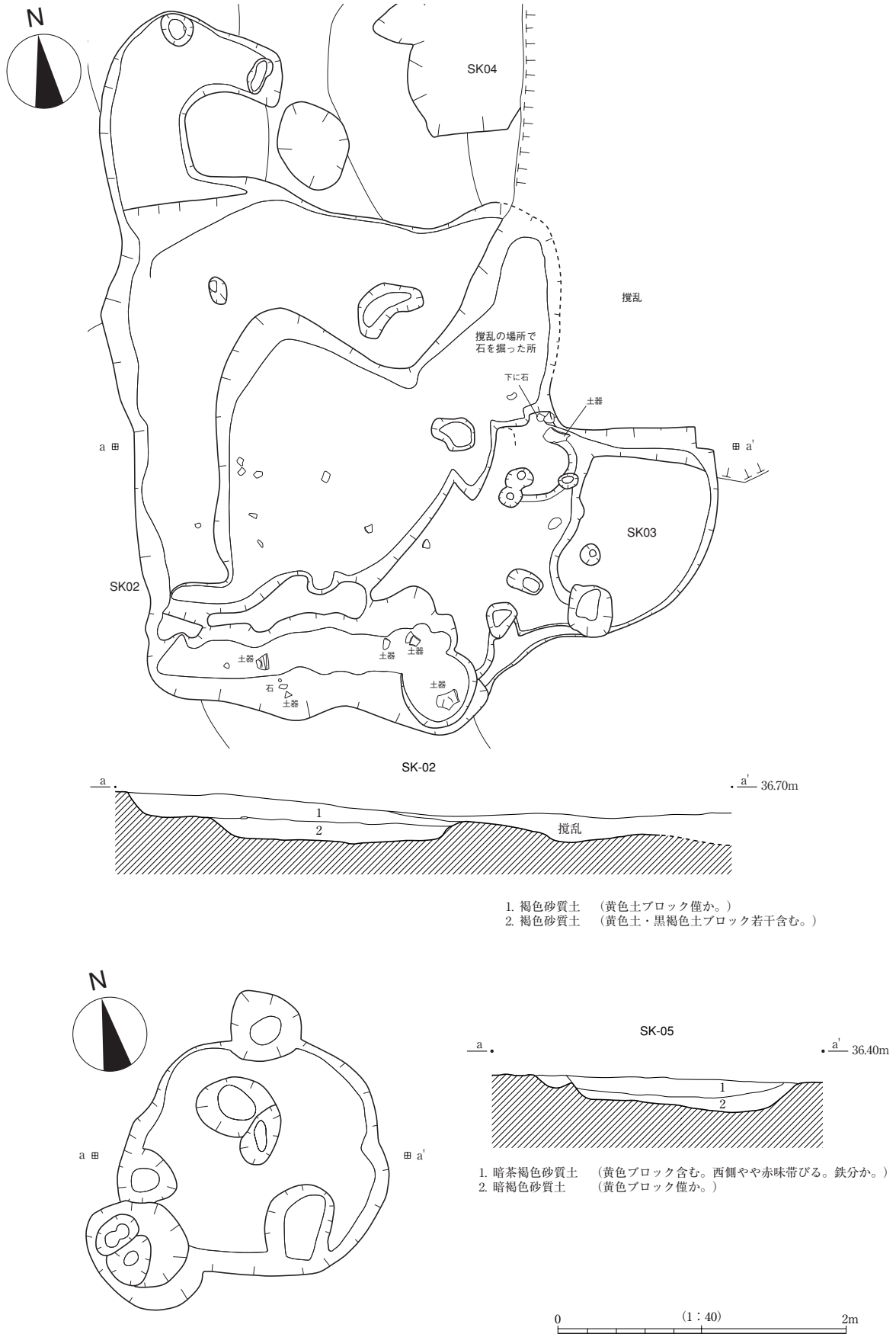
第130図 1987平面図2

0 (1:100) 5m

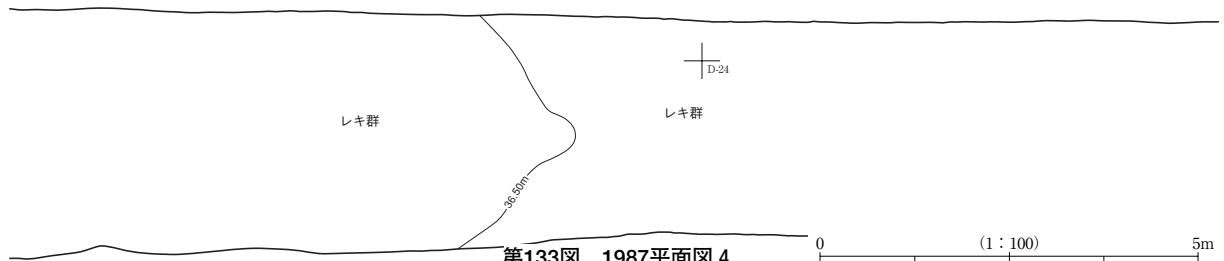
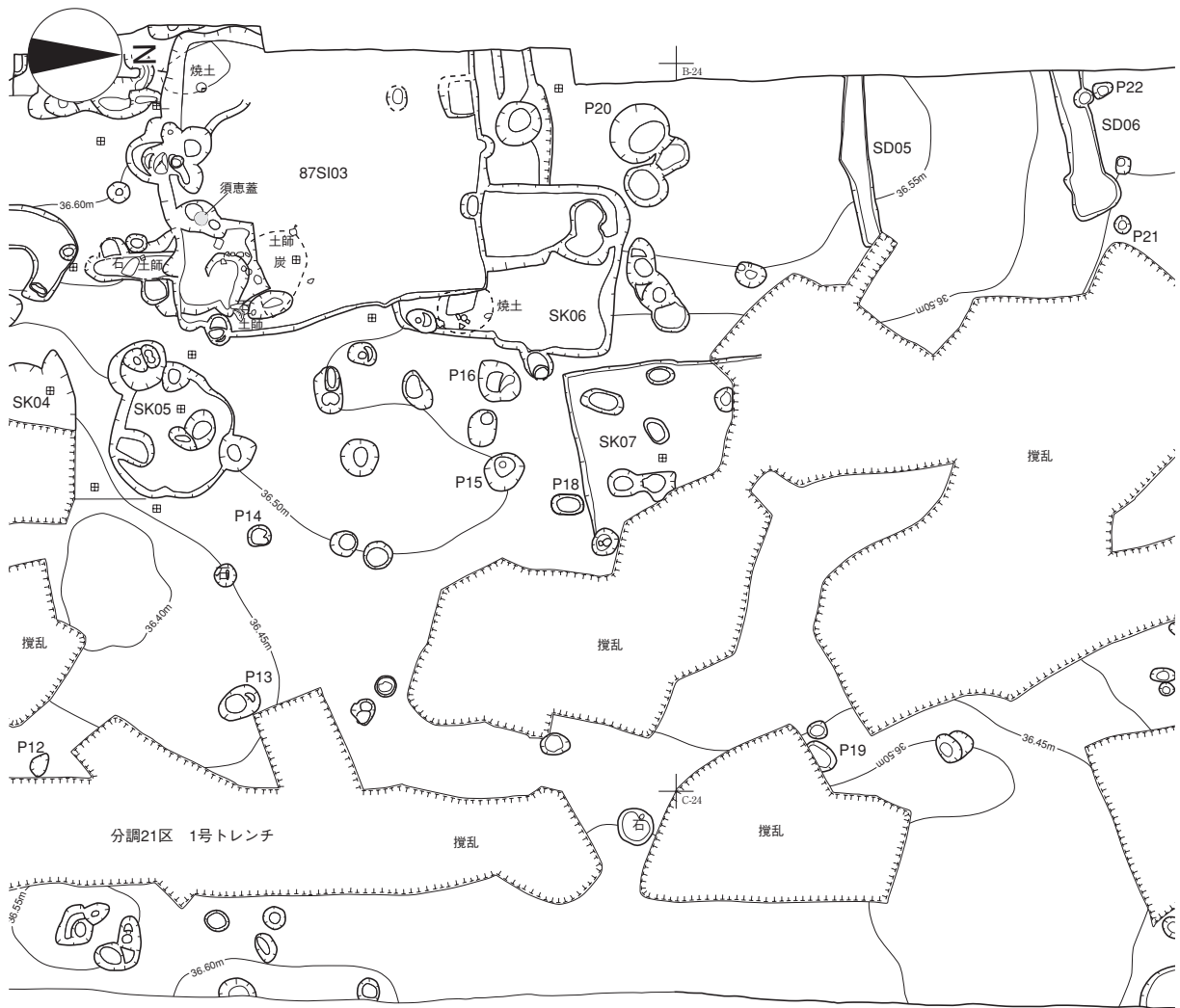


第131図 1987平面図3

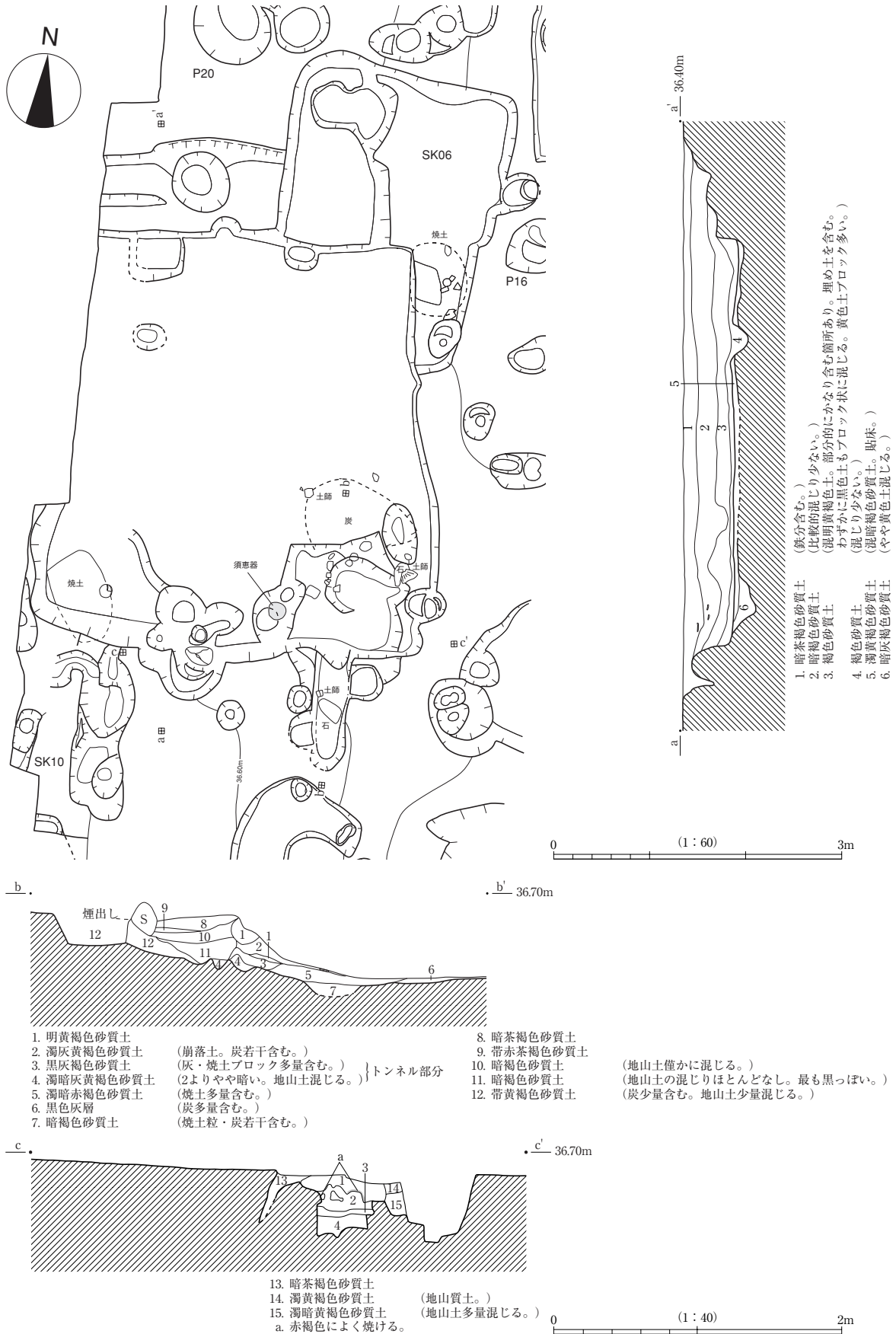
0 (1:100) 5m



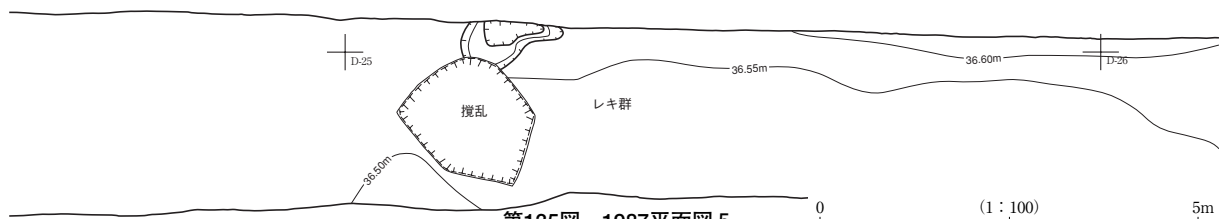
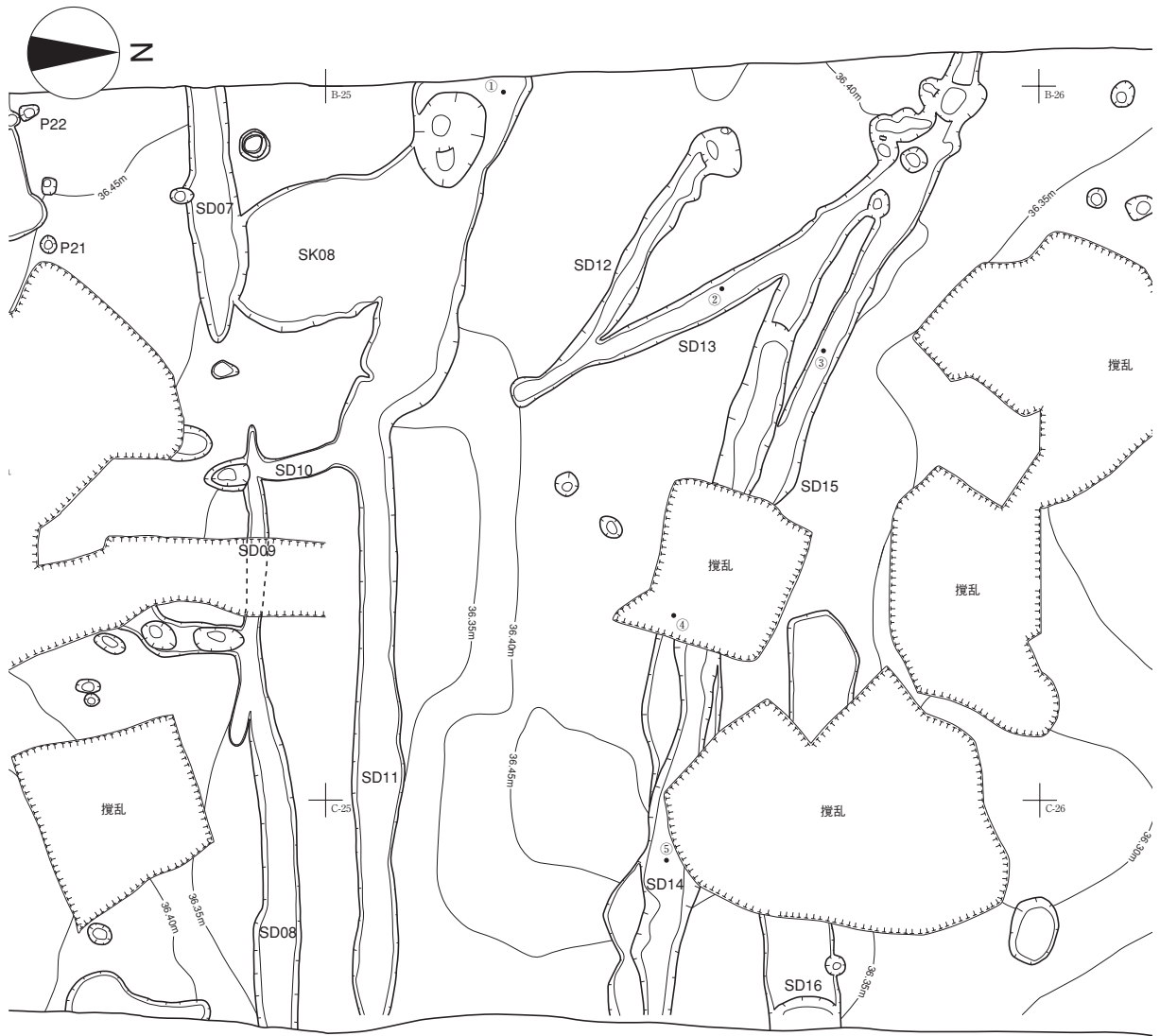
第132図 87SK02・05実測図



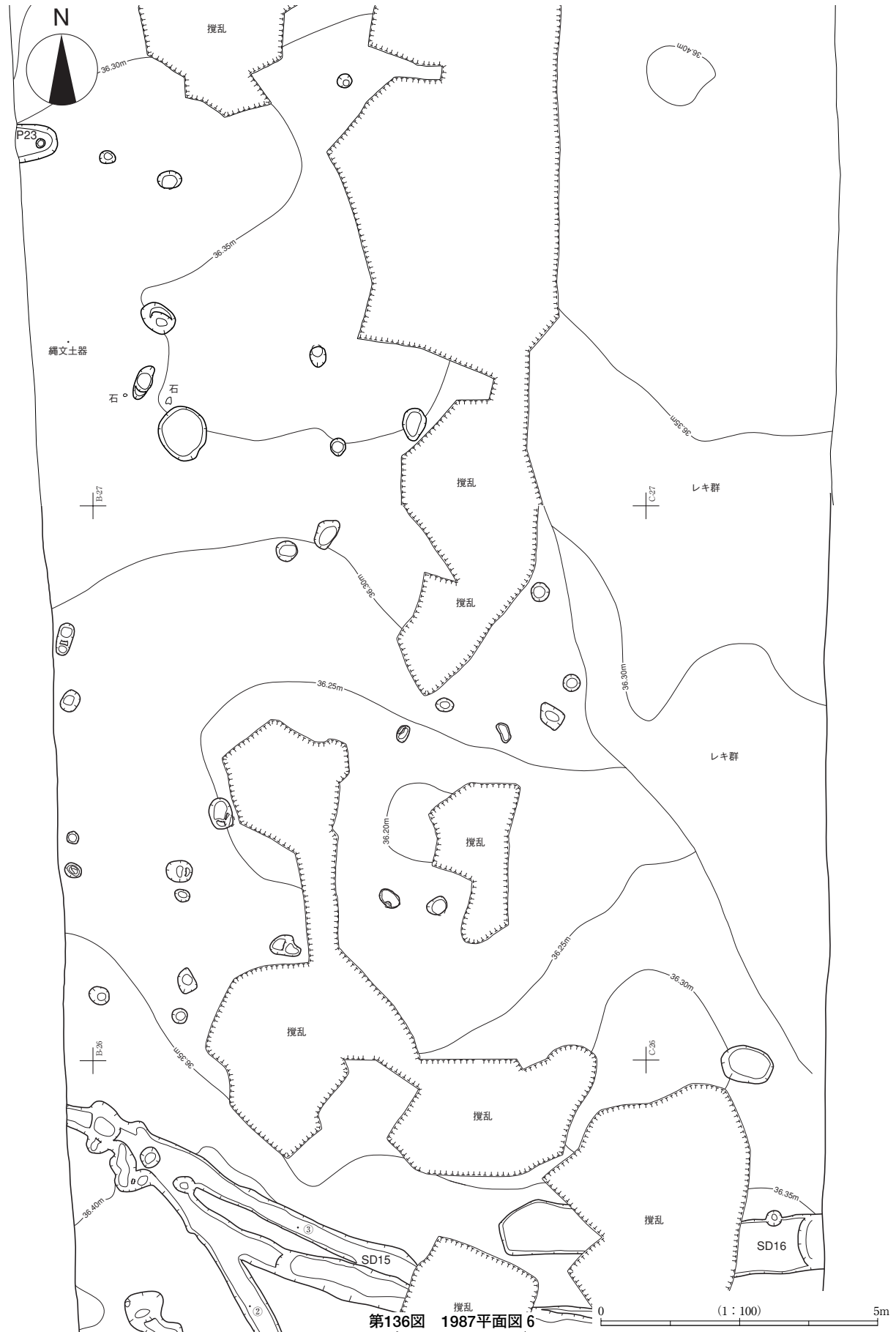
第133図 1987平面図4



第134図 87SI03実測図



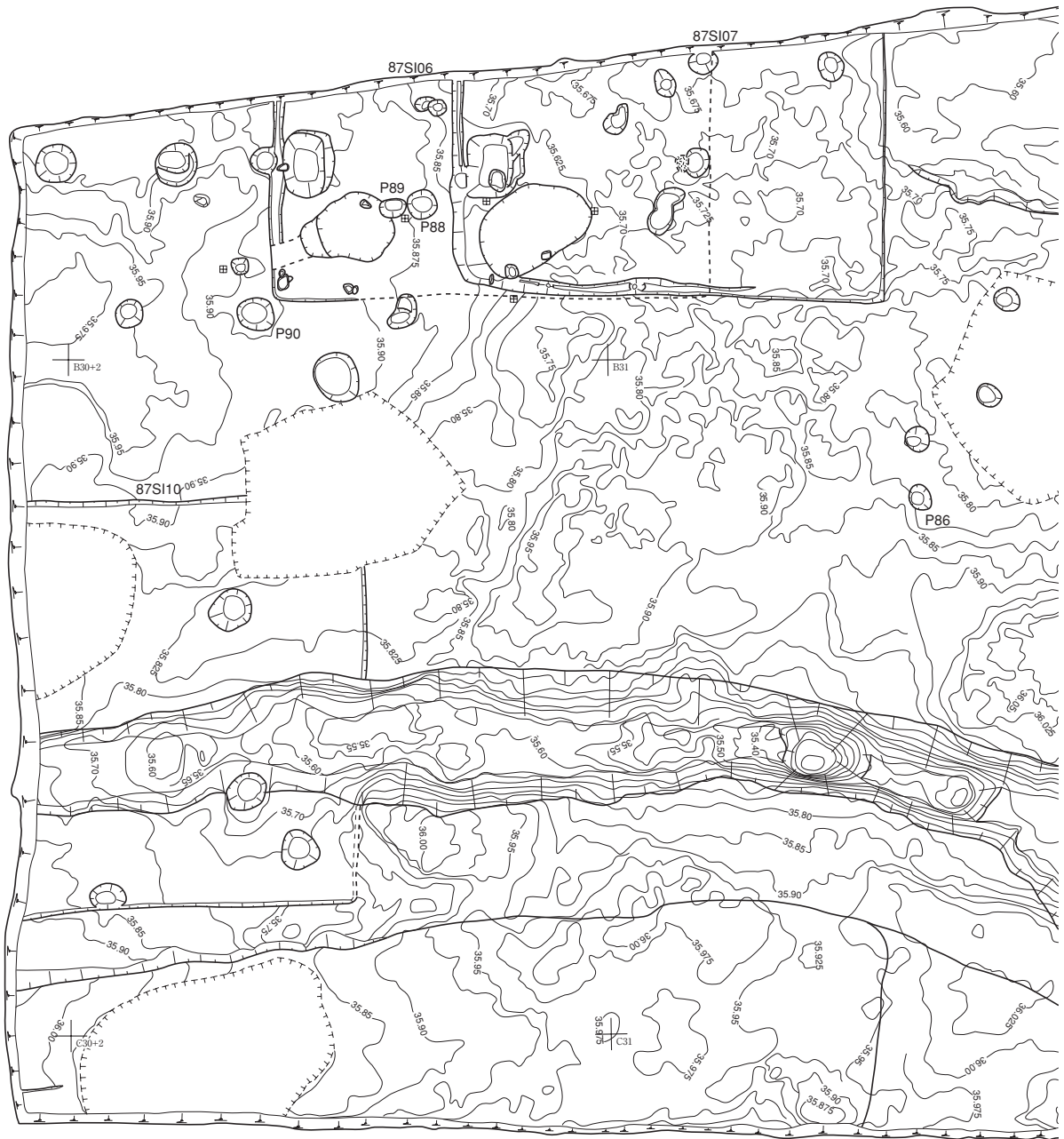
第135図 1987平面図5



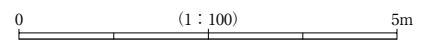
第136図 1987平面図6



第137図 1987平面図 7

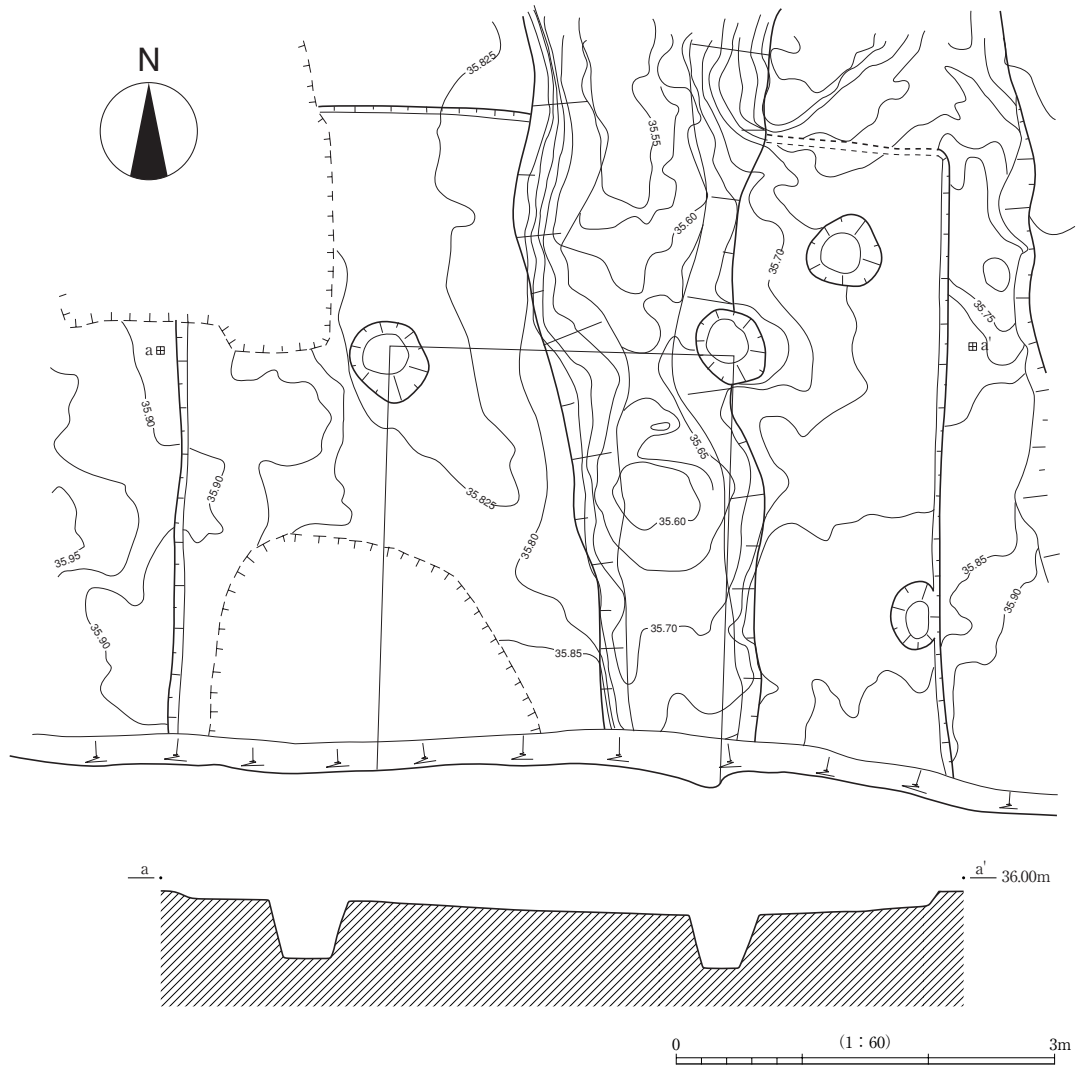


第138図 1987平面図 8





第139図 87SI06・07実測図



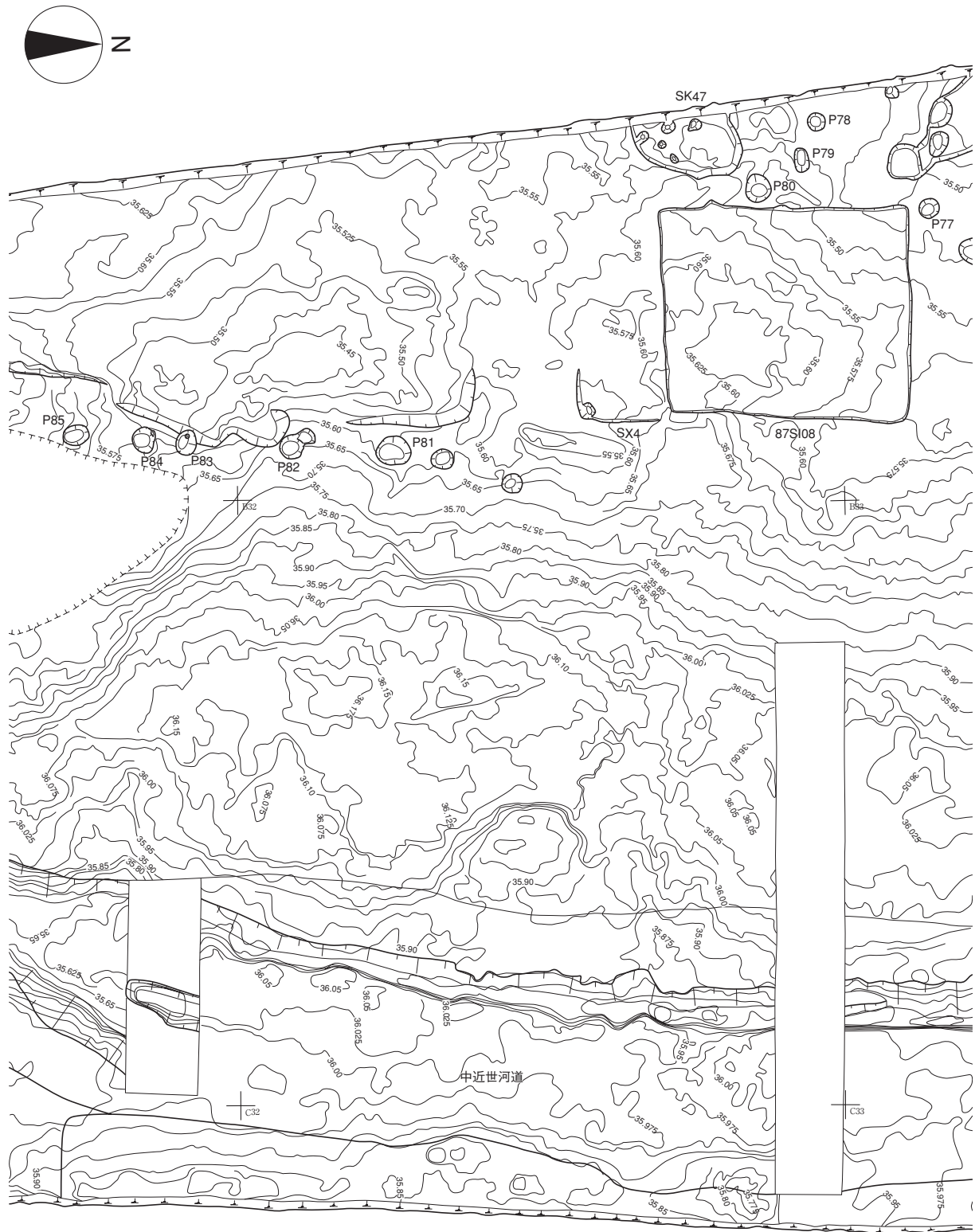
第140図 87S110実測図

出土遺物には506～512がある。506は須恵器杯B蓋である。507は須恵器杯Aである。508は土師器碗で、色調は橙色で胎土調整をして赤っぽく焼いていると考えられる。小破片のため暗文は確認できていない。509は赤彩土師器碗で、内面に暗文が見られる。510・512は土師器小甕と考えられる。外面をケズリ調整、内面にはカキメ調整やハケメ調整を行う。平底のものであり、底部切り離しは不明であるが糸切りではないらしい。平底の土師器小甕ということでは古いものと考えられる。511は土師器長胴甕で、その口縁部の特徴から青野型のものと考えられる。513は製塩土器である。丸底土器になるものと考えられる。これらはⅡ3期頃と考えられる。

この竪穴建物で特徴的なのは、壁溝と見られる部分に石を敷き並べていることである。その敷石の断面を見るときれいにレベルが揃っており、その上に柱や壁材を置いていたかとも考えられる。類例は管見による限り長野県で見られるが、その時期は8世紀後半から9世紀代と新しい〔望月1990〕もので、末松A遺跡の方が古いこととなる。

87S110 (第138・140・163図)

B30で検出されている。平面形態は攪乱に切られたり、南側が調査区外に伸びているためその全形は分からないが、方形であろう。北側の1辺を復元すると約6.1mとなる。仮に正方形であったとする



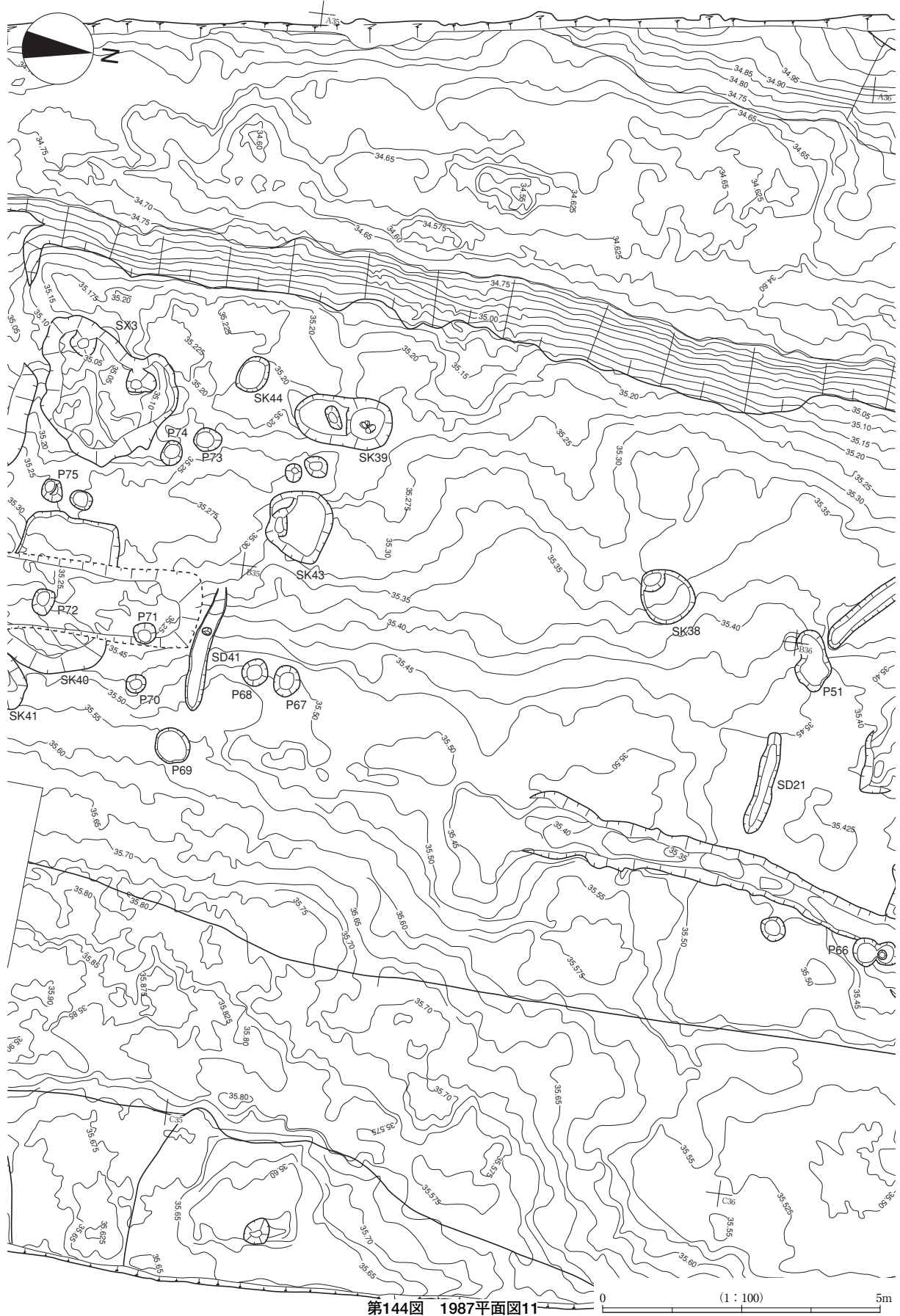
第141図 1987平面図9

0 (1:100) 5m

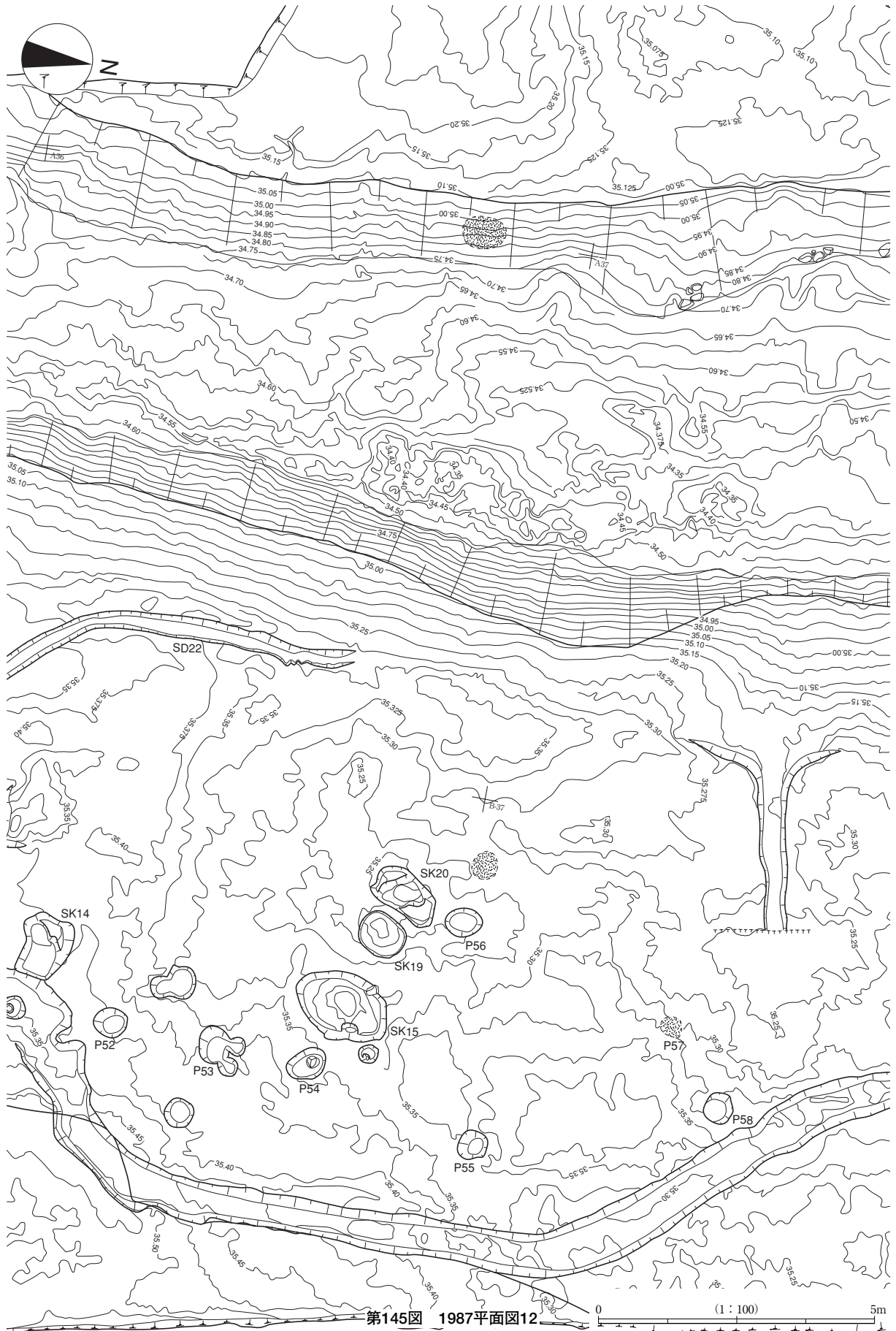


第143図 1987平面図10

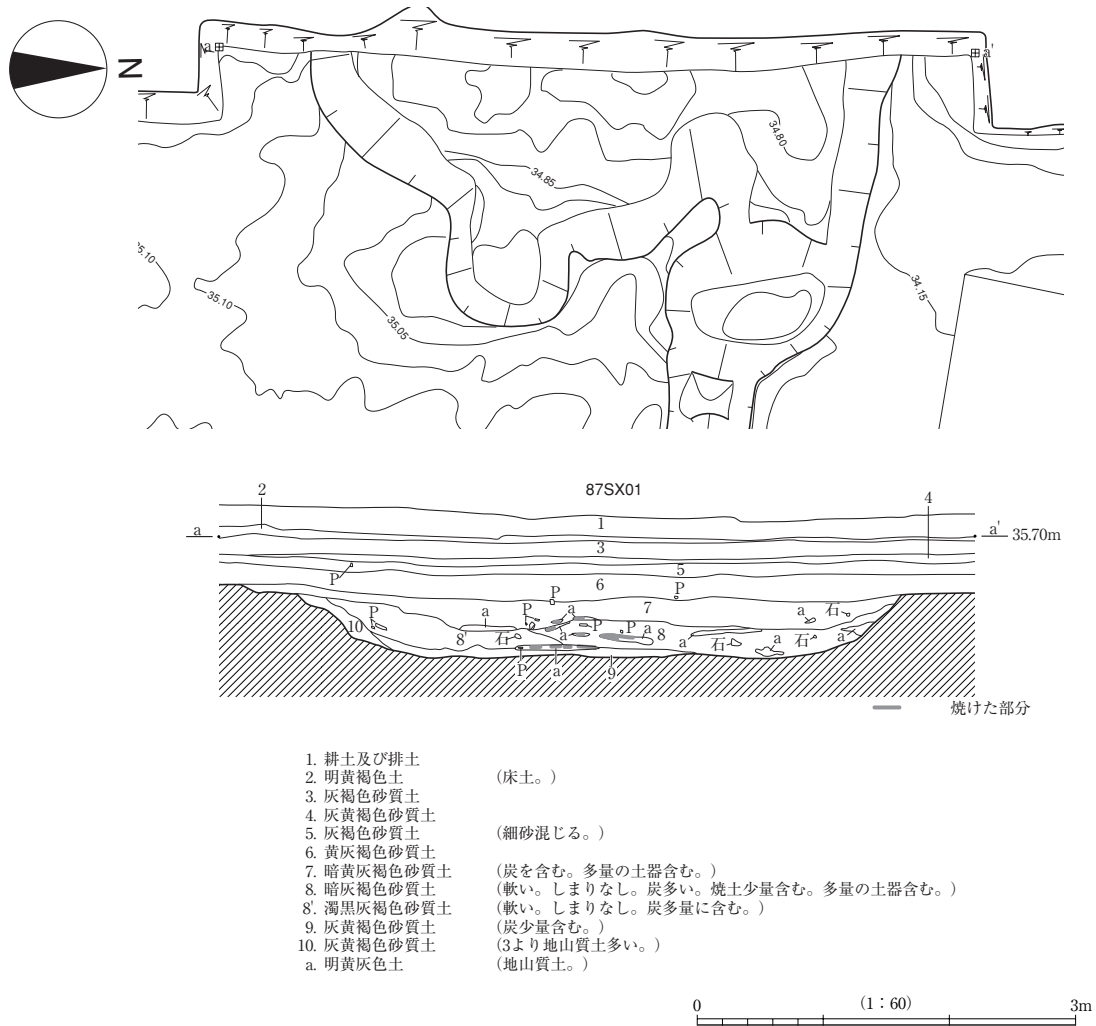
0 (1:100) 5m



第144図 1987平面図11



第145図 1987平面図12



第146図 87SX01実測図

は東に約3°振っている。

土坑

87SK02 (第131・132・171図)

B22・23で検出されている。平面形態は東側を攪乱で切られているため全形は不明であるが、方形であったと考えられる。他の遺構とも切り合うなど分かりにくい。復元すると長辺約3.4m、短辺約2.9mを測る。その平面積は約9.9m²である。

出土遺物には574～576がある。574は須恵器杯B、575は土師器椀、576は土師器長胴甕である。これらの時期はⅡ3ないしⅢ期頃と考えられる。

87SK03 (第131・132・171図)

B22で検出している。攪乱や87SK02に切られており全形は不明である。出土遺物には577の土師器長胴甕が出土している。Ⅱ3ないしⅢ期頃のものであろう。

87SK05 (第131・132図)

B23で検出されている。平面形態は楕円形である。長軸約1.8m、短軸約1.6mを測る。検出面よりの深さは約20cmを測る。埋土は暗茶褐色および暗褐色砂質土である。古代の遺構であろう。

87SK06 (第133・134・171図)

B23で検出されているもので、竪穴建物の可能性がある。平面形態は87SI03に切られているため全形は分からないが、長方形であろう。短辺は約2.3m、長辺は約3.1mを測り、その平面積は約7.1m²である。検出面よりの深さは約10cmで、西側の深い部分では約20cmを測る。南東部分に焼土が確認されカマドの痕跡の可能性もある。支柱穴は検出されていない。主軸は東に8°振っている。

出土遺物には578～581がある。578・579・581は土師器長胴甕で、Ⅱ3ないしⅢ期頃のものと考えられる。580は土師器小甕で、丸底の底部を持ち外面をケズリ調整している。これもⅡ3ないしⅢ期頃であろう。

87SK10 (第131・171図)

B23で検出されている。87SI03南側にある長さ約1.7m、幅約50cmの細長い土坑である。582の土師器長胴甕、583の須恵器杯B蓋、585の土師器鍋が出土している。これらの時期はⅡ2ないしⅡ3期と考えられる。

87SK11 (第126・129・171図)

C19・20で検出されている。平面形態はかなり歪な長楕円形である。長軸約3.9m。短軸約2.2mを測る。検出面よりの深さは約20cmである。埋土は暗灰褐色砂質土である。584の須恵器杯B蓋が出土している。Ⅳ1期頃の製品であろう。

87SK17 (第147・148図)

B38で検出されている。平面形態は長楕円形である。長軸約1m、短軸約70cmを測る。検出面よりの深さは約12cmである。埋土は明黄褐色砂質土、黄褐色砂質土で黄褐色砂質土には炭が混じる。

87SK18 (第147・148図)

B38で検出されている。平面形態は長楕円形である。長軸約1.1m、短軸約70cmを測る。検出面よりの深さは約12cmである。埋土は明黄褐色砂質土、黄褐色砂質土で黄褐色砂質土には炭が混じる。

87SK30 (第147・148図)

A39で検出されている。平面形態は楕円形である。長軸約1.1m、短軸約1mを測る。検出面よりの深さは約20cmである。埋土は明黄褐色砂質土、黄褐色砂質土で黄褐色砂質土には炭が混じる。87SK17・18・30の規模および埋土は類似しており同じ性格の遺構と考えられる。

87SK21 (第147・148・172図)

A・B38で検出されている。平面形態は87SK35と南東部できりあうため不整となっているが、長方形であると考えられる。長辺は約2.9m、短辺は約2.1mを測る。検出面よりの深さは約25cmである。中央部には炭とともに礫群が見られる。上層よりの検出であるため、この土坑に伴うものか判断は難しい。出土遺物には587～591がある。587は赤彩土師器高杯である。588は土師器小甕である。589・590は土師器鍋である。591は土師器長胴甕である。これら土師器はⅡ2期頃のものと考えられる。

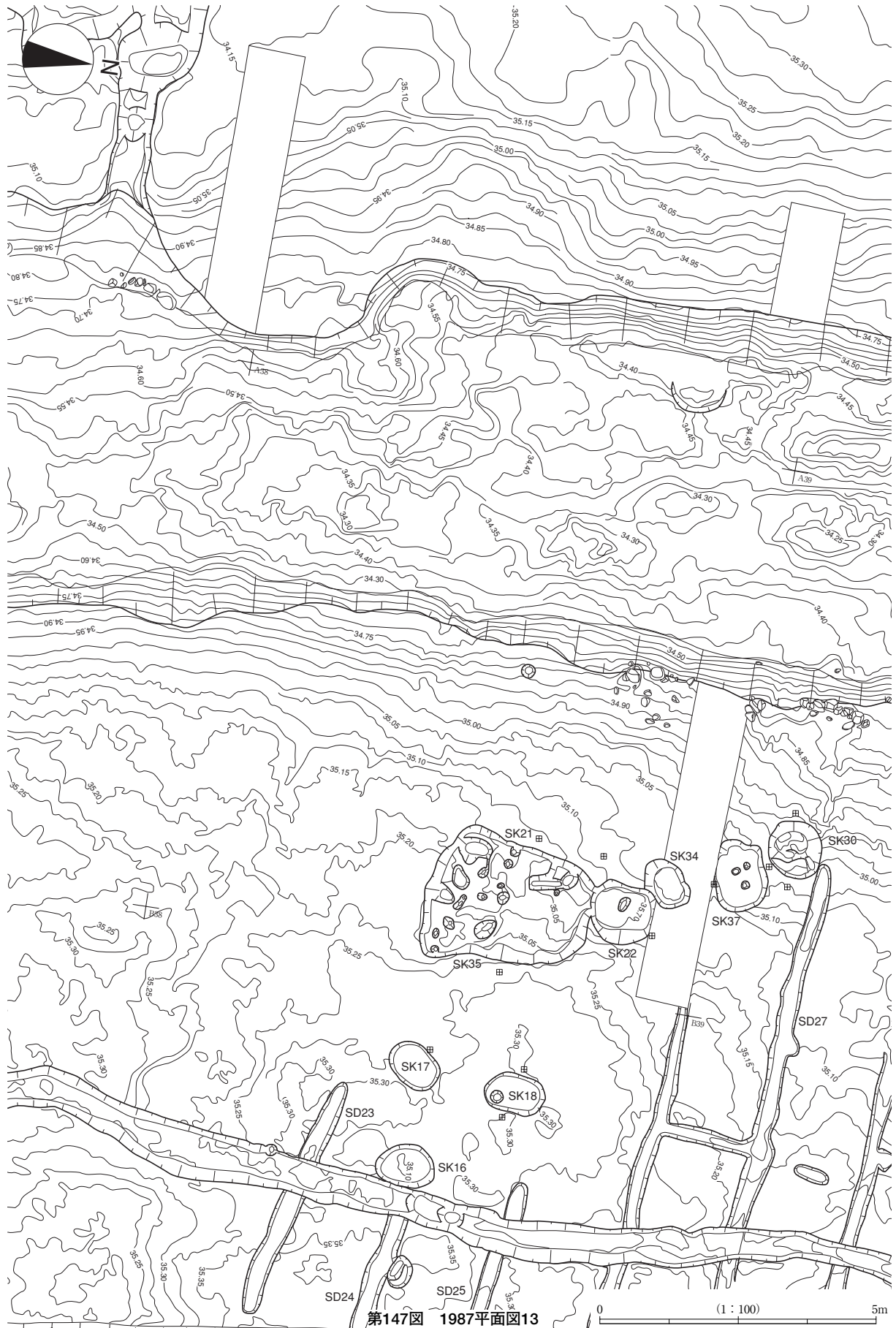
87SK22 (第147・148図)

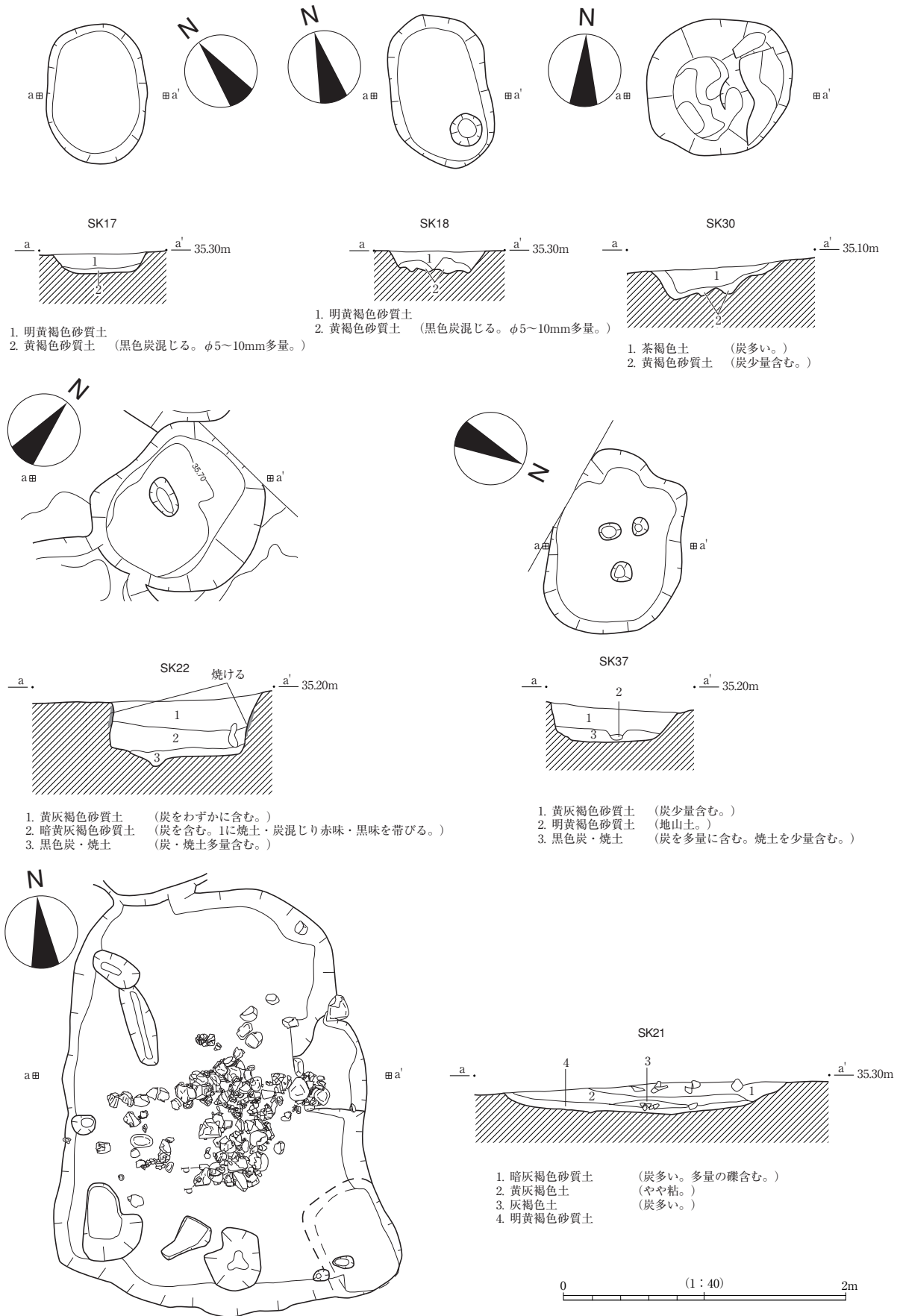
A38で検出されている。平面形態は楕円形である。長軸約1.2m、短軸約1mを測る。検出面よりの深さは約40cmである。埋土は黄灰褐色砂質土、明黄灰褐色砂質土のほか土坑の底には炭や焼土が堆積している。また土坑の壁面も焼けており、この遺構の性格を表しているものと考えられる。いわゆる伏せ焼き窯であろうか。

87SK25 (第149・172図)

A・B40で検出されている。平面形態は楕円形である。長軸約1.2m。短軸約1mを測る。検出面よりの深さは約20cmである。出土遺物には592の土師器碗がある。内面には暗文が確認できる。Ⅱ2期

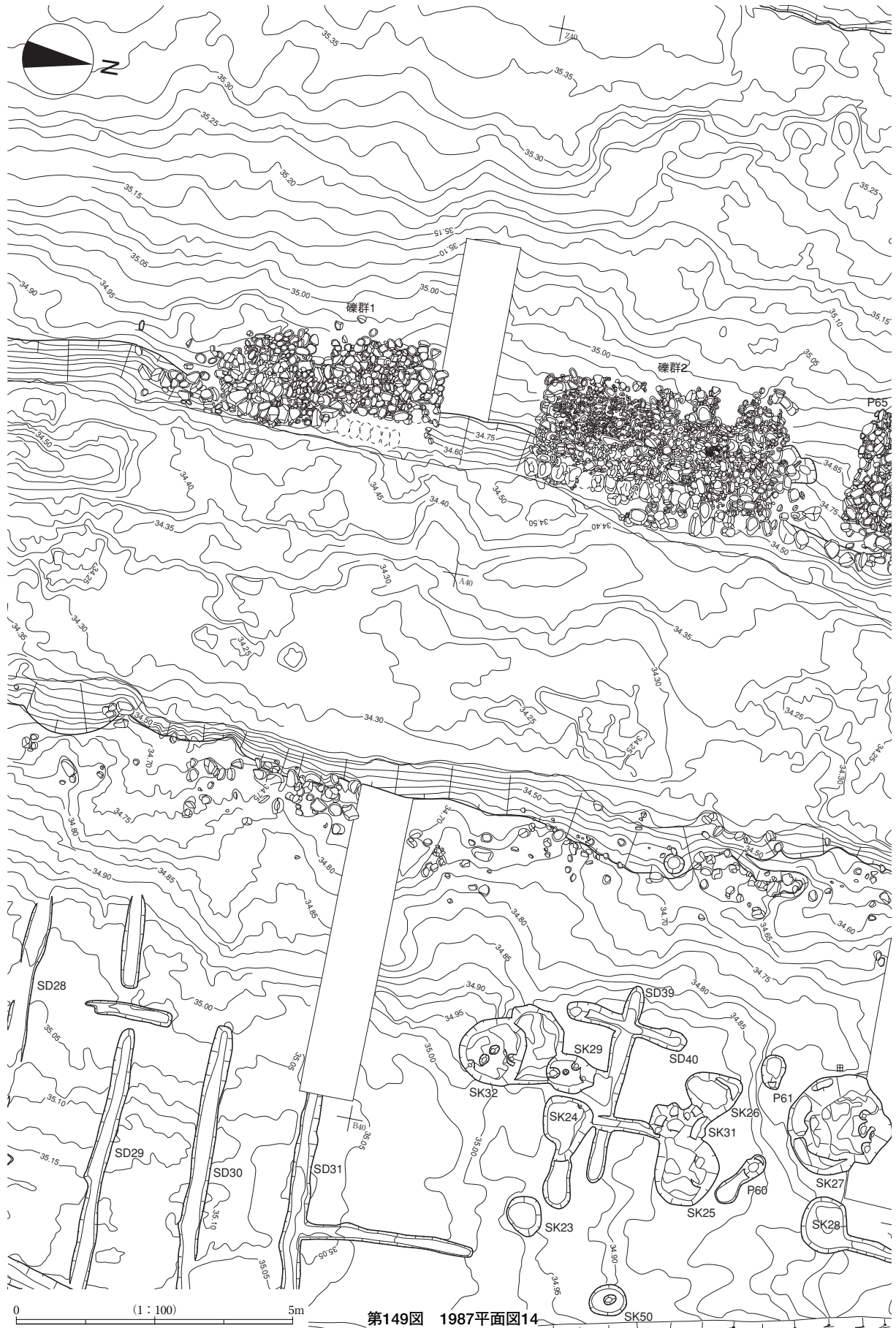
第4節 1987年度の発掘調査



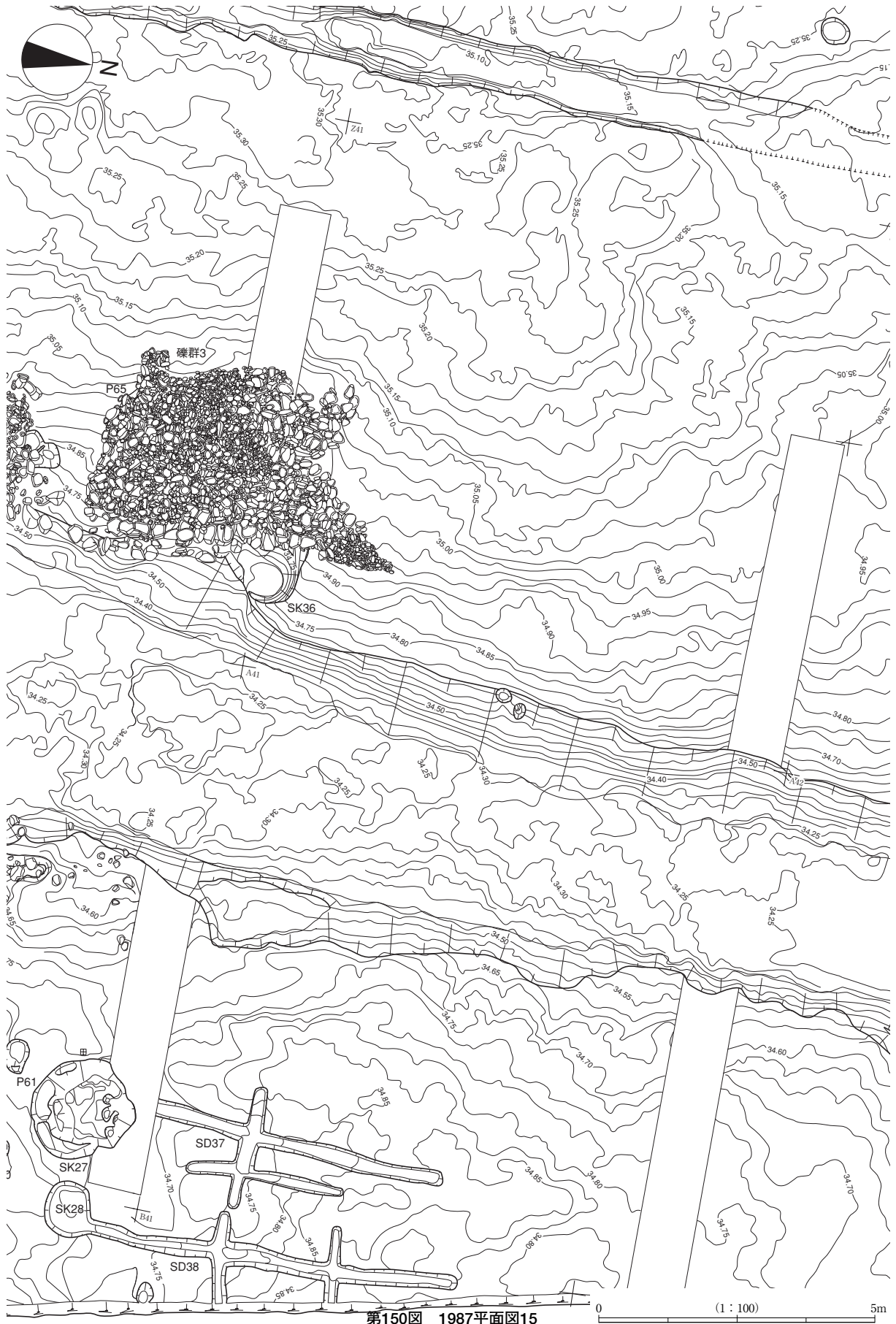


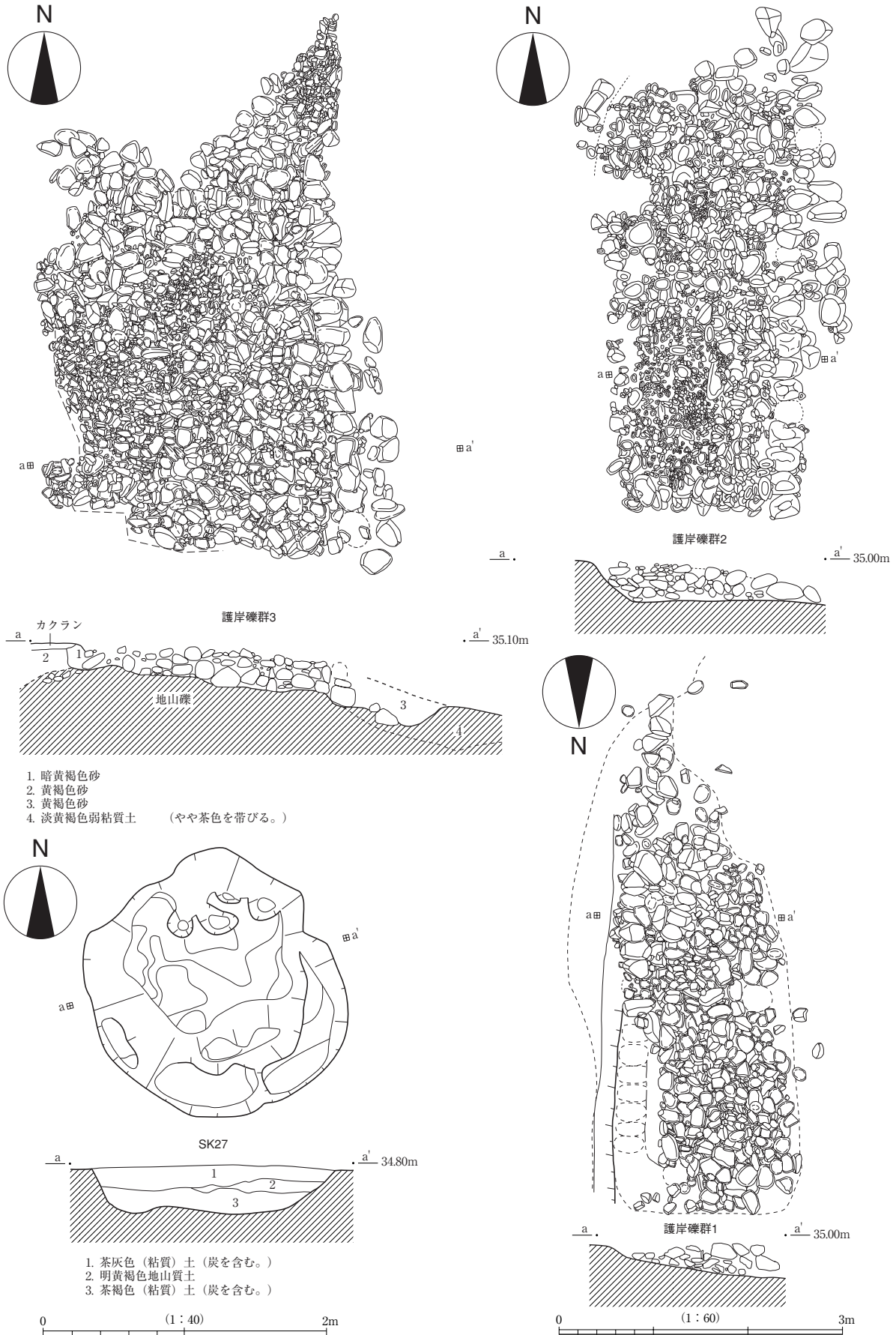
第148図 87SK17・18・21・22・30・37実測図

第4節 1987年度の発掘調査



第149図 1987平面図14





頃と考えられる。

87SK27 (第149・151・172図)

A40で検出されている。平面形態は円形に近い。直径は約1.8mである。検出面よりの深さは約34cmである。埋土は茶灰色粘質土、明黄褐色地山質土、茶褐色（粘質）土といった粘質土で炭を含んでいる。出土遺物には593・594がある。593は須恵器杯B、594は土師器小甕である。Ⅱ2期頃のものであるろう。

87SK32 (第149・172図)

A40で検出されている。平面形態は円形に近く、直径約1.2mを測る。検出面よりの深さは約30cmである。出土遺物には595の須恵器杯Bがある。Ⅱ3期頃のものと考えられる。

87SK37 (第147・148図)

A38で検出されている。平面形態は楕円形で、長軸約3.3m、短軸約2.3mを測る。検出面よりの深さは約25cmである。埋土は黄灰褐色砂質土、明黄褐色砂質土のほか土坑の底には炭や焼土が堆積している。87SK22と埋土は良く似ており同一の性格をもつ遺構と考えられる。

87SK40 (144・219図)

A・B34で検出されている。平面形態は試掘トレンチにより切られているため良く分からないが、長辺約2.8m、短辺約1.8mの長方形と考えられる。検出面よりの深さは約20cmを測る。出土遺物には597・598の須恵器杯Bがある。Ⅱ3～Ⅲ期のものと考えられる。1265の刀子も出土している。

87SK42 (第143・172・219図)

B34で検出されている。西側を試掘坑で切られているため全形は良く分からないが、1辺約2.5mの正方形に近い形に復元できる。検出面よりの深さは約30cmを測る。出土遺物には599～603がある。599・600は須恵器杯B蓋である。601・602は土師器小甕である。603は土師器長胴甕である。須恵器・土師器ともⅡ2期頃のものと考えられる。他に1266の刀子も出土している。

87SX01 (第145・146・166・167・168・169図)

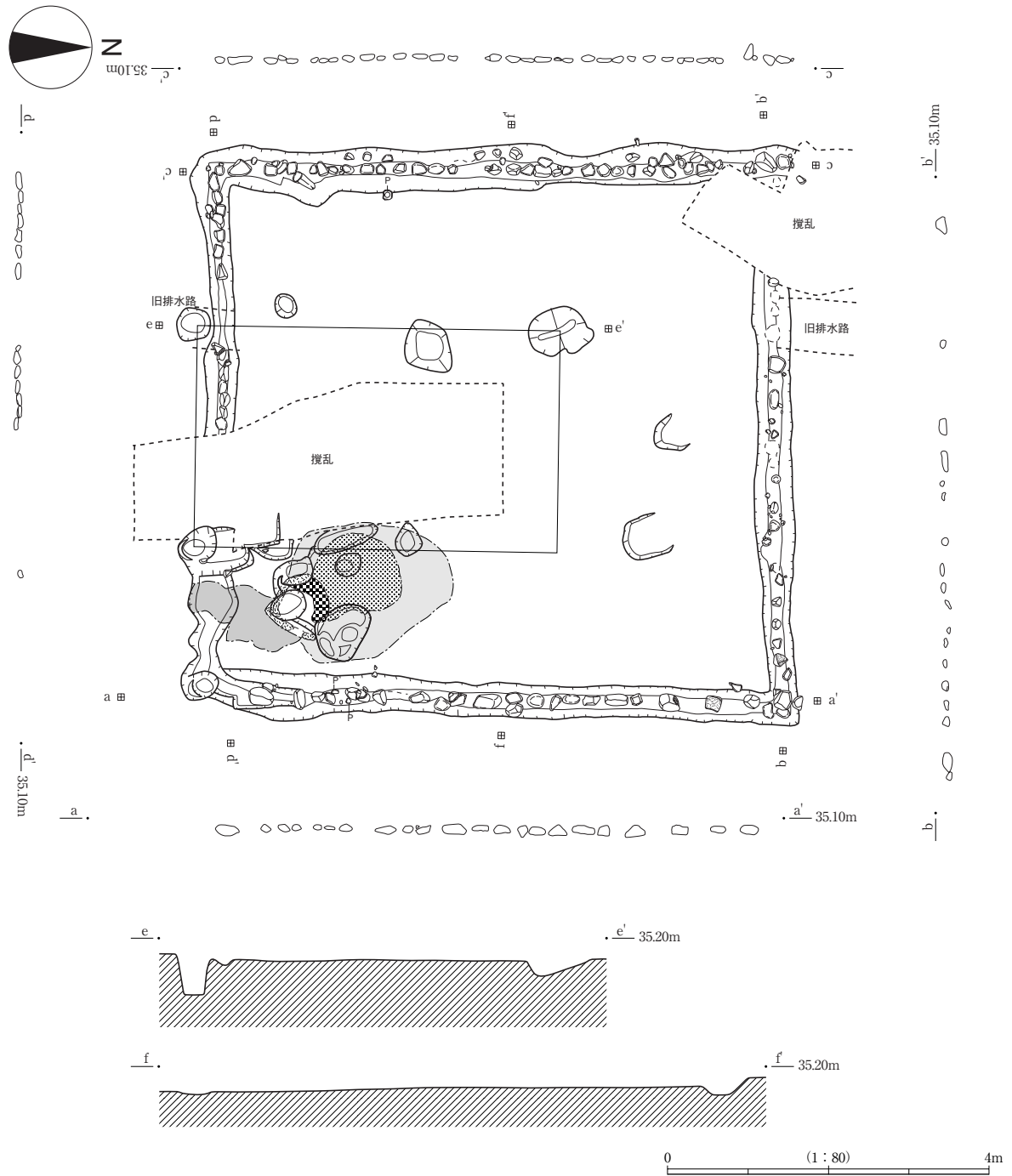
Z37で検出されている。調査区外に延びておりその全形は良く分からない。検出されている部分だけで見ると南北に約4.7mを測る。深さは検出面より約50cmである。埋土を見ると土器を多く含んでいるほか、炭や焼土も含んでいる。

514～562の遺物が出土している。514～521は須恵器杯B蓋である。514～519にはかえりがある。522は須恵器杯Gである。523～525は須恵器杯Aですべて有蓋である。526は須恵器杯B蓋で、527の杯Bとセットになるものと考えられる。528は須恵器椀で、口縁端部内面に沈線を巡らす。529は杯AないしBの口縁部破片である。530は須恵器椀Bと考えられる。531は須恵器椀ないし高杯の口縁部と考えられる。532は須恵器椀Bである。533・534は須恵器杯Bである。535は須恵器椀Bと考えられる。536・537は須恵器高杯である。これら須恵器の時期は概ねⅡ2期と考えられる。538は土師器椀である。その作りは須恵器椀Gに近いもので、焼きも硬質で須恵器窯で焼成されたものと考えられる。539は赤彩土師器椀である。540は土師器椀で内面に暗文が入る。541は土師器高杯である。542は土師器鉢と考えられ、内面に暗文が入る。543はフイゴの羽口である。これら土師器の時期は、須恵器食膳具類と同様にⅡ2期頃と考えられる。544・545は須恵器長頸瓶と考えられる。Ⅱ1ないしⅡ2期頃のものであろう。546・547は土師器小甕である。548は土師器甌である。外面はカキメ調整を施している。549～556は土師器長胴甕である。550には外面にカキメやタタキの痕跡が見られる。553・555・556にも外面にタタキの痕跡が見られる。551青野型のものである。557は土師器鍋の口縁部破片かと考えられる。内外面ともにタタキの痕跡が見られる。558は把手付き鍋と考えられる。内外面と

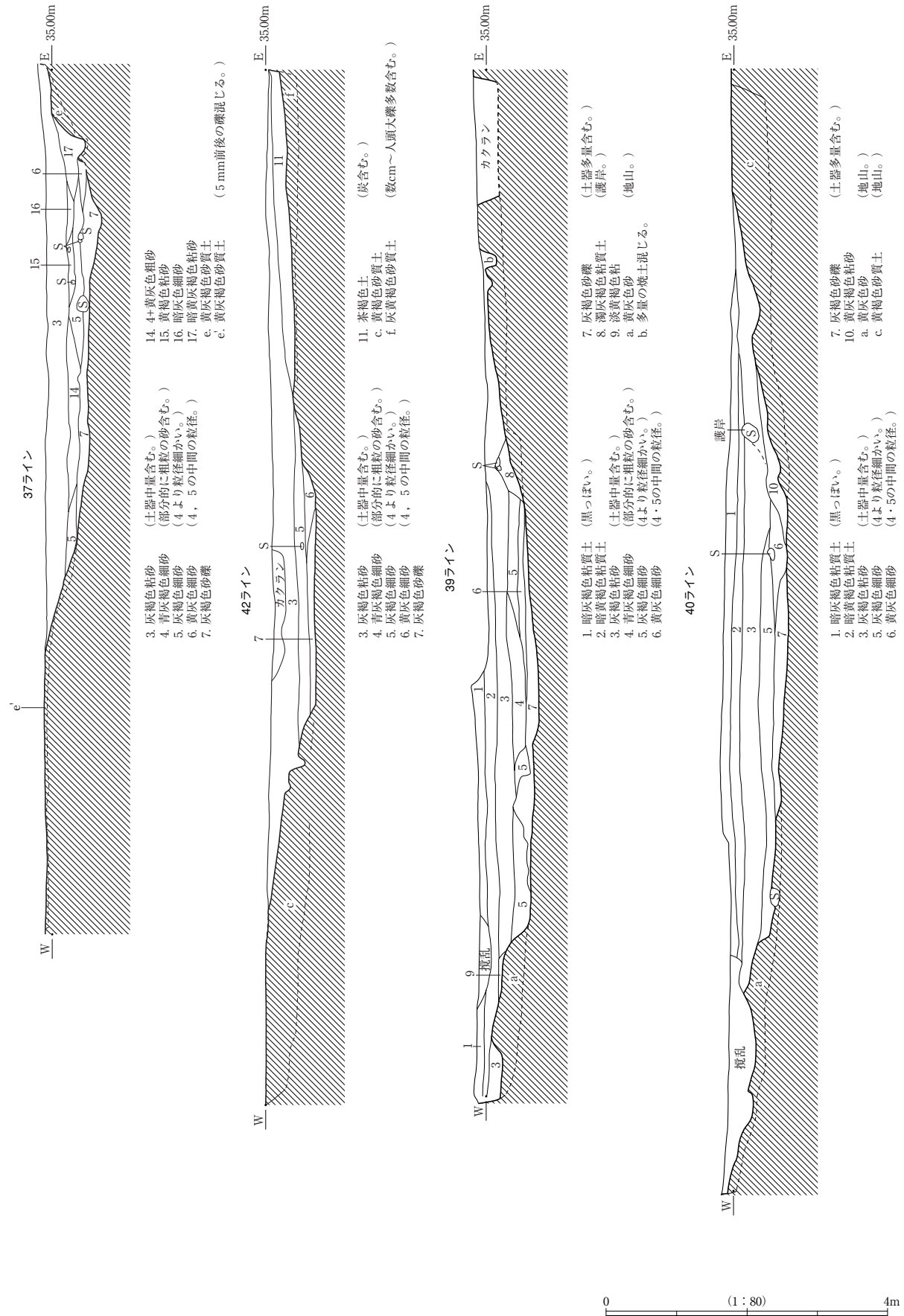
第4節 1987年度の発掘調査



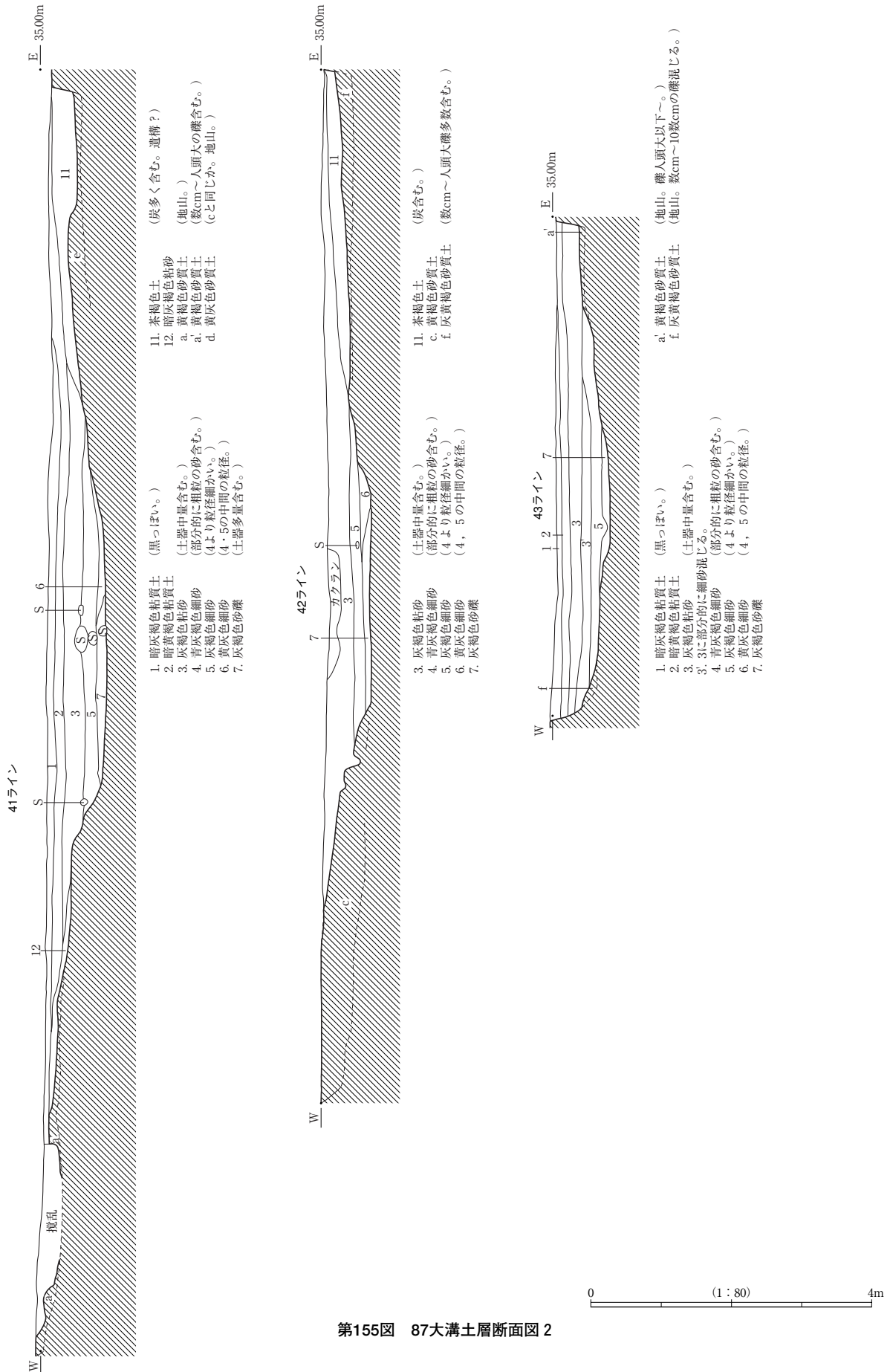
第152図 1987平面図16



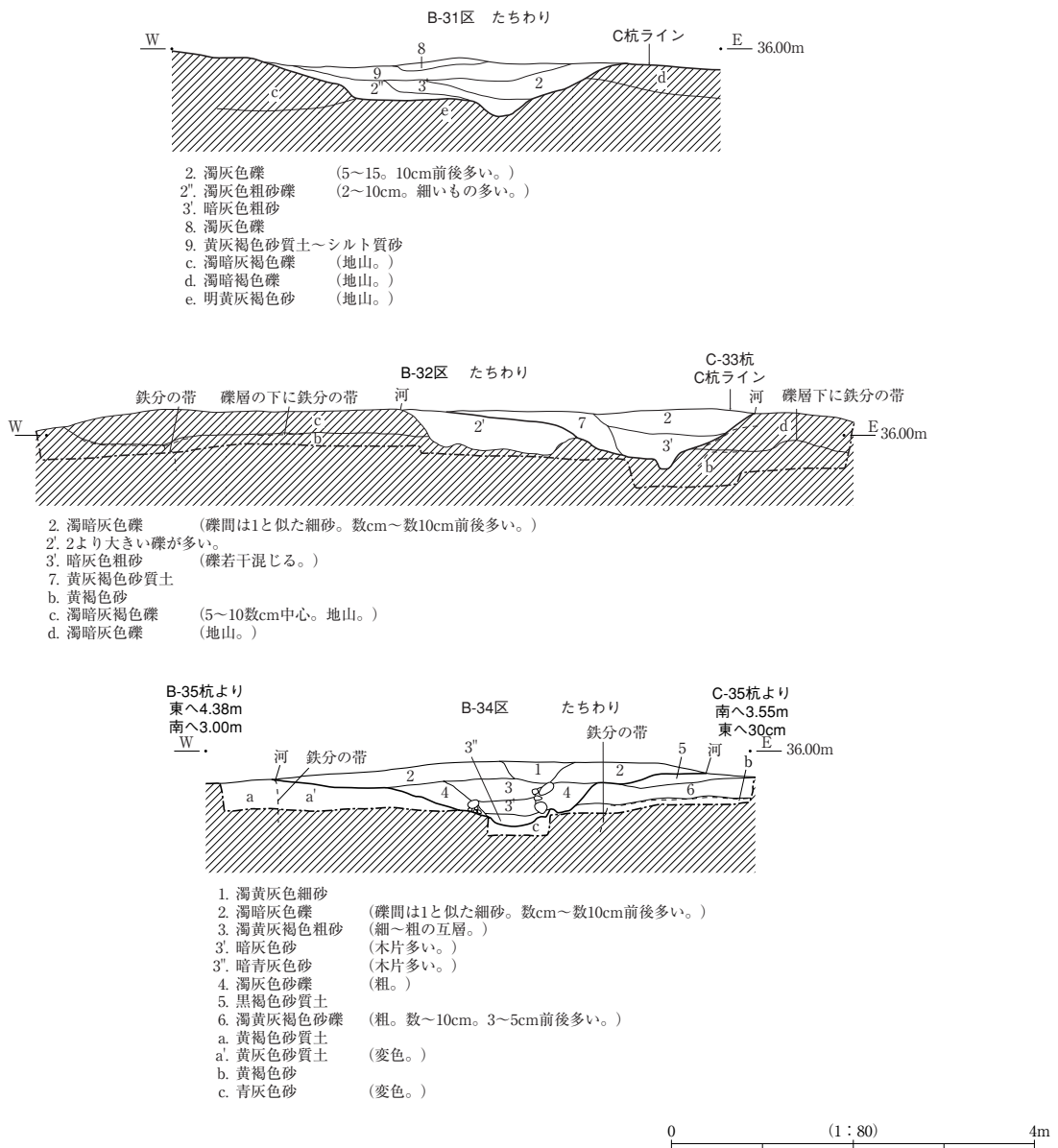
第153図 87SI09実測図



第154図 87大溝土層断面図1



第155図 87大溝土層断面図2



第156図 中近世河道たちわり土層断面図

もにタタキの痕跡が見られる。559~562は土師器鍋である。559・562にはカキメ調整が施されている。また562にはタタキの痕跡も見られる。これら土師器煮炊具の時期はⅡ2期と考えられる。須恵器系の技法が採用されているものとされていないものが見られ、北陸型煮炊具成立時の状況を反映しているものと考えられる [望月1999]。

87S X 02 (第143・173図)

A33・34で検出されている。大溝の南岸にあり平面形態は長方形である。長辺約7.2m、短辺約4mを測る。検出面よりの深さは約10cm程度と浅い。南際には多数の礫が見られ、後述する護岸施設1・2・3と同様に大溝の護岸施設であった可能性がある。出土遺物には605~631がある。605~611は須恵器杯B蓋である。612~622は須恵器杯Bである。623・624は須恵器杯Aである。これら須恵器食膳具の時期は概ねⅡ3~Ⅲ期と考えられる。621・622はⅣ期まで下がると思われる。625は赤彩土師

器碗である。626は土師器小甕である。627は土師器長胴甕である。628・630は土師器鍋である。これら土師器煮炊具は、口縁端部を面取りしたりカキメ調整を施すなどの須恵器技法が使われている。Ⅱ3期頃のものと考えられる。629は須恵器長頸瓶である。631は須恵器横瓶である。これらはⅡ3～Ⅲ期頃のものと考えられる。

87SX03 (第144・174図)

A34で検出されている。平面形態はかなり不整形な形をしており、長軸は約2.7mを測る。検出面よりの深さは約20cmである。出土遺物には632～638がある。632～634は須恵器杯B蓋である。635～637は須恵器杯Aである。これらの須恵器はⅡ3～Ⅲ期頃の製品であると考えられる。638は把手付鍋である。内外ともハケメ調整を施す。Ⅱ3期頃のものと考えられる。

5. 溝状遺構

大溝

33～43ラインにかけて検出される幅約7～10m、深さ約1mの古代の河道と考えられる。極めて直線的なことから、Z39～41にかけて護岸施設が見られるなど人手がかなり加えられていることから、人為的に掘削された可能性もあると考えられる。出土遺物は多く、ここでは南北のラインごとに遺物を述べることにする。なお調査時には上層・中層・下層に分けて取り上げられており、層ごとに遺物の記述をするべきであるが、それぞれ異なる層で接合する個体が多く見られることから、ここでは器種ごとに記述することとする。

護岸施設1・2・3 (第149・150・151図)

Z39～41にかけて検出されている大溝の護岸施設である。1・2・3の3つのまとまりが見られる。また前述した87SX02も同様な遺構の可能性もある。いずれも掘り形をもち、そこに石を充填している。大溝側に方形の石を短辺を向けて並べ、後ろにはやや細かい石を使用している。その時期については良くわからないが、大溝があった当初からではなくある程度時間がたってから造られたことが土層断面からわかる。87SI09が建っていたであろうⅡ3期頃ではないだろうか。その機能については、船着場であった可能性も考えたい。

33ライン (第175・176図)

639～642は須恵器杯B蓋である。643～645は須恵器杯Bである。646～649は須恵器杯Aである。650は赤彩土師器碗である。651は外赤内黒の土師器碗である。652は赤彩土師器高杯である。653は赤彩土師器の短頸壺である。654・655は須恵器短頸壺である。656・657は須恵器長頸瓶である。658～660は須恵器横瓶である。

34ライン (第177図)

662～665は須恵器杯B蓋である。663の内面には「氏万呂」の墨書がある。666～668は須恵器杯Bである。669～677は須恵器杯Aである。669には底部外面に「吉」の墨書がある。678は赤彩土師器碗である。679は土師器高杯である。680は土師器小甕である。681は須恵器短頸壺である。682は土師器長胴甕である。

35ライン (第178・179図)

683～685は須恵器杯B蓋である。686～689は須恵器杯Bである。690～698は須恵器杯Aである。699は須恵器ハソウである。700は須恵器小坩とされる。701は須恵器短頸壺蓋である。702～705は須恵器長頸瓶である。706は須恵器横瓶である。707～709は須恵器甕である。

36ライン（第180・181・182・183・184図）

710～714は須恵器杯B蓋である。715は須恵器で壺蓋であろうか。716～722は須恵器杯Bである。723～731は須恵器杯Aである。732～738は赤彩土師器椀である。739は土師器高杯である。740・741は土師器長胴甕である。742は土師器鍋である。743～748は須恵器長頸瓶である。749は須恵器短頸壺の底部破片であろうか。750・751は須恵器短頸壺である。752～755は須恵器横瓶である。756～758は須恵器甕である。

土器以外では、1325の石製権が大溝中層から出土している。当初は砥石として使用していたものに穿孔をし、転用したたものと考えられる。大溝中層よりの出土から、Ⅲ～Ⅳ期頃と考えられる。

37ライン（第185・186・187・188・189図）

759～763は須恵器杯B蓋である。764～771は須恵器杯Bである。772～778は須恵器杯Aである。779は土師器椀である。780～783は赤彩土師器椀である。784は土師器椀である。785は赤彩土師器高杯である。786～788は土師器長胴甕である。789・791～793は須恵器長頸瓶である。790・794～796は須恵器短頸壺である。797は須恵器甕である。798～800は須恵器横瓶である。801～804は須恵器甕である。

38ライン（第190・191・192図）

805～808は須恵器杯B蓋であろう。809～817は須恵器杯Bである。818～824は須恵器杯Aである。825・826は須恵器高杯である。827～830は赤彩土師器椀である。831・832は土師器長胴甕である。833は須恵器甕である。834～838は須恵器長頸瓶である。839は須恵器広口瓶である。840は須恵器長頸瓶である。841は須恵器短頸壺である。842は須恵器小壺である。843は須恵器枡である。844は須恵器平瓶である。845・846は須恵器甕である。

39ライン（第193・194・195図）

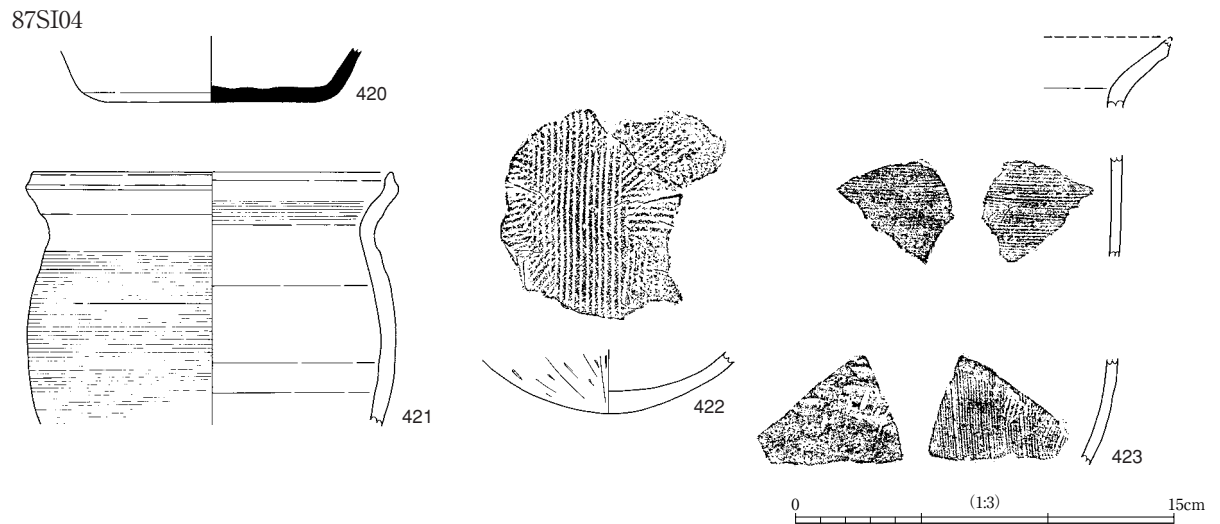
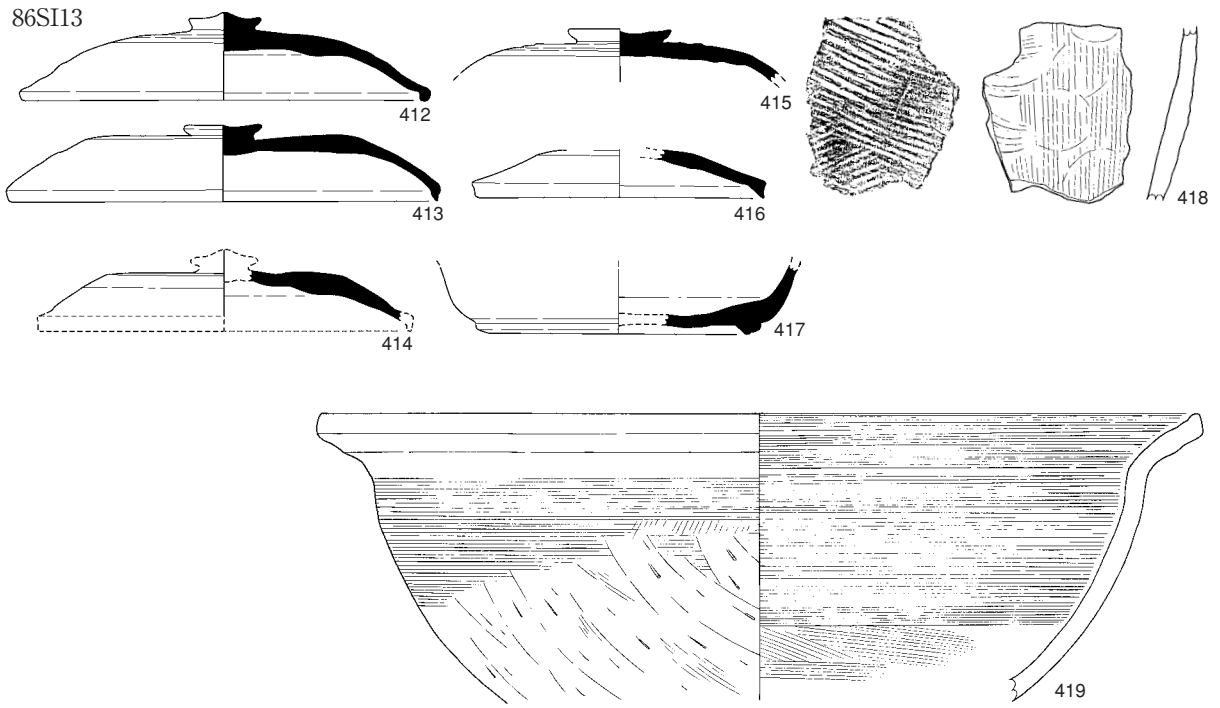
847～851は須恵器杯B蓋である。852～858は須恵器杯Bである。859～877は須恵器杯Aである。878は須恵器高杯である。879は土師器椀である。880・881は赤彩土師器椀である。882は赤彩土師器杯Bである。883は赤彩土師器盤Aである。884は把手付鉢である。885・886は土師器長胴甕である。887は長胴甕体部破片であるが、近江型のものにはヘラ記号が入るものがあることから、これも近江型かもしれない。888・889は土師器鍋である。890～892・894は須恵器長頸瓶である。893は須恵器小壺である。895は須恵器短頸壺である。896は須恵器甕である。897・898は須恵器横瓶である。

40ライン（第196・197・198・199・200図）

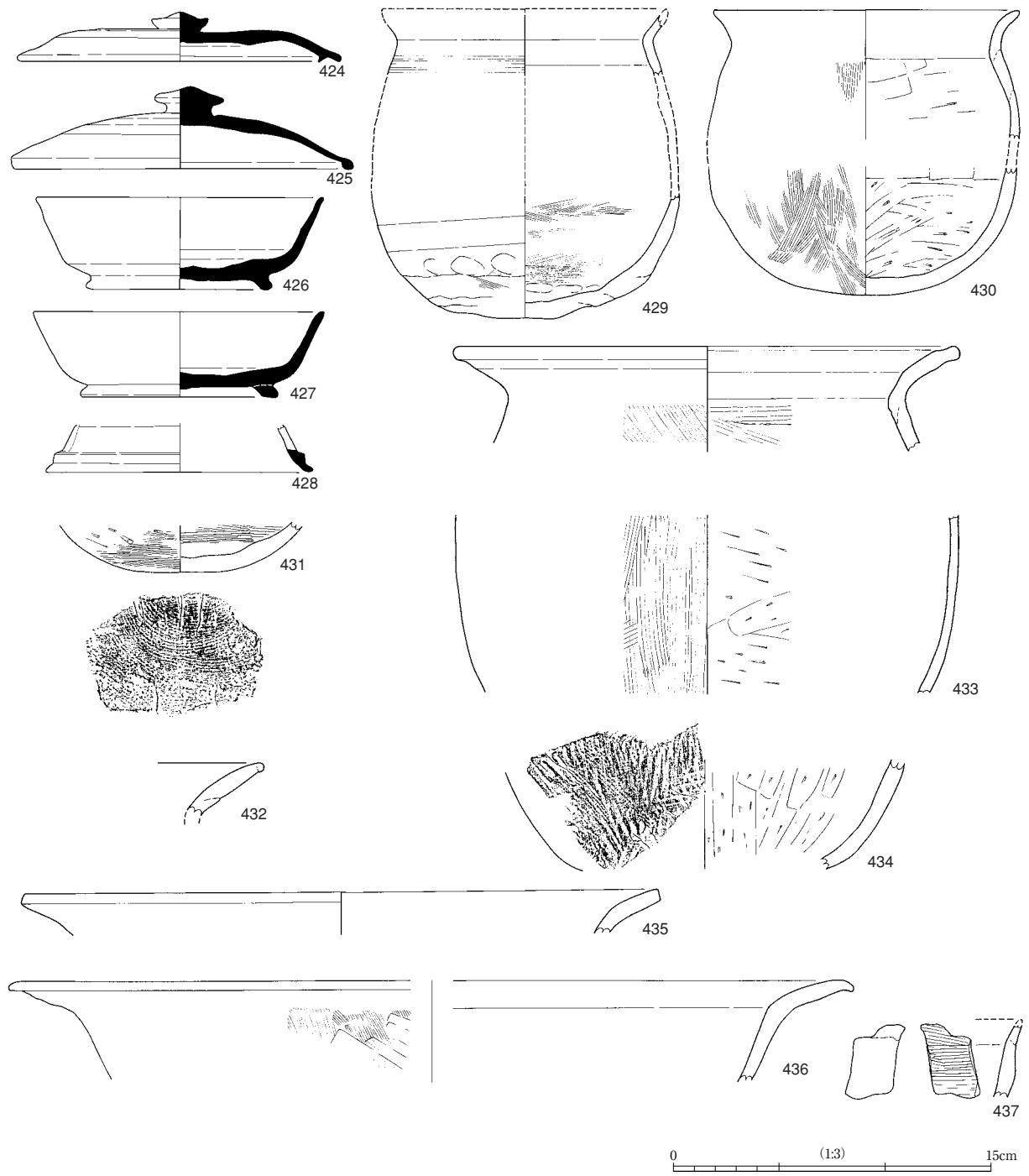
899は須恵器杯A蓋である。900～902・905・906は須恵器杯B蓋である。903・904は須恵器杯Aで蓋付のものである。907～912は須恵器杯Bである。913～925は須恵器杯Aである。926・927・928は須恵器高杯である。929は土師器椀である。903・931は赤彩土師器椀である。931の底部外面には「大寺」の墨書がある。末松廃寺を指しているのかもしれない。932は土師器蓋の紐部分の破片である。933は赤彩土師器高杯である。934・935は土師器長胴甕である。936は須恵器ハソウである。937・938・940～943は須恵器長頸瓶である。939は須恵器枡である。944・945は須恵器広口瓶である。946～949は須恵器短頸壺である。950は須恵器平瓶である。951～953は須恵器横瓶である。954～957は須恵器甕である。

41ライン（第201・202・203図）

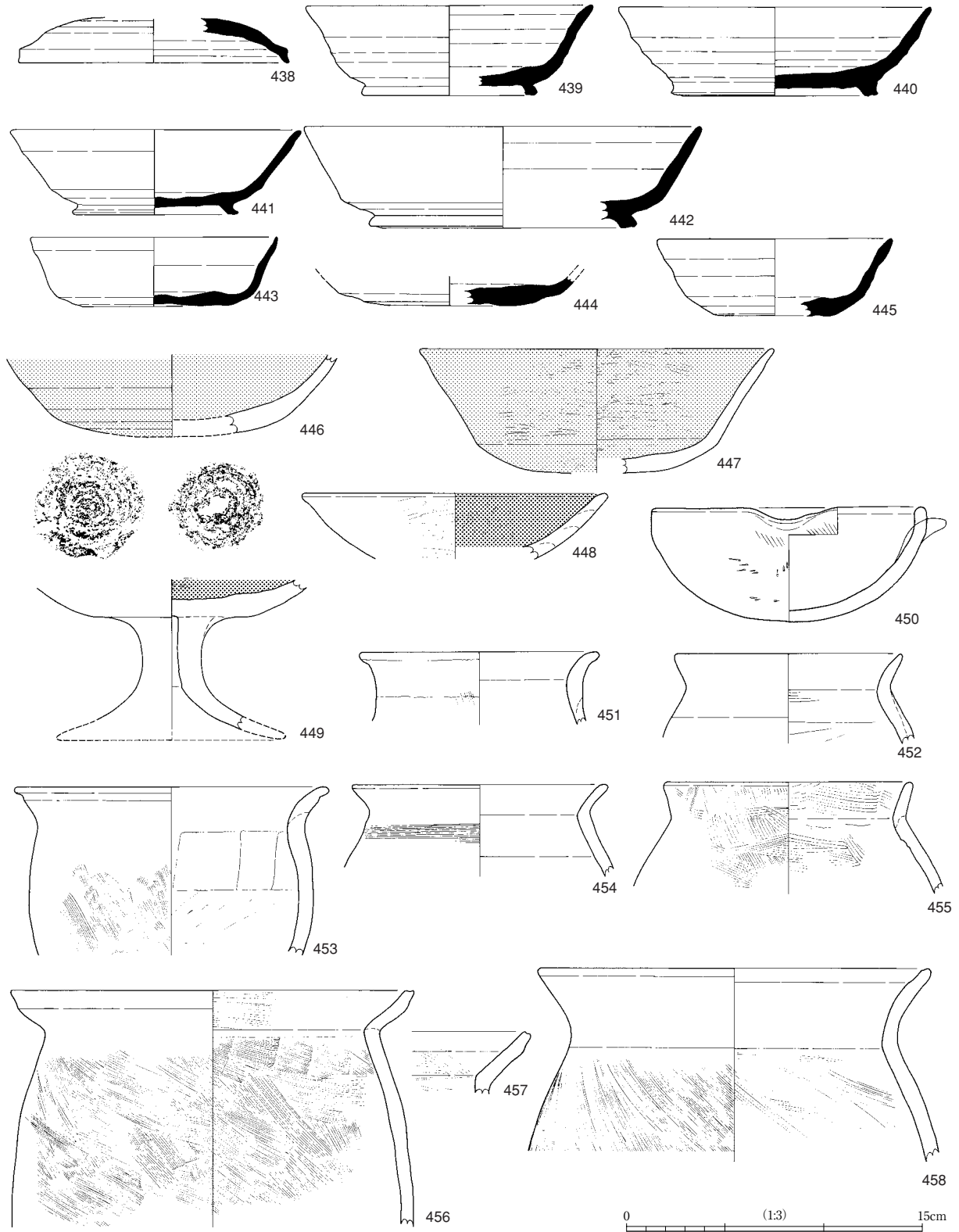
958・959は須恵器杯蓋である。960～965は須恵器杯B蓋である。966～969は須恵器杯Bである。970・971は須恵器高杯である。972・973は須恵器杯Aである。974は須恵器盤Aである。975・976は土師器椀である。977は赤彩土師器椀である。978・979は土師器長胴甕である。980～982・985・986



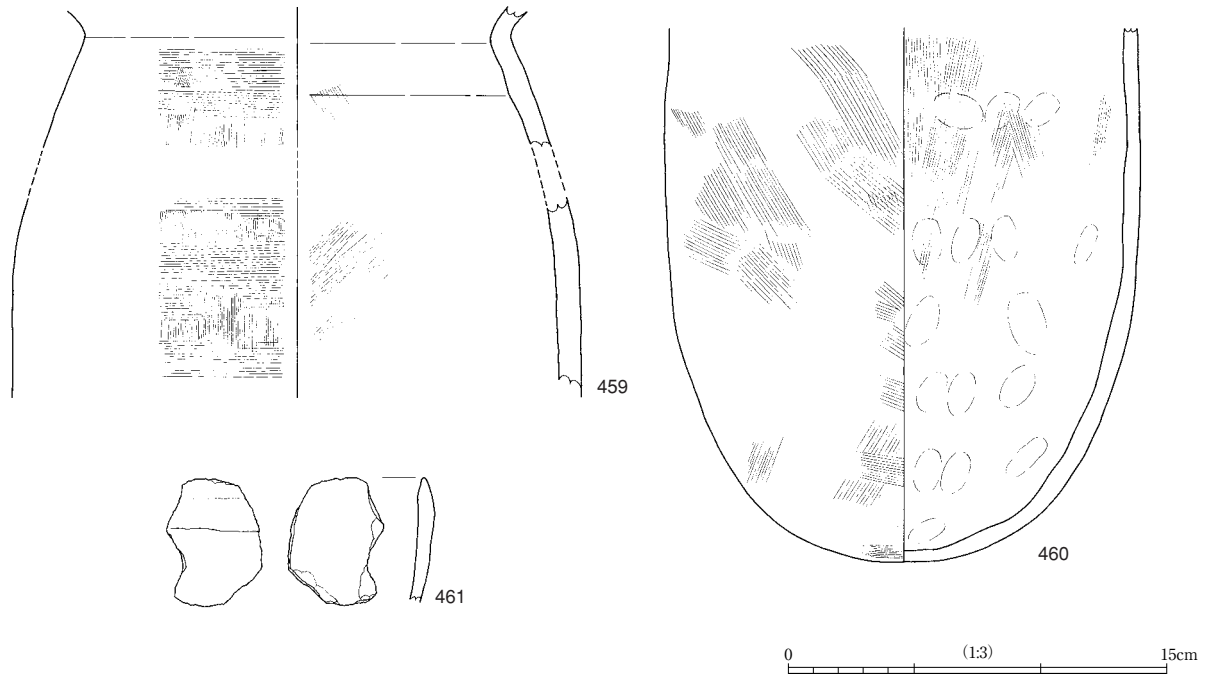
第157図 86SI13・87SI04出土遺物実測図



第158図 87SI02出土遺物実測図



第159図 87SI01出土遺物実測図1



第160図 87SI01出土遺物実測図2

は須恵器長頸瓶である。983は須恵器平瓶ないしは小瓶であろう。984は須恵器小壺である。987は須恵器短頸壺である。988・989は須恵器平瓶である。990は須恵器円面硯である。991～993は須恵器甕である。

42ライン（第204・205図）

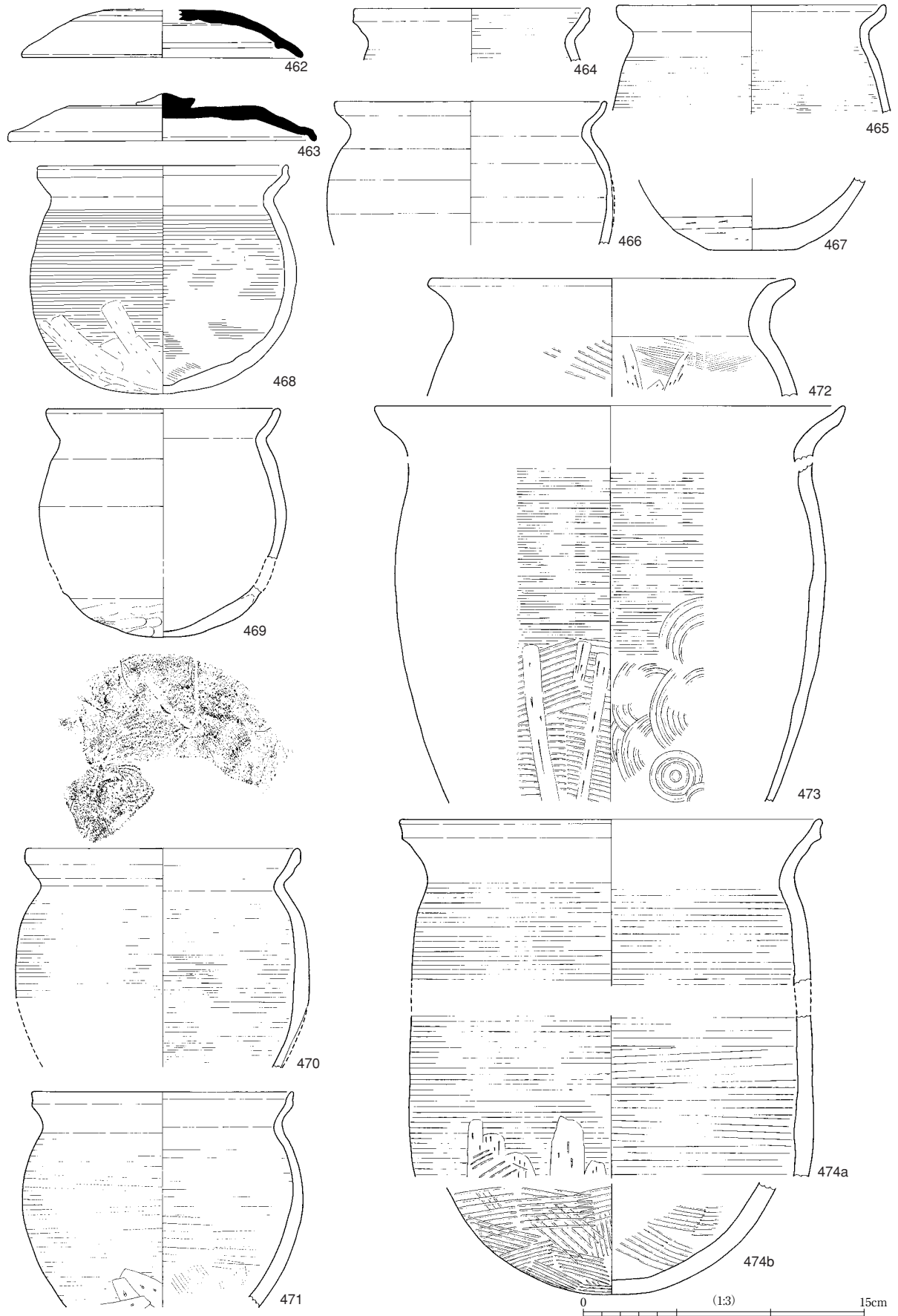
994～996は須恵器杯B蓋である。997～999は須恵器杯Bである。1000・1001は赤彩土師器碗である。1002は土師器長胴甕である。1003は須恵器長頸瓶である。1004～1006は須恵器短頸壺である。1007は須恵器横瓶である。1008・1009は須恵器甕である。1010・1011は土錘である。

中近世河道

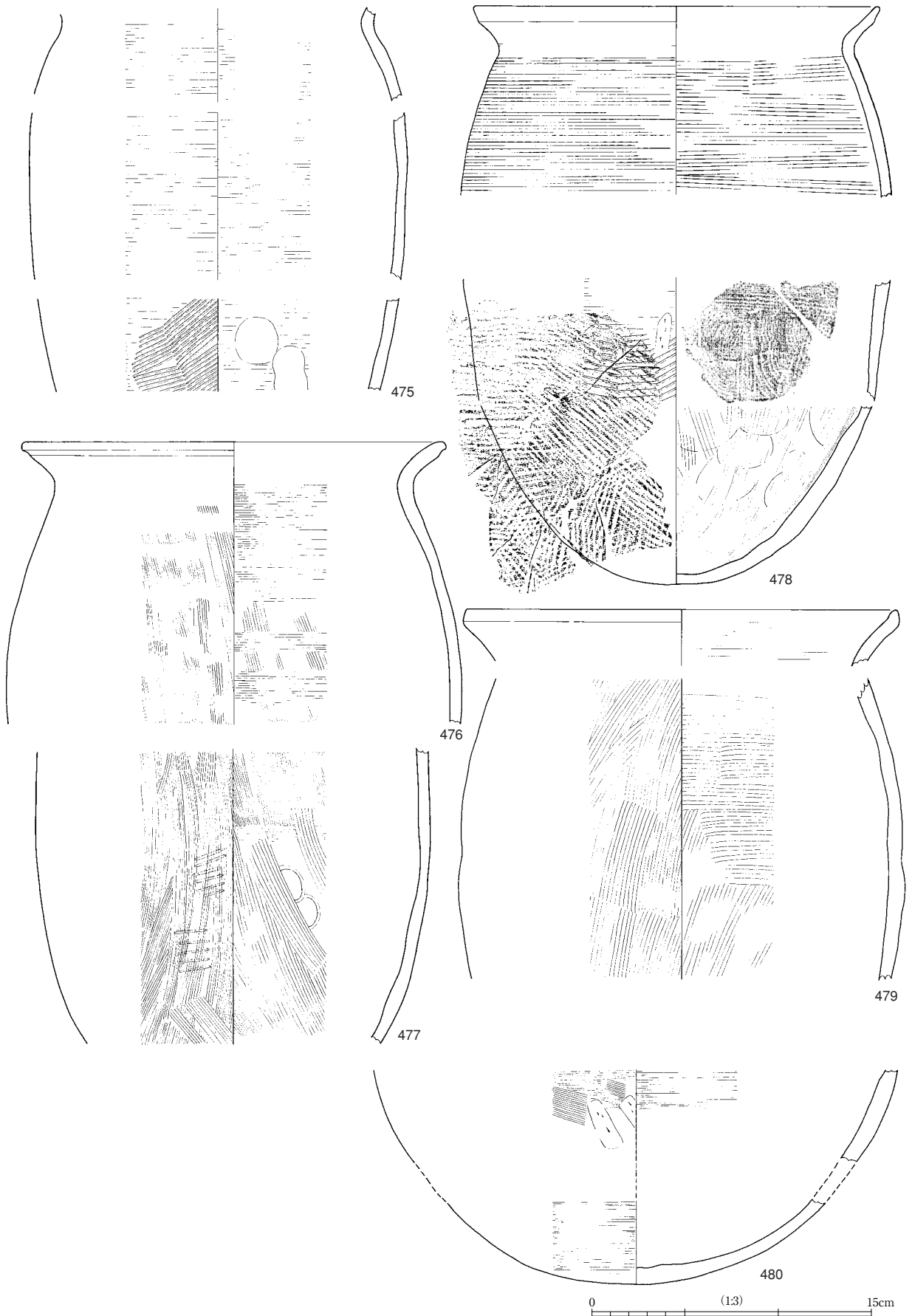
1985・1986年度調査でも検出されている。1987年度調査区30～37ラインでは幅約4～5m、深さ約70cm余りとなって検出されている。

包含層出土遺物

1012～1102包含層からの出土遺物である。Ⅱ～Ⅴ期頃までのものが出土している。いくつか特記すべき遺物について述べる。1045は須恵器杯Bであるが、底部外面に「矢田」のヘラ書きが見られる。1052は須恵器托である。1080は土師器鍋であるが、体部内面に同心円のスタンプを押している。同心円を彫った何かに墨をつけて押捺したように見えるが、どのようにしたのか復元しがたい。

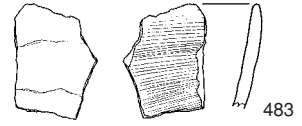
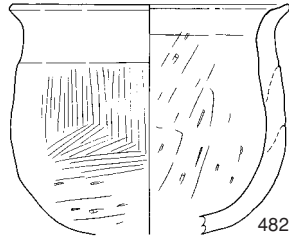
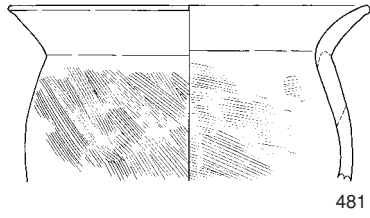


第161図 87SI03出土遺物実測図1

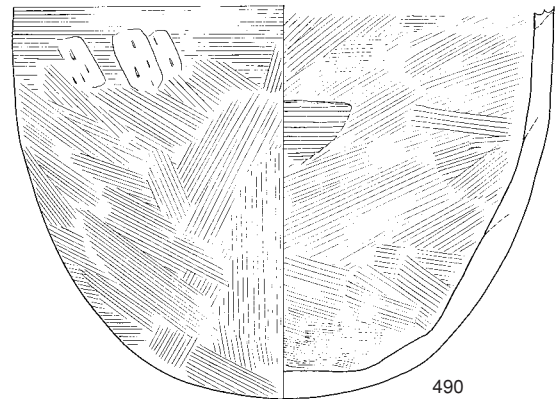
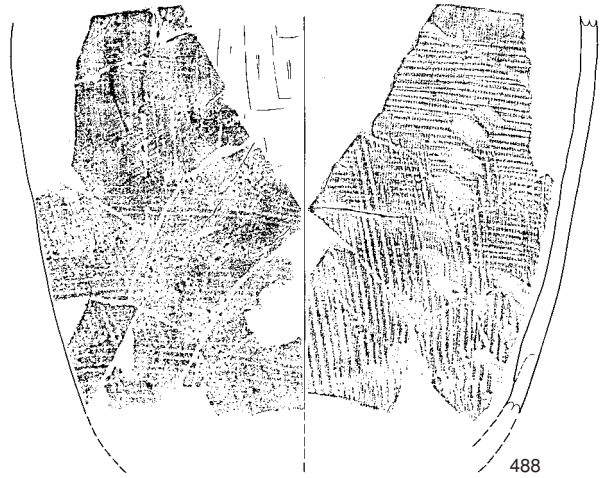
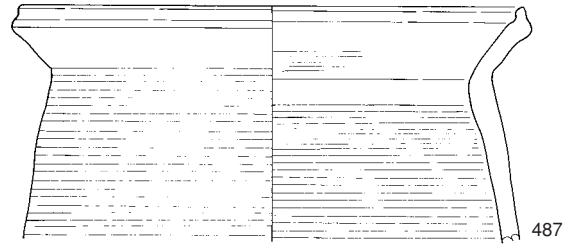
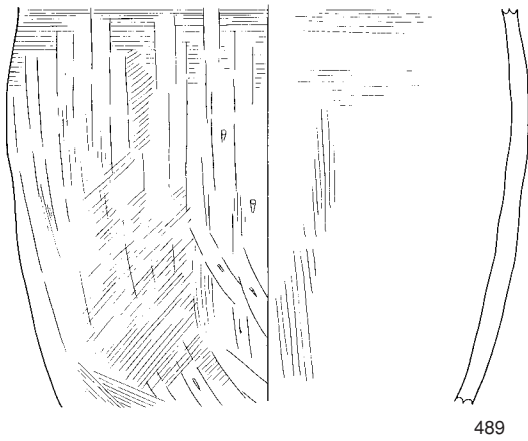
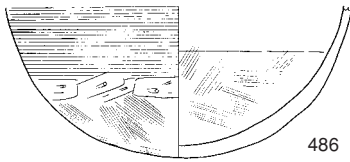
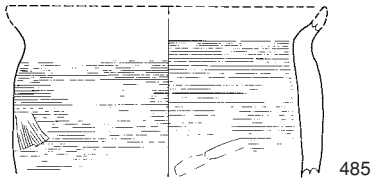


第162図 87SI03出土遺物実測図2

87SI10

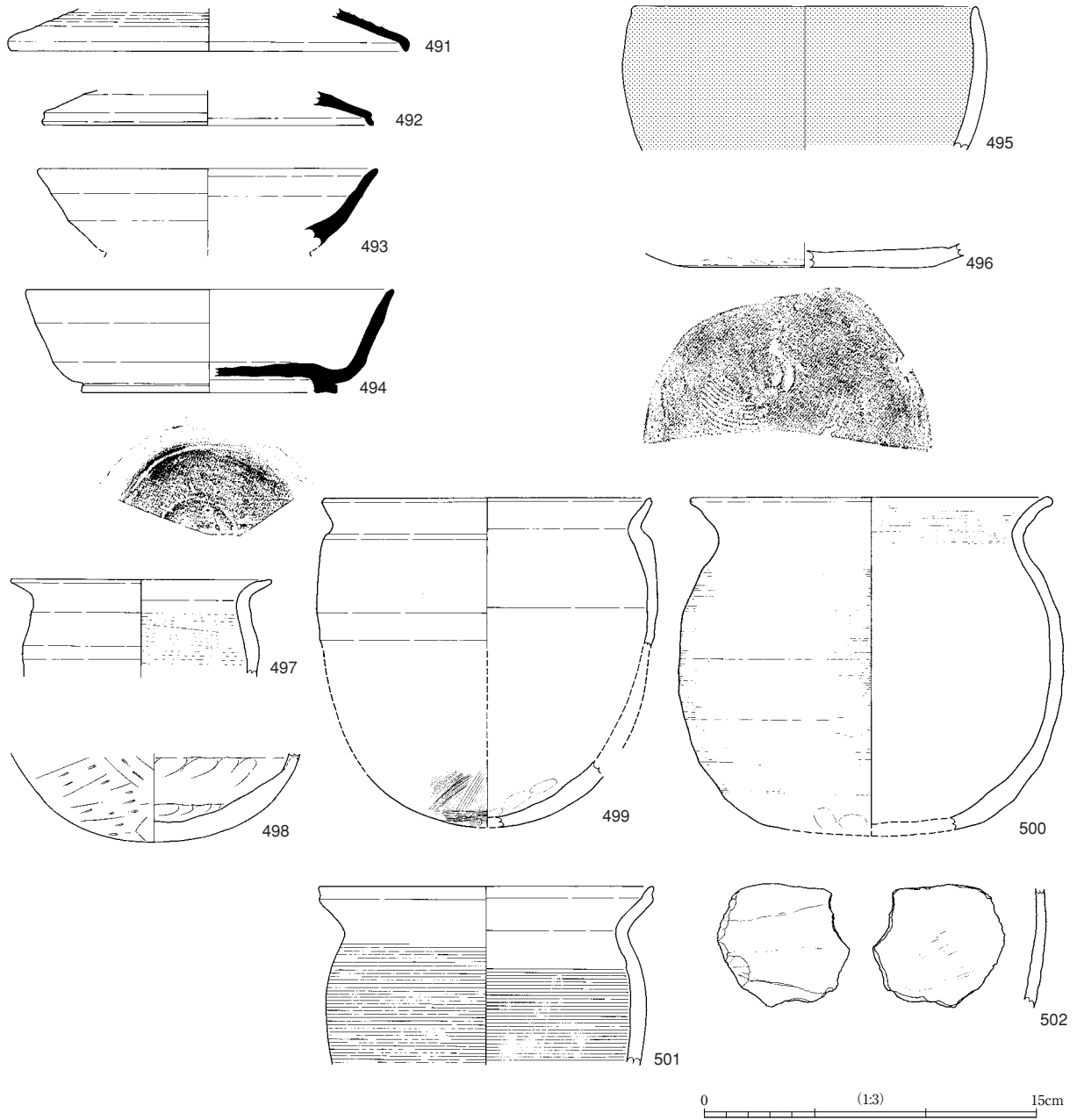


87SI06



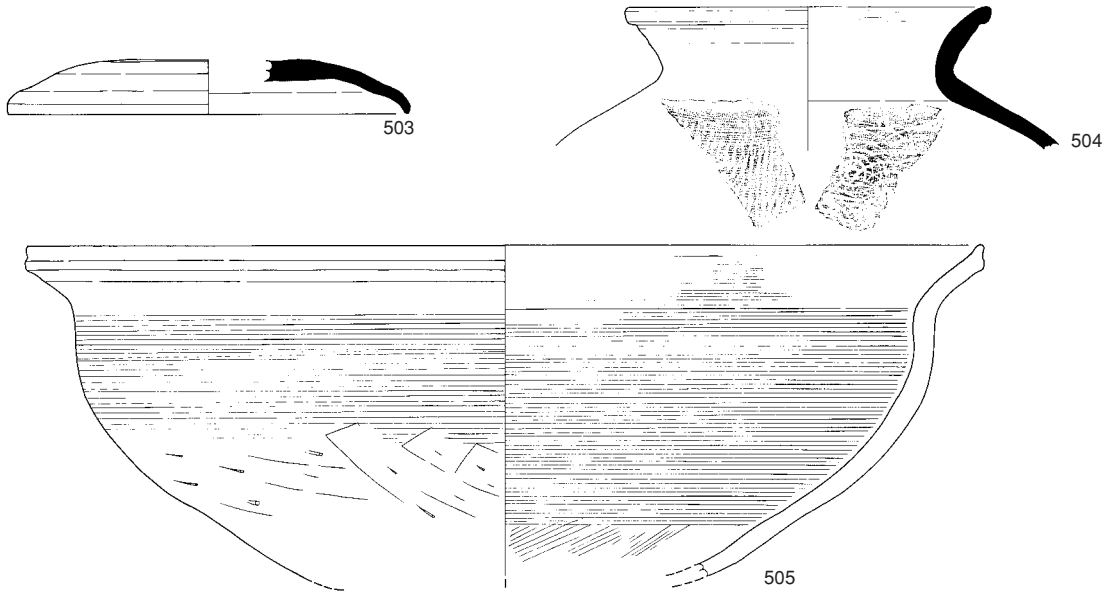
0 (1:3) 15cm

第163図 87SI10・06出土遺物実測図

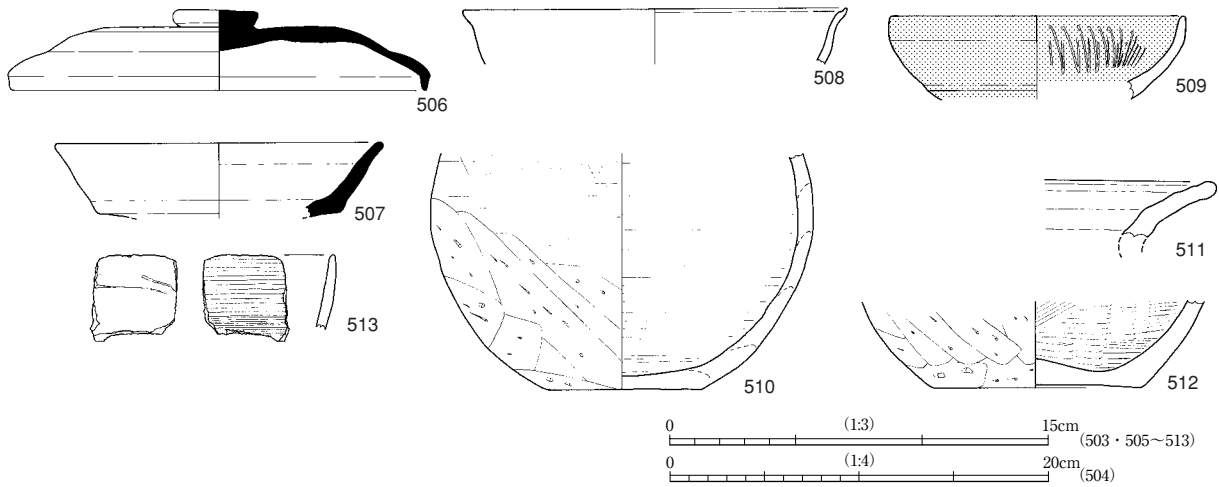


第164図 87SI07出土遺物実測図

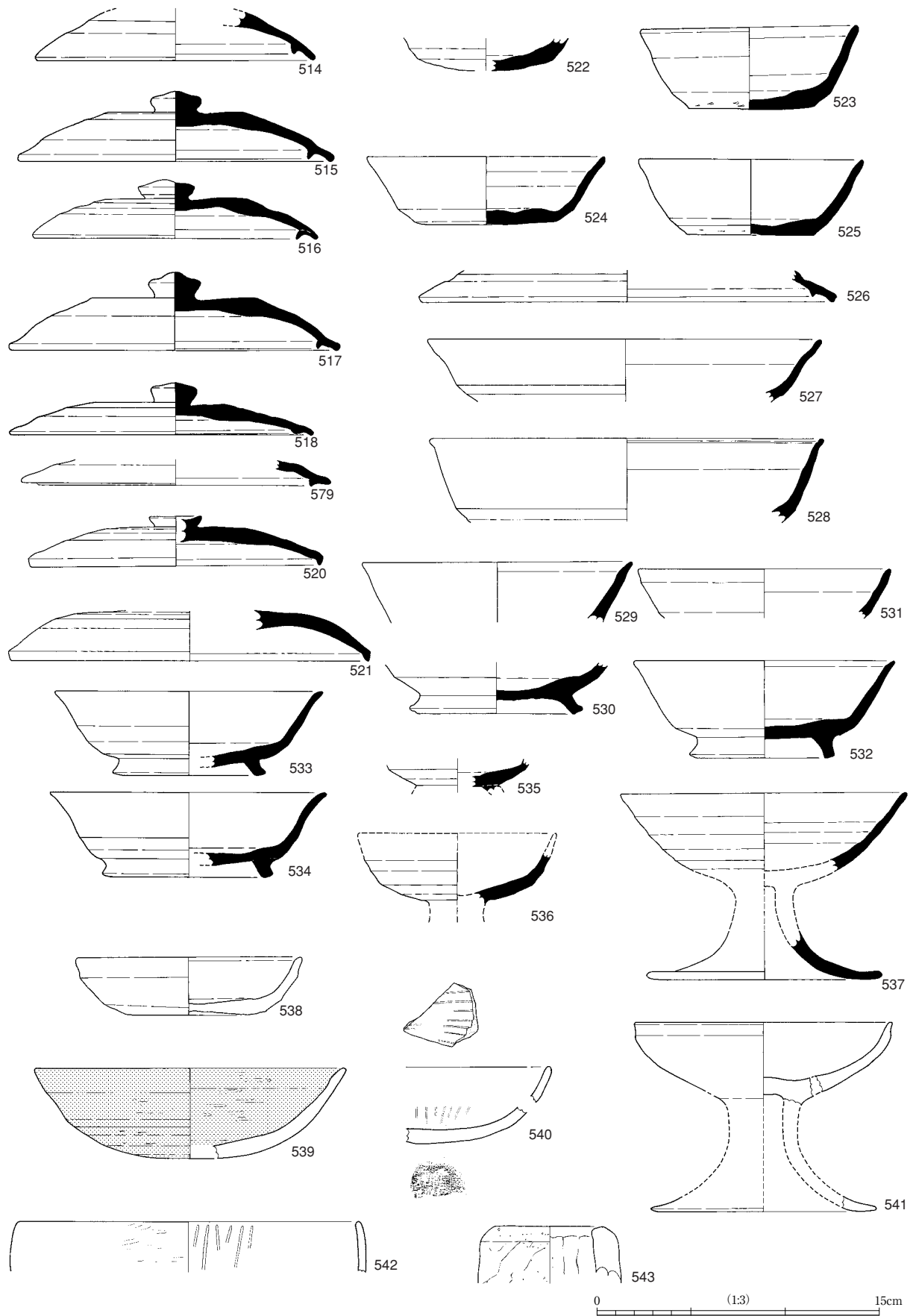
87SI08



87SI09



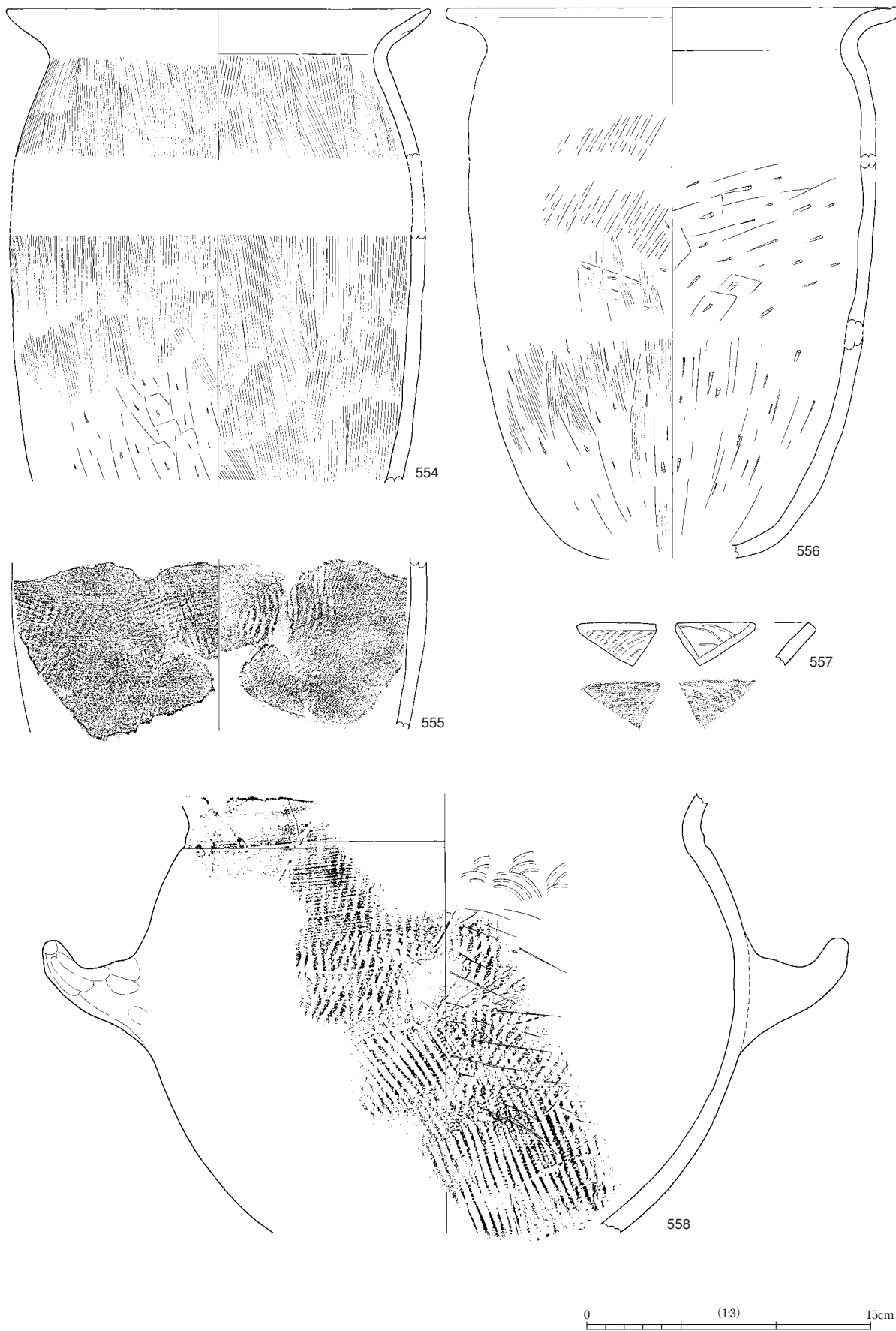
第165図 87SI08・09出土遺物実測図



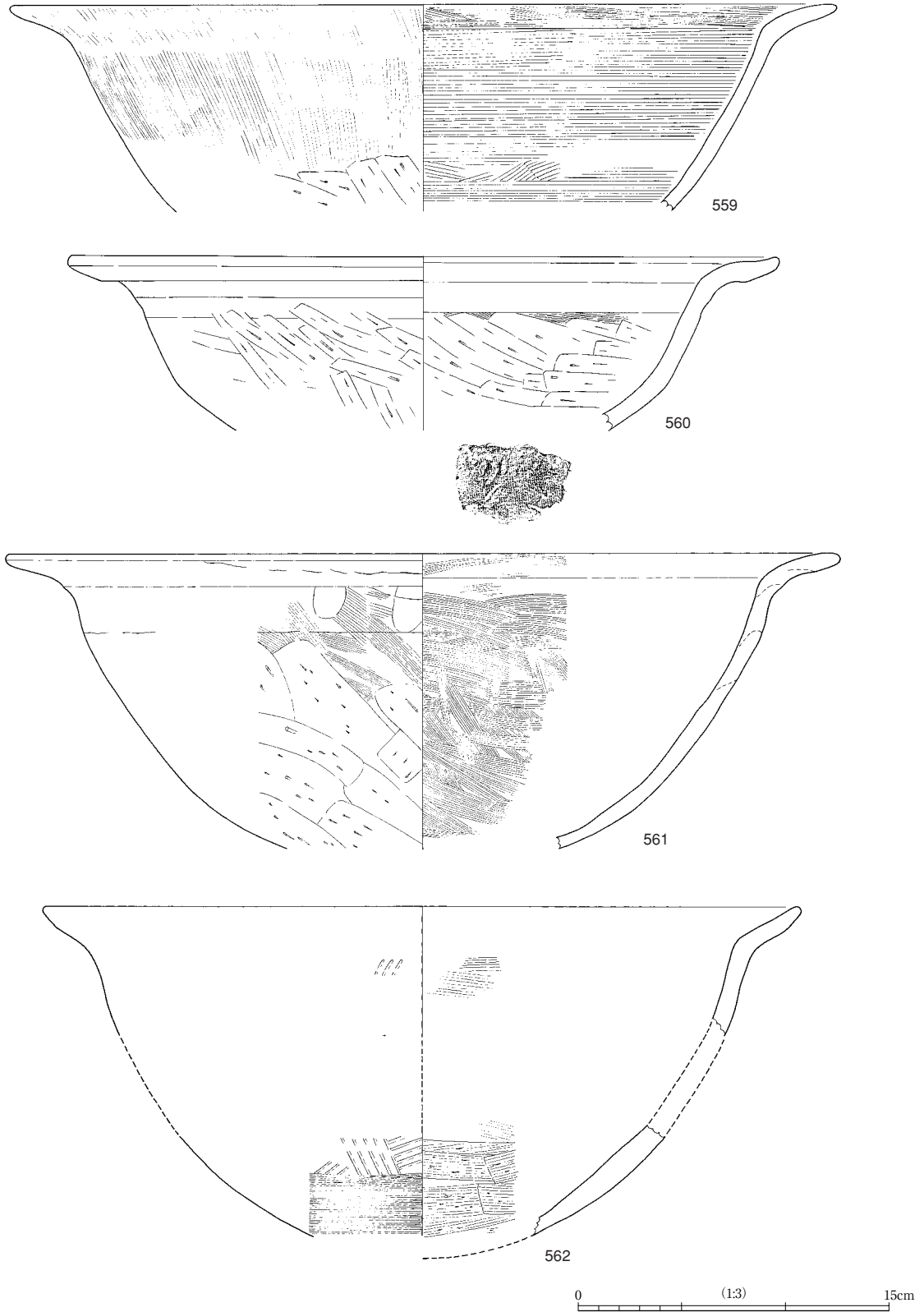
第166図 87SX01出土遺物実測図1



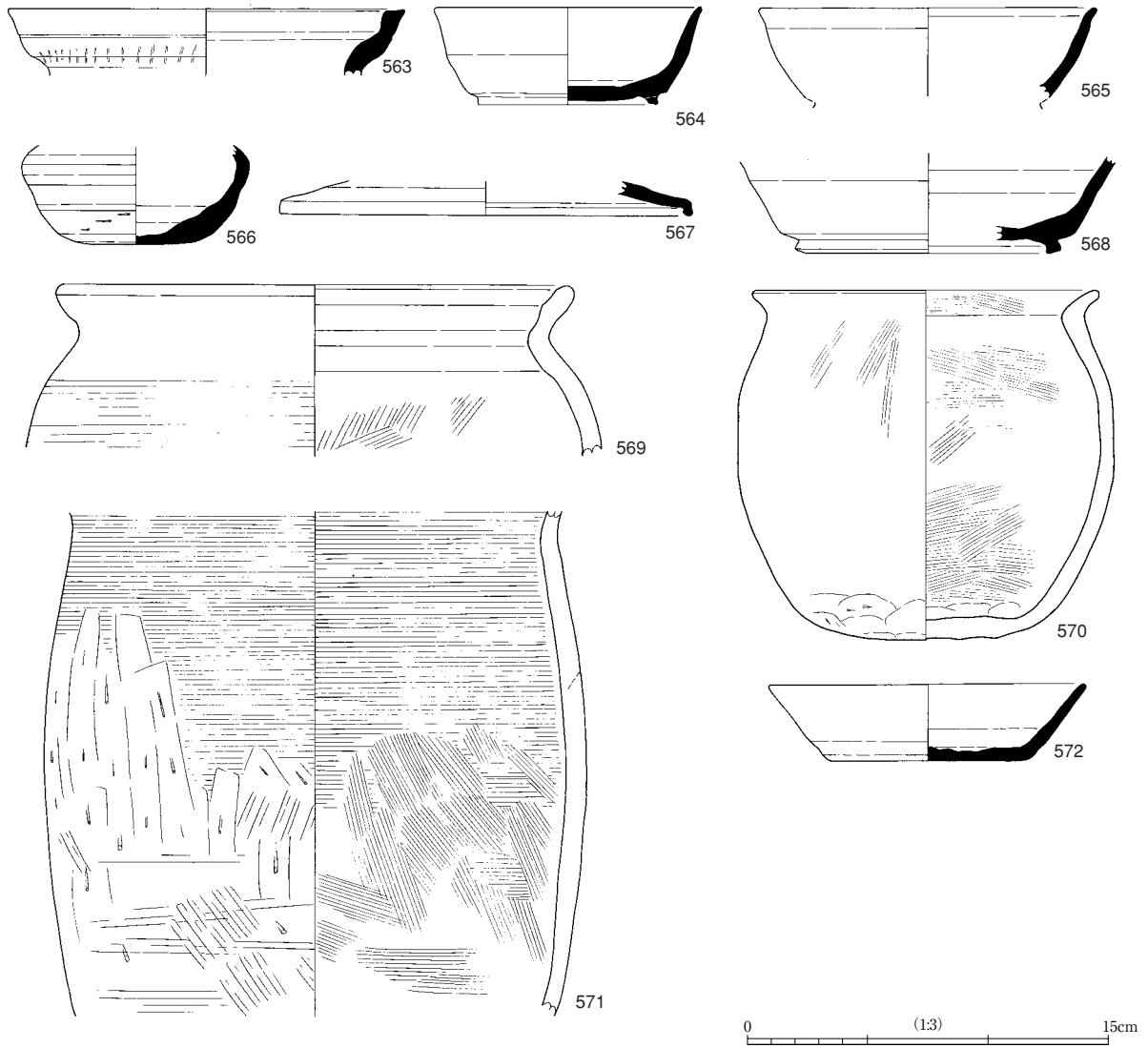
第167図 87SX01出土遺物実測図2



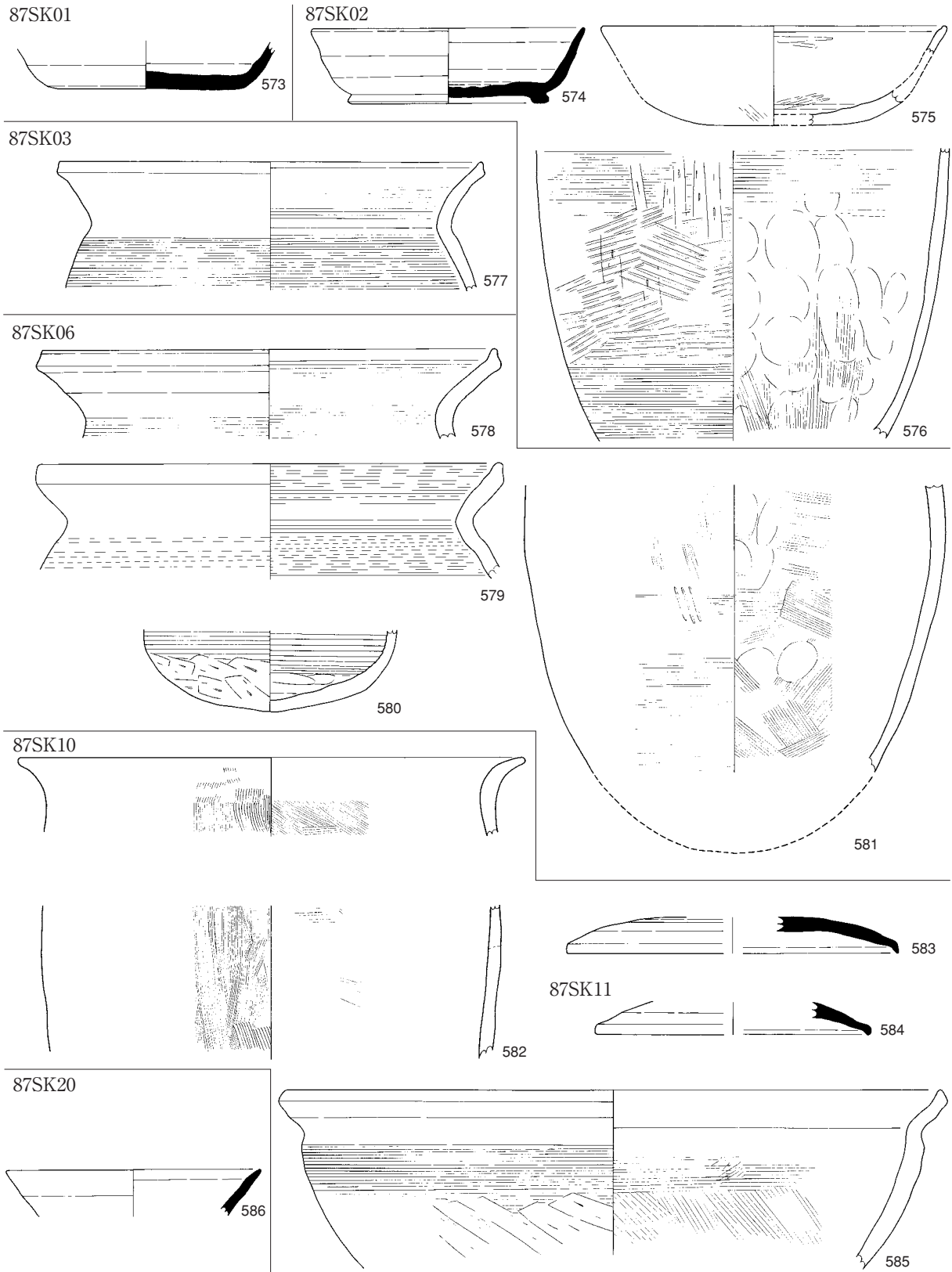
第168図 87SX01出土遺物実測図3



第169図 87SX01出土遺物実測図 4



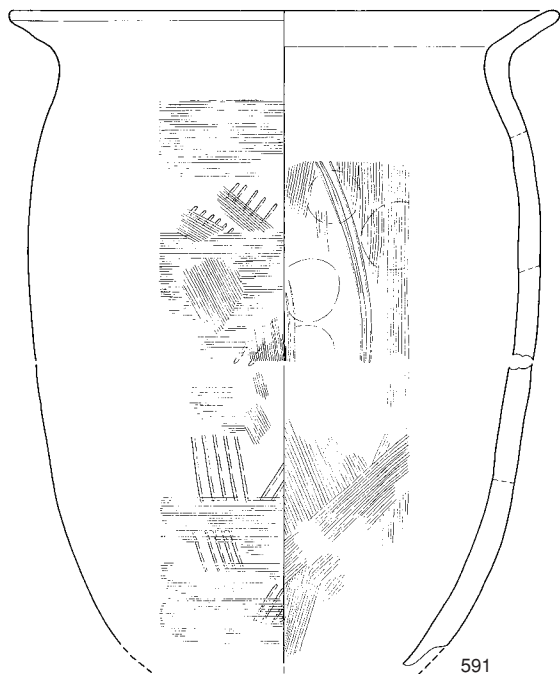
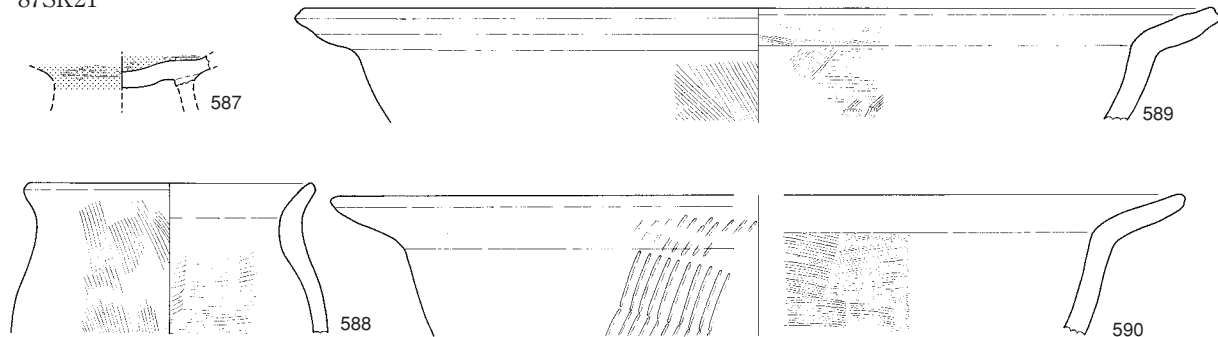
第170図 87ピット等出土遺物実測図



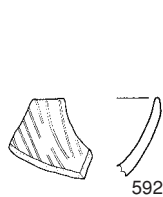
0 (1:3) 15cm

第171図 87SK出土遺物実測図1

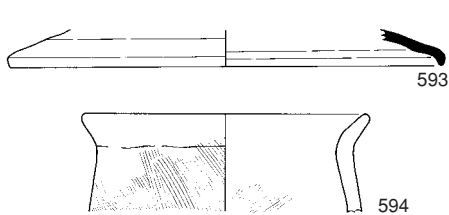
87SK21



87SK25



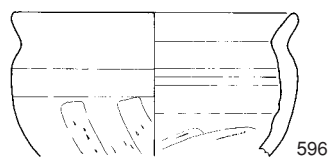
87SK27



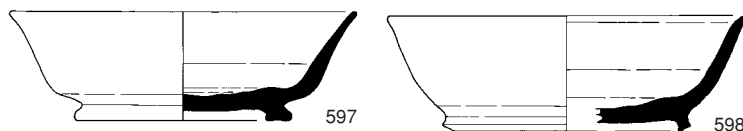
87SK32



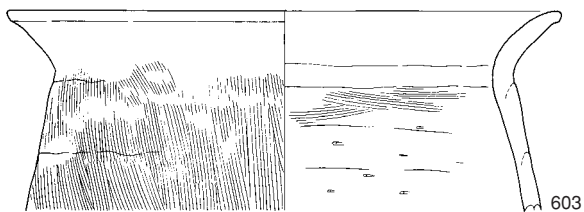
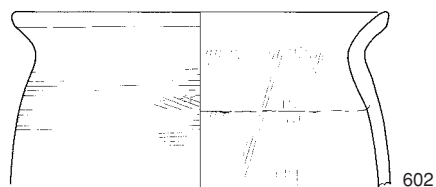
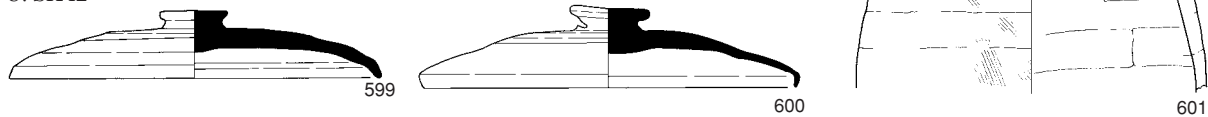
87SK39



87SK40



87SK42

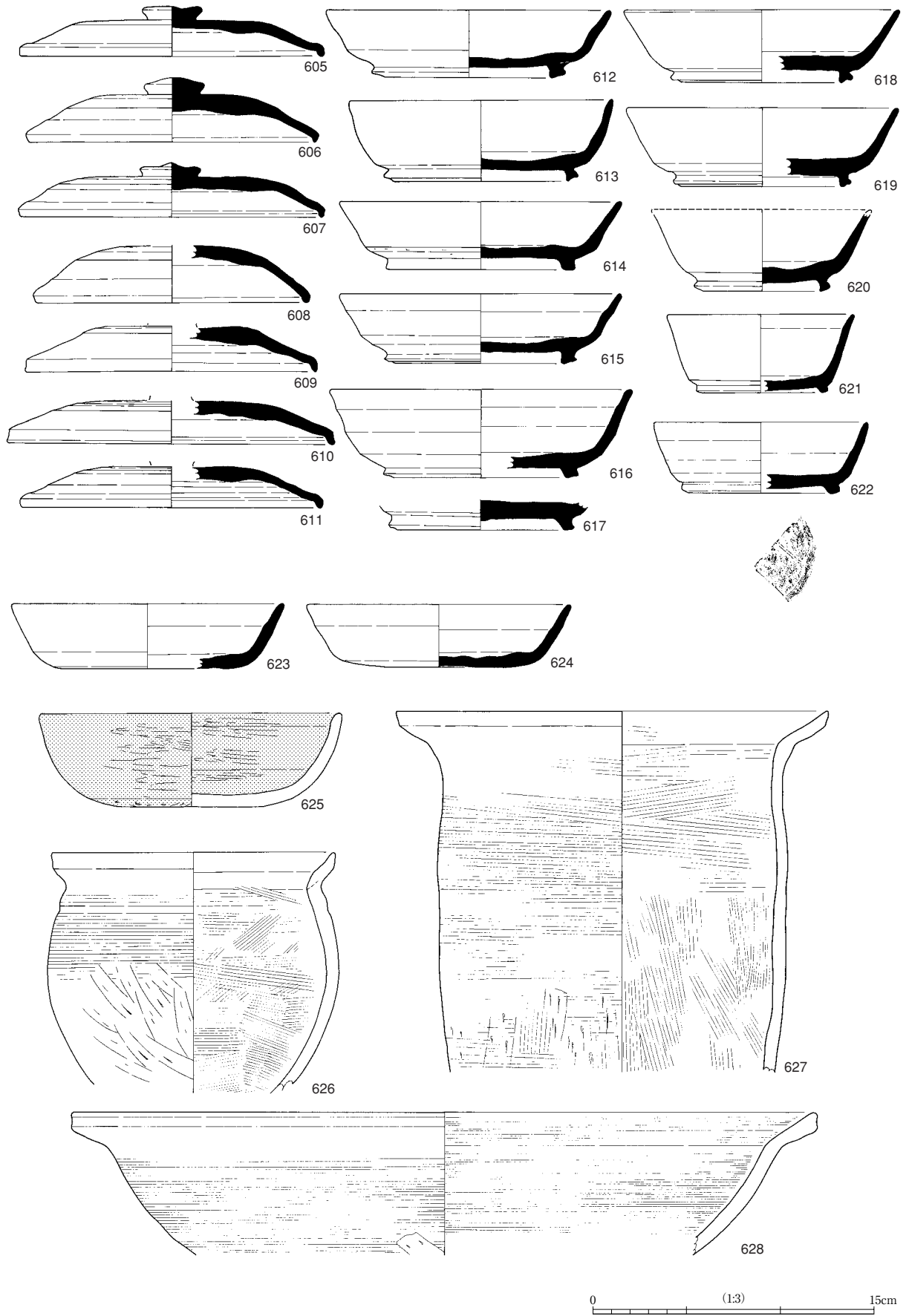


87SK45

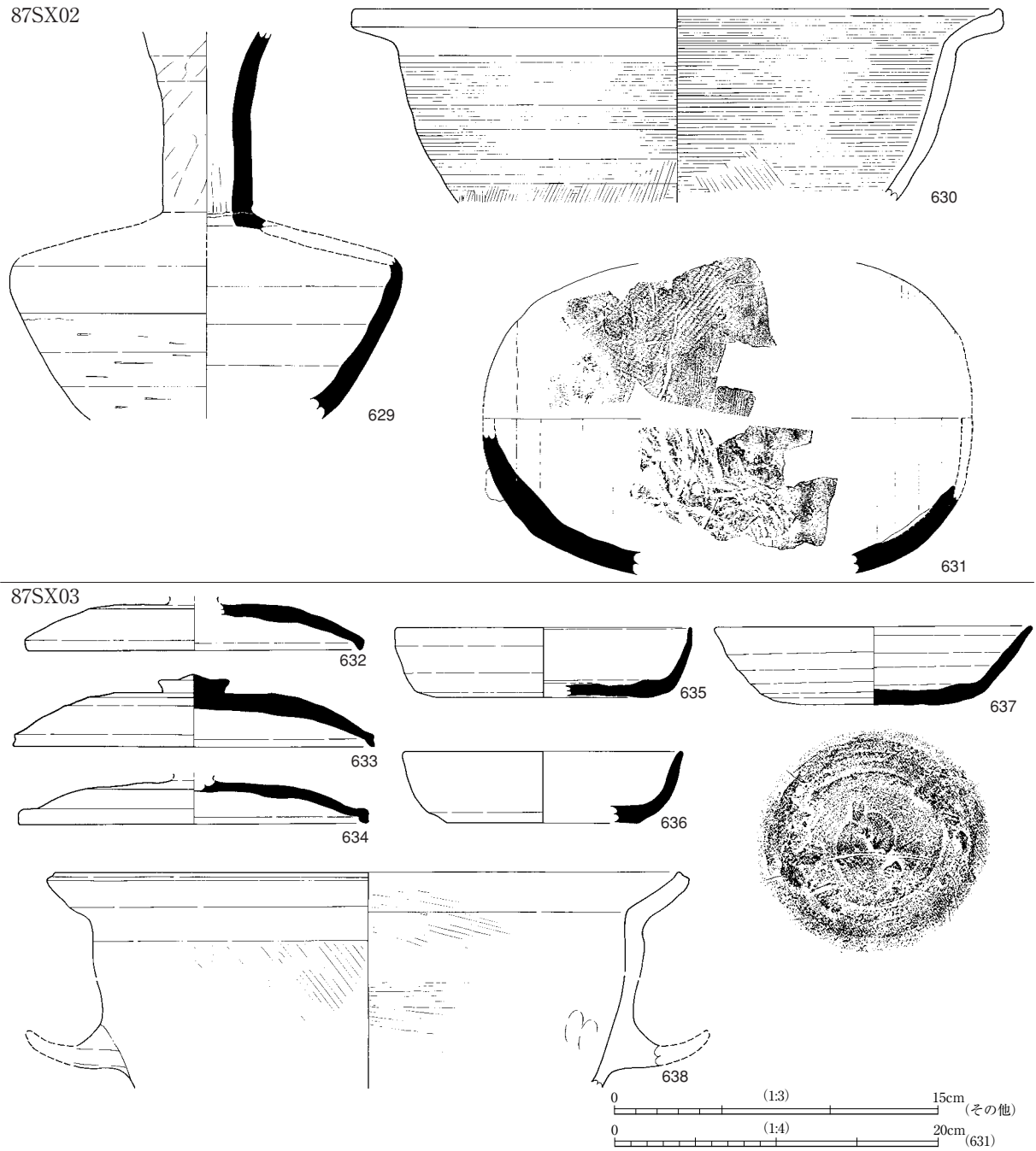


0 (1:3) 15cm

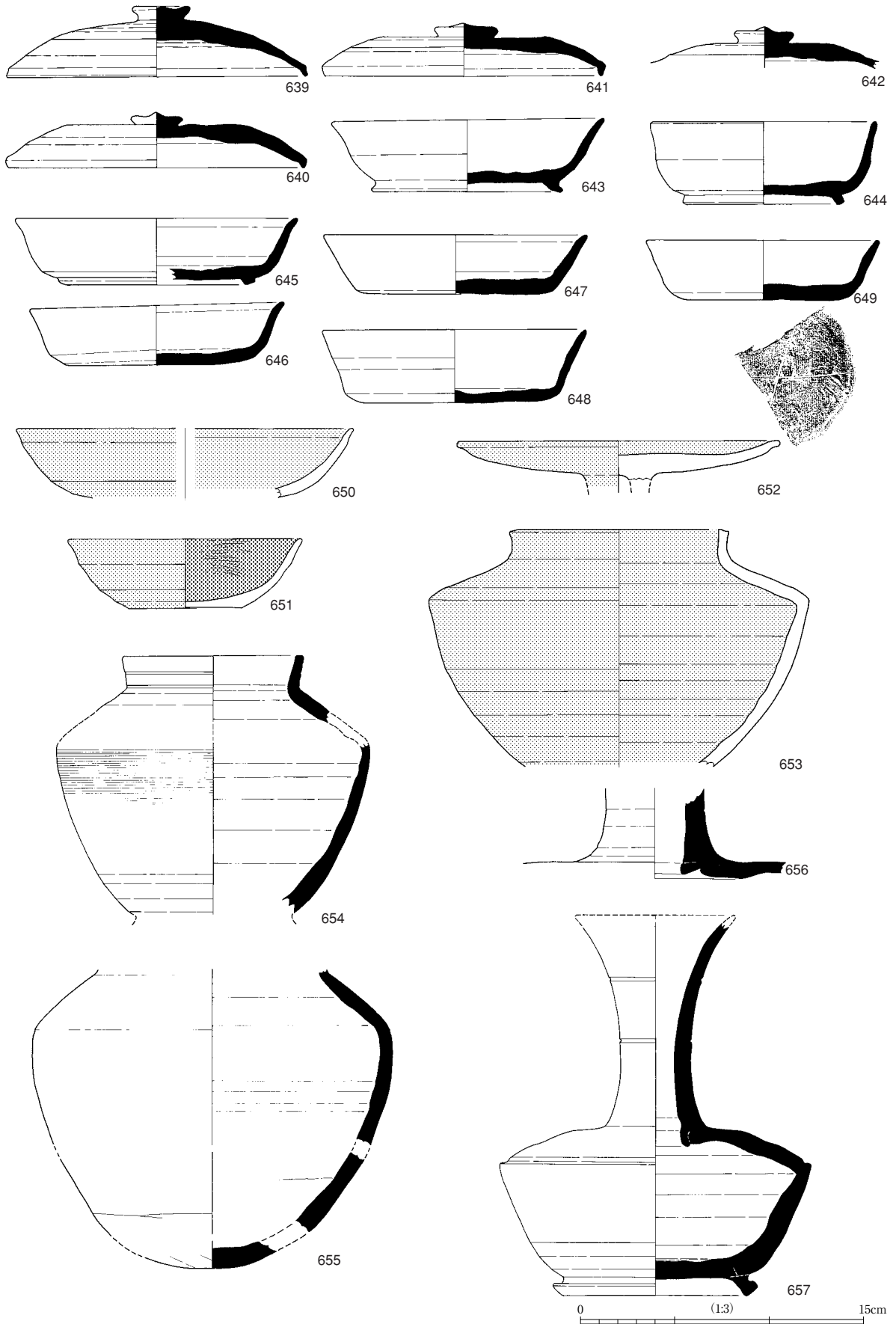
第172図 87SK出土遺物実測図2



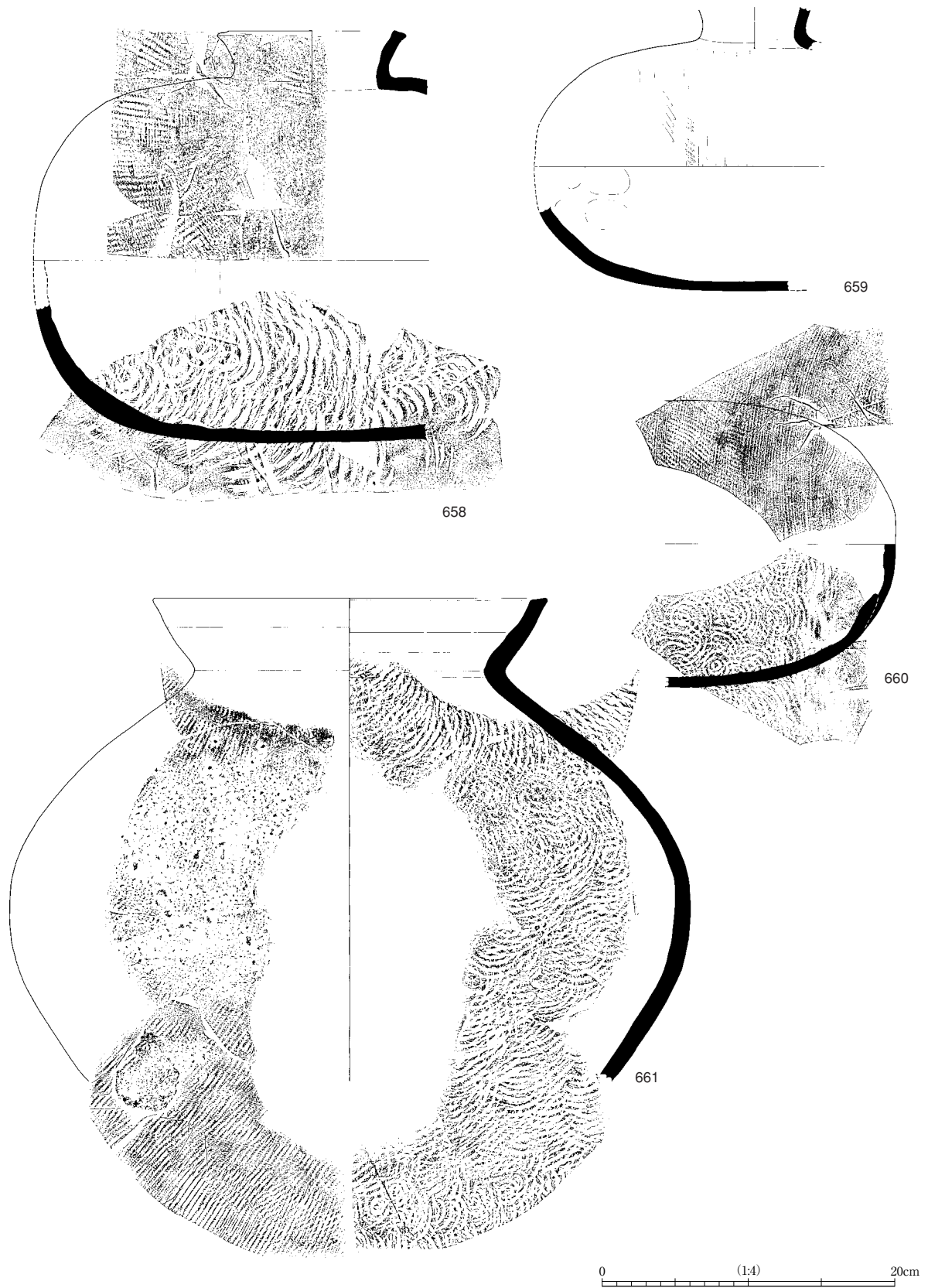
第173図 87SX02出土遺物実測図



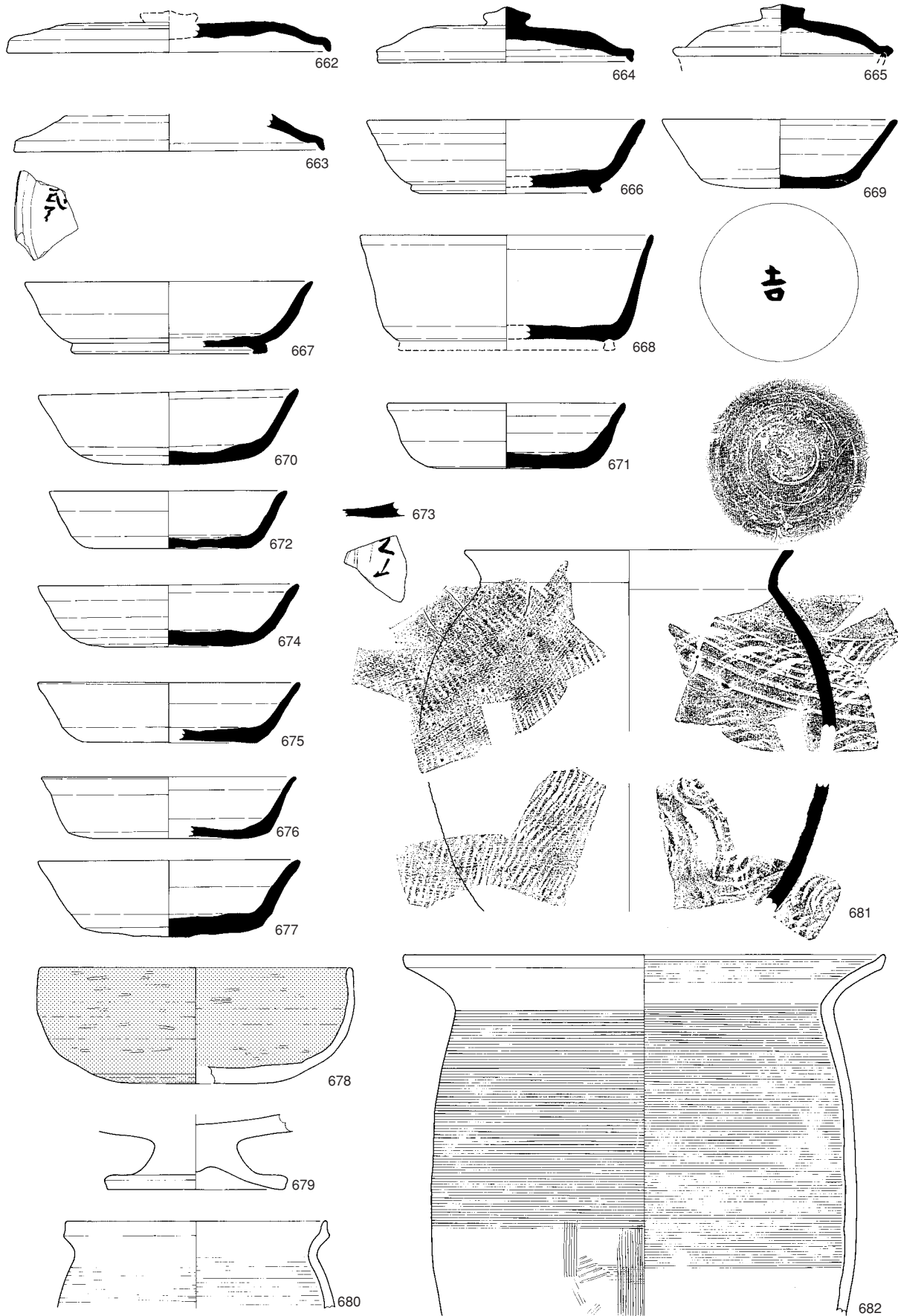
第174図 87SX02・03出土遺物実測図



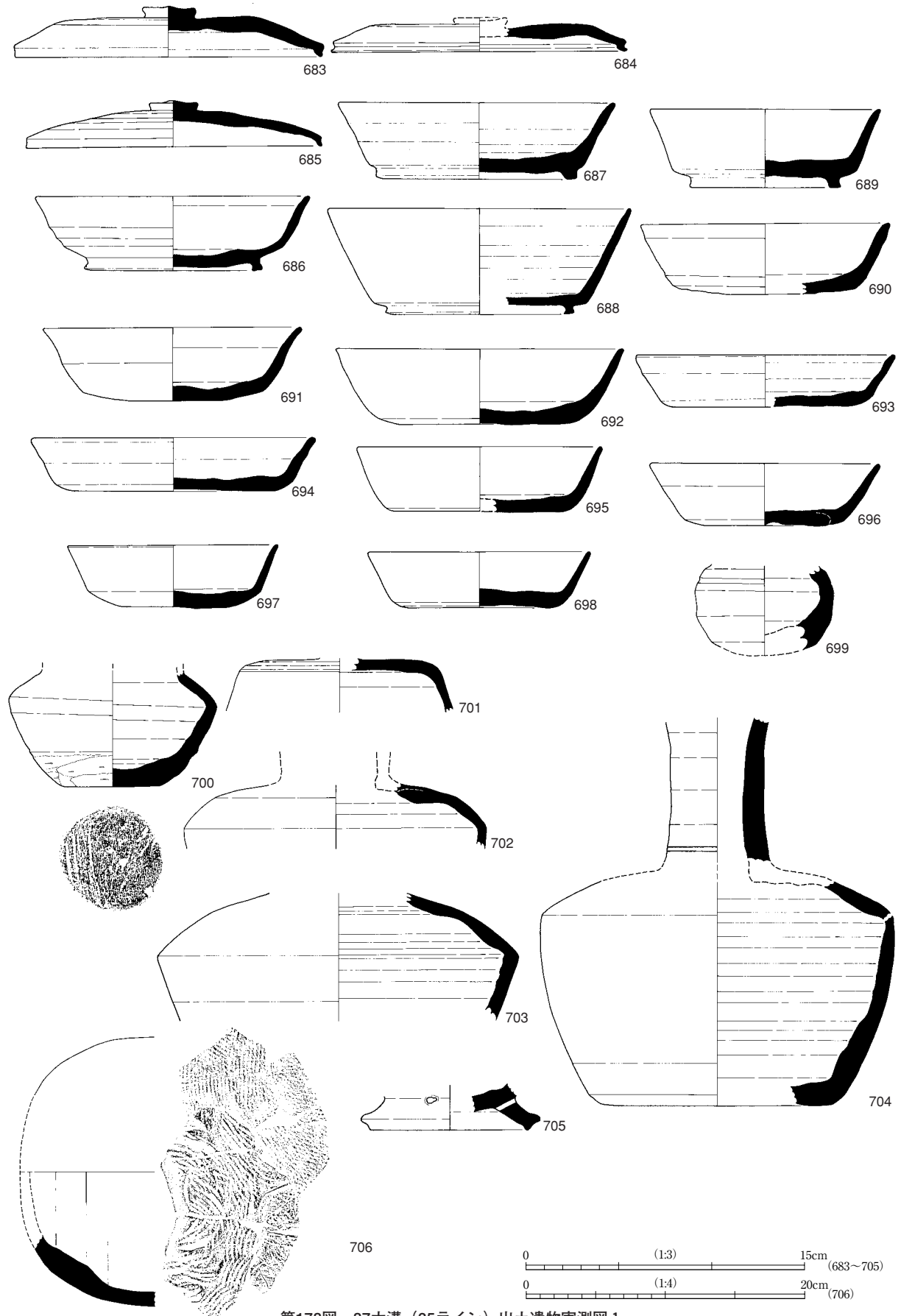
第175図 87大溝 (33ライン) 出土遺物実測図1



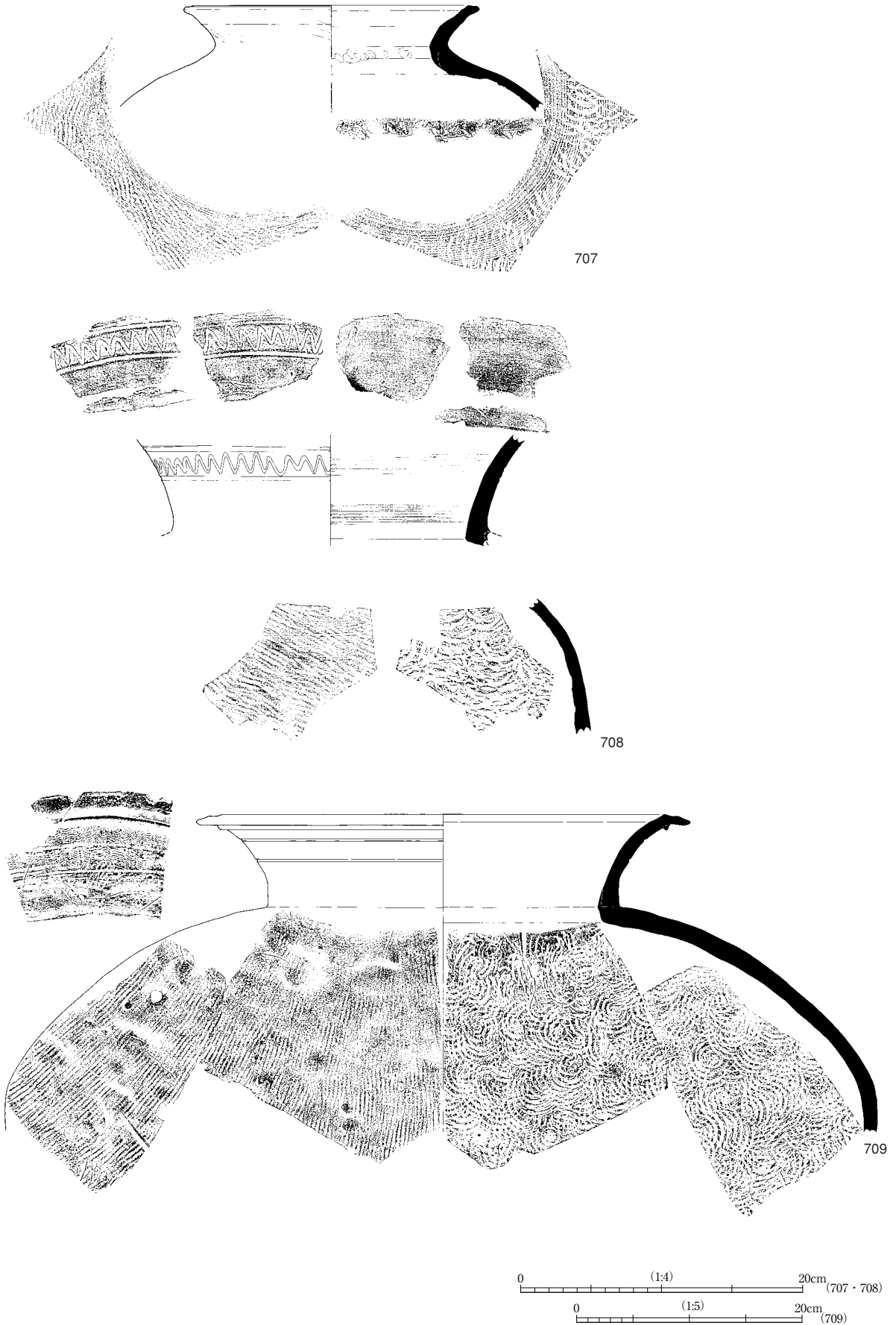
第176図 87大溝（33ライン）出土遺物実測図2



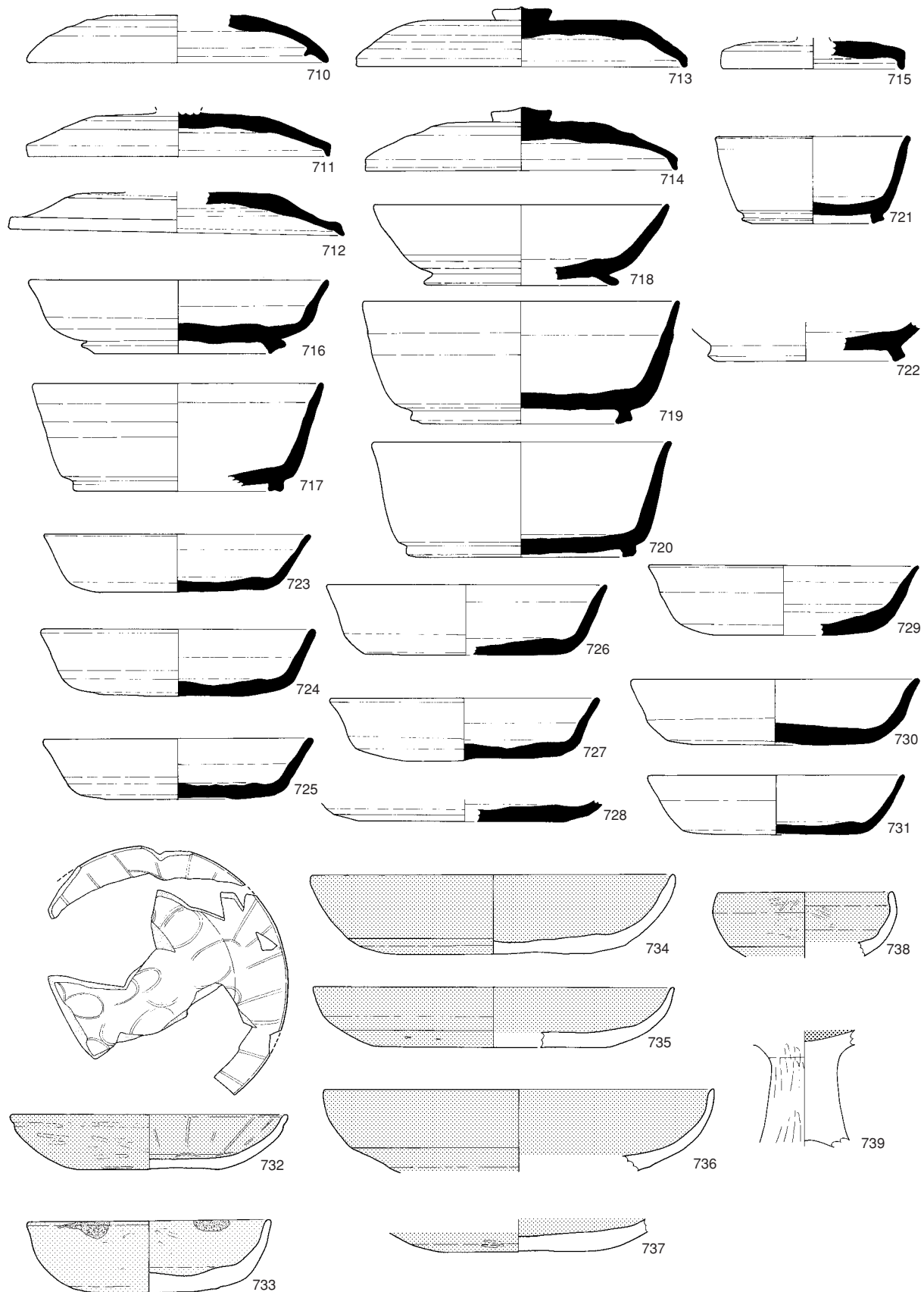
第177図 87大溝 (34ライン) 出土遺物実測図



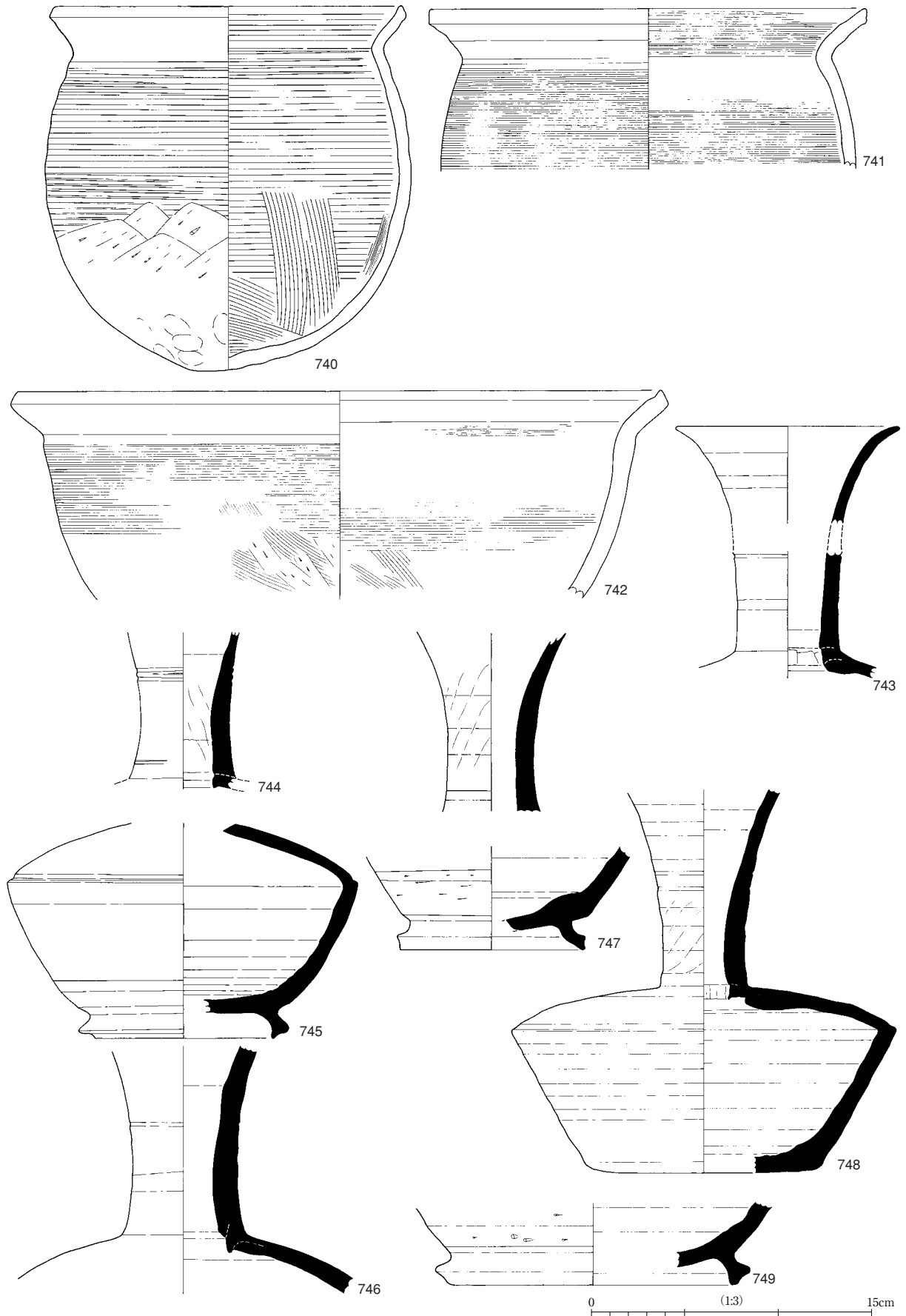
第178図 87大溝 (35ライン) 出土遺物実測図 1



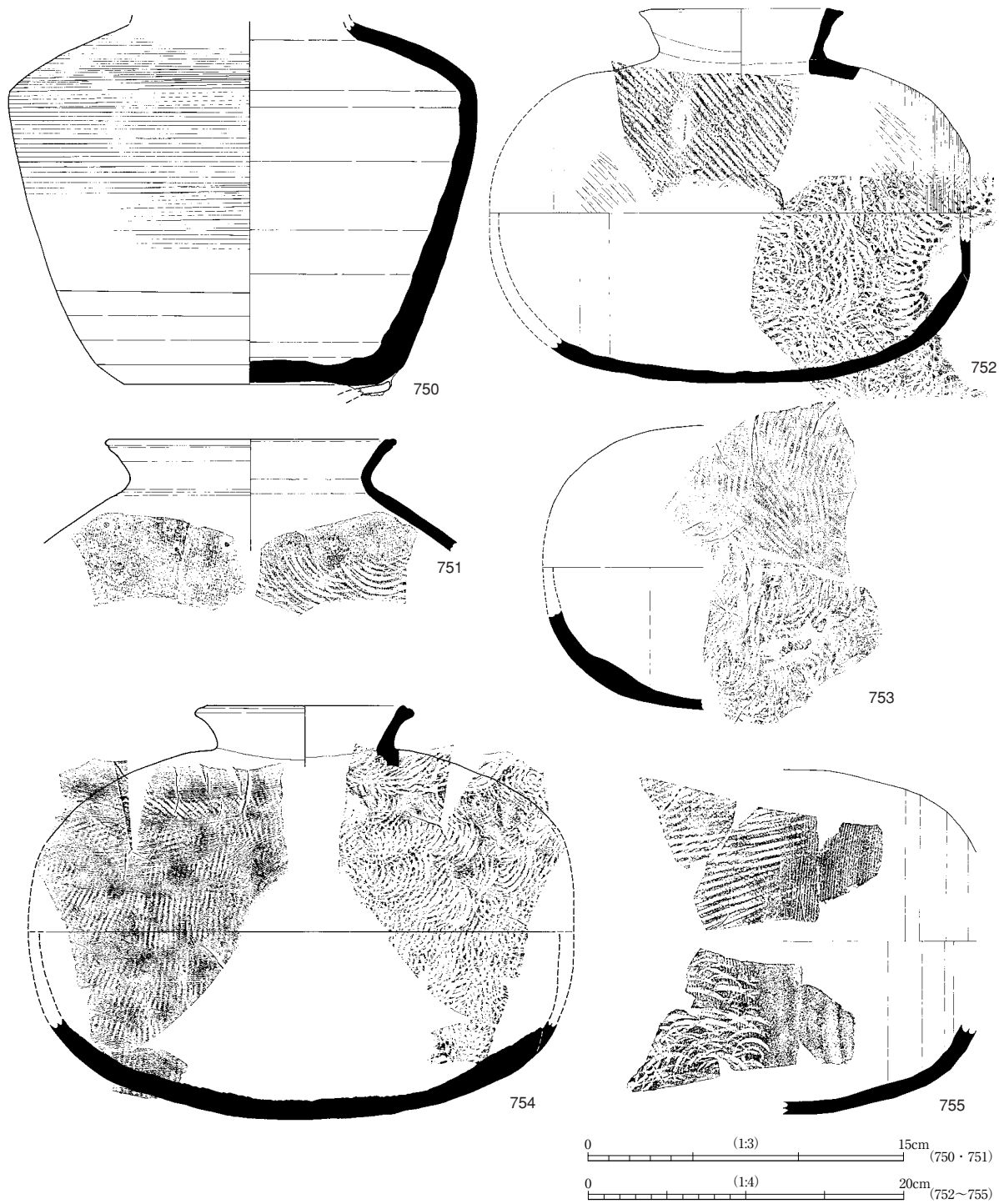
第179図 87大溝（35ライン）出土遺物実測図2



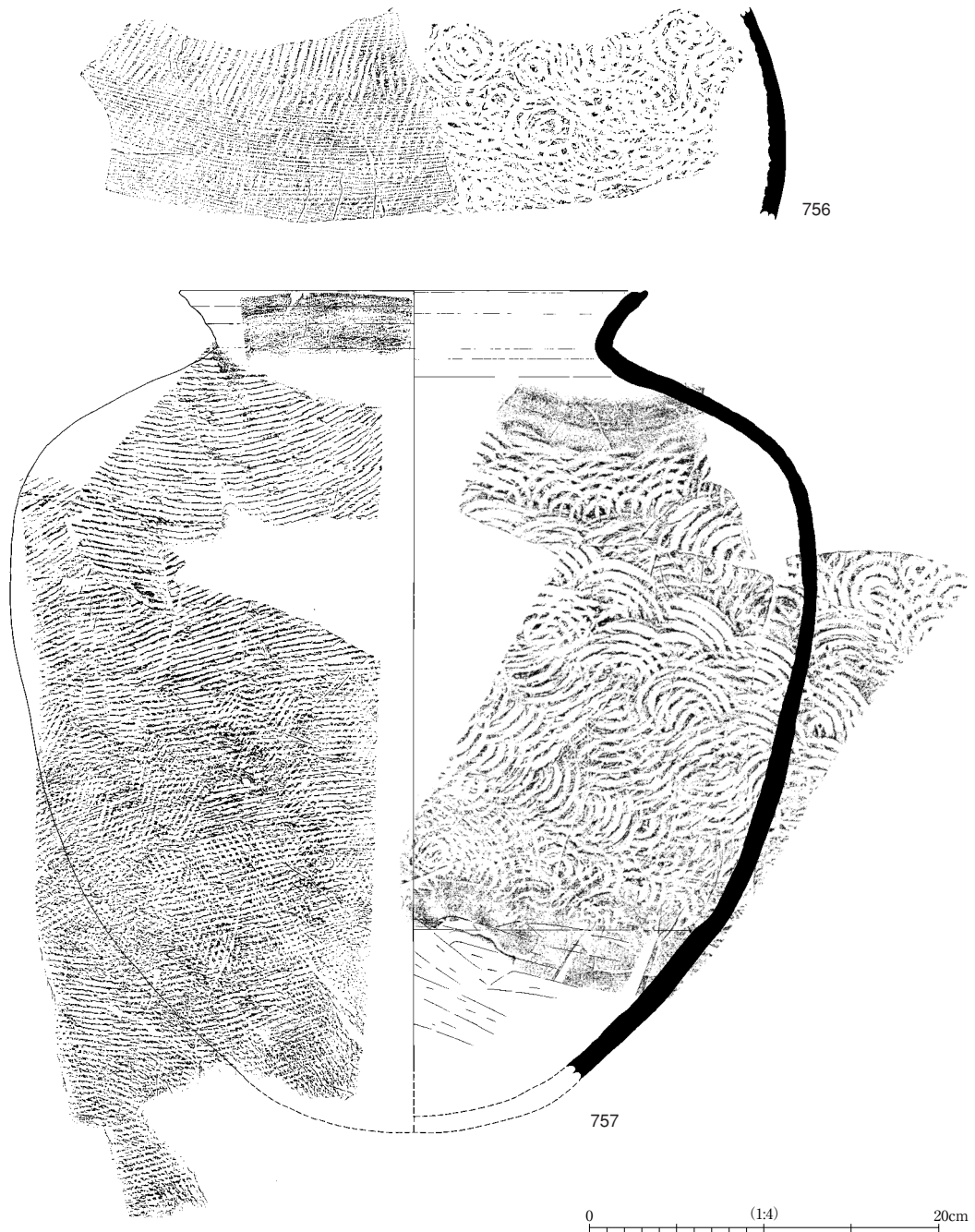
第180図 87大溝 (36ライン) 出土遺物実測図 1



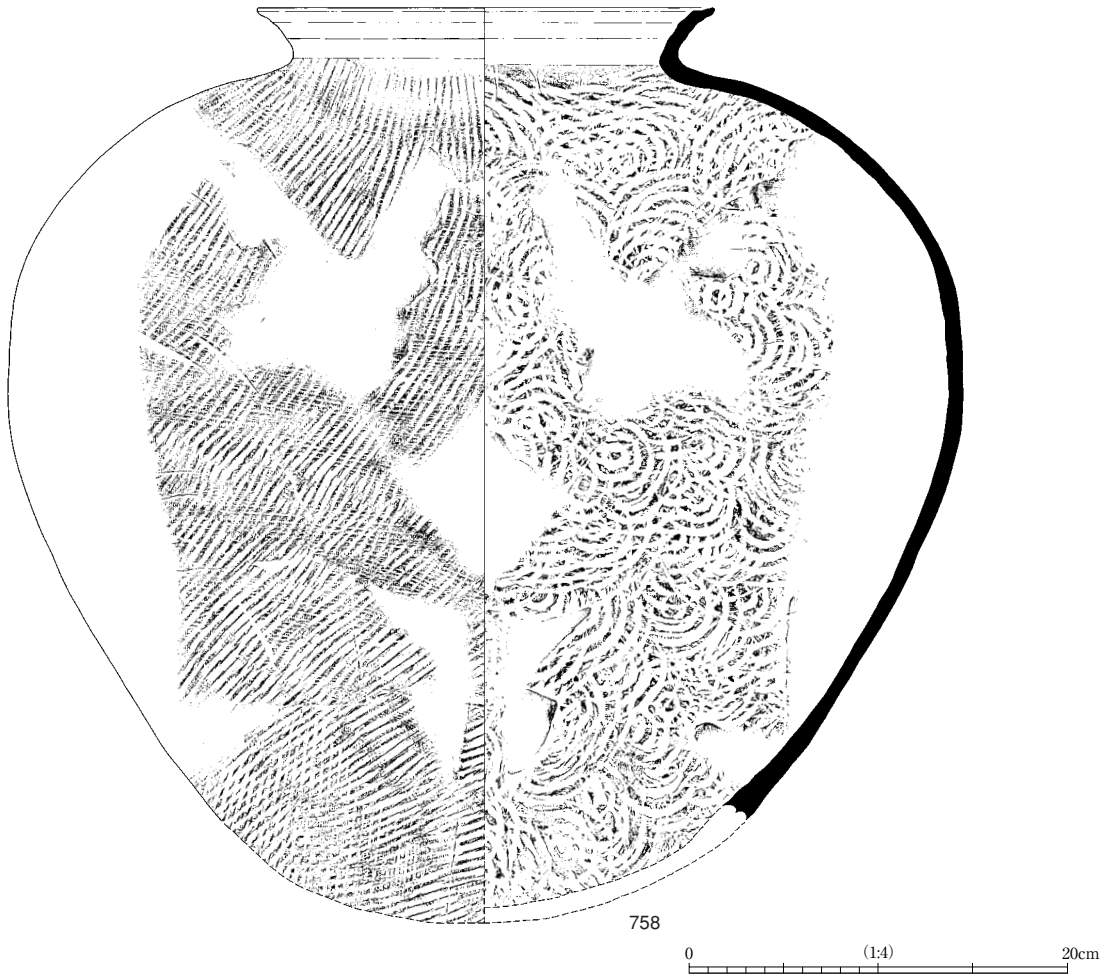
第181図 87大溝 (36ライン) 出土遺物実測図 2



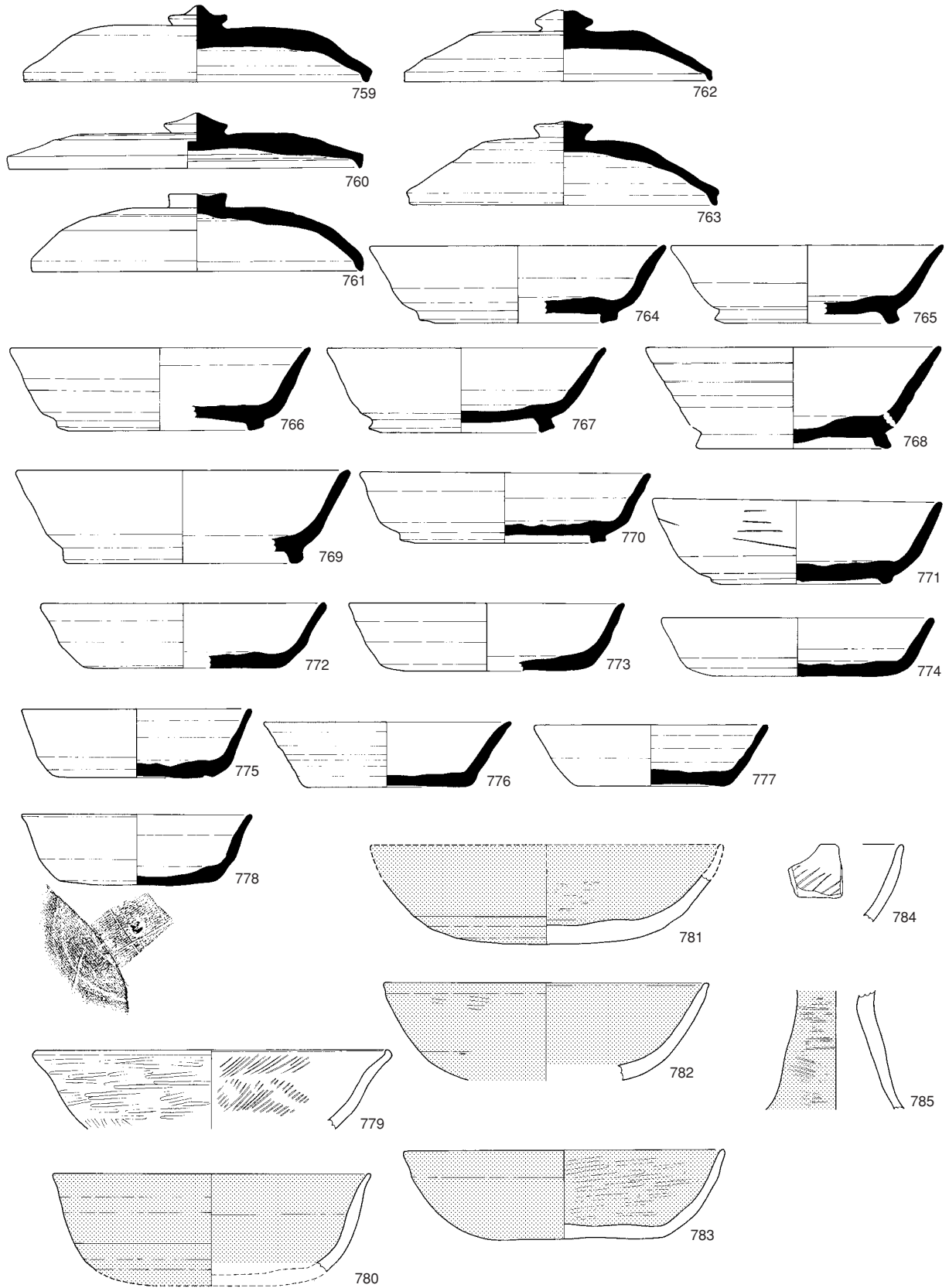
第182図 87大溝 (36ライン) 出土遺物実測図 3



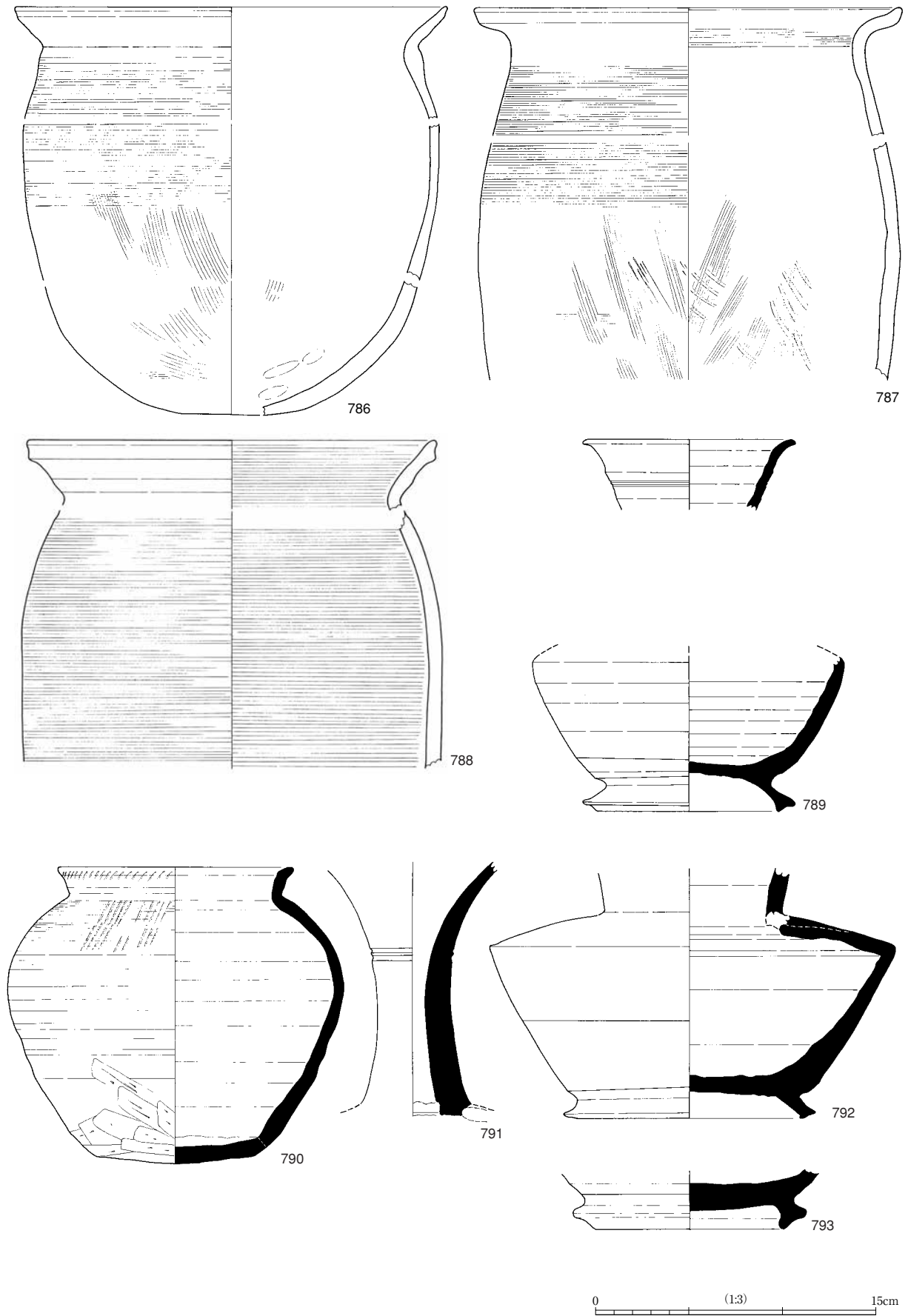
第183図 87大溝（36ライン）出土遺物実測図4



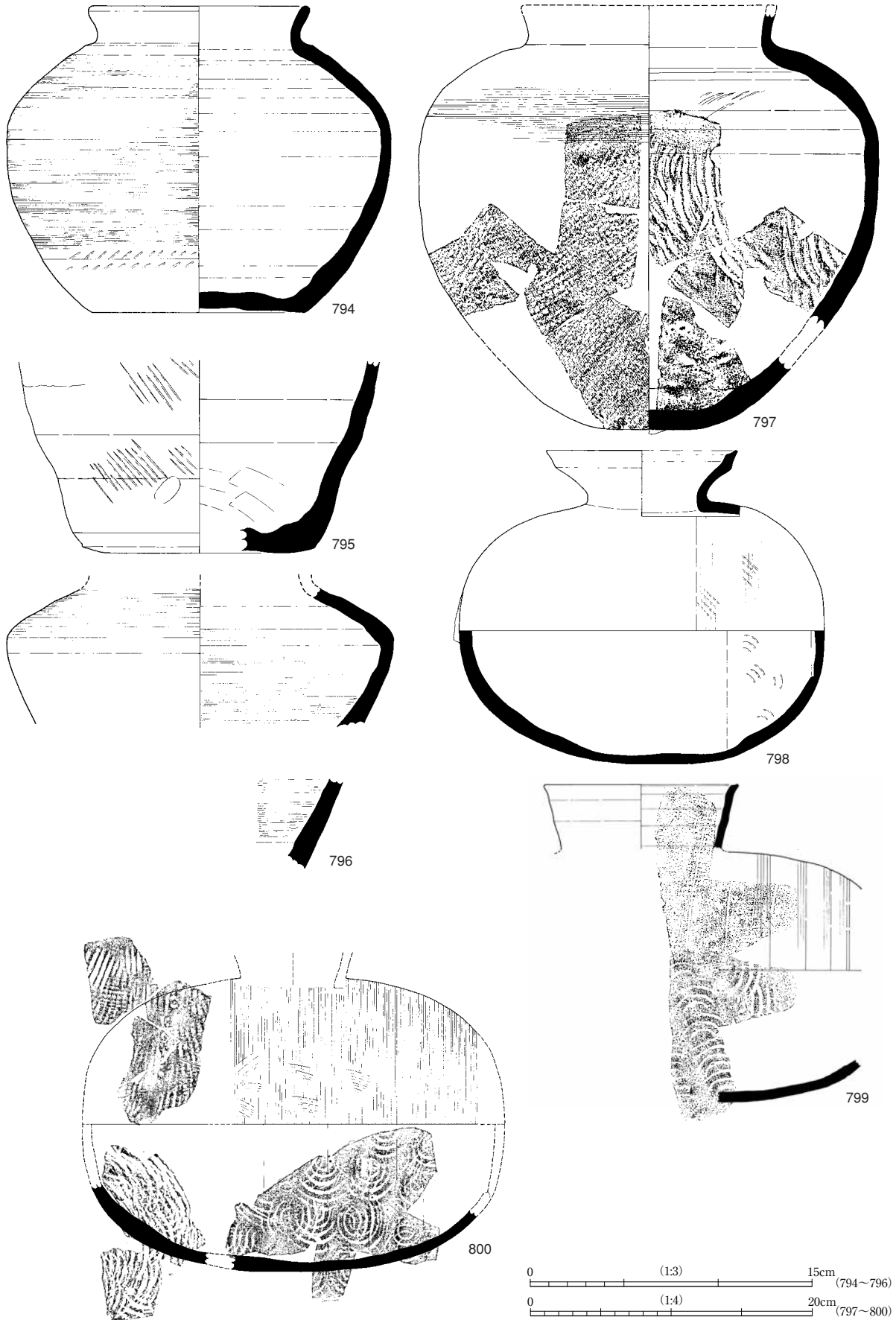
第184図 87大溝 (36ライン) 出土遺物実測図 5



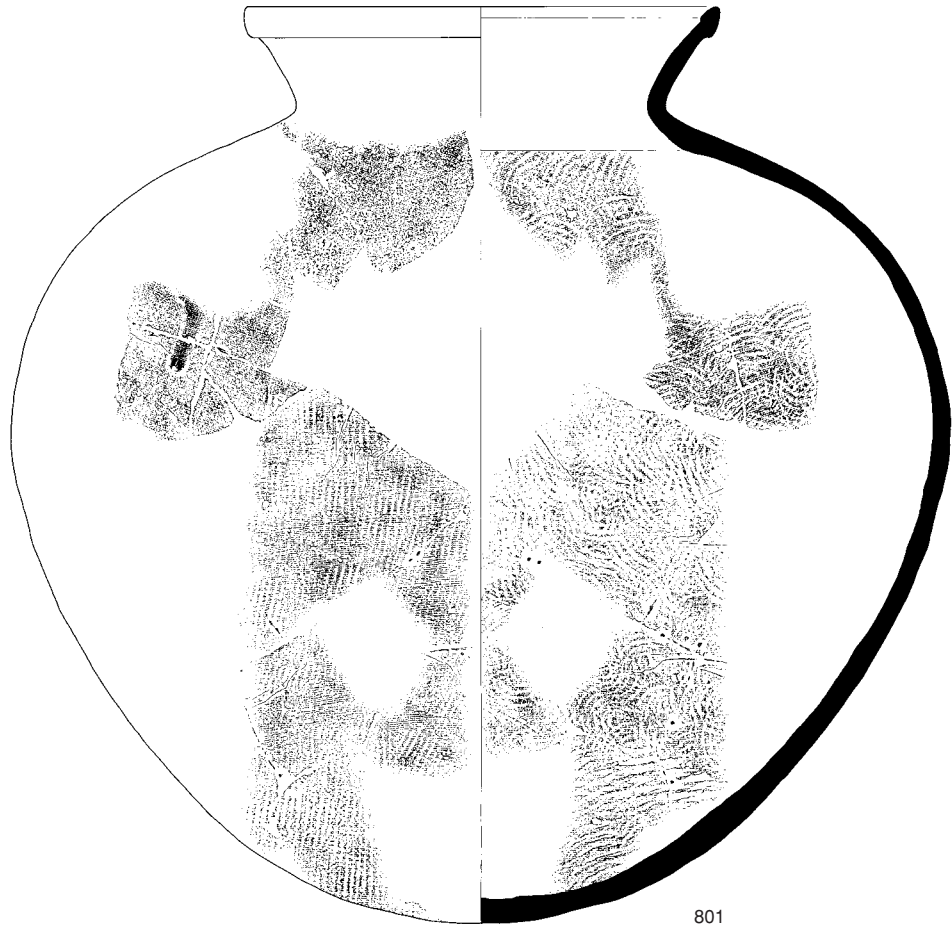
第185図 87大溝 (37ライン) 出土遺物実測図1



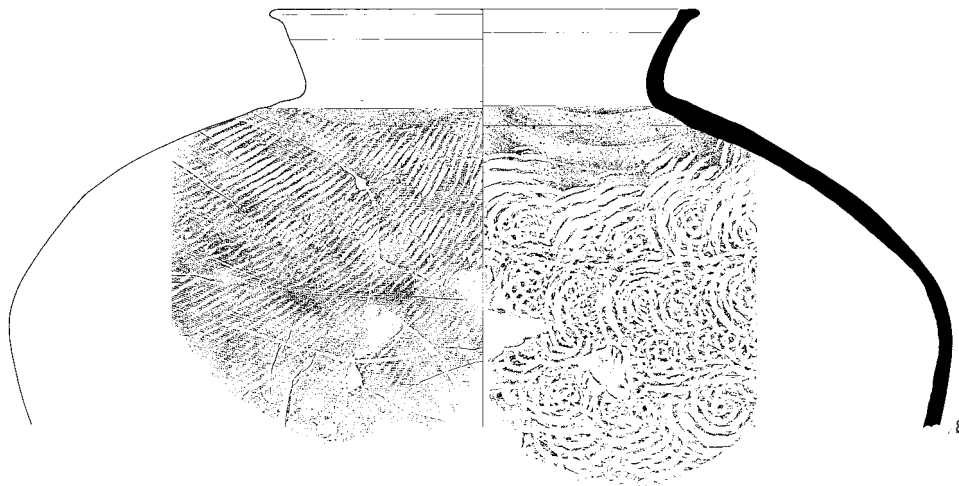
第186図 87大溝 (37ライン) 出土遺物実測図 2



第187図 87大溝 (37ライン) 出土遺物実測図 3



801



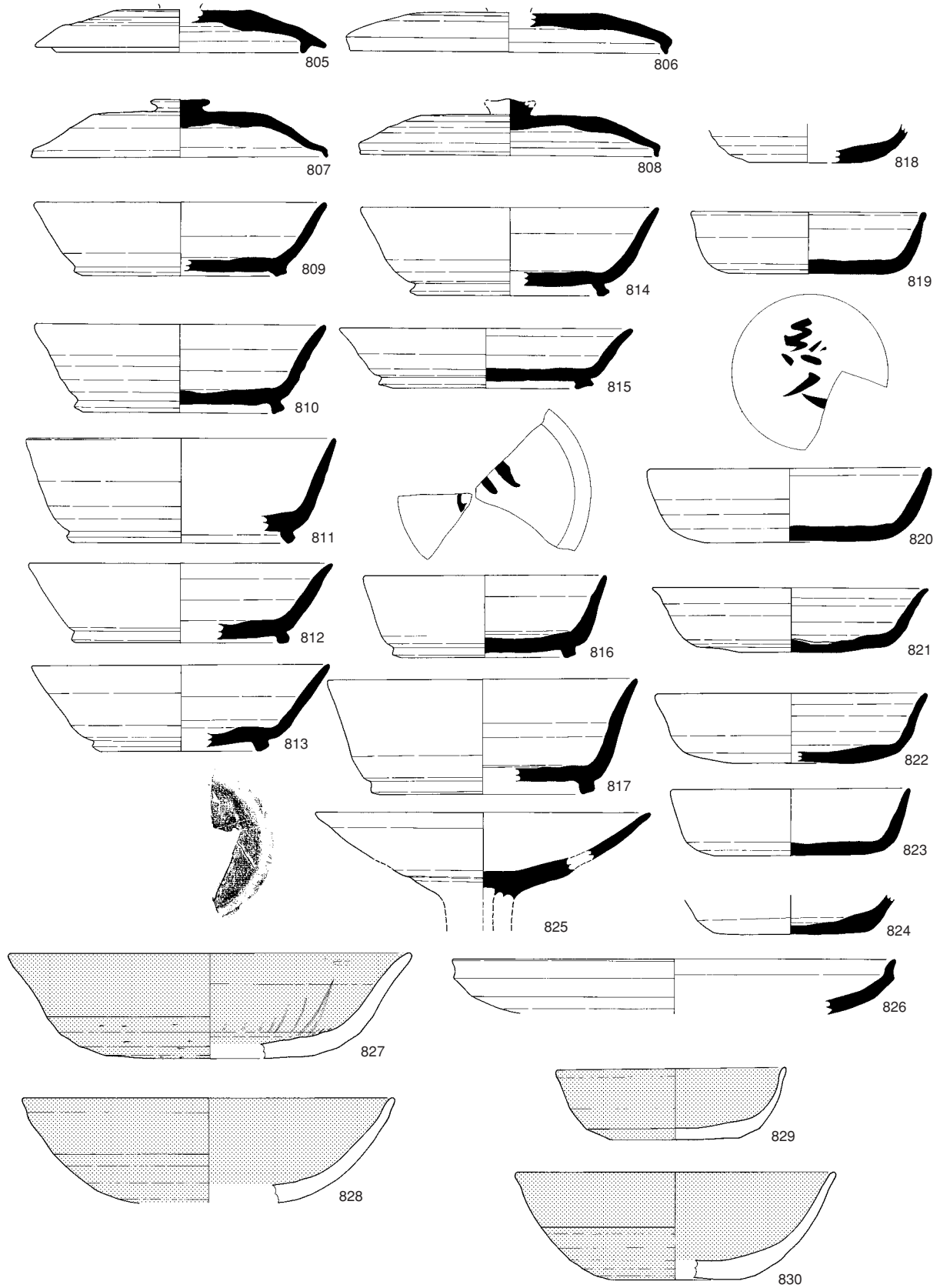
802

0 (1:4) 20cm

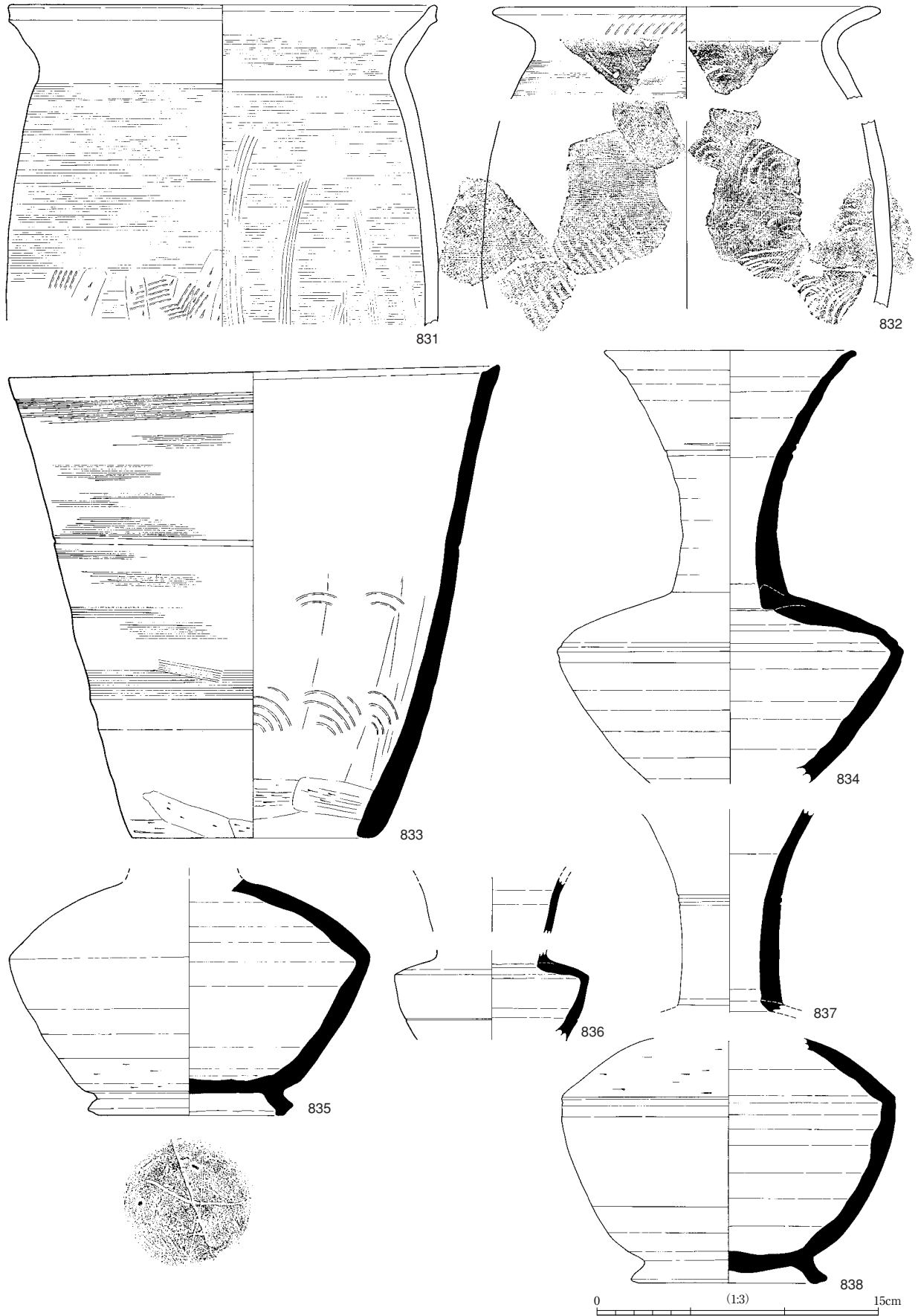
第188図 87大溝(37ライン)出土遺物実測図4



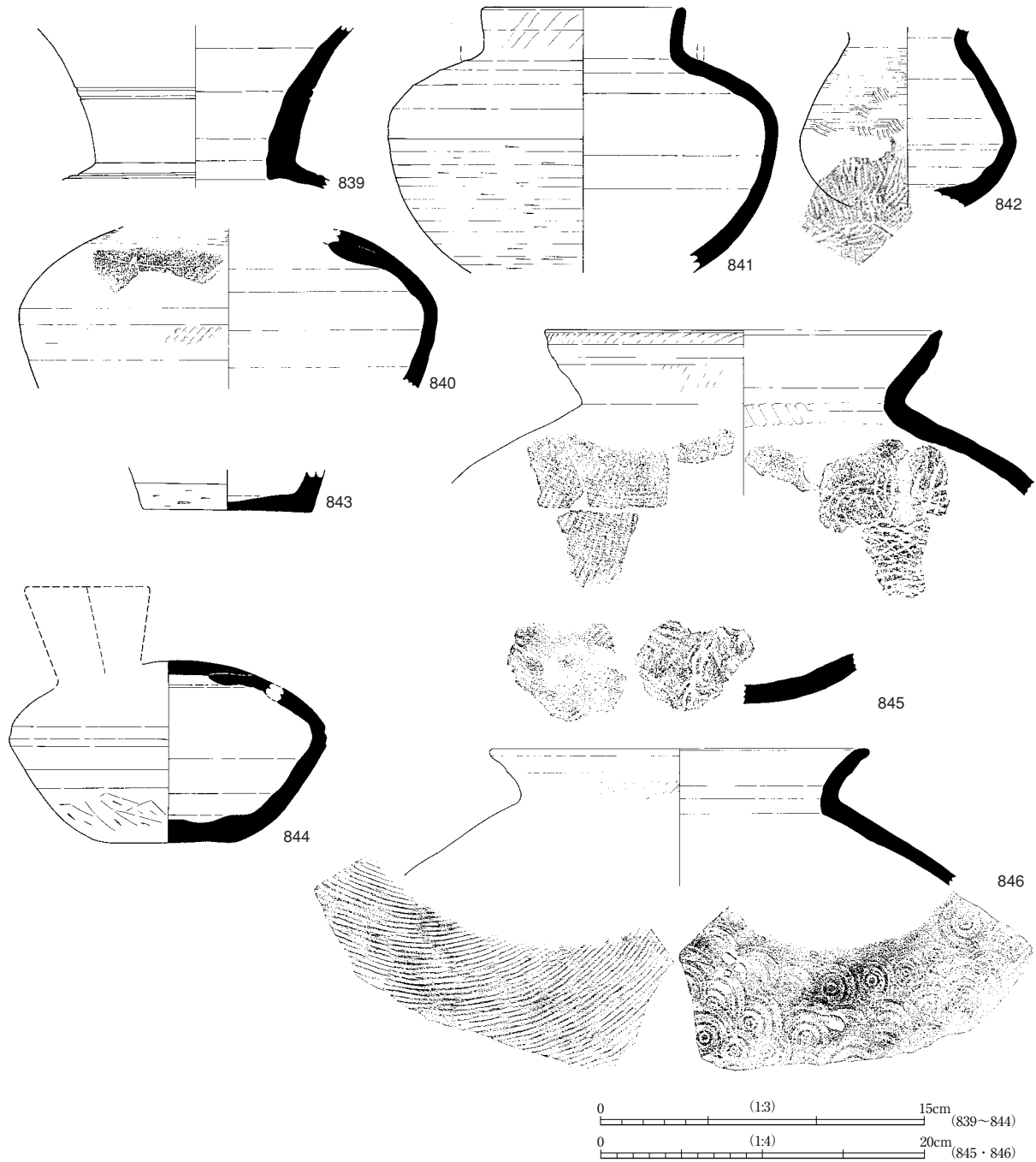
第189図 87大溝 (37ライン) 出土遺物実測図 5



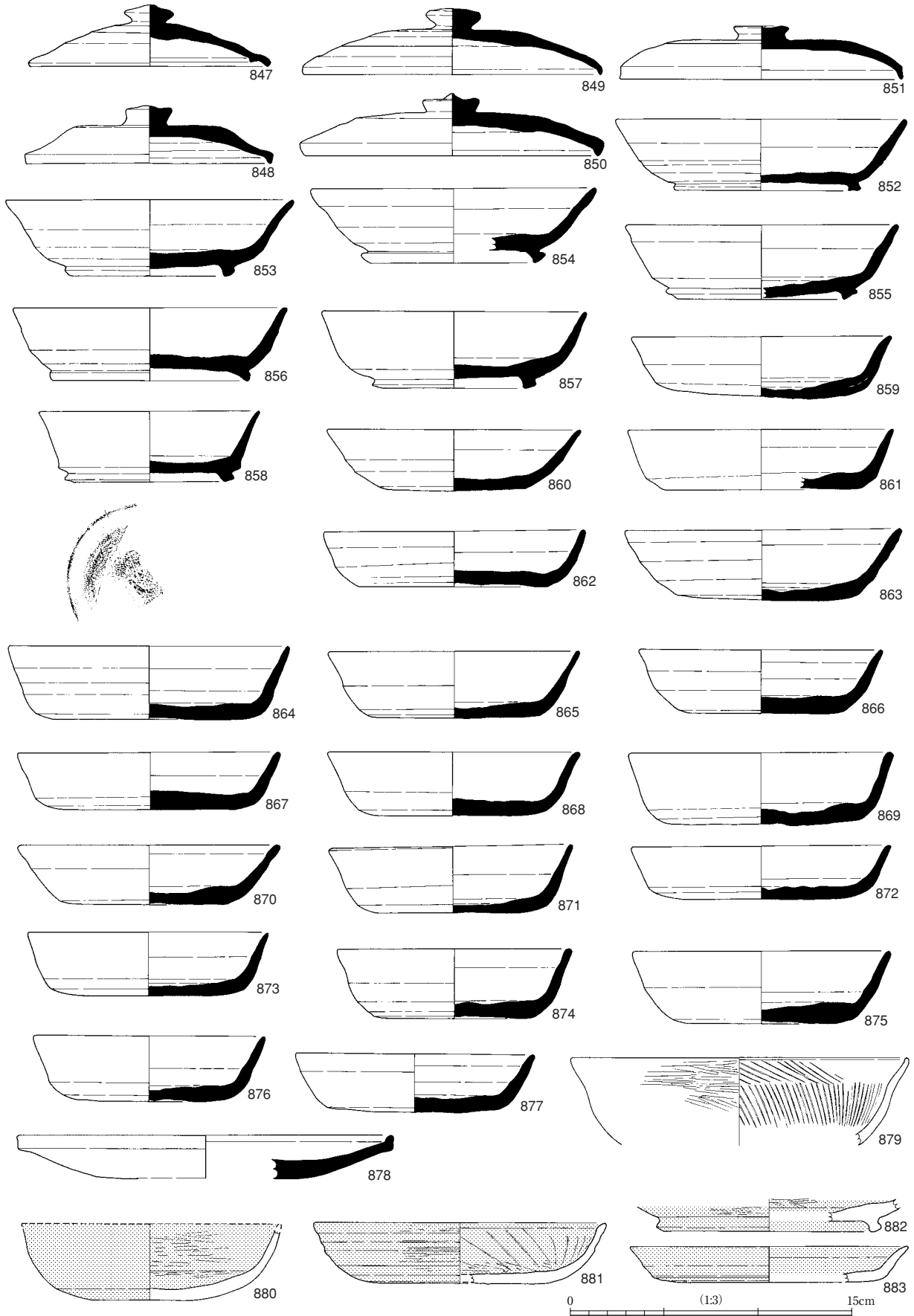
第190図 87大溝 (38ライン) 出土遺物実測図 1



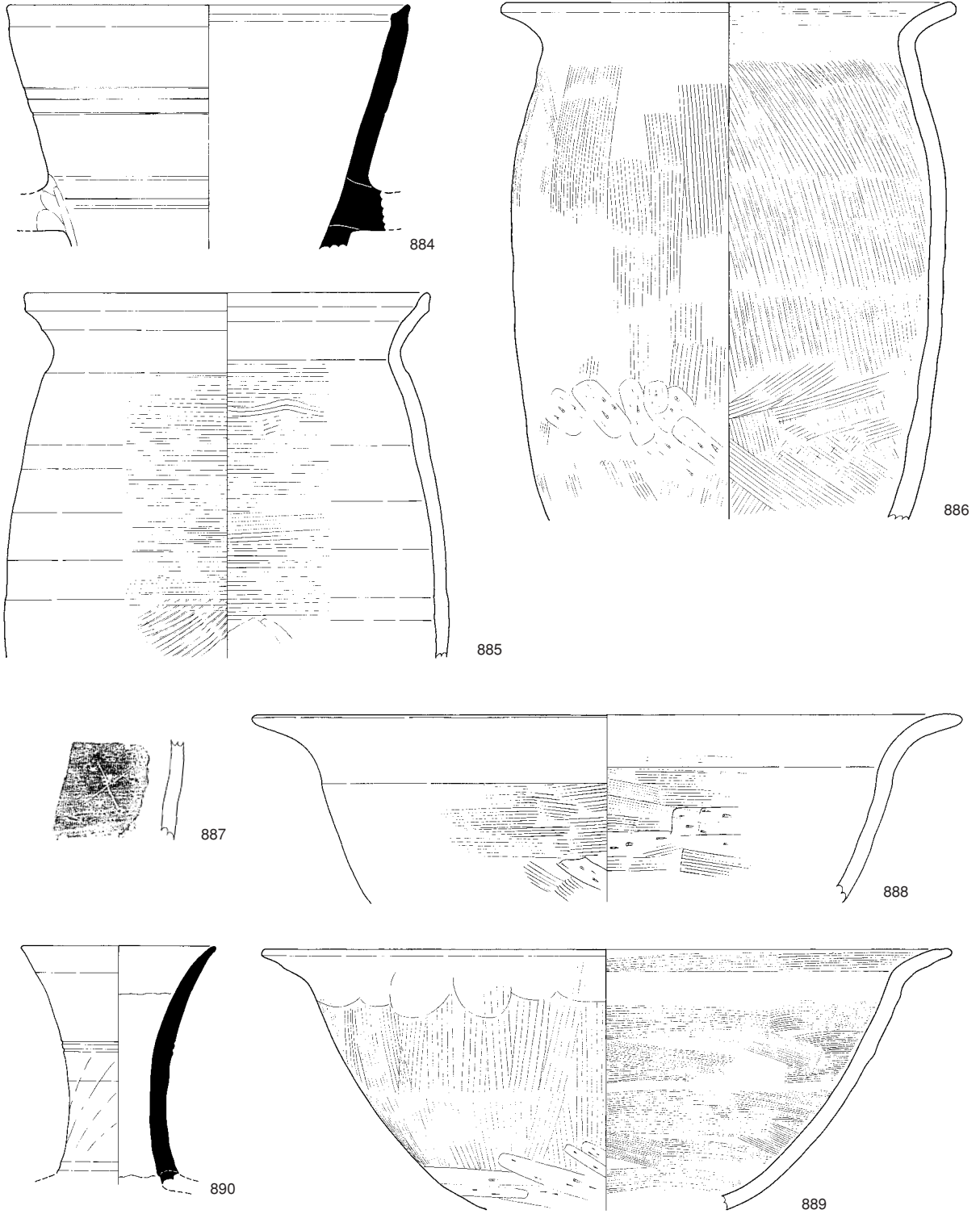
第191図 87大溝（38ライン）出土遺物実測図2



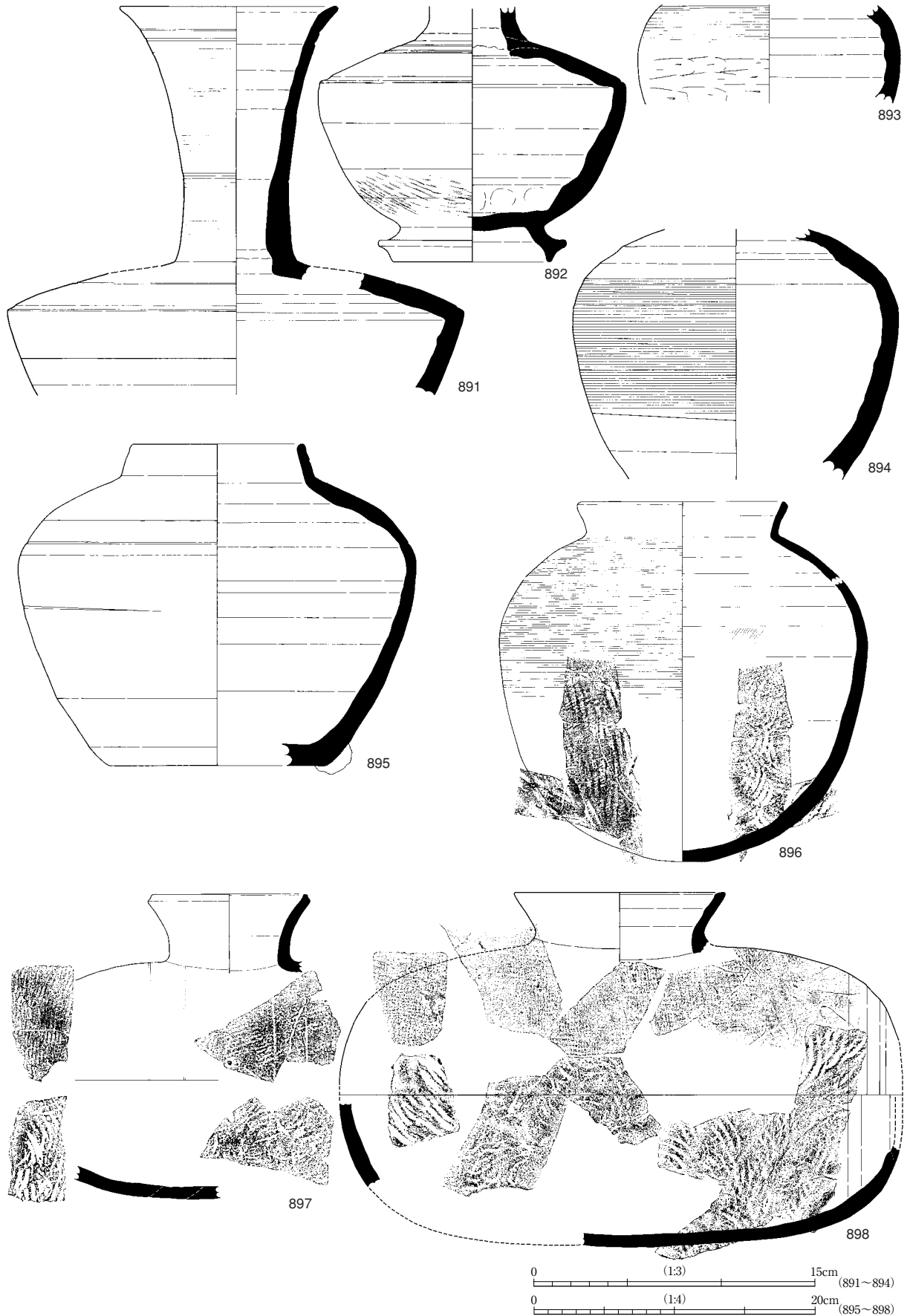
第192図 87大溝 (38ライン) 出土遺物実測図3



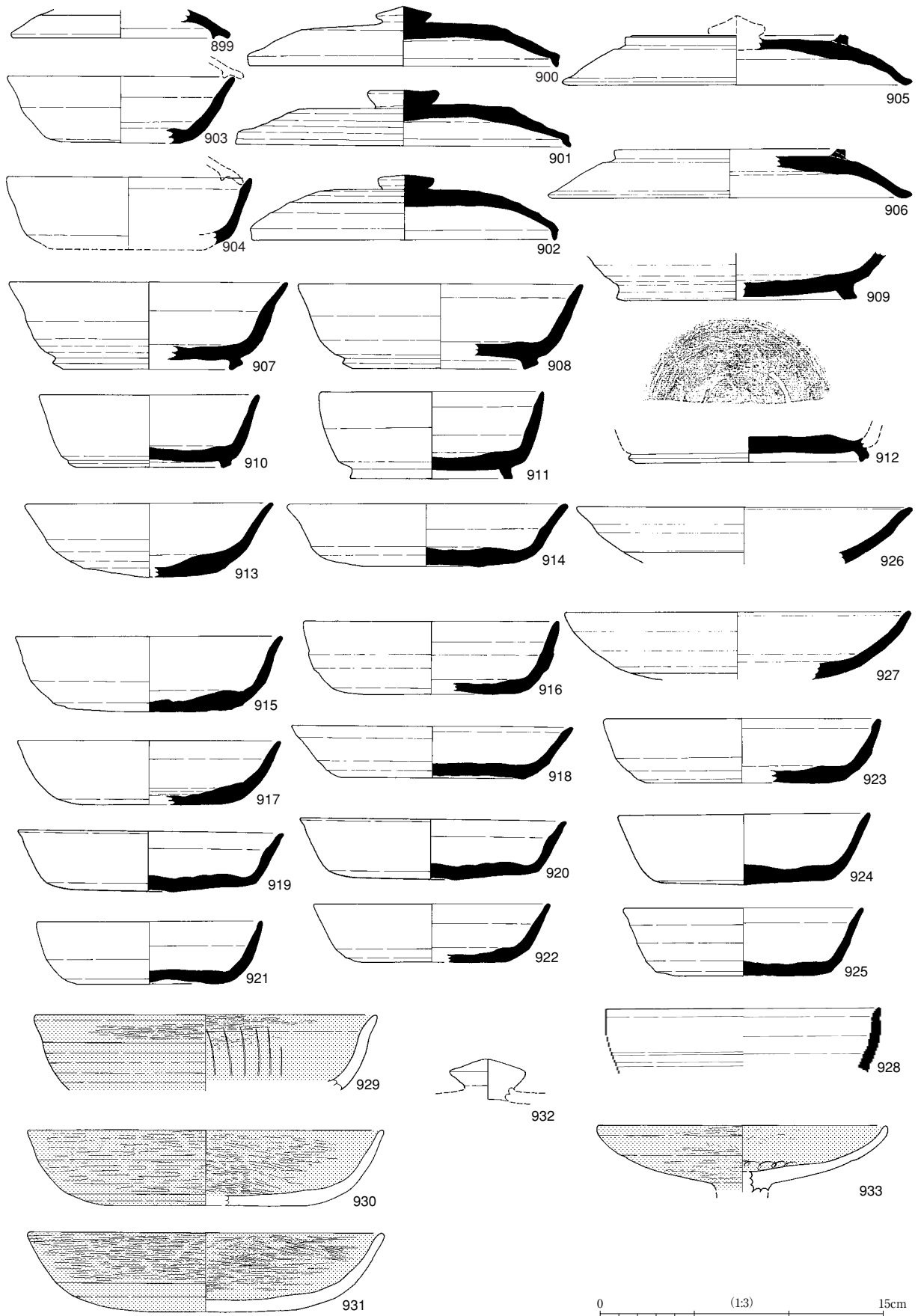
第193図 87大溝 (39ライン) 出土遺物実測図 1



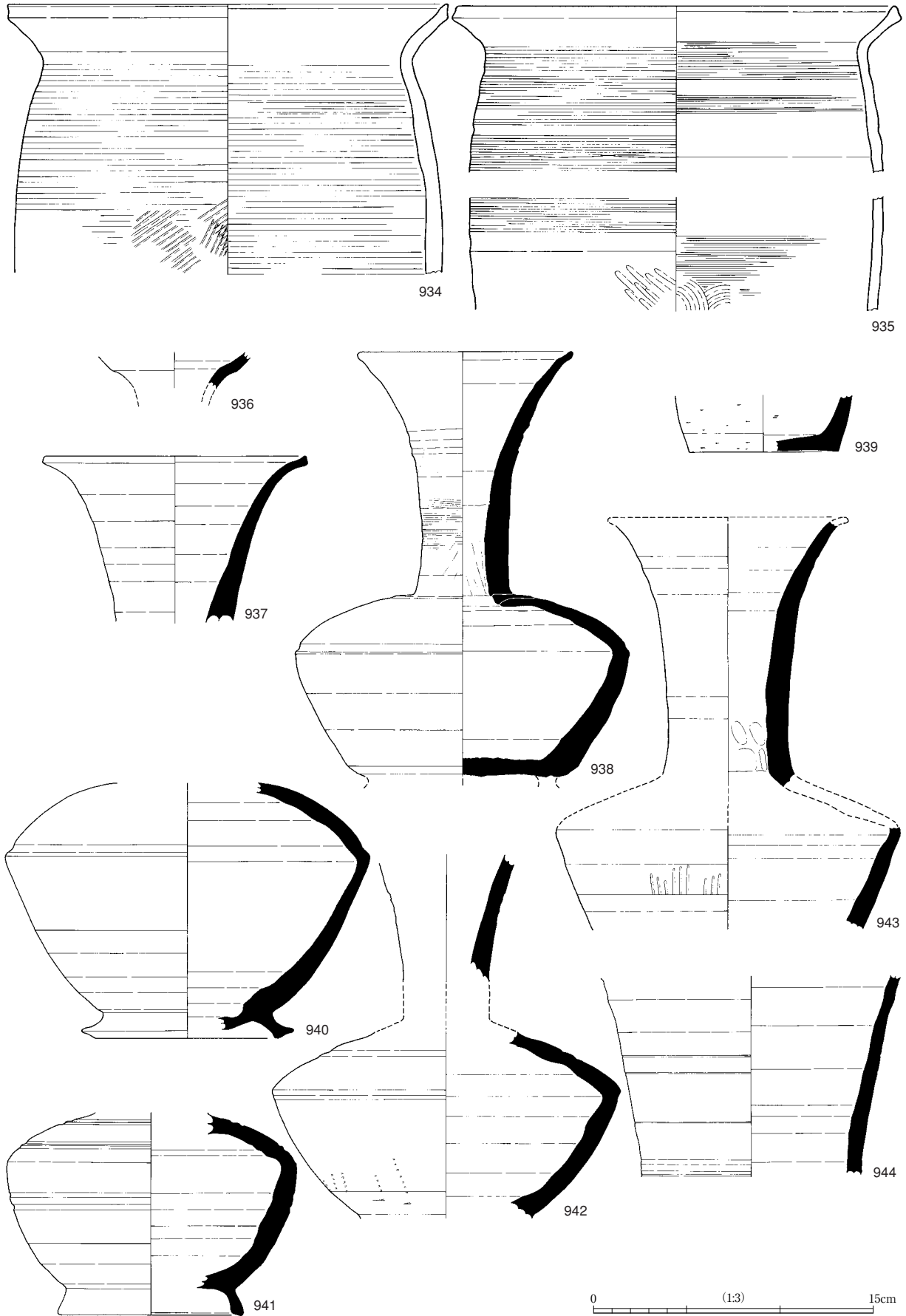
第194図 87大溝（39ライン）出土遺物実測図2



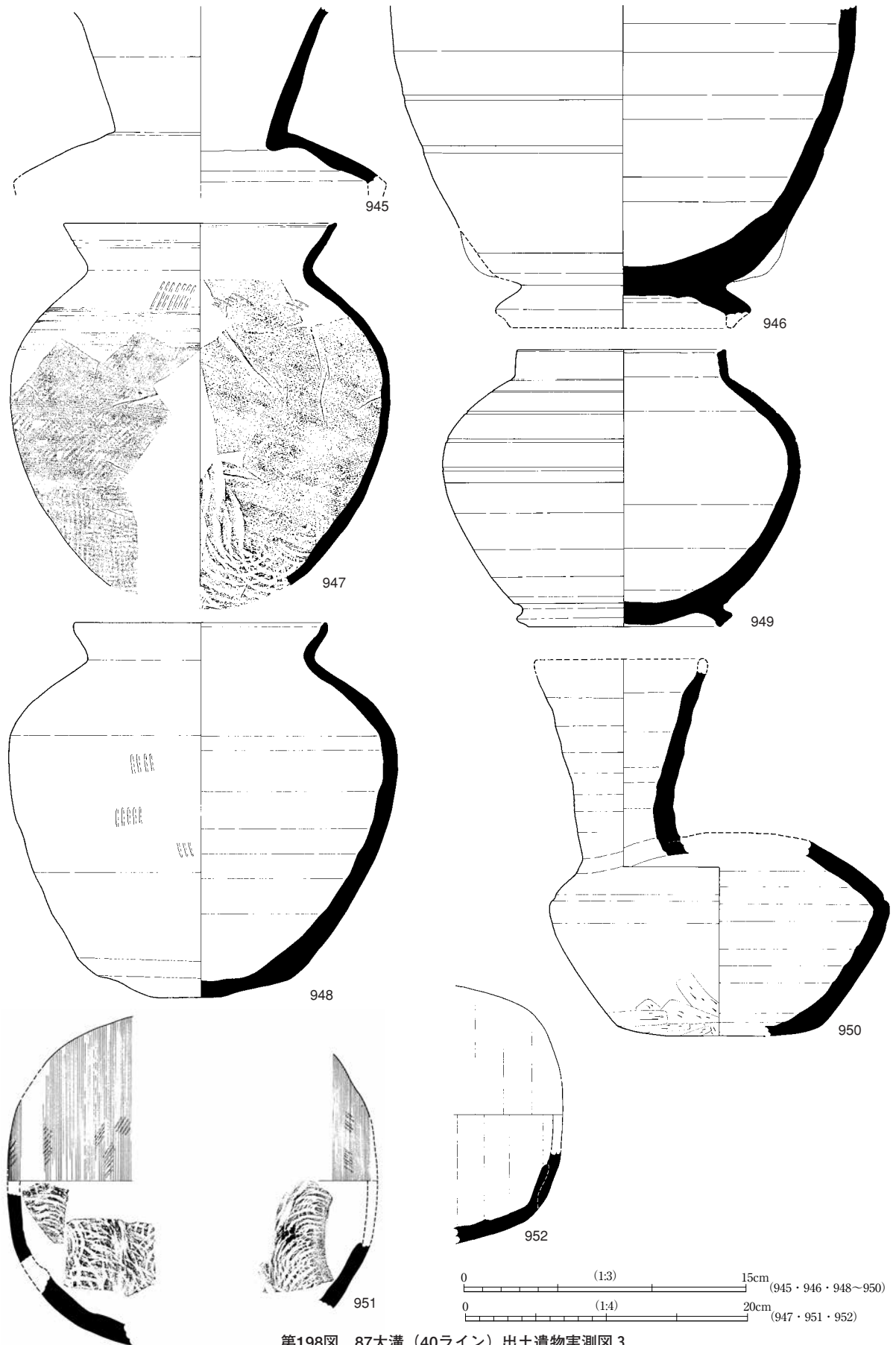
第195図 87大溝 (39ライン) 出土遺物実測図 3



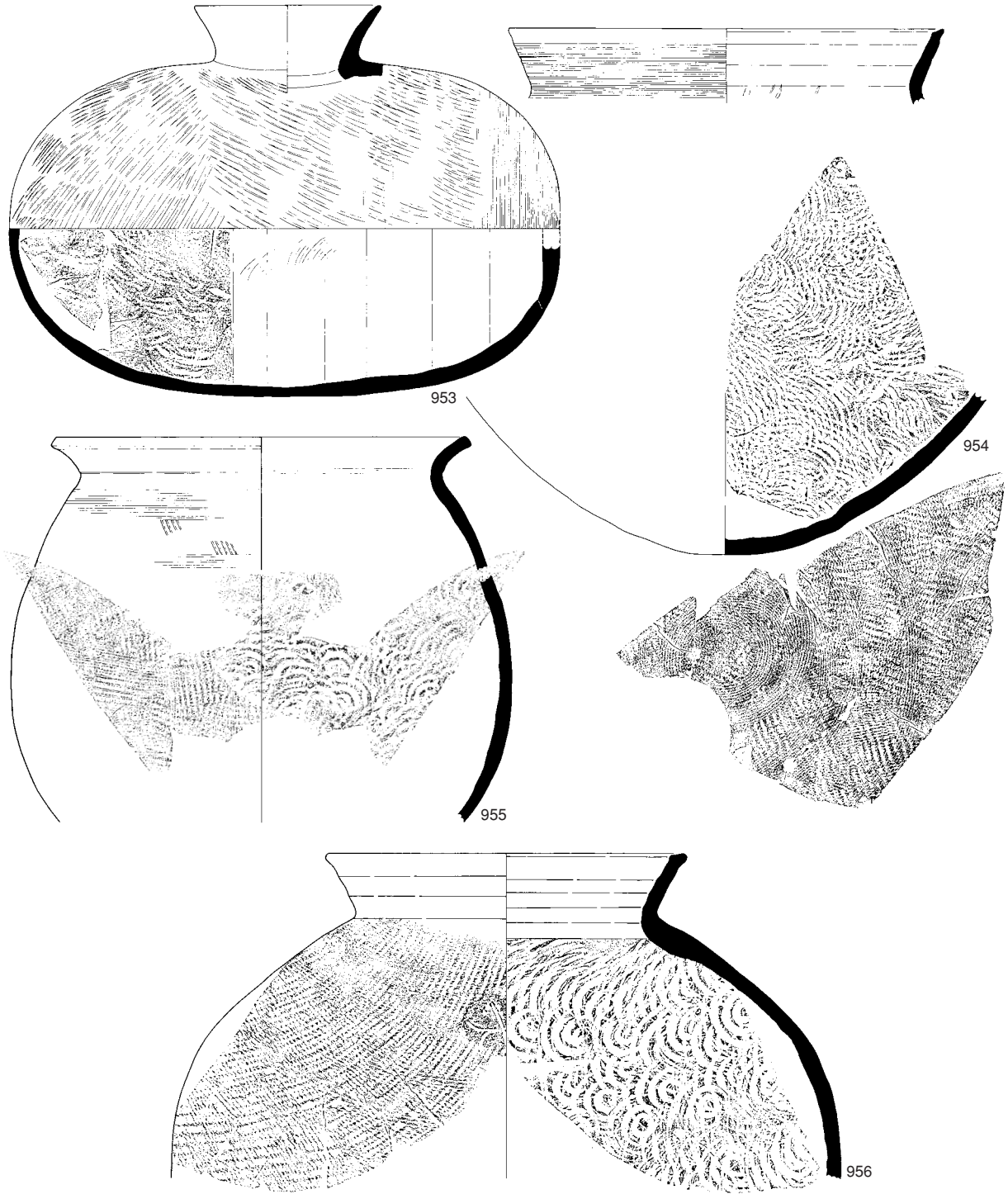
第196図 87大溝 (40ライン) 出土遺物実測図1



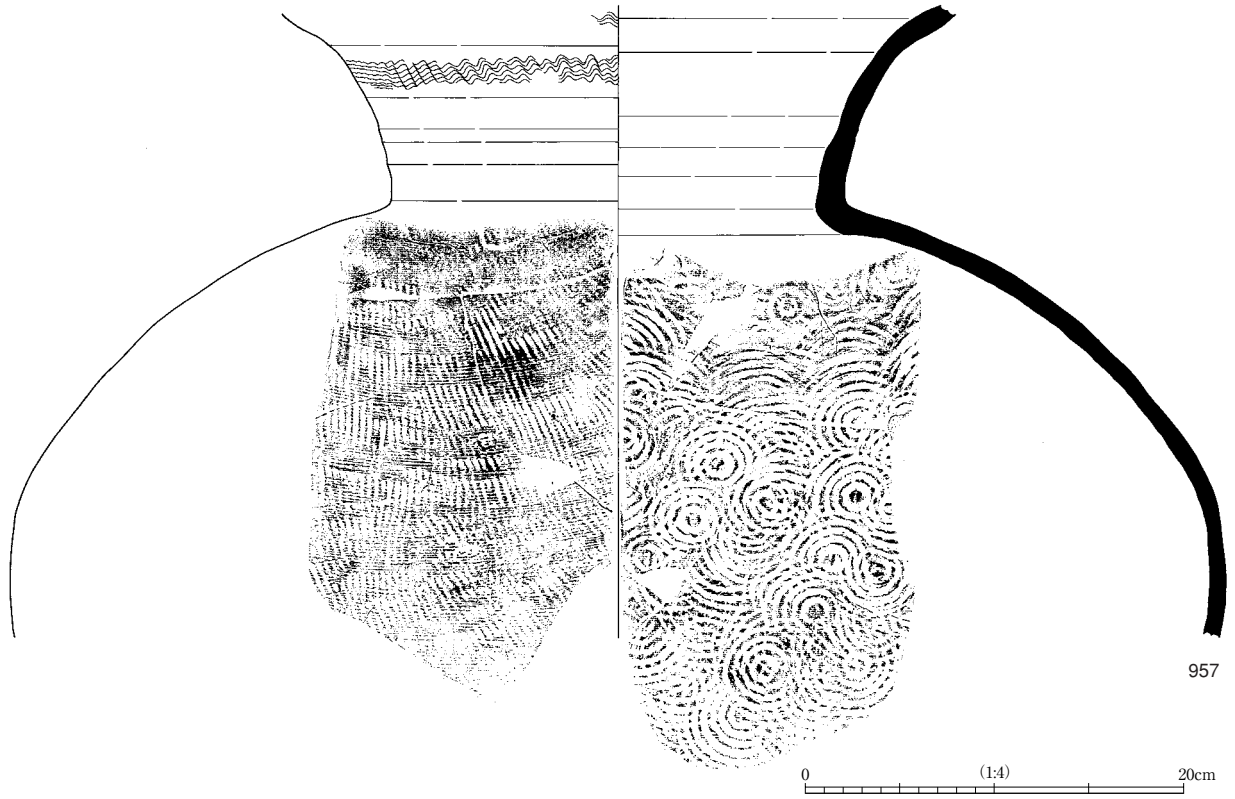
第197図 87大溝 (40ライン) 出土遺物実測図 2



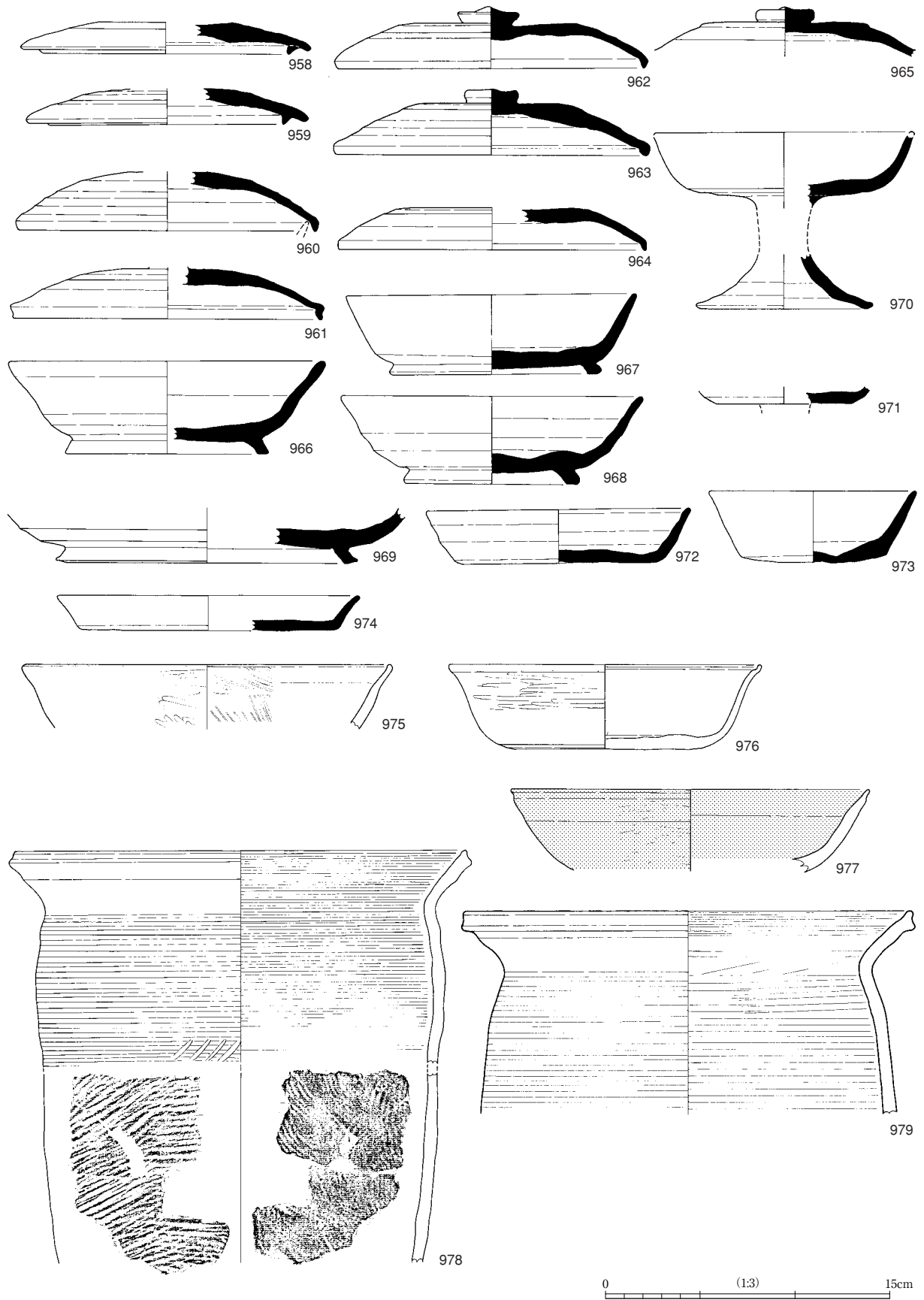
第198図 87大溝 (40ライン) 出土遺物実測図 3



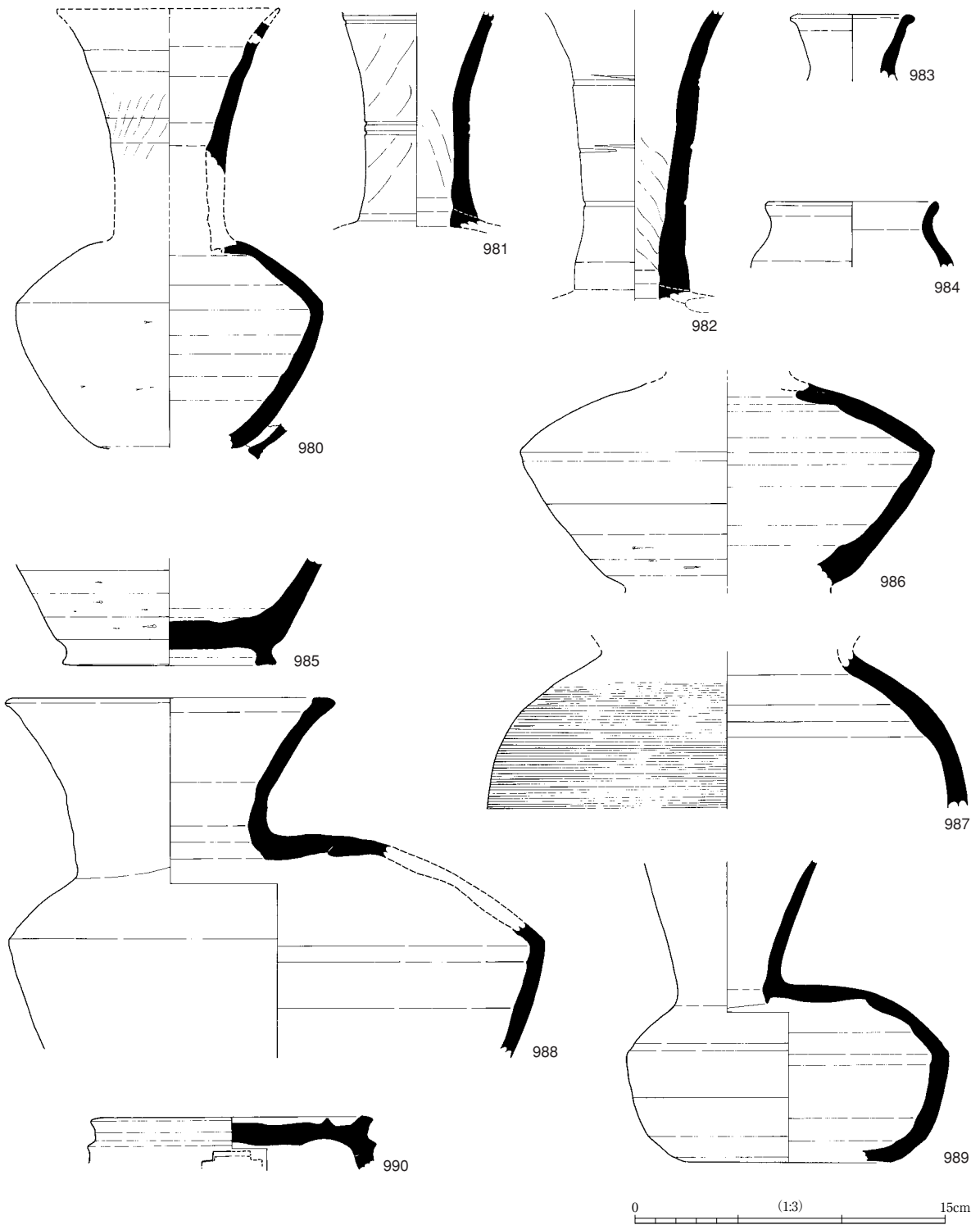
第199図 87大溝（40ライン）出土遺物実測図4



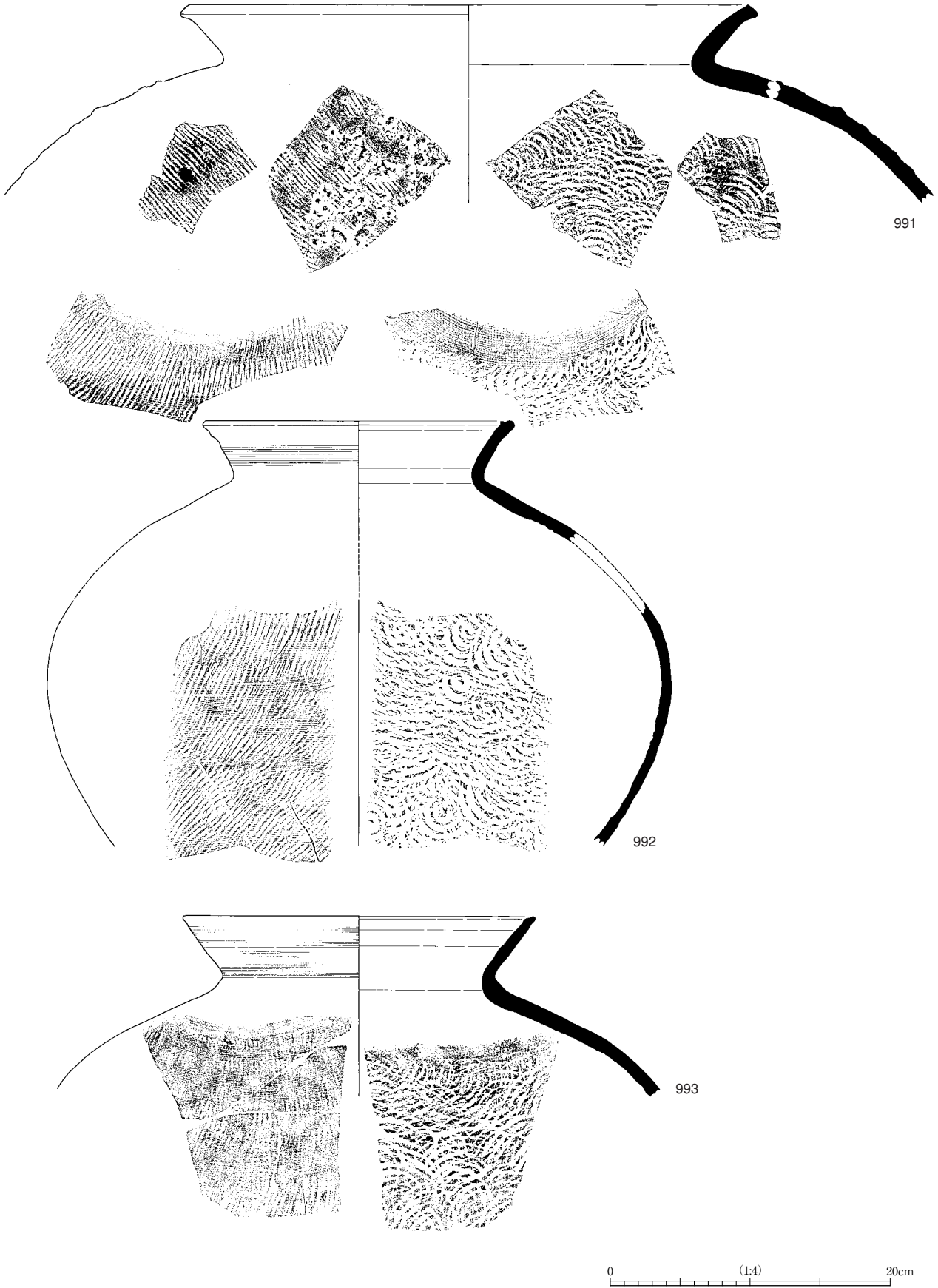
第200図 87大溝（40ライン）出土遺物実測図5



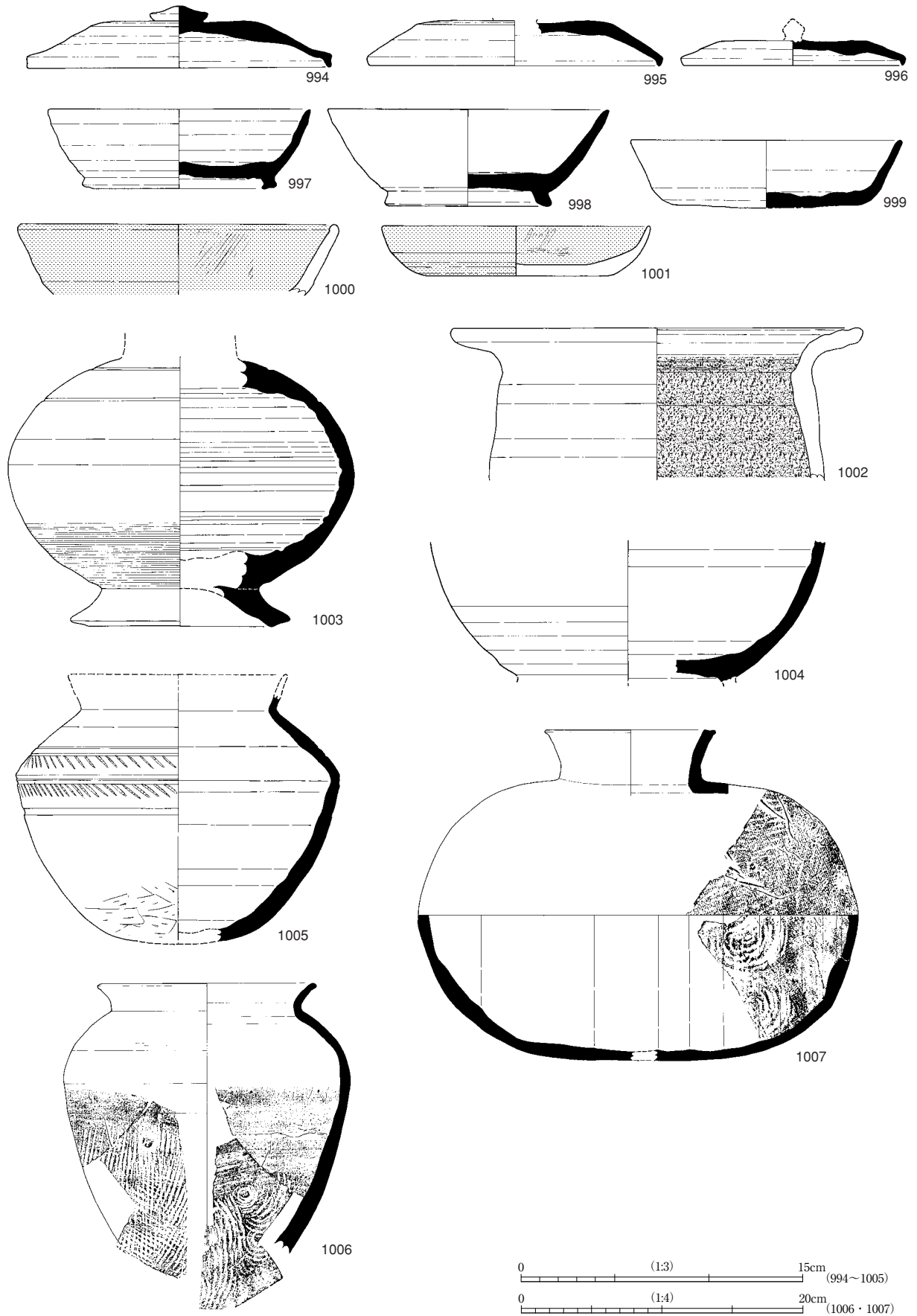
第201図 87大溝 (41ライン) 出土遺物実測図 1



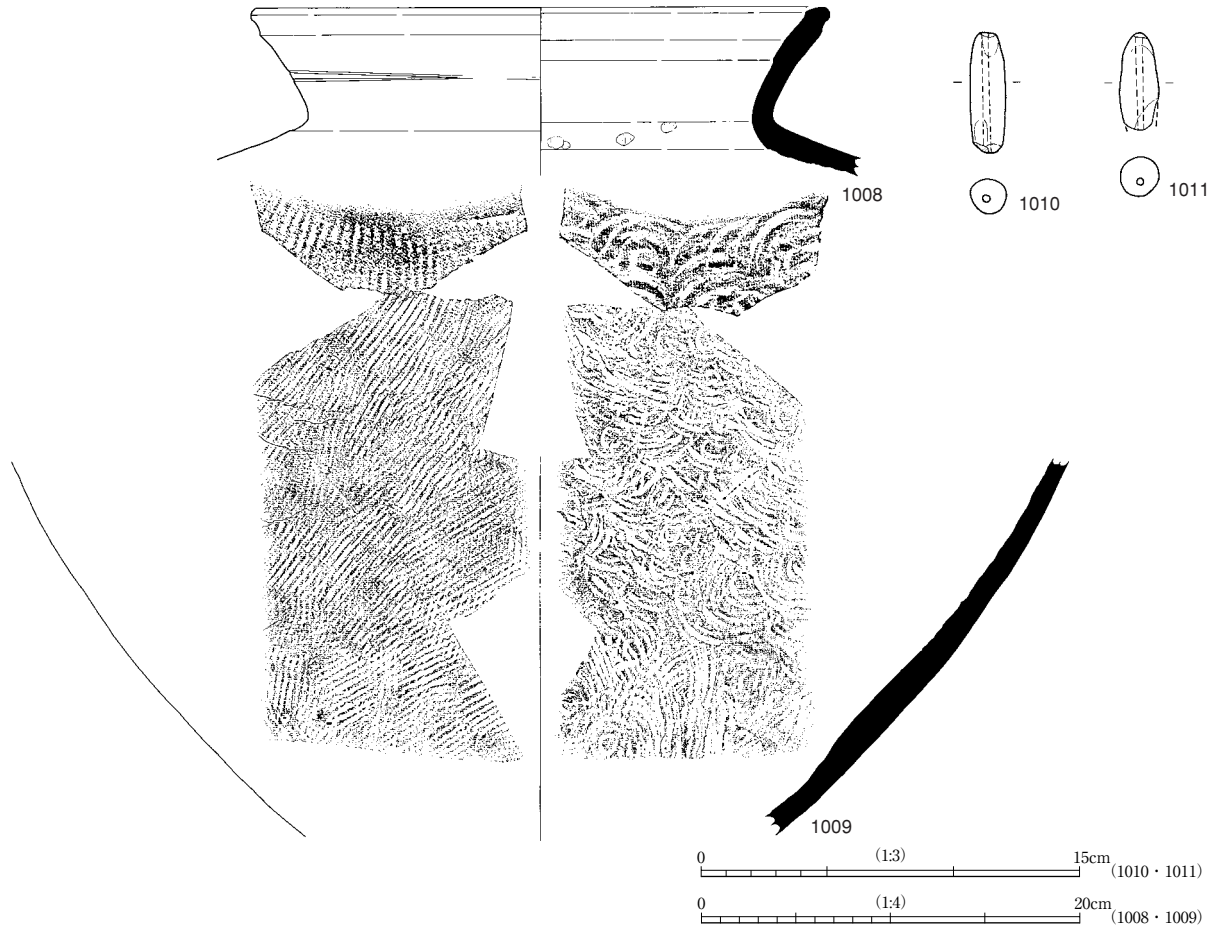
第202図 87大溝（41ライン）出土遺物実測図2



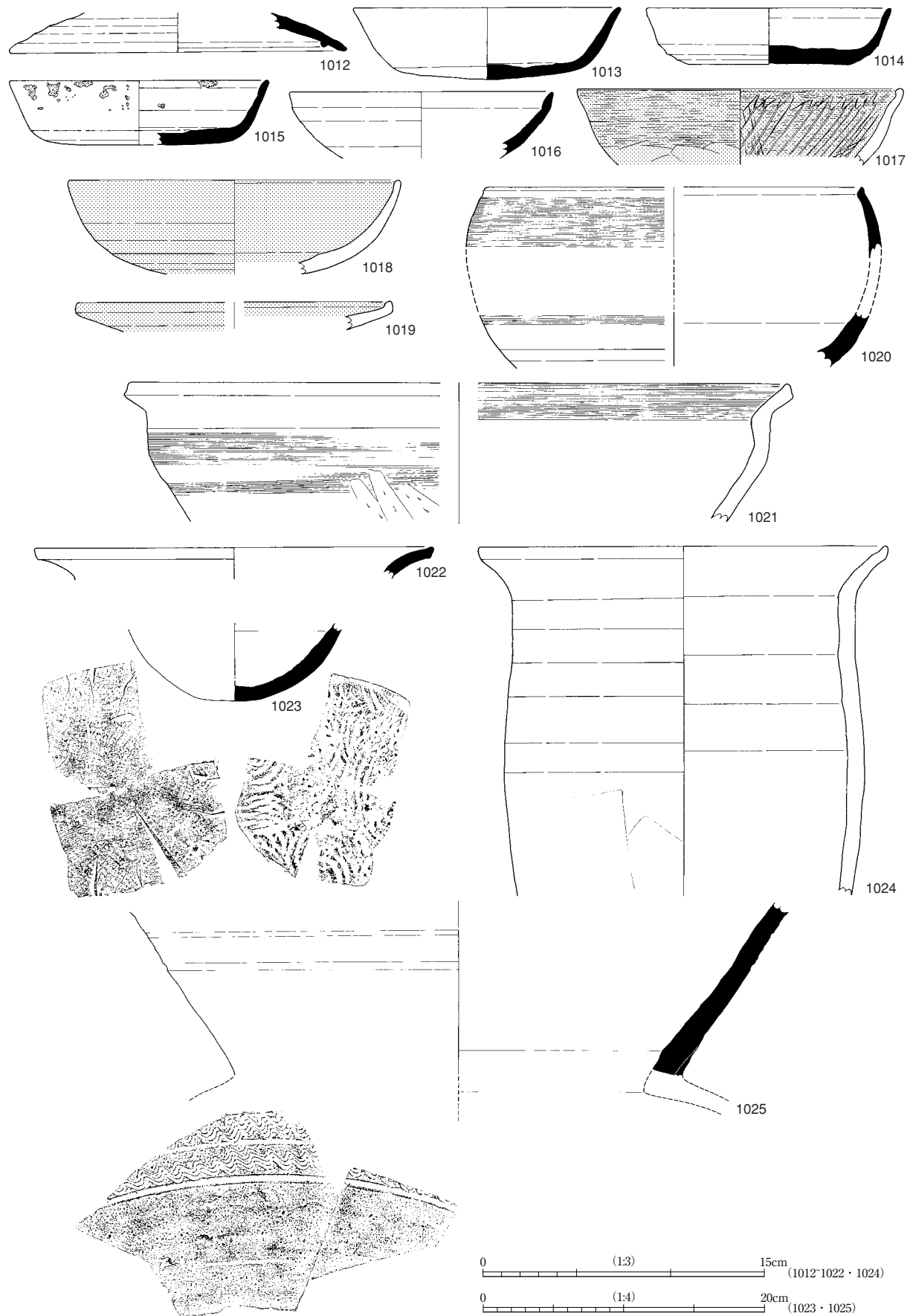
第203図 87大溝 (41ライン) 出土遺物実測図 3



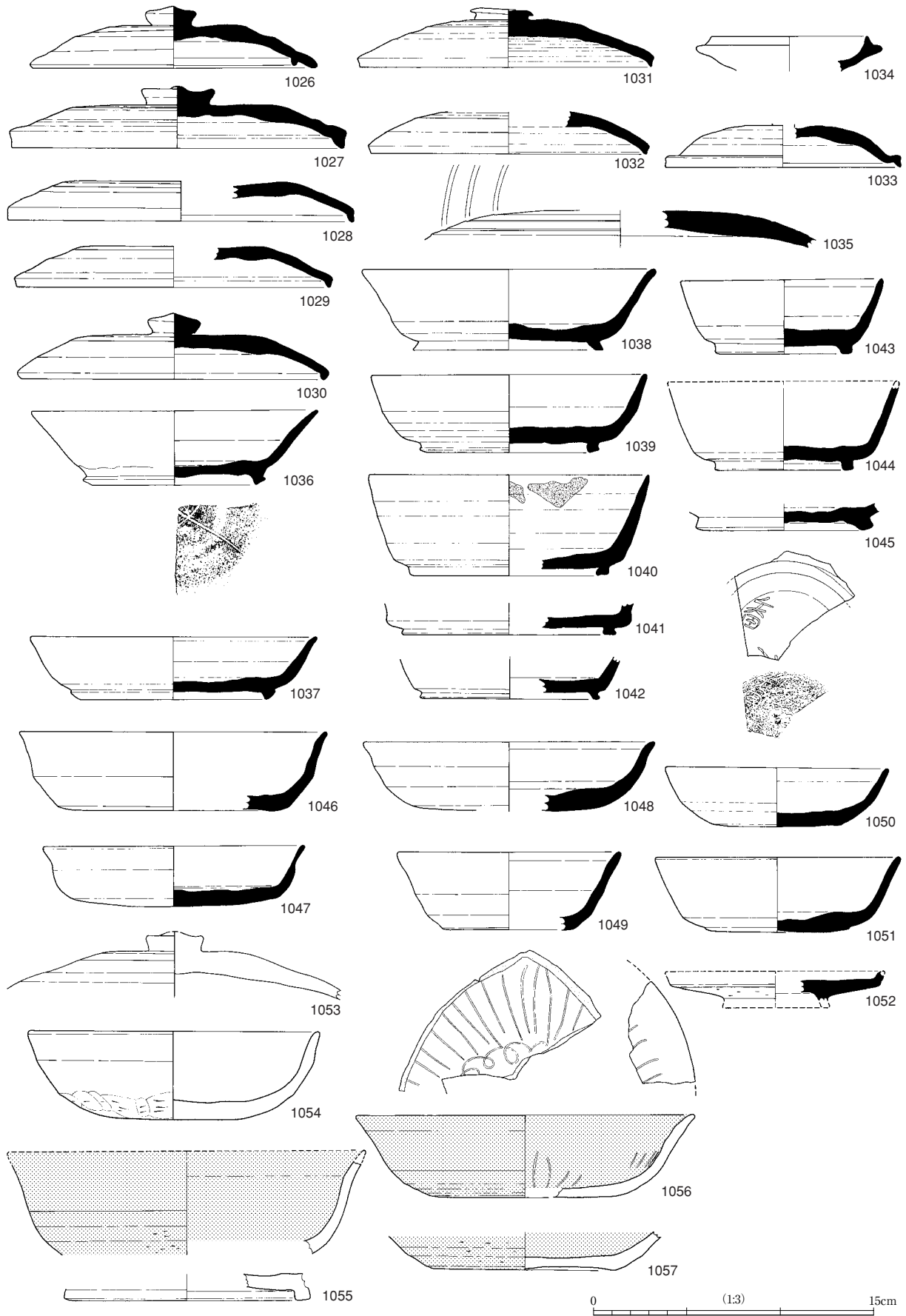
第204図 87 (42ライン) 出土遺物実測図1



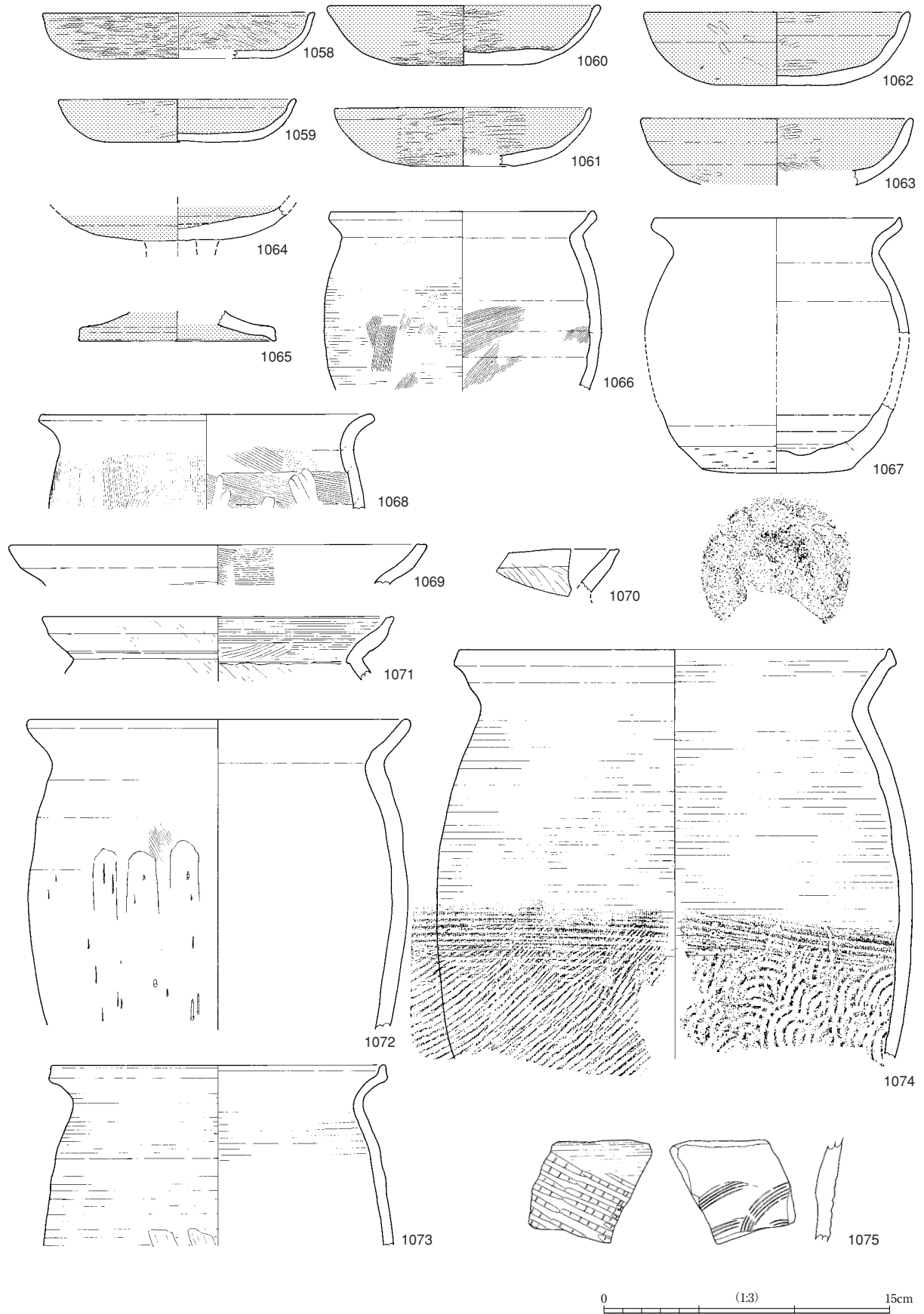
第205図 87大溝（42ライン）出土遺物実測図 2



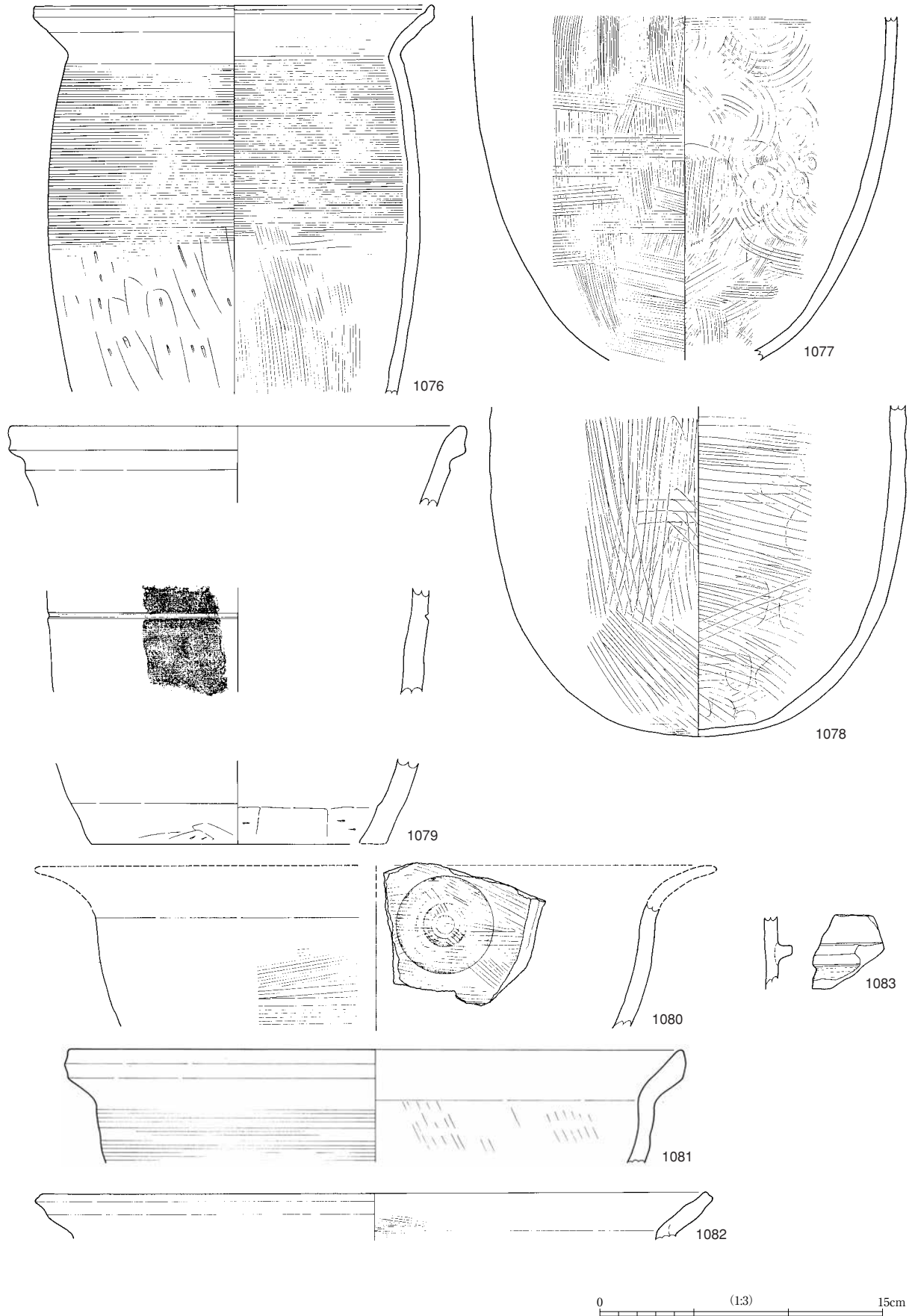
第206図 87包含層出土遺物実測図1



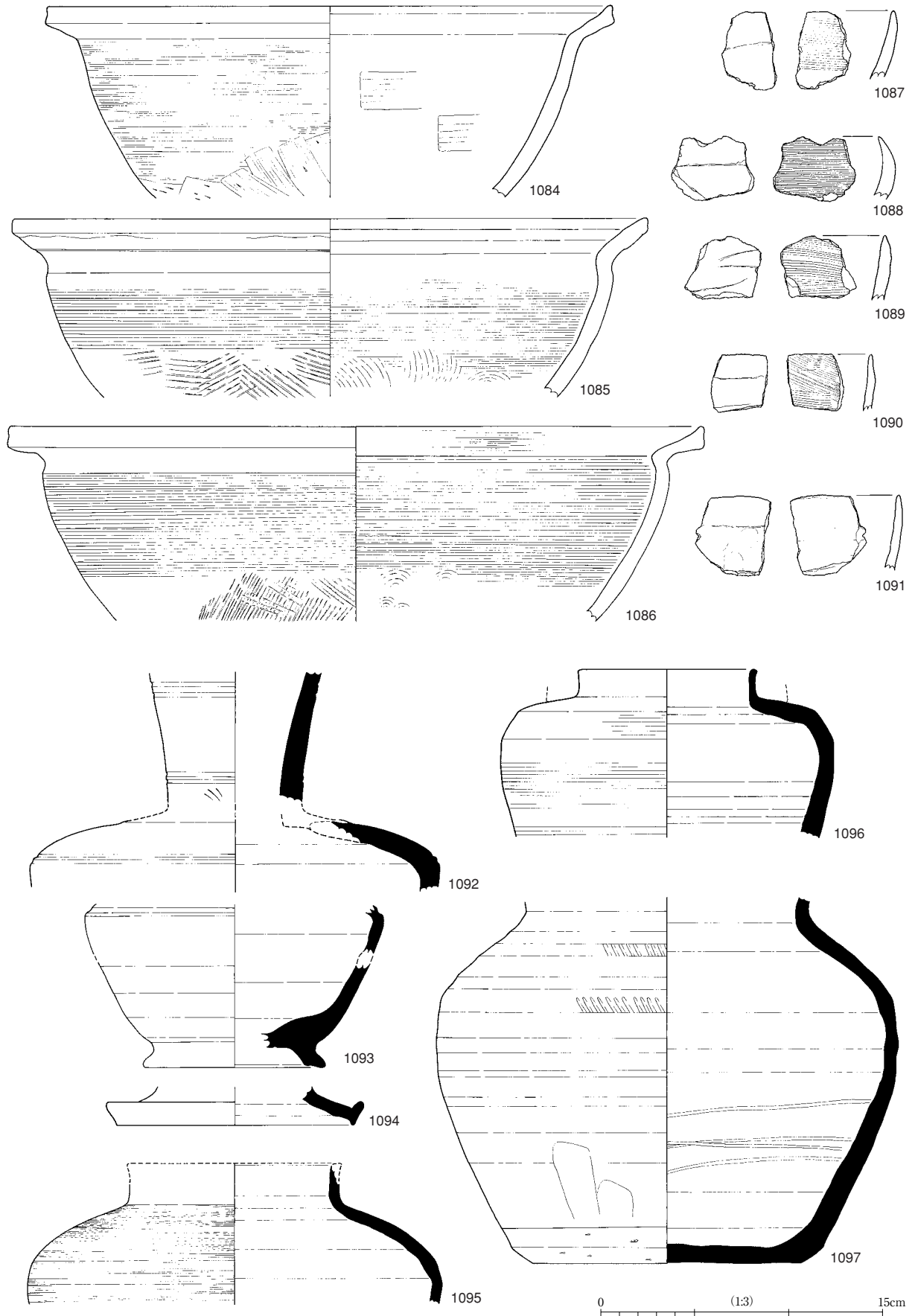
第207図 87包含層出土遺物実測図2



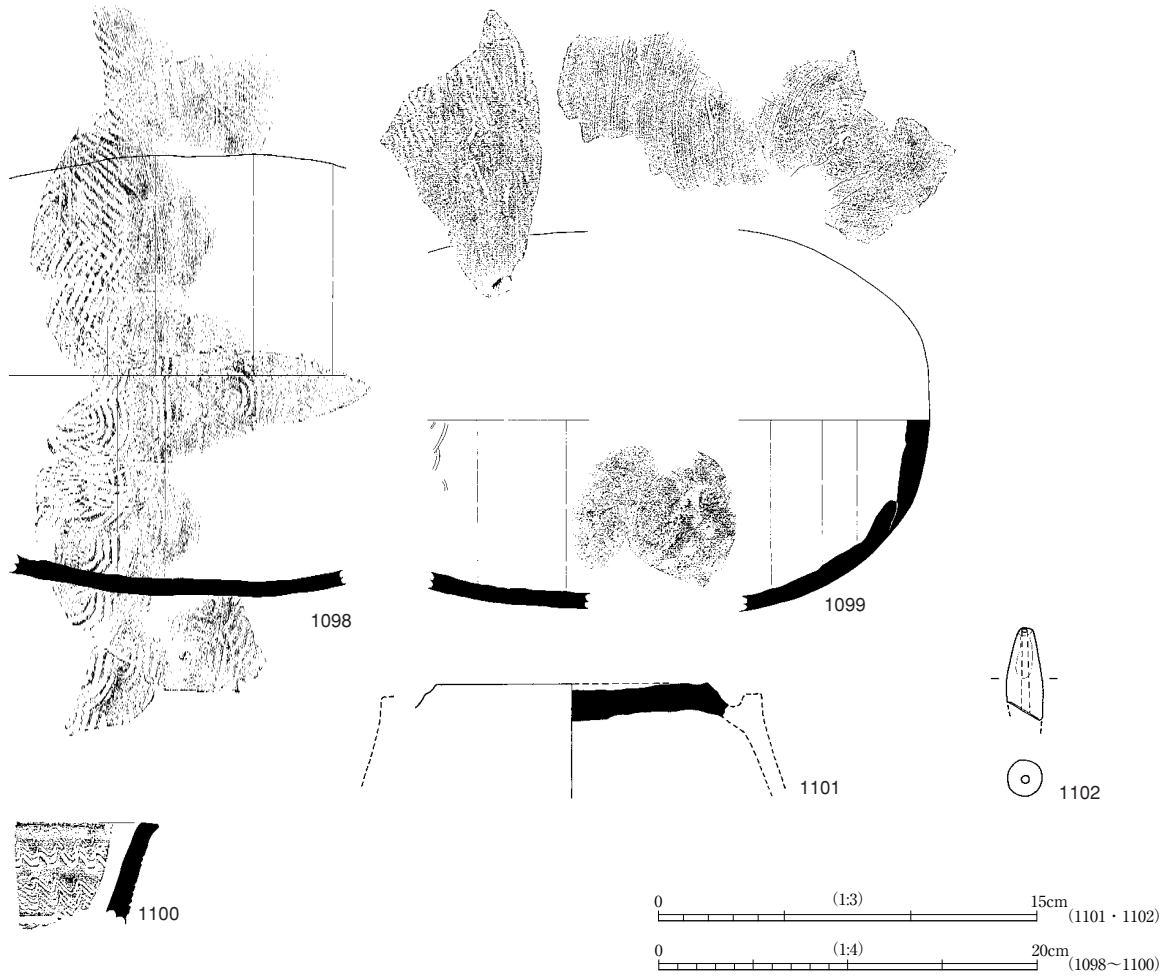
第208図 87包含層出土遺物実測図3



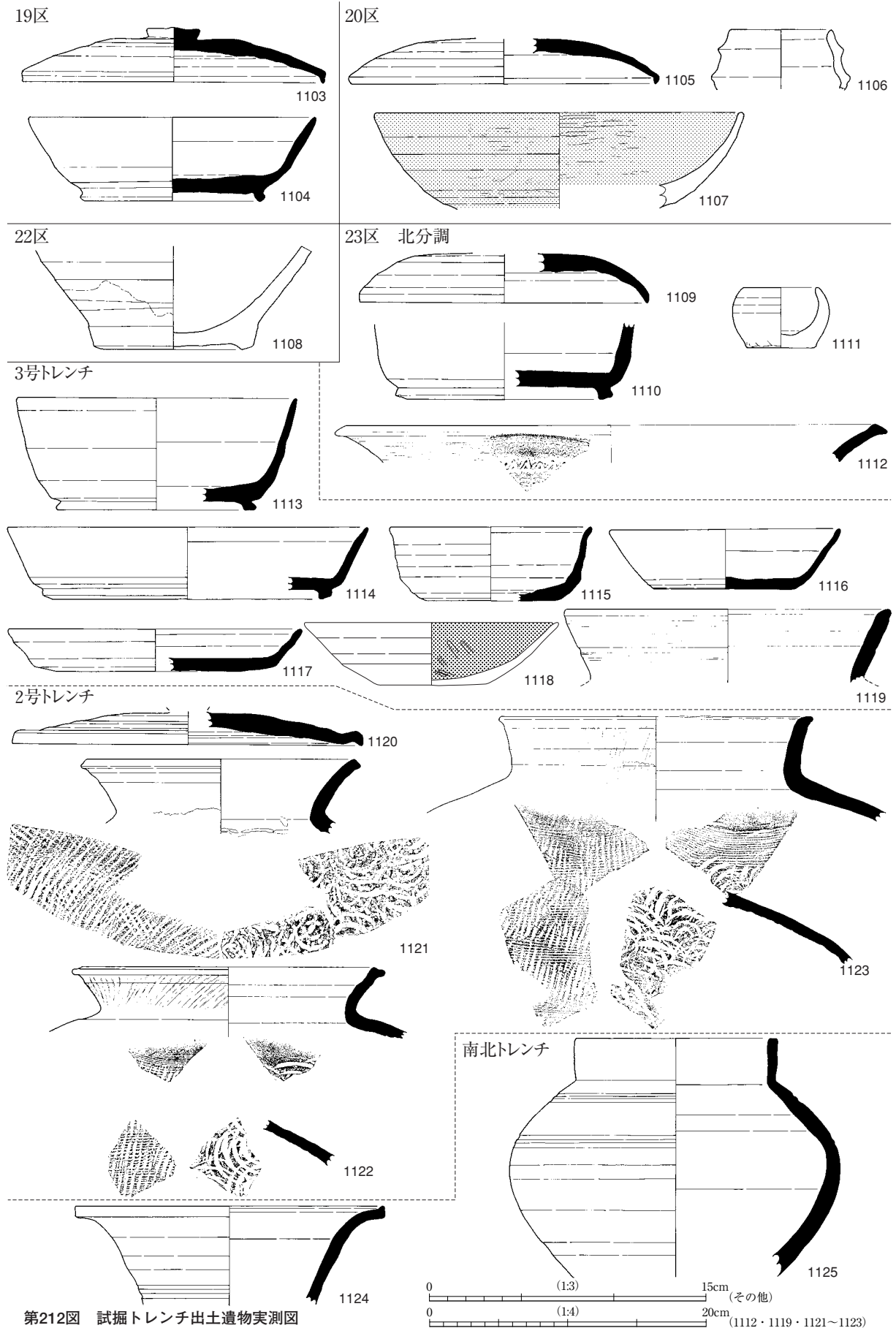
第209図 87包含層出土遺物実測図4



第210図 87包含層出土遺物実測図5



第211図 87包含層出土遺物実測図6



第212図 試掘トレンチ出土遺物実測図

第5節 その他の時代の遺物

1. 縄文時代から弥生時代

土器

1126から1150は縄文時代晩期から弥生時代中期前半の遺物である。1126から1140は調査区の南半から、1141から1149は調査区北半から出土した。

1126・1129・1130・1131は弥生時代中期前半の壺の破片である。1126の口縁部は外側に屈折し、内面の平坦部分に方形の重区画文が描かれる。口縁端部と外面にめぐらされる突帯には、竹管状の施文具で連続する刺突が施される。1129・1131は突帯が3ないし4条遺存しておりその上部が連続して刺突される。1130は突帯が鋸歯状に貼付されるもの。壺の胴部の破片と思われる。1132・1133は土器の底部である。1132の側面には薄く条痕の痕跡が残る。ともに胎土混和材として砂が多量に存在する。1127・1128は縄文土器である。1127は深鉢の口縁部で、内外面ともミガキが丁寧に行われる。胎土には混和材が少なく、精良な仕上がりである。口縁部の形状から晚期中屋式期に比定される。1128は沈線により工字文系の文様が施されるものである。長竹遺跡や乾遺跡で出土しているコップ状の小形土器に類似する。1134から1140は外面に条痕文が施文される土器片である。内面はナデ調整されている。

1141は中屋式の深鉢口縁部である。頸部には横走る沈線と、沈線間に棒状施文具による連続刺突が施され、その後、内外面とも丁寧に磨かれる。1142は突帯を貼付した後に沈線を横走させ、4条程の突帯を作出、その後に突帯を連続して細かく刺突するもので、弥生時代中期前半のものと思われる。1144・1145は深鉢口縁部で、1144は横方向、1145は縦方向に条痕文が施文される。1144の内面は平滑に整えられるのに対し1145は調整が荒く、胎土に砂粒が多く混ぜられる。1146から1148は下野式に比定される。1146は小形で器厚の薄い深鉢口縁部で、口縁端部に細かい刺突、口縁部外端部に縦位の短沈線が極弱く施される。横位の沈線は口縁部と胴部上半部に施文され、胴部上半では沈線間に連続する刺突列点文が施される。1147は浅鉢で外面には眼鏡状突帯が施文される。眼鏡状突帯の上にある凹部には赤彩の痕跡が認められる。1148は外面に縦位の条痕文を施文した後に横位の沈線を引く。1149は沈線内に棒状の施文具により刺突が施されるもので、中屋式に比定されると思われる。

1150は弥生時代中期前半の壺で、口縁部破片と頸部破片が出土した。口縁部は外展し先端が内側へ屈曲する。屈折部には連続する刻みが施され、外端面には鋸歯状の沈線、頸部には条痕文が施文される。頸部下には沈線と突帯が施文されるが遺存部分が少なく判然としない。

石製品

1281から1318は打製石斧である。打製石斧は全体で62点出土しており、その内の38点を図示した。出土状況は、古代以降の遺構内覆土や包含層からの出土が目立つ。出土位置がグリッド単位でわかるものは62点中38点で、A・B-30~42グリッドとB・C-2~13グリッドでの出土が比較的多い。

形状は側縁の形状から分類した。両側縁が水平もしくは水平に近い短冊形（1291・1292）、側縁が「ハ」字状に開き直線的な撥形（1289・1294・1314など）や、側縁が「ハ」字状に開き、内側に挟りこまれる分銅形（1311・1312・1313など）と呼ばれるものや、それらの複合したもの（1295・1300など）や、基部が狭く刃部周辺が左右に広がる凸字形の形状を示すもの（1281・1293）などが確認され

る。62点中41点が分類され、短冊形2点、撥形14点、分銅形14点、複合したもの8点、凸字形3点となる。

寸法・重量は、完形及び完形に近いもの27点のうち、長さ19cmをこえる大形のものが3点、12cmから17.6cmが24点であった。幅は6.6cmから11.8cm、長幅比は1.25～2.11の間に収まっている。重量は224gを最小とし、923gを最大とする。900gを超えるもの1点、600gから730gのもの5点、220gから560gのもの18点である。したがって、その多くは長さ12cmから18cm、幅6.5cmから12cm、重量220gから560gの範囲に収まるものといえる。

使用に関する磨耗痕跡は、肉眼では1298の腹面刃部に磨耗が認められるのみで他では確認できなかった。製品の欠損部位についてみると、ほぼ完形・完形26点、基部欠損13点、刃部欠損11点、基部・刃部欠損5点、刃部破片3点、基部破片1点、破片3点である。全体のうちほぼ完形・完形品の占める割合は約40%、欠損品は約60%であった。

打製石斧の時期については、遺跡から出土している土器が縄文時代晩期中葉の中屋式から弥生時代中期前半までのものであり、その時期幅に収まる可能性が高いと思われる。

2. 中 近 世

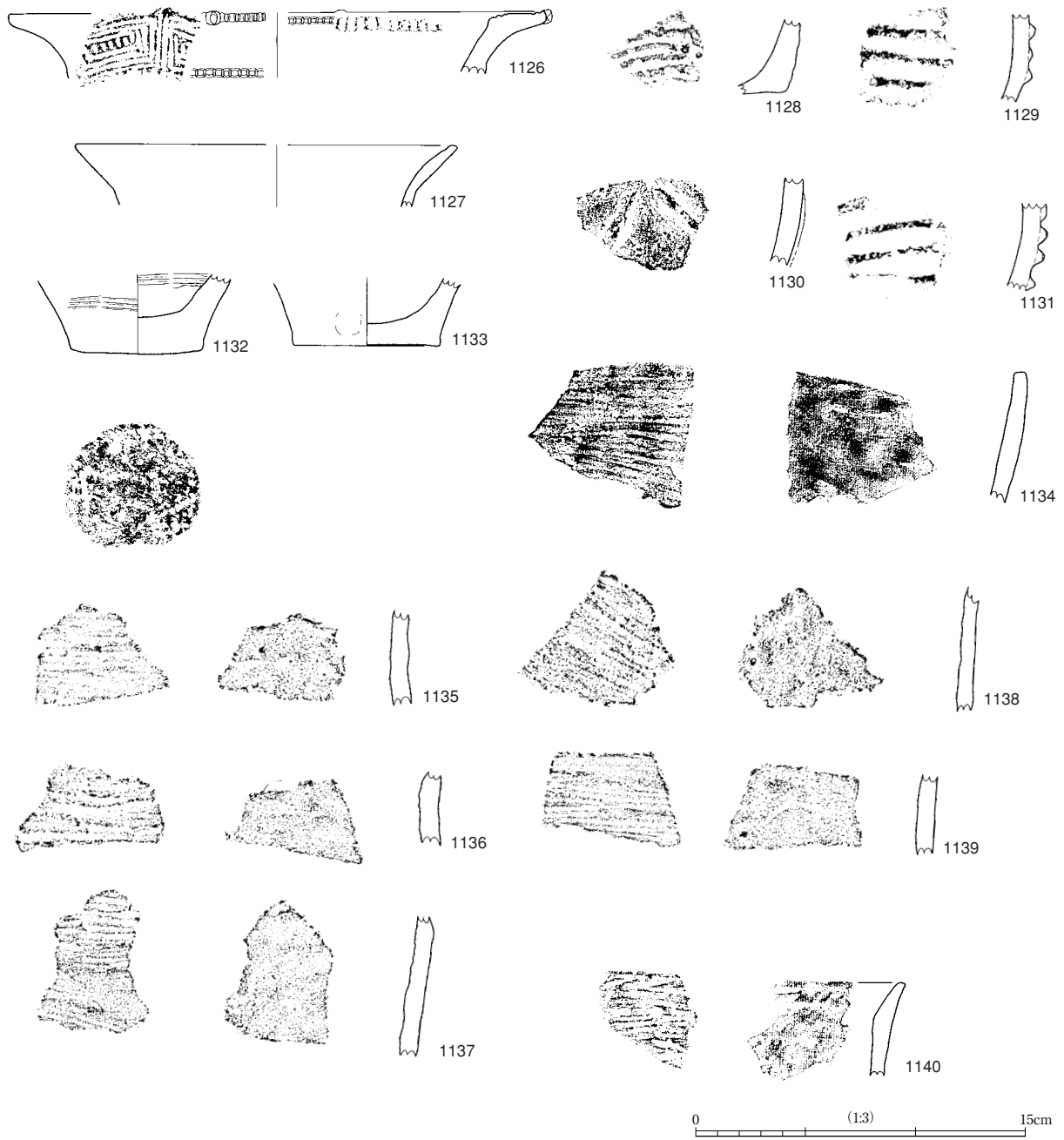
1151～1252は中近世の遺物である。1151～1199は1985年度調査区で検出された土師器埋納ピットより一括出土した土師器皿である。当資料は編年の基準資料として14世紀後半から末頃の年代が与えられている〔藤田1992〕。概ね2法量に分かれるが、1173～1199の大型品は藤田分類のFタイプ、1151～1172は同Aタイプに近い形態をしている。これらは色調・胎土とも共通している²⁾。1200～1206は土師器皿である。いずれも1985年度調査区の包含層出土である。1200～1202は14世紀後半頃、1203は13世紀中葉頃、1204～1206は16世紀前半頃かと考えられる。1207は土師器鍋である。13世紀代のものであろうか。1208～1211は白磁である。1212～1220は青磁である。1221は瀬戸の天目碗である。1222・1223は瀬戸の平碗である。1224は瀬戸の小皿か。1225は盤である。

1226～1231は珠洲焼である。1226は甕、1225～1231は播鉢である。概ね吉岡編年IV期〔吉岡1994〕が中心である。1232は加賀焼の甕と考えられる。押印が見られる。14世紀代のものであろう。1233は肥前系陶器皿である。1234は肥前系陶器碗である。1235は磁器である。1234は肥前系磁器瓶である。1237～1240は肥前系磁器である。

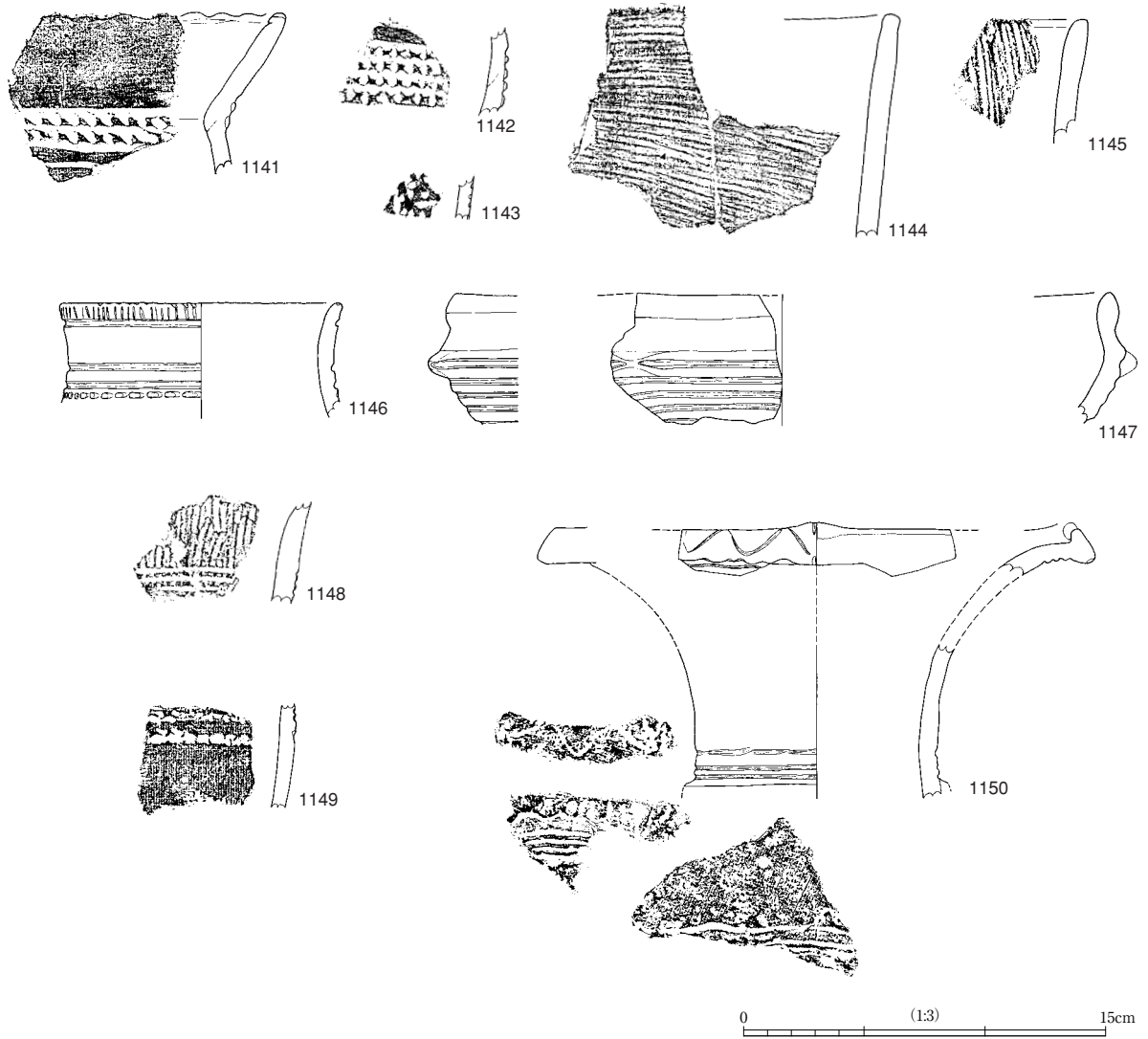
1241～1252は1986年度の包含層から出土した遺物である。1241～1243はロクロ土師器で、1241は皿、1240は椀、1241はベタ高台の椀である。概ね12世紀前半代と考えられる。1244～1246は白磁碗である。12世紀代のものと考えられる。1247は天目碗で瀬戸と考えられる。1248は白磁皿である。1249・1250は青磁碗である。外面には蓮弁文が見られる。14世紀代のものであろう。1251は天目碗で瀬戸と考えられる。1252は越前焼の播鉢で14世紀後半のものか。

3. 古代・中近世の金属製品・石製品

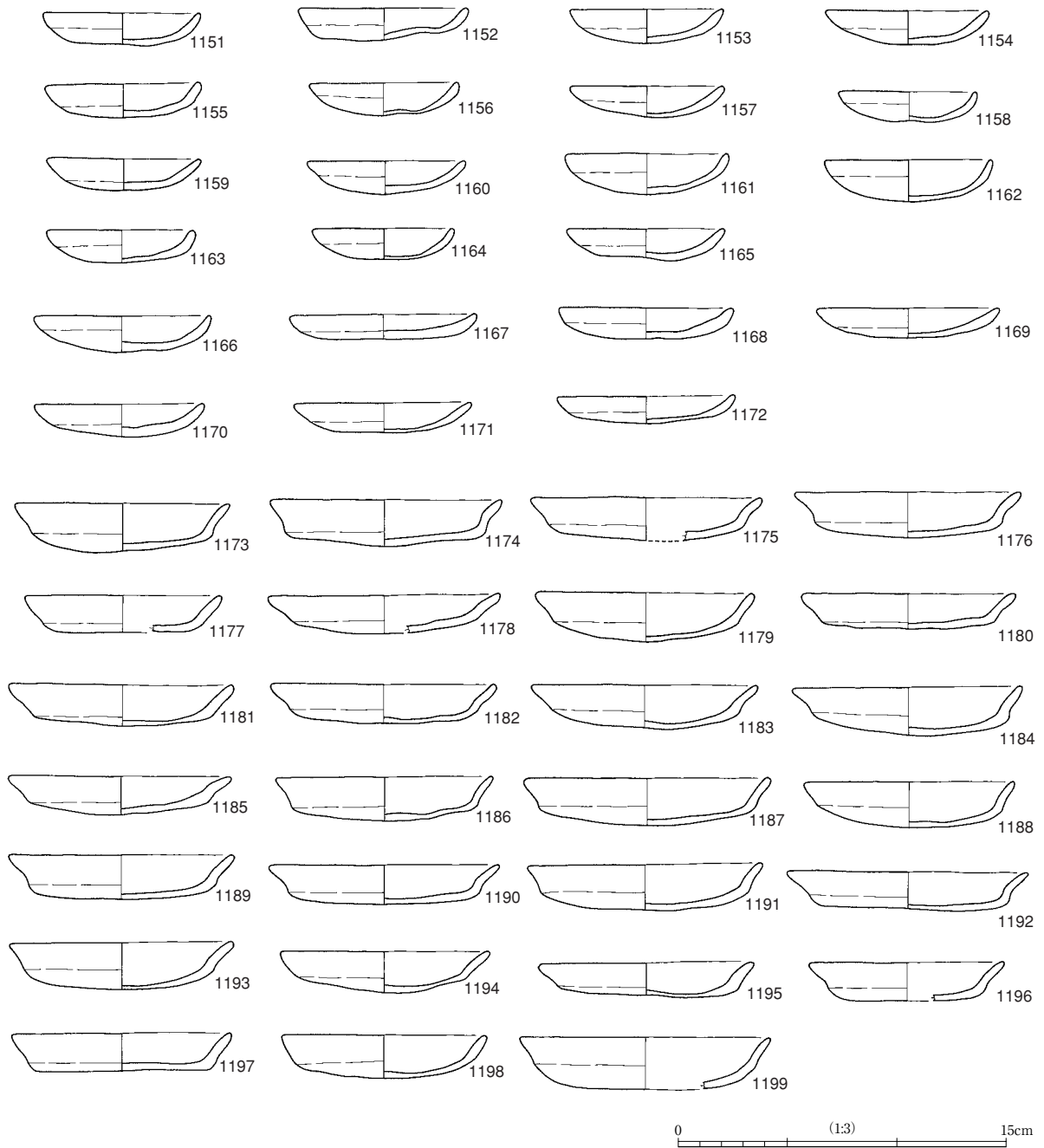
1319～1326は石製品である。1319～1323は砥石、1324は不明、1325は砥石を転用した石製権³⁾、1326は石帯、1327・1328は寛永通宝である。



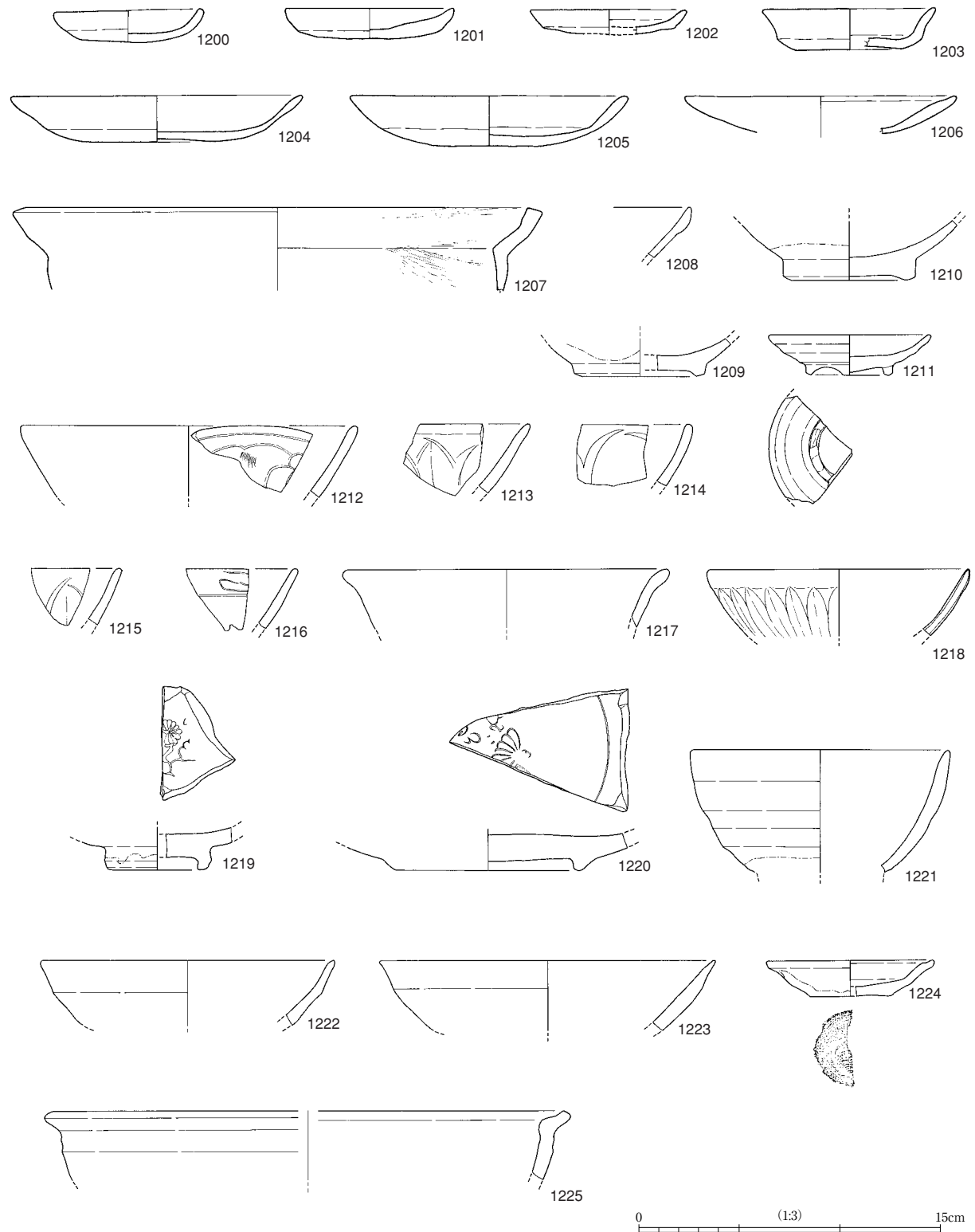
第213図 85・86縄文・弥生遺物実測図



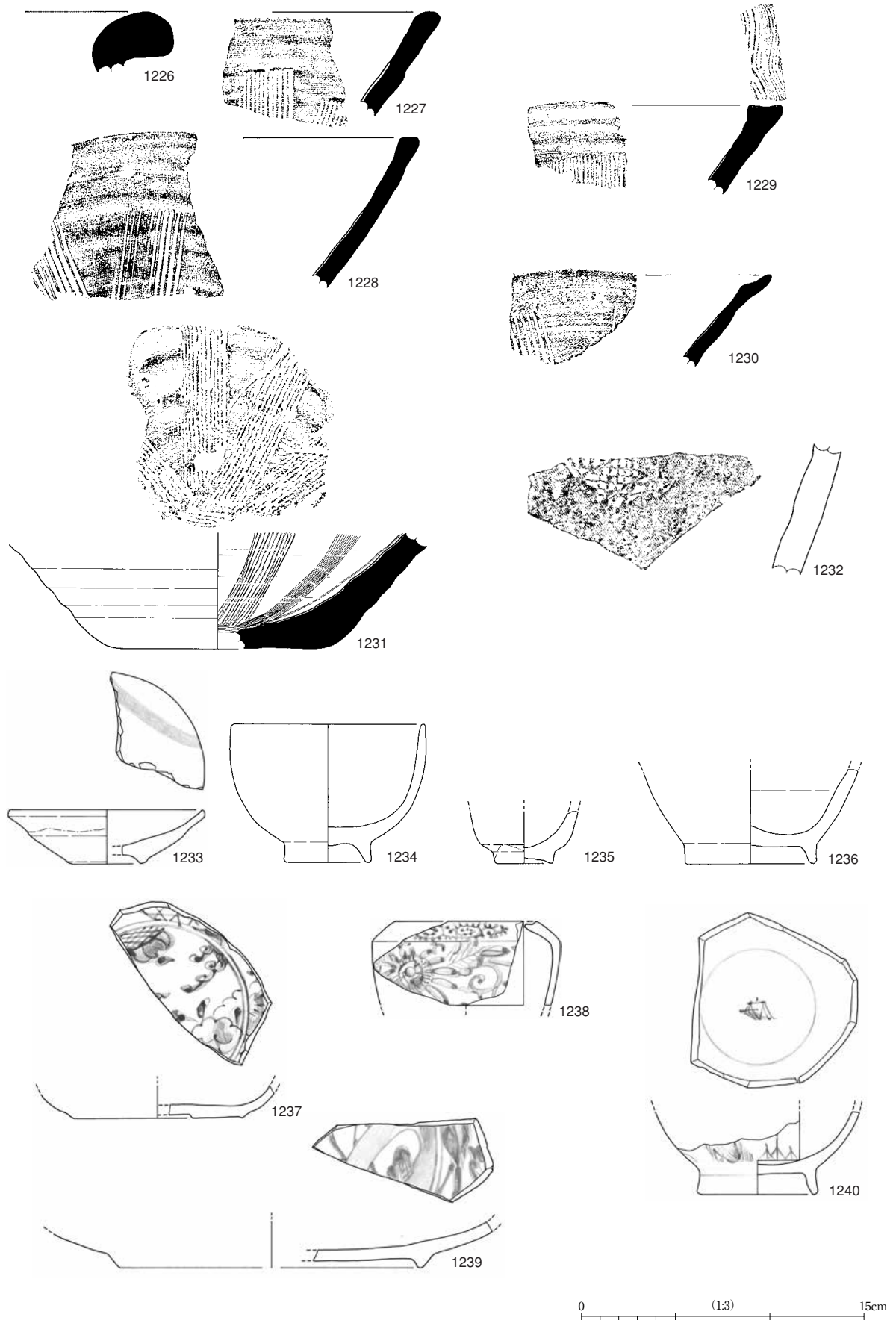
第214図 87縄文・弥生遺物実測図



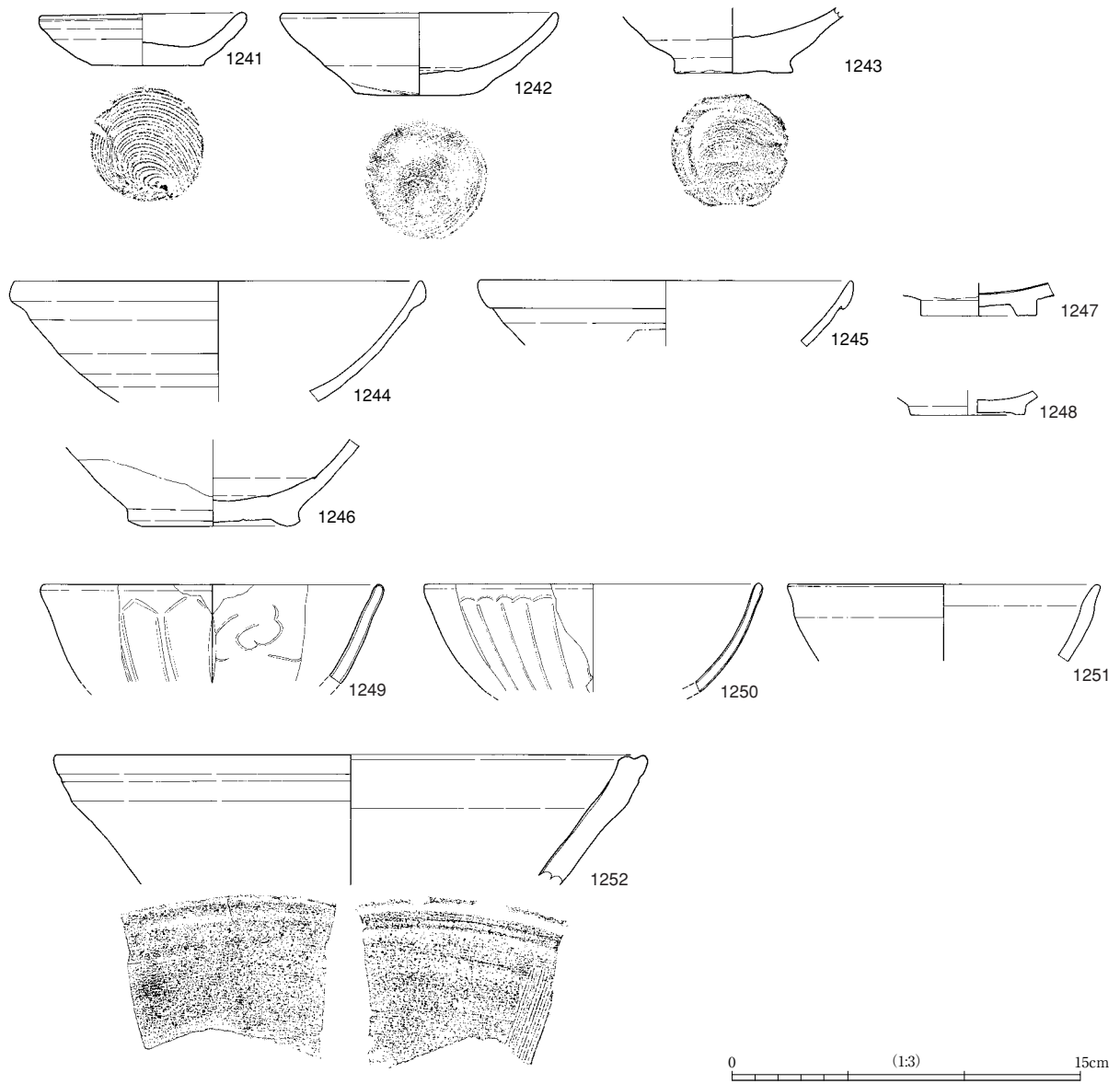
第215図 85A6ピット出土遺物実測図



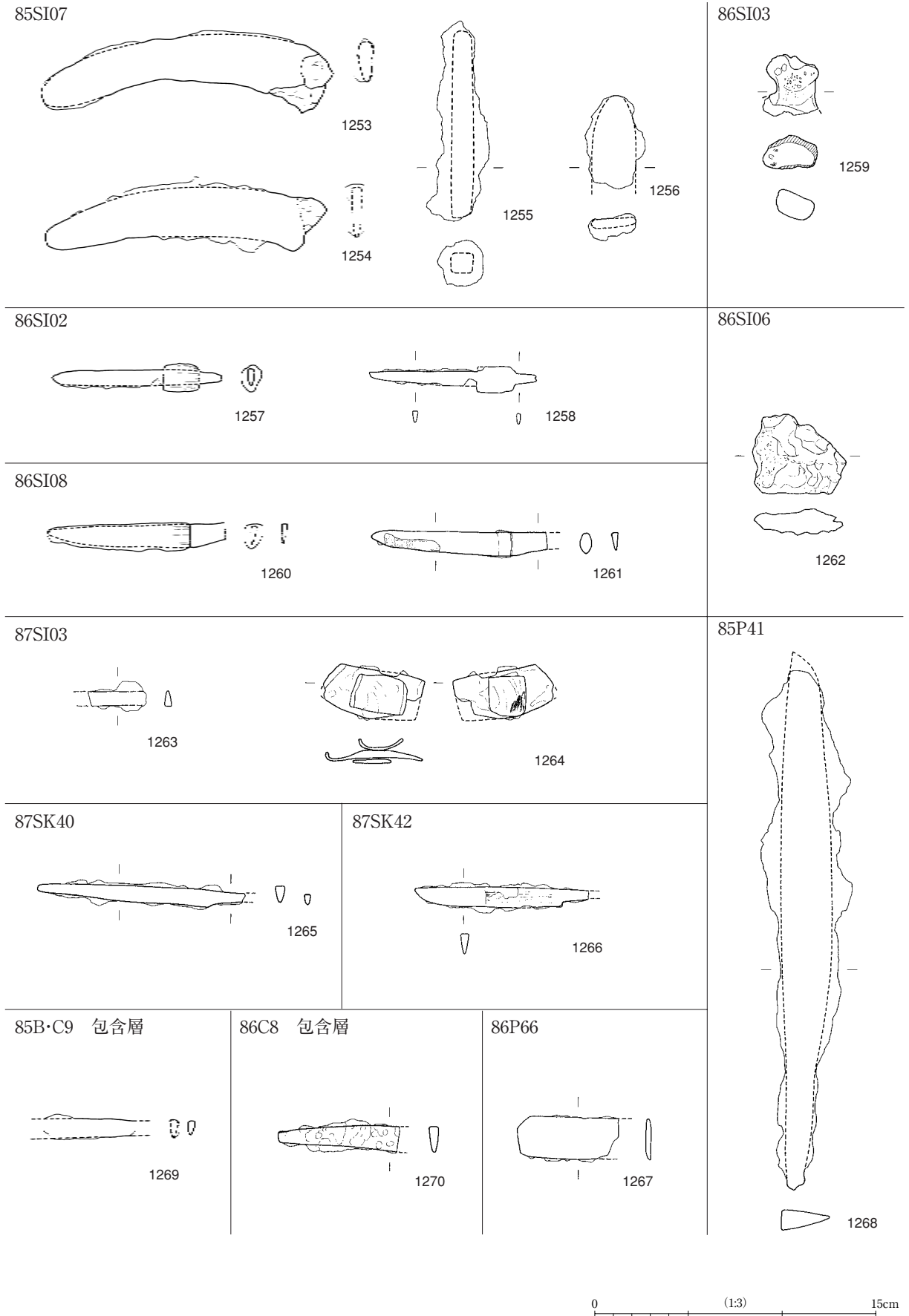
第216図 85包含層出土遺物（中世以降）実測図1



第217図 85包含層出土遺物（中世以降）実測図2

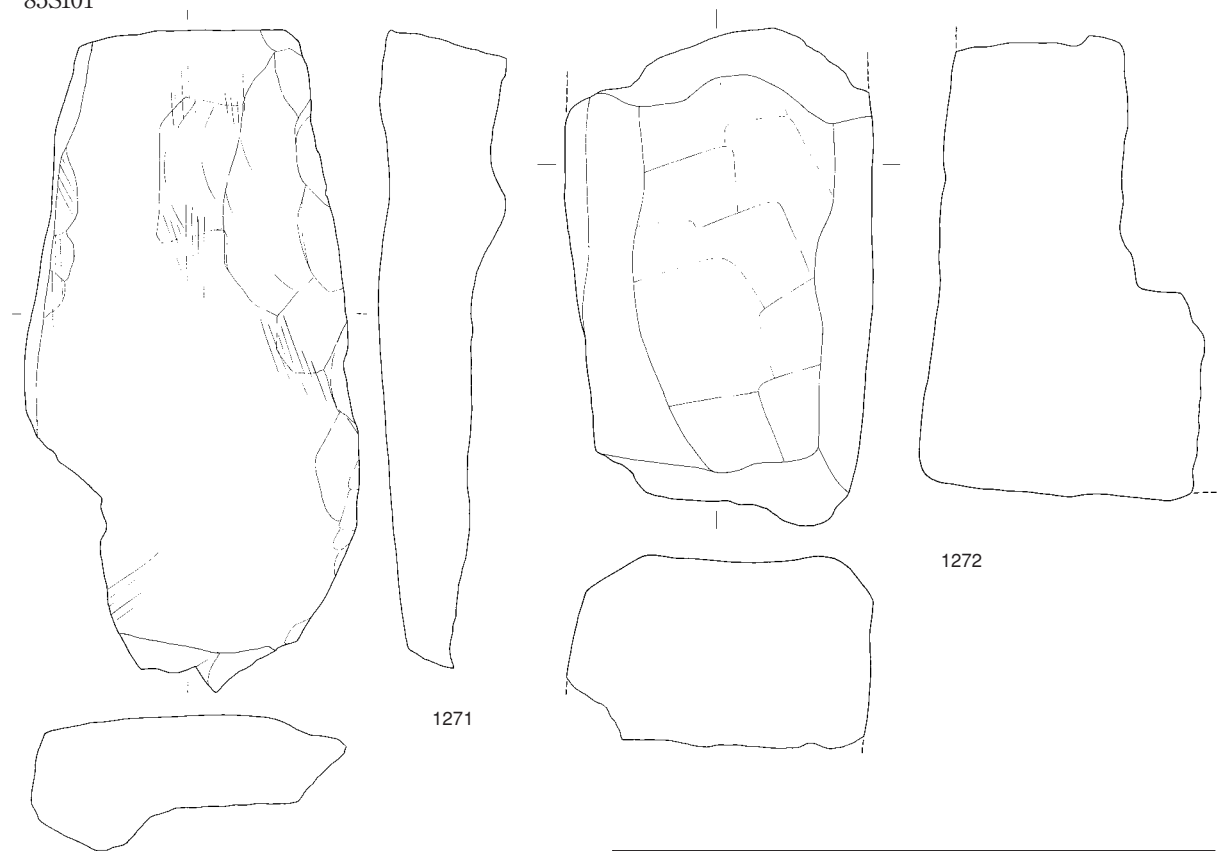


第218図 86包含層等出土遺物（中世）実測図

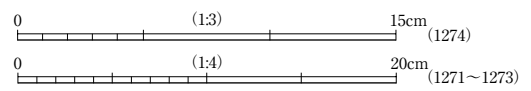
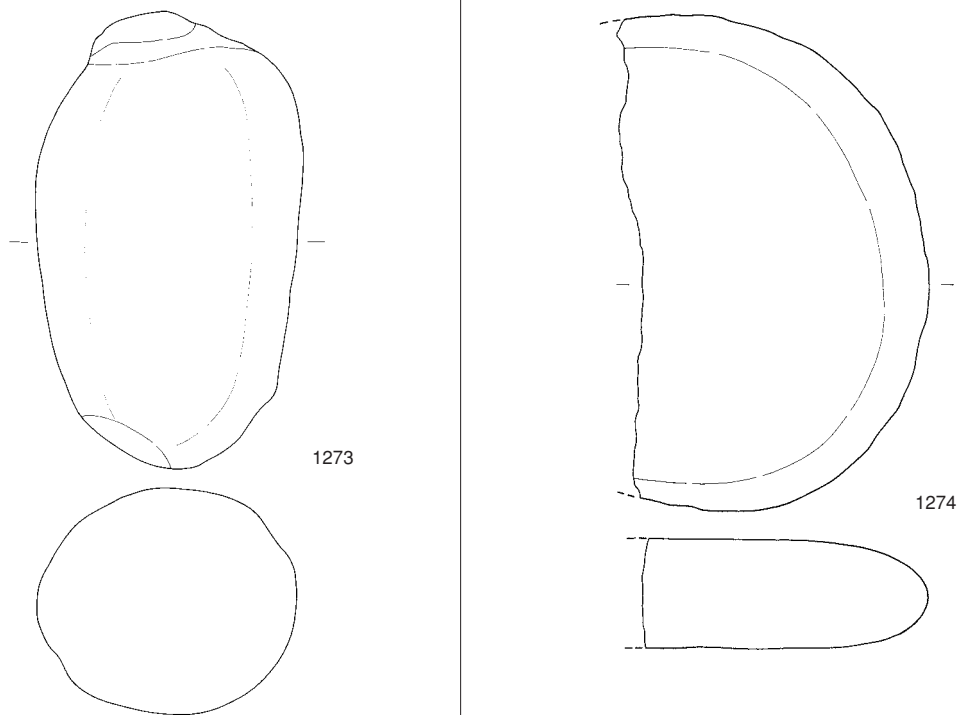


第219図 金属製品実測図

85SI01



86SI08

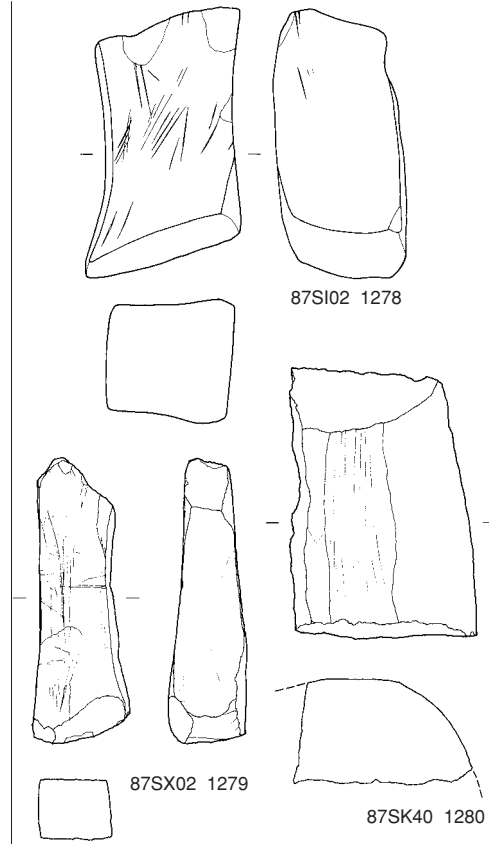
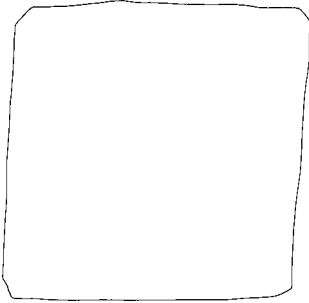


第220図 石製品実測図1

86SI10



1275

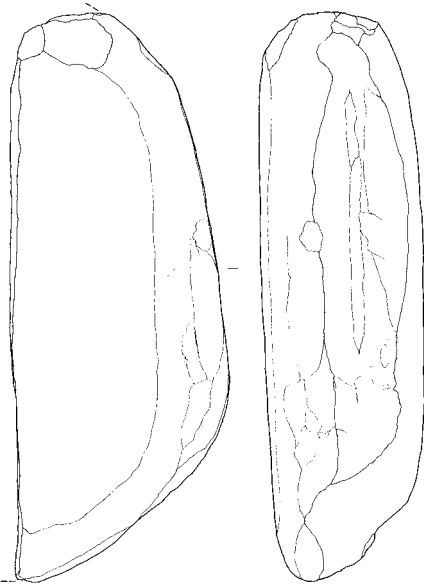


87SI02 1278

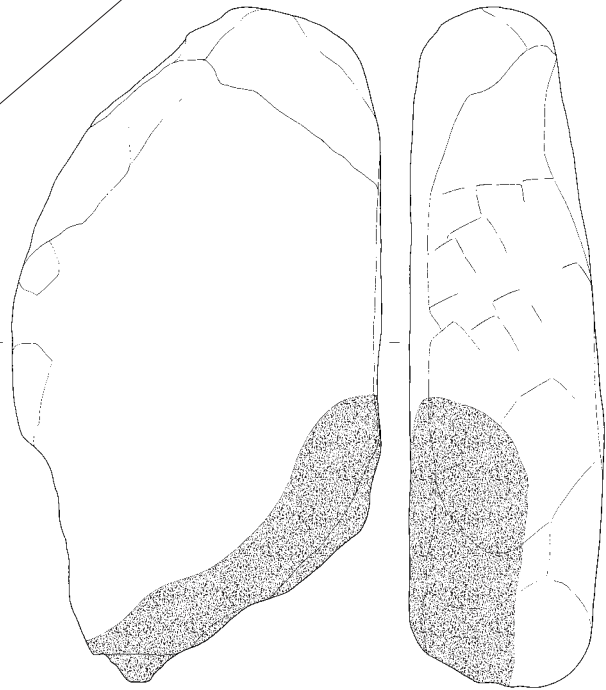
87SX02 1279

87SK40 1280

87SI01

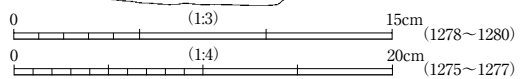


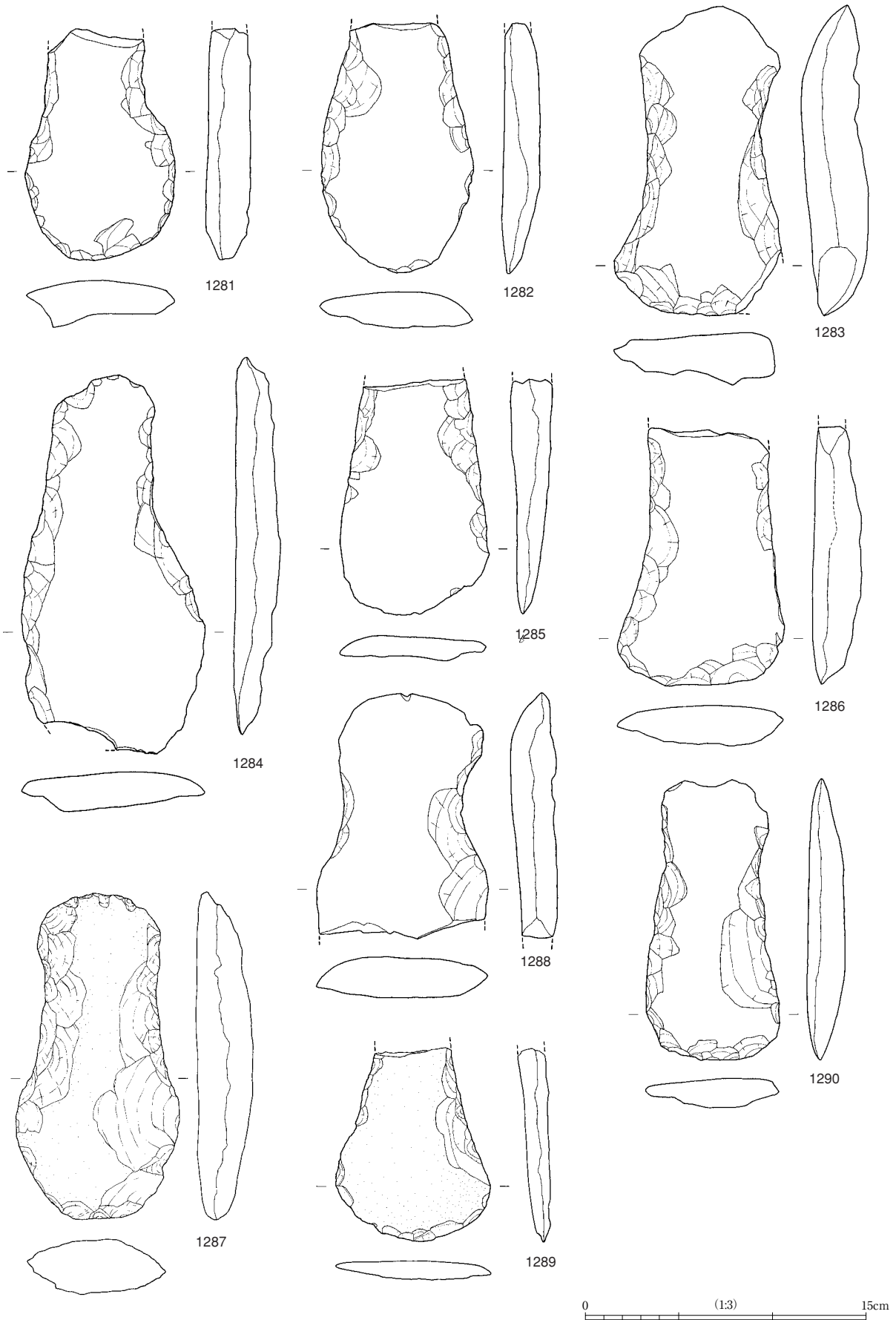
1276



1277

第221図 石製品実測図 2

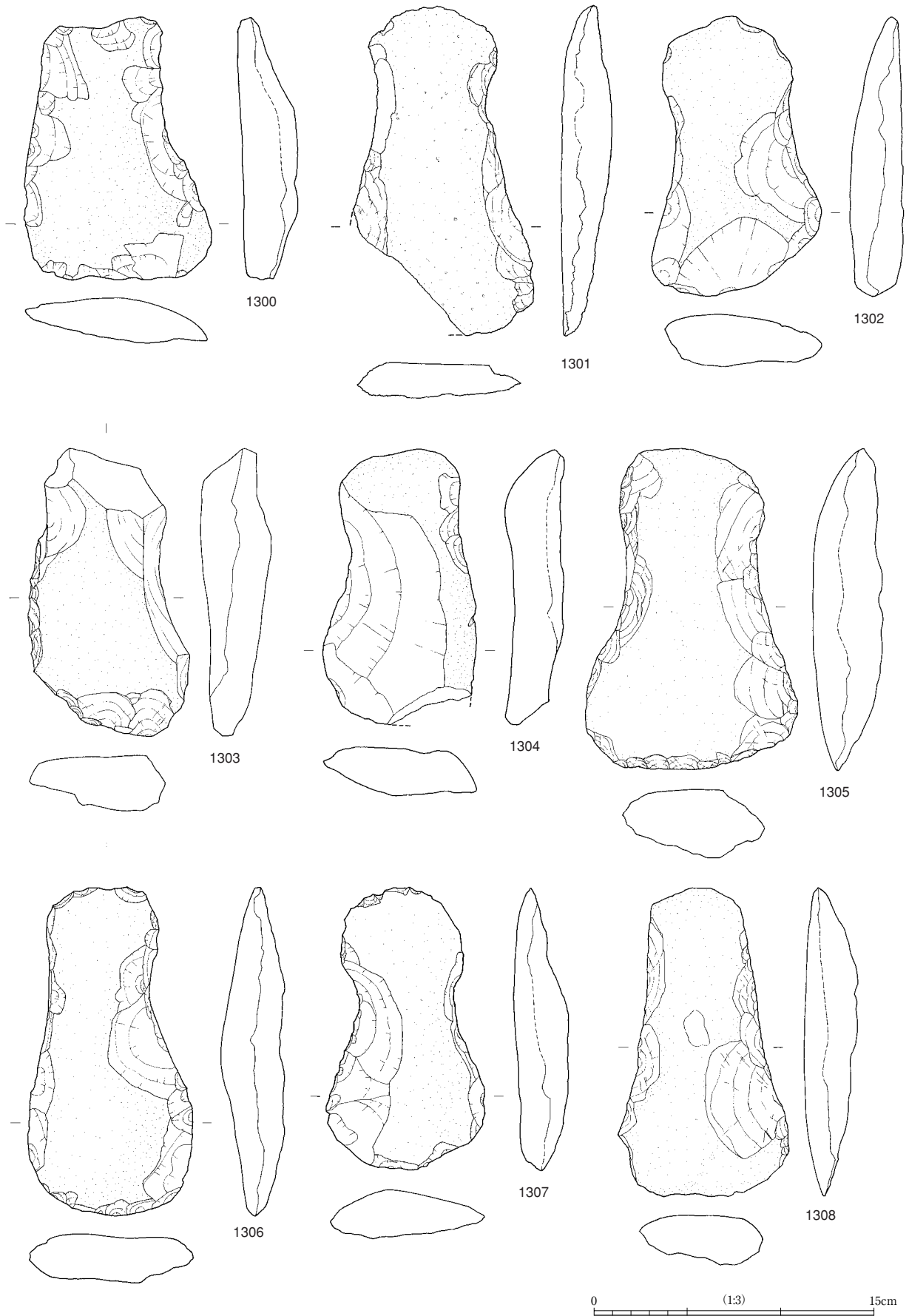




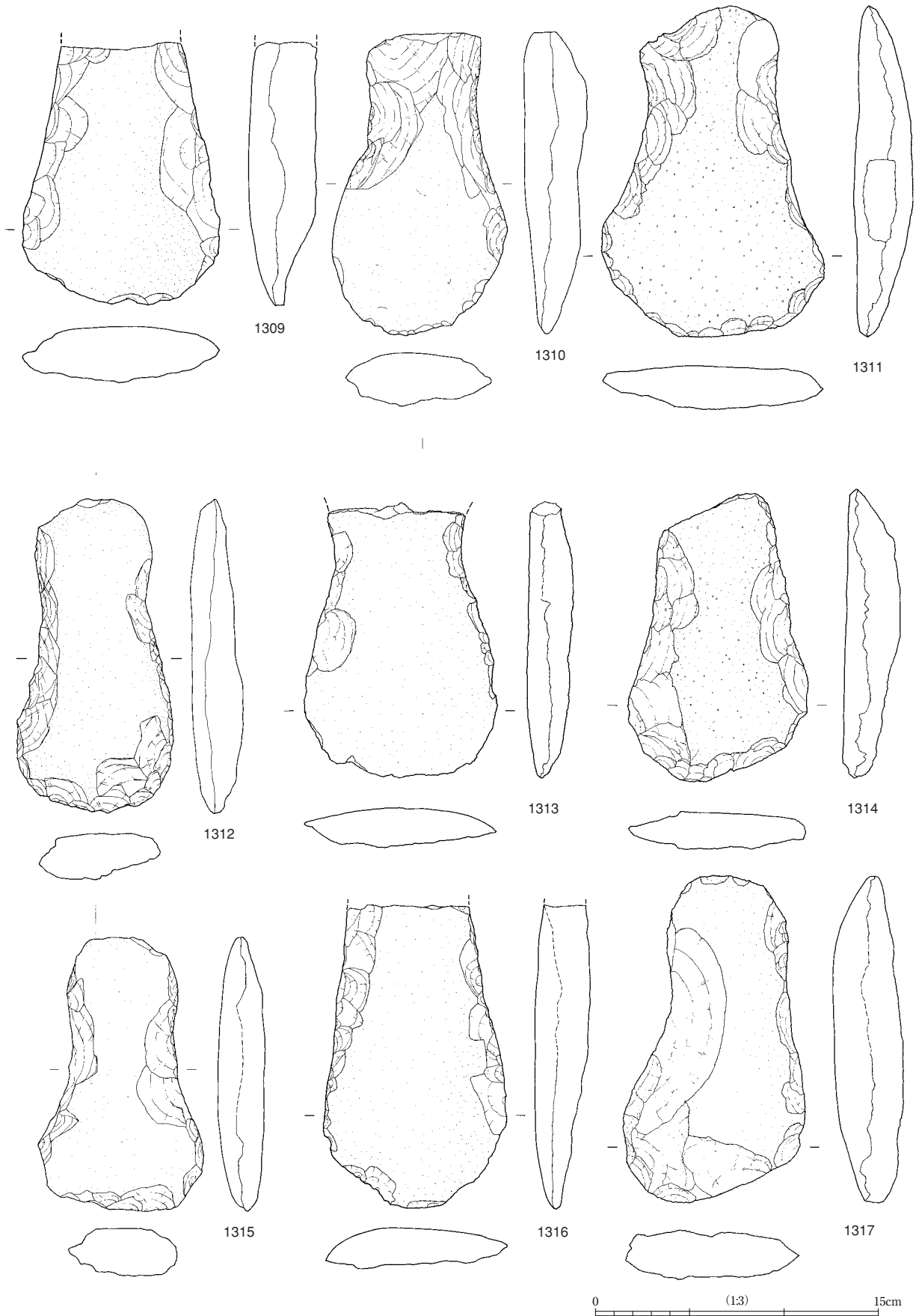
第222図 石製品実測図3



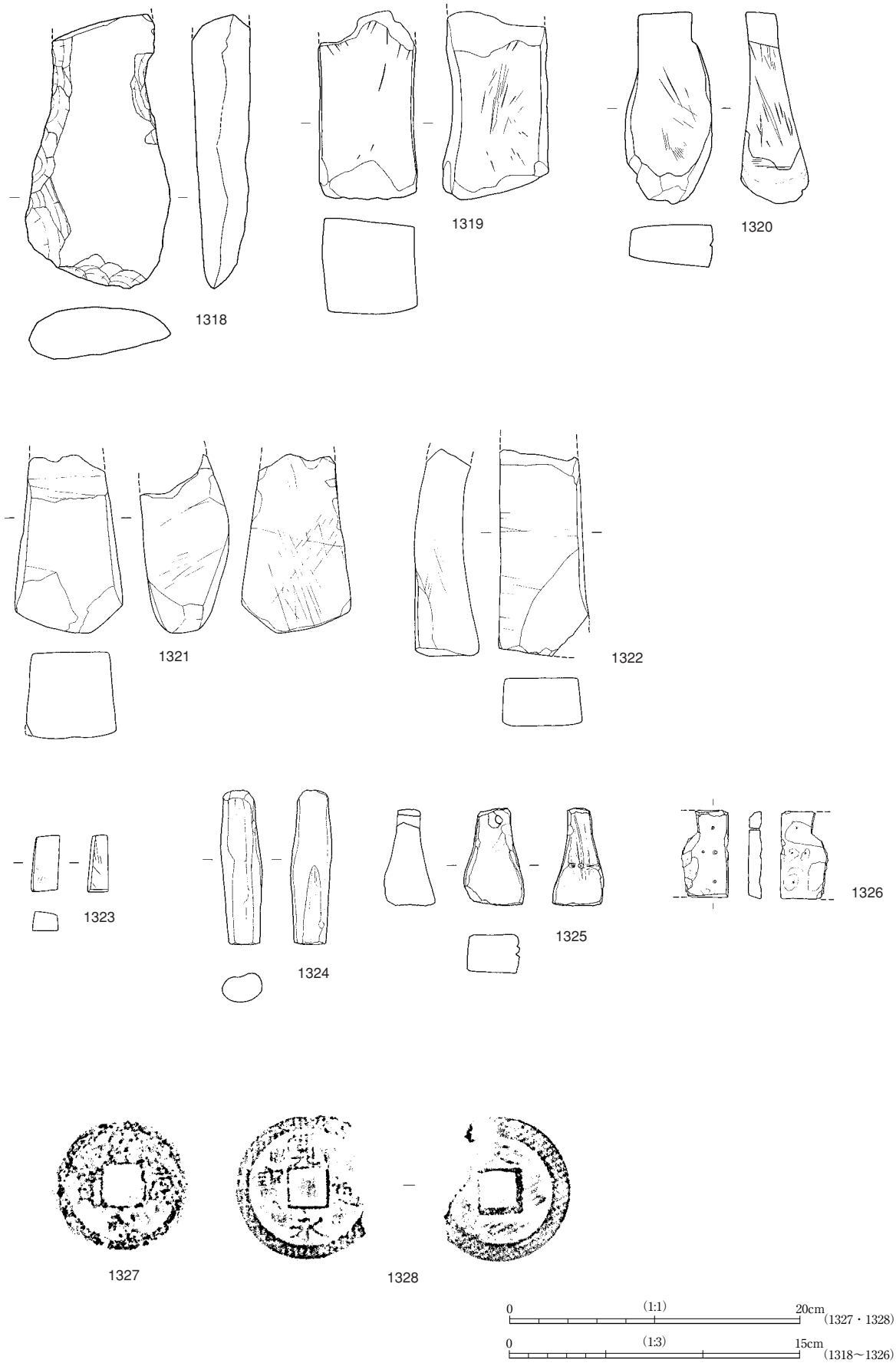
第223図 石製品実測図4



第224図 石製品実測図 5



第225図 石製品実測図6

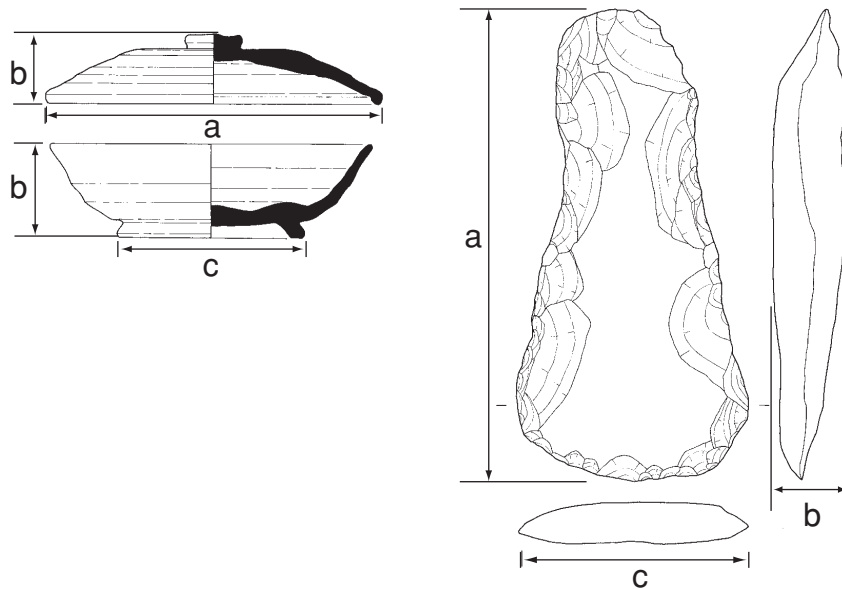


第226図 石製品・銭貨実測図

第6節 遺物観察表について

1. 計測部位

遺物の計測位置については、下図に示したとおりである。



第227図 遺物計測部位

2. 重ね焼き

土器を焼成する基本的な技術に重ね焼きがある。須恵器だけではなく土師器を焼成する際にも重ね焼きは行われるが、その痕跡は分かりにくい。最も重ね焼きの痕跡を観察することができるのは須恵器の杯蓋類である。窯跡出土資料だけではなく消費遺跡からの資料からもその降灰の状況の観察からその実態に迫ることができると考えられ第228図のような復元がなされている [北野1988]。また次のようにまとめられている。

1類は、蓋と身を使用状態で重ねたものを2～3段重ねたもので古くから行われている方法であるが紐が頂部に突出して柱状に積むことが困難であり、不安定で多くを積むことはできず、窯内の火のまわりを考えると不都合な方法である。

2類は、蓋を逆さにして身と重ねたものを単位としており、柱状に高く積むことが可能な方法である。a類はそのまま上に積んでいく方法である。b類は単位を正位と逆位に組み合わせたものをさらに単位としそれを積み上げていく方法である。

3類は、蓋のみあるいは身のみを重ねて積んでいく方法である。蓋のみを重ねて焼くためには無紐化が条件となる。重ね焼きのなかでは溶着しやすい方法であり、焼成温度のコントロールが必要とされる方法と考えられる。実際多量の蓋や杯が溶着した状態で出土した窯跡もあり、重ね焼きとしては歩留まりの悪い方法といえるのかもしれない。

3. 胎 土

須恵器の胎土について以下のように分類した⁴⁾。

- A：南加賀窯跡群
- B：能美窯跡群
- C：末窯跡群
- D：高松・押水窯跡群
- E：羽咋窯跡群
- F：鳥屋窯跡群
- X：不明

土師器の胎土については、海綿骨針が含まれているかどうかとその量を少ない順に1～5段階で示した。

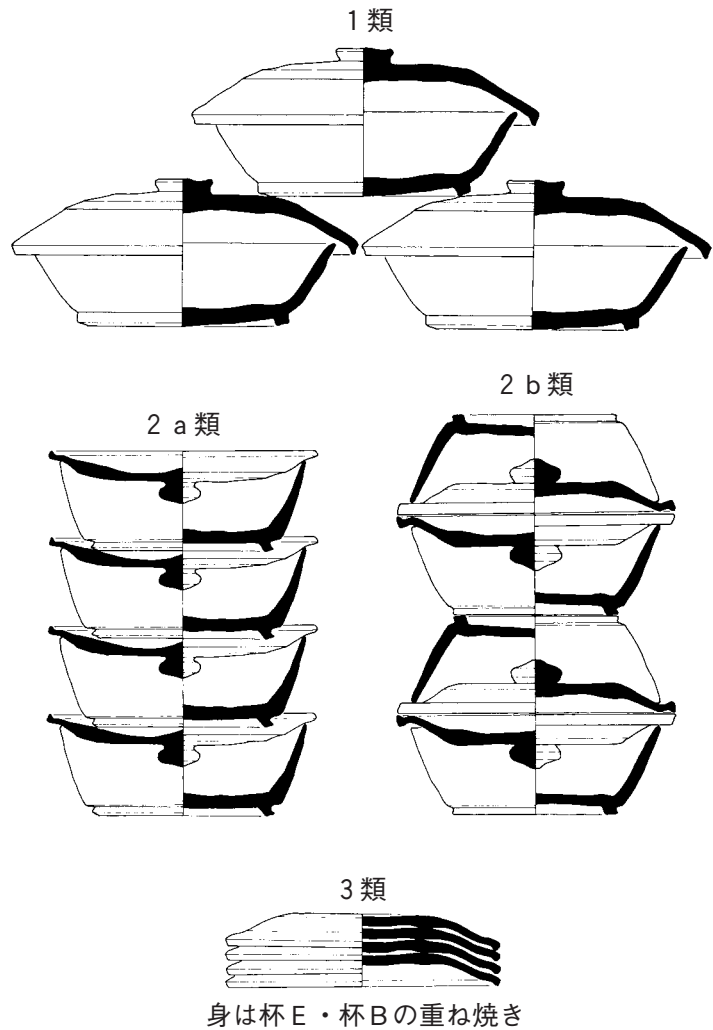
※須恵器・土師器ともに、空欄となっているのは不明なのではなく分類をしなかったものである。またXは近年金沢市の北東部で発見された観法寺窯跡群を含んでいる可能性がある。

4. 時 期

古代土器に関しては、田嶋が示した古代土器の編年軸 [田嶋1988] に、中世土器に関しては [吉岡1994]、[藤田1992]、[中世土器研究会1995] を参考にした。その他の時代に関しては、当埋蔵文化財センター職員諸氏より教示を得た。

5. 実測番号について

遺物整理は1988・1991・1992年度の3ヵ年行われており、1988年度と1991・1992年度で実測番号が重なってしまうことから、観察表中では1988年度整理番号の頭に「1」を付して区別した。実際の遺物には、1988年度整理遺物には「黄色」で実測番号を、1991・1992年度整理遺物には「緑色」で実測番号が入れている。



第228図 蓋杯の重ね焼き分類図（[北野1988]より転載一部改変）

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
31	1	1057	杯A	須恵器			7.2		灰色	E	24区 C-2	85SI-01	覆土	II3	椀形
31	2	1058	椀A	土師器	17.0	4.8	28.0		白色	B, A	24区 C-2	85SI-01	P-2	II3	内外赤彩(鈍い色調)、 平城杯A写し
31	3	1059	椀A	土師器			9.0				24区 C-2	85SI-01		II3	内外赤彩、暗文
31	4	1060	椀A	土師器	(17.4)				橙色		24区 C-2	85SI-01	覆土	II3	斜放射暗文
31	5	1061	長胴甕	土師器	21.8				橙色	骨0	24区 C-2	85SI-01	P-1・3、 焼土	II3	外タテハケ、内ヨコハケ 後ナデ・ケズリ(半ロク ロ?)
31	6	1063	長胴甕	土師器					褐色	骨3	24区 C-2	85SI-01	P-2	II3	外内ハケ、丸底
31	7	1064	小甕	土師器					橙	骨0	24区 C-2	85SI-01	P-2、焼 土	II3	外内ハケ、丸底
31	8	1062	長胴甕	土師器	22.2				橙	骨0	24区 C-2	85SI-01	P-1・2、 焼土	II3	外タテハケ(下半タタ キ)、内ヨコハケ後ナ デ・ケズリ(半ロク ロ?)
32	9	1065	鉢?	土師器			12.0			骨0	24区 B・C-3	85SI-02	覆土	II3	全面赤彩
32	10	1066	長胴甕	土師器					橙色	骨0	24区 C-2	85SI-02	焼土	II3	外タタキ、カキメ状のヨ コハケ、内ハケ
32	11	1067	長胴甕	土師器					橙色	骨0	24区 C-3	85SI-02	P-1、覆 土	II3	外タテハケ後カキメ、内 タテハケ
32	12	1068	小甕	土師器					褐色	骨0	24区 C-3	85SI-02	覆土	II3	外内カキメ
32	13	1069	小甕	土師器					褐色	骨0	24区 C-3	85SI-02	P-2	II3	外底ケズリ-丸底、内ハ ケ
32	14	1070	小甕	土師器	15.8	18.0			褐色	骨2 ~3	24区 C-3	85SI-02	P-1	II3	外内タテハケ、内面下半 ケズリ
32	15	1071	長胴甕	土師器					浅黄橙色	骨0	24区 B-4	85SI-03	P-1	II3	外カキメ・タタキ、内タ タキ
33	16	1079	杯B蓋	須恵器	(15.0)			1	灰色	A	24区 B-3	85SI-05	覆土	II3	外内ロクロナデ
33	17	1080	高杯	土師器					黄褐色	骨0	24区 B-3	85SI-05	覆土	II2?	内面黒色、杯部外面脚部 接合痕跡
33	18	1088	小甕	土師器	12.6				褐・黄色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-2	II2・3	外ナデ・ハケ、内ナデ、 一部粘土紐痕を残す
33	19	1089	小甕	土師器	13.8				橙色	骨2 ~3	24区 B-3	85SI-05	P-3	II2・3	外内ハケ、作り粗雑で一 部粘土紐痕を残す
33	20	1085	小甕	土師器	12.2				橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-1, 3	II2・3	近江型、外ハケ、内ハケ
33	21	1086	小甕	土師器	15.0				橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-5	II2・3	近江型、外ハケ、内ハケ
33	22	1087	小甕	土師器	13.6				橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-9	II2・3	近江型、外ハケ・ケズ リ、内ハケ
33	23	1090	棒状 尖底	製塩 土器	17.4				橙色	骨3	24区 B-3	85SI-05	P-4	II2・3	棒状尖底、胎土山土
33	24	1082	長胴甕	土師器					橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	覆土	II2・3	外ハケ、内ケズリ
33	25	1083	長胴甕	土師器	(21.9)				橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	支柱1	II2・3	近江型
33	26	1084	長胴甕	土師器	21.0				橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-5, 9	II2・3	近江型、85SI-02と接 合、外ハケ、内ハケ・カ キメ
33	27	1081	長胴甕	土師器	23.0	29.5			橙色	骨0	24区 B-3	85SI-05	P-7, 9	II2・3	外タテハケ、内ケズリ
34	28	1091	杯B蓋	須恵器	17.2	3.4		1(a2)	灰	A	24区 B-3・4	85SI-06	覆土	II3~III	杯身径15.2
34	29	1092	杯B	須恵器	15.4	4.3	27.9		灰	A	24区B-3	85SI-06	P-3, 9	II3	ヘラ記号
34	30	1093	杯A	須恵器	12.2	3.3	27.0		灰	A, B	24区 B-3・4	85SI-06	覆土	II3	
34	31	1095	椀A	土師器	19.4				白	骨0	24区 B-3	85SI-06	焼土	II3	赤彩、外底ケズリ、外面 暗文
34	32	1097	承盤	土師器	19.8				白	骨0	24区 B-3	85SI-06	覆土	II3	赤彩、内面暗文
34	33	1096	椀A	土師器	15.1	2.5	16.6		乳白	骨2	24区 B-3	85SI-06	覆土	II3	赤彩、外底静止糸切り後 ロクケズリ、内面ラセ ン+放射暗文
34	34	1107	不明	製塩 土器					黄	骨1	24区 B-3	85SI-06	焼土	II2・3	外ナデ、内ハケ
34	35	1104	小甕	土師器	13.2				橙	骨3	24区 B-3	85SI-06	貼床下、 床下P- 1	II3	外内ハケ

第3表 遺物観察表1

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
34	36	1105	小甕	土師器	11.6				褐	骨0	24区 B-3	85S I-06	床下P-8	II 3	外カキメ?後ケズリ, 内ヨコハケ
34	37	1106	小甕	土師器	14.0				褐	骨0	24区 B-3・4	85S I-06 南SB	覆土	II 3	外ハケ後ケズリ, 内ハケ, 口縁端部面とり
34	38	1094	甕	須恵器					淡青灰	B	24区 B-3・4	85S I-06 北SB	覆土	II~III	同心円文b2類
34	39	1103	小甕	土師器					橙	骨0	24区 B-3	85S I-06	P-10	II 3~III	外内とも上半カキメ, 下半ケズリ・ハケ, ロクロ成形
34	40	1102	小甕	土師器	17.0				褐	骨0	24区 B-2	85S I-06	P-1	II 3	外内ハケ
34	41	1098	長胴甕	土師器	22.4				黄	骨0	24区 B-3	85S I-06	覆土	II 3	外タテハケ, 内カキメ
34	42	1100	長胴甕	土師器					橙, 褐	骨1ヶ	24区 B-4	85S I-06	P-14	II 3	外タテハケ, 内タテハケ後ヨコハケ, 粘土紐痕残す
35	43	1099	長胴甕	土師器					橙	骨0	24区 B-3	85S I-06	P-6, 12	II 3	外タテハケ, 内ヨコハケ・タテハケ
35	44	1101	長胴甕	土師器					褐	骨4	24区 B-3	85S I-06 南SB	P-1・2	II 3	外ハケ, 内タテハケ上部ヨコハケ
36	45	1108	杯B蓋	須恵器	17.6	4.4		2 b (C1)	淡青灰	B	24区 B-6	85S I-07	床5, 7	IV 1	
36	46	1109	杯B蓋	須恵器	17.6			2 b (C1)	淡青灰	A	24区 B-6	85S I-07	床2, 5, 9	IV 1~IV 2	
36	47	1110	杯B蓋	須恵器	12.8	2.9		1	灰くすむ	D	24区 B-6	85S I-07	床1	IV 2	
36	48	1111	杯B蓋	須恵器				2 a (b1・2)		B	24区 B-6	85S I-07	床3	IV 1	
36	49	1112	杯B蓋	須恵器				2 a・b (b1・C1)	淡青灰	B	24区 B-6	85S I-07	覆土	IV 1	
36	50	1113	杯A	須恵器	12.6	3.7			黄灰	C	24区 B-6	85S I-07	床7, 8, 11	IV 1	生焼け
36	51	1114	杯A	須恵器	12.2	3.5			暗灰	C	24区 B-6	85S I-07	床10, 14	IV 1	
36	52	1115	甕	須恵器					灰	B	24区 B-6	85S I-07	床23	IV 1	
36	53	1118	小甕	土師器	11.6				黄	骨0	24区 B-6	85S I-07	覆土	IV 1	外内カキメ
36	54	1119	小甕	土師器					褐	骨0	24区 B-6	85S I-07	床17	IV 1	外底ケズリで丸底, 内カキメ
36	55	1116	長胴甕	土師器	21.0				橙	骨0	24区 B-6	85S I-07	床7	IV 1	外内カキメ, 外面の上部カキメ下にタタキ痕
36	56	1117	長胴甕	土師器							24区 B-6	85S I-07	床6	IV 1	
37	57	1120	杯B蓋	須恵器	15.0			1(a2)	灰	A	24区 B・C-8・9		包含層	II 2	かえり有り
37	58	1121	杯B蓋	須恵器	15.0			1	灰	A	24区 C・D-4~10, 11		包含層	II 2	かえり有り
37	59	1122	杯B蓋	須恵器	14.5	3.6		1	灰	B	24区 B・C-8		包含層	II 3	
37	60	1123	杯B蓋	須恵器	16.0			1(a1)	灰	A	24区 トレンチ中央		包含層	II 3	
37	61	1124	杯B蓋	須恵器	16.6			1(a2)	灰	B	24区 B・C-8・9, C・D-10		包含層	II 3	内天ツルツル
37	62	1125	杯B蓋	須恵器	15.8			1(a2)	灰(オリーフ)	A	24区 D-5		包含層	II 3	
37	63	1126	杯B蓋	須恵器	14.0			2 a (b1)		A	24・25区		包含層	II 3	初期の重ね焼き
37	64	1127	杯B蓋	須恵器	16.0			1	淡灰	B	24区 C・D-4~7		包含層	II 3	
37	65	1128	杯B蓋	須恵器	15.5			1	灰	A	24区 B・C6~10		包含層	II 3	
37	66	1129	杯B蓋	須恵器	16.0			?	灰クリーム	C	24区 B・C-7・8		包含層	II 3~IV 1	焼成不良

第4表 遺物観察表2

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
37	67	1130	杯B蓋	須恵器	16.4			2 b (C 1)		A	24区 B・C-7・8		包含層	IV1・IV2	
37	68	1131	杯B蓋	須恵器	17.2			2 a (b 1, b 2)	灰	B	24区 B・C-6・7		包含層	IV1・IV2	
37	69	1132	杯B蓋	須恵器	13.4			1 (a 2)	茶灰	A	24区		包含層	IV1	
37	70	1133	杯B蓋	須恵器	12.4			?	黄灰	D	24区 B・C-7・8		包含層	IV1~V1	
37	71	1134	杯B蓋	須恵器	12.2			2 b (C 1), 2 a (b 1)	淡青灰	B	24区		包含層	IV1・IV2	
37	72	1135	杯B蓋	須恵器	12.4			a (b 1)	灰	B	24区 C・D-7		包含層	IV2	
37	73	1136	杯B蓋	須恵器	11.1			2 b (C 1)	灰	A	24区 B・C-7・8		包含層	IV2	塩杯蓋
37	74	1137	杯B	須恵器			8.0		黄灰	A	24区 C-5・6, C・D-8・9		包含層	II2	
37	75	1138	杯B	須恵器			10.3		灰	A	24区 C・D-4~7		包含層	II2・II3	
37	76	1139	杯B	須恵器			7.2		暗青灰	F	24区 A~C-8・9		包含層	II2・II3	鳥屋産
37	77	1140	杯B	須恵器			10.3		灰	D	25区 C・D-6・7		包含層	II2・II3	側底~外底ロクロケズリ
37	78	1141	杯B	須恵器	15.4	4.4	8.9			A	24・25区		包含層	II3	
37	79	1142	杯B	須恵器	15.2	3.9	10.5			A	23区 B・C-1		包含層	II3	口縁部内面平滑
37	80	1143	杯B	須恵器	13.5	3.8	9.0		青灰	A, B	24区 B・C-7・8		包含層	II3	
37	81	1144	杯B	須恵器	14.5	3.8	8.9			A	24・25区		包含層	II3	蓋Bの重ね焼き痕
37	82	1145	杯B	須恵器	13.2	4.1	8.4		灰	B	24区 B・C-7・8		包含層	IV1?	
37	83	1146	杯B	須恵器	11.6	4.2	8.0		暗青灰	C	24区 B・C-6・7		包含層	IV1~IV2	
37	84	1147	杯B	須恵器			6.0			C	23区 B・C-1		包含層	IV1~IV2	骨片2
37	85	1148	杯A	須恵器	13.3	3.6	6.4	1		A, B	24区 B・C-7		包含層	II2	口縁部内面平滑、蓋あり
37	86	1149	杯A	須恵器			8.8		青灰	A	24区 C・D-4~7		包含層	II3	ヘラ記号あり
37	87	1150	杯A	須恵器	11.3	3.4	5.9		灰オリーブ	D	24区 C-7		包含層	II3	焼成不良
37	88	1151	杯A	須恵器	10.9	3.0	6.2		灰	D	24区 B・C-7・8		包含層	II3	
37	89	1152	杯A	須恵器	11.3	3.1			暗青灰	A, D	24区 C・D-8・9		包含層	II3	
37	90	1153	杯A	須恵器	12.2	3.2	7.0			D	24区 C-7		包含層	II3	
37	91	1154	杯A	須恵器	11.0	3.0	7.0		灰青	B, D	24区 B・C-6~11		包含層	II3	
37	92	1155	杯A	須恵器	12.7	3.5	7.5		黄灰白	C	24区 B・C・D-4~6		包含層	IV1	焼成不良
37	93	1156	杯A	須恵器	13.8	3.5	9.7		灰	A, B	24区 B-4		包含層	II3	
37	94	1157	杯A	須恵器	13.7	29.0	8.9		淡青灰	B	24区 C・D-5~9		包含層	II3	

第5表 遺物観察表3

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
37	95	1158	杯A	須恵器	14.0	3.1	8.3		灰	A	24区 8-6~11		包含層	II 3	
37	96	1159	杯A	須恵器	14.2	3.0	8.7		灰	A	25区		包含層	II 3	
37	97	1160	杯A	須恵器	13.4	3.1	8.8			A	24・25区		包含層	IV 1	
37	98	1161	杯A	須恵器	12.7	3.1	8.6			B	24区 B・C-6・7		包含層	IV 1~IV 2	
37	99	1162	杯A	須恵器	13.4	2.9	8.4			B	24区 C-7		包含層	IV 1~IV 2	
37	100	1163	椀G	須恵器	10.5	3.5		同一	暗青灰	B, X	24区 B・C-8・9, C・D-10		包含層	II 1~II 2	
37	101	1164	椀G	須恵器	(12.0)			同一	青灰	B ?	24区 トレンチ 中央より 北		包含層	II 2	
38	102	1176	椀	土師器	15.1				淡橙	骨0	24区 B・C-1		包含層	II 3	赤彩、暗文は不明
38	103	1177	椀	土師器	13.9	2.3	7.0		橙	骨0	24区 B-3・4		包含層	II 3	赤彩
38	104	1178	椀	土師器	(16.0)				白	骨0	24区 B-5		包含層	II 3	赤彩
38	105	1179	椀	土師器	17.0				橙	骨0	24区 B・C-7・8		包含層	II 3	放射暗文、赤彩ではない (胎土調製)
38	106	1180	高杯	土師器	(18.0)				淡橙	骨0	24区 B・C-8~10		包含層	II 3 ?	赤彩
38	107	1181	高杯	土師器					淡橙	骨0	23区 トレンチ 北側		包含層	II 3 ?	赤彩
38	108	1182	椀B	土師器	13.9	4.9	4.8		橙褐	骨3 ~4	24区 B-6		包含層	Ⅶ 2	胎土調製、安養寺タイプ
38	109	1166	長頸瓶	須恵器					淡青灰	A	24区 C・D-4 ~10, 11		包含層	Ⅲ~Ⅳ	
38	110	1167	長頸瓶	須恵器					淡青灰	B	24区 B・C-6・7		包含層	II~IV	
38	111	1168	長頸瓶	須恵器					淡青灰	A, B	24区 C-6東		包含層	Ⅲ~Ⅳ	
38	112	1165	長頸瓶	須恵器					青灰	B	24区 C・D-10・11		包含層	II ?	胴部に2列の波状文
38	113	1169	広口瓶	須恵器	15.3				灰	A, B	24区 B・C-6・7		包含層	Ⅲ~Ⅳ	
38	114	1170	長頸瓶? 瓶?	須恵器					淡青灰	B	24区 B・C-8		包含層	II~IV	
38	115	1171	長頸瓶	須恵器	10.6				灰	A	24区 B・C-10・11		包含層	V	
38	116	1172	短頸壺	須恵器					灰~青灰	B	23・24区 東西トレン チ		包含層	Ⅲ~Ⅳ	無蓋で焼成
38	117	1173	甕	須恵器	19.3					A	24区 C-7		包含層	IV ?	
38	118	1174	甕	須恵器	23.7					A, B	24区 B・C-10, 11		包含層	V 1~IV 1	
38	119	1175	大甕	須恵器	48.0				灰(オリ ープ)	A	25区		包含層	II 3	
38	120	1194	丸瓦	瓦					淡青灰	B	24区 C・D-4 ~13		包含層	II 2	湯屋古窯跡
39	121	1183	長胴甕	土師器	22.0				黄	骨0	25区 B-10		包含層	II 3・III	外内カキメ
39	122	1184	長胴甕	土師器					橙	骨0	25区 B-10		包含層	II 3・III	外ハケ、カキメ、ケズ リ、内ハケ、カキメ
39	123	1185	長胴甕	土師器					褐	骨0	25区 B-10		包含層	II 3・III	外タタキ、内ハケ

第6表 遺物観察表4

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
39	124	1186	長胴甕	土師器	19.6					骨0	25区 B-10		包含層	Ⅱ3・Ⅲ	外内カキメ
39	125	1187	長胴甕	土師器	19.1				褐	骨0	25区 B-9・10		包含層	Ⅱ3・Ⅲ	外内カキメ
39	126	1192	小甕	土師器	12.6				橙	骨0	24区 トレンチ 中央から 南		包含層	Ⅱ3・Ⅲ	外カキメ、内ヨコナデ
39	127	1191	甌	土師器						骨0	23区 2号トレン チ南北		包含層	Ⅱ3・Ⅲ	
39	128	1193	不明	製塩 土器					褐	骨1 ~2	24区 トレンチ 中央		包含層	Ⅱ3	金雲母MS3、L石英2 ~3
39	129	1188	鍋	土師器	30.0				橙	骨0	24区 C-2・3		包含層	Ⅱ3	
39	130	1189	鍋	土師器	33.0				赤茶	骨0	24区		包含層	Ⅱ3	外内ヨコナデ、端部沈線 タイプ?
39	131	1190	鍋	土師器	29.7				黄	骨0、 B	24区 トレンチ 中央		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外内カキメ
91	132	1295	椀	土師器					中間	骨2	A・B-8	86S I-01 東西S B	覆土	Ⅱ2・3	赤彩、斜放射・螺旋暗 文、手持ちケズリ
91	133	1300	小甕	土師器					褐	骨0	A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	外ハケ、内ケズリ
91	134	1301	小甕	土師器					黄	骨0	A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	外ハケ、内ケズリ
91	135	1298	長胴甕	土師器					褐		A・B-8	86S I-01	床下土坑	Ⅱ2・3	外ハケ、内ケズリ、器壁 薄い
91	136	1296	長胴甕	土師器						骨0	A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	外タタキ、内タタキ・カ キメ
91	137	1302	不明	製塩 土器					褐	骨3	A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	
91	138	1297	長胴甕	土師器							A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	外内タタキ
91	139	1299	鍋	土師器					褐	骨0	A・B-8	86S I-01	覆土	Ⅱ2・3	外タタキ後カキメ、内ハ ケ
92	140	1303	杯B蓋	須恵器	14.6				1 淡青灰, 灰クリーム	B	B-8	86S I-02	土器群付 近	Ⅱ2	
92	141	1305	杯A	須恵器	11.4	3.4			緑灰	D	B-8	86S I-02	1 4, 床 面	Ⅱ3	
92	142	1306	椀	土師器					橙	骨0	B-8・9	86S I-02 下 86S I-04 P-80	覆土	Ⅱ2・3	胎土調製、外底ケズリ
92	143	1307	鉢 (椀)	土師器	17.0				中間(黄 灰)	骨1 ~2	B-8	86S I-02	覆土、床 面	Ⅱ2・3	赤彩、斜放射暗文、132と 同一個体か
92	144	1308	鉢	土師器					橙	骨0	B-8	86S I-02 NW	南焼土 下、覆土	Ⅱ2・3	外内ともケズリ後細かい ミガキ、胎土調製
92	145	1309	長胴甕	土師器	20.8				橙	骨0	B-8	86S I-02 NW・SW・ SE、86S I-01、P -80	覆土、床 10	Ⅱ2・3	近江型、外内ハケ、外下 半ケズリ
92	146	1310	長胴甕	土師器	21.6				橙	骨0	B-8	86S I-02	床5, 6	Ⅱ2・3	近江型、外内ハケ
92	147	1315	長胴甕	土師器					褐	骨0	B-8	86S I-02, (86S I- 01、P-80)	覆土	Ⅱ2・3	外内ハケ、外下半ケズリ
92	148	1314	長胴甕	土師器					橙	骨0	B-8	86S I-02, (86S I- 04カマド)	1, 5, 6 主	Ⅱ2・3	外内ハケ、外下半ケズ リ、近江型?
92	149	1316	長胴甕	土師器					橙	骨0	B-8	86S I-02 NW	覆土	Ⅱ2・3	外内カキメ
93	150	1311	長胴甕	土師器	22.8				橙	骨ア リ	B-8	86S I-02	床8, 9	Ⅱ2・3	外内ハケ
93	151	1312	長胴甕	土師器	19.4				黄	骨0	B-8	86S I-02	6, 7, 12, 南焼土下	Ⅱ2・3	外内ハケ
93	152	1313	長胴甕	土師器	23.2				褐	骨5	B-8	86S I-02 SE土器群付 近、SE-S Wアゼ	3	Ⅱ2・3	外内ハケ、海岸部遺跡か らの搬入品か
93	153	1318	小甕	土師器	14.5				褐	骨0	B-8	86S I-02	床14	Ⅱ2・3	外内ハケ
93	154	1317	小甕	土師器	11.0				橙	骨0	B-8	86S I-02 SE土器群付 近	覆土	Ⅱ2・3	外内ハケ・ナデ、端部面 とり
93	155	1319	棒状 尖底	製塩 土器					橙	骨0	B-8	86S I-02 SE土器群付 近	覆土	Ⅱ2・3	尖底

第7表 遺物観察表5

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	造構	層位等	時期	備考
93	156	1320	丸底?	製塩土器					橙	骨0	B-8	86S I-02、01との境	覆土	II・3	平丸底
94	157	1321	杯B蓋	須恵器	15.5	3.0		1	灰	A	B-9	86S I-03	P-5, 7, SE 壁際床	II・3	
94	158	1323	杯B蓋	須恵器				1 (a 2)	青灰	F	B-9	86S I-03	覆土	II・3	
94	159	1324	杯B	須恵器	15.6	4.7				A	B-9	86S I-03	P-1	II・3	蓋Bの重ね焼き痕
94	160	1322	高杯	須恵器	19.2				青灰	F	B-9	86S I-03、(86S I-01、86SK-06)	P-1	II・2~III	内面カキメ
94	161	1325	杯A	須恵器	12.4	3.8			灰(緑)	D?	B-9	86S I-03	西壁溝、 覆土	II・3	蓋なし?
94	162	1327	椀	土師器	11.9				褐		B-9	86S I-03	覆土	I?	内面黒色、高杯?
94	163	1328	椀	土師器	12.2				褐		B-9	86S I-03	覆土	VI・2	内面黒色、10C代の皿Bか
94	164	1326	椀	土師器	15.1				橙	骨0	B-8	86S I-03	覆土	II	高杯?
94	165	1332	小甕	土師器					褐	骨0	B-9	86S I-03	覆土	II・3	外カキメ・ケズリ、内ヨコナデ
94	166	1330	鍋	土師器	37.4				褐		B-9	86S I-03 (P-84)	覆土	II・3	口縁部ヨコナデ
94	167	1331	鍋	土師器	37.8				橙		B-8	86S I-03SNSB	P-6, 覆土	II・3	口縁部ヨコナデ
94	168	1329	鍋	土師器	37.0				褐		B-9	86S I-03	覆土	II・3	口縁内面カキメ
94	169	1333	椀	土師器	13.0	2.6			橙		B-9	86S I-04	覆土	II・3	胎土調整、斜放射暗文
94	170	1334	椀	土師器	12.3				橙	骨0	B-9	86S I-04 (86S I-02SE、P-80)	覆土	II・3	
94	171	1335	長胴甕	土師器	24.6				橙	骨0	B-9	86S I-04 (86S I-02SE覆土ドキ群付近)	7, 8 覆土	II・3	近江型、外内ハケ
94	172	1336	長胴甕	土師器					褐	骨2	B-9	86S I-04 (86S I-02床)	覆土	II・3	外ハケ、内ナデ、異質な胎土
94	173	1337	長胴甕	土師器					褐	骨0	B-9	86S I-04 (86S I-02NE)	8, カマド	II・3	外ハケ・下半ケズリ、内ハケ
94	174	1339	長胴甕	土師器	25.0				黄	骨2	B-9	86S I-04	覆土	II・3	外カキメ、内カキメ・ロクロナデ、末ないしは高松産
95	175	1345	小甕	土師器	12.6				橙		B-9	86S I-04 SW	床	II・3	外内ハケ、口縁部面とり
95	176	1346	小甕	土師器	14.5				橙	骨0	B-9	86S I-04	5	II・3	外カキメ、内ヨコナデ
95	177	1347	小甕	土師器	13.8				橙		B-9	86S I-04	4	II・3	外内カキメ
95	178	1342	長胴甕	土師器					黄		B-9	86S I-04	3	II・3	外内カキメ
95	179	1343	長胴甕	土師器					褐		B-9	86S I-04	4	II・3	外内カキメ
95	180	1338	長胴甕	土師器	20.5						B-9	86S I-04	2	II・3	外タタキ、内ナデ、口縁部面とり
95	181	1338	長胴甕	土師器							B-9	86S I-04		II・3	外タタキ、内ナデ、口縁部面とり
95	182	1340	長胴甕	土師器	24.0				褐		B-9	86S I-04	覆土	II・3	外カキメ・ケズリ、内カキメ・タタキ
95	183	1341	長胴甕	土師器					橙		B-9	86S I-04	2, 2周 辺、覆土	II・3	外内タタキ、同心円文B類
95	184	1344	長胴甕	土師器	29.0				橙	骨4	B-9	86S I-04	カマド	II・3	外内ハケ、鍋か?
95	185	1348	棒状尖底	製塩土器					褐	骨4	B-9	86S I-04	カマド	II・3	
95	186	1353	椀	土師器	17.2				淡橙		区	86S I-06	カマド	II・3	赤彩、外底手持ちケズリ、胎土調整
96	187	1349	杯B蓋	須恵器	15.3			1	灰(緑)	A	C-12	86S I-05	覆土	II・3	
96	188	1350	杯B蓋	須恵器	15.0			1	灰(一部赤灰)	D	C-12	86S I-05	覆土	II・3	
96	189	1351	長胴甕	土師器					淡褐	骨1ヶ	C-12	86S I-05	覆土	II・3~III	外内タタキ
96	190	1352	小甕	土師器			6.9		橙	骨0	C-12	86S I-05 SE	床面	III~IV	底部回転イトキリの平底
96	191	1354	杯B	須恵器	15.0				灰くすむ	A	D-7	86S I-07	覆土	II・2	蓋Bの重ね焼き痕
96	192	1355	長頸瓶	須恵器					灰	A	D-7	86S I-07	床面	II・1~II・2	頸部打ちか欠き再利用、土鍾容器
96	193	1356	土鍾	土製品	6.4	2.1				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	2.6.2g、面とり
96	194	1357	土鍾	土製品	6.2	1.9				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	1.7.6g、面とり
96	195	1358	土鍾	土製品	7.1	1.7				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	1.7.2g、面とり
96	196	1359	土鍾	土製品	7.0	2.1				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	2.6.8g、面とり
96	197	1360	土鍾	土製品	7.6	2.0				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	2.4.1.8g、面とり
96	198	1361	土鍾	土製品	5.3	1.8				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	1.7.0g
96	199	1362	土鍾	土製品	6.2	2.1				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	2.2.4g
96	200	1363	土鍾	土製品	4.8	1.6				骨0	D-7	86S I-07	床面	II・2	(8.5g)

第8表 遺物観察表6

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
96	201	1364	土鍾	土製品	4.7	1.5				骨0	D-7	86S I-07	床面	II 2	(9.5 g)
96	202	1365	土鍾	土製品	5.3	1.7				骨0	D-7	86S I-07	床面	II 2	10.7 g
96	203	2001	杯蓋	須恵器	16.8				灰黄褐	B, A	D-7	86S I-07	床面	II 2	
96	204	2002	カマド	土師器	15.5	(38.4)					D-7	86S I-07	床面	II 2	
97	205	1366	杯B蓋	須恵器	16.1			1	灰クリーム	A, B	B-6	86S I-08	床面	II 3	
97	206	1367	杯B蓋	須恵器	17.0			1	灰クリーム	A	B-6	86S I-08	床面6	II 3	
97	207	1368	杯B蓋	須恵器	16.0			1	暗青灰	B	B-6	86S I-08	覆土	II 3	
97	208	1369	杯B	須恵器	15.9				灰	A, B	B-6	86S I-08	覆土	II 3	
97	209	1370	杯B	須恵器	15.8	4.5			灰(緑)	A	B-6	86S I-08	床面2	II 3	外底・体内墨痕?、口縁内面平滑
97	210	1371	杯A	須恵器	13.4	4.2			青灰~灰白	A	B-6	86S I-08	床面3	II 3	蓋なし杯A、口縁部内面平滑
97	211	1372	杯A	須恵器	13.6				灰クリーム	A, B	B-6	86S I-08	床面6	II 3	
97	212	1383	小甕	土師器	14.6				褐	骨1	B-6	86S I-08	床面11, 3下	II 3	外内ハケ
97	213	1384	小甕	土師器	14.0				褐		B-6	86S I-08	カマド	II 3	外内ハケ
97	214	1385	小甕	土師器					橙	骨0	B-6	86S I-08	カマド	II 3	外内ハケ
97	215	1383	小甕	土師器										II 3	
97	216	1375	長胴甕	土師器	21.8				褐	骨0	B-6	86S I-08	床面1	II 3	外内タテハケ、東日本系?
97	217	1374	長胴甕	土師器	20.8				褐	骨0	B-6	86S I-08	カマド	II 3	外ハケ後ケズリ、内タテハケ、東日本系?
97	218	1377	長胴甕	土師器					褐	骨0	B-6	86S I-08	床面7, 9, 11, 12, カマド	II 3	外ケズリ、内タテハケ、平底、東日本系
97	219	1376	長胴甕	土師器	20.4				橙	骨3	B-6	86S I-08	床面10	II 3	外タテハケ一部ケズリ、内タテハケ、東日本系?、素地浅川風
97	220	1379	長胴甕	土師器					褐	骨0	B-6	86S I-08	床面17, カマド	II 3	外タテハケ、内ナデ・ケズリ
97	221	1373	長胴甕	土師器	23.4				橙	骨0	B-6	86S I-08	覆土	II 3	外内ハケ
98	222	1378	長胴甕	土師器	25.0				橙	骨0	B-6	86S I-08	床面4, 6, 10, 11, 12, 17, カマド	II 3	外タテハケ・下位ケズリ、内ハケ
98	223	1379	長胴甕	土師器								86S I-08		II 3	
98	224	1380	長胴甕	土師器					橙		B-6	86S I-08	覆土	II 3	外内タタキ
98	225	1386	製塩土器						橙		B-6	86S I-08	カマド	II 3	
98	226	1381	鍋	土師器	29.0				黄	骨0	B-6	86S I-08	覆土	II 3	外ハケ、内ナデ
98	227	1382	鍋	土師器	39.0				橙褐	骨0	B-6	86S I-08	床面15 カマド	II 3	外ハケ、下位ケズリ、内ケズリ、口縁部内面に一部カキメ
98	228	1387	杯B蓋	須恵器	17.0	3.6		1(A2)	灰	A	B-5	86S I-09	覆土	II 3	
98	229	1388	杯B蓋	須恵器	16.4			1(A2)	灰	A	B-5	86S I-09	覆土	II 3~III	
98	230	1389	杯B蓋	須恵器	17.5			1	淡青灰	A	B-5	86S I-09	覆土, 9	II 3~III	
98	231	1390	椀	土師器					橙	骨3~4	B-5	86S I-09	西落ち込み	I?	外ナデ、内ミガキ、内黒
98	232	1391	長胴甕	土師器					橙	骨3	B-5	86S I-09	床面4, 5	II 3	外内ハケ、素地安養寺タイプ、底部支脚痕
98	233	1393	小甕	土師器					橙	骨0	B-5	86S I-09	床面6, 覆土	II 3	外ハケ・ケズリ、内ハケ
98	234	1394	小甕	土師器	12.0				黄	骨0	B-5	86S I-09	床面3, 4	II 3	外ハケ、内ナデ
98	235	1392	鍋	土師器					黄	骨0	B-5	86S I-09	床面6	II 3	外カキメ・ケズリ・タタキ、内ナデ・カキメ
99	236	1395	杯A蓋	須恵器	13.3	3.6		2a(B1)	灰緑	B	B-5	86S I-10	土坑	II 2	重ね焼き
99	237	1396	杯B蓋	須恵器	15.3			1	淡青灰	A	B-5	86S I-10	土坑	II 2	
99	238	1397	杯B蓋	須恵器	14.9	4.7			灰黄	D, AB	B-5	86S I-10	床面2	II 2	
99	239	1398	杯B	須恵器					灰(クリーム)	D	B-5	86S I-10	アゼ、上面	II 2	外底ロクロケズリ
99	240	1399	椀E?	土師器	11.2					骨0	B-5	86S I-10	覆土	VI3?	内黒
99	241	1400	杯A	須恵器	11.4				灰白	A	B-5	86S I-10	土坑	II 2	
99	242	1401	杯A	須恵器	13.5	4.2			灰くすむ	A	B-5	86S I-10 壁溝	掘り方	II 2	有蓋
99	243	1402	ハソウ	須恵器						B	B-5	86S I-10 P128・129	覆土	II 2?	
99	244	1403	高杯	土師器	14.4				褐	骨0	B-5	86S I-10	カマド横	II 2	内面黒色

第9表 遺物観察表7

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
99	245	1404	高杯	土師器					橙		B-5	86S I-10	土坑	II 2	
99	246	1412	小甕	土師器	14.7				橙	骨0	B-5	86S I-10	カマド横	II 2	外ハケ、内ナデ
99	247	1413	小甕	土師器	12.7				淡黄褐		B-5	86S I-10	覆土	II 2	外内ナデ
99	248	1406	長胴甕	土師器	19.8				橙褐	骨2~3	B-5	86S I-10	覆土	II 2	外ハケ、内カキメ・ハケ、素地在
99	249	1407	長胴甕	土師器					橙	骨0	B-5	86S I-10	床面4・5	II 2	外タタキ・カキメ・ケズリ、内タタキ、窯揚産
99	250	1405	長胴甕	土師器	22.6	26.3			褐	骨0	B-5	86S I-10	床面6	II 2	外内ハケ
99	251	1408	長胴甕	土師器					褐	骨4~5	B-5	86S I-10	土坑	II 2	外ハケ・タタキ、内タタキ、素地在
99	252	1411	長胴甕	土師器					橙褐	骨0	B-5	86S I-10	覆土、カマド先端	II 2	外カキメ・タタキ、内ハケナデ
100	253	1409	甌	土師器	29.0				橙	骨0	B-5	86S I-10	カマド	II 2	外カキメ、内カキメ・ナデ
100	254	1415	丸底?	製塩土器					淡黄褐	骨2	B-5	86S I-10	土坑	II 2?	丸底?
100	255	1414	棒状尖底	製塩土器	21.0				橙褐	骨5	B-5	86S I-10	土坑	II 2?	尖底、他に筒部の破片あり、海砂
100	256	1410	鍋	土師器	36.0	16.5			褐	骨0	B-5	86S I-10	床面3	II 2	外カキメ・タタキ、内カキメ・ハケ・タタキ
100	257	1417	小甕	土師器	14.0				橙褐		B-5	86S I-11	床面2	II 3	外内カキメ
100	258	1416	長胴甕	土師器	22.2				橙褐	骨0	B-5	86S I-11	床面3	II 3	外内カキメ
100	259	1418	高杯	土師器	20.6				褐	骨あり		86S I-12	床面	古墳3様式II	
100	260	1419	長胴甕	土師器	22.3				橙	骨1		86S I-12	床面	古墳3様式II	
101	261	1431	杯A	須恵器	14.7	3.2			灰クリーム	A	B-11	86P-13	柱痕	III	86S B14柱穴
101	262	1432	杯A	須恵器	13.4	2.3			灰クリーム	D	B-10	86P-39	柱痕	VI 1	外底墨書「小川」
101	263	1433	椀	土師器	17.9				橙褐	骨2	B-10	86P-43		VI 3?	外赤彩内黒、胎土C
101	264	1434	皿B	土師器	11.4				淡褐			86P-47		VI 1	内黒、胎土C
101	265	1436	椀	土師器	13.0				橙褐	骨2	B-10	86P-51		VI 1	内黒、胎土C、D
101	266	1435	杯A	須恵器			(7.8)			D	B-10	86P-50		VI 2	
101	267	1438	杯B蓋	須恵器	19.1			2 a (B 2)	淡青灰	B	B-10	86P-56		IV 1	
101	268	1437	椀	須恵器	17.0				青灰くすむ	A	B-10	86P-56		VI 2	
101	269	1443	杯B蓋	須恵器	17.1	3.3		2 a (C 2)	灰	D	C-9	86P-110		IV 1	86S B18柱穴
101	270	1439	小甕	土師器	15.8				褐	骨1ヶ	B-10	86P-57		IV~V	86S B12柱穴、外カキメ
101	271	1441	椀G	須恵器	12.6				灰白	B	B-9	86P-80		II 1~II 2	P-80は堅穴と接合多い
101	272	1442	杯A	須恵器	14.2	3.1			灰	B	C-10	86P-94		III	86S B16柱穴
101	273	1445	杯A	須恵器	12.5	4.3			灰クリーム	D		86P-113		V 2	
101	274	1440	鍋	土師器	33.8				黄	骨1	B-10	86P-58		V 2~VI 1	86S B11柱穴、在地産
101	275	1444	高杯	須恵器	20.5	9.7			暗灰	D	C-9	86P-110		IV 1	86S B18柱穴
101	276	1447	杯B	須恵器	16.0	5.0			灰クリーム	A	C-8	86P-128		II 3	86S B07柱穴
101	277	1450	杯A	須恵器	13.6	4.2			灰	B	C-4	86P-157		IV IV 2 (II 2, II 3)	指紋数カ所あり
101	278	1446	小甕	土師器	16.0				橙	骨0		86P-122	焼土	II 2・3	外内ハケ、86SB17柱穴
101	279	1448	長胴甕	土師器	26.0				褐	骨0	C-6	86P-136		II 3・III	外カキメ
101	280	1449	甕	須恵器	25.6				暗青灰~黒灰	F	B-8	86P-144		II 3・III?	7~8世紀86SB05柱穴
101	281	1451	小甕	土師器	13.2				橙	骨0	C-7	86P-166		IV	外内カキメ
102	282	1420	杯B	須恵器	10.8	3.7	2 b		青灰	B	B-9	86S K-04	覆土	IV 1	
102	283	1421	長胴甕	土師器	22.6				橙	骨0	B-9	86S K-04	覆土	IV 1	外内カキメ
102	284	1422	長胴甕	土師器					黄橙	骨1	D-9	86S K-08	覆土	III~IV	内カキメ
102	285	1423	小甕	土師器	14.7				黄	骨0	D-9	86S K-08	覆土	III~IV	外内カキメ
102	286	1424	杯A	須恵器	12.6	3.0			灰	A	C-8	86S K-09	覆土	IV 1	重ね焼き最上部
102	287	1425	杯B	須恵器					暗灰	B	C-7	86S K-10	覆土	II 2	
102	288	1426	土錘	土製品	(4.9)	1.8			褐		C-5	86S K-21	覆土	?	端部面とり、86S I-07のものと同じ
102	289	1427	長胴甕	土師器					褐	骨0	C-4	86S K-22	覆土	II 3・III	外ハケ、内ケズリ
102	290	1428	鍋	土師器					褐	骨0	C-4	86S K-22	覆土	II 3・III	外カキメ、内ケズリ
102	291	1429	小甕	土師器	13.6				褐	骨0	C-4	86S K-22	覆土	II 3・III	外内カキメ
102	292	1430	小甕	土師器	15.6				橙	骨0	B-11	86S X-02	覆土	IV	外内カキメ
102	293	1454	杯B	須恵器	12.0				灰	B	県道北B	86S K-01S	覆土	IV	
102	294	1455	長胴甕?	土師器					黄	骨0	県道北B	86S K-01横オチコミ	覆土	?	平行線C類
102	295	1456	杯B蓋	須恵器	15.8	3.3	1 (A 2)		淡青灰	A, B	県道北B	86S K-03N	覆土	II 3	

第10表 遺物観察表 8

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
102	296	1457	杯B蓋	須恵器	16.2			1	淡青灰	A	県道北B	86 S K - 03N		II 3	
102	297	1458	杯B	須恵器	15.6				青灰	F	県道北B	86 S K - 03N	覆土	II 3	
102	298	1459	杯G	須恵器					淡青灰	A	県道北B	86 S K - 03N	覆土	II 2	
102	299	1460	杯B蓋	須恵器	15.0			1 (A 2)	青灰	B	県道北B	86 S K - 06N	覆土	II 2~ II 3	
102	300	1461	杯B蓋	須恵器	16.0			1	暗灰	B	県道北B	86 S K - 06N	覆土	II 2~ II 3	
102	301	1462	杯A	須恵器	12.0	3.1			青灰くすむ	D	県道北B	86 S K - 06N	覆土	IV ?	
102	302	1463	瓶	須恵器					灰	A	県道北B	86 S K - 06N	覆土	II ?	
102	303	1464	長胴甕	土師器	23.0				褐	骨0	県道北B	86 S K - 06N	覆土	II 2~ II 3	外内ケズリ
102	304	1465	杯A蓋	須恵器	13.0			2 b (C 1)	灰	B	県道北B	86 P - 13N		II 1~ II 2	
102	305	1466	平瓶	須恵器	7.8				青灰	B	県道北B	86 P - 13N		II 1~ II 2	
102	306	1468	長胴甕	土師器	22.5	34.2			褐	骨2	県道北B	86 P - 12S		II 2・3	外内ハケ、一部外面ケズリ、近江型
103	307	128	杯A蓋	須恵器	13.5				外オリーブ灰、内明オリーブ灰	B	A・B-15	86 S K - 01S		II 2	外ロクロナデ・ケズリ、内ナデ・ロクロナデ、焼成良、微砂粒含む
103	308	118	杯B蓋	須恵器	17.1				外灰オリーブ、内灰	D	A・B-15	86 S K - 01S		III ?	外ケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ、焼成良、微砂粒少量含む、平滑、外面降灰
103	309	127	杯A	須恵器	13.6	4.0	9.5		外灰、内灰白	B	A・B-15	86 S K - 01S		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ、内ロクロナデ・ナデ、焼成良、微砂粒含む、蓋B重ね痕
103	310	130	碗	須恵器					外灰オリーブ、内浅黄		A・B-15	86 S K - 01S		II 2	外内ロクロナデ、微砂粒含む
103	311	124	杯B	須恵器	14.9	5.2	10.0		灰白	B	A・B-15	86 S K - 01S		IV 1 ?	外ロクロナデ・ロクロケズリ・(ケズリ)、内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む、内面平滑
103	312	1453	高杯	土師器	13.0				暗褐	骨0	A・B-15	86 S K - 01S	覆土	II	内面黒色
103	313	292	高杯	土師器	15.2				外浅黄橙、内黒		A・B-15	86 S K - 01S		II	外内摩耗の為不明、微砂粒少し含む、内黒、粘土のシマ、ひきあげ痕
103	314	119	鉢	須恵器	20.6				外灰、内オリーブ灰	A, B	A・B-15 A-19、B (86 S I - 01 -17・18 上面拡張区)	86 S K - 01S	包含層	II~III	外カキメ・ロクロナデ、内ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む
103	315	125	小甕	土師器	16.0				浅黄橙		A・B-15	86 S K - 01S		II 2~ II 3	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ・カキメ・(ナデ)、1mm前後の砂粒含む、内面煤付着
103	316	129	小甕	土師器	16.0				外にぶい橙、内浅黄橙		A・B-15	86 S K - 01S		II 2~ II 3	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ・ナデ、1mm前後の砂粒含む、外内面煤付着、器面剥離
103	317	117	長胴甕	土師器	20.5				外にぶい黄橙・橙、内にぶい黄橙		A・B-15	86 S K - 01S		II 2~ II 3	外ナデ・ハケ、内(ナデ)・ヘラケズリ、内面指頭圧痕(爪による圧痕か?多数あり)
103	318	126	鍋	土師器	36.0				外にぶい黄橙、内黄橙		A・B-15	86 S K - 01S		II 2~ II 3	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ、1mm前後の砂粒含む
103	319	121	横瓶	須恵器	13.6				外黒褐、内オリーブ灰	B	A・B-15	86 S K - 01S		II 1~ II 2	外内ロクロナデ・タタキ、黒色粒L4、1mm以下の砂粒多く含む、内面ロクロヒダ・破線
103	320	120	瓶か壺	須恵器	7.6				青灰	D	A・B-15	86 S K - 01S		II	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、微砂粒多く含む、コップ形?か瓶壺口頸部
103	321	1452	甕	須恵器	19.4				灰	B	A・B-15	86 S K - 01S	覆土	II 1~ II 2	口縁部有段刻みあり
104	322	20	杯B蓋	須恵器	(16.5)	3.7		2 a 最上	外明青灰、内青灰	B	C-6	河		IV 1	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・不定方向のナデ、つまみ径2.7cm、降灰

第11表 遺物観察表 9

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
104	323	53	杯B蓋	須恵器	(18.4)				灰	F	B-7	河		II 3	外ロクロナデ・ケズリか?内ロクロナデ・カキメ・(ナデ)、重ね痕、類似品あり
104	324	83	杯B蓋	須恵器	16.0				灰	D	C-9	河, 試堀トレ		IV 2	外内ロクロナデ
104	325	9	杯B蓋	須恵器	12.0			2 a	灰	B	C-4	河道		IV	外ヨコナデ・ヘラケズリ、内ヨコナデ、焼成良、内面ツルツル、転用硯か?
104	326	60	杯B	須恵器			(8.0)		灰	B	B-8	河		II ?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、焼成良
104	327	22	杯A	須恵器	(11.7)	4.2			外灰、内灰白	B	C-6	河		II 1	外内ロクロナデ、内面摩耗(使用痕)、外面降灰、接合
104	328	16	杯G	須恵器		(2.4)	(7.0)		青灰	D	C-6	河		II 1	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り、内ロクロナデ・不定方向のナデ、外面降灰
104	329	81	杯A	須恵器	12.8	2.5	8.8		灰白	A	C-9	河, 試堀トレ		V 2	外内ロクロナデ、微砂粒含む、墨書、底部板目状圧痕、「明」
104	330	84	杯A	須恵器	13.0	3.2	9.0		灰	D	B-9	河		V 1	外内ロクロナデ
104	331	80	杯A	須恵器			8.2		灰白	A	B-7	河		IV 1	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む
104	332	82	杯A	須恵器					明オリープ灰	A	C-9	河道北側, 8トレ堀跡		?	外内ロクロナデ、微砂粒含む、「平」?
104	333	51	皿B	須恵器	(14.6)	(3.3)	7.2		灰	A	B-7	河		IV 2	外内ロクロナデ、内面比較的平滑、外底面回転条切り痕(右回り)
104	334	18	高杯	須恵器			10.6		灰		C-6西より, C-6	河		II 1	外ロクロナデ・カキメ・内ロクロナデ
104	335	93	皿B	土師器	12.6				外にぶい黄橙、内黒		C-9	河, 試堀トレ		VI	外ロクロナデ・ケズリ、内ヘラミガキ、微砂粒含む、内面内黒
104	336	86	小甕	土師器	12.0				外黒褐、内橙		B-9	河道縁		III	外内ロクロナデ・カキメ、外面煤付着
104	336	743	小甕	土師器					外にぶい橙、内橙		B-9	河道縁		III	外カキメ・ケズリ、内カキメ・ハケ
104	337	54	鍋	土師器	35.0				外にぶい黄橙、内灰褐		B-7	河東	包含層	II 2~II 3	外ヨコナデ・ハケ・ケズリ、内ハケ
104	338	85	鍋	土師器	38.0				にぶい黄橙		B-9	河道		II 2~II 3	外ヨコナデ・ハケ・ケズリ、内ハケ、外面指押さえの痕・ひも痕
104	339	41	土錘	土製品	5.1	1.8			外浅黄橙		C-6	河		?	外ナデ、微砂粒含む、重量15.6g
105	340	97	甕	須恵器	24.0				灰	A	B-8, B-9, C-6, B-7, 23区	河		II	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・タタキ・(カキメ)、1mm以下の砂粒多く含む
105	341	99	甕	須恵器	33.2				外灰、内暗オリープ灰	D	B-4南半			II	外内ロクロナデ・タタキ、微砂粒少し含む
105	342	42	甕	須恵器	43.8				灰白色	A, B	C-5, C-5東より	河		II	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む、波状
105	343	95	甕	須恵器							B-8	河		II	
106	344	7	甕	須恵器	(19.8)	(17.9)			灰白	B	C-3	SI-10, SI-10N E, SI-08 NE区, 河	アゼ, 覆土	II	外ロクロナデ・平行タタキ後カキメ、内ロクロナデ・同心円状タタキ、胴部最大径(31.4)cm、外内面降灰
106	345	1	甕	須恵器	27.7				灰		C-6, B-9, 分調23区南・北	河道		II	外ヨコナデ、内ヨコナデ・同心円
107	346	6	杯B蓋	須恵器	12.6				外灰白、内明青灰	D	A・B-3		包含層	IV	外内ヨコナデ、内面平滑
107	347	78	杯B蓋	須恵器	15.4				灰	A	B-9		包含層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、外面自然釉(緑黄色)
107	348	59	杯B蓋	須恵器	(17.5)				灰	D	C-7, B-8	河	包含層	II 3	外内ロクロナデ、外面降灰うけている

第12表 遺物観察表10

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
107	349	5	杯B蓋	須恵器	15.8			1	灰白	A, B	B-4南半		包含層	II 3	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ・ナデ、ロクロ左回転
107	350	15	杯B蓋	須恵器	15.7			1	外緑灰、内灰褐	B	C-5, 東より		包含層	II 3	外ケズリ・ヨコナデ、内ナデ・ヨコナデ、外面ヘラ工具による圧痕・破線
107	351	63	杯B蓋	須恵器	(13.2)			2 a	灰	B	C-8		包含層	IV	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面重ね焼き
107	352	62	杯B蓋	須恵器	(11.4)			1	褐灰	D	C・D-8		包含層	IV ?	外内ロクロナデ、内面一部自然釉沸いている、外面降灰うけている
107	353	29	杯B蓋	須恵器		2.1		2 a か ?	灰白	B	C・D-6		包含層	?	外内ロクロナデ、つまみ径2.0 5cm、内面降灰、返り蓋
107	354	30	杯B蓋	須恵器	(11.2)	(1.7)		1	外灰白、内淡黄	B	C・D-6		包含層	IV 2	外ロクロケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ、外面降灰、ロクロ左回転
107	355	111	杯B蓋	須恵器	13.6			2 b 上	灰	C	C-10・11		包含層	V	外内ロクロナデ、白色土塊多い、重ね焼きの痕
107	356	115	杯B蓋	須恵器	13.0			2 a	灰	B	B-10南半		包含層	V	外内ロクロナデ、自然釉(緑黄色)、外面重ね焼きの痕
107	357	79	杯B	須恵器	15.2	4.0	9.9		暗灰	B	分調23区北, C-8, B-9	S I - 0 3、1区	包含層	II 2	外ロクロナデ・ナデ・ロクロケズリか?内ロクロナデ・ナデ、焼きはだ黒色、外面一部板目の痕、底面板目圧痕
107	358	19	杯B	須恵器	(13.8)	5.0	(8.7)		明青灰	B, A	C-6		包含層	III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・不定方向のナデ
107	359	88	杯B	須恵器	15.8				灰	A, C	CD-9		包含層	III	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、流紋岩
107	360	11	杯B	須恵器	15.9		9.8		外灰、内灰白	B	B-5北半, B-6		包含層	II 3	外内ヨコナデ、外面ロクロヒダ目立つ、外底にヘラ記号あり
107	361	113	杯B	須恵器	12.0	3.9	6.8		灰	D	B-11南半		包含層	IV 2	外内ロクロナデ、外側面半分自然釉、底面ヘラ抜きとり痕、小さい焼きぶくれ多数
107	362	77	杯B	須恵器			10.5		灰	D	B-9		包含層	IV	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ
107	363	123	皿B	須恵器	14.0				灰	A	A・B-15		包含層	IV	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面平滑
107	364	122	皿B	須恵器	13.6				灰	A	A・B-15		包含層	IV	外ロクロナデ・ロクロケズリ・内ロクロナデ、底面かすかに糸切り痕、内面平滑、高台接合部、「ハナ」か墨痕不明瞭
107	365	102	皿B	須恵器	13.1	3.7	7.0		外灰、内灰白	A	B-9	86 S I - 03	包含層	IV	外内ロクロナデ、微砂粒多く含む、底面糸切り痕残る
107	366	27	高杯	須恵器	(17.2)	(3.3)			外灰、内灰白	B	C-6		包含層	II	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外内面降灰、ロクロ右回転
107	367	28	稜椀?	須恵器		(2.7)			外青灰、内明青灰	B	C-6		包含層	IV	外ロクロナデ・ケズリ後ロクロナデか、内ロクロナデ、外面降灰、台付か?
107	368	13	短頸壺?	須恵器			(7.7)		外暗青灰、内灰	A ?	C-5	河	包含層	II ?	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、すそ切り取り、内面厚い降灰、底面平行状の圧痕あり
107	369	4	椀	須恵器	10.1				淡黄	A	C-4	河	包含層	II	外内摩耗の為不明
107	370	23	椀	須恵器		(2.2)	(3.9)		明青灰	B, A	C-6		包含層	II	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、底面乾燥時圧痕、外面降灰
107	371	52	杯A	須恵器	(14.1)	(3.3)	10.6		灰	A	B-7		包含層	III	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ、底面ヘラ抜きとり痕・板目状圧痕、外面重ね焼きの痕

第13表 遺物観察表11

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
107	372	57	杯A	須恵器	(12.2)	(4.0)	8.0		灰	D	B-7		包含層	Ⅱ	外ロクロナデ・ヘラ切り後粗いナデ、内ロクロナデ、同一重ね、外面重ね焼きの痕、スタ痕
107	373	58	杯A	須恵器	(14.8)	(2.9)	(10.8)		外にぶい黄橙、内褐灰	B	C・D-7東		包含層	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、内面やや平滑、底面褐色の付着物
107	374	110	杯A	須恵器	11.6	3.0	7.8		灰	B	B-10南半		包含層	V	外内ロクロナデ、内面使用痕・平滑、底面板状痕
375	375	24	杯A	須恵器	13.3	7.0			灰白	D	B-4北半		包含層	Ⅵ	外内ヨコナデ、内面漆付着
107	376	71	盤A	須恵器	15.2	2.1	12.8		灰	D	23区		包含層	V1	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ・ナデ、内面平滑、杯と同じ底部円盤で成形か、転用硯か
107	377	90	盤A	須恵器	17.0	2.3	14.8		灰白	B	C-9・10分調		包含層	V1	外ロクロナデ・雑なナデ、内ロクロナデ・ナデ、1mm以下の砂粒少し含む、内外面使用の為摩耗
107	378	3	鉄鉢	須恵器	24.4				外灰・灰白、内灰白	B	B-4, B-3, C-4	河道	包含層	Ⅱ3~Ⅳ?	外ヨコナデ・ヘラミガキ後ミガキか?内ヨコナデ、精製品
107	379	108	椀	土師器	21.2				外にぶい黄褐、内黒		B-10北	堅穴状	包含層	Ⅶ1	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ・ヘラミガキ、1mm以下の砂粒含む、内黒
107	380	114	高杯	土師器			15.0		外橙、内ぶい黄橙		B-11北半		包含層	I?	外ケズリ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒多く含む、内面工具の圧痕
108	381	89	小甕	土師器	13.2				外にぶい黄橙、内浅黄橙		B-7,	SK-12付近	包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ・ヨコナデ、内面黒褐色
108	382	55	小甕	土師器	15.0				外にぶい黄橙、内黄橙		B-7		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ、内面黒褐色・煤付着、外面一部煤付着
108	383	76	長胴甕	土師器	18.0				にぶい黄褐	A	B-9		包含層	Ⅵ	外内ロクロナデ、内面炭化物
108	384	75	長胴甕	土師器	23.0				外橙、内黄橙		B-9		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ・タタキ、内カキメ後ロクロナデ・カキメと同じ工具によるハケ、内面アテ具痕、外面板状工具、煤付着
108	385	25	長胴甕	土師器	18.0				にぶい赤褐		C-6東より		包含層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ヨコナデ・ハケ、内ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、外面黒色、胴部合成
108	386	91	長胴甕	土師器	25.0				橙		B-8		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・カキメ、内カキメ
108	387	61	長胴甕	土師器	22.5				橙		B-8		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・カキメ・内カキメ後ヨコナデ、下半分タタキ・ケズリ、破片多い
108	388	65	長胴甕	土師器	21.7				にぶい橙		C-8	P-155	包含層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・ナデか?カキメ、内ロクロナデ・カキメ、外面煤付着
108	389	166	鍋	土師器	(31.5)				浅黄橙		B-17		包含層	Ⅱ2~Ⅱ3	内外面摩耗著しい
109	390	2	鍋	土師器	29.4				橙	骨4	B-4北半	包含層	包含層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ヨコナデ・カキメ・雑なナデ・ケズリ、内カキメ・ハケ、把手は指ナデ
109	391	135	鉢	須恵器	25.4	10.8	18.0		灰	B	C-12		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外カキメ・ヨコナデ・ナデ、内カキメ、内面使用痕、肥手、キザミ
109	392	107	長頸壺	須恵器					灰オリーブ	B	C-8, C-7, B-9, B-8	河	包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外内ロクロナデ、微砂粒含む、内外面灰釉、釉腐食、破断面に黒色半透明ガラス浸透、外面2条
109	393	14	短頸壺	須恵器					灰		C-5, C-6	河西より、河	包含層	Ⅲ~Ⅳ	外内ヨコナデ
109	394	104	長頸瓶	須恵器			9.8		灰	D(B)	A-10, B-11・12		包含層, 黒色土	Ⅲ~Ⅳ	外内ロクロナデ、内面全体平滑、底部漆状のもの付着

第14表 遺物観察表12

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
109	395	21	短頸壺蓋	須恵器	13.2	3.3			外青灰、内灰	B	C-6	河	包含層	Ⅲ	外ナデ・ヨコナデ、内ヨコナデ・不定方向のナデ、内面使用の為円滑、外面自然釉付着
109	396	10	長頸瓶・短頸壺	須恵器			10.2		灰白	B	B-5北半, 23区北半分調, C-6, B-8	86 S I - 08 NW	包含層	Ⅲ~Ⅴ	外ヨコナデ・ケズリ・雑なナデ、内ヨコナデ、胴径16.7cm、ゲタの痕跡、外面重ね焼きの釉着・自然釉付着
109	397	760	平瓶	須恵器	10.6				外灰、内灰・暗オリープ	D	C-13	表採	包含層	Ⅱ~Ⅲ	外内ロクロナデ、内面自然釉 (暗オリープ)
109	398	742	長頸瓶	須恵器			11.8		灰	D (一見B)	B・C-9		包含層	V	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、焼き膨れ多い、内面自然釉、底面板目痕・回転切り離しなし・ゲタ
109	399	112	広口瓶	須恵器					灰	D	B-9・10分調, 25区		包含層	Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ?内ロクロナデ、内面自然釉、外面一部自然釉
110	400	103	横瓶	須恵器	11.0	15.0			灰	C	B-8・9, C-6	河	包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外タタキ後カキメ・ロクロナデ、内ロクロナデ・カキメ
110	401	43	横瓶	須恵器	14.4				灰		C-5東より		包含層	Ⅱ	
110	402	50	甕	須恵器	(20.2)				にぶい黄橙	B	C-3・5・6	河	包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・平行タタキ後ヨコナデ・カキメ、内ロクロナデ
110	403	133	甕	須恵器					灰	D	B-11南半		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外内ロクロナデ、内面うすく自然釉、粘土はりつけ、口縁帯肩へのせる
110	404	94	甕	須恵器	28.4				外オリープ灰、内明オリープ灰	B	B-9		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外内ロクロナデ、微砂粒少量含む
110	405	134	甕	須恵器	44.0				灰		23区3トレ南北, A-11, B-10・11・12, C-8・12	P-40, P-54, 河	包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外内ロクロナデ・タタキ、外面自然釉
110	406	171	甕	須恵器					外灰、内にぶい赤褐		B-17・18, C-17・18道下, 南区		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外平行タタキ・カキメ・一部ナデ、内同心円状捺痕
110	407	138	カマド	土師器					浅黄橙		C・D-7東, C-8・9・10, 23区2号トレ南北	86 S I - 10 内P-2	包含層	Ⅱ2	外内ナデ・タタキ、1mm前後の砂粒含む、摩耗
110	408	87	ファイゴの羽口	土製品					外褐灰、内灰黄褐		C-9		包含層	?	内ナデ、微砂粒含む、粘土質
110	409	56	土錘	土製品					内橙		B-7		包含層	?	最大長5.4cm、最大径2.1cm、重さ23g、孔径0.6cm
111	410	石41	軒丸瓦	瓦							B-4	ビット	上面	Ⅱ2	先端摩耗ないしは欠、周縁すべて欠
111	411	石42	平瓦?	瓦							C-5	河道西より	包含層	Ⅱ2	割れ口、格子厚痕、布目厚痕
157	412	1475	杯B蓋	須恵器	16.2	3.5		1 (A2)	灰	B	C-17	86 S I - 13	北壁際	Ⅱ2・3	内天平滑
157	413	1476	杯B蓋	須恵器	17.0	3.0		1	淡青灰	A	C-17	86 S I - 13		Ⅱ3	3次出土
157	414	1478	杯B蓋	須恵器				1	灰	B	C-17	86 S I - 13	北壁際	Ⅱ3	内面平滑 (転用硯?)
157	415	1477	杯B蓋	須恵器				1	紫灰	D, F	C-17	86 S I - 13	北壁際	Ⅱ3	径4cmの偏平鈕
157	416	1479	杯B蓋	須恵器	11.2				灰クリーム	A	C-17	86 S I - 13		Ⅱ2・3	87 S I - 04?
157	417	1480	杯B	須恵器					淡灰	B	C-17	86 S I - 13	NW.覆土	Ⅱ3	
157	418	167	長胴甕	土師器					外にぶい褐、内橙			86 S I - 13	北壁際	Ⅱ2・3	外タタキ、内当具、ハケ
157	419	169	鍋	土師器	35.0				浅黄橙		C-17	86 S I - 13	包含層	Ⅱ3	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ・ハケ、外面一部煤付着

第15表 遺物観察表13

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	造構	層位等	時期	備考
157	420	183	杯A	須恵器			10.2		灰	B	C-17	87S I-04		IV2	外内ロクロナデ、混入品か？
157	421	168	小甕	土師器	14.2				浅黄橙		C-17	87S I-04	カマド中央、カマド内	IV?	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ・ロクロナデ、内面こげ汚れなし、外面煤付着
157	422	172	長胴甕	土師器					外橙、内淡橙		C-17	87S I-04 NE		II2・3	外ケズリ、内ハケ、尖底きみ
157	423	170	甕	土師器					浅黄橙		C-17 道路下	87S I-04 SW, NW	覆土～床、上層	II2・3	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内ロクロナデ・カキメ・ハケ、胴部2片
158	424	1471	杯B蓋	須恵器	15.2	23.0		1(A2)	灰くすむ	A	C-19	87S I-02	床面1, 2	II2	
158	425	1472	杯B蓋	須恵器	15.6	3.8		1(A2)	灰くすむ	B	C-19	87S I-02	カマド左横	II2	
158	426	1473	杯B	須恵器	13.6	4.4	32.7			B	C-19	87S I-02	床面1, 2	II2	口縁内面平滑
158	427	1304	杯B	須恵器	13.8	4.1	29.7		緑灰～黒灰	B	C-19	87S I-02	灰穴上面	II2	
158	428	1474	円面硯	須恵器					灰くすむ	B	C-19	87S I-02	カマド左横	II2	
158	429	155	小甕	土師器	13～14				外にふい褐、内浅黄橙		C-19	87S I-02	カマド左横、カマド焼土内	II2	外ロクロナデ・カキメ・ヘラ切り・(ナデ)、内ロクロナデ・ハケ・工具によるナデ・ナデ、外面煤付着、底部板目圧痕、指圧で丸底化
158	430	156	小甕	土師器	14.5				にふい黄橙		C-18	87S I-02, 87S I-03, 87S I-09	灰穴、覆土、カマド左横	II2	外ヨコナデ・ハケ・(ナデ)、内ヨコナデ・工具による強いナデ・ケズリ、内面こげ、外面器面剥離、支脚痕？
158	431	159	小甕	土師器					橙			87S I-02 NE	覆土	II2	外ケズリ・カキメ・(ハケ)、内ハケ・ナデ
158	432	162	長胴甕	土師器					淡黄			87S I-02	カマド、焼土	II2	外内ヨコナデ
158	433	158	長胴甕	土師器	20.6				橙			87S I-02	カマド左横、Ⅶ層下、焼土	II2	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・工具によるナデ・ハケ、1mm以下の砂粒含む、青野型
158	434	160	長胴甕	土師器					にふい褐			87S I-02 NE	覆土	II2	外タタキ後ハケ、内ケズリ
158	435	161	鍋	土師器	30.0				淡黄			87S I-02 SW		II2	外ロクロナデ、内カキメ後ロクロナデ
158	436	175	鍋	土師器	(40.0)				淡黄		B-17・18	87S I-02 SW	床下ビット	II2	外ロクロナデ・ハケ、内ヨコナデ・(ロクロナデ)
158	437	157	不明	製塩土器					外にふい橙、内にふい褐			87S I-02 NE	覆土	II2	外ナデ、内ハケ
159	438	139	杯B蓋	須恵器			(13.8)		灰	D	A-19	87S I-01	拡張区	II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面平滑(転用硯風)
159	439	181	杯B	須恵器	(14.5)	(4.5)	(8.9)		灰	B	A-19	87S I-01	上面拡張区、包含層	II3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面全体に平滑、底面汚れ？
159	440	180	杯B	須恵器	(15.9)	(4.5)	(10.6)		灰白	B	A-19	87S I-01	上面拡張区、包含層	II3	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、内面に明褐色のもの付着
159	441	1469	杯B	須恵器	14.6	4.3	29.5		灰	B	B-19	87S I-01	カマドSW	II3	口縁内面平滑
159	442	177	杯B	須恵器	(20.3)	(5.2)	(13.7)		灰	B	A-19	87S I-01	上面拡張区、包含層	II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面比較的平滑、蓋B重ね痕
159	443	1470	杯A	須恵器	12.4	3.8	28.2		黒灰～灰	B	A-19 農道下	87S I-01	床面	II2	有蓋？
159	444	689	杯A	須恵器			(8.6)		灰白	A, C		87S I-01	No.3、覆土、土坑	II3	外ロクロナデ・ヘラ切り後手持ちケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、流紋岩
159	445	163	杯A	須恵器	(12.0)	(4.2)	(6.2)		灰白	B	B-17・18	87S I-01	埋土	II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ・面とりヘラ・ヘラ切り、内ロクロナデ
159	446	143	椀	土師器					明赤褐		B-19	87S I-01	No.2	II3	外内ミガキか、外内面赤彩
159	447	142	高杯・椀	土師器	(18.0)				橙		A・B-19	87S I-01, 87S X-01	No.1、カマドSW	II3	外内ハケ後ミガキ、外内面ハケ痕残る、外内面赤彩施してある

第16表 遺物観察表14

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
159	448	141	高杯	土師器	(15.5)				外にぶい黄橙、内黒		A-19	87S I-01	拡張区	II 3	外ロクロナデ・ハケ後ミガキ、内ミガキ、外面黒斑、内黒土器
159	449	140	高杯	土師器					にぶい褐		B-19	87S I-01	No.3	II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ミガキ・(ナデ)、内黒、断面に黒色物附着(漆か?)
159	450	189	片口鉢	土師器	13.5	5.9			橙			87S I-01	カマドN E区, 一部S E区	II 3	外ヨコナデ・不定方向のケズリ・(ナデ)、内ナデ、赤化は二次的か
159	451	154	小甕	土師器	(13.7)				外にぶい褐、内にぶい橙			87S I-01	カマドS W	II 3	外ナデ・ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ケズリか?、内面褐色を呈する(煮炊の水面、有機物の焦げ付き)
159	452	148	小甕	土師器	(11.6)				外にぶい褐、内にぶい橙			87S I-01	カマドS W	II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ハケ・ナデ、内面褐色を呈する、外面煤附着
159	453	146	小甕	土師器	(16.0)				外褐灰、内にぶい橙			87S I-01	カマドS W区・床下ビット	II 3	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・工具によるヨコナデ・ケズリ、内面炭化物附着、外面煤附着
159	454	149	小甕	土師器	(13.0)				橙		B-19	87S I-01	No.3	II 3	外ロクロナデ?カキメ、内ロクロナデ?ナデ?、外内面摩擦著しい
159	455	147	小甕	土師器	(12.7)				外褐灰、内灰褐		B-19	87S I-01	No.2	II 3	外内ナデ・ハケ、骨片5
159	456	152	長胴甕	土師器	(20.5)				橙		C・B-19	87S I-01, 87S I-02, 87SI-01土坑	カマド中央, NW区床面	II 3	外ロクロナデ・ハケ・ケズリ、内ハケ、破片あり、近江型
159	457	153	長胴甕	土師器					橙		B-17・18	87S I-01	埋土, 包含層	II 3	外ロクロナデ、内(ロクロナデ)、ハケ後ナデ、口唇部に沈線
159	458	150	長胴甕	土師器	(20.0)				外にぶい橙、内灰褐		B-20・21	87S I-01, 87S I-03	カマドS E区, カマド壁内, 包含層	II 3	外ヨコナデ・ハケ後ナデ、内ヨコナデ・ハケ、外面煤附着
160	459	145	長胴甕	土師器					外にぶい橙、内浅黄橙		B-19	87S I-01	No.2, 覆土, カ克蘭土、拡張区	II 3	外ロクロナデ・縦方向のハケ後カキメ、内ハケか(摩擦している)
160	460	144	長胴甕	土師器		(21.2)			外淡黄、内褐灰			87S I-01	カマドN E区, 覆土	II 3	外ハケ後ナデ、内ハケ後ナデ・指押さえ、胴部最大径(18.9)cm
160	461	151	丸底?	製塩土器					淡黄			87S I-01	No.3	II 3	外内ナデ
161	462	230	杯B蓋	須恵器	15.0			2 a	灰	B		87S I-03 拡, 87S I-03南	包含層, 埋土	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、外面重ね焼きの痕
161	463	1481	杯B蓋	須恵器	16.4	2.5		1 (A 2)	灰	A		87S I-03	床面	II 3	蓋上に杯B 3個
161	464	227	小甕	土師器	12.6				外にぶい橙、内橙		B-23	87S I-03 南半	埋土	II 3	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ、外面煤附着
161	465	225	小甕	土師器	14.4				浅黄橙			87S I-03 S W, 87S I-03 S E	カマド周辺, 覆土	II 3	外内ロクロナデ・カキメ、1~2mmの砂粒含む、内面煤附着、外面胴部煤附着
161	466	231	小甕	土師器	14.6				浅黄橙			87S I-03	カマド壁内	II 3	外内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む、外面剥離しやすい・一部煤附着
161	467	223	小甕	土師器			4.6		外にぶい黄橙、内浅黄橙			87S I-03 S W		II 3	外ナデ・ロクロケズリ・雑なナデ・ヘラ切り、内ナデ、1mm前後の砂粒含む、外面煤附着、底面板目圧痕
161	468	1482	小甕	土師器	13.3	12.2			橙	骨0		87S I-03 拡張部	床面	II 3	外カキメ・ケズリ、内カキメ
161	469	213	小甕	土師器					外にぶい橙、内浅黄橙		B-23	87S I-03, 87S I-03, 87S I-03 拡張部遺構面	覆土, 包含層	II 3	外ロクロナデ・指ナデ・(ナデ)、内ロクロナデ・ナデ、内面おこげ附着、底面糸切り痕・指跡多い・煤附着、内外面煤附着

第17表 遺物観察表15

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
161	470	220	小甕	土師器	14.6				浅黄橙			87 S I - 03		II 3	外内ロクロナデ・カキメ、外面煤附着
161	471	219	小甕	土師器	14.0				外にぶい黄橙、内浅黄橙		B-22・23	87 S I - 03, 87 S I - 03 S W, 87 S I - 03 N W	覆土、包含層	II 3	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内ロクロナデ・カキメ・ハケ、1mm前後の砂粒含む、外面煤附着、丸底
161	472	229	長胴甕	土師器	18.6				にぶい橙			87 S I - 03 拡張部遺構面	包含層	II 3	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ・ハケ後ケズリ、1mm以下の砂粒含む
161	473	218	長胴甕	土師器	30.2				橙		A-32北半, B-23・32, C-19道下, C-20	87 S I - 03, 87 S I - 03 拡張部遺構面, 87 S K - 10, 87 S K - 11 南半	埋土	II 3	外ロクロナデ・カキメ・タタキ・ケズリ、内ロクロナデ・カキメ、タタキ、微砂粒含む、外面一部煤附着
161	474	226	長胴甕	土師器	22.6				橙		B-23, B・C-23	S I - 03 拡張区, S I - 03 拡張区遺構面, S I - 03	包含層, カマド壁内	II 3	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ・タタキ、内ロクロナデ・カキメ、微砂粒含む
162	475	232	長胴甕	土師器					にぶい黄橙		A-31	87 S I - 03 拡張部遺構面, 87 S I - 03	カマド中央, 包含層	II 3	外カキメ・タタキ、内ロクロナデ・カキメ・タタキ、1mm前後の砂粒含む、内面アテ具・指痕、外面持ち上げ時指痕
162	476	214	長胴甕	土師器	22.8				外浅黄橙、内にぶい橙			87 S I - 03, S E, 87 S I - 03北半	カマド周辺	II 3	外ハケ後ロクロナデ・軽いナデ、内ロクロナデ・ハケ後カキメ、1mm前後の砂粒多く含む、内面煤附着
162	477	211	長胴甕	土師器					外明黄褐、内にぶい褐		B-23	87 S I - 03	カマド S W, カマド直上, 包含層	II 3	外タタキ後ハケ、内細かいハケ・粗いハケ、1mm以下の砂粒含む、内面同心円アテ具痕、外面煤附着、頸部破片あり
162	478	224	長胴甕	土師器							B-22	87 S I - 03 拡張, 87 S I - 03 S E	カマド周辺, 覆土	II 3	外ロクロナデ・カキメ・ナデ・タタキ・ケズリ、内ロクロナデ・カキメ・ハケ、内面アテ具の凹凸
162	479	222	長胴甕	土師器	23.4				外淡赤橙、内黄橙			87 S I - 03	カマド煙道上, カマド壁内	II 3	外ロクロナデ・ハケ、内カキメ後ロクロナデ・ハケ、焼成良、1mm以下の砂粒含む、外面一部煤附着
162	480	233	鍋	土師器					外黄橙、内橙			87 S I - 03	床, カマド中央	II 3	外カキメ・ハケ・ケズリ、内カキメ・タタキ、1mm前後の砂粒含む
163	481	268	小甕	土師器	14.2				外にぶい橙、内淡黄		B-30	87 S I - 10 調査区南壁際	焼土周辺	II 2	外ヨコナデ・ハケ・(ロクロナデ)、内ヨコナデ・ナデ・(ロクロナデ)・(ハケ)、内面一部剥離
163	482	270	小甕	土師器	10.0				外橙、内にぶい橙		B-30	87 S I - 10 調査区南壁	焼土周辺	II 2	外ヨコナデ・ハケ・ケズリ・(強いナデ)、内ヨコナデ・ケズリ、内面わずかに凹む
163	483	269	丸底?	製塩土器					にぶい橙		B-30	87 S I - 10 調査区南壁際	焼土周辺	II 2	外ナデ、内ハケ
163	484	1483	杯A	須恵器	16.0	3.9	24.4		灰黄	A, B	A-30	87 S I - 06	カマド横、土器ダマリ	II 3	
163	485	255	小甕	土師器					外にぶい褐、内橙		A-30	87 S I - 06	カマド横	II 3	外ヨコナデ・カキメ、内カキメ・ロクロナデ、外面一部剥離・一部煤附着
163	486	253	小甕	土師器					淡黄		A・B-30	87 S I - 06	カマド横, 土器ダマリ, 包含層	II 3	外カキメ・ケズリ・ハケ、内ロクロナデ・ハケ、丸底化、内面煤附着
163	487	258	長胴甕	土師器	20.0				浅黄橙		A-30・31	87 S I - 06, 87 S I - 06・07上面	灰穴, 包含層	II 3	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ後ロクロナデ、外面煤附着
163	488	257	長胴甕	土師器					にぶい黄橙		A-30	87 S I - 06 拡張区		II 3	外ケズリ・カキメ、内ナデ・カキメ・ハケ
163	489	256	長胴甕	土師器					浅黄橙		A-30	87 S I - 06	カマド横, 土器ダマリ	II 3	外カキメ・ハケ・工具による強いナデ・ハケ状(器面調整)のケズリ、内カキメ後ナデ・ハケ、外面煤

第18表 遺物観察表16

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
163	490	254	長胴甕	土師器					橙		A-30	87S I-06	カマド横, 土器ダマリ	II 3	外カキメ・ケズリ・ハケ、内カキメ後ハケ
164	491	236	杯B蓋	須恵器	(18.0)				外灰、内灰白	A		87S I-07	灰穴	II 2・3	外内ロクロナデ
164	492	237	杯B蓋	須恵器	(15.0)				灰	B		87S I-07	覆土	II 3	外内ロクロナデ、外面降灰うけている
164	493	234	椀	須恵器	(15.4)				灰	A	A-31	87S I-07坑	覆土、包含層	II 2	外内ロクロナデ
164	494	235	杯B	須恵器	(16.7)	(4.7)	(11.6)		灰	B		87S I-07坑	覆土	III ?	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、板目状痕あり
164	495	261	椀?	土師器	(15.7)				外にぶい赤褐、内にぶい橙			87S I-07	カマド内	II 3?	外内摩耗している、外内赤彩
164	496	262	椀	土師器			(12.8)		にぶい黄橙		A-30	87S I-07	たちわり床下	II 3?	外ケズリ? 回転糸切り後手持ちケズリ、内ナデ、赤彩なし
164	497	260	小甕	土師器	(11.8)				浅黄橙		A-30	87S I-07	カマド内	II 3	外ロクロナデ・ケズリ(下半)、内ロクロナデ・カキメ・ケズリ(下半)
164	498	259	小甕	土師器					外にぶい橙、内浅黄橙		A-30	87S I-07	包含層、土器ダマリ	II 3	外ケズリ(不定方向)、内指押さえ・ナデ、丸底化、乾燥帯
164	499	264	小甕	土師器	(15.0)				外にぶい橙~浅黄橙、内浅黄橙		A-30	87S I-07	灰穴?	II 3	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ナデ、内面煤付着・煮炊の水面、指圧痕
164	500	276	小甕	土師器	(16.0)	(15.0)			外にぶい黄橙、内灰白		A-30	87S I-07	カマド周辺、灰穴? 灰穴	II 3	外ヨコナデ・細かいカキメ・カキメ後ナデ、内カキメ・ナデ、胴部最大径(17.9)cm、内面汚れ付着(二次的)外面煤付着、熱により煤が酸化消失か
164	501	263	長胴甕	土師器	(15.2)				外にぶい橙、内浅黄橙		A-30・33	87S I-07、87S I-07坑	灰穴? カマド周辺、覆土とその横(北)の土坑	II 3	外内ロクロナデ・カキメ、外面煤付着
164	502	266	丸底?	製塩土器					浅黄橙		A-30	87S I-07坑	覆土とその横(北)の土坑	II 3	外ナデ、内ハケか
165	503	239	杯B蓋	須恵器	16.0				灰	B	A-32・33・34、20区2トレ	87S I-08、87S X-02	茶褐粘、包含層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ
165	504	44	甕	須恵器	19.4				にぶい黄橙	B	A-32・33	87S I-08	アゼ	II 2	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内カキメ・ロクロナデ・タタキ、3mm以下の砂粒少し含む
165	505	275	鍋	土師器	38.0				外にぶい黄橙、内浅黄橙		A-33	87S I-08	包含層、茶褐粘	III ?	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ・ナデ? 内カキメ後ロクロナデ・ハケ、外面煤付着
165	506	1484	杯B蓋	須恵器	16.3	3.7		1(A1)	灰	A	Z-42	87S I-09	カマド横ビット	II 3	
165	507	663	杯A	須恵器	13.0				外灰、内灰黄	B	Z-42	87S I-09、カクラン土中	包含層	II 3	外ロクロナデ・ヘラ切り・(ナデ)、内ロクロナデ、微砂粒含む
165	508	688	椀	土師器	15.3				橙			87S I-09	カマド前	II 3	外内ロクロナデ、微砂粒少し含む、外面煤付着、小片の為暗文不明
165	509	664	椀	土師器	11.8				外明赤褐、内橙		Z-42	87S I-09		II 3	外ロクロナデ・ケズリ、内ヘラミガキ、微砂粒含む、内面暗文、外面黒色付着物、外内面赤彩
165	510	665	小甕	土師器		6.3			外橙、内にぶい橙		Z-42	87S I-09	カマド前	II 3	外ハケ後カキメ、工具によるロクロナデ・ケズリ、内カキメ、1~2mmの砂粒多く含む、底面切り離し不明・糸の痕は見えない
165	511	666	小甕	土師器					にぶい黄橙		Y-42	87S I-09		II 3	外・内ナデ、2mm以下の砂粒含む、

第19表 遺物観察表17

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
165	512	666	小甕	土師器			8.3		にぶい黄橙		Y-42	87S I-09		II 3	外ケズリ、内ハケ、外面ロクロ盤上での面とりケズリ、底面非糸切り、最古の平底甕か、2mm以下の砂粒含む
165	513	662	丸底?	製塩土器					浅黄橙		Y-42	87S I-09	覆土	II 3	外ナデ、内ハケ
166	514	1489	杯B蓋	須恵器	14.7			1	灰	A	Z-37	87S X-01	上層	II 2	
166	515	1487	杯B蓋	須恵器	16.5	3.7		1(A 2)	灰クリーム	B	Z-37	87S X-01	上層	II 2	
166	516	463	杯B蓋	須恵器		3.2	15.2		灰	A	Z-37	87S X-01	上層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径3cm、黒色粒細かい、内面の黒ずみは汚れか? 外面降灰・オリープ灰色を呈する
166	517	1486	杯B蓋	須恵器	17.4	4.2		1	明灰	A	Z-37	87S X-01	上層	II 2	
166	518	88488	杯B蓋	須恵器	16.2	2.8		1(A 2)	灰	A	Z-37	87S X-01	上層	II 2	天井部中央に1個重ね
166	519	461	杯B蓋	須恵器			(16.5)		灰白	A	Z-37	87S X-01, 87S X-01 ~大溝	上層	II 2	外ロクロナデ・(ロクロケズリ)、内ロクロナデ、ガラス質の自然釉がかかっている(オリープ灰色)
166	520	464	杯B蓋	須恵器			(15.7)		外灰、内灰白	B	Z-37	87S X-01, 87S X-01 周辺		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、つまみ径(2.7)cm
166	521	465	杯B蓋	須恵器			(19.3)		灰	B	Z-37	87S X-01 ~大溝へのミゾ、87S X-01	上層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ
166	522	480	杯G	須恵器			(7.2)		灰白	E	Z-37	87S X-01	上層	II 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ
166	523	474	杯A	須恵器	11.7	3.8	6.8		灰白		Z-37	87S X-01, 大溝	上層	II 2	外ヨコナデ・ナデ・一部ケズリ残る、内ヨコナデ・不定方向のナデ、返り蓋付
166	524	472	杯A	須恵器	(12.8)	(3.6)	(7.6)		灰白	A	A-37・38	87S X-01, 大溝	上層, 中層, 包含層	II 2	外内ロクロナデ、外面はほぼ全面に厚くガラス質の釉付着(緑灰色、淡黄色)、逆さの状態で焼いている
166	525	1492	杯A	須恵器	12.0	4.1	34.2		淡青灰	A	Z-37	87S X-01	上層	II 1	有蓋
166	526	462	杯B蓋	須恵器	(21.3)				灰白	B	A-38, Z-37	87S X-01, 大溝	上層, 下層, 中層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ・一部ケズリ残る、内ロクロナデ
166	527	470	杯B	須恵器	(21.0)				灰白	B	Z-37	87S X-01		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ
166	528	469	椀	須恵器	20.0				灰白	B	Z-37	87S X-01	包含層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、黒色粒
166	529	475	杯	須恵器	(14.4)				灰白	B	Z-37	87S X-01		II 2	外内ロクロナデ、内面平滑、外面煤か汚れ
166	530	473	有台椀?	須恵器			(9.2)		灰	B	Z-37	87S X-01		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ
166	531	482	椀か高杯	須恵器	(13.5)				灰白	B	Z-37	87S X-01		II 2	外内ロクロナデ、外内面共平滑である
166	532	467	有台椀	須恵器	(14.0)	(5.2)	7.7		内灰白	A	Z-37	大溝, 87S X-01 周辺, 87S X-01	たちわり	II 2	外ロクロナデ・ヘラ切り? (回転糸切り)、内ロクロナデ・ナデ、黒色粒、内面比較的平滑・指圧痕、外面全体薄く釉沸、底面ヘラ抜き痕
166	533	1490	杯B	須恵器	14.2	4.5	31.7		灰	B	Z-37	87S X-01	上層	II 2	蓋A、口縁内面平滑
166	534	1491	杯B	須恵器	14.7	4.5	30.6		青灰~黒灰	D, C	Z-37	87S X-01	上層	II 2	蓋A
166	535	481	有台椀?	須恵器					灰白	B	Z-37	87S X-01 周辺		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ・(仕上げナデ)、底面砂粒の多い別胎土
166	536	479	高杯	須恵器					灰	E	Z-37	87S X-01 ~大溝へのミゾ、87S X-01		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ナデ

第20表 遺物観察表18

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
166	537	478	高杯	須恵器	(15.2)	10前後	(12.5)		灰白	B	Z-37, B-38	87SX-01	包含層	II 2	外ロクロケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ
538	538	476	椀	土師器	(12.1)	(3.1)	6.6		浅黄橙		Z-37	87SX-01		II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ・切りはなし前の面とりヘラ、内ロクロナデ、底面うず巻き状のヘラ痕あり・ヘラ抜き痕あり
166	539	492	椀	土師器	16.6				橙		Z-37	87SX-01		II 2	外ロクロナデ・ミガキ・ケズリ、内ヘラミガキ、1mm以下の砂粒含む、外内面赤彩
166	540	483	椀	土師器					橙		Z-37	87SX-01		II 2	外ナデ、内ヘラミガキ、微砂粒含む、外底面ヘラ記号あり
166	541	484	高杯	土師器	13.7				淡黄		Z-37	87SX-01、溝状遺構周辺		II 2	外ロクロナデ、内ロクロナデ・指ナデ、微砂粒含む
166	542	485	鉢	土師器	18.4				淡黄		Z-37	87SX-01		II 2	外雑なヘラミガキ、内ナデ後ヘラミガキ?、内面暗文?
166	543	497	フイゴの羽口	土製品							Z-37	87SX-01		II 2?	
167	544	822	長頸瓶	須恵器	9.6				外灰、内オリーブ灰	A	Z-37	87SX-01	上層	II 1・2	外ロクロナデ、内不明瞭、黒粒MS 3~4、内面自然釉
167	545	761	長頸瓶	須恵器			11.4		灰	A	Z-37	87SX-01		II 1・2	外ロクロケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ、黒粒MS 4、内面中央降灰
167	546	490	小甕	土師器	14.0				灰黄褐		Z-37	87SX-01		II 2	外ロクロナデ・カキメ・ハケ・(ナデ)、内ナデ・ハケ・(ロクロナデ)、1mm前後の砂粒含む
167	547	496	小甕	土師器	16.6				外にぶい黄褐、内淡黄		Z-37	87SX-01西側遺構付近、87SX-01		II 2	外ロクロナデ後ナデ・ハケ後ケズリ、内ロクロナデ・ケズリ・(ハケ)、内面こげ→おかず
167	548	499	甌	土師器	21.5				浅黄橙		Z-37	87SX-01	上面	II 2	外(ロクロナデ)・カキメ、内ロクロナデ、内面黒変
167	549	466	長胴甕	土師器	18.2				外橙、内褐灰		Z-37	87SX-01		II 2	外ロクロナデ・雑なハケ、内ロクロナデ・ナデ・ハケ、1mm前後の砂粒含む、ハケ原体明瞭、外面煤付着、黒斑
167	550	486	長胴甕	土師器					浅黄橙		Z-37	87SX-01、溝状遺構周辺、87SX-01~大溝のミゾ	上層	II 2	外ハケ・カキメ・タタキ、内ハケ・タタキ、1mm以下の砂粒含む
167	551	500	長胴甕	土師器	23.5				外浅黄橙、内ぶい黄橙		Z-37	87SX-01	上面	II 2	外内ロクロナデ、微砂粒含む、外面煤付着、青野型
167	552	489	長胴甕	土師器	26.0				外にぶい黄橙、内浅黄橙		Z-37	87SX-01、溝状遺構周辺		II 2	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ナデ・ハケ、微砂粒多く含む
167	553	491	長胴甕	土師器							Z-37, B-37	87SX-01	包含層	II 2	外タタキ
168	554	498	長胴甕	土師器	22.5				にぶい黄橙		Z-37, A-38	87SX-01、溝状遺構周辺、87SK-21	包含層、上層	II 2	外ナデ・ハケ・ケズリ、内ハケ後ヨコナデ、内面きれい、外内面にタタキ風の小さな面が多数ある、外面煤付着
168	555	504	長胴甕	土師器					外にぶい黄橙、内褐灰		Z-37	87SX-01		II 2	外カキメ・ハケ・タタキ、内タタキ後ハケ・ナデ、外面煤付着
168	556	503	長胴甕	土師器	23.7	(29.4)					Z-37	87SX-01		II 2	外タタキ・ハケ・ケズリ、内ナデ・ケズリ
168	557	487	鍋	土師器					外にぶい黄橙、内ぶい黄褐		Z-37	87SX-01		II 2	外内ロクロナデ・タタキ、微砂粒含む、黒色物付着

第21表 遺物観察表19

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
168	558	502	把手付鍋	土師器					外灰黄、内灰黄～にぶい橙		Z-37, B-37, A-37	87SX-01, 大溝	包含層, 下層	II 2	外(ヨコナデ)・格子目タタキ後カキメ・指ナデ、内ヨコナデ・タタキ・ケズリ・ナデ、黒斑、炭化物付着(二次的なものか)
169	559	458	鍋	土師器	40.0				浅黄橙		Z-37	87SX-01		II 2	外ハケ後ロクロナデ・ケズリ、内ハケ・カキメ、外面煤付着
169	560	501	鍋	土師器	35.0				淡黄		A-37・38, Z-37	87SX-01, 大溝	包含層, 上層	II 2	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ・ハケ・ケズリ
169	561	493	鍋	土師器	40.5				にぶい黄橙		Z-37	87SX-01, 87SX-01～大溝へのミノ, 87SX-01西側遺構付近	上層	II 2	外指ナデ・ハケ・ケズリ、内ハケ後軽くナデ・(ケズリ)、1mm前後の砂粒含む
169	562	488	鍋	土師器	(36.8)				灰白		Z-37	87SX-01		II 2	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・ハケ・ハケ状具によるケズリ、1mm前後の砂粒含む
170	563	188	受口壺	須恵器	16.4				灰	B	B-20	P-5		II	外内ロクロナデ、外面タタキ痕
170	564	1485	杯B	須恵器	11.1	4.0	36.0		灰クリーム	D	B-19	S B-0 1	P-5	IV 2	
170	565	212	杯B	須恵器	14.0				内灰	B	B-20区, B-20・21	P-7	包含層	IV ?	外内ロクロナデ、黒色粒
170	566	215	小壺	須恵器			6.4		灰	A	B-23区	P-1 5		II	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ・ケズリ?面とり・ヘラ切り、内ロクロナデ、緑色自然釉
170	567	185	蓋	須恵器	17.2				灰	B	C-19	P-3 3		II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、外面降灰
170	568	184	杯B	須恵器			11.0		灰	D	C-19	P-3 8		II 3	外内ロクロナデ
170	569	187	甕	土師器	21.4				浅黄橙		C-19道路下, C-19	P-3 1	包含層	II 2～II 3	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ・ハケ・(ナデ)、外面あばた状の小剥離
170	570	186	小甕	土師器	14.1				外浅黄、内～にぶい黄橙		C-18	P 4 5		II 2～II 3	外薄くハケが残る・ケズリ・指押さえ、内薄くハケが残る、接合歪み
170	571	194	長胴甕	土師器					外橙、内～にぶい橙		B-23	S K-?		II 3～III	外タタキ・カキメ・ケズリ、内カキメ・ハケ・一部ナデ、外面煤付着
170	572	29	無台杯	須恵器							C-25	87SD-14		V 2	外内ロクロナデ
171	573	199	杯A	須恵器			10.0		灰	B	B-22	87SK-01		IV	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、底面平滑
171	574	200	杯B	須恵器	13.8	3.8	10.2		外側面暗灰・その他灰			87SK-02 南半		III	外内ロクロナデ、内面細かいロクロヒダ・平滑、外面自然釉(淡黄色、艶なし)・平滑
171	575	202	碗	土師器	(17.5)				橙			87SK-02 南半		II 3・III	外内ミガキ、胎土調整
171	576	201	長胴甕	土師器					外黒褐、内～にぶい褐		B-22	87SK-02		III	外カキメ・タタキ・ケズリ、内カキメ・ハケ・ナデ、内面アテ具のはし見える木目か?外面煤付着
171	577	203	長胴甕	土師器	21.6				浅黄橙			87SK-03		II 3・III	外内ロクロナデ・カキメ
171	578	198	長胴甕	土師器	23.0				外浅黄橙、内～にぶい黄橙			87SK-06		III～IV	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ後ロクロナデ、外面煤付着
171	579	197	長胴甕	土師器	23.5				浅黄橙			87SK-06		III～IV	外内ロクロナデ・カキメ、内面煤付着
171	580	193	小甕	土師器					にぶい黄橙		B-23	87SK-06		III～IV	外カキメ・ケズリ・ナデ、内カキメ、指ナデ、丸底、外面煤付着

第22表 遺物観察表20

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
171	581	217	長胴甕	土師器					外にぶい黄、内にぶい黄褐		B・C-23	87SK-06, 87SI-03, 87SK-06 西半深部, 87SK-02 南半	埋土	II3 ~III	外カキメ・タタキ・(ハケ)、内カキメ・ハケ・(ナデ)、1mm以下の砂粒含む、内面アテ具痕か? 外面煤付着
171	582	228	長胴甕	土師器	28.5				にぶい橙		B-23	87SK-10, 87SI-03SW, 87SI-03 拡張区	覆土、埋土、カマド付近	II2	外(ロクロナデ)・ハケ、内(ロクロナデ)・ハケ後ナデ、微砂粒多く含む
171	583	195	杯B蓋	須恵器	16.8	1.8			灰	B	B-23	87SK-10		II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ・(ヨコナデ)、内ロクロナデ・ナデ・(ヨコナデ)
171	584	192	杯B蓋	須恵器	(14.0)				外暗灰、内灰	B	C-19・20	87SK-11		IV1	外内ロクロナデ、黒色粒吹き出し、外面降灰
171	585	196	鍋	土師器	33.5				にぶい黄橙		B-23	87SK-10		II3	外ロクロナデ・カキメ・ハケによるケズリ、内ロクロナデ・カキメ・ハケ、外面煤付着
171	586	410	杯	須恵器	13.0				灰	B	B-36	87SK-20		II?	外内ヨコナデ
172	587	508	高杯	土師器					橙		A-38	87SK-21		II2?	外ヘラミガキ、内ヘラミガキ・ロクロナデ、微砂粒含む、外内面赤彩、脚内赤彩
172	588	507	小甕	土師器	11.6				外にぶい黄橙、内浅黄橙		A-38	87SK-21		II2	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ナデ・ハケ、1mm以下の砂粒含む
172	589	506	鍋	土師器	36.8				にぶい黄橙		A-38	87SK-21		II2・3	外内ロクロナデ・ハケ、1mm前後の砂粒含む
172	590	505	鍋	土師器	(34.0)				外浅黄橙、内淡黄		A-38	87SK-21		II2	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ・ハケ、1mm前後の砂粒含む、内面炭化物付着
172	591	509	長胴甕	土師器	22.0				外浅黄橙、内灰黄		A-38	87SK-21	包含層	II2	外ロクロナデ・タタキ・カキメ・ハケ、内ロクロナデ・ハケ後ナデ、1mm以下の砂粒含む、外内面煤付着、内面アテ具痕あり
172	592	561	椀	土師器					にぶい橙		A-40	87SK-25		II2?	外ロクロナデ、内ナデ、微砂粒含む、赤彩でない
172	593	554	杯B蓋	須恵器	17.1				灰		A-40	87SK-27		II2	外内ロクロナデ、外面濃緑色・自然釉・降灰
172	594	555	小甕	土師器	11.4				外にぶい褐、内淡黄		A-40	87SK-27		II2	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ナデ・ハケ、2mm以下の砂粒含む、外面煤付着
172	595	553	杯B	須恵器	16.0				灰褐	A	A-40	87SK-32		II3	外内ロクロナデ・ナデ
172	596	280	埴?	土師器	11.3				外にぶい橙、内にぶい黄橙		A-33・34・35	87SK-39, 87SX-02, 大溝	上層	II?	外内ロクロナデ・ケズリ、微砂粒含む
172	597	296	杯B	須恵器	14.2	4.3	8.6		外灰白、内浅黄橙	B	A・B-34	大溝, 87SK-40	包含層・上層	II3	外内ロクロナデ、内面細かいロクロヒダ、底面板状圧痕
172	598	295	杯B	須恵器	14.1	4.6	9.8		灰		A・B・C-34, 20区2トレ	87SX-02, 87SK-40	包含層	III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、底面板目
172	599	294	杯B蓋	須恵器	14.8	2.7			灰	B	B-34	87SK-42		II2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、鉄分粒大きいもの吹き出す、オリブ灰、重ね焼きの土器端部付着、外面釉
172	600	1500	杯B蓋	須恵器	14.7	3.3		1(A2)	青灰	B	B-34	87SK-42		II2	蓋上に2個重ね
172	601	279	小甕	土師器	13.8				外にぶい橙、内にぶい黄橙		B-34	87SK-42		II2	外ロクロナデ・ハケ、内横方向のハケ、1mm以下の砂粒含む、外面剥離が著しい
172	602	277	小甕	土師器	15.0				外灰黄褐、内浅黄橙		B-34	SK-42	包含層	II2	外ロクロナデ・ハケ後ゆるいカキメ、内ロクロナデ・ハケ、微砂粒含む、海綿骨片含む

第23表 遺物観察表21

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	造構	層位等	時期	備考
172	603	278	長胴甕	土師器	22.0				浅黄橙		B-34	87SK-42	包含層	II 2	外ヨコナデ・ハケ、内ヨコナデ・ナデ・ハケ・板状工具によるナデ(ケズリ風)
172	604	238	杯B蓋	須恵器	13.8				外暗灰、内灰	B, A	A-33	87SK-45, 87SI-08, 87SX-02	包含層	II 3	外ロクロナデ・ケズリ? ロクロケズリ、内ロクロナデ、重ね焼きの痕、外面降灰
173	605	1493	杯B蓋	須恵器	16.2	2.7		1(A 2)		A	A-34	87SX-02		II 3	
173	606	309	杯B蓋	須恵器	15.4	3.4			灰	B	A-34	大溝, 87SX-02, 87SX-03	下層, 礫層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面一部降灰
173	607	319	杯B蓋	須恵器	16.4	2.9		1	内灰白	B	A-33・34, D-35	87SX-02, 大溝	中層	II 3	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、仕上げナデ、つまみ径3.3cm、黒色粒ML 3、外面降灰をうけオリブ灰色の自然釉
173	608	317	杯B蓋	須恵器	15.0			1	灰	A	A・B-34, 20区2トレ	87SX-02	下層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面は自然釉浴びている
173	609	320	杯B蓋	須恵器	16.6				灰	B	A-33・34	87SX-02, 大溝	上層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、外面降灰うけている
173	610	321	杯B蓋	須恵器	17.6				外灰、内灰白	B	A-33・34	87SX-02		II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面降灰
173	611	318	杯B蓋	須恵器	16.2			1	外灰白、内灰	B	A-34	87SX-02		III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、外面降灰
173	612	1496	杯B	須恵器	15.1	3.6	23.9		灰くすむ	A, B	A-34	87SX-02		III	
173	613	1494	杯B	須恵器	14.2	4.4	31.0			D	A-34	87SX-02		II 3~III	
173	614	1495	杯B	須恵器	14.9	3.6	24.2		灰くすむ	A, B	A-34	87SX-02		III	
173	615	313	杯B	須恵器	15.0	3.7	(10.4)		内灰	A, B	A-33・34, 20区2トレ	87SX-02	下層	III	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、底面板目状痕
173	616	316	杯B	須恵器	16.2	4.7	10.4		灰	A	A-33・34	87SX-02, 87SX-03	礫層, 中層	III	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、内面比較的平滑、外面一部自然釉沸いている(黒灰色を呈する)
173	617	696	杯B	須恵器			9.9		灰		A-34	87SX-02		III	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、外内面平滑、底面墨痕あり、転用碗か
173	618	327	杯B	須恵器	14.8	3.9			灰	B	A-34	大溝, 87SX-02	上層	III	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、高台径9.6cm、高台高0.5cm、木目状圧痕
173	619	312	杯B	須恵器	(14.6)	(4.3)	(9.6)		灰白	A	A-35	87SX-02, 大溝	礫群, 下層	III	外内ロクロナデ、内面やや平滑、外面降灰、オリブ灰色の釉のたれ、オリブ灰色のガラス質の釉溜まっている、淡黄色の自然釉
173	620	310	杯B	須恵器	(11.6)	(4.4)	7.7		外灰、内灰白	A	20区2トレ	87SX-02	下層	III	外ロクロナデ・ロクロケズリ? 内ロクロナデ・ナデ、外面降灰、逆さ焼き
173	621	311	杯B	須恵器	10.0	4.2	7.0		外灰、内灰白	B	A-33・34・35	87SX-02, 大溝	下層, 上層	IV 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、内面比較的平滑、外面降灰、逆さ焼き
173	622	325	杯B	須恵器	11.6	3.9			灰	C	A-34	大溝, 87SX-02	上層, 中層, 包含層	IV 2	外内ヨコナデ、高台径8.6cm、高台高0.5cm、重ね焼きの痕あり、底面ヘラ記号、内面ヘラ痕あり
173	623	324	杯A	須恵器	14.6	3.5			灰白	B	A-33・34	87SX-02, 87SX-03		II 3~III	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ
173	624	322	杯A	須恵器	14.2	3.4	10.3		外褐、内におい橙		A-34	87SX-02, 87SX-03		II 3~III	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ・ナデ、底面ヘラ痕
173	625	284	椀	土師器	15~16	5.0			明赤褐		A-33・34	87SX-03, 87SX-02		II 3	外ミガキ・不定方向のケズリ、内ミガキ、外内面赤彩
173	626	283	小甕	土師器	15.0				におい橙		A-33・34	87SX-02, 大溝, 87SX-03	上層, 礫群	II 3	外ロクロナデ・カキメ・強いナデ、内ロクロナデ・ハケ、外内面煤付着

第24表 遺物観察表22

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
173	627	281	長胴甕	土師器	22.0				外灰黄・淡黄、内にぶい黄橙		A-34	87SX-02		II2~II3	外カキメ・ヘラケズリ後ハケ、内カキメ・ハケ
173	628	282	鍋	土師器	44.0				にぶい黄橙		A・B-34, 20区2トレ	87SX-02	下層	II3	外カキメ後ロクロナデ・ケズリ、内カキメ、1mm以下の砂粒含む
174	629	718	長頸瓶	須恵器					灰	D	A-34・36	87SX-02, 大溝	上層	II3	外ナデ・回転ケズリ、内ナデ・ロクロナデ、外面成形時の指の痕
174	630	285	鍋	土師器	30.0				内橙		A-33・34	87SX-02, 87SX-03, 大溝	中層, 上層	II3	外ロクロナデ・カキメ・ハケ、内(ロクロナデ)・カキメ・ハケ、ハケで丸底化?内面こげなし
174	631	811	横瓶	須恵器					灰	A	A-34・36・37・39・40, B-34	大溝, 大溝, 87SX-02	上層, 下層, 中層, 包含層	II3~III	外タタキ・カキメ、内タタキ・ロクロナデ、焼成焼き膨れ多い、黒粒M、内面降灰、平底底側、厚い自然釉黄色に腐殖
174	632	1497	杯B蓋	須恵器	15.4			1(A2)	淡灰	B	A-33	87SX-03	碟下	II3	
174	633	1498	杯B蓋	須恵器	16.8	3.4		1(A1)	灰くすむ	B	A-33	87SX-03	碟中・下	II3	内面平滑、墨痕あり
174	634	1499	杯B蓋	須恵器	16.1			1	淡青灰~淡紫灰	A	A-33	87SX-03	碟下	III	
174	635	323	杯A	須恵器	13.8	3.3	11.7		外暗褐灰~淡黄橙、内にぶい黄橙	B	A-34	87SX-03	包含層	III	外ロクロナデ・ロクロヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、板目状痕あり、重ね焼きにより火の当りがよくなかった部分浅黄橙色を呈する
174	636	315	杯A	須恵器	13.0	3.3	9.0		灰	B	A-34	87SX-03		III	外内ロクロナデ
174	637	307	杯A	須恵器	14.8	3.7	9.9		灰		A-34	87SX-03		II3	外ロクロナデ・ヘラ抜き、内ロクロナデ、ヘラ記号「-」、重ね焼きの痕、内面ザラザラしている
174	638	288	鍋	土師器	30.0				橙		A-35, 20区2トレ	87SX-03	包含層, 下層	II3	外ハケ、内ハケ・指押さえ
175	639	346	杯B蓋	須恵器	16.0	(3.6)			内灰	A	A-33	大溝	上層	II2~II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ヨコナデ、つまみ径(3)cm、内面やや平滑、黒色粒付着(鉄分と窯クソ?)・緑灰、外面全体的に降灰(淡緑色)
175	640	347	杯B蓋	須恵器	16.0	(2.9)			灰	B, A	A-33・34	大溝, 大溝上		II3	外ヨコナデ、内ヨコナデ・ナデ、つまみ径(2.7)cm、焼成焼き膨れ、重ね焼き、外面降灰(淡緑色、クリーム色)、釉が付着しているため調整不明
175	641	344	杯B蓋	須恵器	15.0		2.8		外オリーブ灰、内灰白	B	A-34	大溝	上層	II3	外ロクロケズリ・ナデ、内ヨコナデ・仕上げナデ、内面やや平滑、乾燥時の接地痕、杯B身か
175	642	345	杯B蓋	須恵器					内灰	A	A-33	大溝	中層	II3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、つまみ径3.2cm、内面平滑・スミ付着、転用硯、外面降灰
175	643	348	杯B	須恵器	14.4	3.8	10.2		灰	B	A-33	大溝	上層	II2~II3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、黒色粒吹出、タール状、内面平滑、外面自然釉?・平滑、底面指頭圧痕・土器片溶着痕、蓋B重、ロクロ右回転
175	644	349	杯B	須恵器	12.0	4.4	8.6		青灰	D	A-33・34	大溝	上層, 中層, 下層	III	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、内面やや平滑
175	645	314	杯B	須恵器	(15.0)	(3.5)	(10.5)		外灰、内灰白	B, A	A-33・34	大溝, SX-02	上層, 中層	III	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ、底面板目状痕
175	646	352	杯A	須恵器	13.5	3.3	10.2		外灰白色、内オリーブ灰色	B, A	A-33	大溝	中層, 上層	III	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、胎土クリーム色、微砂粒含む

第25表 遺物観察表23

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
175	647	351	杯A	須恵器	14.0	10.4	3.1		灰	A	A-33	大溝		II 3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面降灰、外面ヘラの跡あり(おこした時か)、重ね焼き
175	648	350	杯A	須恵器	14.0	3.9	11.3		灰白色	B	A-33	大溝	上層	III	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ・仕上げナデ、白色土塊多
175	649	353	杯A	須恵器	12.4	3.2	8.0		灰	D	A-33	大溝	上層	IV 1	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、ヘラ記号
175	650	356	椀	土師器	(18.0)				淡黄		A-33	大溝	上層	II 3 ~ III	外ヨコナデ?ロクロケズリ、内ミガキ?、白っぽい、外内面赤彩
175	651	357	椀	土師器	12.4	3.7	6.0		外淡黄、内黄灰		A-33	大溝	上層	V	外(ヨコナデ)・(ケズリ)・ロクロケズリ後ミガキ?内ミガキ、内黒、外面赤彩
175	652	358	高杯	土師器	(16.8)				浅黄橙		A-33	大溝	上層	IV	外内摩耗の為調整不明、外内とも赤彩
175	653	674	短頸壺	土師器	10.7				淡黄		A-33	大溝	上層	II 3 ~ III	外ヨコナデ・ロクロケズリ、内ヨコナデ、肩に膨らみあり、ヘラ記号状、外内面赤彩
175	654	817	短頸壺	須恵器	9.6				茶色ばい灰	A	A-33, A-34, A-35, A-38	大溝	上層, 下層	II	外ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ・ナデ、内ロクロナデ、外面浅い沈線状
175	655	788	短頸壺	須恵器					灰白	A, B	A-32・33・34	大溝, SK-46, SK-47, 壁崩落土	上層, 下層	II	外ロクロナデ・手持ちケズリ、内ロクロナデ・ナデ、1mm前後の砂粒含む
175	656	717	長頸瓶	須恵器					外明オリープ灰、内灰白		A-33	大溝	上層	II 3 ~ IV	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、微砂粒含む、外面沈線状・自然釉
175	657	686	長頸瓶	須恵器	(8.5)	(20.3)	10.8		灰	B (B, A)	A-33・34・36	大溝	包含層, 中層, 上層	II 3 ~ III	外ロクロナデ・ナデ・回転ケズリ、内ヨコナデ・ナデ・ロクロナデ、断面クリーム色、胴部肩9cm、MD16.5、MH7.0、内面降灰、外面降灰著しい、外側面片側自然釉、底面亀板か
176	658	681	横瓶	須恵器	13.0				灰白	A	A-30・33・34	大溝, 河	上層	II 3 ~ III	外ロクロナデ・格子目タタキ、内ロクロナデ・同心円タタキ、微砂粒含む
176	659	794	横瓶	須恵器					外明オリープ灰、内灰	D	A-32・33	大溝	包含層南半, 包含層, 中層	II	外ロクロナデ・タタキ後カキメ、内ロクロナデ・ナデ、微砂粒含む、内面アテ具痕あり
176	660	782	横瓶	須恵器					外灰、内灰白	B	A-33, 20区2トレ, A-36	大溝	上層, 下層	II ~ III	外平行タタキ後カキメ、内同心円状押捺痕・ナデ、黒色粒MS3、外面薄く釉滲んでいる
176	661	565	甕	須恵器								大溝		II	
177	662	333	杯B蓋	須恵器	(17.1)				灰	A	A-34	大溝, 87SX-02	下層, 中層	II 3	外ケズリ後ヨコナデ、内ヨコナデ、基部径17.2cm、残高1.4cm、黒色S粒多、重ね焼きの痕あり、外面降灰(淡緑色)・高台溶着
177	663	332	杯B蓋	須恵器	(16.2)				灰	A	A-34	大溝	下層	II 3 ~ III	外内ヨコナデ、基部径16.6cm、残高2.9cm、重ね焼きの痕、外面降灰、墨書「氏万呂」
177	664	369	杯B蓋	須恵器	13.6	2.9			灰	D	A-34区, A-35区	大溝	中層, 上層	IV 2	外内ヨコナデ・ナデ、外面板目痕
177	665	331	杯B蓋	須恵器	11.1	2.8			灰	D	A-34	大溝	上層	IV 2	外不明・(ヨコナデ)、内ヨコナデ、基部径11.3cm、つまみ径2.3cm、0.3~0.4cm大の砂礫を含む、断面サンドイッチ状、外面降灰(ガサガサしている)・オリープ灰、杯身口縁溶着、他の破片も付着、歪みあり

第26表 遺物観察表24

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
177	666	343	杯B	須恵器	14.8	3.9	10.2		灰	B	A-34	大溝	下層	Ⅲ	外内ヨコナデ、高台高0.5cm、白色土塊MS多、外内面スベスベしている、底部摩耗
177	667	326	杯B	須恵器	15.4	3.9			灰	B	A-33・34	大溝	中層, 上層	Ⅲ	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ、高台径10.4cm、高台高0.6cm、内面やや滑、外面自然釉付着
177	668	328	杯B	須恵器	15.6	(6.2)	(11.6)		灰	A	A-34	大溝	上層	Ⅳ1	外ロクロケズリ後ヨコナデ、内ヨコナデ・ナデ、底面気泡あり、高台剥離、内外面降灰、外面自然釉付着、ロクロ右回転
177	669	335	杯A	須恵器	12.6	3.7	8.6		灰	B	A-34	大溝	上層	V2	外内ロクロナデ・(ヨコナデ)、重ね焼き、粘土円柱φ7.3
177	670	334	杯A	須恵器	13.6	4.0	10.1		灰	D	A-34	大溝	上層	Ⅱ3	外内ヨコナデ、内面平滑・漆薄膜(縮みシワなく薄)漆塗りか?外面のものは細かいシワあり、ロクロ右
177	671	338	杯A	須恵器	12.7	3.5	8.4		灰	C	A-34	大溝	上層	Ⅳ	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、ロクロ右
177	672	336	杯A	須恵器	12.6	3.1	8.8		灰	D	A-34	大溝	中層	Ⅲ	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、ロクロ右
177	673	342	杯A	須恵器					灰	B?	A-34	大溝	下層	?	外ナデ、内ヨコナデ、工具痕、墨書
177	674	340	杯A	須恵器	14.0	3.3	10.4		灰	A	A-34	大溝	下層	Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、微砂粒含む、0.3cmの砂粒含む、灰流れる、内面平滑、内面全体降灰、外面自然釉付着
177	675	337	杯A	須恵器	14.0	3.2	9.4		灰	A	A-34	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ・ナデ、0.5mmの砂粒を含む、重ね焼きの痕、ロクロ右回転?底部ヨコナデは再調整か?
177	676	339	杯A	須恵器	13.6	3.3	10.7		灰	A	A-34	大溝	上層	Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、重ね焼きの痕、外内面降灰
177	677	341	杯A	須恵器	14.0	4.1	9.6		灰	A	A-34	大溝	下層	Ⅳ	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ・ナデ、内面平滑、ロクロ回転不明、ほぼ完成形
177	678	381	椀	土師器	16.8	6.2	10.3		浅黄橙		A-33・34	大溝	下層	Ⅱ3~Ⅲ	外ミガキ・ケズリ、内ミガキ、外内面赤彩
177	679	382	高杯	土師器			9.8		淡黄		A-34	大溝	下層	Ⅱ	外ヨコナデ、内ミガキ・ヨコナデ、内黒
177	680	380	小甕	土師器	14.0				外にぶい黄橙、内に淡黄		A-34	大溝	上層	Ⅳ	外ヨコナデ・カキメ、内ナデ・カキメ、内面炭化物付着
177	681	756	短頸壺	須恵器	17.7				灰		A-33・34・35・37・40・42, 20区23トレ, Z-37	大溝, 87SX-02, 87SX-03, 87SX-04	上層, 下層, 中層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・平行タタキ、内ロクロナデ・同心円文
177	682	379	長胴甕	土師器	(26.0)				外にぶい黄橙、内にぶい橙		A-34	大溝	上層, 下層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ後ハケ、内(ロクロナデ?)・カキメ、外面同一工具か・タタキ痕あり
178	683	371	杯B蓋	須恵器	16.6	2.7			灰	A	A-35	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロケズリ後ナデ、内ナデ、つまみ径2.9cm、白ゴマ多、外面降灰(クリーム・濃線)
178	684	370	杯B蓋	須恵器	16.0				灰白	D	A-35	大溝	上層, 下層	Ⅲ	外ロクロケズリ後ナデ、内ナデ、スミ?付着

第27表 遺物観察表25

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	造構	層位等	時期	備考
178	685	330	杯B蓋	須恵器	15.6	2.5			灰	B, A	A-34・35	大溝	下層, 中層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・ロクロケズリ、内ヨコナデ・ナデ、基部径15.6cm、つまみ径2.6cm、外面降灰、黒灰まだら
178	686	364	杯B	須恵器	(14.8)	(4.0)	(9.6)		灰	B	A-35	大溝	下層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ヨコナデ・指ナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、内面平滑、外面蓋Bの重ね・降灰
178	687	375	杯B	須恵器	(14.6)	(4.1)			灰	D	A-35	大溝	上層	Ⅲ	外内ヨコナデ・ナデ
178	688	373	杯B	須恵器	(16.4)	(5.7)	(10.1)		灰白	B	A-35	大溝	上層	Ⅳ	外内ヨコナデ、内面やや平滑、外面滑・重ね焼き痕
178	689	374	杯B	須恵器	12.4	4.2	8.1		灰	B	A-35	大溝	下層, 上層	Ⅳ1	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、外面重ね焼き
178	690	471	杯A	須恵器	(13.4)	(3.8)	(9.9)		灰	A	A-35・36	SX-01, 大溝	上層, 中層	Ⅳ1	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、黒色の大きな吹き出し、底面ヘラ記号あり
178	691	368	杯A	須恵器	14.0	3.9	10.0		外青灰、内灰	A	A-35	大溝	下層	Ⅱ2	外ナデ、外面やや平滑、底面板目痕
178	692	363	杯A	須恵器	15.6	4.1	10.6		明緑灰	B	A-35・36・37	大溝	下層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、白色土塊、同一重ね、底面板目痕、ロクロ右
178	693	372	杯A	須恵器	(14.0)	(2.8)	(11.2)		灰白	A (B)	A-35・36	大溝	上層, 中層, 下層	Ⅲ	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ・ナデ
178	694	376	杯A	須恵器	(15.3)	2.9	(12.8)		灰	A	A-35	大溝	上層	Ⅲ	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ・ナデ、外面重ね焼き痕、底面板目痕
178	695	367	杯A	須恵器	(13.2)	(3.5)	(10.0)		灰	A	A-35	大溝	下層	Ⅳ1	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、外面重ね焼き
178	696	365	杯A	須恵器	12.4	3.4	8.6		外灰白、内灰	B	A-35・36	大溝	下層	V1	外ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、巻き上げ、粘土凹柱、ロクロ左
178	697	362	杯A	須恵器	11.4	3.4	9.7		灰	D	A-35	大溝	下層	Ⅳ2	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ・回転ヨコナデ、底面ヘラ痕
178	698	361	杯A	須恵器	12.0	3.0	8.6		灰	B	A-35	大溝	下層	Ⅳ2	外ヨコナデ・ヘラ切り、内回転ヨコナデ、外面重ね焼き、ロクロ右(中心から外へ)
178	699	816	ハソウ	須恵器					灰	B	A-35	大溝	下層	I?	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ
178	700	751	小罎	須恵器			5.1		外灰、内灰白	A	A-35	大溝	下層	Ⅱ	外ロクロナデ・手持ちケズリ・ナデ、内ロクロナデ、外面重ね痕?有蓋か、底面板目状圧痕、破片あり
178	701	814	短頸壺蓋	須恵器			10.0		灰	A	A-35	大溝	下層	Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ
178	702	767	長頸瓶	須恵器					灰	D	A-34・35	大溝	下層	Ⅱ~Ⅲ	内ロクロナデ、3段接合
178	703	770	長頸瓶	須恵器					灰	A, B	A-34・35・36・40	大溝, 大溝外東岸	上層, 中層, 下層	Ⅱ~Ⅲ	内ロクロナデ、黒色粒S3、外面自然釉、外面調整不明瞭、3段
178	704	714	長頸瓶	須恵器					外灰オリーブ、内灰	D	A-33・35・37・38	大溝	下層	Ⅱ~Ⅲ	外ロクロナデ・面取り・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒多く含む、外内面自然釉、底面焼き台溶着
178	705	785	長頸瓶?	須恵器			9.6		灰白	D?	A-35, Z-38	大溝	下層, 中層	Ⅱ	外内ロクロナデ、微砂粒含む、未完成の穿孔、降灰、片寄る
178	706	792	横瓶	須恵器					明オリーブ灰	B	A-35・36・37・38	大溝	下層, 上層	Ⅱ~Ⅲ	外カキメ・タタキ、内ロクロナデ・タタキ、微砂粒わずか含む、内面降灰、外面溶着痕、立て焼き、平底

第28表 遺物観察表26

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
179	707	728	甕	須恵器	(21.0)				灰		A-36・38, B-34・35・38, Z-38	大溝上面, 大溝	上層, 包含層, 下層	II	外ロクロナデ・タタキ・カキメ・平行タタキ、内ロクロナデ・ナデ・同心円文、カキメ、内面ヘラ状工具による圧痕、外内面口縁部薄く自然釉沸いている
179	708	803	甕	須恵器					灰	E	A-34・35・37, 20区2トレ, B-34・35・38, C-34	大溝, SX-02, SD-23	上層	II	外ロクロナデ・平行タタキ後カキメ、内ロクロナデ・カキメ・同心円文、外面沈線・波状文
179	709	729	甕	須恵器							A-35	大溝	上・下層ほか	II	外ロクロナデ・タタキ・波状文、内ロクロナデ・同心円当具
180	710	400	杯B蓋	須恵器	15.8				灰白	B	A-36	大溝	たちわり	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む
180	711	399	杯B蓋	須恵器	16.0				外灰白、内黄灰	B	A-36	大溝	上層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、微砂粒少し含む、外面降灰
180	712	407	杯B蓋	須恵器	(17.4)				灰	A	A-36	大溝	中層	III	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ・(ヨコナデ)、基部径17.6cm、残高2.3cm、外面降灰、断面サンドイッチ状
180	713	383	杯B蓋	須恵器	17.4	3.1			褐灰		A-36	大溝	上層	II 3~III	外ロクロナデ・(ナデ)、内ロクロナデ、天井ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む、外面板目圧痕
180	714	428	杯B蓋	須恵器	16.4	3.3			外灰、内褐灰	B	A-34・35・36	大溝	下層, 上層	II 3	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む
180	715	815	蓋	須恵器	9.4				灰	B	A-36	大溝		II~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面平滑、薄く自然釉、転用硯
180	716	408	杯B	須恵器	15.7	3.8	10.7		灰	A	A-36	大溝	中層	II 2~II 3	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒多く含む、内面使用の為平滑、底面板目状圧痕あり
180	717	409	杯B	須恵器	15.2	5.6	11.0		灰白	A	A-36	大溝	中層	IV	外内ロクロナデ・ナデ、微砂粒含む、外面煤付着?
180	718	419	杯B	須恵器	15.5	4.2	10.2		灰白色	D	A-36・37Z-36・37	大溝	たちわり, 上層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む、内面平滑、返り蓋
180	719	405	杯B	須恵器	16.6	6.4	11.6		外灰、内明緑灰	B	A-36	大溝	中層, 上層	IV	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む、内面使用の為平滑
180	720	404	杯B	須恵器	15.6	6.1	12.0		灰	C	A-36	大溝	中層	IV	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒多く含む、内面使用の為平滑、底面摩耗
180	721	403	杯B	須恵器	10.2	4.5			灰	D	A-36	大溝	中層	IV	外ヨコナデ・ケズリ?内ヨコナデ、高台径7.4cm、高台高0.5cm、内面降灰・緑色、外面緑色の自然釉付着
180	722	429	杯B	須恵器					灰	B	A-36	大溝	下層	III	外ヨコナデ・ナデ?内ヨコナデ、高台径11.4cm、残高2cm、高台高0.8cm、内面ヘラ記号・漆付着
180	723	401	杯A	須恵器	14.0	3.0	9.4		灰	A	A-36	大溝	上層	III	外ヨコナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、外面重ね焼き痕、底面板目状痕あり、ロクロナデ(中心から外へ)ロクロ右
180	724	406	杯A	須恵器	14.4	3.6	8.4		灰	A	A-36	大溝	上層, 中層, 包含層	III	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、外面重ね焼き痕

第29表 遺物観察表27

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
180	725	406	杯A	須恵器	14.2	3.1	11.6		浅黄	A	A-36	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、外面使用の為平滑
180	726	397	杯A	須恵器	14.8	3.7	10.8		灰	A	A-36	大溝	中層, 上層, 包含層	Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、内面降灰、底面板目痕
180	727	388	杯A	須恵器	14.2	3.2	10.5		灰		A-36	大溝	中層, 上層	Ⅲ	外内ヨコナデ・ナデ、外面重ね焼き痕、ヘラ切り8.8cm
180	728	395	盤A	須恵器			10.6		灰	A	A-36	大溝	たちわり	Ⅲ	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ、残高1.1cm、内面器面アバタ状、外面一部に重ね焼き痕あり、小片は別個体
180	729	396	杯A	須恵器	14.2	3.6			灰	A	A-36	大溝	たちわり, 下層	Ⅲ	外ヨコナデ・ナデ、内ヨコナデ、重ね焼き痕(最上位)、内面降灰、底部ヘラ状工具痕あり・漆付着
180	730	378	杯A	須恵器	14.8	3.5	10.6		灰	A	A-35・36	大溝	上層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、内面滑・巻き上げ状痕、外面重ね焼き痕、ロクロ石、重い
180	731	402	杯A	須恵器	13.2	3.1	9.6		灰白	B, A	A-36	大溝	上層	Ⅳ1	外内ヨコナデ、器面摩擦している、ロクロ石
180	732	386	椀	土師器	14.5	2.9	7.4		橙		A-36	大溝	中層	Ⅱ3	外工具によるナデの後雑なヘラミガキ・ケズリ、内工具によるナデ、1mm以下の砂粒含む、内面暗文(底部らせん、体部放射)・赤彩、全外面赤彩、破片あり
180	733	385	椀	土師器	12.6	3.8	8.6		橙		A-36	大溝, 大溝東肩	上層, 中層, 包含層	Ⅱ3	外ヘラミガキ・ナデ、内ヘラミガキ、1mm前後の砂粒含む、黒色タール状のもの付着、内面・全外面赤彩、底面板目状圧痕あり
180	734	392	椀	土師器	(19.0)	4.2			橙		A-36	大溝	上層, 包含層	Ⅲ	外ヨコナデ・ケズリ、内ヨコナデ・不定方向のナデ、外内面とも赤彩
180	735	394	椀	土師器	16.6	3.1	12.8		外橙、内 にぶい赤 褐		A-36	大溝	上層	Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ケズリ、内ナデ、微砂粒含む、内面暗文・赤彩、全外面赤彩
180	736	393	椀	土師器	20.6				橙		A-36	大溝	上層, たちわり	Ⅲ	外ロクロナデ・ケズリ、内摩擦のため不明、内面・全外面赤彩、
180	737	431	椀	土師器					橙		A-36	大溝	上層, 包含層	Ⅲ	外内ヘラミガキ、微砂粒含む、断面サンドイッチ状、外内面赤彩
180	738	387	椀	土師器	9.0				橙		A-36	大溝	中層	Ⅲ	外ヘラミガキ・ケズリ、内ロクロナデ・ヘラミガキ、微砂粒少し含む、外内面共赤彩
180	739	390	高杯	土師器					外浅黄 橙、内黒		A-36	大溝	たちわり	Ⅱ	外ミガキ、内工具によるナデ、脚部最少径3.4cm、黒斑
181	740	389	小甕	土師器	18.5	19.5			浅黄橙		A-36	大溝 181	上層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヨコナデ・カキメ・ケズリ後ナデ・指押さえ、内カキメ後ハケ、胴部最大径19.3cm、内面汚れ?付着(外面の煤と付着部分が対応している)、丸底化(指押さえ部に対応)、おこげ(汁物・おかず)、外面煤付着、口縁がゆがんでいる
181	741	391	長胴甕	土師器	23.6				にぶい橙		A-36	大溝 181	上層	Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ後ヨコナデ、黒っぽい砂多い

第30表 遺物観察表28

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
181	742	384	銅	土師器	34.6						A-36	大溝	砂礫層	II2~III	外カキメ・ハケ・ケズリ、内カキメ後ヨコナデ・ハケ、外面一部煤付着
181	743	769	長頸瓶	須恵器	12.0				灰	A	A-35・36・38・39	大溝	上層, 中層, 下層	II~III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・工具によるナデ・ナデ、内面自然釉(灰オリープ)、外面暗灰・灰色
181	744	765	長頸瓶	須恵器					外黒・灰オリープ、内灰・灰オリープ	A	A-36, B-39	大溝	中層, 包含層	II~III	内ロクロナデ・ナデ、内面自然釉(灰オリープ・暗オリープ)、外面黒・オリープ灰、口縁小片
181	745	695	長頸瓶	須恵器			11.3		灰白	A	A-36・39・40・41, Z-39・40	大溝外東肩部, 大溝, 大溝上面	上層, 中層, 包含層, 下層	II~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面降灰によるオリープ色の自然釉(6cm位の円形範囲)、体部約半分降灰により灰オリープ色の自然釉かかっている、底面ヘラ記号「-」
181	746	698	長頸瓶	須恵器					灰白	A	A-34・36	大溝	上層	II~III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ヨコナデ、砂粒含む・黒色粒M4、外内面降灰、外面布で引く、底面剥離面あり、釉の腐蝕(淡黄色)
181	747	716	長頸瓶	須恵器			9.9		外灰白、内灰	D	A-36・40・41	大溝	たちわり, 下層	II	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む、内面中から打撃・灰釉、外面粘土片付着、底面ヘラ記号あり・意図的に欠いてある
181	748	711	長頸瓶	須恵器					外灰、内灰白	A	A-35・36・37・38	大溝	包含層, 上層, 下層	II	外ロクロナデ・面取り・ナデ、内ロクロナデ・ナデ、微砂粒多く含む、内面工具による圧痕
181	749	784	短頸壺?	須恵器			16.8		外灰、内灰白	D	A-36	大溝	たちわり部	II~III	外ロクロケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、1~3mmの砂粒少し含む、外底面工具の圧痕
182	750	687	短頸壺?	須恵器			(11.8)		灰	A	A-36, A-37, A-38, A-39, Z-40, Z-39	大溝, 大溝外東岸, 大溝際岸, 大溝護岸石	たちわり, 上層, 下層, カクラン, 中層	II	外カキメ・ロクロナデ・ロクロケズリ・面取り、内ロクロナデ・ナデ、内面凸凹目立つ・細かいロクロヒダ、外底部に板目状圧痕あり、外面ほぼ全面に降灰特に頸部~肩部の自然釉顯著でオリープ灰色の自然釉厚く垂れている、溶着物の大きな塊あり、内面に自然釉の垂れがある、内底部に薄く降灰みられる
182	751	772	短頸壺	須恵器	13.8				外灰白、内黄灰	B	A-36・37・39	大溝	たちわり, 上層, 下層	II	外内ロクロナデ・タタキ、微砂粒含む、外面沈線
182	752	680	横瓶	須恵器	13.0				灰	D	A-35・36・37・40, B-36, Z-37	大溝	上層, 包含層, 中層, 下層	II3~III	外ヨコナデ・タタキ後カキメ・指押さえ、内ヨコナデ・ナデ・タタキ、降灰
182	753	790	横瓶	須恵器					外灰、内灰白	A?	A-36	大溝	上層	II3~III	外内タタキ、焼成良、黒粒吹き出しM2~3、微砂粒含む、平底
182	754	694	横瓶	須恵器	10.5	19.7			外灰、内灰白		A-35・36・37・38・39・40・41・42, Z-36・37	大溝, 大溝東肩部	上層, 中層, 下層, 砂礫層, 包含層	II3~III	外ロクロナデ・平行タタキ後カキメ、内ロクロナデ・同心円状押捺痕・ナデ、口縁内面に自然釉沸いている
182	755	812	横瓶	須恵器					外灰、内オリープ灰	A	A-35・36	大溝	中層, 下層, 上層	II3~III	外カキメ・タタキ、内ロクロナデ・タタキ、黒粒MS4、ロクロヒダ

第31表 遺物観察表29

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
183	756	804	甕	須恵器					灰	A	A-36・40・41・42, Z-39・42, 19区1トレ	大溝, 北側排土	たちわり, 下層, 上層, 中層	Ⅱ～Ⅲ	外平行タタキ後カキメ、内同心円状押捺痕、外面降灰うけている
183	757	747	甕	須恵器							A-36	大溝	上層	Ⅱ	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ・同心円文当具B類
184	758	748	甕	須恵器							A-36	大溝	上層	Ⅱ～Ⅲ	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ・同心円文当具
185	759	432	杯B蓋	須恵器	17.8	3.9		1	灰	A	A-37	大溝	上層	Ⅱ3	外ケズリ(範囲不明)・ナデ、内ヨコナデ、内面細かいロクロヒダ、外面全体的に降灰・調整不明
185	760	534	杯B蓋	須恵器	18.2				灰	A	A-37, A-38, A-39	大溝	下層, 上層, 中層	Ⅱ3	外ロクロナデ・回転ケズリ、内ロクロナデ・ナデ、底面指頭痕
185	761	433	杯B蓋	須恵器	17.0	4.0			外浅黄、内灰白	A	A-37, B-37, Z-37西側付近	大溝, SX-01	下層, 上層, 包含層	Ⅱ	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、つまみ径3cm、微砂粒多く含む、内面使用の為やや平滑、外面降灰あり
185	762	434	杯B蓋	須恵器	15.8	3.6			外灰、内灰白	A	A-37, A-38	大溝	下層	Ⅱ3	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む
185	763	435	杯B蓋	須恵器	15.8			2 a	灰	B	A-37	大溝	下層	Ⅱ3	外指ナデ・ヨコナデ、内ヨコナデ、黒色粒目立つ
185	764	436	杯B	須恵器	15.2	3.9	10.2		灰白	B	A-37	大溝	下層, 上層	Ⅲ	外内ロクロナデ、微砂粒含む、内面使用の為円滑
185	765	523	杯B	須恵器	14.0	4.0	9.5		灰	B	Z-37, Z-38	大溝	上層, 中層	Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、外内面平滑、返り蓋か?
185	766	437	杯B	須恵器	15.4	4.2	10.6		灰白	A	A-37	大溝	下層	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、黒色細粒多、微砂粒含む、外面使用の為円滑
185	767	425	杯B	須恵器	(14.8)	(4.3)	(9.5)		外灰、内灰白	B	A-37	大溝, 大溝際	上層, 下層, 包含層	Ⅲ	外ヨコナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ・ナデ、外面重ね焼き痕、底面板目痕
185	768	450	杯B	須恵器	15.2	5.2	10.0		外浅黄橙、内にぶい橙	A	Z・A-37	大溝	上層	Ⅲ	外内ロクロナデ・ナデ、微砂粒多く含む
185	769	438	杯B	須恵器	17.2	4.8	12.4		明緑灰	B	A-37, A-39	大溝	下層	Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、墨?付着
185	770	444	杯B	須恵器	14.6	3.6	10.6		灰白	B	A-37, Z-37	大溝	下層, 包含層	Ⅲ	外内ロクロナデ・ナデ、微砂粒少し含む、底面板目状圧痕あり
185	771	420	杯B	須恵器	14.9	4.2	9.3		外青灰、内緑灰	A	A-37	大溝	上層	Ⅳ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、外内面使用の為平滑、高台接合前に3～4条の沈線
185	772	427	杯A	須恵器	14.6	3.3	10.4		灰	D	A-37	大溝	上層, 下層	Ⅲ	外ヨコナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、ヘラ痕か?
185	773	426	杯A	須恵器	14.2	3.5	11.0		灰白	D	A-37	大溝	上層	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、1～2mmの砂粒含む、底面ヘラ痕跡
185	774	439	杯A	須恵器	14.0	3.0	11.1		灰	A	A-37・38, Z-37, 分調20区3トレ	大溝	上層, 中層, 下層, 包含層	Ⅲ	外内ロクロナデ
185	775	421	杯A	須恵器	11.8	3.5	9.7		灰白	B	A-37	大溝	上層	Ⅳ1	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、外面重ね焼き痕
185	776	424	杯A	須恵器	12.7、13.2	3.3	8.5		灰	B	A-37	大溝	上層	V2	外ヨコナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ
185	777	422	杯A	須恵器	12.0	3.1	8.2		灰	D	A-37	大溝	上層	V1	外ヨコナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、ロクロ右
185	778	423	杯A	須恵器	(11.8)	3.6	(8.0)		灰白	B	A-37, A-36	大溝	上層	Ⅳ	外ヨコナデ・ヘラ切り後ナデ、内ヨコナデ、ヘラ記号あり
185	779	454	椀	土師器	18.0				浅黄橙		A-37	大溝	下層	Ⅱ2	外ミガキ、内ヨコナデ、内面暗文

第32表 遺物観察表30

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
185	780	453	椀	土師器	16.4				橙		A-37, Z-37	大溝, 大溝西	上層, 下層	II 2~II 3	外(ナデ)・ロクロケズリ、内工具によるナデ、3mm前後の砂粒1ヶ含む、外内面赤彩
185	781	457	椀	土師器			12.0		橙		A-37	大溝	上層	II 2~II 3	外ロクロナデ・ケズリ、内ヘラミガキ、外内面赤彩、底面黒斑
185	782	452	椀	土師器	(16.7)				浅黄橙		A-37	大溝	下層	II 2~II 3	外ミガキ・ケズリ?内ミガキ、外内面赤彩、外面炭化物付着
185	783	441	椀	土師器	(16.4)	4.6			淡黄		A-37	大溝	上層	II 2~II 3	外ミガキと思われるが摩耗により不明、内ミガキ、底面同心円状の痕跡、糸切りか(ヘラ切りかもしれない)
185	784	455	杯	土師器					浅黄橙		A-37	大溝	下層	II 2~II 3	外ミガキ、内ヨコナデ、内面暗文
185	785	456	高杯	土師器					外橙、内浅黄橙		Z・A-37	大溝	上層	II 2~II 3	外細かいヘラミガキ、内工具による横方向のナデ、微砂粒少し含む、外面赤彩
186	786	460	長胴甕	土師器	23.2				浅黄橙		A-37	大溝	上層, 包含層	II 2~II 3	外ヨコナデ・カキメ・ハケ、内ヨコナデ・ナデ・ハケ残る、1~2mmの砂粒含む、外面煤付着
186	787	451	長胴甕	土師器	25.0				外橙、内にぶい黄橙		A-37	大溝	上層	II 3~III	外ヨコナデ・カキメ・不規則なハケ・ケズリ、内ヨコナデ・ハケ・ロクロナデ・タタキ、1mm前後の砂粒
186	788	459	長胴甕	土師器	26.4				にぶい橙		A-37, A-38	大溝	上層, 中層, 包含層	II 3~III	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ、1~2mmの砂粒含む
186	789	706	長頸瓶	須恵器	(11.4)		11.4		外灰、内灰白	B	A-37, Z-37, Z-37上面, Z-38, A-40, A-41	大溝, SX-01, 大溝外東岸	上層, 中層	II 2~II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ、内ロクロナデ、黒粒MS3、口縁部外内面共灰オリーブ色のガラス質の自然釉で覆われている、内面灰オリーブ色の自然釉円形型に溜まっている・粘土片の溶着、底面溶着物あり
186	790	777	短頸壺	須恵器	12.6	(15.9)	8.5		外灰白、内灰	B	A-35, Z-40, A-36・37・38・39・40・41・42	大溝, 大溝護岸石中	下層, 砂礫層, 上層, 中層, たちわり	II ~III	外タタキ・ロクロナデ・カキメ・ケズリ・工具によるナデ、内ロクロナデ・雑な指ナデ、微砂粒含む、内面自然釉
186	791	699	長頸瓶	須恵器					灰	A	A-37・38	大溝	上層	II ~III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、黒色粒
186	792	697	広口瓶	須恵器			13.6		外オリーブ灰~灰、内灰黄褐		A-37, A-35	大溝, SI-06坑	中層, 中層の下, 下層, 覆土床, 上層	II 3~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、内面降灰・指頭圧痕あり、外面自然釉融着、粘土片溶着、底面亀板
186	793	783	長頸瓶?	須恵器			12.5		灰白	A	A-37, 分調20区3トレ	大溝	上層	III	外ロクロケズリ・ロクロナデ・ナデ、内不定方向のナデ、微砂粒含む、底面指起こし・爪状圧痕、溶着痕
187	794	723	短頸壺	須恵器	11.8	16.3	11.4		灰	B	A-34・36・37・38・39・40	大溝, 87SI-02, 87SI-07	包含層, 下層, たちわり, 上層, 覆土	II ~III	外ロクロナデ・カキメ・タタキ・雑なナデ、内ロクロナデ・ナデ、黒色粒MS4、微砂粒含む、外面破片溶着、底面板目状圧痕あり
187	795	810	短頸壺	須恵器			10.4		灰	D	A-37	大溝	上層	III~IV	外タタキ・ロクロナデ・ナデ・面取りヘラ、内ロクロナデ・工具によるナデ、内面降灰、外面指痕あり、底面板おこし
187	796	778	短頸壺	須恵器					外灰白、内灰オリーブ	A	A-37, A-39	大溝, SX-02	上層	II ~III	外カキメ・ロクロナデ・ケズリ?内ロクロナデ・カキメ、微砂粒多く含む、底付近の破片あり

第33表 遺物観察表31

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
187	797	755	甕	須恵器					灰	A	A-35・36・37・38・39・40・41	大溝, 近代溝	下層, 包含層, 上層, 中層, 砂礫層	IV	外ナデ・カキメ・タタキ、内ロクロナデ・タタキ後ナデ、黒粒L~S4、外面窯くそ付着、蓋なし
187	798	683	横瓶	須恵器	13.5	22.3			外灰白・暗灰、内灰白	A	A-37	大溝	上層	II	外ロクロナデ・格子目タタキ、内ロクロナデ・タタキ後カキメ・青海波タタキ、1mm前後の砂粒多く含む、外面溶着物あり
187	799	793	横瓶	須恵器	13.8				外灰白、内明オリープ灰		A-33・34・37・40・41、Z-38	大溝, S I-08	下層, 上層, たちわり	II	外タタキ・カキメ、内タタキ・ロクロナデ、微砂粒含む
187	800	806	横瓶	須恵器					外黒灰・オリープ灰、内灰	B, A	A-33~42, Z-38, 40	大溝, 大溝外東肩	下層, 中層, 上層, たちわり, 砂礫層	II	外タタキ後カキメ、内タタキ・ロクロナデ、黒粒MS3、外面一部自然釉、焼下、摩耗、破片細かい
188	801	759	甕	須恵器							A-37	大溝	下層	II	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ・同心円文当具
188	802	690	甕	須恵器	22.7				外オリープ灰、内灰オリープ		A-36・37・38, B-36・37, Z-37・38	大溝, 大溝東肩部	上層, 包含層, 中層	IV	外内ロクロナデ・タタキ、砂粒少し含む
189	803	802	甕	須恵器							A-37			II	外ロクロナデ・タタキ・波状文、内ロクロナデ・同心円文当具
189	804	308	甕	須恵器	(23.5)				灰		A-37	大溝	下層	IV	外ロクロナデ・カキメ後平行タタキ、内ロクロナデ・同心円文
190	805	535	杯B蓋	須恵器	15.1				灰	A	A-38, A-41, Z-40	大溝, 大溝東岸	たちわり, 包含層, 上層, 中層	II 1	外ロクロナデ・回転ケズリ(不明瞭)、内ロクロナデ、外面細かいロクロヒダ・自然釉・淡緑色
190	806	536	杯B蓋	須恵器	16.8				灰	A	A-38	大溝	下層	II 3	外ロクロナデ・回転ケズリ、内ロクロナデ、外面重ね焼きの痕、降灰
190	807	521	杯B蓋	須恵器	(15.4)	(3.0)			外灰白~淡黄、内灰白	A	A-38, Z-38, A39, Z-40, Z-A-38	大溝	上層, 中層	II 3~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、つまみ径3.1cm、内面ヘラ痕・ヘラ記号・重ね焼き痕(径約1.3cm)、内面自然釉、外面全体に降灰(ガラス質とぶ・クリーム色)うけて調整判別難しい
190	808	518	杯B蓋	須恵器	15.4				外暗灰、内灰	B	A-38	大溝	上層, 中層	II 3~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ
190	809	520	杯B	須恵器	14.9	3.8	11.0		灰	A	A-38	大溝	下層	III	外ロクロナデ・(ヨコナデ)、内ロクロナデ・ナデ・(ヨコナデ)
190	810	529	杯B	須恵器	15.0	4.4	9.6		灰	B	A-38, A-37	大溝	下層	III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、底面板目痕(高台接合前)、外面工具によるナデの痕
190	811	530	杯B	須恵器	16.0	5.4	11.8		灰	A	B-36, A-38	大溝	上層, 中層	IV 1	外内ロクロナデ(ヨコナデ)
190	812	525	杯B	須恵器	15.5	4.1	11.0		外暗灰、内灰	A	A-38, A-39	大溝	上層, 中層, たちわり, 砂礫	III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面平滑
190	813	532	杯B	須恵器	15.4	4.2	8.4		灰	B	A-40, A-38	大溝, 大溝外東岸	砂礫, 下層	III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、外内面平滑、底面ヘラ記号
190	814	539	杯B	須恵器	15.4	4.5	10.2		灰	A	A-38	大溝	下層	II 3	外内ロクロナデ、底面板目痕
190	815	531	杯B	須恵器	15.2	3.1	11.0		灰	B	A-38, A-40	大溝	下層	III	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ後ナデ、煤状のもの付着、漆記号、内面平滑
190	816	524	杯B	須恵器	12.6	4.2	9.4		外灰、内灰白	A	Z-38	大溝	上層, 中層	IV 2	外内ヨコナデ、内面シッタ痕か、ロクロ右
190	817	519	杯B	須恵器	18.0	5.9	11.6		灰	C	Z-38	大溝	上層, 中層	IV	外ロクロナデ・ナデ、内ナデ・(ロクロナデ)

第34表 遺物観察表32

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
190	818	543	杯A	須恵器			8.0		灰白	E, D	Z-38	大溝	中層	II 1	外内ロクロナデ・ナデ、骨片2、底面板目痕、No.6 1 7と同一胎土
190	819	527	杯A	須恵器	11.2	3.3	9.2		灰	D	A-38・39	大溝	上層, 中層, 下層	IV 1	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、黒色の吹き出しL 2、墨痕、底面板目痕
190	820	528	杯A	須恵器	14.6	3.8	11.0		灰	A	A-38	大溝	上層, 中層	III	外内ロクロナデ・(ヨコナデ)、ロクロ右
190	821	541	杯A	須恵器	14.0	3.3	10.4		灰	A	A-38	大溝	下層	II 3	外ロクロナデ・回転ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ・ナデ、外面平滑、底面板目痕
190	822	544	杯A	須恵器	14.1	3.6	11.0		灰	A	A-38, A-37	大溝	下層	II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、内面降灰、外面重ね焼きの痕、底面板目痕
190	823	526	杯A	須恵器	11.1	3.4	8.4		灰	A, C, B	Z-38	大溝	上層, 中層	IV 1	外ヨコナデ・(ナデ)、内ヨコナデ、内面使用痕、外面重ね焼きの痕、底面墨痕か
190	824	542	杯A	須恵器			8.0		灰白	B	A-38	大溝	上層, 下層, たちわり	IV 2	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ後ナデ、底面板目痕・板状工具による操痕(ナデ?)
190	825	533	高杯	須恵器					灰白	B	A-38, Z-38	大溝	上層, 中層, 包含層	II	外ロクロナデ、内ナデ、暗文
190	826	522	高杯	須恵器	23.0				灰	A, B	A-38	大溝	上層, 中層	III ?	外ロクロナデ・回転ケズリ、内ロクロナデ
190	827	511	椀	土師器	20.8	5.4	11.0		外明赤褐、内浅黄橙		A-38	大溝	上層, 中層, 下層, 包含層	II 3~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ハケ・ヘラミガキ、内面暗文、外内面赤彩、ロクロヒタ、胎土須恵系、松任産
190	828	513	椀	土師器	19.2				浅黄橙		A-38, Z-38・39	大溝	上層, 中層	III~IV	外ヨコナデ・ケズリ・ミガキ、内ミガキ、外内面赤彩
190	829	514	杯	土師器	11.9	3.7	6.8		浅黄橙		A-38	大溝	(灰褐色)砂層, 下層	III~IV	外ヨコナデ・ケズリ・ヘラ切り、内ヨコナデ、外内面赤彩
190	830	515	椀	土師器	16.6	5.6	7.1		浅黄橙		A-38	大溝	上層, 中層	III~IV	外ミガキ・ケズリ、内ミガキ、外内面赤彩
191	831	516	長胴甕	土師器	(22.6)				外淡赤橙、内にふい橙		A-38	大溝	上層, 中層	III	外カキメ後ヨコナデ・タタキ後ケズリ、内カキメ後ヨコナデ
191	832	517	長胴甕	土師器	20.8				にふい黄橙		A-36・38, Z-37	大溝	上層, 中層	II 2~III	外タタキ・ロクロナデ・ハケ後カキメ、内ロクロナデ・タタキ・ハケ、1mm前後の砂粒含む
191	833	649	甗	須恵器	26.3	25.3	12.9		外オリーブ灰、内灰白		A-34・35・37・38・39・40	大溝	下層, たちわり, 砂礫層	II	外カキメ後軽いナデ、ケズリ、内タタキ・ロクロナデ・ケズリ、微砂粒含む
191	834	707	長頸瓶	須恵器					灰	B, A	A-34・35・36・38・39・40・41・42, Z-38・39	大溝	下層, 上層	II~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・指押さえ、黒色粒、外面自然釉
191	835	703	長頸瓶	須恵器					外オリーブ灰、内明青灰	A	A-38	大溝, 東より肩~溝内	上層	II~III	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む、内面自然釉付着、接合2段に近いのか?
191	836	813	小型広口壺	須恵器					灰	D, B	A-34・35・36・38・39	大溝	下層, たちわり	II ?	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ
191	837	766	長頸瓶	須恵器					灰	A	A-38	大溝	上層, 中層	II~III	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、内面上部一部光沢のない薄い自然釉

第35表 遺物観察表33

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
191	838	732	長頸瓶	須恵器			10.6		灰	D	A-36・38	大溝	上層, 中層	IV	外回転ケズリ・ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・指ナデ・ヘラ切りか? 外面肩部測面に比べて薄い灰色、底面内面調整雑・色調中心部白っぽい、内底面凹凸、底面板目
192	839	722	広口瓶	須恵器					外灰・オリープ灰、内灰	B, A	A-38・39, Z-38	大溝	上層	III	外内ロクロナデ、外内面自然釉、外面2本沈線
192	840	796	長頸瓶	須恵器					外緑灰、内灰	D	A-34・35・36・37・38・39・40	大溝	下層, 上層, たちわり, 砂礫	II	外カキメ・ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む、外面ヘラ記号あり
192	841	734	短頸壺	須恵器	(9.5)				暗灰		A-35・36・37・38・39・40・41	大溝外東肩, 大溝, 地区各種大溝中東岸	下層, たちわり	II~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・多方向のナデ、外面ひき出し痕・蓋の痕跡あり・重ね焼きの痕
192	842	752	小壺	須恵器					外オリープ灰、内灰白	B	A-35・38	大溝	下層	II?	外ロクロナデ・カキメ・タタキ、内ロクロナデ、微砂粒含む、底部叩き出し
192	843	538	枡	須恵器	7.6	1.9			灰	A	A-38	大溝	下層	?	外ロクロナデ・回転ケズリ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、黒色粒MS3~4
192	844	768	平瓶	須恵器			6.2		灰白	A	A-38・39・41	大溝, 北排土	下層	II	外ロクロケズリ・ケズリ、内ロクロナデ、内面自然釉、底面板目痕
192	845	800	甕	須恵器	24.6				灰白		A-37・38・39・40, B-38, Z-37・38	大溝, 大溝外東岸, 北側排土, SX-01	下層, 中層, 上層, 砂礫	II	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・タタキ、1mm前後の砂粒多く含む、内面工具痕
192	846	725	甕	須恵器	(23.6)				灰	B	A-38	大溝	上層	II	外タタキ・ロクロナデ・平行タタキ、内ロクロナデ・同心円状押捺痕、歪みあり
193	847	598	杯A蓋	須恵器	13.0	3.3		1	灰	D	A-39・40	大溝	下層	II2	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径2.7cm、外内面降灰見られる、内面平滑
193	848	537	杯B蓋	須恵器	13.0	3.1		1	灰	D	A-38・39	大溝	下層, たちわり, 砂礫	IV2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、濃灰色・うすい灰色、外面降灰
193	849	594	杯B蓋	須恵器	16.0	3.5		1	外灰、内褐灰	B	Z-38・39	大溝	上層, 中層	II2	外ロクロナデ・ロクロケズリ後ナデ、内ロクロナデ後ナデ、つまみ径2.9cm、内面やや平滑・重ね痕
193	850	593	杯B蓋	須恵器	16.2	3.3			灰白	B	A-39	大溝外東肩部, 大溝	砂礫上面	III	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、つまみ径3cm、内面重ね焼きの痕
193	851	599	杯B蓋	須恵器	15.1	2.8			灰白	A	A-39	大溝	下層	II3~III	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径2.9cm、外面降灰うけている(灰白~オリープ灰色)
193	852	571	杯B	須恵器	15.5	3.8	9.9		灰	A	A-39・40	大溝	下層	II3	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、内面やや平滑
193	853	600	杯B	須恵器	15.0	4.0	8.7 (8.6~8.8)		灰	B	A-38・39	大溝	下層, たちわり, 砂礫	II2~II3	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、内面平滑、底面板目痕、返り蓋
193	854	575	杯B	須恵器	(15.2)	(4.0)	(9.8)		外灰、内灰白	A	A-39	大溝外東肩部		II3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、外面薄く自然釉沸いている・一部火の当り不均一の為か釉の飛んでいる箇所あり

第36表 遺物観察表34

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
193	855	577	杯B	須恵器	(14.6)	(3.9)	(10.2)		灰	A	Z-39・40	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、外面黒灰色の釉薄く滲れている、底面板目状痕あり
193	856	576	杯B	須恵器	(14.6)	(3.9)	(10.7)		灰	B	A-39・40	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ、外面自然釉滲れている、底面板目状痕
193	857	578	杯B	須恵器	(14.1)	4.1	8.6		灰オリーブ	D	A-39・40	大溝, 大溝外東肩部	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面比較的平滑、脚部貼り付け時の粘土の始末雑である・脚部の粘土の色は淡黄色を呈する、縮状
193	858	579	杯B	須恵器	(11.8)	(3.8)	(9.0)		灰	A	A-37, Z-39	大溝	上層, 中層, 下層	Ⅳ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、底面板目痕あり、外底ヘラ記号あり「-」
193	859	570	杯A	須恵器	14.0	3.2	11.2		灰	B	A-39		たちわり, 砂礫	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ（ヘラ切り）、内ロクロナデ・仕上げナデ、外面やや平滑・重ね焼き痕（帯状に薄く滲れている）、底面板目状痕あり
193	860	573	杯A	須恵器	(13.6)	(3.3)	(7.2)		外灰白、内灰	B	A-39	大溝	下層	Ⅱ3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面平滑、外面火の当りが強い、底面板目状痕あり、有蓋か？
193	861	616	杯A	須恵器	14.2	3.2	10.4		灰	A	A-38・39・40	大溝	下層, たちわり	Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、板状圧痕あり、外面重ね焼きの痕
193	862	558	杯A	須恵器	14.0	3.0	10.0		灰	B	A-39・40, Z-40	大溝	たちわり, 砂礫, 下層, 上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面平滑、外面重ね焼きの痕
193	863	587	杯A	須恵器	14.8	4.0	9.7		灰	B, A	A-39	大溝外東肩部		Ⅱ3	外内ロクロナデ、内面降灰、外面重ね焼きの痕、外内面ロクロヒダ目立つ、外面と比較して内面黒い
193	864	590	杯A	須恵器	15.0	3.8	12.0		灰白	A, B	A-39	大溝外東肩部		Ⅲ	外内ロクロナデ、内面平滑、外面重ね焼き痕・使用痕、底面板目・ヘラ抜き取り跡
193	865	584	杯A	須恵器	(13.4)	(3.6)	(9.2)		灰	B, A	A-40, Z-39	大溝	上層, 中層, 最下層	Ⅳ1	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデ、内面全体に降灰、外面薄く滲れている・重ね焼きの痕、底面ヘラ抜き取り跡（幅0.85cm）・板目（幅5.3cm）
193	866	592	杯A	須恵器	13.0	3.4	8.8		灰	B, A	A-39・40	大溝, 大溝上面	たちわり, 砂礫上面, 砂礫層	Ⅳ1	外内ロクロナデ、重ね焼きの痕、底面板状圧痕あり・ヘラ抜き取り
193	867	591	杯A	須恵器	14.0	3.1	11.2		灰	A	A-39	大溝東肩部		Ⅲ	外内ロクロナデ、外面重ね焼きの痕、底面ヘラ抜き取り痕
193	868	572	杯A	須恵器	(13.4)	(3.4)	(10.0)		灰	A	A-38・39	大溝	下層	Ⅳ1	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、細黒色粒多、外面降灰、底面板目状痕あり（幅5.9cm）
193	869	582	杯A	須恵器	(14.1)	(3.8)	10.4		灰	A	A-39・40, Z-39	大溝外東肩部, 大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り後丁寧なナデ、内ロクロナデ、外面重ね焼きによる降灰、底面ヘラ指痕・板目状痕あり・粘土片付着

第37表 遺物観察表35

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
193	870	585	杯A	須恵器	(14.0)	(3.2)	8.4		灰白	B, A	Z-39	大溝	上層, 中層	IV2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面薄く降灰うけている、外面重ね焼きの痕、底面板目状痕あり、3重
193	871	589	杯A	須恵器	13.0	3.6	10.0		灰	C	A-39	大溝東肩部		IV1	外内ロクロナデ、外面重ね焼きの痕、ロクロ右
193	872	588	杯A	須恵器	13.8	2.8	11.4		灰	B	A-39	大溝東肩部		Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、内底ロクロヒダ目立つ、外面重ね焼きの痕、底面へら抜き取り(幅0.7cm)、4重
193	873	574	杯A	須恵器	12.6	3.4	9.2		灰	C	A-39	大溝, 大溝上面	上層, 中層, 下層	IV2	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、外面使用痕
193	874	586	杯A	須恵器	(12.5)	(3.7)	(8.6)		灰	D	Z-39	大溝	上層, 中層	IV2	外ロクロナデ・ヘラ切り後軽くナデ、内ロクロナデ、巻き上げ、断面竊状、底面へら痕
193	875	581	杯A	須恵器	(13.8)	(3.9)	9.5		外灰、内灰(紫～緑)	B, A	A-39	大溝外東肩部		IV1	外ロクロナデ・ヘラ切り後丁寧なナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、内外面平滑
193	876	580	杯A	須恵器	(12.4)	(3.5)	9.0		灰白	B	A-39	大溝外東肩部		IV2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内底面にへら記号「X」、外面薄く釉沸いている・平滑
193	877	583	杯A	須恵器	(12.8)	(3.1)	(9.5)		灰	A	A-39	大溝外東肩部	たちわり, 砂礫	IV1	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、外内面重ね焼きによる降灰、全体に平滑である、3重
193	878	597	高杯	須恵器			(20.2)		灰	C	A-39	大溝	たちわり, 上層	IV	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面重ね焼き痕・平滑である、外面降灰
193	879	546	椀	土師器	18.0				橙		A-39	大溝	下層	II2～II3	外ミガキ、内ロクロナデ、赤色調製、暗文、斜放射二段
193	880	545	椀	土師器					橙		A-39	大溝	下層	II2～II3	外ミガキ・ヘラ切り?内ミガキ、外内面赤彩、粗製
193	881	549	椀	土師器	(15.7)	(3.2)	(10.0)		にぶい橙		A-39	大溝	上層	Ⅲ～IV	外横位のミガキ・ロクロケズリ・粗いミガキ、内ケズリ後ナデ、放射暗文、内底らせん暗文あり、外内面赤彩を施してあるが摩耗進んでいる
193	882	547	杯B	土師器			12.0		橙		A-39	大溝	下層	Ⅲ～IV	外内ミガキ、外内面赤彩、外底赤彩
193	883	548	盤	土師器	(14.9)	(1.3)	(11.5)		明赤褐		A-39	大溝	上層, 中層	Ⅲ～IV	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・部分ミガキか?、カクセン石含む、外内面赤彩
194	884	182	把手付鉢	須恵器	19.8				灰白		A-39	大溝, 大溝外	下層, 東肩部	II	外ロクロナデ・指ナデ、内ロクロナデ・(把手はりつけ部分のみケズリ・ナデ)、1mm以下の砂粒含む、差し込み式
194	885	550	長胴甕	土師器	(20.0)				にぶい橙		A-39	大溝	上層, 下層	Ⅲ～IV	外ロクロナデ・カキメ・タタキ、内ロクロナデ・カキメ・アテ具によるナデつけ
194	886	671	長胴甕	土師器	(22.0)	(25.4)			外にぶい黄橙、内淡黄		A-38・39	大溝東肩部, 大溝	上層, たちわり, 包含層	II2～II3	外ヨコナデ・ハケ後一部ナデ・一部ケズリ、内ハケ、胴部最大径21.5cm、膨らみ(膨らんだ部分の外をけずる)、外面煤付着
194	887	560	長胴甕	土師器					淡黄橙		A-39	大溝外東岸, 大溝東肩部, 大溝	上層, 中層, 下層	II2～II3	外内面カキメ、胴部へら記号、近江型?
194	888	569	鍋	土師器	35.0				淡黄		A-38・39	大溝, 大溝外東岸	上層, 中層	II2～II3	外ハケ後ロクロナデ、内ハケ後ロクロナデ・ケズリ

第38表 遺物観察表36

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
194	889	652	鍋	土師器	34.0				浅黄橙		A-39・41・42	大溝	下層, 上層, 中層, 包含層東肩	II 2~II 3	外ロクロナデ・指押さえ・ハケ・ケズリ(ナデ)、内ロクロナデ・ハケ、微砂粒含む、外面剥離・一部煤付着・接合
194	890	762	長頸瓶	須恵器	9.5				灰	B	A-39・40, Z-39	大溝	上層, 中層, 下層	II	外ロクロナデ、内ロクロナデ・工具によるナデ、外面しぼった痕・沈線
195	891	709	長頸瓶	須恵器	11.6				浅黄	A	A-39・42, B-37	大溝	下層, 上層, 中層, たちわり	II 3~III	外カキメ後ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・指ナデ、微砂粒含む・黒色粒
195	892	710	長頸瓶	須恵器			10.1		外灰、内褐灰	B	A-36・39・40・42	大溝, 大溝外東肩	砂礫層, 下層, 中層	II	外ロクロナデ・ナデ・(ハケ)、内ロクロナデ・指押さえ・ナデ、外面細かい沈線・タタキ調整で丸底か
195	893	809	小壺	須恵器					灰	B	A-39	大溝	下層	II	外カキメ・帯状のケズリ、内ロクロナデ、漆接着
195	894	701	長頸瓶?	須恵器					外灰、内灰白	D	A-39, Z-38・39	大溝	上層, 中層, 砂礫上面	II	外ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面降灰をうけ灰オリーブ色の自然釉溶着、丸肩の長頸瓶か?
195	895	730	短頸壺	須恵器	12.0	23.0	15.4		灰	A	A・Z-39	大溝	上層, 中層, たちわり	II~III	外ケズリ、内ロクロナデ・ナデ、内面指の痕、外面溶着物・自然釉、焼き台
195	896	805	甕	須恵器	15.0	25.6			灰	A	A-37・38・39・40, Z-38	大溝, 大溝上面, SX-02, 地区各種大溝中東岸	下層, 上層, 中層, 砂礫上面, 包含層	II	外(ロクロナデ)・カキメ・タタキ、内ロクロナデ・タタキ、内面自然釉、外面自然釉(オリーブ灰)、厚い緑色の自然釉
195	897	780	横瓶	須恵器	(10.6)				外灰~黒灰、内黒灰	D	A-38・39・40・41, B-39, Z-39	大溝	上層, 中層, 砂礫層, たちわり, 下層	II~III	外ロクロナデ・平行タタキ、内ロクロナデ・青海波状押捺痕か、外面灰黄褐色・灰オリーブ色の釉がかかっている、灰黄褐色の不透明な釉がかかっている
195	898	753	横瓶	須恵器	15.0	25.3			外灰白、内黄灰		A-36・37・39・40・41・42	大溝	たちわり, 上層, 中層, 下層, 砂礫	II~III	外内タタキ・ロクロナデ、微砂粒含む
196	899	621	杯A蓋	須恵器			(11.6)		灰白	B, A	A-40	大溝	下層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面降灰うけている
196	900	614	杯B蓋	須恵器	16.6	3.2			灰	B, A	A-40	大溝	下層, 中層	II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径3cm、黒色粒M~S、内面平滑・薄く釉沸いている、外面全体に降灰(灰オリーブ色を呈する)
196	901	605	杯B蓋	須恵器		3.0	17.6(17.5~17.7)		外暗オリーブ灰、内灰	A	A-40	大溝外東肩部		II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径3.8cm、均M砂5、内面漆断片点々と付着、外面ほぼ全面降灰うけやや厚めに自然釉沸いている
196	902	568	杯B蓋	須恵器		(3.5)	(16.3)		外灰、内灰白	B	A・Z-40	大溝, 大溝上面	たちわり, 下層, 包含層, 最下層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ後ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径3cm、外面ヘラ抜き痕か?
196	903	619	杯A(有蓋)	須恵器	12.0	3.5	7.4		灰	A	Z-40	大溝	たちわり, 下層	II 1~II 2	外内ロクロナデ、土器の一部付着(重ね焼きの痕)、外側面濃い灰色
196	904	618	杯A(有蓋)	須恵器	13.0	3.0	8.8		外灰オリーブ、内灰	A	A-40	大溝	砂礫層	II 1~II 2	内ロクロナデ、重ね焼きの痕、外側面口縁部端部降灰・自然釉(オリーブ灰)
196	905	601	杯B蓋	須恵器			(18.6)	1	灰	A	A-40	大溝上面	包含層	III?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、残存高(2.6)、内面重ね焼きの痕、長いシワ

第39表 遺物観察表37

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
196	906	823	杯B蓋	須恵器			(19.3)		外灰、内灰白		Z-40	大溝西岸	礫群, 中層	Ⅲ?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、重ね焼きの痕、外面降灰うけている、601と同一個体か?
196	907	540	杯B	須恵器	14.8	4.6	10.0		灰	B	A-38, Z-40	大溝	上層, 中層, 下層	Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、外内面平滑
196	908	564	杯B	須恵器	15.1	4.5	10.4		灰	B	Z-39・40	大溝	上層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、外内面平滑、外面重ね焼きの痕
196	909	617	杯B	須恵器			12.6		灰白	E	A-40	大溝	下層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ・(ロクロケズリ)、1mm前後の砂粒含む、細かく欠けている、内面平滑、底面爪状圧痕
196	910	608	杯B	須恵器	(11.7)	(3.9)	(8.6)		灰	C	A-40	大溝	上層	Ⅳ2	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、外面降灰
196	911	556	杯B	須恵器	12.0	4.6	8.5		灰白	C	Z-40	大溝	上層, 中層	Ⅳ2	外ロクロナデ・ケズリ? 内ロクロナデ・ナデ
196	912	559	杯B	須恵器			12.8		灰	B	Z-40	大溝	上層, 中層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・回転ケズリ、内ロクロナデ・ナデ、内面やや平滑、丁寧な調整
196	913	602	杯A	須恵器	(13.2)	(3.8)	(7.5)		外灰、内灰白	B, A	A-40	大溝内東岸		Ⅱ2~Ⅱ3	外ロクロナデ・面とりヘラ・ヘラ切り・2次ヘラ、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面平滑、外面降灰
196	914	604	杯A	須恵器	14.9	3.3	11.5		灰白	A	A-40	大溝外東肩部		Ⅱ3	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面平滑、外面重ね焼きによる降灰、底面板目状痕あり
196	915	620	杯A	須恵器	14.2	4.0	10.1		外にぶい赤褐、内にぶい橙	A	A-40・41	大溝上面, 大溝外東肩	包含層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、内外面灰白色、底面板目状痕あり
196	916	647	杯A	須恵器	(13.6)	(3.9)	(10.5)		灰	A	A-40	大溝外東岸		Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り・ナデ、内ロクロナデか?、内面厚めに降灰
196	917	563	杯A	須恵器	14.0	3.4	9.8		紫がかつた灰	A	A-40	大溝	下層	Ⅱ3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・(ナデ)、内面重ね焼きの痕、底面板状圧痕あり
196	918	603	杯A	須恵器	(15.0)	(2.8)	(9.8)		灰	B	A-40	大溝, 大溝外東岸, 大溝上面	上層, 包含層, 中層	Ⅲ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、重ね焼きの痕、内面平滑、底面ヘラ切り・板目状痕あり、ヘラ抜き取り痕
196	919		杯A	須恵器	13.8	3.1	11.1							Ⅲ	
196	920	1503	杯A	須恵器	14.2	3.3	23.2		青灰	A	A-40	大溝	東岸	Ⅲ	
196	921	615	杯A	須恵器	12.0	3.3	7.5		外灰、内灰・一部淡黄	D	A・Z-40	大溝	下層, 上層, 中層	Ⅳ	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面平滑
196	922	622	杯A	須恵器	12.5	8.0	3.1		灰褐	C	A・Z-40	大溝	下層, 包含層	Ⅳ	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ
196	923	623	杯A	須恵器	14.8	3.4	11.0		灰	A	A-40	大溝	下層, 上層	Ⅲ	外内ロクロナデ
196	924	1502	杯A	須恵器	13.3	3.8	28.6		淡灰(緑)	A	A-40	大溝	東岸	Ⅱ3	
196	925	607	杯A	須恵器	(12.8)	(3.6)	(9.3)		灰白	B	A-40	大溝	上層	Ⅳ2	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、薄く釉滲している、底面真中付近調整雑で不均一
196	926	566	高杯	須恵器	17.8				外褐灰、内黄灰		Z-40	大溝西岸	礫群北	Ⅱ	外ケズリ・ロクロナデ、内ナデ・ロクロナデ、1mm以下の砂粒含む
196	927	567	高杯	須恵器	18.4				外褐灰、内オリープ灰		A-40・41, Z-40	大溝, 大溝西岸, 大溝上面	たちわり, 包含層, 上層, 中層, 礫群北	Ⅱ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、1mm以下の砂粒含む
196	928	799	高杯	須恵器					外暗灰、内灰	B	A-40	大溝	上層	Ⅰ	外内ロクロナデ、微砂粒含む

第40表 遺物観察表38

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
196	929	613	椀	土師器	18.2				明赤褐		A-40	大溝	砂礫層	Ⅱ3~Ⅲ	外(回転?)ミガキ・回転ケズリ、内ナデ・(ミガキ)、暗文(細線)、外内面赤彩
196	930	610	椀	土師器	19.0	4.0	13.0		明赤褐		A-40	大溝	中層, 下層, 上層	Ⅲ~Ⅳ	外回転ミガキ・ロクロケズリ・(ミガキ)、内ミガキ、石英・砂多、内面口縁部アバタ状に剥離している
196	931	612	椀	土師器	19.0	4.2	14.0		明赤褐		A-40	大溝	中層	Ⅲ~Ⅳ	外回転ミガキ・ロクロケズリ・ロクロナデ・(ミガキ)、内ミガキ・ナデ、外内面赤彩
196	932	611	蓋(つまみ)	土師器					浅黄橙		A-40	大溝	上層	Ⅲ~Ⅳ	外内摩耗の為不明瞭、非赤彩
196	933	609	高杯	土師器	15.6				明赤褐		A-40	大溝, 大溝外東肩部	下層, 中層, 上層	Ⅱ3~Ⅲ	外ハケ後雑なミガキ、内ナデ・(ハケ)・(ミガキ)、内面らせん暗文、外内面赤彩
197	934	745	長胴甕	土師器					浅黄橙		A-40	大溝		Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・タタキ、内ロクロナデ・カキメ、1mm前後の砂粒含む、内面アテ具
197	935	746	長胴甕	土師器	24.2				浅黄橙		Z-40	大溝	上層, 中層, たちわり	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・ナデ・タタキ、内ロクロナデ・カキメ、微砂粒含む、アテ具痕か?
197	936	818	ハソウ	須恵器					灰	A	A-40	大溝	たちわり, 砂礫	I	外内ロクロナデ、内面自然釉・オリブ釉
197	937	720	長頸瓶	須恵器	14.0				外オリブ黒、内灰	D	A-40	大溝	たちわり, 砂礫, 下層	Ⅱ~Ⅲ	外内ロクロナデ、内面降灰
197	938	693	長頸瓶	須恵器	11.6				灰	D	A-39・40, B-39, Z・D-38	大溝内東肩ビット状内, 大溝外東肩, 大溝, 87SK-18	上層, 中層	Ⅱ~Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、内面縦3向の亀裂は焼成時のものか?外面浅い沈線2条・降灰うけている、底面あたりの沈線・非ロクロ、高台剥離
197	939	737	枡	須恵器			8.0		外オリブ灰、内灰	B	A-40	大溝	上層, 下層	?	外ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、黒粒MS3、微砂粒含む、かるい大型、上部の破片あり、枡形土器
197	940	713	長頸瓶	須恵器			11.4		灰	A	A-38・39・40・42, B-30・35, Z-38・40・42, 19区1トレ	大溝, 大溝上面, 河, 87S I-09	上層, 下層, たちわり	Ⅱ	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、黒色粒M3、肩部艶のない淡黄色の自然釉、外面降灰
197	941	700	長頸瓶	須恵器					灰	B	A-39, Z-40	SK-21, 大溝, SX-01坑, SX-01, 大溝西岸	上層, 中層, 下層, 礫群北	Ⅱ	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ
197	942	704	長頸瓶	須恵器					外灰オリブ、内灰白	B	A-40・41	大溝外東岸, 大溝, 大溝内東岸ビット状内	下層, 中層	Ⅱ~Ⅲ	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、微砂粒少し含む、外内面自然釉付着、外面タタキ目あり
197	943	754	長頸瓶	須恵器					灰	D	A-33・39・40・41	大溝, 大溝外東岸	砂礫層, 下層	Ⅱ~Ⅲ	外ロクロナデ・タタキ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・指押さえ、微砂粒わずかに含む
197	944	771	広口瓶?	須恵器					灰	D	A-39・40, Z-40, 19区1トレ	大溝, 大溝上面, 北排土	上層, たちわり, 包含層, 中層	?	外内ロクロナデ、外面4本沈線
198	945	705	広口瓶	須恵器					灰	A	A-38・40, B-35	大溝上面, 大溝	上層, 包含層	Ⅱ~Ⅲ	外内ロクロナデ、微砂粒含む、外内面降灰

第41表 遺物観察表39

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
198	946	773	短頸壺	須恵器			13.6		灰オリーブ	C	A-39・40・41	大溝, 東肩	上層, 包含層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・面取りヘラ・ケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む、内面灰釉付着、外面沈線・自然釉、焼き膨れ多い
198	947	731	短頸壺	須恵器	19.4				外オリーブ灰、内灰白	B	A-36・37・39・40・41・42	大溝, 大溝外東肩	砂礫層, 下層, 砂礫上面, 上層, 包含層, 中層, 砂礫	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・タタキ、微砂粒含む
198	948	685	短頸壺	須恵器	13.4	20.0	12.4		灰白	A	A-39・40・41	大溝, 大溝外東肩部, 大溝外東岸	砂礫, 上層, 中層, 下層	Ⅲ~Ⅳ	外弱いタタキ・カキメ後ロクロナデ・面取り・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、外面肩の部分から底部にかけて自然釉がたれ落ちている、底面板目状圧痕あり・溶着物あり、横瓶と作り・焼き・胎土類似
198	949	684	短頸壺	須恵器	(11.3)	(14.8)	11.4		灰	A	A-40・41, Z-38・40	大溝	中層, 上層, 下層, たちわり, 砂礫, 土中、地排土	Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ・丁寧なナデ、内ロクロナデ・丁寧なナデ、外面沈線5条廻っている・降灰うけている・全体に自然釉滲っている、底部押し出し・指頭圧痕、有蓋
198	950	719	平瓶	須恵器			11.0		灰オリーブ	A, D かF	A-39・40・41・42	大溝	中層, 下層, 砂礫層	Ⅱ	外カキメ・ロクロナデ・ナデ・ケズリ、内ロクロナデ、骨片1、1~2mmのほぼ均等な長石・石英3~4、1mm前後の砂粒含む
198	951	789	横瓶	須恵器					緑灰	B, C	A-37・39・40, B-37, Z-38	大溝, 大溝上面	中層, 下層, 包含層, たちわり, 上層	Ⅱ~Ⅲ	外カキメ、内タタキ、微砂粒わずかに含む、外面タタキ痕
198	952	791	横瓶	須恵器					灰白	B	A・Z-40	大溝上面, 大溝	上層, 中層	Ⅱ~Ⅲ	外内ロクロナデ、内面降灰みられる、外面ヘラ状具の痕あり・粘土片の付着・釉の輪が出来ている・重ね焼き、底にして焼成、杯形?の焼き台痕
199	953	682	横瓶	須恵器	11.2	25.3			灰	A	A-38・39・40・41・42, Z-40	大溝, 大溝際岸, 大溝外東岸, 大溝東肩, 大溝東岸	上層, 中層, 包含層, 最下層, 砂礫層, 下層	Ⅱ~Ⅲ	外タタキ・カキメ・ナデ・(ヨコナデ)、内タタキ・ヨコナデ・(ナデ)、黒色粒吹き出す、口縁から胴部上部自然釉、丸底叩き出し
199	954	797	甕	須恵器	24.0				灰	B	A-35・37・38・39・40・41・42, B-37, Z-38・39	大溝, 大溝上面, 87S K-32, 87S X-01, 87S X-01周辺, 87S X-01北排土	下層, 上層, 中層, 砂礫上面, 砂礫層, たちわり, 砂礫, 包含層	Ⅱ	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・タタキ、内面工具痕(アテの際か?)、外面沈線1本
199	955	801	甕	須恵器	27.0				オリーブ灰		A-37・38・39・40・41・42	大溝, 大溝外東岸	上層, 下層, 中層	Ⅳ	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・タタキ、微砂粒多く含む
199	956	726	甕	須恵器	23.2				灰白	B	A-38・39・40・41・42, Z-40	大溝, 大溝上面, 大溝一部上面, 大溝東肩部	上層, 包含層	Ⅳ	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・同心円タタキ、微砂粒含む
200	957	739	甕	須恵器							87S X-01 拡張			Ⅱ	
201	958	635	杯蓋	須恵器	15.4				外灰オリーブ、内灰白	A	A-41・42	大溝	上層, 中層, たちわり	Ⅱ2	外ロクロナデ?ロクロケズリ?内ロクロナデ、外面ガラス質の釉で厚く覆われている
201	959	634	杯蓋	須恵器	15.0				灰白	A	A-41	大溝, 大溝外東岸	上層	Ⅱ2	外ロクロナデ?ロクロケズリ?内ロクロナデ、重ね焼きの痕、外面全体厚めに釉付着

第42表 遺物観察表40

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
201	960	557	杯B蓋	須恵器	16.0				外灰オリーブ、内灰	X, C	A-40・41, Z-40	大溝	上層, 中層, たちわり, 下層	II 3	外ロクロナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみが付いていたと思われる、外面自然釉(灰オリーブ色)を呈する・一部溶着あり・細かいロクロヒダ
201	961	642	杯B蓋	須恵器	16.6				外灰白、内灰	A	A-41・42	大溝	上層, 下層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、外面全体降灰
201	962	636	杯B蓋	須恵器	16.6	3.3			外灰、内灰白	A	A-40・41・42, Z-41	大溝西岸, 大溝	下層, 上層, 中層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、外面全体に降灰
201	963	651	杯B蓋	須恵器	16.7	3.4			灰白	A	A-41・42	大溝	上層, 中層, 下層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ(ケズリ)、微砂粒含む、外面降灰
201	964	627	杯B蓋	須恵器	16.3				外灰、内灰白		A-41	大溝外東肩		II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、内面薄く釉沸いている・平滑、外面降灰、つまみ付き
201	965	808	杯B蓋	須恵器					外灰、内オリーブ灰	B	A-40・41	大溝	下層	II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・ナデ、つまみ径3.1cm、微砂粒わずかに含む、粘土、胎土精製
201	966	632	杯B	須恵器	16.8	4.9	10.8		灰	A	A-41	大溝	中層	II 2~II 3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面平滑、底面雑な為か粘土くず付着
201	967	631	杯B	須恵器	15.4	4.2	11.3		灰白	B	A-41	大溝	中層	II 3	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、底面板目状痕
201	968	626	杯B	須恵器	16.0	4.7	9.3		灰	A	A-41	大溝	下層	II 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、底面板目状痕、高台に溶着物あり
201	969	633	杯B?	須恵器			16前後		灰白		A-41	大溝	上層	II 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、内面やや平滑
201	970	798	高杯	須恵器	13.8		9.3		灰白	A	A-40・41・42	大溝、大溝外東肩部	上層, 中層	II 2~II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、1mm前後の砂粒含む
201	971	738	高杯	須恵器					灰白	A	A-41	大溝		II 2~II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、微砂粒多く含む、内面自然釉付着(淡緑色)
201	972	638	杯A	須恵器	14.0	2.8	10.6		灰	B	A-41	大溝	上層	III	外ロクロナデ・(丁寧な)ナデ、内ロクロナデ・ナデ
201	973	625	杯A	須恵器	11前後	4内外	7.7		灰白	B	A-41	大溝外東肩		IV 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、底面比較的平滑、底径に較べて器高高い
201	974	672	盤A	須恵器	16.0	1.9	14.0		灰白	B	A-41	大溝	中層	V 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・仕上げナデ、重ね焼きの痕、薄く釉沸いている
201	975	624	椀	土師器	19.6				橙		A-41			II 2~II 3	外ロクロナデ・ハケ・軽いヘラミガキ、内ハケ、微砂粒含む、焼土塊含む、内面暗文あり
201	976	640	椀	土師器	16.6	4.5	10.4		橙		A-41・42	大溝	上層, 中層, 下層, たちわり	II 2~II 3	外回転ミガキ・ロクロケズリ、赤色調整、暗文
201	977	630	椀	土師器	(19.0)				明赤褐		A・Z-41	大溝	上層, 下層	II 3~III	外ミガキ、内ハケ後ミガキ、外内面赤彩
201	978	637	長胴甕	土師器	24.0				浅黄橙		A-40・41	大溝、大溝上面、大溝外東肩部	上層, たちわり, 砂礫, 包含層	II 3~III	外ロクロナデ・カキメ・(タタキ)、内(ロクロナデ)・カキメ・(タタキ)
201	979	628	長胴甕	土師器	22.8				橙		A-41	大溝外東肩		II 3~III	外内ロクロナデ・カキメ、2mm以下の砂粒含む

第43表 遺物観察表41

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
202	980	708	長頸瓶	須恵器					灰白	B	A-37・38・40・41	大溝, 大溝内東岸	中層, 上層, 下層, たちわり, 砂礫	II~IV	外ロクロナデ・ケズリ? 内ロクロナデ, 微砂粒わずかに含む, 内面降灰, 外面厚い自然釉腐殖・黒斑部分あり, 蓋が溶着
202	981	763	長頸瓶	須恵器					外灰黄, 内灰	A	A-41	大溝	上層	II~IV	外ロクロナデ, 内ロクロナデ後ナデ, 黒粒MS3, 内面自然釉(暗オリーブ灰), 外内面形成時のしぼり痕残る, 3段B
202	982	764	長頸瓶	須恵器					灰	A	A-41	大溝	下層	II~IV	外内ロクロナデ, 黒粒M4(とける), 外面光沢のない自然釉・腐殖
202	983	820	平瓶か小瓶	須恵器	6.0				灰	A	A-41	大溝外東肩		V	外内ロクロナデ, 内面自然釉, (暗オリーブ)
202	984	819	小壺	須恵器	8.4				灰	A	A-41	大溝	中層	IV	外内ロクロナデ
202	985	787	長頸瓶	須恵器			10.3		外灰, 内灰白	D	A-41	大溝	上層	IV~V	外ケズリ・面取りヘラ・ロクロナデ・ナデ, 内ロクロナデ・ナデ, 5mm前後の砂粒含む, 内面降灰, 底面指起こし・爪型痕あり・板目痕
202	986	715	長頸瓶	須恵器					外灰白, 内オリーブ灰	A	A-40・41・42	大溝	上層, 下層, 中層, たちわり	II~III	外ロクロナデ・ケズリ, 内ロクロナデ, 黒色粒ML4, 微砂粒多く含む, 外面灰釉(腐殖)・しわ
202	987	807	短頸壺	須恵器					外暗灰・オリーブ灰, 内灰	D?	A-41	大溝	下層	II~III	外カキメ, 内ロクロナデ, 黒粒L3, 自然釉
202	988	702	平瓶	須恵器	(16.0)				灰白	A	A-36・39・41・42	大溝外東肩部, 大溝, 大溝外東岸, 大溝上部	上層, たちわり, 中層, 下層, 包含層, 北排土	II	外ロクロナデ, 内ロクロナデ・ナデ, 黒色粒ML5, 焼き膨らみあり, 口縁部焼き膨れ顕著, 内面一部降灰, 底部破片あり
202	989	749	平瓶	須恵器					外灰オリーブ, 内明青灰	B	A-39・40・41	大溝, 大溝外東岸	砂礫上面, 下層	II	外ロクロナデ・ロクロケズリ, 内ロクロナデ, 黒粒M3, 微砂粒含む
202	990	735	円面硯	須恵器	13.6				外明オリーブ灰, 内灰白	B	A-41	大溝上面		?	外ロクロナデ, 内ロクロナデ・ナデ, 黒粒L~S2~3, 微砂粒含む, 透かし穴, 降灰, 使用痕乏しい
203	991	724	甕	須恵器							A-41	大溝	たちわり	II~III	外タタキ・ロクロナデ, 内ロクロナデ・同心円
203	992	758	甕	須恵器	(22.5)				灰	B	A-39・40・41・42, Z-38, 40, 41	大溝, 大溝上面, 大溝東・西岸, 一部大溝東岸	たちわり, 下層, 上層, 中層	II	外ロクロナデ・カキメ・平行タタキ, 内ロクロナデ・カキメ・同心円
203	993	727	甕	須恵器	25.2				浅黄	B	A-41杭そばの土坑, A-39・40・41, Z-40・41	大溝, 大溝外東岸, SX-01坑, 大溝西岸礫群北, 中央礫群北のビット	上層, 中層, たちわり, 最下層, 砂礫層, 下層	II	外カキメ・ロクロナデ・タタキ, 内ロクロナデ・タタキ, 微砂粒含む
204	994	658	杯B蓋	須恵器	16.2	3.3			外淡黄, 内灰白	A	A-42	大溝, 一部上面, 一部大溝東岸	上層, 包含層, 中層	III	外ロクロナデ・ケズリ, 内ロクロナデ, 微砂粒含む
204	995	650	杯B蓋	須恵器	15.8				灰白	B	A-42	大溝	下層, 上層, 中層	III	外ロクロナデ・ケズリ, 内ロクロナデ, 微砂粒少し含む
204	996	653	杯B蓋	須恵器	12.0				1 青灰	B	A-42	大溝	上層, 中層	III	外ロクロナデ・ケズリ, 内ロクロナデ, 1mm以下の砂粒含む
204	997	639	杯B	須恵器	(14.0)	(4.3)	(10.4)		外灰, 内灰白	B	A-40・41・42, B-41	大溝	上層, 中層, 包含層, 砂礫層	III	外ロクロナデ・ヘラ切り, 内ロクロナデ, 内面平滑, 外面薄く釉滲いている, 底面ヘラ抜き痕あり
204	998	1501	杯B	須恵器	15.0	5.2	34.7		灰	A	A-42	大溝	東岸	II3	内底平滑
204	999	659	杯A	須恵器	14.4	3.5	11.2		灰白	A	A-42	一部大溝東岸, 大溝, 一部上面	包含層, 上層	III	外ロクロナデ・ナデ, 内ロクロナデ, 微砂粒多く含む, 底面回転糸切り痕あり・板目状圧痕あり

第44表 遺物観察表42

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
204	1000	629	椀	土師器	(17.2)				明赤褐		A-41・42	大溝、大溝一部上面	上層、中層、下層	II 2~II 3	外ミガキ・ロクロナデ、内ミガキ、内面に放射状暗文、外内面赤彩
204	1001	657	椀	土師器	14.4	2.7	10.8		橙		A-42	大溝	上層、中層	III~IV	外丁寧なナデ・ロクロケズリ、内ヘラミガキ、1mm以下砂粒含む、外内面赤彩
204	1002	641	長胴甕	土師器	22.0				橙		A-41・42, Z-41	大溝、大溝上面	上層、中層、下層、たちわり、包含層	II ?	外不明瞭、内(ロクロナデ)、体内調整不明、骨片3、内面器面白色薄膜、外面煤付着
204	1003	750	長頸瓶	須恵器			11.8		灰	A	19区2トレ、A-40・41・42, Z-37・40	87SX-01西側付近、大溝際岸、大溝	上層、中層	II	外ナデ・カキメ・ロクロナデ、内ロクロナデ、黒粒M3~4、内面付着物(窯くそ)、外面一部自然釉(オリープ灰)
204	1004	776	短頸壺?	須恵器					外灰オリープ色、内灰白	A, B	A-42	大溝	下層	II	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、内面降灰あり、底割れし断面に自然釉がしみこむ、短頸壺か広口瓶
204	1005	712	短頸壺	須恵器					灰	B	A-35・38・40・41・42, Z-38	大溝、87SX-01	中層、上層、下層	II	外ロクロナデ・ナデ・ケズリ、内ロクロナデ・指押さえ、内面艶のない淡黄色の自然釉・降灰著しい、内面肩部側面一部黒っぽい灰色、外面肩部灰色、外面側面黒っぽい灰色、蓋なし
204	1006	733	短頸壺	須恵器	15.6	13.6			暗灰	B	A-41・42	大溝	上層、中層、下層	II	外カキメ?ロクロナデ・ハケ・タタキ、内ロクロナデ・タタキ、外内面自然釉
204	1007	692	横瓶	須恵器	12.2				灰		A-42	大溝	下層	II	外タタキ・ロクロケズリ・ロクロナデ・(ナデ)、内タタキ・ロクロナデ・ナデ、内面自然釉、外面一部自然釉、ヘラ記号
205	1008	757	甕	須恵器							A-42			II~III	外ロクロナデ・タタキ、内ロクロナデ、同心円文
205	1009	757	甕	須恵器										II~III	
205	1010	654	土鍾	土師器	4.7	1.3			外褐灰		A-42	大溝	上層	?	外ナデ、微砂粒含む、重量9.2g
205	1011	655	土鍾	土師器	(3.9)	1.5			外にぶい黄橙		A-42	大溝	上層	?	外ナデ、微砂粒含む、重量7.5g
206	1012	205	杯B蓋	須恵器	(18.0)				灰白	B	C-24		包含層	II 2	外内ロクロナデ
206	1013	209	杯A	須恵器	14.4	3.8	10.5		灰白	B, A	B・C-23		包含層	II 2	外ロクロナデ・丁寧なナデ、内ロクロナデ、内面やや平滑、外面重ね焼きの痕、底面平滑・あらい板目状痕かすかに残る
206	1014	207	杯A	須恵器	14.0	3.0	9.7		灰	A	C-23		包含層	II 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面やや平滑、外面重ね焼きの痕、外底面は褐色の汚れか?
206	1015	208	杯A	須恵器	(13.9)	(3.4)	(10.0)		灰	B	C-23		包含層	IV 1	外ロクロナデ・丁寧なナデ、内ロクロナデ、外内面漆付着、底面平滑
206	1016	206	椀	須恵器	(18.0)				灰	B	C-24			II	外内ロクロナデ、外面重ね痕
206	1017	191	椀	土師器	17.4				赤褐		C-19道路下、C-17・18道路下、C-20	SK-11	包含層	II 2~II 3	外細かいミガキ・ケズリ、内細かいミガキ、暗文、外内面赤彩
206	1018	164	高杯	土師器	(17.8)				明赤褐		18道下			III~IV	外強いロクロナデ・ロクロケズリ・(ミガキ)、内強いロクロナデ・(ミガキ)、松任産?外内面赤彩、外面剥離多い

第45表 遺物観察表43

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
206	1019	165	高杯?	土師器	(13.0)				赤		B-17・18			Ⅲ～Ⅳ	外内ミガキ?、外内面赤彩、厚い
206	1020	179	鉄鉢	須恵器	(20.2)				灰白	B	C-19農道下		包含層	Ⅱ	外ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ、内ロクロナデ
206	1021	176	鍋	土師器	(35.6)				外にぶい黄橙、内浅黄橙		C-17・18道下			Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ後ナデ、外面煤付着
206	1022	178	広口瓶	須恵器	(21.4)				灰白	D	C-19道路下, C・D-20・21農道東		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外内ロクロナデ、内面釉の飛沫付着、外面自然釉沸いている
206	1023	173	横瓶	須恵器					灰白	B	C-17・18道下, C-17・18			Ⅱ～Ⅲ	外平行タタキ・静止ケズリ、内ナデ・青海波状押捺痕、内面降灰の塊付着・緑色のガラス質の釉付着、外面輪じみの様に釉沸いている・緑色のガラス質の釉たれている
206	1024	174	長胴甕	土師器	(22.0)				橙		C-17・18道下	S I - 0 4	カマド内	Ⅳ?	外摩耗・ケズリ、内摩耗、ロクロヒダ、破線
206	1025	204	甕	須恵器					外暗灰、内灰		C・D-20・21, C-19道路下		包含層	Ⅱ	外内ロクロナデ、外面波状文・沈線、外面全体に自然釉わき暗灰色を呈する、内外面共黒色の釉の飛沫付着
207	1026	595	杯B蓋	須恵器		3.3	15.4		灰白	A	A-39	大溝外東肩部	包含層	Ⅱ2	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ケズリ・(ヘラケズリ)、内ロクロナデ、つまみ径2.7cm、外面重ね焼き痕(9cm内外のものか?)、外面の2/3に降灰
207	1027	248	杯B蓋	須恵器	18.1	3.3			灰白		A-32		包含層	Ⅱ3	外軽いロクロケズリ・ロクロナデ、内ナデ・ロクロナデ、つまみ径3.9cm、微砂粒含む、内面工具の押さえ残る
207	1028	252	杯B蓋	須恵器	18.6				灰	A	A-32		包含層	Ⅱ3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、重ね焼きの痕、外面降灰
207	1029	247	杯B蓋	須恵器	17.0				外灰オリープ、内灰白		A-32		包含層	Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロケズリ・ロクロナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、外面降灰
207	1030	30207	杯B蓋	須恵器	16.7	3.5			灰白	A	A-35		包含層	Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径2.9cm、重ね焼きの痕、外面降灰・淡黄色の不透明の自然釉
207	1031	648	杯B蓋	須恵器	15.6	3.1			外灰、内灰白	A	A-41・42	一部大溝東肩、大溝	上層, 包含層	Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ・ケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む
207	1032	241	杯B蓋	須恵器	14.8				灰	B, A	B-30	河		Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロケズリ・ケズリ、内ロクロナデ、微砂粒含む
207	1033	242	杯B蓋	須恵器	12.6			2 b (上)	灰	D	A-31	一括	包含層	V1	外ナデ・ロクロナデ、内ロクロナデ、4mm以下の砂粒少し含む、内面釉圧痕
207	1034	446	杯身	須恵器	(12.4)				灰		Z-37		包含層	I1	外内ロクロナデ、微砂粒あまり含まず
207	1035	562	蓋	須恵器					灰白	A	Z-40			Ⅲ?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、黒色粒
207	1036	306	杯B	須恵器	16.0	4.0	9.8		灰	A	A・B-34, 20区2トレ			Ⅱ2	外ロクロナデ・内ロクロナデ・ナデ、内面ヘラ記号、底面爪状圧痕あり
207	1037	418	杯B	須恵器	15.2	3.3			灰	A	B-36		包含層	Ⅱ3～Ⅲ	外内ヨコナデ・ナデ、高台径10.8cm、内面平滑、外面降灰、蓋B重ね痕
207	1038	645	杯B	須恵器	(15.8)	(4.3)	10.2		外灰、内灰白	A	A-41・42, Z-40	大溝、北側排土	上層, 中層	Ⅱ2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、底面粘土くず付着、外内面共焼き膨れあり
207	1039	249	杯B	須恵器	14.8	4.1	9.6		外灰、内灰白	A	A-32北半			Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ・雑なナデ、内ロクロナデ、微砂粒含む、内面円滑

第46表 遺物観察表44

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
207	1040	411	杯B	須恵器	15.0	5.4			灰	A	A-36・37・38・39・40		包含層	IV1	外内ロクロナデ・(ヨコナデ)、高台径10.6cm、高台高0.5cm、内面油煙付着、底面合成
207	1041	430	杯B	須恵器					外暗灰、内灰	BかD	A-36		包含層	IV	外ヨコナデ・ナデ?内ヨコナデ・ナデ、高台径11.4cm、残高1.7cm、口縁部細片あり
207	1042	300	杯B	須恵器			(9.7)		灰		B-35			IV2	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、長石含む、外内面平滑、外面降灰
207	1043	299	杯B	須恵器	10.7	4.0	7.4		灰	D	B-34			IV2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、板目状圧痕あり、粘土片付着、底部摩耗
207	1044	243	杯B	須恵器			7.4		外灰、内灰白	D	A-31		包含層	IV2	外内ロクロナデ・ナデ、微砂粒わずかに含む、内面使用のため円滑、端部細かく欠けている
207	1045	251	杯B	須恵器			9.5		外オリーブ灰、内明オリーブ灰	B	A-32北半			Ⅲ?	外内ロクロナデ、黒色粒M3、微砂粒含む、外底面にヘラ書きあり
207	1046	298	杯A	須恵器	(16.5)	(4.2)	(12.4)		外灰白、内明青灰	A	A-34			Ⅱ2~Ⅱ3	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、外内面やや平滑、外面重ね焼きの痕
207	1047	417	杯A	須恵器	14.0	3.3	11.0		灰	A	B-36		包含層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、外面重ね焼きの痕あり、底面ヘラ痕、ロクロ右、紐右まき?
207	1048	302	杯A	須恵器	(15.6)				灰	A	A-34, C-35			Ⅱ2	外ロクロナデ・ヘラ切り後ナデ、内ロクロナデ、外面重ね焼きの痕、内面降灰、外面非常に平滑
207	1049	267	杯A	須恵器	12.0	4.2	7.0		灰	B, A	A-33			V1	外内ロクロナデ、底面板目痕
207	1050	412	杯A	須恵器	11.8	3.1	6.8		灰	D	A-36		包含層	Ⅱ2	外ヨコナデ・ヘラ切り・(ナデ)、内ヨコナデ、底面板目
207	1051	443	杯A	須恵器	13.2	4.0	7.6		灰	A	A-37・38・39	近代溝		IV1	外ヨコナデ・ナデ・ヘラ切り、内ヨコナデ、底面板目状圧痕あり、無蓋
207	1052	303	托	須恵器					外褐灰、内灰	A, B	C-35			?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、重ね焼き、降灰
207	1053	596	杯B蓋	土師器					橙	A	A-39		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ナデ、均質な0.5のM砂
207	1054	354	椀	土師器	15.7	4.8	12.5		浅黄橙		A-33	大溝	上層	Ⅱ2~Ⅱ3	外ヨコナデ・不規則なケズリ、内ヨコナデ・ナデ・(ヘラミガキ)
207	1055	246	杯B	土師器			13.2		橙		A-31		包含層	Ⅲ~Ⅳ	外横方向のナデ・ケズリ・ロクロナデ、内横方向のナデ・ヘラミガキ、微砂粒含む、外内面赤彩
207	1056	661	椀	土師器	18.2	4.4	10.1		橙		A-41, Z-41・42	杭側の土坑, S I - 0.9 付近		Ⅱ3~Ⅲ	外ロクロナデ・ケズリ、内ヘラミガキ、微砂粒含む、内面暗文、外内面赤彩
207	1057	414	椀	土師器			9.8		外橙、内浅黄橙		B-36		包含層	Ⅲ~Ⅳ	外ロクロケズリ、内調整不明、微砂粒含む、外内面赤彩
208	1058	287	椀	土師器	12.0	2.4	9.6		赤		B-34, C-35			Ⅱ3~Ⅲ	外ミガキ・ケズリ・ナデ、内ミガキ、外内赤彩
208	1059	413	皿	土師器	12.5	2.2	9.0		橙		B-36		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヘラミガキ、内(ヘラミガキ)・ハケ、微砂粒含む、外内面赤彩
208	1060	415	椀	土師器	14.4	3.1	7.7		橙		A・B-36		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ヘラミガキ・ヘラ切り、内ヘラミガキ、微砂粒含む、外内面赤彩、うずが見える
208	1061	644	椀	土師器	13.6	(3.1)			橙		Y-42		包含層	Ⅱ3~Ⅲ	外ハケ後ミガキ、内ミガキ、外内面赤彩

第47表 遺物観察表45

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
208	1062	240	椀	土師器	14.0	3.8	6.8		橙		A-30		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外軽いヘラミガキ・手持ちケズリ、内ナデ・ヘラミガキ、微砂粒含む、内外面赤彩
208	1063	245	椀	土師器	14.3				橙		A-31		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・ナデ、内ヘラミガキ、微砂粒含む、内外面赤彩
208	1064	646	高杯	土師器					外浅黄橙、内黒褐		A-42	一部大溝東肩	包含層	Ⅲ～Ⅳ	外摩耗・ミガキか？内摩耗、内面黒色、内面黒斑剥離している
208	1065	250	高杯	土師器	10.4				橙		A-32北半			Ⅲ～Ⅳ	外内ロクロナデ、微砂粒少し含む、外面シミ風の線、外内面赤彩
208	1066	416	小甕	土師器	14.2				外にぶい褐、内淡黄		B-36		包含層	Ⅱ2～Ⅱ3	外ロクロナデ・カキメ・ハケ、内ロクロナデ・(ハケ)、1mm前後の砂粒含む、外内面煤付着
208	1067	744	小甕	土師器			8.0		外にぶい黄橙、内灰白		B-36		包含層	Ⅱ3～Ⅲ	外ロクロナデ・面取り・ロクロケズリ、内ロクロナデ、焼成良、3mm以下の砂粒含む、外面煤付着
208	1068	745	小甕	土師器	17.6				にぶい黄橙		Z-37・38		包含層	Ⅱ	外ロクロナデ・ハケ、内ロクロナデ・ハケ・工具によるナデ、微砂粒含む
208	1069	510	長胴甕	土師器	22.0				外浅黄橙、内橙		A-38		包含層	Ⅱ2	外ロクロナデ・ハケ、内ハケ、微砂粒含む、近江型・胎土類似
208	1070	244	長胴甕	土師器					黄橙		B-30	河		Ⅱ2	外ロクロナデ・ハケ、内ハケ、微砂粒含む
208	1071	293	長胴甕	土師器	18.6				橙		A・B-34			Ⅱ2	外ハケ後ロクロナデ、内(ロクロナデ)・カキメ・ハケ、近江型
208	1072	449	長胴甕	土師器	20.2				浅黄橙		A-37			Ⅱ2～Ⅱ3	外内摩耗の為調整不明、1～2mmの砂粒含む
208	1073	741	長胴甕	土師器	17.6				浅黄橙		A-31		包含層	Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内ロクロナデ・カキメ・摩耗の為不明、2mm以下の砂粒含む
208	1074	271	長胴甕	土師器	23.2				浅黄橙		A-37		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・タタキ・カキメ、内ロクロナデ・カキメ・タタキ、2mm以下の砂粒含む
208	1075	551	長胴甕	土師器					外黒褐、内浅黄橙		A-39		包含層	Ⅱ2～Ⅱ3	外(ロクロナデ)・カキメ・タタキ、内ロクロナデ・(タタキ)、アテ具の痕、細同心円、亀裂か？
209	1076	552	長胴甕	土師器	21.4	16.8			浅黄橙		A・B-39	S D-27坑付近、カクラン側	包含層	Ⅱ2～Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内カキメ後ロクロナデ・ハケ、外面胴部側面煤付着
209	1077	273	長胴甕	土師器					外明褐灰、内にぶい褐		A-32北半			Ⅱ2～Ⅲ	外平行タタキ後ハケ、縦ハケ後カキメ、内同心円状押捺痕後ハケ、外面煤付着
209	1078	274	長胴甕	土師器					浅黄橙		A-32北半			Ⅱ2～Ⅲ3	外内粗いハケ、外面煤付着
209	1079	512	甌	土師器					淡黄		A-38・39・40、B-38・39	大溝	下層，上層，中層	Ⅱ2～Ⅲ	外ロクロナデ・ケズリ・(ヨコナデ)、内ロクロナデ・(ヨコナデ)
209	1080	673	鍋	土師器					にぶい黄橙		Z-42		包含層	Ⅱ2～Ⅲ3	外ロクロナデ・ハケ・カキメ、内カキメ状のハケ、同心円状のスタンプ文(漆状のものか)、外面煤付着
209	1081	448	鍋	土師器	33.0				浅黄橙		A・B-37		包含層	Ⅱ2～Ⅲ	外ロクロナデ・カキメ、内ハケ後ロクロナデ、2mm以下の砂粒含む
209	1082	447	鍋	土師器	36.0				淡黄		Z-37・38			Ⅱ2～Ⅲ	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ハケ、微砂粒含む
209	1083	291	鍋	土師器					黄橙		C-34		焼土周辺	?	外ロクロナデ・カキメ、内カキメ

第48表 遺物観察表46

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
210	1084	272	鍋	土師器	30.3				外浅黄橙、内に ぶい黄橙		A-31		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・ケズリ、内ロクロナデ・工具による横方向のナデ、1mm前後の砂粒少し含む
210	1085	290	鍋	土師器	34.0				外にぶい 橙、内黄 橙		C-34			Ⅲ～Ⅳ	外内ロクロナデ・カキメ・タタキ、内面アテ具、外面煤付着
210	1086	289	鍋	土師器	36.0				にぶい黄 橙		C-34		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ・タタキ、内カキメ後ロクロナデ・ナデ、内面汚れ付着・アテ具痕、外面煤付着
210	1087	304	丸底?	製塩土器					浅黄橙		C-35			Ⅱ	外ナデ、内ハケ
210	1088	305	丸底?	製塩土器					外明赤 褐、内に ぶい赤褐		C-35			Ⅱ	外ナデ、内ハケ
210	1089	442	丸底?	製塩土器					浅黄橙		A-37		包含層	Ⅱ	外ナデ、内ハケ
210	1090	445	丸底?	製塩土器					浅黄橙		Z-37			Ⅱ	外ナデ、内ハケ
210	1091	643	丸底?	製塩土器					にぶい橙		Z-42			Ⅱ	外ナデ、内ヨコナデ
210	1092	821	長頸瓶	須恵器					灰白	A	A-36・ 37・38・ 39・40	大溝	包含層、 下層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・ロクロケズリ?内ロクロナデ、黒粒S1、微砂粒含む、外面沈線
210	1093	721	長頸瓶	須恵器			9.7		灰	D	A・B-36		包含層	Ⅳ	外ケズリ(範囲不明)・ロクロナデ、内ロクロナデ、内面自然釉、外面自然釉(緑色)
210	1094	786	長頸瓶	須恵器			12.6		灰	B	A-37・ 38、Z- 36	大溝	包含層、 上層、下 層	Ⅱ	外内ロクロナデ、黒粒L～S3～4、微砂粒含む、降灰
210	1095	775	短頸壺	須恵器					灰白	A	A・B-36		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ、黒色粒MS3、微砂粒含む、内面自然釉付着、外面厚釉黄色に腐殖・降灰あり、無蓋
210	1096	691	短頸壺	須恵器	9.5				灰白	A	A-36		包含層	Ⅲ～Ⅳ	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ、黒色粒MS3・微砂粒含む、蓋溶着
210	1097	774	短頸壺	須恵器			14.2		明オリ ブ灰	B	A-34・ 36・37・ 38・39、 B-34・ 36・39	大溝、近代 溝、SK-1 4	中層、包 含層、上 層	Ⅲ～Ⅳ	外タタキ・ロクロナデ・面取りケズリ・指ナデ、内ロクロナデ・ナデ・ヘラナデ、微砂粒含む、ロクロヒダ
211	1098	781	横瓶	須恵器					灰	B	A-35・ 36・37・ 40、Z- 37・38	大溝、87S X-01	包含層、 中層、上 層、下層	Ⅱ～Ⅲ	外平行タタキ・カキメ、内青海状押捺痕・ロクロナデ、黒粒L1・M1
211	1099	779	横瓶	須恵器					外灰、内 灰黄	A	A-32、 B・C- 32、A- 33	河		Ⅱ～Ⅲ	外平行タタキ後カキメ、内ロクロナデ・ナデ・青海波状押捺痕、内面布圧痕・焼下、底面一部黒灰色の釉沸いている
211	1100	132	甕	須恵器					灰	B		表採		?	外内ロクロナデ、黒色粒LM3、波状文、外面一部自然釉
211	1101	736	円面硯	須恵器			10.8		外灰、内 暗灰	B	A-41			?	外内ロクロナデ、微砂粒わずかに含む、内面墨痕残る、外面灰釉
211	1102	656	土錘	土製品	(3.6)	1.4			外浅黄		Z-42			?	外ナデ、微砂粒含む、重量6.2g
212	1103	668	杯B蓋	須恵器	(16.5)	(3.0)			外明褐 灰、内に ぶい橙	A	19区1トレ 北側			Ⅱ3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・仕上げナデ、つまみ径2.9cm、内面比較的平滑、1104とセット

第49表 遺物観察表47

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
212	1104	667	杯B	須恵器	(15.7)	(4.6)			外褐灰、内にふい黄橙		19区1トレ北側			II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り、内ロクロナデ、内面平滑、外面貼り付け、外底面火だすき、1103とセット
212	1105	297	杯B蓋	須恵器	16.8				外灰、内灰白	B	20区2トレ、C-35、A-34、B-34			II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、外面ほぼ全体に降灰うけていて、重ね焼きの痕、焼き歪みあり、高台重ね
212	1106	359	不明	土師器?	(5.6)				外橙、内にふい橙		20区2トレ		下層	?	外内面摩擦著しい
212	1107	440	椀	土師器	(20.0)				外橙、内にふい橙		20区3号トレ	2次分調		III~IV	外ロクロナデ後粗いミガキ・ロクロケズリ、内外ミガキ、外内面赤彩
212	1108	210	鉢?	陶器			(8.7)		灰オリーブ		22区トレンチ南側			中世?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、素地灰白色、内面全面灰釉、外面灰釉かかっている、削り出し高台
212	1109	74	杯B蓋	須恵器	15.8				灰	A	23区分調北			II 3	外ロクロナデ・ロクロケズリ・回転ヘラケズリ、内ロクロナデ、内面平滑、外面自然釉
212	1110	73	杯B	須恵器			12.6		灰	B, A	23区北分調			IV 2	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ、外面平滑
212	1111	72	小型土器	土師器	4.0	3.3	3.6		にふい橙		分調23区北			?	外ロクロナデ・ナデ、内ロクロナデ、炭化物付着、底面回転糸切り
212	1112	98	甕	須恵器	40.0				外灰赤、内灰	B	23区北分調			II	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ、黒色粒・微砂粒含む、外面波状文・列点文
212	1113	67	杯B	須恵器	15.2		10.4	2 b 上	外暗灰、内灰	D	23区3トレ南北			IV 1	外ロクロナデ・ヘラ切り、内ロクロナデ・ナデ
212	1114	69	盤B	須恵器	19.6	3.9	15.8		灰	B	23区3トレ南北			V 1	外ロクロナデ・ロクロケズリ・ヘラ切り、内ロクロナデ・ナデ
212	1115	64	杯A	須恵器	11.0	4.0	8.6		灰	B	23区2・3トレ南北			II	外内ロクロナデ、内面平滑
212	1116	68	杯A	須恵器	12.7	3.3	7.6		灰	A	23区3トレ南北			V 2	外内ロクロナデ、外面重ね焼きの痕、底面ヘラ抜き痕・板目痕
212	1117	70	盤A	須恵器	16.0	2.3	12.2		灰	B	23区3トレ南北			V 2	外ロクロナデ、内ロクロナデ・ナデ、内面平滑
212	1118	92	椀	土師器	14.0	3.4	6.2		外浅黄橙、内黒	C	23区3トレ南北、23区			V	外ロクロナデ・摩耗の為不明、内ヘラミガキ、微砂粒含む、内面内黒
212	1119	96	甕	須恵器	23.6				灰	B	23区3トレ南北、B-9			II~III	外ロクロナデ・カキメ、内ロクロナデ、微砂粒含む
212	1120	66	杯B蓋	須恵器	19.0			1	外灰黄・灰、内灰黄	B	23区2トレ南北			IV 2	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ・(ナデ)、内面平滑、転用碗か
212	1121	131	甕	須恵器	(20.2)				灰	D	23区2トレ東、23区、C-7、C-8、C-D-7東、A-12	P-2		III~IV	外ロクロナデ・ナデか・カキメ、内ロクロナデ・ナデ・タタキ、断面ややシマ状
212	1122	101	甕	須恵器	(22.5)				灰	D	23区3トレ南北、C-12	河		III~IV	外ロクロナデ・平行タタキ後ヨコナデ・ナデ・カキメ、内ロクロナデ・同心円文
212	1123	100	甕	須恵器	(22.8)				にふい黄橙	B	23区2トレ南北、23区北、B-7・8・9、CD-7・8・9、23区2トレ東、C-6	河、河道東、P-95、表土		III~IV	外ロクロナデ・平行タタキ後ヨコナデ・カキメ、内ロクロナデ・ナデ・同心円門、カキメ

第50表 遺物観察表48

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
212	1124	106	広口瓶	須恵器	16.6				灰	B	23区南北トレ, C-8			Ⅲ	外内ロクロナデ、内面自然釉、外面自然釉
212	1125	105	短頸壺	須恵器	11.0				灰	A	23区2・3トレ南北		下層	Ⅱ	外内ヨコナデ、内面暗灰色
213	1126	1285	壺	弥生土器					橙		23区分調2号トレンチ南北方向		包含層		弥生中期前半
213	1127	1287	深鉢	縄文土器	17.3				褐		24区B-2・3		包含層	中屋式	
213	1128	1286		縄文土器					褐		25区B-10		包含層		コップ型土器
213	1129	1289	壺	弥生土器					褐		24区		包含層		弥生中期前半
213	1130	1288	壺	弥生土器					褐		24区C・D-4~7		包含層		弥生中期前半
213	1131	1290	壺	弥生土器					褐		24区C-5		包含層		弥生中期前半
213	1132	1293	甕	弥生土器					褐		23区8~10		包含層		外内条痕、外底すだれ状圧痕
213	1133	1294	甕						褐		24区52、B・C・D-4		包含層		
213	1134	1291							褐		24区B・C-7・8		包含層		
213	1135	1292									24区B-3	SI-5・6, 2区	覆土		以下5点同一個体、縄文晩期~弥生中期
213	1136	1074									24区B-3	SI-5・6, 2区	覆土		縄文晩期~弥生中期
213	1137	1073									24区B-3	SI-5・6, 2区	覆土		縄文晩期~弥生中期
213	1138	1072									24区B-3	SI-5・6, 2区	覆土		縄文晩期~弥生中期
213	1139	1075									24区B-3	SI-5・6, 2区	覆土		縄文晩期~弥生中期
213	1140	1467							褐		県道北A	P-16			縄文晩期~弥生中期
214	1141	③	深鉢	縄文土器					外暗灰黄、内におい黄橙		A-27			中屋式	外内ミガキ、胴部片あり
214	1142	⑧		弥生土器					外橙、内におい赤褐		A-29				外ヘラミガキ、内ナデ、弥生中期
214	1143	⑪		縄文土器					におい褐		B-25②	SD-13			内ていねいなナデ
214	1144	⑥							淡黄		A-39	大溝、大溝外東肩	たちわり、上層		内板状具によるナデ、波状?条痕、縄文晩期~弥生中期
214	1145	⑩							におい褐		A-39	大溝、外東肩?	上層		条痕、骨片入り、縄文晩期~弥生中期
214	1146	④	深鉢	縄文土器	11.6				外黒褐、内におい黄橙		A-37	大溝	下層	下野式	内ヘラナデ?
214	1147	⑤	深鉢	縄文土器					におい黄橙		A-38			下野式	内ミガキ
214	1148	⑦	深鉢	縄文土器					外褐、内におい橙		A-39	SK-37		下野式	外内面条痕
214	1149	①	深鉢	縄文土器					橙		B-25②	SD-13		中屋式	外内ヘラミガキ
214	1150	②	壺	弥生土器					灰黄褐		C-20	SK-12			弥生中期前半
214	1150	⑨	壺	弥生土器							南区農道東?		包含層		弥生中期前半
215	1151	1222	小皿	土師器	7.1	1.5			黄褐		24区A-6	ピット	32		14世紀後~末
215	1152	1224	小皿	土師器	7.5	1.6			黄褐		24区A-6	ピット	68-5		14世紀後~末
215	1153	1226	小皿	土師器	6.9	1.6			橙褐		24区A-6	ピット	17~19		14世紀後~末
215	1154	1229	小皿	土師器	7.4	1.5			淡褐		24区A-6	ピット	41		14世紀後~末
215	1155	1230	小皿	土師器	7.0	1.6			黄褐		24区A-6	ピット	68-3		14世紀後~末
215	1156	1231	小皿	土師器	6.6	1.5			橙褐		24区A-6	ピット	38		14世紀後~末
215	1157	1233	小皿	土師器	6.8	1.5			橙褐		24区A-6	ピット	15		14世紀後~末

第51表 遺物観察表49

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
215	1158	1235	小皿	土師器	6.1	1.4			淡褐		24区A-6	ピット	3	14世紀後～末	
215	1159	1236	小皿	土師器	6.9	1.4			淡褐		24区A-6	ピット	43	14世紀後～末	
215	1160	1237	小皿	土師器	7.1	1.5			黄褐		24区A-6	ピット	4	14世紀後～末	
215	1161	1238	小皿	土師器	7.3	1.9			黄褐		24区A-6	ピット	30	14世紀後～末	
215	1162	1239	小皿	土師器	7.5	1.9			淡褐		24区A-6	ピット	6	14世紀後～末	
215	1163	1240	小皿	土師器	7.1	1.5			黄褐		24区A-6	ピット	67	14世紀後～末	
215	1164	1241	小皿	土師器	6.7	1.5			淡褐		24区A-6	ピット	33	14世紀後～末	
215	1165	1242	小皿	土師器	7.0	1.5			淡褐		24区A-6	ピット	20	14世紀後～末	
215	1166	1223	小皿	土師器	7.9	1.7			黄褐		24区A-6	ピット	6 8 - 4	14世紀後～末	
215	1167	1225	小皿	土師器	8.2	1.1			橙褐		24区A-6	ピット	6 8 - 6	14世紀後～末	
215	1168	1227	小皿	土師器	7.8	1.4			橙褐		24区A-6	ピット	6 8 - 2	14世紀後～末	
215	1169	1228	小皿	土師器	8.2	1.3			淡橙褐		24区A-6	ピット	63	14世紀後～末	
215	1170	1232	小皿	土師器	7.7	1.6			淡褐		24区A-6	ピット	4 1 - 3	14世紀後～末	
215	1171	1234	小皿	土師器	8.0	1.4			橙褐		24区A-6	ピット	1 7 ~ 1 9	14世紀後～末	
215	1172	1243	小皿	土師器	8.0	1.3			黄褐		24区A-6	ピット	10	14世紀後～末	
215	1173	1195	中皿	土師器	10.3	2.3			淡褐		24区A-6	ピット	38	14世紀後～末	径9.6～11.0
215	1174	1196	中皿	土師器	10.4	2.2			橙褐		24区A-6	ピット	6 8 - 1	14世紀後～末	
215	1175	1197	中皿	土師器	10.5	2.0			橙褐		24区A-6	ピット	58	14世紀後～末	
215	1176	1198	中皿	土師器	10.2	2.1			淡褐		24区A-6	ピット	46	14世紀後～末	
215	1177	1199	中皿	土師器	8.8	1.7			淡褐		24区A-6	ピット	62	14世紀後～末	
215	1178	1200	中皿	土師器	10.4	1.8			黄褐		24区A-6	ピット	34	14世紀後～末	
215	1179	1201	中皿	土師器	9.8	2.3			淡褐		24区A-6	ピット	61	14世紀後～末	
215	1180	1202	中皿	土師器	9.6	1.6			橙褐		24区A-6	ピット	13	14世紀後～末	
215	1181	1203	中皿	土師器	10.1	1.9			黄褐		24区A-6	ピット	66	14世紀後～末	
215	1182	1204	中皿	土師器	10.2	1.8			淡褐		24区A-6	ピット	12	14世紀後～末	
215	1183	1205	中皿	土師器	10.2	2.0			淡褐		24区A-6	ピット	69	14世紀後～末	
215	1184	1206	中皿	土師器	10.3	2.2			橙褐		24区A-6	ピット	45	14世紀後～末	
215	1185	1207	中皿	土師器	10.0	1.8			淡褐		24区A-6	ピット	36	14世紀後～末	
215	1186	1208	中皿	土師器	9.7	2.0			淡褐		24区A-6	ピット	26	14世紀後～末	
215	1187	1210	中皿	土師器	10.5	2.2			淡褐		24区A-6	ピット	9	14世紀後～末	
215	1188	1211	中皿	土師器	9.4	2.1			橙褐		24区A-6	ピット	59	14世紀後～末	
215	1189	1212	中皿	土師器	10.1	2.1			橙褐		24区A-6	ピット	53	14世紀後～末	
215	1190	1213	中皿	土師器	10.4	1.8			淡褐		24区A-6	ピット	41	14世紀後～末	
215	1191	1214	中皿	土師器	10.5	2.2			淡褐		24区A-6	ピット	4 1 - 2	14世紀後～末	
215	1192	1215	中皿	土師器	10.9	1.7			淡褐		24区A-6	ピット	2	14世紀後～末	
215	1193	1216	中皿	土師器	10.0	2.1			橙褐		24区A-6	ピット	44	14世紀後～末	

第52表 遺物観察表50

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
215	1194	1217	中皿	土師器	9.5	1.9			淡褐		24区A-6	ビット	4 1, 4 2, 5 2	14世紀 後～末	
215	1195	1218	中皿	土師器	9.5	1.7			橙褐		24区A-6	ビット	5	14世紀 後～末	
215	1196	1221	中皿	土師器	8.7	1.8			淡褐		24区A-6	ビット	3 9, 5 1	14世紀 後～末	
215	1197	1219	中皿	土師器	9.8	1.7			淡褐		24区A-6	ビット	1	14世紀 後～末	
215	1198	1209	中皿	土師器	9.3	2.0			淡褐		24区A-6	ビット	60	14世紀 後～末	
215	1199	1220	中皿	土師器	11.2	2.4			淡褐		24区A-6	ビット	40	14世紀 後～末	
216	1200	1247	小皿	土師器	7.1	1.7			淡黄橙		24区B・C -9		包含層	14世紀 後～末	
216	1201	1248	小皿	土師器	8.3	1.5			橙褐		24区B-7	P-3 9	覆土	14世紀 後～末	
216	1202	1249	小皿	土師器	7.5	1.3			乳白		24区B・C -1		包含層	13世紀	
216	1203	1250	中皿	土師器	8.4	2.1			橙褐		24区B・C -1		包含層	13世紀	
216	1204	1244	大皿	土師器	14.4	2.3			淡褐		24区B・C -8		包含層	16世紀	
216	1205	1245	大皿	土師器	13.7	2.5			淡褐		24区B・C -9		包含層	16世紀	
216	1206	1246	大皿	土師器	13.5				淡褐		24区B-5		包含層	16世紀	
216	1207	1251	鍋	土師器	25.0				淡褐		24区中央 部		包含層	13世紀	中世鍋
216	1208	1259	碗	白磁							24区B・C -10, 11		包含層	12世紀	玉縁
216	1209	1261	碗	白磁							24区		包含層	12世紀	
216	1210	1260	碗	白磁							24区南西 隅		包含層	12世紀	
216	1211	1273	小皿	白磁	7.7	2.3					24区C・D -10		包含層	15世紀	
216	1212	1262	碗	青磁	16.5						25区C・D -6, 7		包含層	13世紀	
216	1213	1263	碗	青磁							24区南西 隅		包含層	14世紀	しのぎ蓮弁
216	1214	1264	碗	青磁							24区C・D -8・9		包含層	14世紀	しのぎ蓮弁
216	1215	1266	碗	青磁							25区53、 C-8～10		包含層	14世紀	しのぎ蓮弁
216	1216	1267	碗	青磁							24区C・D -8・9		包含層	15世紀	雷文
216	1217	1268	碗	青磁	16.0						24区A・B -8・9		包含層	15世紀	断面漆
216	1218	1265	碗	青磁	12.9						25区		包含層	1 3 後 ～ 1 4 前	しのぎ蓮弁、青磁類、 断面漆
216	1219	1269	碗	青磁							24区東西 トレンチ		包含層	15世紀	内底印花
216	1220	1270	盤	青磁							24区C・D -4～13		包含層	15世紀	内底印花
216	1221	1271	天目	瀬戸	12.8						24区B・C -7		包含層	15世紀	
216	1222	1274	平碗	瀬戸	14.6						24区B- 4・5		包含層	15世紀	灰釉
216	1223	1275	平碗	瀬戸	16.8						24区		包含層	15世紀	灰釉、断面漆
216	1224	1276	小皿	瀬戸?	8.2	1.8					24区C・D -6		包含層	15世紀	
216	1225	1277	盤	瀬戸?							24区C- 5・6		包含層	15世紀	
217	1226	1257	甕	珠洲焼							24区B・C -5		包含層	VI	
217	1227	1255	鉢	珠洲焼	23.4						23区C・D -1		包含層	VI	
217	1228	1252	鉢	珠洲焼							24区B・C -7		包含層	VI	
217	1229	1253	鉢	珠洲焼							24区C・D -8・9		包含層	VI	
217	1230	1254	鉢	珠洲焼							23区B・C -1		包含層	VI	発泡

第53表 遺物観察表51

第6節 遺物観察表について

図番号	報告番号	実測番号	器種	種別	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重焼き	色調	胎土	グリッド	遺構	層位等	時期	備考
217	1231	1256	鉢	珠洲焼							24区C・D-4~13		包含層	IV	
217	1232	1258	甕	加賀焼							24区C・D-8・9		包含層	14世紀	
217	1233	1284	小皿	肥前系陶器	10.2	2.9					24区B-4・5		包含層	17世紀	
217	1234	1278	丸碗	肥前系陶器	10.1	4.2					24区B・C-7		包含層	18世紀	二次加熱
217	1235	1272	小盃	肥前系磁器							24区B・C-5		包含層	18世紀	
217	1236	1279	染付瓶	肥前系磁器							25区西側48		包含層	18世紀	二次加熱
217	1237	1282	染付	肥前系磁器							24区B・C-5		包含層	18世紀	蛇の目高台
217	1238	1281	染付瓶	肥前系磁器	7.5						24区南西側45		包含層	18世紀	
217	1239	1283	染付盤	肥前系磁器							23区C・D-1		包含層	18世紀	断面漆
217	1240	1280	染付広東碗	肥前系磁器							24区C-5・6		包含層	19世紀	
218	1241	26	小皿	土師器	8.7	2.4	4.9		外にふい橙、内にふい黄橙		C・D-6			12世紀	外内ヨコナデ、ヘラ工具による沈線、底面回転糸切り痕(右回転)
218	1242	8	碗	土師器	11.7	3.6	5.5		橙		B-5北半			12世紀	外内ヨコナデ、底面回転糸切り痕
218	1243	31	碗	土師器			5.1		にふい橙		C-6	河		12世紀	外内ヨコナデ・ナデ、底面回転糸切り痕
218	1244	33	碗	白磁	17.5						C-6	河道		12世紀	釉は灰オリーブ色、透明感はない、貫入はない、気泡を含む。素地は灰白色気泡の含みが少しある、比較的堅緻。
218	1245	36	碗	白磁	18.0						CD-6			12世紀	釉はオリーブ黄色、透明感がある、貫入はない。素地は灰白色、緻密、気泡をわずかに含む。
218	1246	32	碗	白磁			6.2				C-5	河道西より		12世紀	釉は灰白色透明感がある、貫入はわずかにある。素地は灰白色、比較的堅緻、気泡が含まれる、釉のかからない部分の調整は粗い。
218	1247	39	天目碗	瀬戸?			4.8				B-5北半			古瀬戸後期	釉は黒色、光沢がある、気泡を含む。素地は灰白色、緻密、気泡を少し含む。
218	1248	137	皿	白磁			(4.9)		外灰、内灰白		C-8			?	外ロクロナデ・ロクロケズリ、内ロクロナデ、素地白色、内面施釉
218	1249	34	碗	青磁	(14.6)	(4.2)					B-3北半			14世紀	釉は厚くむらがあり透明感がなく内外面とも貫入あり、オリーブ灰色、素地灰白色、全面施釉、蓮弁文、片切り彫り
218	1250	35	碗	青磁	(14.4)	(4.7)					A・B-2		包含層	14世紀	オリーブ灰色、釉は薄く均一に施され二次加熱により白濁化している、内外面とも貫入は細かく密である、素地灰白色、全面施釉、ヘラ先による蓮弁文を施文
218	1251	37	天目碗	瀬戸?	13.3						分調23区、1トレ			古瀬戸後期	釉は灰褐色、薄くかけられている。素地は灰白色、緻密
218	1252	49	播鉢	越前焼	(25.7)				灰黄褐		A・B-2			14世紀後半?	外内ロクロナデ、内面おろし目(6本在存)

第54表 遺物観察表52

図版番号	報告番号	実測番号	器種	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重量 (g)	石材等	グリッド	遺構	層位等	備考
219	1253	16	鎌	(15.6)	0.7	2.4			B-6	85 S I - 07		3
219	1254	15	鎌	(15.1)	0.6	2.6			B-6	85 S I - 07		13
219	1255	17	刀子?	(9.9)	1.1	1.2			B-6	85 S I - 07		22
219	1256	18	不明	(4.9)	0.5	2.4			B-6	85 S I - 07		19
219	1257	20	刀子	(9.0)	0.4	0.8			B-8	86 S I - 02		木質残る
219	1258	No.50	刀子	(9.0)	0.3	0.8			B-8	86 S I -	11	木質残る
219	1259	No.49	鋳滓?	(3.3)	(1.8)	(2.1)	13.2		B-9	86 S I - 03	1区含土	(鉄滓) ガラス質の溶けた部分、わら? 粉圧痕
219	1260	19	刀子	(9.6)	0.9	1.5			B-6	86 S I - 08		木質残る
219	1261	No.46	刀子	(9.5)	0.6	1.2	10.0		B-6	86 S I - 08NE	覆土	木質残る
219	1262	No.53	鉄滓	(4.2)	1.2	4.9	37.2		B・C-9	86 S I -	カマド跡	鉄滓、凹凸はげしい
219	1263	No.55	刀子	(3.0)	0.3	0.7			B-23	87 S I - 03SE	覆土	刃子小片
219	1264	No.44	不明	(5.7)			17.0		B-23	87 S I - 03北半	埋土	わら状の有機質付着、一枚の鉄板
219	1265	No.45	刀子	(11.3)	0.5	0.9	12.2		B-34	87 S K - 40		
219	1266	No.47	刀子	(9.3)	0.4	1.1			B-34	87 S K - 42		木質残る
219	100	No.51	不明	(5.4)	0.3	2.2			B-10	86 P - 66		
219	1268	14	刀	(27.9)	1.0	2.6			B-7	85 P 41		
219	1269	13	刀子						B・C-8・9			
219	1270	No.48	刀子?	(6.5)	0.5	1.3	14.7		C-8		包含層	
220	1271	No.34	砥石	35.2	7.1	17.2	4668.0	安山岩		85 S I - 01	S-1	砥石、大形の扁平な礫を使用。表裏に磨面あり。
220	1272	No.35	カマド部材?	26.5	11.0	16.4	4250.0			85 S I - 01	S-4	ノミ痕
220	1273	No.36	不明	24.2	12.1	14.2	5950.0		A-24	85 S I - 01	S-3	
220	1274	No.33	不明	19.7	4.4	11.4	#####	石英安山岩		86 S I - 08	床	使用の為円滑、敲打痕あり、火熱受ける、2つに割れる、元は完形だろう
221	1275	No.57	カマド部材					凝灰岩		86 S I - 10	カマド跡	カマドの袖石
221	1276	No.31	カマド部材	30.1	8.8	11.6	4500.0				竪穴カマド	袖ないしは支脚、研磨面、割れ口
221	1277	No.32	カマド部材	36.2	10.3	14.5	5300.0	凝灰岩				
221	1278	No.9	砥石	10.7	5.3	6.3	445.8	凝灰岩	C-19	87 S I - 02	覆土	全面黒色付着物で覆われている
221	1279	No.26	砥石	11.5	3.1	3.9	140.1		A-34	87 S X - 02	凝灰岩	研磨面
221	1280	No.25	砥石	(10.9)	(4.9)	(7.5)	(539.6)		B-34	87 S K - 40	砂岩	割れ口、すり面、自然面、自然面少し摩耗している
222	1281	2	打製石斧	12.3	2.0	7.8	279.0	安山岩	C-2	85 S I - 01		凸字形、基部欠損
222	1282	4	打製石斧	13.2	2.3	8.0	283.0	砂岩	B・C-6~10		包含層	撥形、基部欠損
222	1283	5	打製石斧	16.6	3.0	8.7	554.0	火山礫凝灰岩	B・C-5		包含層	
222	1284	3	打製石斧	20.3	1.8	9.5	538.0	安山岩	24区-44			撥形・凸字形複合
222	1285	6	打製石斧	12.2	2.0	7.9	267.0	火山礫凝灰岩	C-8	86 P 142		撥形
222	1286	8	打製石斧	13.2	2.3	8.8	407.0	火山礫凝灰岩	B-12		包含層	撥形・分銅形複合、基部欠損
222	1287	No.4	打製石斧	17.6	3.0	8.8	522.1	火山礫凝灰岩	B-7	河東		分銅形
222	1288	9	打製石斧	13.0	2.0	9.2	381.0	火山礫凝灰岩	B-12		包含層	分銅形、刃部欠損
222	1289	No.1	打製石斧	10.5	1.4	8.4		安山岩	B-3			撥形、基部欠損
222	1290	11	打製石斧	15.0	1.7	7.1	259.0	凝灰岩	B-13、三角地帯	86 S K - 01		分銅形
223	1291	No.2	打製石斧	14.5	2.7	7.9	386.0	凝灰岩	B-9		包含層	短冊形、刃部一部欠損
223	1292	No.5	打製石斧	14.0	3.0	8.4	406.9	ヒン岩	A区県道北			短冊形
223	1293	No.56	打製石斧	13.1	3.0	7.9	263.5	凝灰岩	C-6			凸字形
223	1294	No.22	打製石斧	12.0	2.5	7.8	230.5	ヒン岩	23区2号トレ南北			撥形
223	1295	No.21	打製石斧	12.1	2.3	7.4	224.6	安山岩	23区2号トレ南北			撥形・分銅形複合、刃部付け替えか
223	1296	10	打製石斧	12.5	2.5	6.6	249.0	火山礫凝灰岩	C-6	河道		分銅形、刃部付け替えか
223	1297	No.7	打製石斧	15.4	2.8	8.2	413.3	火山礫凝灰岩	23区2号トレ南北			分銅形、刃部欠損

第55表 遺物観察表53

第6節 遺物観察表について

図版番号	報告番号	実測番号	器種	a (cm)	b (cm)	c (cm)	重量 (g)	石材等	グリッド	遺構	層位等	備考	
223	1298	12	打製石斧	23.0	3.4	11.5	923.0	石英安山岩	C-4	河道		撥形・分銅形複合、刃部腹面に磨耗	
223	1299	7	打製石斧	19.0	3.2	10.8	728.0	火山礫凝灰岩	A-13			分銅形	
224	1300	No.19	打製石斧	14.1	3.2	10.1	449.6	火山礫凝灰岩	南区		包含層	撥形・分銅形複合	
224	1301	No.8	打製石斧	17.8	2.7	9.8	443.8	火山礫凝灰岩	C-18	87S I-02	たちわり、包含層	刃部欠損、分銅形	
224	1302	No.10	打製石斧	15.0	2.9	9.1	400.9	火山礫凝灰岩	A-33	大溝東岸		分銅形	
224	1303	No.14	打製石斧	15.4	3.8	8.7	450.1	安山岩	A-34	大溝	砂礫層	撥形・分銅形複合	
224	1304	No.13	打製石斧	14.8	3.1	8.2	422.0	火山礫凝灰岩	B-34		包含層	分銅形、刃部欠損	
224	1305	No.16	打製石斧	14.2	3.7	11.4	691.0	安山岩	A-34	大溝	中層	分銅形	
224	1306	No.17	打製石斧	17.7	3.4	8.9	546.3		A-35	大溝	中層		
224	1307	No.15	打製石斧	15.2	2.9	8.5	337.6	凝灰岩	A-35	大溝内東岸	上層	分銅形	
224	1308	No.23	打製石斧	15.6	2.9	9.2	434.0	砂岩	B-38			撥形	
225	1309	No.29	打製石斧	13.9	3.6	10.5	662.0	片麻岩	A-39			たちわり	撥形、基部欠損
225	1310	No.12	打製石斧	16.0	3.3	9.2	483.6	火山礫凝灰岩	A-39	大溝	下層、たちわり	分銅形	
225	1311	No.18	打製石斧	17.6	3.0	11.8	678.2	火山礫凝灰岩	A-42	大溝外東岸		分銅形	
225	1312	No.11	打製石斧	16.7	2.7	8.3	409.2	細粒砂岩		大溝	下層	分銅形	
225	1313	No.30	打製石斧	14.6	2.3	10.3	440.3	火山礫凝灰岩	A-42	大溝	下層	分銅形	
225	1314	No.28	打製石斧	15.3	2.9	9.6	452.5	石英安山岩	A-42	一部大溝東肩	包含層	撥形	
225	1315	No.20	打製石斧	14.5	2.5	8.8	364.2	石英安山岩	A-39			凸字形	
225	1316	No.3	打製石斧	16.3	3.0	9.9		火山礫凝灰岩		表採		撥形、基部欠損	
225	1317	No.6	打製石斧	17.5	3.6	9.8	634.8	火山礫凝灰岩		表採		撥形・分銅形複合	
226	1318	1	打製石斧	15.1	2.6	7.1	385.0	火山礫凝灰岩	19区3号トレ				撥形、基部欠損
226	1319	No.37	砥石	9.8	5.5	5.1	393.0	凝灰岩	B-5	北半		側面四面使用、上下欠損、被熱痕跡あり(赤化)、煤付着	
226	1320	No.38	砥石	10.0	3.5	4.5	172.3		C-6			側面四面と上面使用、下欠損、硬質、仕上用	
226	1321	No.40	砥石	(9.3)	(4.6)	5.7	251.7	凝灰岩	B-8	河		五面使用	
226	1322	No.39	砥石	(10.7)	3.3	(4.7)	176.1	凝灰岩	3A	表採		側面四面使用、上下未使用、煤付着	
226	1323	No.24	砥石	2.9	1.1	1.4	7.2		A-33	大溝	中層		
226	1324	No.43	不明	8.0	1.5	2.2	31.8	凝灰岩	Z-41	大溝、(西一部)	上層、中層	溝状、使用	
226	1325	No.27	錘か	5.1	2.7	3.2	47.2	凝灰岩	A-36	大溝	中層	すり面あり、1箇所穿孔、両面から	
226	1326	No.52	石帯	4.5	0.7	2.5	14.0		不明	不明	不明	石帯	
226	1327	22	銭貨						29区		排土中	木津遺跡のもの	
226	1328	21	銭貨						23区		排土中		

第56表 遺物観察表54

第4章 ま と め

第1節 縄文時代から弥生時代

末松遺跡の1985・1986・1987年度調査では、少量ながら縄文時代から弥生時代に位置づけられる遺物が出土した。その数量は、土器片が約130点、打製石斧が62点を数える。その他にも磨石類・台石・砥石と見られるものも若干出土しているが、これらについては、古代の遺構から出土しているものもあり、所属時期の位置付けが難しい。よってここでは、土器と打製石斧について、その出土位置について検討し、縄文時代から弥生時代の土地利用のあり方について考えてみたい。

土器

土器はその器形や文様の特徴から、縄文時代晩期中屋式から弥生時代中期までの資料が認められる。出土層位はベース上位の包含層や古代以降の遺構内覆土から出土するものが大多数で、現位置を留めたものはあまり見られない状況である。したがって、大まかに出土地点の傾向を捉えるため、10×10mグリッドを単位とし、各グリッドからの出土点数をまとめた（第57表）。

土器はA・Z-37～41グリッド、A・B・C-20～29グリッド、B・C-3グリッド以南に、少量ずつではあるが分布上でのまとまりを見せている。以下では、このまとまりを、北側から順に、土器ブロック1・2・3と呼称する。

出土土器の型式については、頸部上位で横位沈線間に列点を施す1141や沈線内に列点がある1149は中屋式、眼鏡状突帯のある浅鉢1147や小型の深鉢である1146、1148は下野式、壺1150・1126・1129・1131は弥生時代中期前半に比定できよう。

以上を踏まえて出土位置を見ると、土器ブロック1に下野式、土器ブロック2に中屋式と弥生中期前半、土器ブロック3には中屋式から弥生中期前半の遺物が散在している。少量ずつではあるものの、土器ブロック1では下野式が多いなど土器型式としてまとまる傾向も窺われる（第229図）。いずれの土器ブロックも無文や条痕文の施文された土器を出土しており、それらについては所属する時期が不明であるものの、同一ブロックで伴出する有文の土器との関連を思わせる出土状況と言えよう。

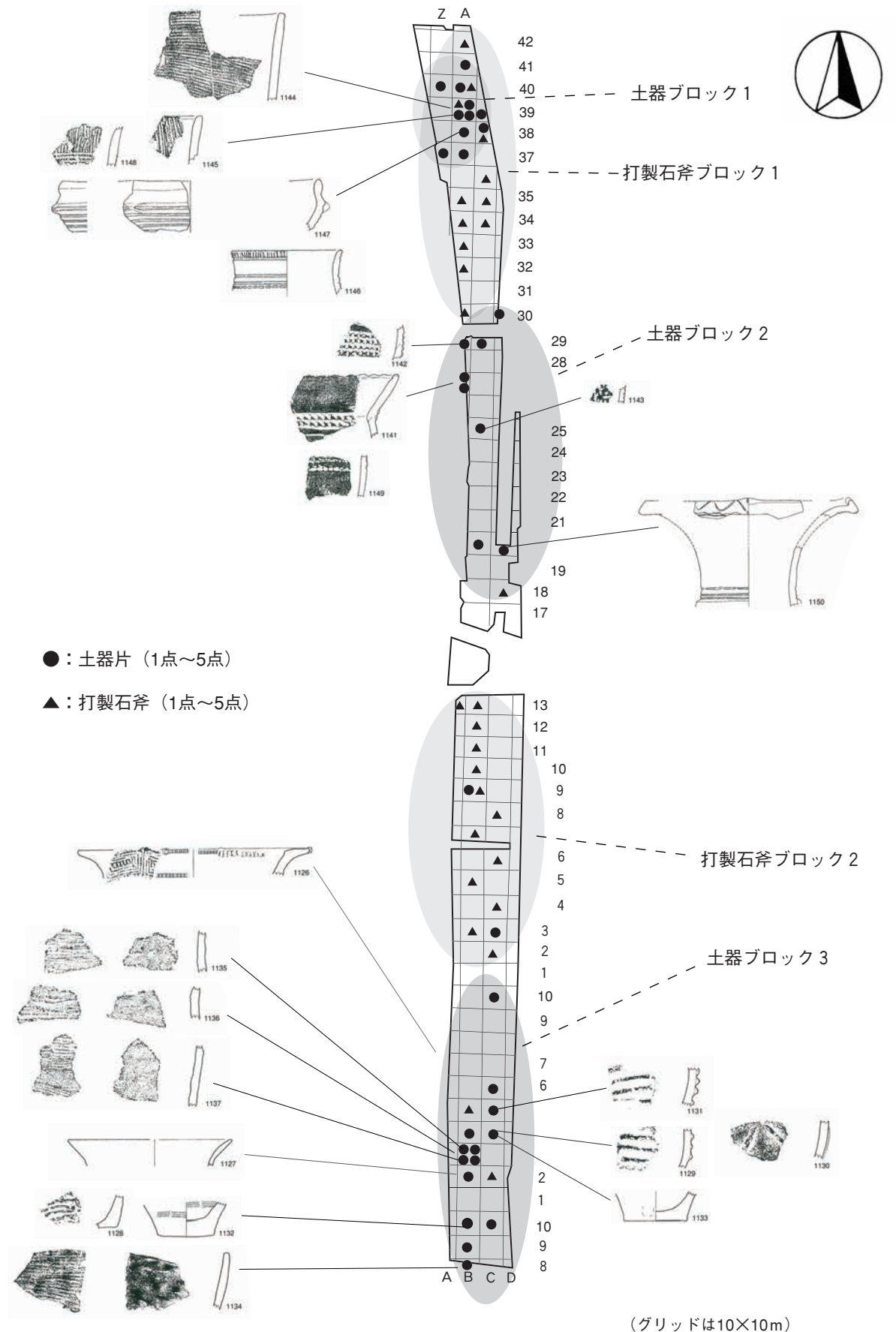
打製石斧

打製石斧は完形及び欠損品、破片を検討の対象とした。点数は図示できなかった資料も包めて合計62点である。打製石斧の出土状況は土器と同様に、古代以降の遺構内覆土や包含層からの出土が目立つ。出土位置がグリッド単位でわかるものは62点中44点で、A・B-30～42グリッドとB・C-2～13グリッドでの出土が比較的多い。

前者を打製石斧ブロック1、後者を打製石斧ブロック2と呼称する。打製石斧ブロック1は土器ブ

	25区			24区						23区																			計													
	8	9	10	2	3	4	5	6	10	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	18	20	25	27	29	30	32			33	34	35	36	37	38	39	40	41	42		
土器	Z																																						6			
土器	A																																							35	不明 土器片	
打製石斧	A																																							17		
土器	B	1	2	5	2	20	2	1																																45	打製石斧	
打製石斧	B																																								18	合計
土器	C			1		2	1	2	1		3																														12	土器片
打製石斧	C			1							1																														9	打製石斧

第57表 土器・打製石斧の出土点数（グリッド毎）



第229図 遺物分布図 (縄文~弥生)

ロック1と重複し、土器ブロック2の北側に展開する。ブロック内での出土点数は21点で、ほとんどは1グリッドにつき1・2点の出土だが、A-39グリッドでは4点、A-42グリッドでは3点とやや多く出土するグリッドも見受けられる。打製石斧ブロック2は土器ブロック2と土器ブロック3の間で、各グリッド1・2点の出土であった。

縄文時代晩期から弥生時代の末松A遺跡

手取扇状地内で打製石斧が多出し、土器を含め他の遺物が少ない遺跡に関しては、山本直人氏により、「第2a類型」として「根茎類や球根類の採集・加工を主たる生業とする短期間居住する集落」、「第2b類型」として「単に根茎類・球根類を採集するためだけにいとなまれた遺跡」が類型化され、遺跡の性格の解釈が行われている〔山本1993〕。末松A遺跡に関しては、土器・打製石斧ともに単位面積当たりでは少数出土していることから、山本分類の「第2b類型」と位置づけることができよう。

加えて土器と打製石斧の出土位置の検討では、遺跡において遺物がブロックとしてまとめうる出土状況が確認された。土器ブロック1と打製石斧ブロック1は、その範囲が重複するものの、土器ブロック2と打製石斧ブロック2、土器ブロック3に関しては、土器と打製石斧が、やや排他的な出土位置の関係を指向している状況が認められる。

こうした状況を、遺跡内における土地利用の違いが現象化したものと理解することができるならば、「土器ブロック」≡「少数の土器を使用する活動が行われていた地点」、「打製石斧ブロック」≡「打製石斧を用いた活動が行われていた地点」という解釈が可能となり、遺跡内部での場の機能を推定する手がかりになると思われる。しかし、出土位置が特定できないものも少なからずあることや、出土点数自体が少ないこと、遺物廃棄後の文化的・自然的要因による出土位置の変化に関する検討が必要となることなど、前提として踏まえておかなければならない問題もいくつか存在する。したがってこれは予察とし、今後機会を得て、検討事例を増やしその妥当性について更に検討を重ねていくこととしたい。

第2節 古代前半期の末松A遺跡

末松A遺跡では一部Ⅱ1期まで遡るものもあるが、Ⅱ2期から本格的に集落が形成されたと考えられる。ここではまずⅡ期にほぼ収まる竪穴建物についてその規模やカマドの位置などについてまとめ、近江型や青野型といった外来系の土師器煮炊具の出土状況や周辺遺跡の様相もまじえて、末松廃寺との関係についても考えてみたい。

竪穴建物の群構成

1985～1987年度の3ヵ年の調査で合わせて30棟余りの竪穴建物が検出されている。一部古墳時代やⅢ期以降のものもあるが概ねⅡ2～Ⅱ3期の中に収まっている。竪穴建物の分布にはまとまりが見られ、それを表すと第230図のようになる。A～E群まで5群に分けることが可能である。A・D・E群はそれぞれ距離を取って群をなすことから理解しやすいが、B群はさらに細分することも可能である。A群は1985年度調査区で検出された7棟、B群は1986年度調査区で検出された86SI12・13を除く11棟、C群は1987年度調査区の87SI01～04・86SI13の5棟、D群は87SI05～08の4棟、E群は87SI09の1棟から構成される。E群はさらに北西方向へと展開しているものと考えられる。南北を基準とした建物の主軸方位で見ると、西偏するものは10～16°のグループ6棟（a類）と22～26.5°のグループ3棟

(b類)、ほぼ真北(座標北)を向くものは西偏 5° ～東偏 4° のグループ15棟(c類)、東偏するものは $21\sim 31^{\circ}$ のグループ4棟(d類)に分けることが可能であり、真北に近い方位を取るものが半数以上である。平面形態は、方形で長軸と短軸の比率が $1.1:1.0$ よりも長軸の比率が大きいものを長方形、それ以下のものを正方形として見てみると、長方形のもの11棟、正方形のもの11棟、不明なもの6棟となる。竪穴部の規模で見ると最大の建物は87SI09であり、平面積は約 51.8m^2 を測る。これは掘立柱建物を加えても末松A遺跡では最大の面積を誇る。最小のものは85SI07であり、平面積は 7.8m^2 となっている。ただし85SI07はⅣ期頃のものと考えられ、Ⅱ期の中では85SI02の 9.9m^2 が最も小さい。群別に詳細を見ると次のようになる。

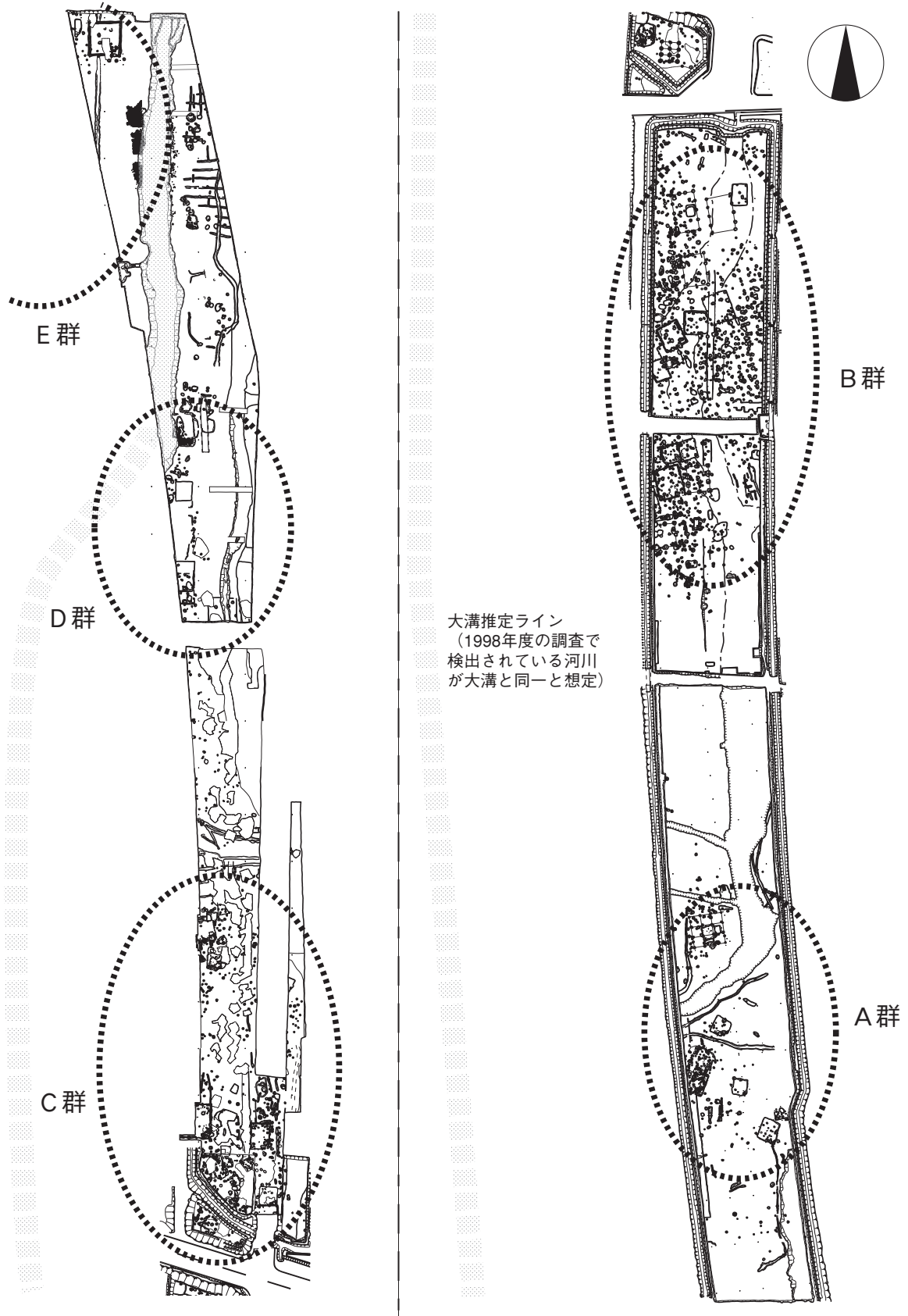
A群：85SI01～07の7棟であるが、そのうち85SI07はⅣ期、85SI04は時期不明である。その他はⅡ2～Ⅱ3期に収まる。もっとも平面積の大きいものは85SI06で約 33m^2 を測る。最も小さいものはⅡ期に限ると85SI02で 9.9m^2 である。これらの主軸方位は85SI04・07を除き全てd類である。主柱穴及び壁柱をもつのは85SI06であり、その他の竪穴建物では検出されていないか、またははっきりとしない。確認されたカマドは85SI04・07を除き全て竪穴部の南東角に造られている。85SI05からは近江型の長胴甕が多く出土している。

B群：86SI01～86SI11の11棟であるが、そのうち86SI05はⅢ期と考えられ、その他はⅡ2～Ⅱ3期に収まる。この群はさらに86SI01～04・06(i)、86SI08～11(ii)、86SI07(iii)の3群に細分できる。それぞれi群は5棟、ii群は4棟、iii群は1棟で構成され、iii群はさらに東側に展開しているものと考えられる。もっとも平面積の大きなものはii群の86SI10で約 35.8m^2 を測るが、i群の86SI06も約 35.2m^2 とほぼ同規模である。これらの主軸方位はii群は全てa類、iii群はc類、i群はa類1棟(86SI06)、b類3棟(86SI01～03)、c類2棟(86SI04・05)である。ii群はまとまりがあるが、i群はかなり主軸方位が異なる建物で構成されている。主柱穴及び壁柱をもつのは86SI03・06・10の3棟である。カマドは7棟で確認され、その内86SI02の1棟が北東角に造っている他は、全て南東角に造っている。なお、86SI08は当初南東角であったカマドを、南西角に造り変えている。86SI02・04からは近江型の長胴甕が出土し、86SI08からは近江型の鍋かと考えられるものが出土している。また86SI08からは東日本系と考えられる平底の長胴甕が出土している。

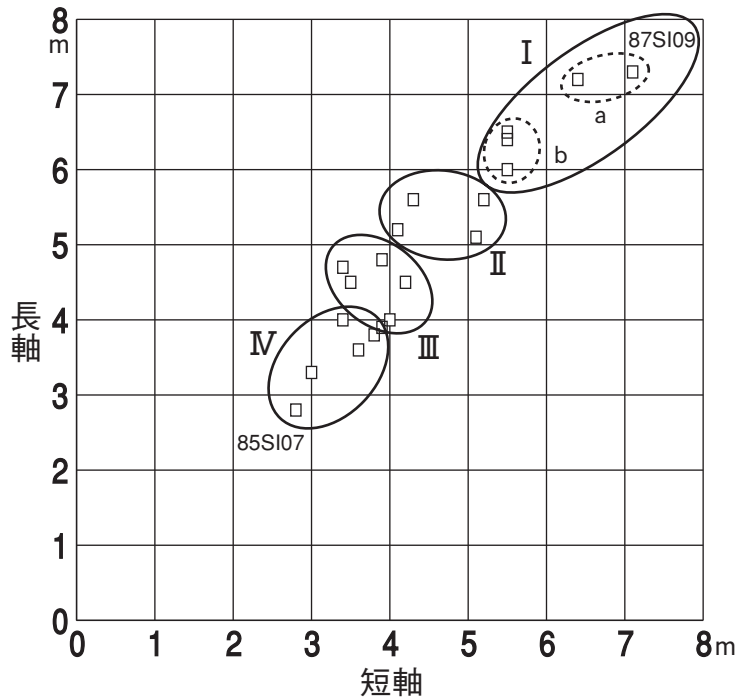
C群：86SI13・87SI01～04の5棟からなる。もっとも平面積の大きなものは87SI01で約 46.1m^2 を測る。86SI13ではカマドは確認されていないが、それ以外では全て南東角にカマドを造っている。カマドの袖には心材として凝灰岩の切石が用いられている。また87SI01・02は貯蔵穴をカマドの西隣に設けている。これらは壁柱をもつ側柱竪穴建物であり、近江にその系譜を求められるもので、87SI01は近江型の長胴甕が出土しているが、87SI02では青野型の長胴甕が出土しており、混在した様相となっている。主軸方位は全てc類である。

D群：87SI06～08・10の4棟からなる。調査区外に延びるものが多く分かりづらいが、長軸約 6.5m を測る87SI06がもっとも大きく、おそらく 30m^2 を超えるものと考えられる。87SI06・07にはカマドが確認され、南東角に造られている。これらは4本主柱をもち、87SI07は壁柱をもっている可能性がある。

E群：87SI09の1棟だが、群は北西に展開していると考えられる。平面積は約 51.8m^2 と格段に大きい。主柱穴は4本で、壁溝にあたる部分に礫を敷いている。またカマドは南東角に造られている。類例を探すと滋賀県穴太遺跡で礎石立ちの建物が見られるが、主柱穴をもたないなど違いがある。良く似た例では、長野県に数例存在する[望月1990]がカマドの位置などで違いがあり、また時期も新しい。青野型の長胴甕口縁部破片及び平底の土師器小甕が出土しているので、この建物の系譜を示す可



第230図 末松A遺跡竪穴建物群構成 (北野1994より作図)



第231図 竪穴建物の規模

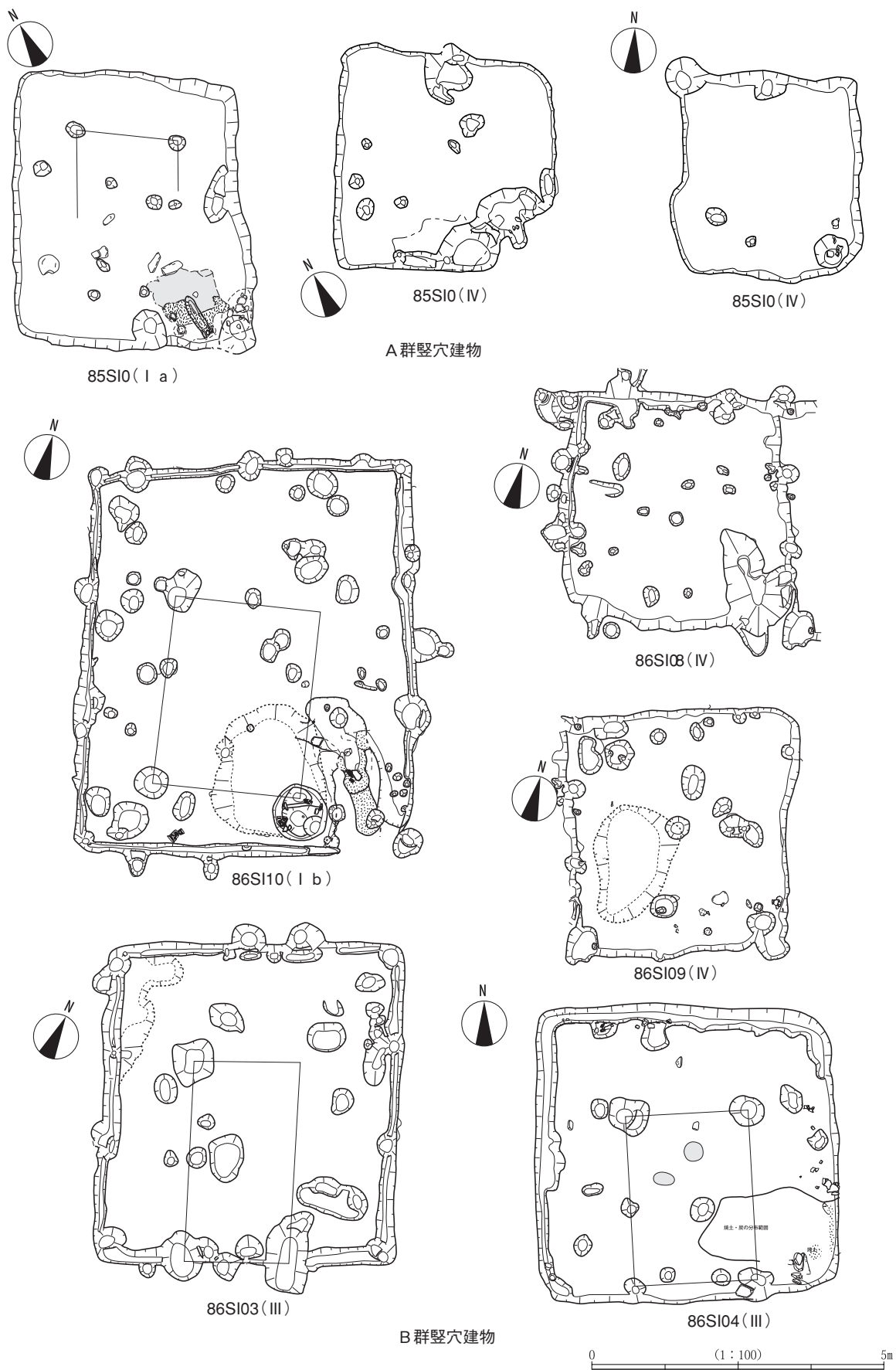
能性もあるが現段階ではそれを明らかにすることは難しい。いずれにせよⅡ期における末松A遺跡の中心的な建物の一つであったことには間違いのないであろう。

各群の主軸方位を見ると、A・B群では大きく東あるいは西に方位を振るものが多いのに対し、C・D・E群では真北に近い方位をとるものが圧倒的である。竪穴建物の規模は長軸と短軸でグラフ化すると第231図のようになり、Ⅰ～Ⅳの4群に分けられる。E群の87SI09は別格だが、各群にⅠ類の30㎡を超える竪穴建物が存在し、各群の中心建物と見られる。Ⅱ類はB・C群のみ、Ⅲ類はA～C群に見られる。Ⅳ類はA・B・D群で見られるが、A群により小さな竪穴建物がある。それぞれの群単位で「経営単位⁵⁾」と呼べるような構成をしていたものと考えられるが、B群は3つの単位が一つの群を形成していることで他の群と比べ異質である。

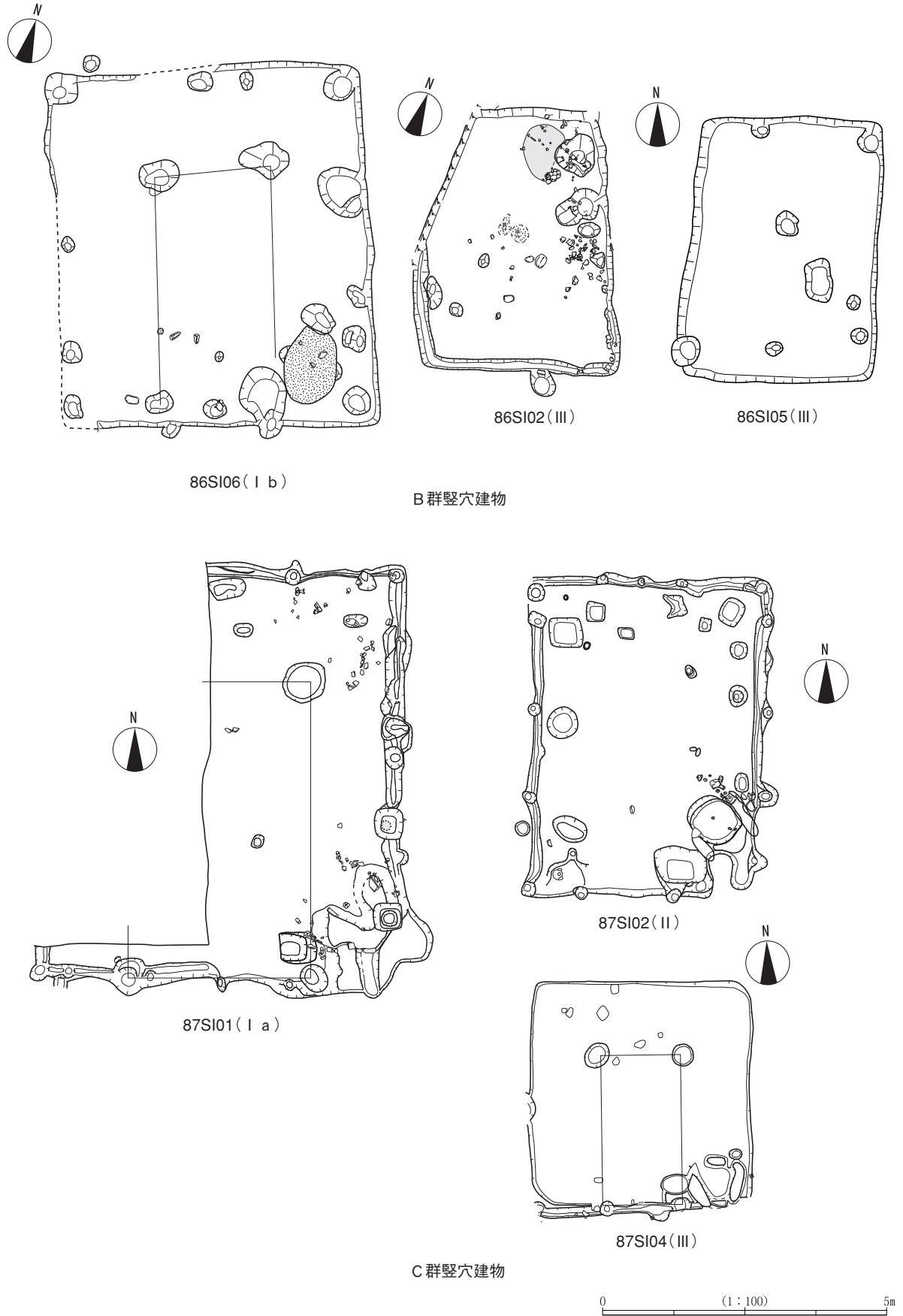
建物の構造では、E群を除けば全てに側柱竪穴建物が見られ、近江との関連が強いと考えられる。ただし土師器煮炊具を見ると、必ずしも近江型の煮炊具を伴っているとは限らない。87SI01・02はその構造が互いによく似た側柱竪穴建物で、87SI01は近江型の長胴甕を伴うが、87SI02は青野型である。また2つの建物はカマドの位置や造り方など青野型住居との類似性もありそうで、折衷型の建物の可能性もある。竪穴建物全体のカマドの位置を見ると、確認できるもののほとんどは竪穴部の南東角に造っており、かなりの規制があってもものと考えられ、集落成立の背景を物語っているものと考えられる。

切り合いをもつ竪穴建物85SI05・06では近江型が出土する85SI05が古く、86SI01・02では同じく近江型が出土する86SI02が古い。二つの事例で断言することは難しいが、近江型、丹波型といった外来系の土師器煮炊具が見られるのは集落成立当初のⅡ2期の段階であろう。その他に竪穴建物からは刀子や製塩土器といった遺物が出土しているものが多い。

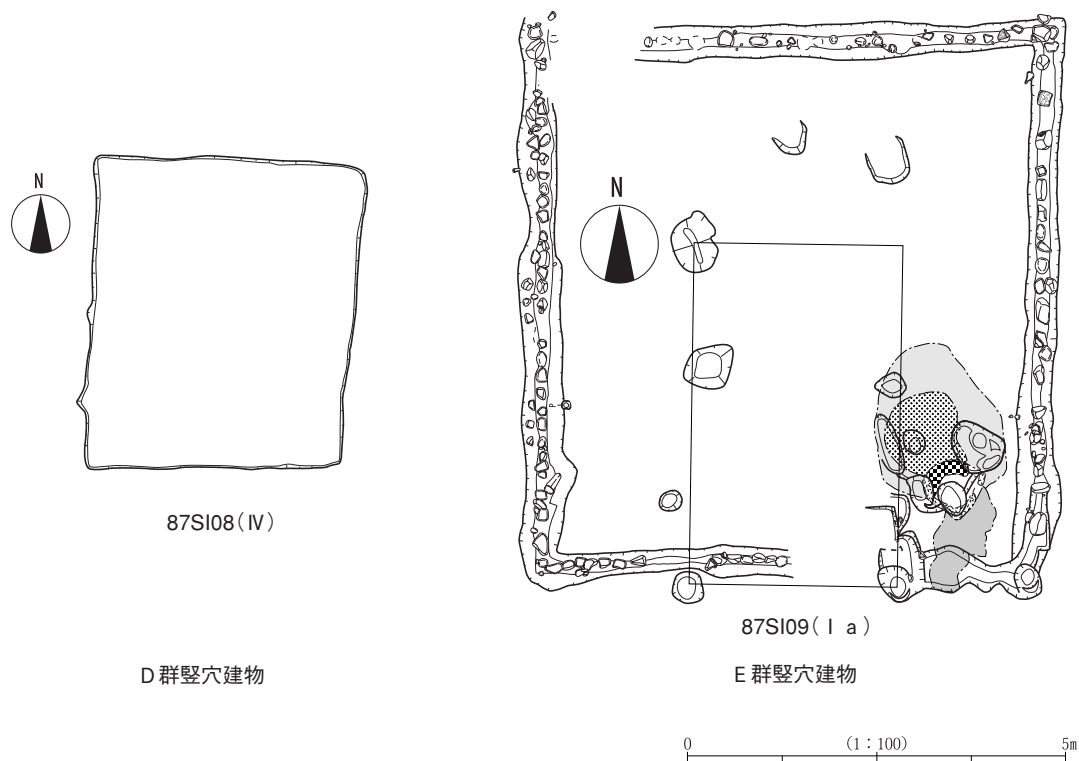
竪穴建物主体の集落が廃絶した後は、掘立柱建物が主体へと変化する。これは全ての群で同じように変化するわけではなくここで大きな違いが生じている。B・C群でのみその変化は見られ、その他



第232図 群別竪穴建物平面図1



第233図 群別竪穴建物平面図2



第234図 群別竪穴建物平面図3

の群では掘立柱建物への変化は見られない。「経営単位」ごとに群を形成していたあり方から、集落中心部への集中へと大きく集落構造が変化したものと考えられる。特にB群は竪穴建物の段階から異質なあり方を示しており、末松A遺跡の中心的位置を占めていたものと考えられる。

土師器煮炊具と移民集団

末松A遺跡で出土した土師器煮炊具には、内外ハケメ調整の在来型といえるものだけでなく、近江型、青野型（丹波）といった畿内外縁部系統のものが定量見られる。また、タタキ成形やカキメ調整といった須恵器系統の技術を用いた北陸型煮炊具も同じく定量見られた。近江型・青野型はその形態から比較的判断しやすい⁶⁾ものであり、他にも86SI08で出土した東日本系の平底の長胴甕のようにその他の地域の煮炊具も出土している可能性がある。他地域ということではないが、タタキ成形の痕跡やカキメ調整が見られるものからは、小松市額見町遺跡で出土した軟質土器〔望月1999〕の系譜を直接引いた人々の移住もある程度あったと考えられる。土師器煮炊具を見るだけでも多系統あり、当然それを使用した人々も多系統あったと考えられよう。単純に近江や丹波といった地域からの移住者だけで構成された集落ではなく、かなり寄せ集めてきなものが想定される。近江型、青野型といった煮炊具はⅡ2期に見られるものであり、Ⅱ3期にはほとんど見られない。これは当初から大量の移住があり、彼ら自身の需要を満たすために自ら生産を行ったと考えられ、Ⅱ3期になって地域の土器流通圏の中にしっかりと組み込まれたものと考えられる。能美窯跡群で土師器煮炊具の焼成が定量生産ではないにしてもⅡ2期頃からと加賀地域で最も早く始まっていることと無関係ではないだろう。

1986年度調査では、近江型の長胴甕を埋納したピットがあり、これは近江に見られる甕棺習俗と考えられる。これは直接的な移住を示すものと考えられ、近江地域との関連性の強さを物語るものであ

ろう。近江型・青野型の故地はいずれも渡来系集団との関連が深い地域として理解されている。小松市額見町遺跡の直接的な移住も含め、渡来系集団の移住と考えられる。また話は飛ぶが、加賀市弓波廃寺では板状土製品が出土している。これは伊勢地域にその系譜を求めるとできるとされ〔春日2003〕、加賀地域一帯に移住が行われた可能性がある。

末松廃寺と末松A遺跡

末松A遺跡は国指定史跡末松廃寺から東へ約500mの距離にあり、その間に末松ダイカン遺跡、末松B遺跡、末松しりわん遺跡などを挟むが、それらを含めて末松廃寺との関係は非常に密接であったのは間違いないところである。末松廃寺の建立は7世紀第3四半期と考えられている〔木立1985〕ので、末松A遺跡の竪穴建物を中心とした集落はその直後、あるいはほぼ同時に形成された可能性が高い。末松廃寺の建立とその後の維持のためには相当な労働力が必要であったと考えられる。それらを担った集落の一つに末松A遺跡はあったものと考えたい。そしてそこに居住した人々は、近江や丹波といった畿内外縁部から直接的に移住してきたものたちだけでなく、間接的あるいは小松市額見町遺跡のような渡来系の人々の2次的な移住をもって形成されたと考えられる。そして彼らは、手取川扇状地の開発に従事したのと考えられる。

彼らが何故、手取川扇状地の開発に携わることになったのかについては、国家的政策によるものとするのが妥当であろう。横山が言うように〔横山2003〕、在地領主層である道氏らの力のみでは到底なしえない一大事業と考えられるからである。しかしながら、在地勢力の協力なしにはあり得なかったであろう。在地勢力や国家的な力がどこまで関与したかについては難しいが、移住者集団は当初、彼らの出身地の建物構造や土師器煮炊具を使用しているのであり、かなり独立性の高いものであったのではないだろうか。当初は国家的権力が圧倒的に在地勢力に勝っていたのではないかと考えられる。それは先に述べた竪穴建物内部のカマドの位置にも現れているのであろう。またカマドは上林新庄遺跡や下新庄アラチ遺跡など富樫用水系とされる地域でも竪穴建物の南東角に造られているものがあり、もっと広範囲に集落や建物の構造に対する大きな規制が働いていた可能性がある。このことも在地領主層の力のみではなしえなかったことを傍証するものと考えられる。その後、在地勢力も含めた開発が行われていったのではないだろうか。そして、彼らの半ば寄せ集めの集団をまとめるためには強力な力（信仰）を必要としたことであろう。それが末松廃寺であったと考えたい。

末松A遺跡は、田嶋の言う郷用水系にあり郷中流域Bにあたる〔田嶋1996a〕。田嶋は、郷用水系下流域に存在する東大寺領横江庄遺跡はⅣ期頃に始まる手取川扇状地の「南北の展開」と密接な関係があるとしている⁷⁾。その勢力の母体となったのが末松A遺跡を含めた移民集団と考えられ、掘立柱建物中心の集落となった段階で当地域の有力者層に成長していたのではないだろうか。

注

- 1) 青野型住居跡とは「基本的には方形の竪穴式住居跡であるが、四隅のうち1つを掘り残し、内側へ突出させ、この部分にかまどを設置するものである。掘り残した地山を両袖としてかまどを構築することから、竪穴掘削前の平面的な計画段階において、既にかまどの位置と方向を決定し、この計画に基づいて作業を行ったことは明らかである。」〔中村1982〕と説明されている。87SI02は類似した形態をしており、またそこから出土した土師器煮炊具も青野型であることから、直接の移民が想定できる。さらに住居の南東角にかまどを設置するのが通るとされる〔近澤1992〕。87SI02も南東角にかまどを持つ。また末松A遺跡で検出された竪穴建物のかまども南東角に持つ物が多い。かまどの位置は、風向きなどの地理的制約によって決められたわけではなく、その竪穴建物を造りそして住んだ人々の出自によるところが大きいのかもしれない。
- 2) 藤田は同タイプ内の器形の違いではないかと述べている。また時期的には普正寺遺跡地山面と重なると考え、燈芯油痕の付着する資料も見え始める〔藤田1992〕。
- 3) 望月精司氏のご教示による。北部九州では砥石を転用する事例が多いそうである。
- 4) 胎土分類は遺物整理を担当した北野博司氏が分類したものそのまま掲載した。その分類基準の詳細については〔北野1987〕を参照願いたい。
- 5) 田嶋は2棟前後からなるものを建物小群、複数の建物小群からなるものを建物群とし6～9世紀代の基本的な単位としている〔田嶋1983〕。建物小群を小経営単位、建物群を農業共同体結合〔宇野1991〕と理解することも可能であるが、建物小群、建物群を詳細に抽出・検討していないので、ここでは〔経営単位〕というやや曖昧な表現を用いる。
- 6) 口縁部の形態で識別しやすく、「現状で識別しやすいのが丹波、近江ということであり、摂津や山城、越前など幅広い地域からの移住を想定しておく必要がある」と北野が言うように〔北野1997〕今後さらに識別が進めそれらを明らかにする必要があるだろう。
- 7) 田嶋は、東大寺領横江庄遺跡の成立は、Ⅳ期頃から始まる手取扇状地での「南北の展開」と密接に関係があるとする。それは末松廃寺や末松A遺跡が所在する、郷用水系中流域の政治勢力との直接的な関係を窺わせるとしている〔田嶋1996a〕。

引用・参考文献

- | | | |
|----------|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 浅香年木 | 1978 | 『古代地域史の研究』法政大学出版局 |
| 宇野隆夫 | 1991 | 『律令社会の考古学的研究－北陸を舞台として－』桂書房 |
| 石崎善久 | 1996 | 「『青野型甕』について」『京都府埋蔵文化財論集』第3号、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、403-432 |
| 大崎哲人 | 1993 | 「土師器甕の変遷とその背景－近江型土師器成立への諸段階－」『紀要第6号』財団法人滋賀県文化財保護協会、31-44 |
| 大西 顕 | 2003 | 『松任市橋爪新A遺跡・橋爪新B遺跡』財団法人石川県埋蔵文化財センター |
| 岡本恭一 | 1991 | 「第六章 石製品」『粟田遺跡発掘調査報告書』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会 |
| 折戸靖幸・川畑誠 | 1994 | 「高松・押水窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究第4号』北陸古代土器研究会、53-62 |
| 柿田祐司ほか | 2003 | 『松任市末松遺跡群Ⅰ』財団法人石川県埋蔵文化財センター |
| 春日真実 | 2003 | 「越後出土の円筒形土製品・板状土製品について」『蜷気楼－秋山進午先生古稀記念－』秋山進午先生古稀記念論集刊行会、281-306 |
| 亀田文哉ほか | 2001 | 『湯屋古窯跡Ⅲ』辰口町教育委員会 |
| 川畑 誠 | 1995a | 「柴木D遺跡の調査」『鶴来北部遺跡群調査報告Ⅱ－県営圃場整備事業鶴来地区埋蔵文化財発掘報告2－』石川県立埋蔵文化財センター、5-8 |
| | 1995b | 「石川県内の古代建物に関する基礎考察－掘立柱建物の平面プランを中心に－」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報6』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会、62-103 |
| 木立雅朗 | 1985 | 「湯屋瓦屋をめぐる諸問題」『辰口町湯屋古窯跡』辰口町教育委員会、116-130 |

- 北野博司 1987 「出土土器の観察」『篠原遺跡』石川県立埋蔵文化財センター、78-82
 1988 「重ね焼きの観察」『辰口西部遺跡群Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター、112-115
 1989 『末松遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
 1994 「末松遺跡の竪穴建物」『村落遺跡研究会レジメ』
 1997 「古代北陸の地域開発と出羽」『蝦夷・律令国家・日本海-シンポジウムⅡ・資料集-』日本考古学協会
 1997年度秋田大会実行委員会、297-302
- 古代の土器研究会 1996 『古代の土器研究-律令的土器様式の西・東4 煮炊具-』古代の土器研究会
 財団法人北陸建設弘済会金沢支所 1991 『道路事業のあゆみ』建設省北陸地方建設局金沢工事事務所
- 高橋泰子・多ヶ谷香里 1998 「竪穴住居に関する基本的用語の定義」『土壁 第2号』、考古学を楽しむ会、1-10
- 田嶋明人 1983 「奈良・平安時代の建物グループと集落遺跡」『北陸の考古学』石川考古学研究会々誌第26号、石川考古学研究会、661-682
 1988 「古代土器編年軸の設定」『北陸古代土器研究の現状と課題(報告編)』北陸古代土器研究会、1-3
 1996a 「手取扇状地にみる古代遺跡の動態」『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』石川県松任市教育委員会
 1996b 「北陸地方の古墳時代の土器」『日本土器辞典』雄山閣、657-675
- 田村昌宏 2000 「清金アガトウ遺跡」『粟田遺跡藤平地区・清金アガトウ遺跡』野々市町教育委員会、135-160
- 近澤豊明 1992 「京都-青野・綾中遺跡群」『第32回埋蔵文化財研究集会資料集 第三分冊』財団法人和歌山県文化財センター、172-175
- 中世土器研究会 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 中村孝行 1982 『綾部市文化財調査報告 第9集』京都府綾部市教育委員会
- 野々市町史編纂専門委員会 『野々市町史 資料編1』石川県野々市町
- 藤 則雄 1991 「第八章 粟田遺跡出土石器類の石質」『粟田遺跡発掘調査報告書』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
- 藤田邦夫 1992 「加賀における様相-土器器-」『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』北陸中世土器研究会、47-70
- 本田秀生ほか 2000 『野々市町末松遺跡群』財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 望月 映 1990 「古代の竪穴住居址」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4 -松本市内 その1-総論編』財団法人長野県埋蔵文化財センター、37-68
- 望月精司 1999 「北陸型煮炊具の出現と成立過程-加賀地域及び小松市額見町遺跡の事例検討を中心として-」『北陸の考古学Ⅲ』石川考古学研究会々誌第42号、石川考古学研究会、147-166
 2003 「北陸・信越地域の土器」『考古資料大観 第3巻 弥生・古墳時代 土器Ⅲ』小学館、264-272
 2003 「古代権状錘に関する一考察-北陸出土権状錘資料の検討を中心として-」『北陸の古代と土器』北陸古代土器研究第10号、北陸古代土器研究会
 2004 「北陸地域における飛鳥時代須恵器の様相-飛鳥Ⅰ~Ⅲ期併行の北陸諸窯の様相差を中心として-」『白門考古論叢-稲生典太郎先生追悼考古学論集-』中央考古会・中央大学考古学研究会、161-190
- 山田由布子 2004 「末松遺跡」『石川県埋蔵文化財情報第12号』財団法人石川県埋蔵文化財センター、28-29
- 山本直人 1985 「石川県における打製石斧について」『石川考古学研究会会誌』第28号 石川考古学研究会
 1993 「縄文時代後・晩期の打製石斧による生産活動 手取川扇状地を中心として」『考古論集』
- 横山貴広 2000 『上林新庄遺跡・上林古墳・上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡』野々市町教育委員会
 2001 『末松A遺跡・末松しりわん遺跡』石川県野々市町教育委員会
 2003 「扇状地における新興開発領主層の台頭とその後の展開-古代(6世紀末~9世紀中頃)手取川扇状地を中心として-」『蜃気楼-秋山進午先生古稀記念-』秋山進午先生古稀記念論集刊行会、319~338
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

写真図版



末松A遺跡と末松廃寺を上空から（南から）



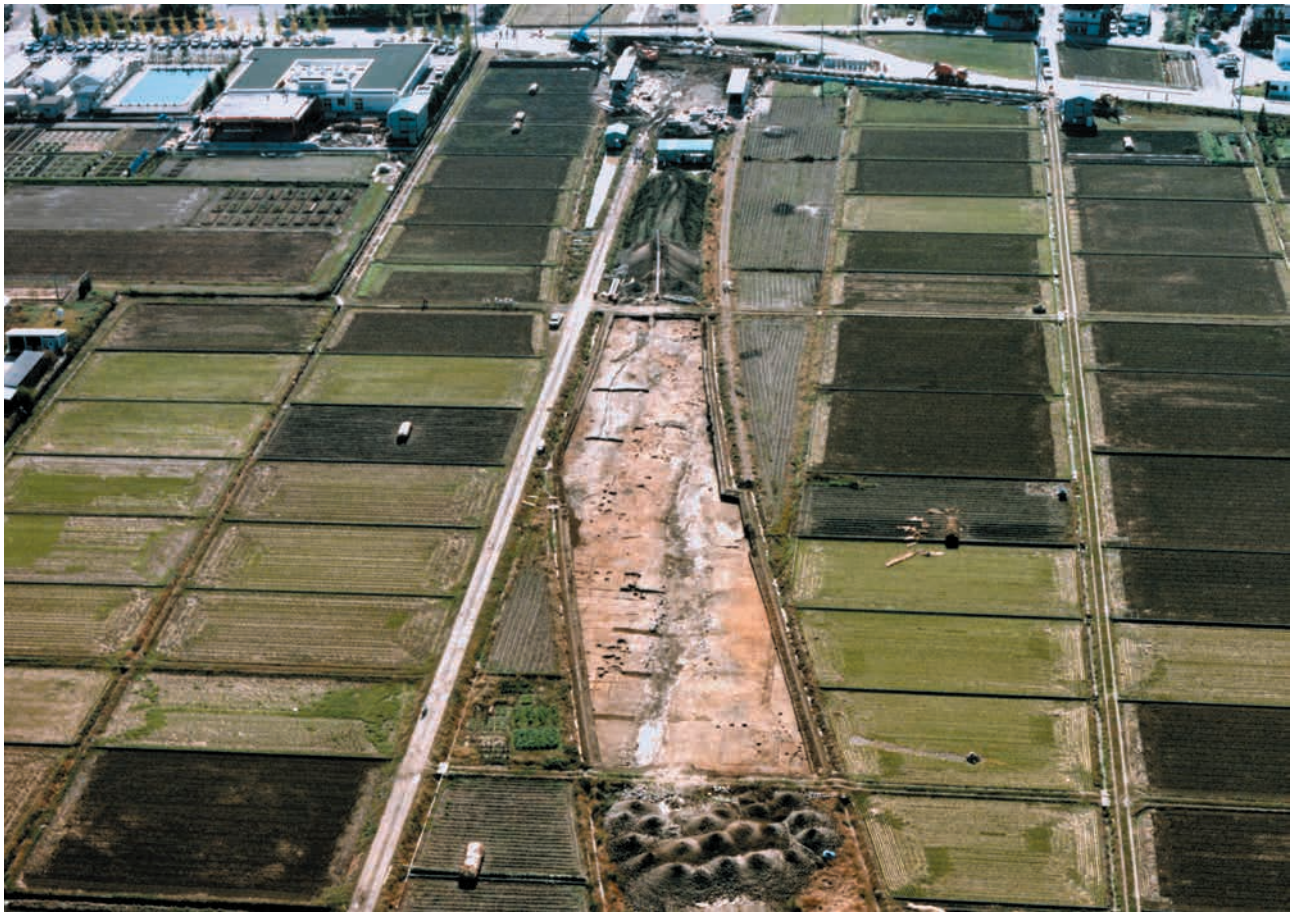
1985年度調査区航空写真（東から）



1986年度調査区航空写真（南から）



1986年度調査区航空写真（西から）



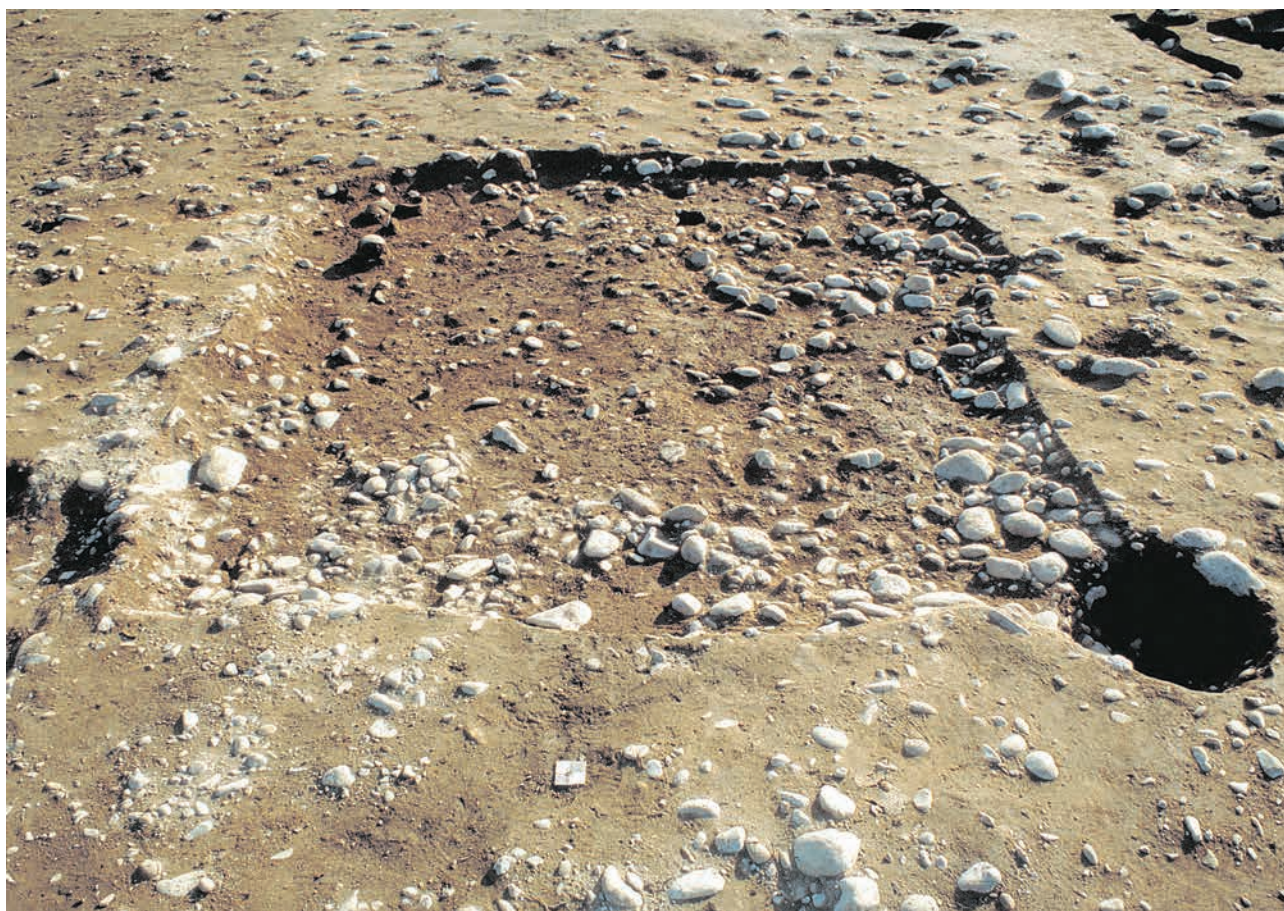
1987年度調査区航空写真（北から）



1987年度調査区航空写真（西から）



85S101完掘状況（北東から）



85S102完掘状況（北から）



85S103完掘状況（北東から）



85S105・06完掘状況（北東から）



1986年度調査区全景（南から）



86S108・09・10完掘状況（東から）



86S110完掘状況(南から)



86S108・09完掘状況(東から)



86S108カマド及び遺物出土状況（北から）



86S108カマド付近遺物出土状況（西から）



86S110カマド及び遺物出土状況(北西から)



86SB01(西から)



86SB02 (南から)



86S107 遺物出土状況



86S101・02・03・04ほか (南から)



86S101・02・03完掘状況 (北西から)



86S102完掘状況(南東から)



86S101完掘状況(南東から)



86S104完掘状況（北から）



86S106完掘状況（南東から）



C17-20 全景 (北から)



B19-29 全景 (南から)



87S103ほか (北から)



87S101カマド



87S109完掘状況（南から）



河道及び護岸礫群全景（南から）



1985年度調査区全景（南から）



1985年度調査区全景（北から）



85S101土層断面及び遺物出土状況（南西から）



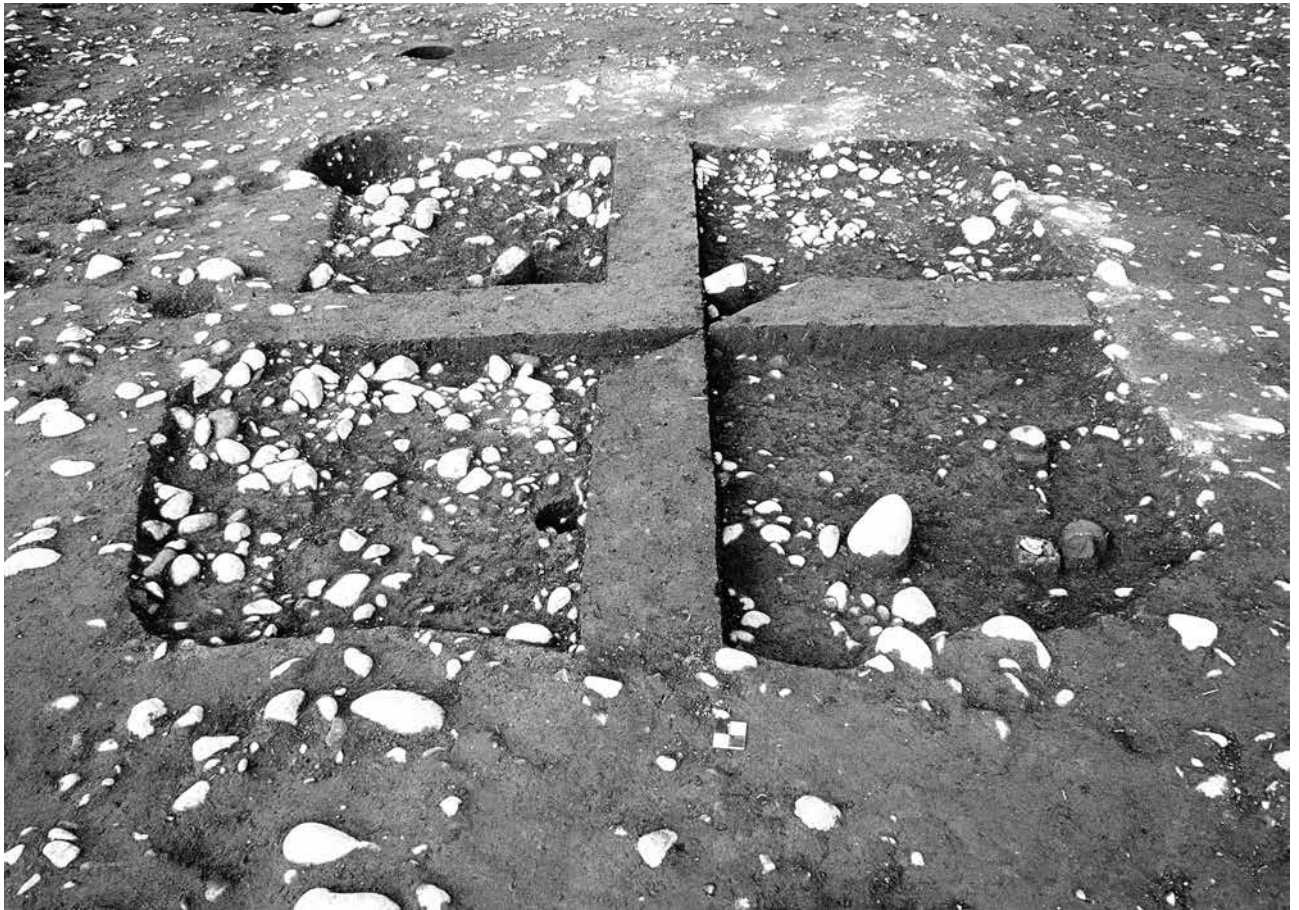
85S101カマド及び遺物出土状況（北から）



85S101 遺物出土状況 (南西から)



85S101 土師器椀出土状況



85S102 土層及び遺物出土状況 (南から)



85S102 焼土・遺物検出状況



85S102 焼土断割り状況



85S103 土層及び遺物出土状況（南西から）



85S104 完掘状況（北から）



85S105・06土層及び遺物出土状況（北東から）



85S105・06完掘状況（北東から）



85S105完掘状況(南東から)



85S106完掘状況(南東から)



85 S I 05・06 遺物出土状況 (南西から)



85 S I 05 遺物出土状況



85 S I 05 遺物出土状況



85 S I 05 貼床検出状況 (東から)



85 S I 05 貼床検出状況 (北西から)



85S106床面出土遺物（南東から）



85S106遺物出土状況（P11、焼土等）



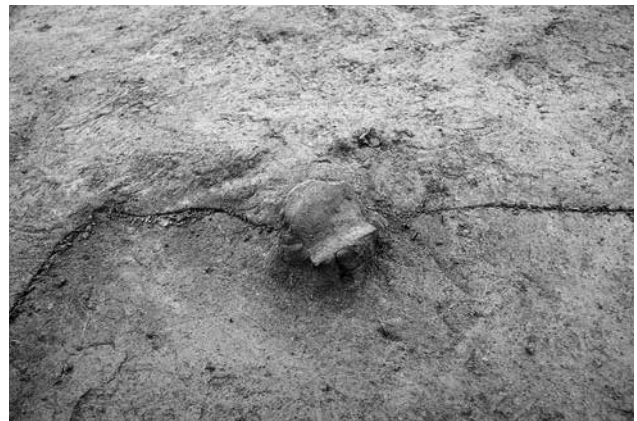
85S106床下土坑内出土遺物（南東から）



85S106遺物出土状況（P5、P6）



85S106遺物出土状況（P14）



85S106遺物出土状況（P1）



85S106遺物出土状況（P3）



85S106主柱穴及び焼土（北から）



85S107 遺物出土状況 (南から)



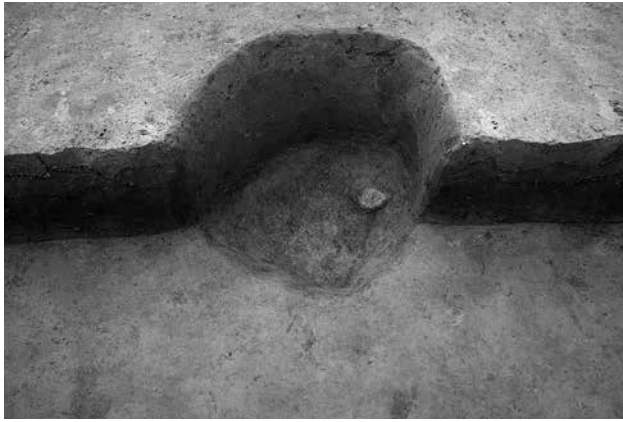
85S107 完掘状況 (東から)



85SB01及び85SI07 (南から)



85SB01及び85SI07 (西から)



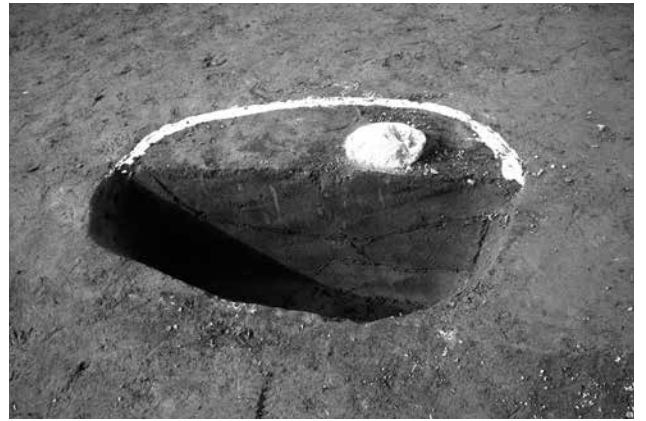
85SK01 完掘状況 (西から)



85SK02 土層断面 (東から)



85SK03 完掘状況 (南から)



85SK04 土層断面 (東から)



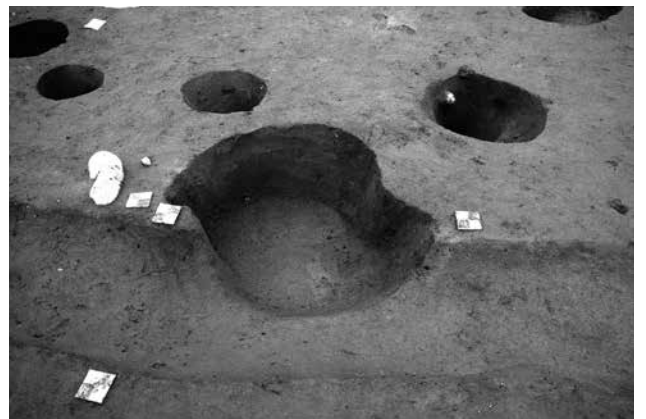
85SK05 土層断面 (東から)



85SK06 土層断面 (南から)



85SK09 土層断面 (南から)



85SK10 完掘状況 (西から)



85P25土層断面(南から)



85P41刀出土状況(西から)



85P39土師器出土状況(南から)



85SD01土層断面(西から)



85SD02土層断面(南から)



85SD03土層断面(南から)



85SD04土層断面(南から)



85SD05完掘状況(東から)



85SD10完掘状況(西から)



85SD06(南から)



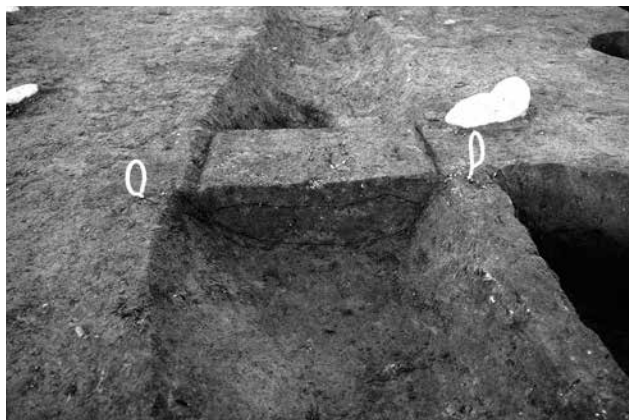
85SD07・08(南から)



85SD09土層断面(東から)



85SD09土層断面(東から)



85SD11土層断面 (南から)



85SD12・13・14



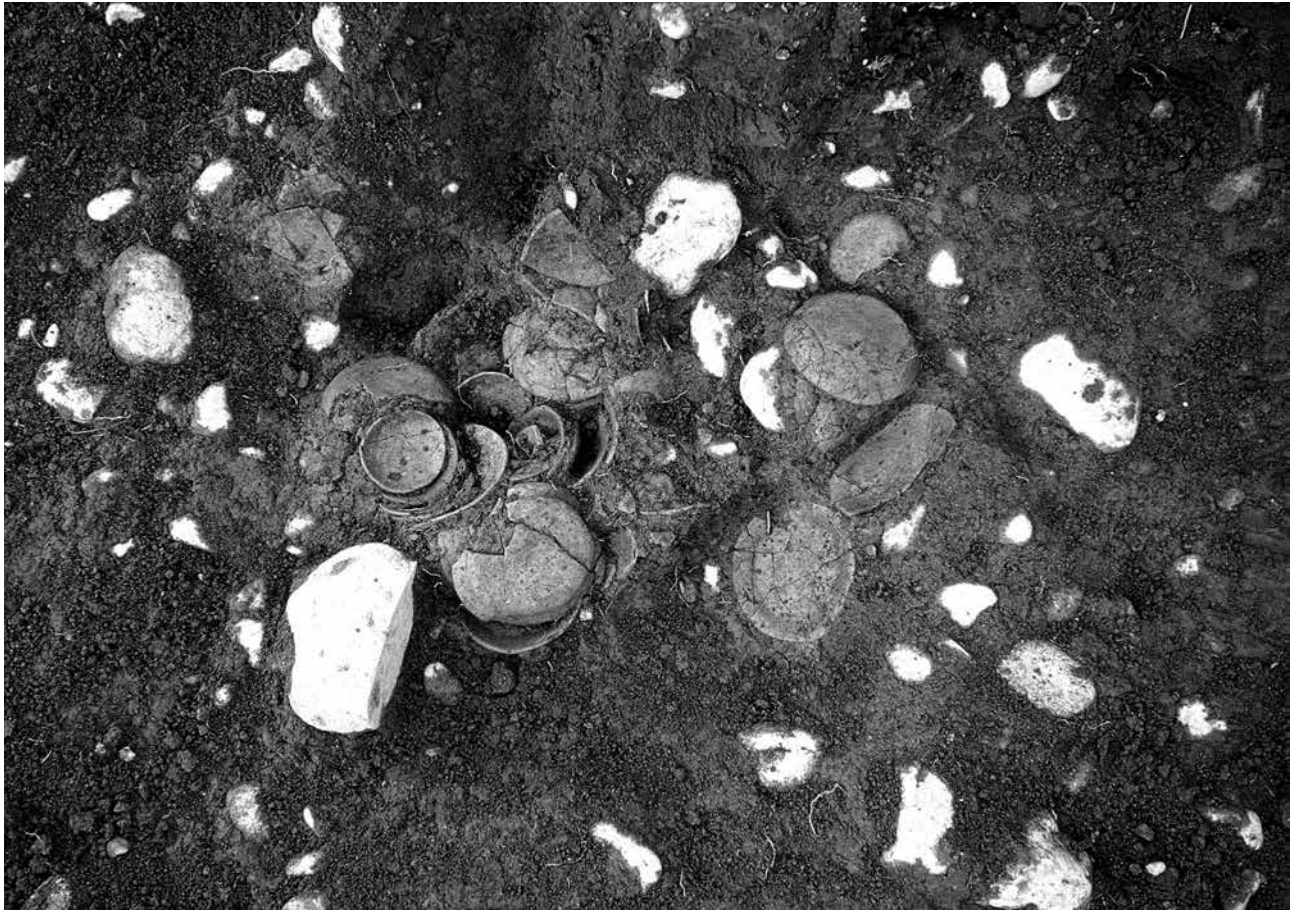
85SI05・06上層遺構 (北から)



85SI07調査風景



85SI01調査風景



A 6ピット (土師器出土状況)



1985年度調査区航空写真 (南から)



86S108・09・10完掘状況（南から）



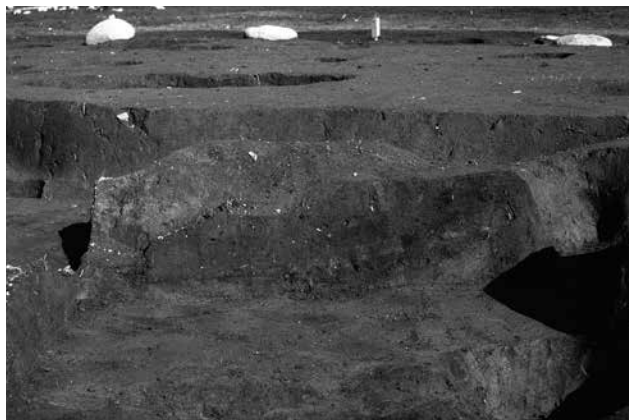
86S108・09・10完掘状況（東から）



86S110 貼床除去後（南から）



86S110 カマド及び出土遺物（東から）



86S110カマド断面(西から)



86S110カマド断面(北から)



86S110カマド断面(南から)



86S110床下土坑断面(西から)



86S110壁溝断面



86S110 遺物出土状況 (北から)



86S110 遺物出土状況 (P1)



86S110 遺物出土状況 (P2)



86S110 遺物出土状況 (P4、P5)



86S110 遺物出土状況 (P3)



86S108・09完掘状況（東から）



86S108完掘状況（北から）



86S108 土層断面及び遺物出土状況（北から）



86S108 遺物出土状況（南から）



86S108 遺物出土状況（北から）



86S108 遺物出土状況（西から）



86S108 遺物出土状況（東から）



86S108カマド断面(南から)



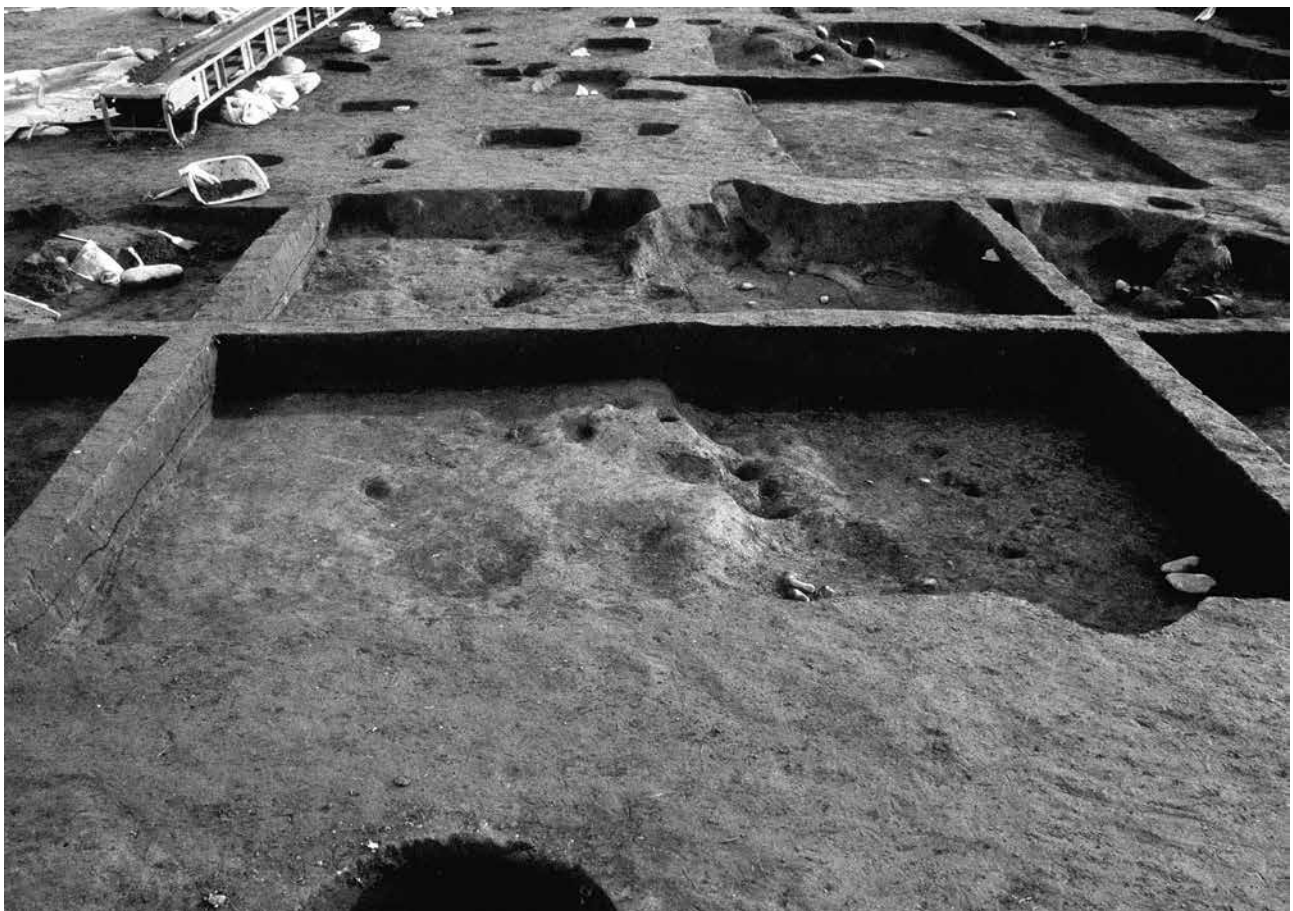
86S108カマド断面(西から)



86S108カマド断面(北から)



86S108カマド断面(東から)



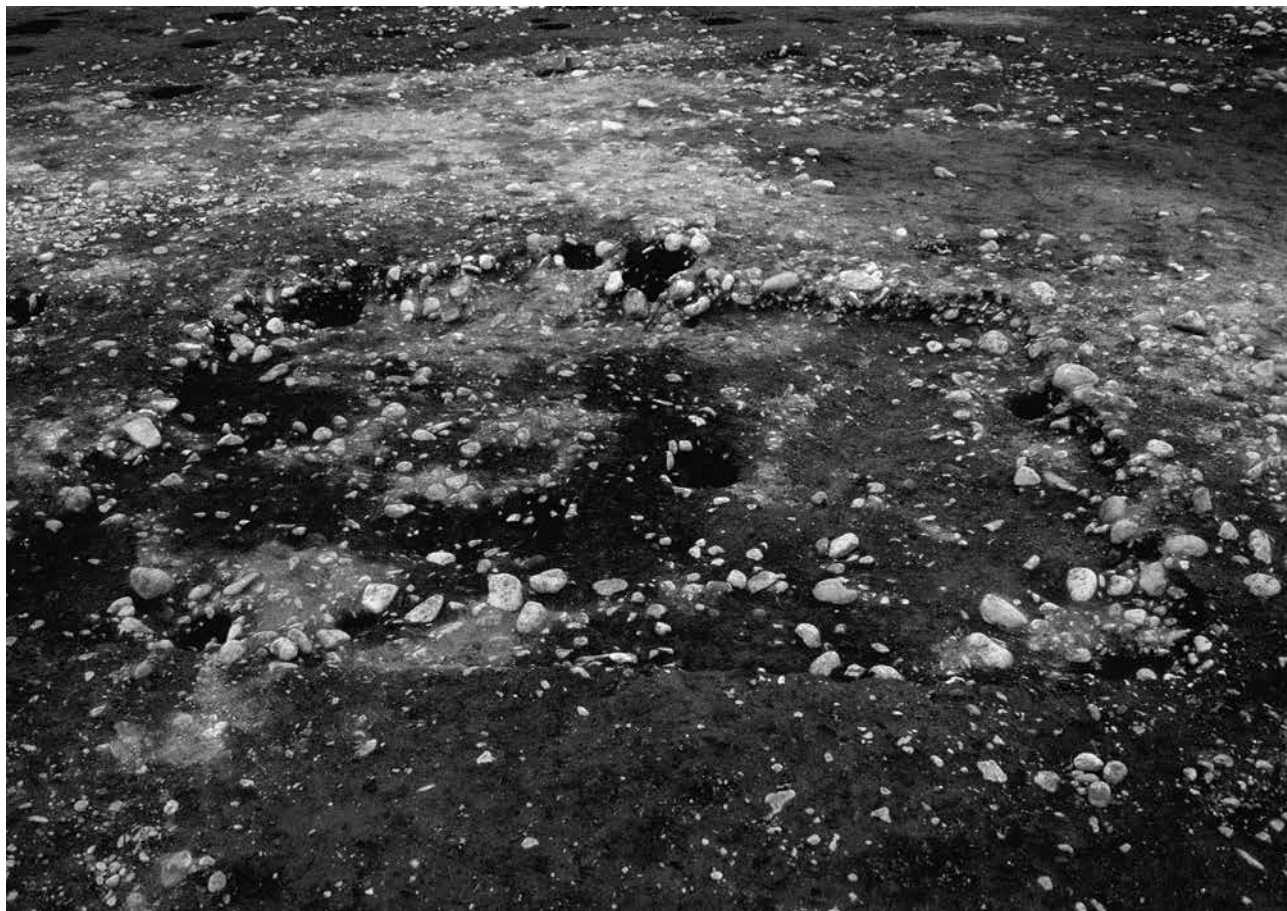
86S108・09土層断面(北から)



86S109完掘状況(北から)



86S108・09床面断割り状況(西から)



86S105完掘状況（東から）



86S106完掘状況（南から）



86S107土層断面及び遺物出土状況（西から）



86S107土層断面及び遺物出土状況（北から）



86S101・02・03完掘状況(南東から)



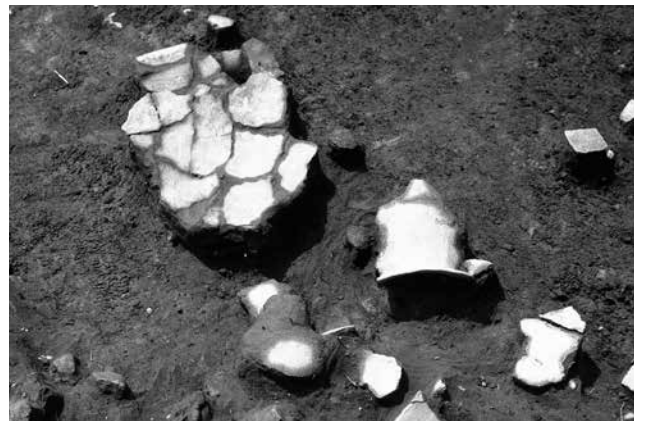
86S102完掘状況(南東から)



86S102 遺物出土状況 (南東から)



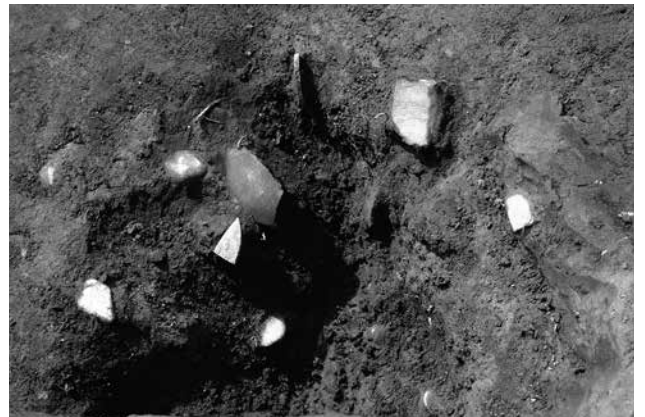
86S102 遺物出土状況 (刀子)



86S102 遺物出土状況



86S102 遺物出土状況



86S102 遺物出土状況



86S102土層断面及び遺物出土状況（西から）



86S102カマド断面



86S101・03完掘状況（南東から）



86S101・02完掘状況（北東から）



86S103完掘状況(南東から)



86S104完掘状況(南東から)



86S104カマド (東から)



86S104カマド断面 (北から)



86SB01 (東から)



86SB02 (東から)



C 8 より北側調査区全景 (南から)



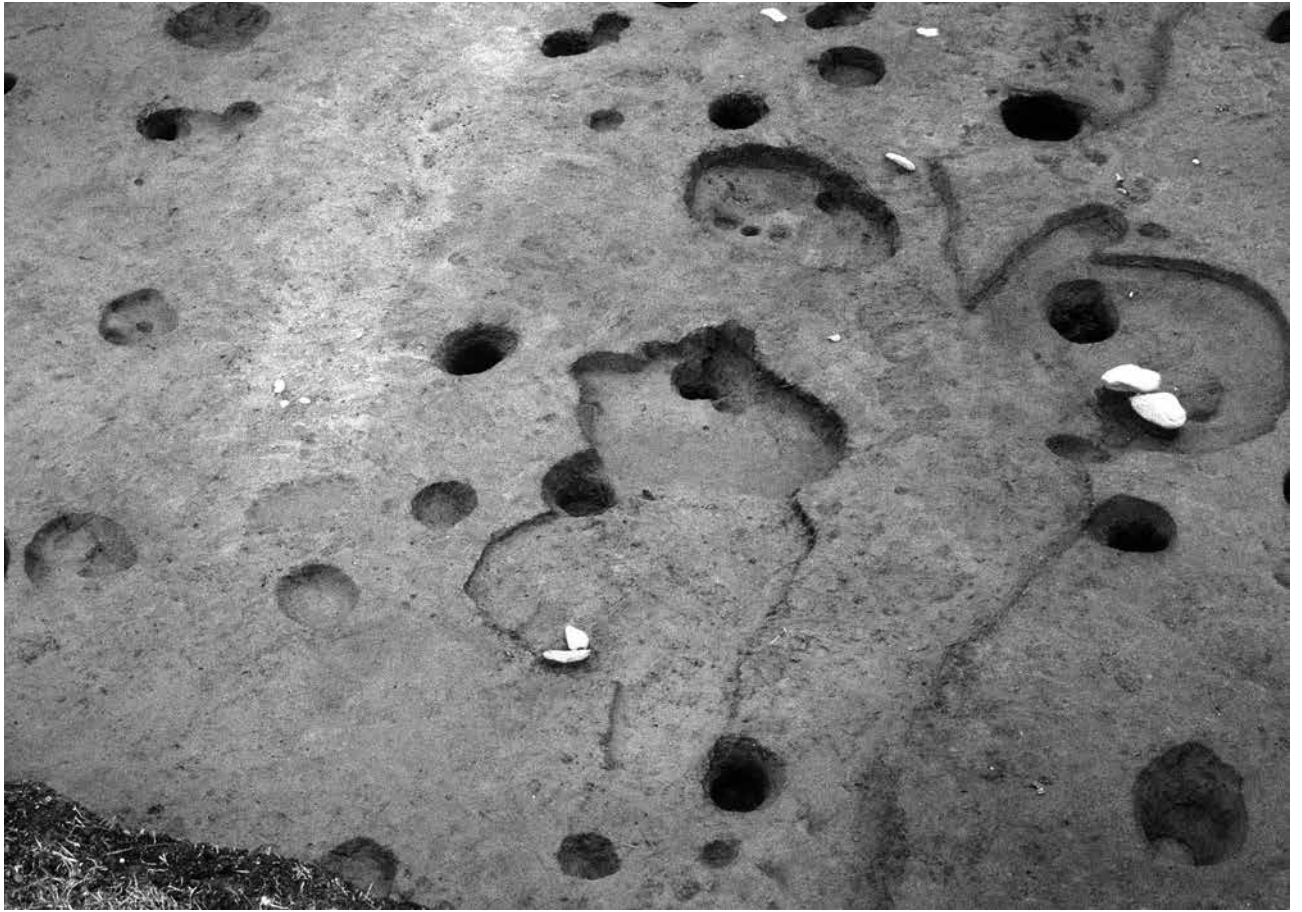
C 8 より北側調査区全景 (北から)



掘立柱建物跡群 (南西から)



86SB14 (南から)



86SB03 (南東から)



86SB15 (北から)



県道南調査区全景（南東から）



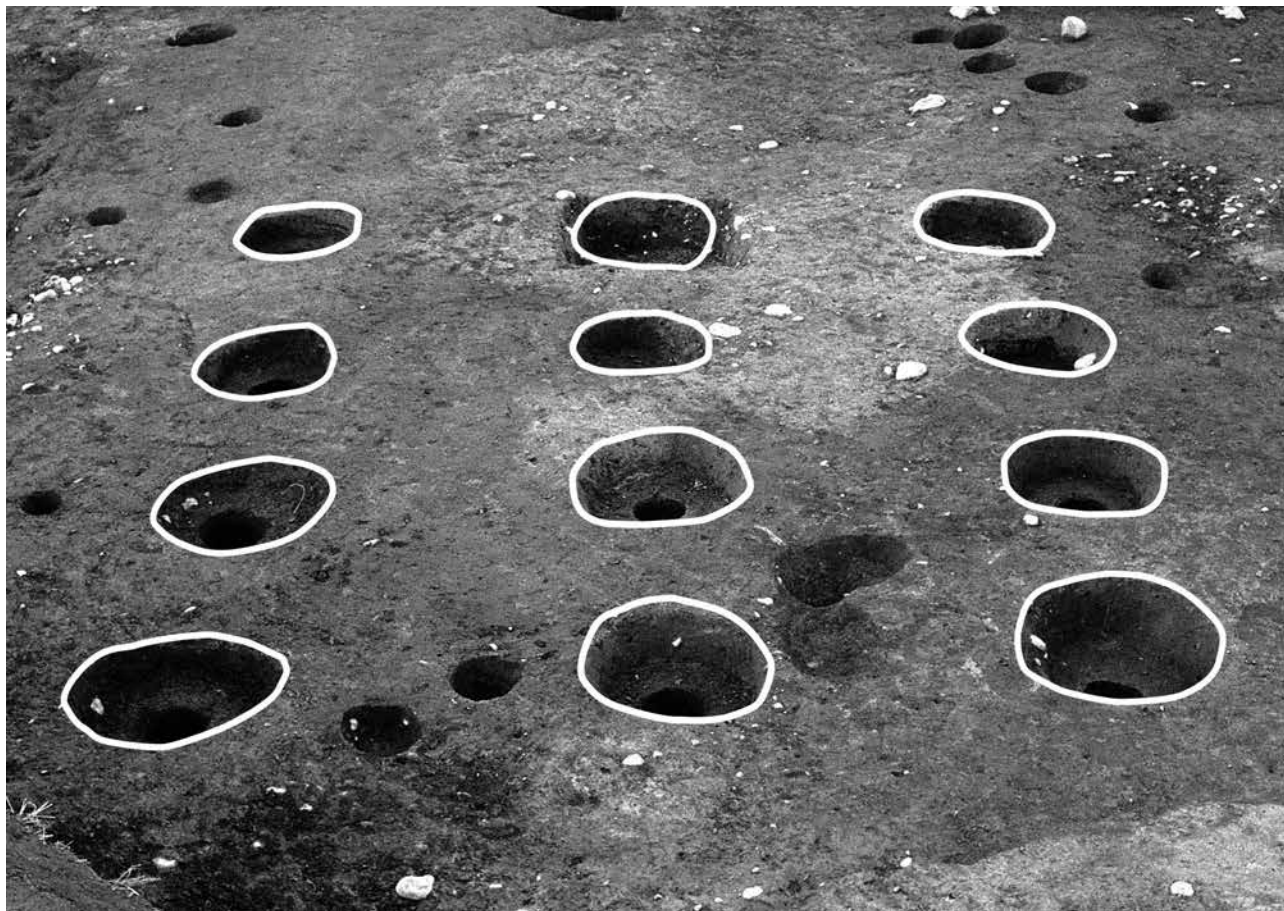
県道北調査区2全景（北から）



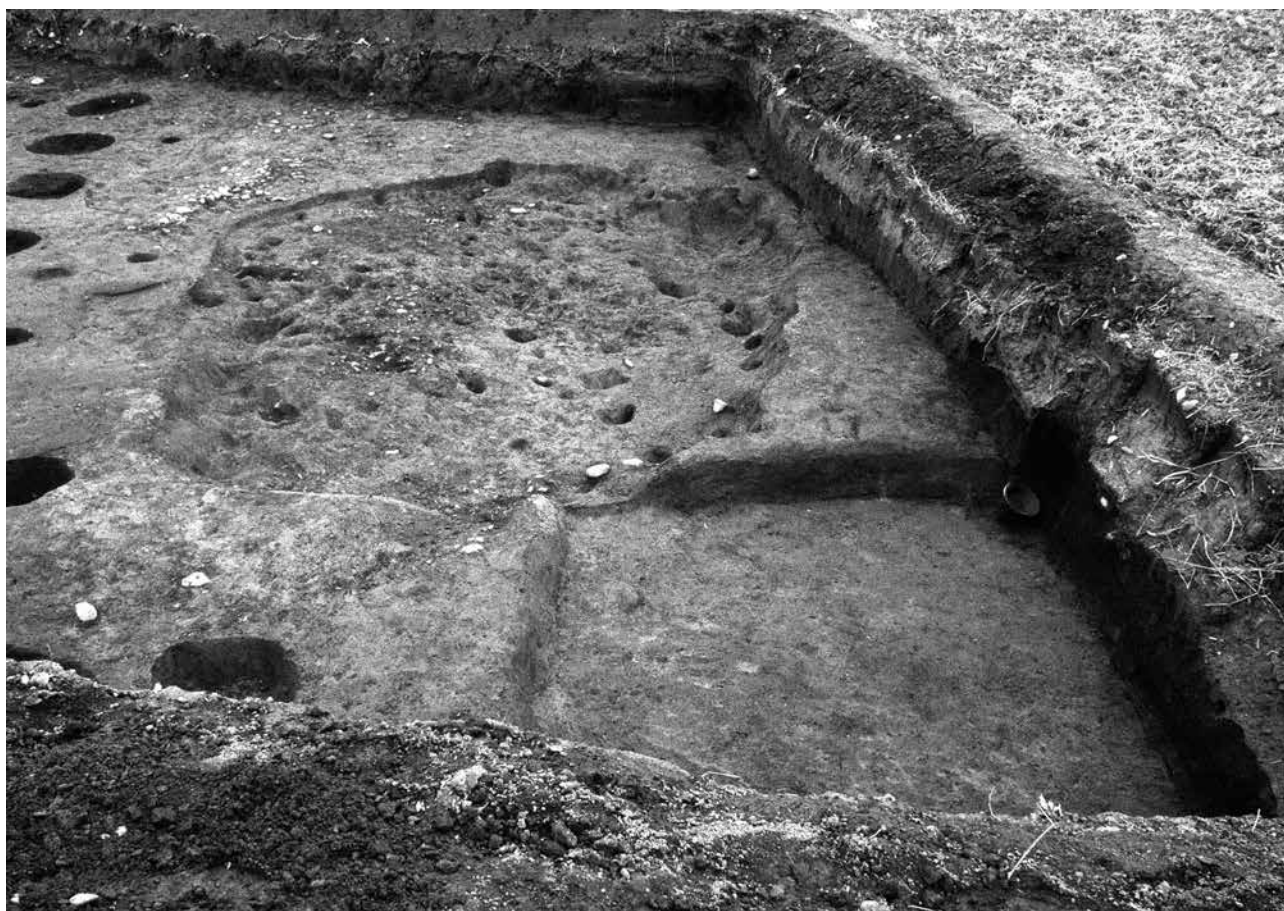
県道北調査区 1 全景 (東から)



県道北調査区 3 全景 (北西から)



86SB21 (南東から)



86SK01S完掘状況 (北から)



86S112 (北から)



86S113 (北から)



C9, 86P110 (東から)



C9, 86P110 遺物出土状況 (東から)



県道北調査区P 1 2 N (北東から)



県道北調査区P 1 2 N遺物出土状況 (北から)



B 4, 軒丸瓦出土状況



県道北調査区SK6N (北西から)



86S110ほか調査風景



86S108・09調査風景



調査風景



県道北調査区調査風景



調査風景



県道南調査区調査風景



87S102・04ほか(南から)



87S102・04ほか(北から)



D 1 9 - 2 6 全景 (南から)



B 1 9 - 2 9 全景 (北から)



87S104完掘状況(北から)



87S102完掘状況(北から)



87S102南東角 (北西から)



87S102カマド (北西から)



87S102カマド断面（北西から）



87S102カマド断面（北東から）



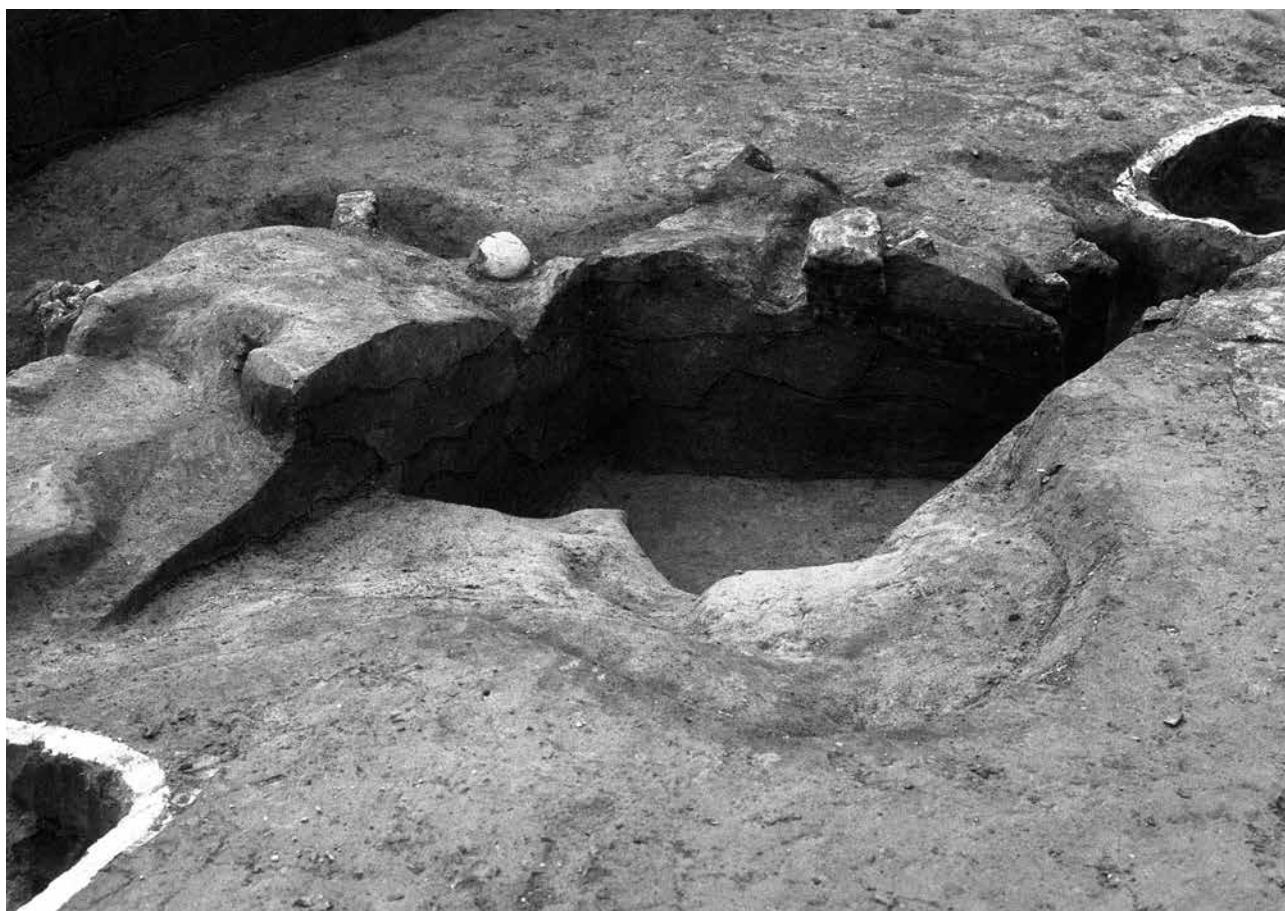
87S101 (南から)



87S101カマド及び遺物出土状況 (北から)



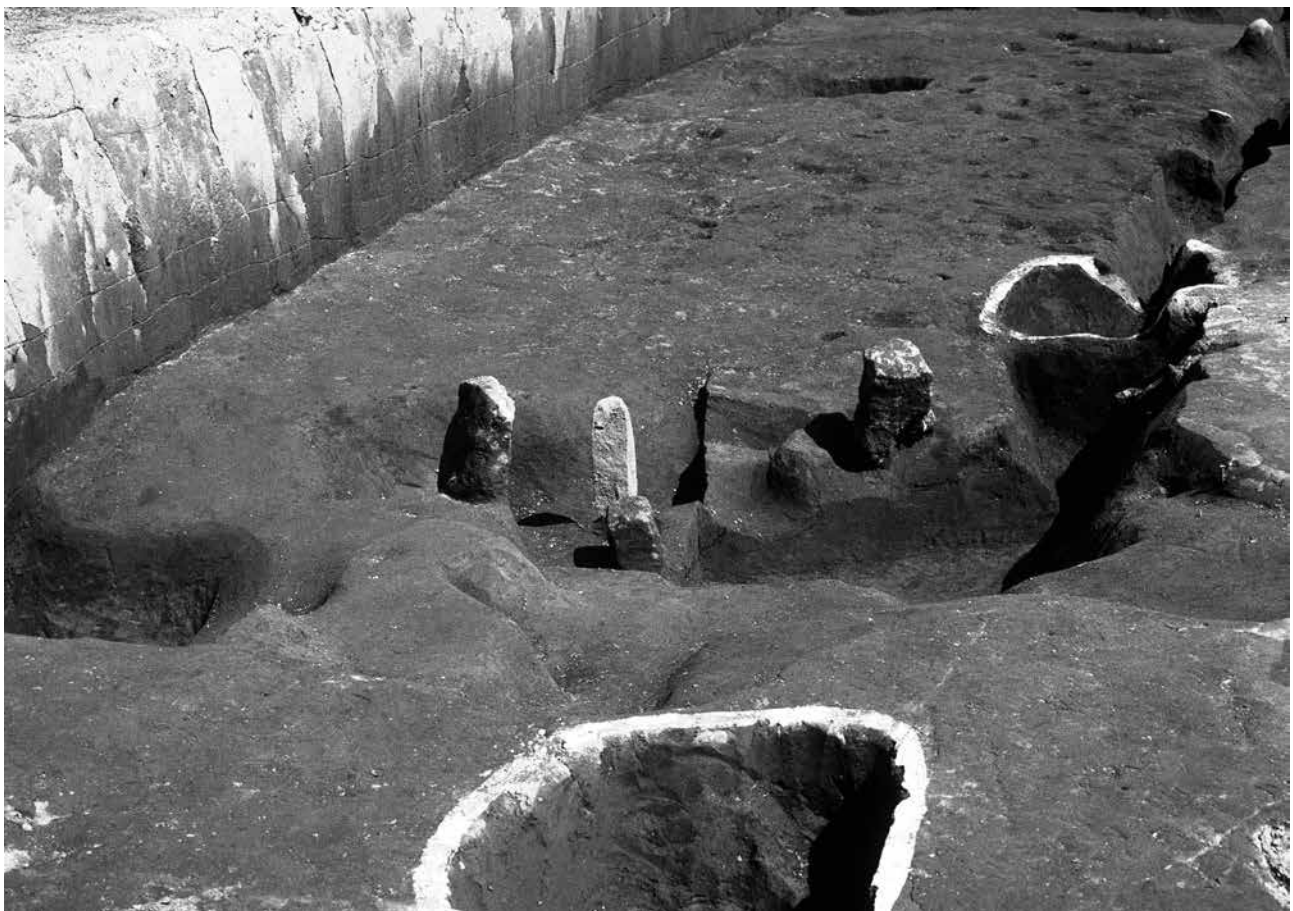
87S101カマド断面(北から)



87S101カマド断面(南から)



87S101カマド断面(北から)



87S101カマド構築材(南から)



87SB01 (北から)



87SI03 (南から)



87S103 (北から)



87S103床面除去後(北から)



87S103カマド及び遺物出土状況（北から）



87S103カマド及び遺物出土状況（西から）



Y~B30-42全景 (南から)



Y~B30-42全景 (北から)



87S110 (南から)



87S106・07 (東から)



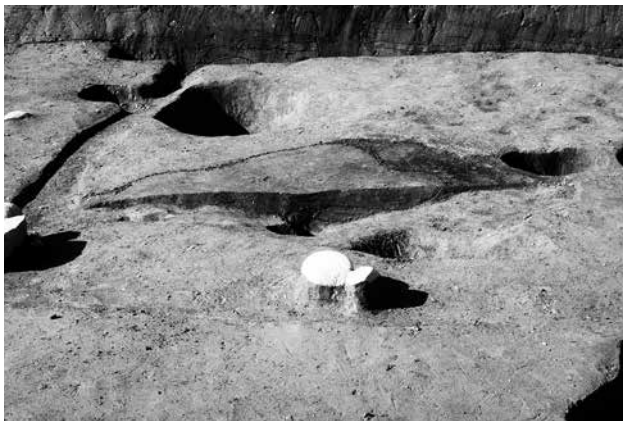
87S106・07 (南から)



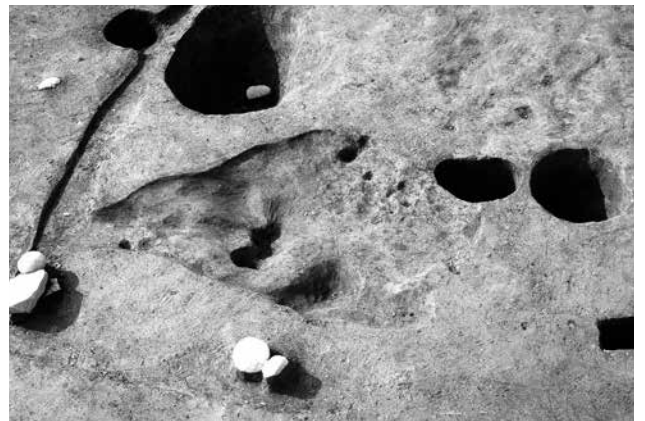
87S106 南側柱列 (東から)



87S106・07カマド (東から)



87S106カマド断割り (東から)



87S106カマド完掘状況 (東から)



87S107カマド断割り (東から)



87S106・07カマド (南から)



87SK22 (南東から)



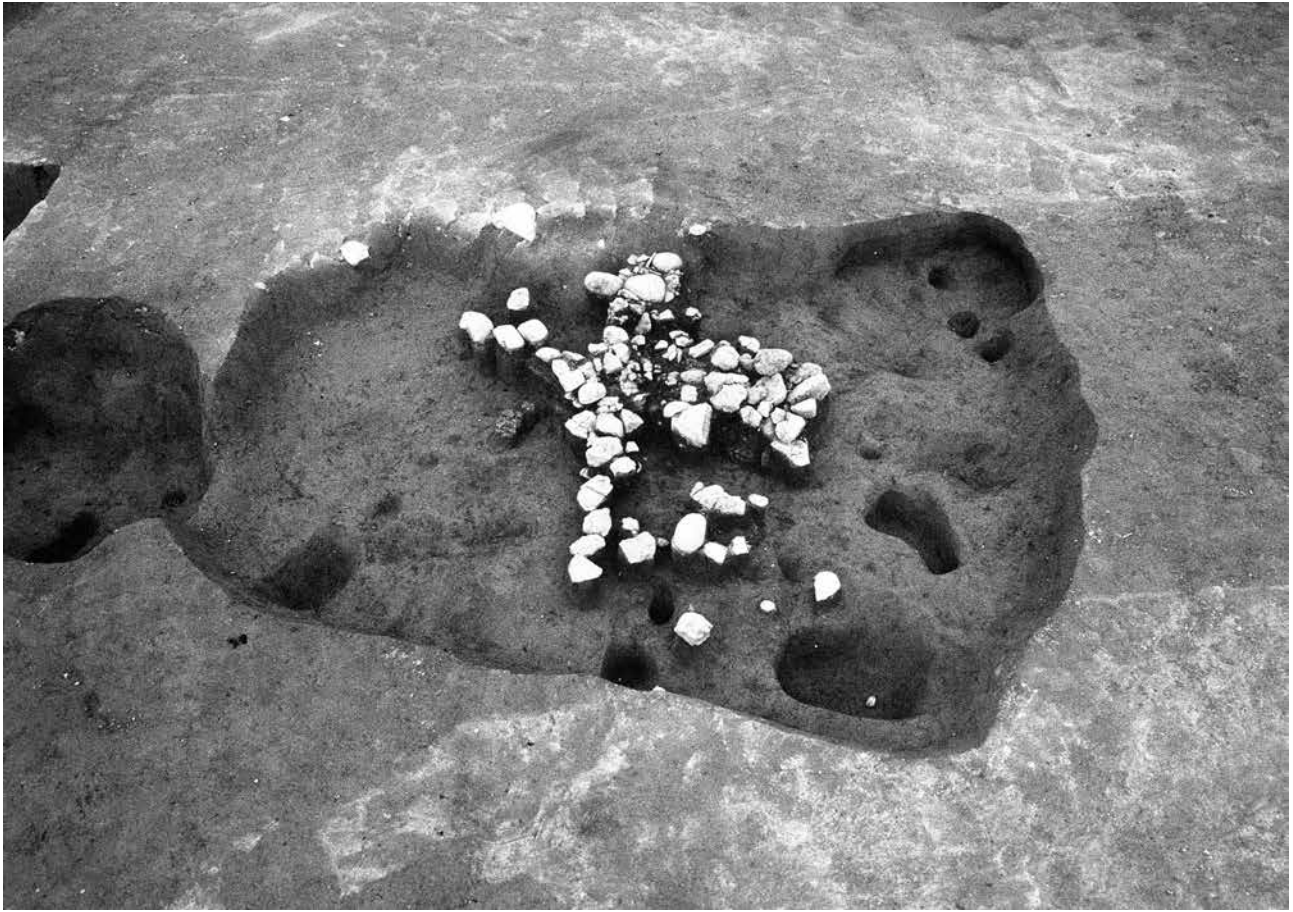
87SK22土層断面 (南東から)



87S108完掘状況（北から）



87SX02完掘状況（北から）



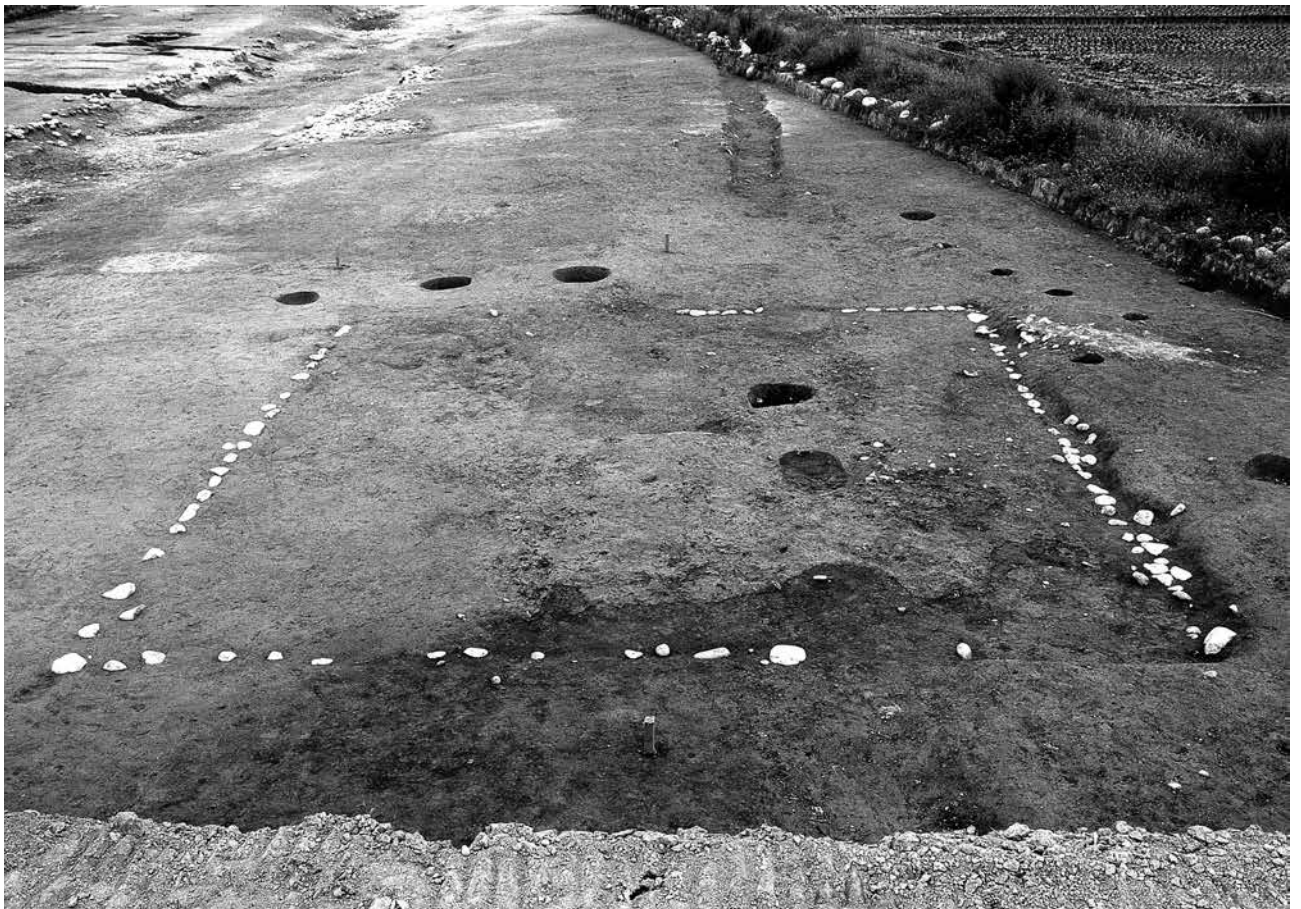
87SK21 (西から)



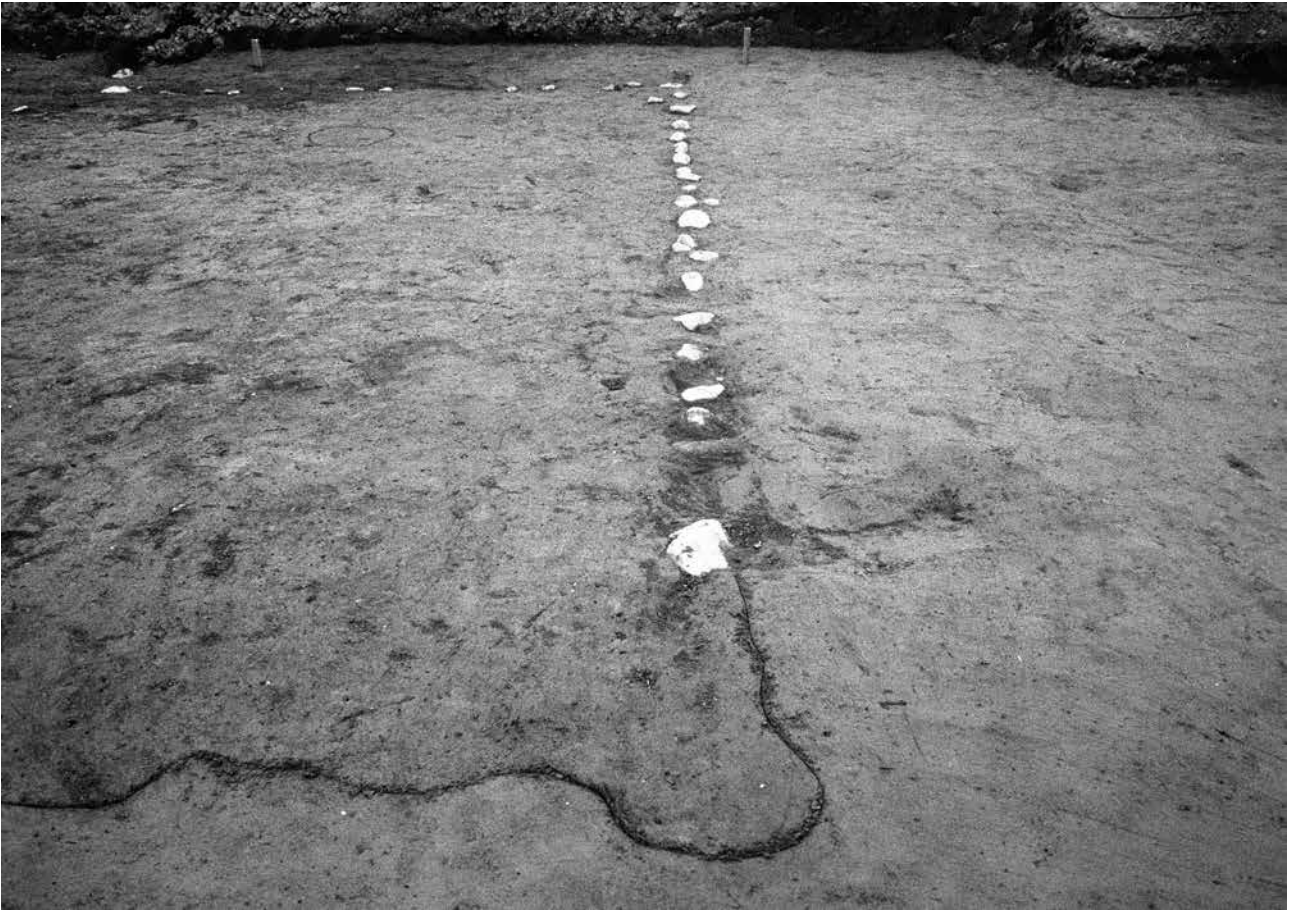
87SX01 (東から)



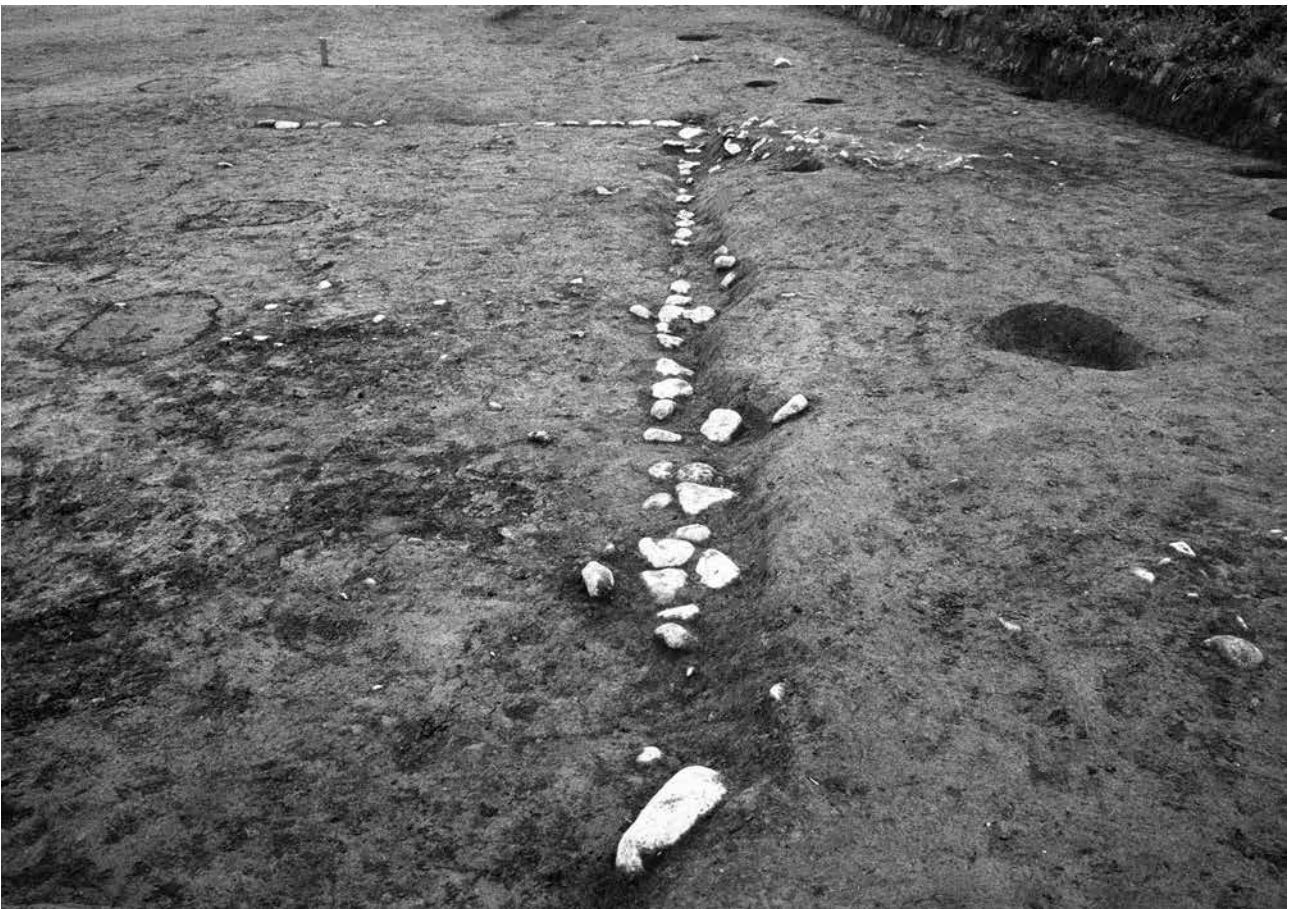
87S109 (南から)



87S109 (北から)



87S109 東側石列 (南から)



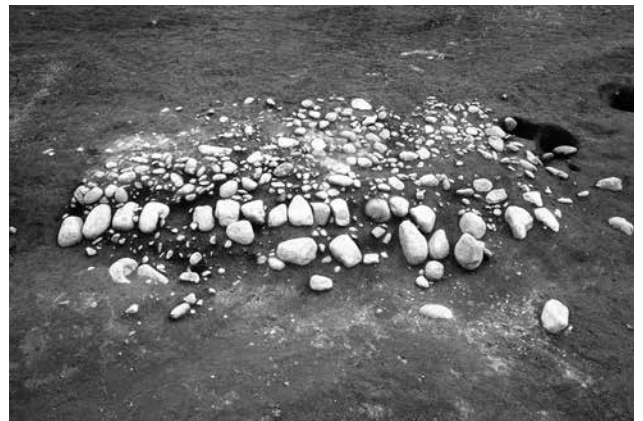
87S109 西側石列 (北から)



河道完掘状況（北から）



護岸礫群 1（南東から）



護岸礫群 2（東から）



護岸礫群 1・2（東から）



護岸礫群 2・3（南東から）



調査風景



87S102調査風景



87SK21調査風景



87SX01調査風景



河道調査風景



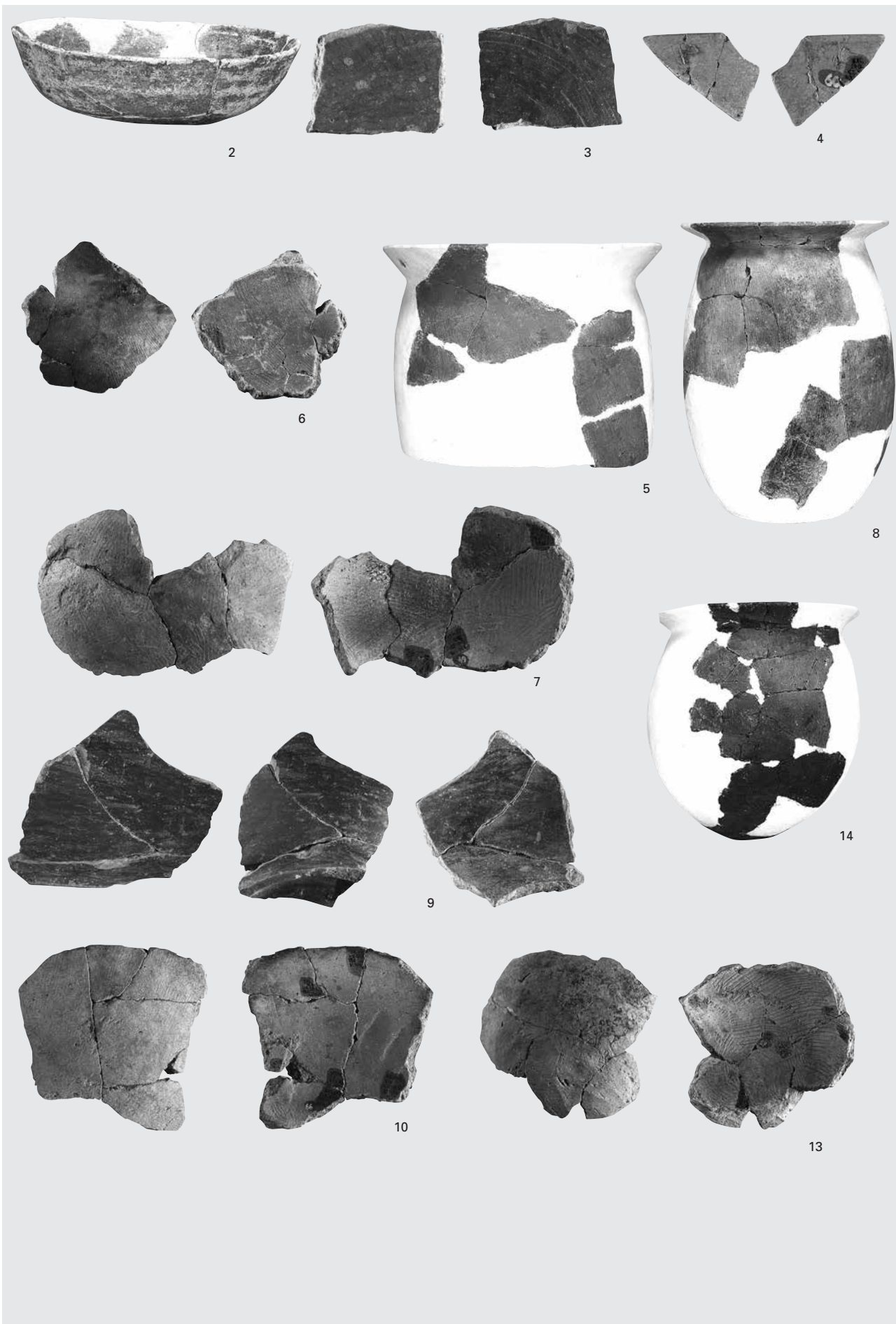
87SX02調査風景

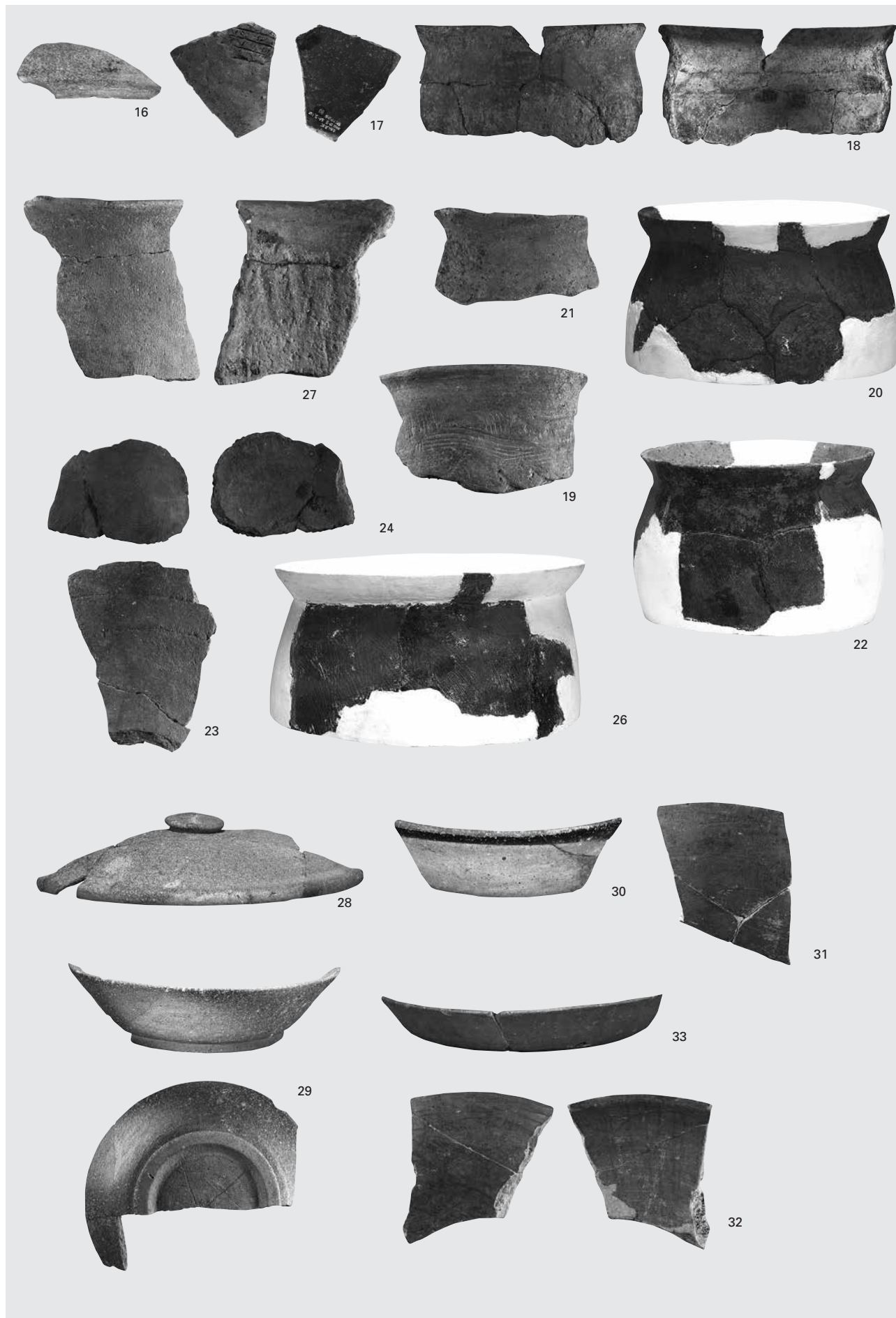


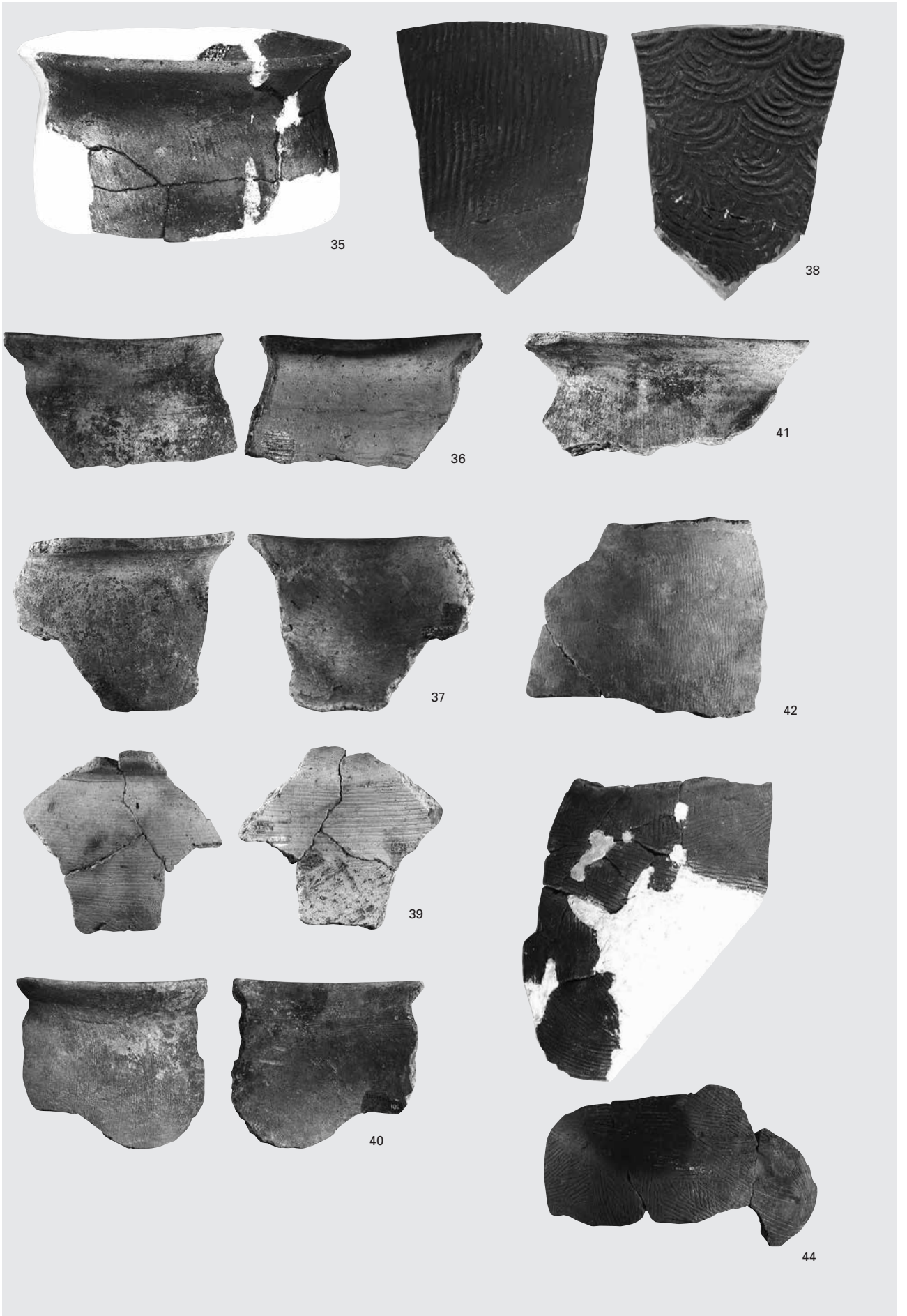
調査風景

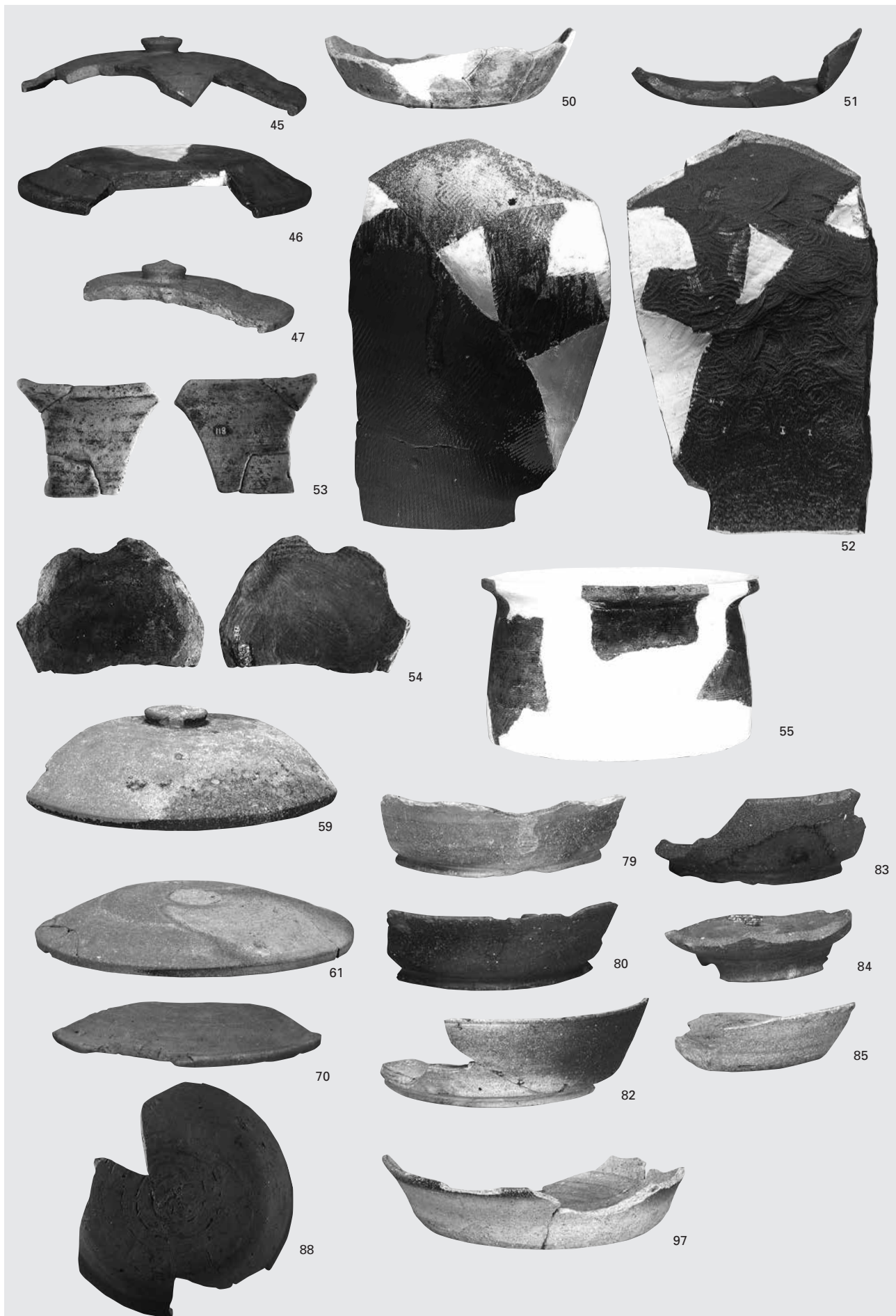


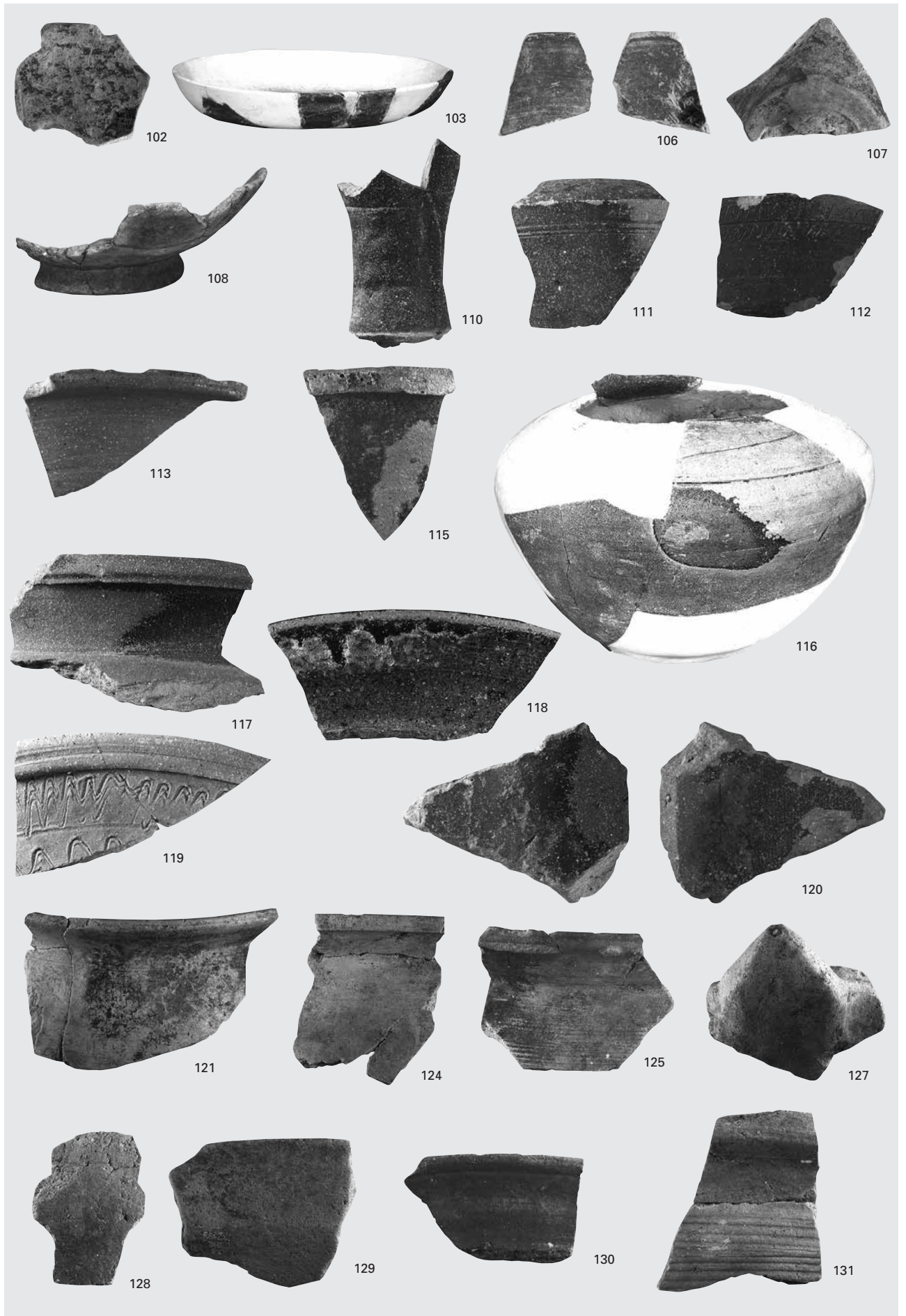
護岸礫群調査風景

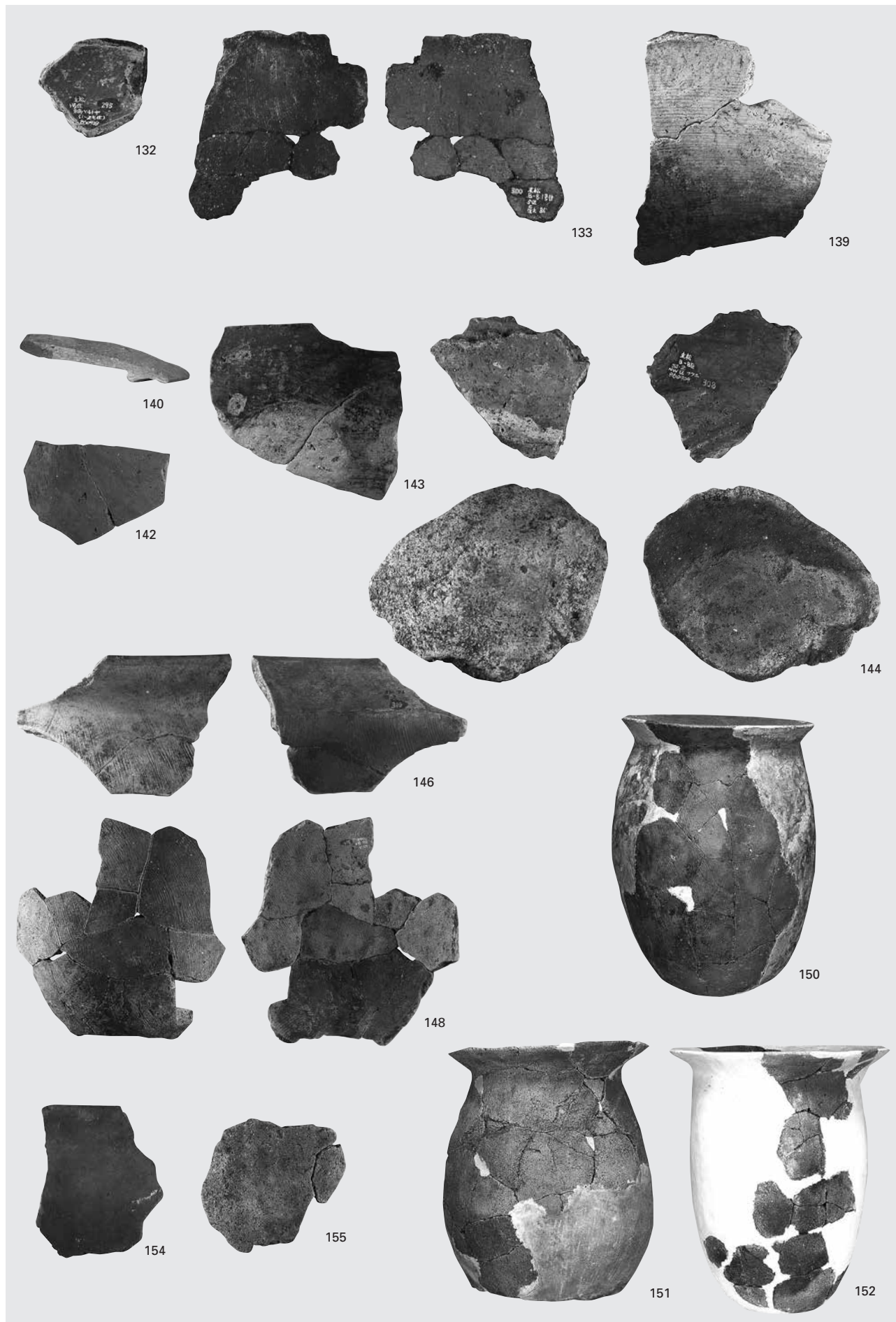


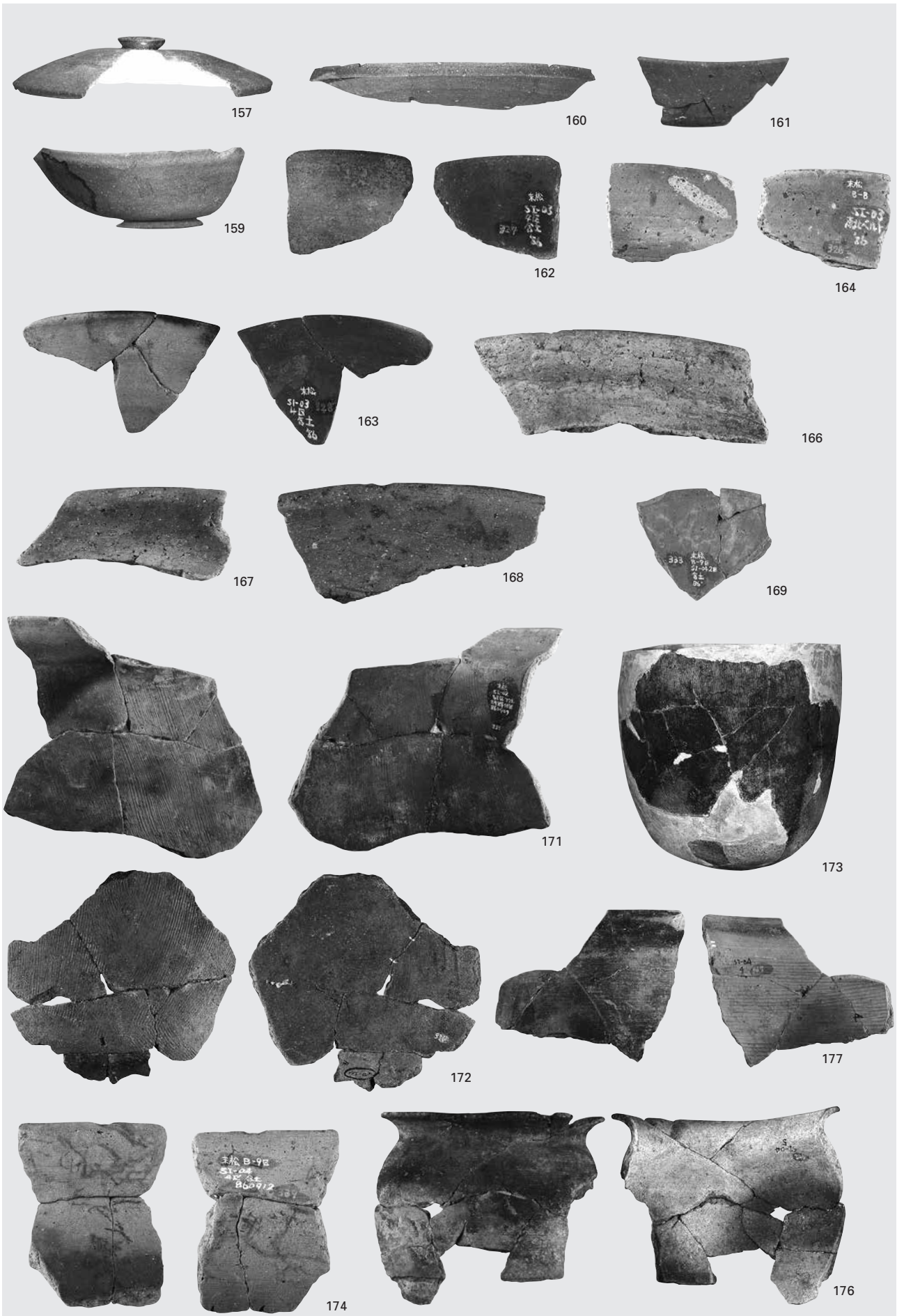


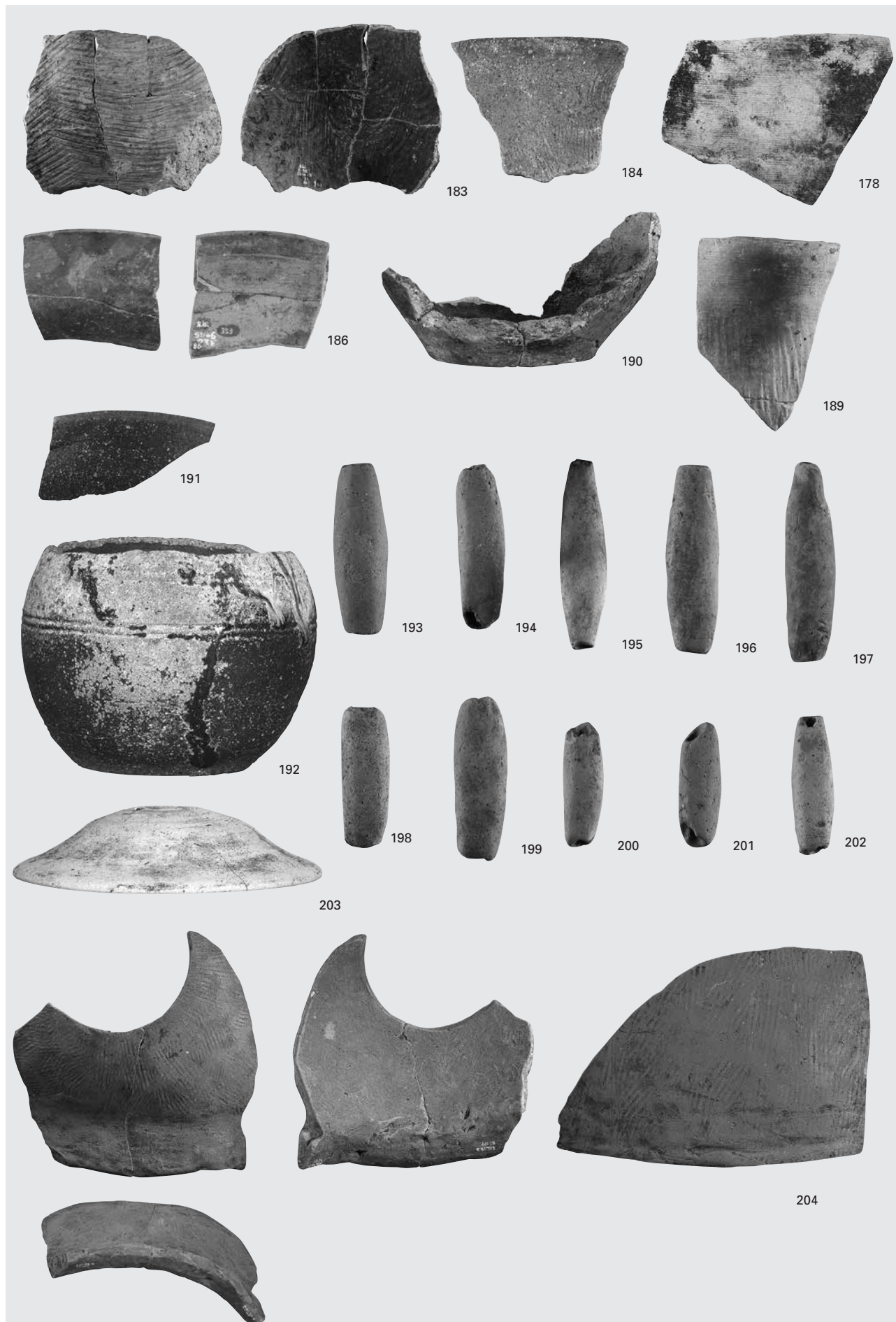


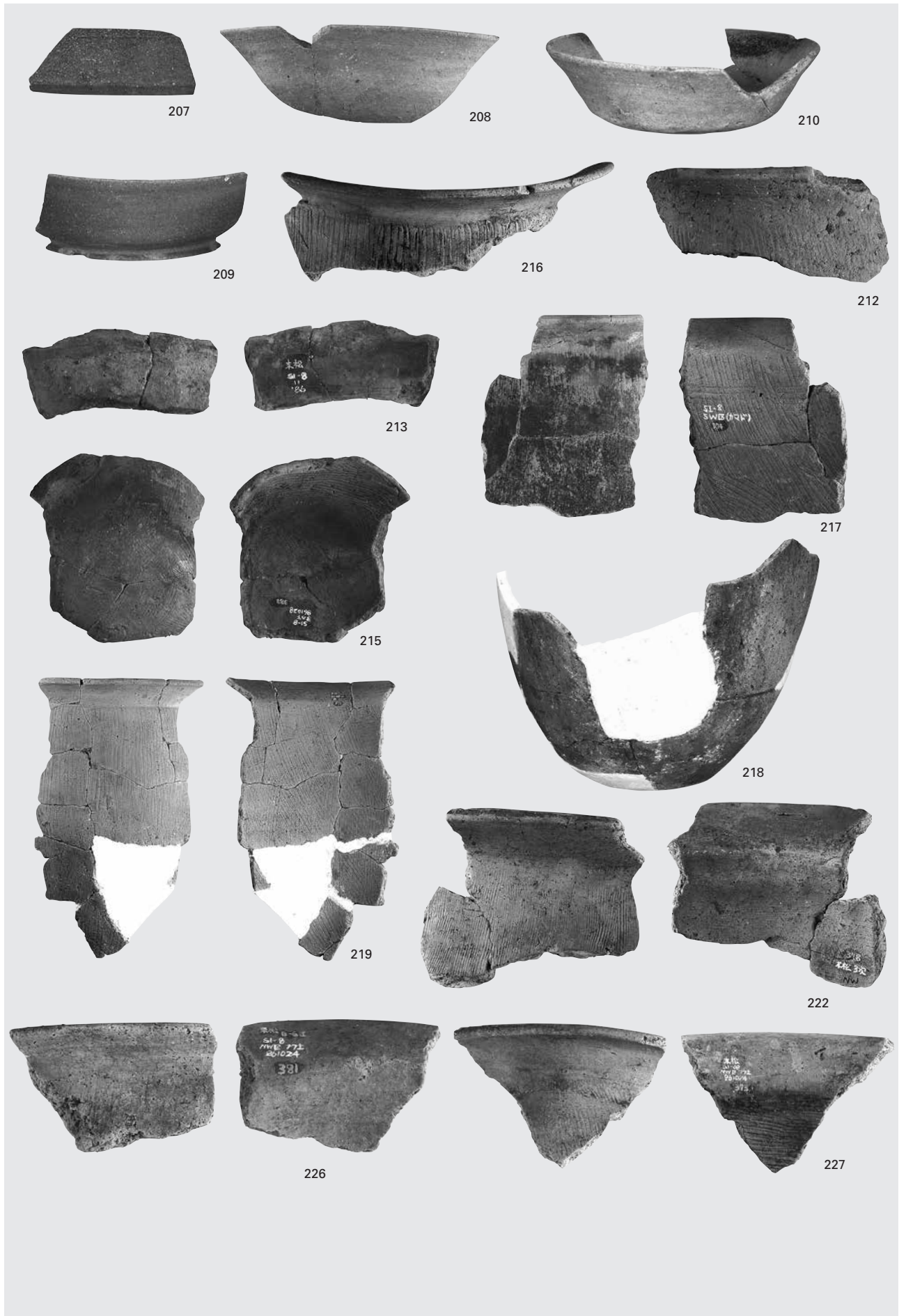










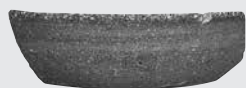








282



286



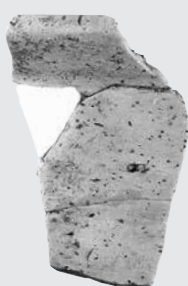
287



288



285



283



289



290



293



291



295



299



300



302



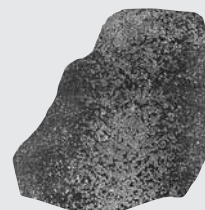
306



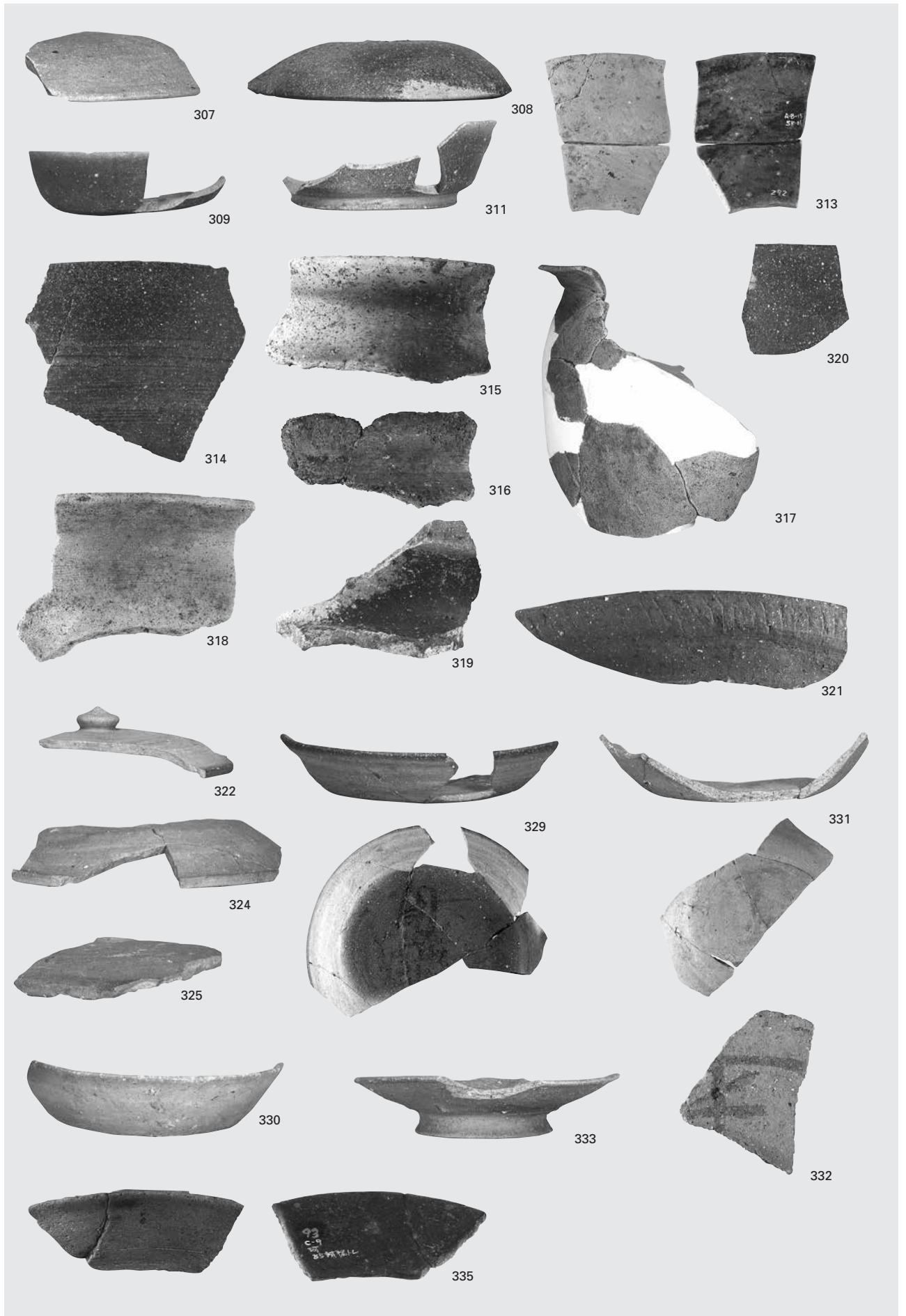
303

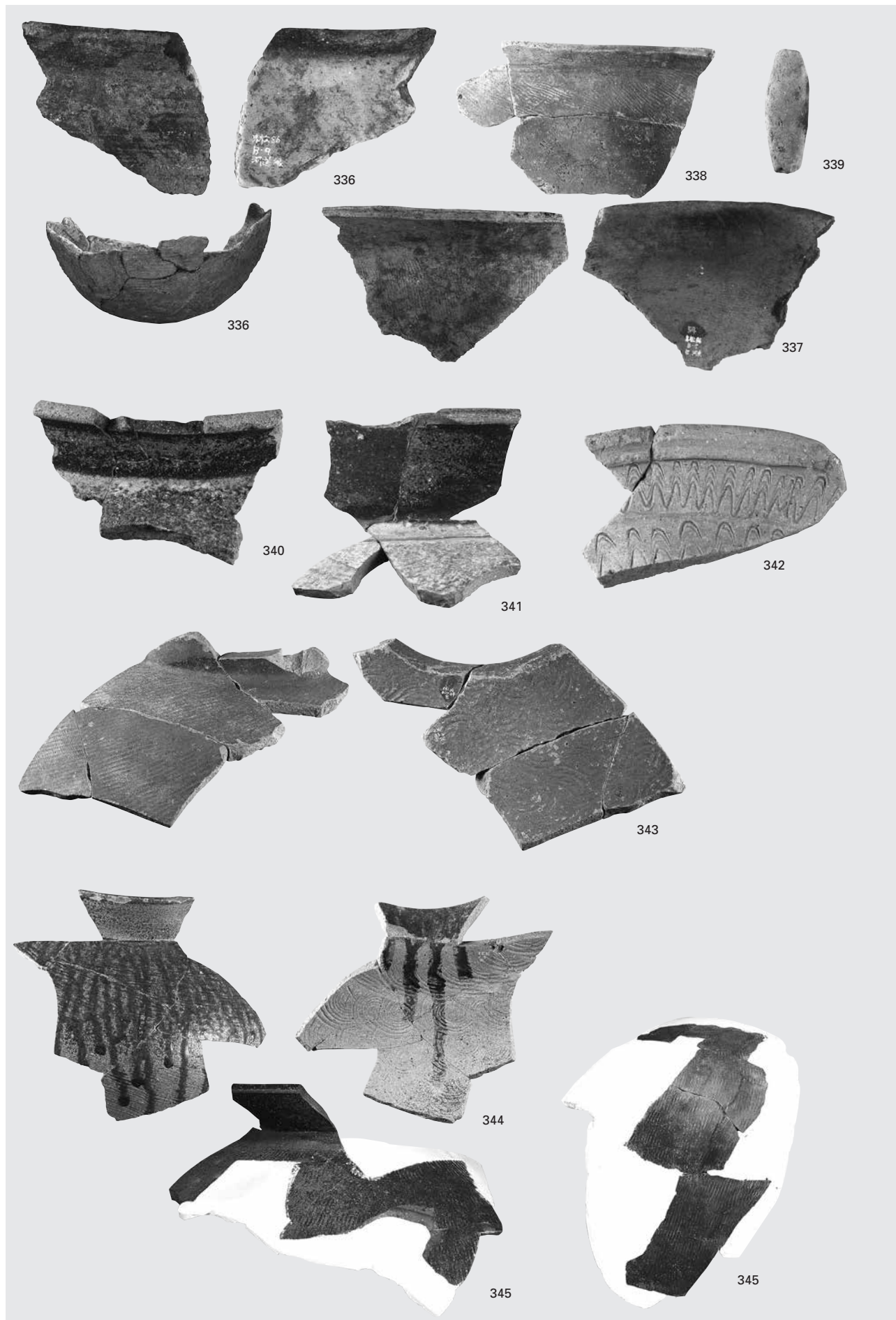


304

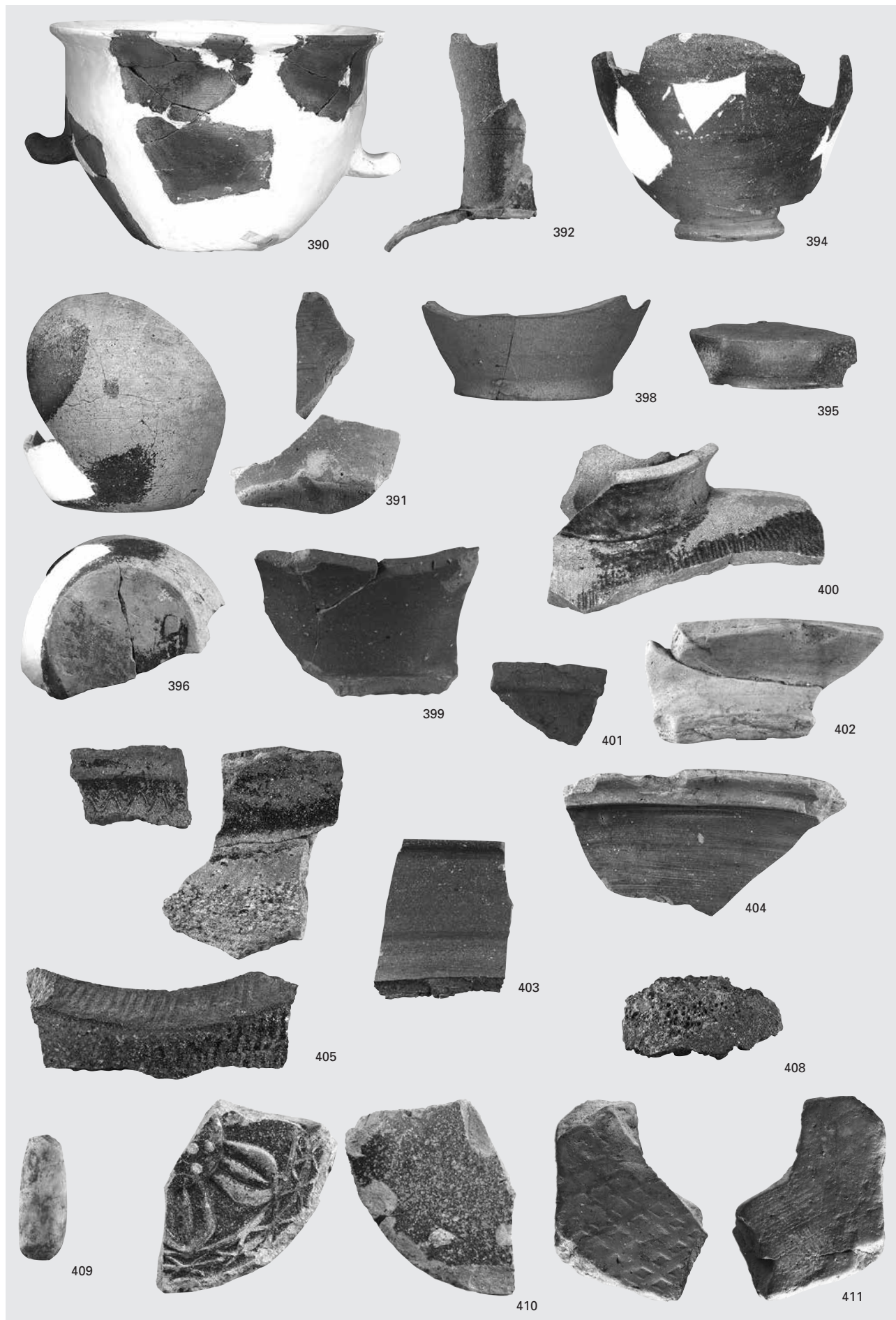


305

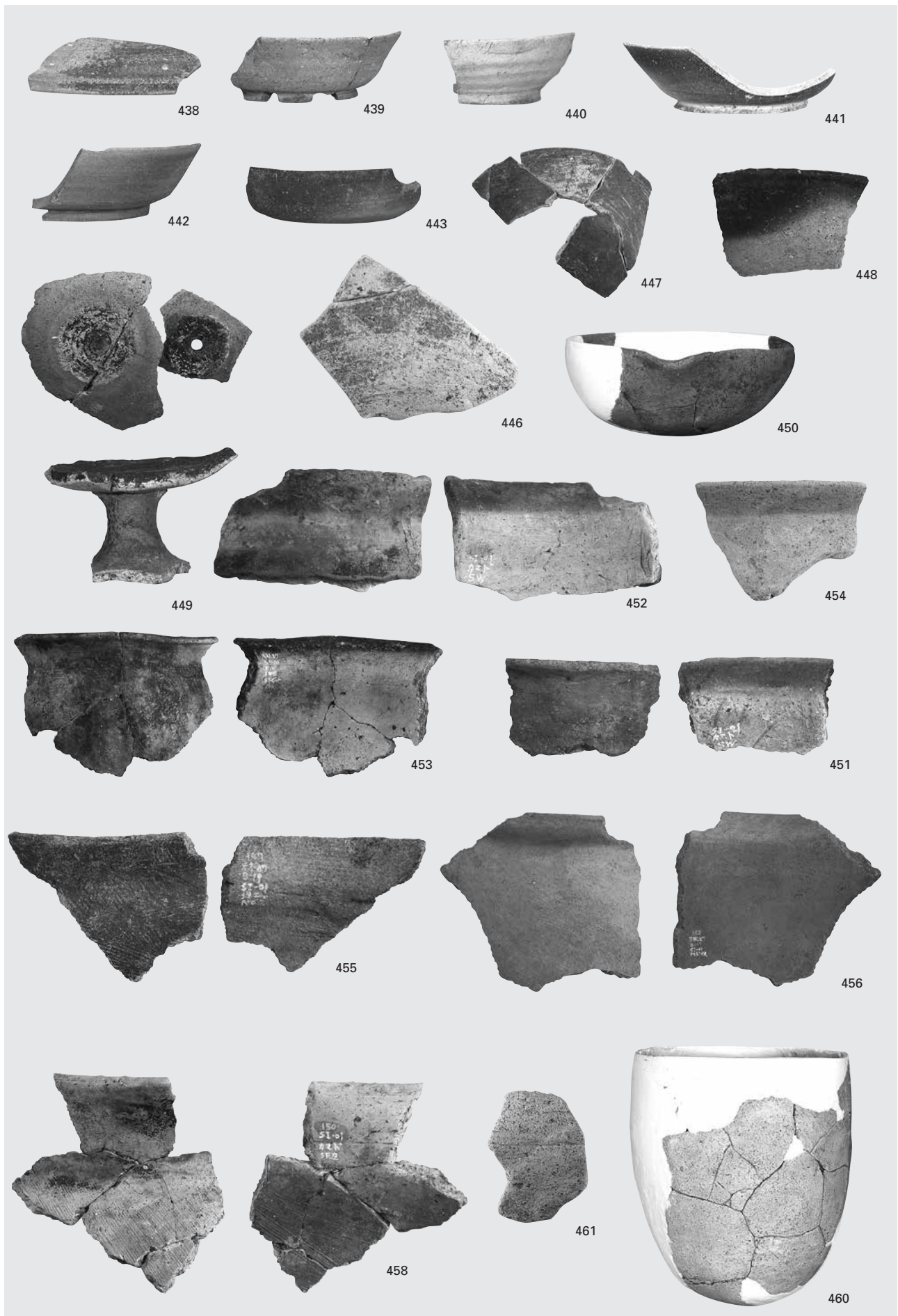


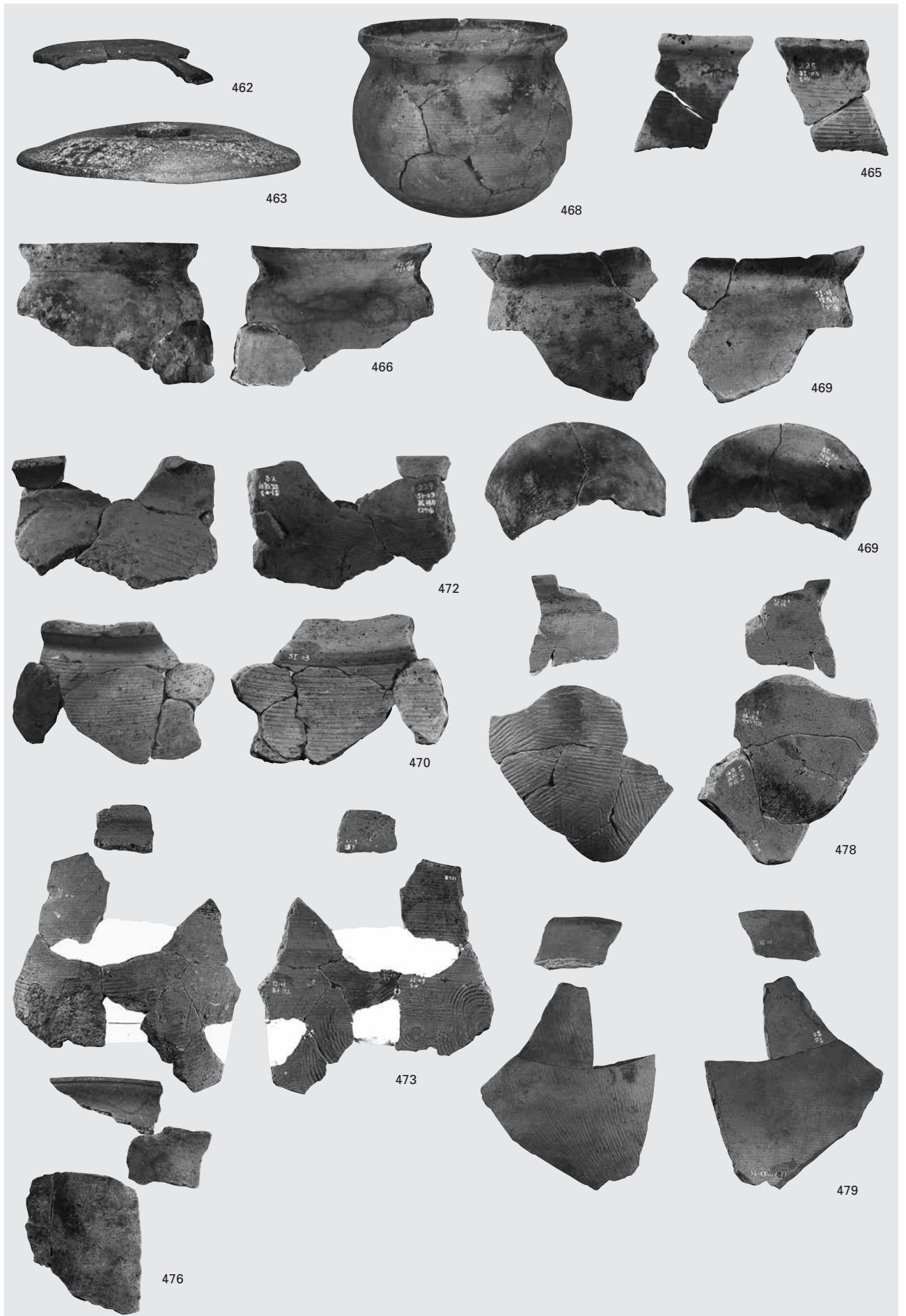


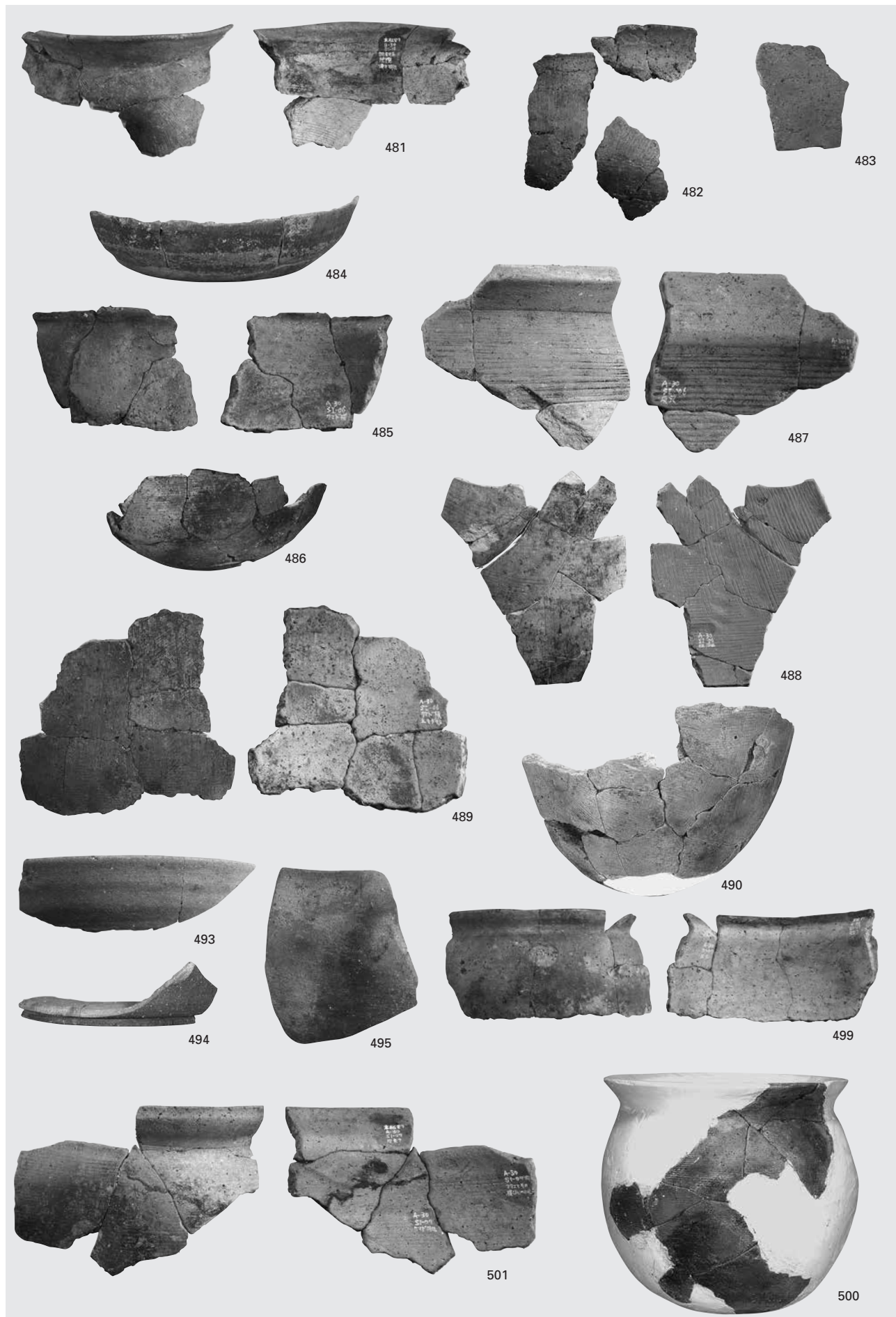


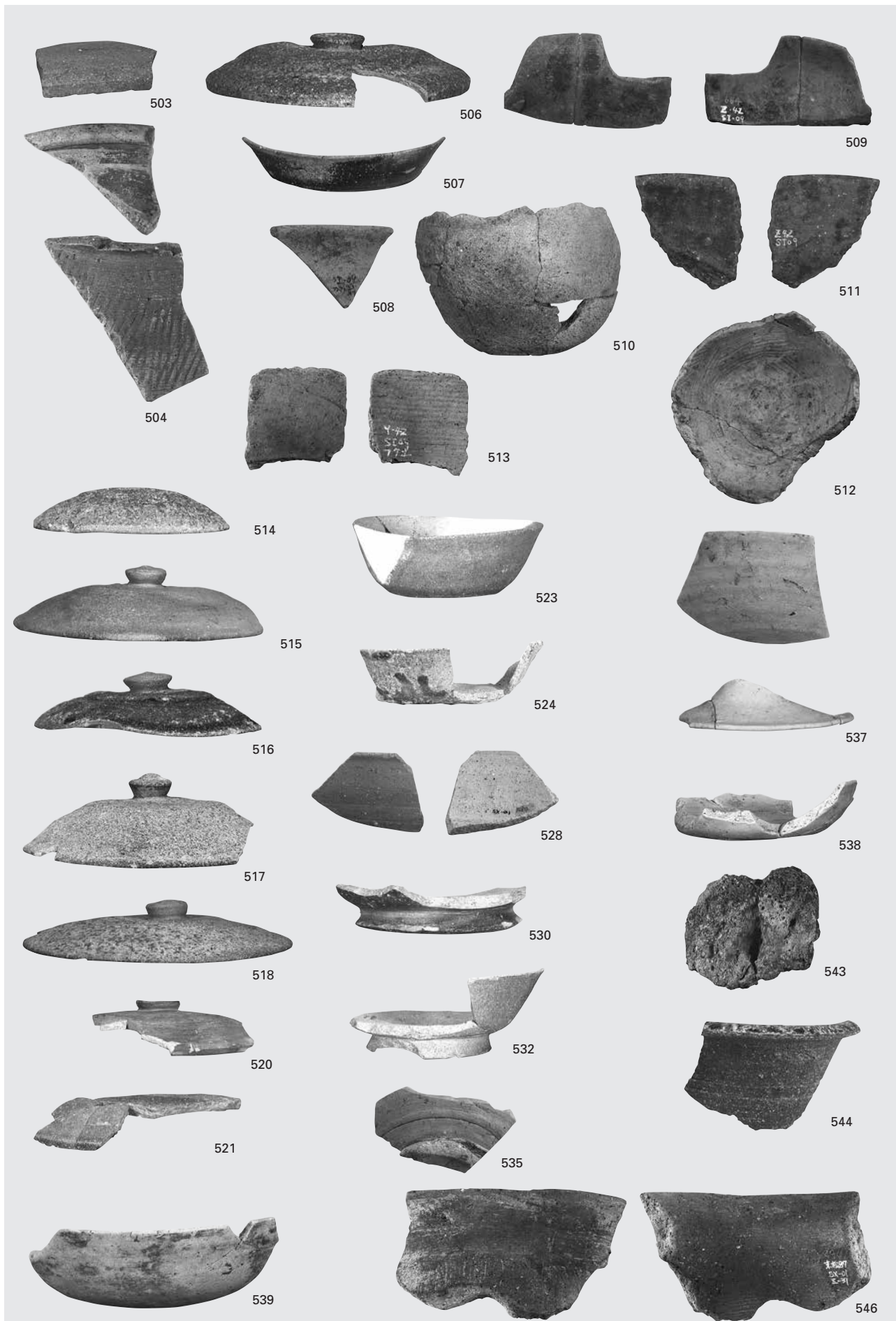


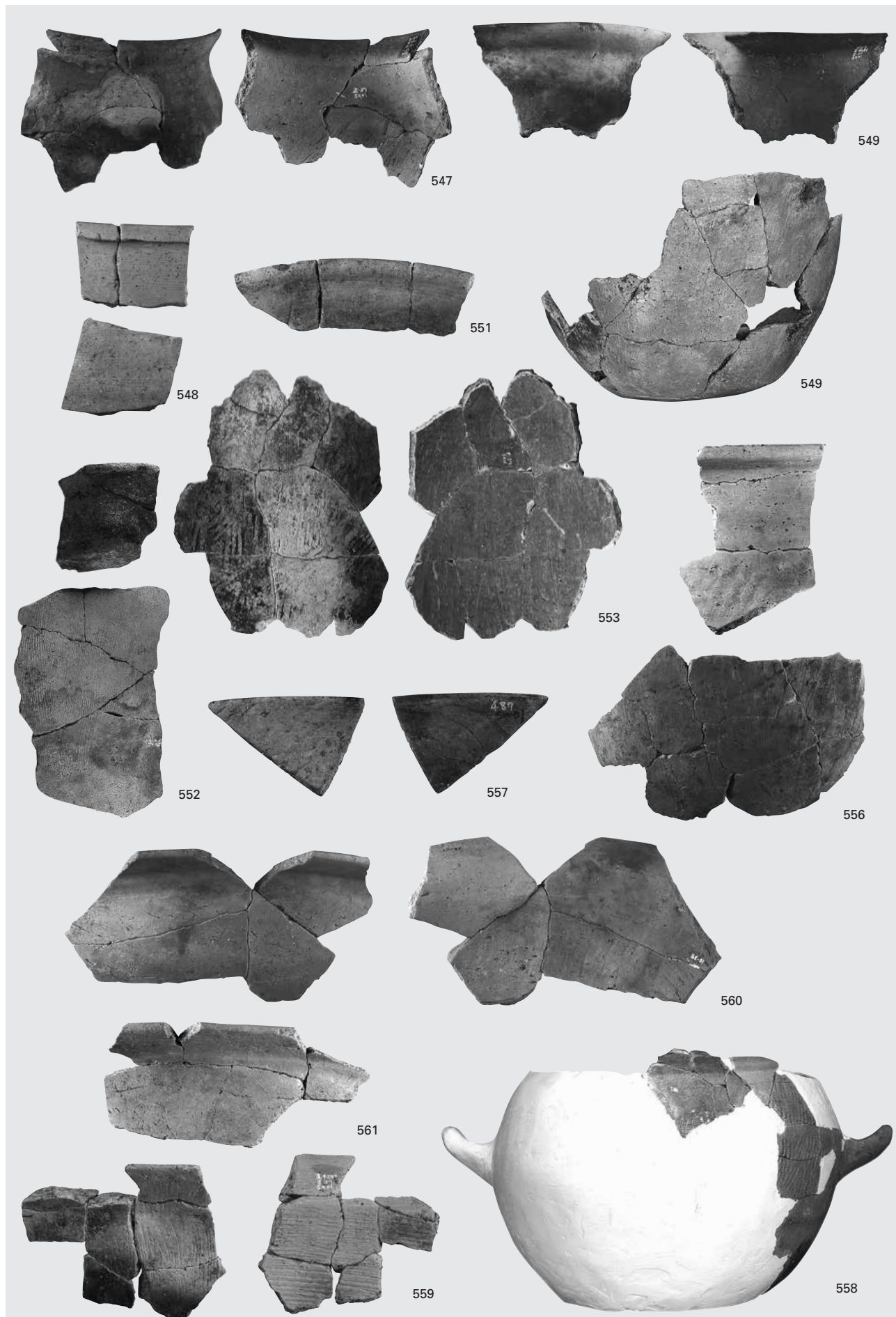


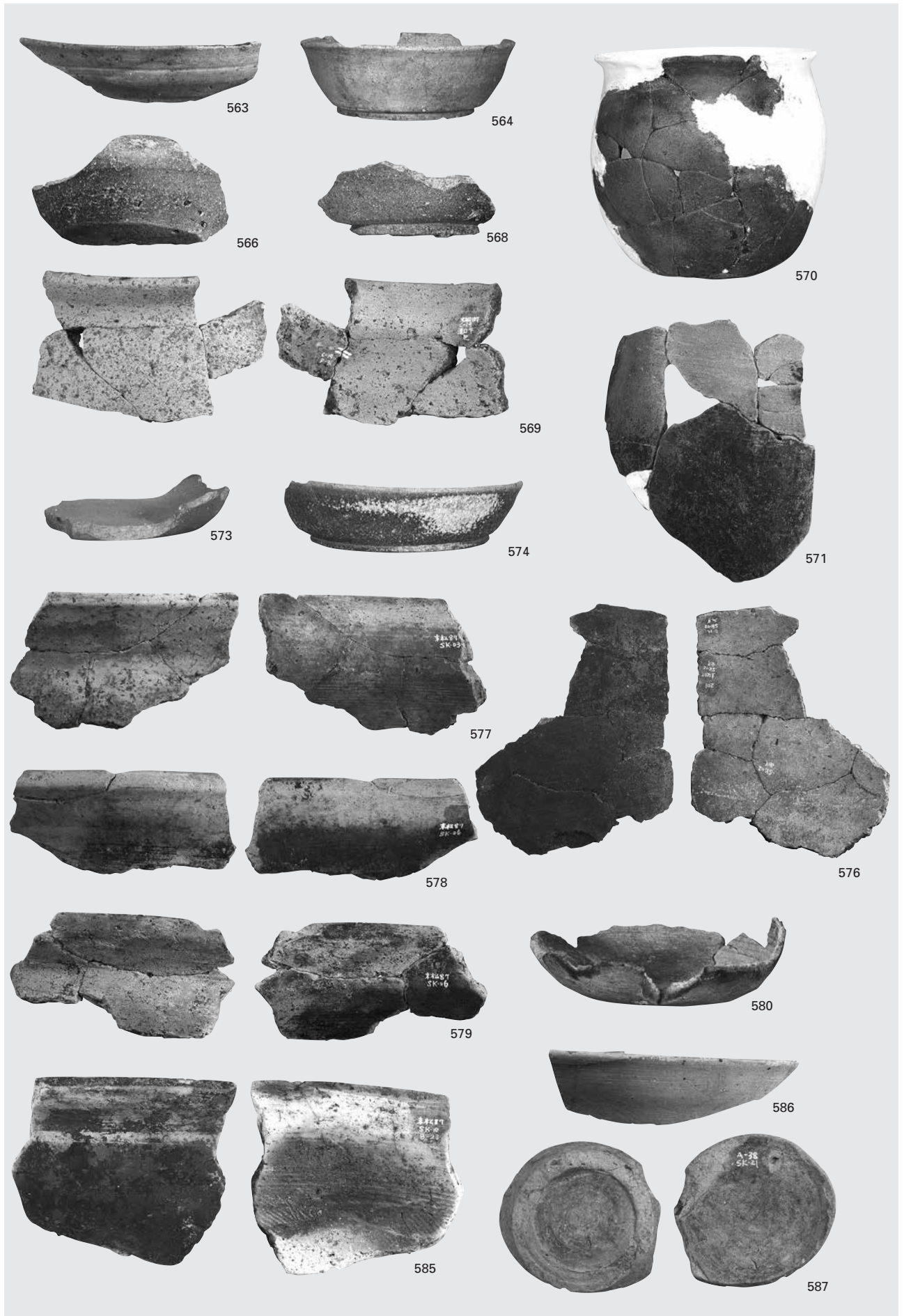


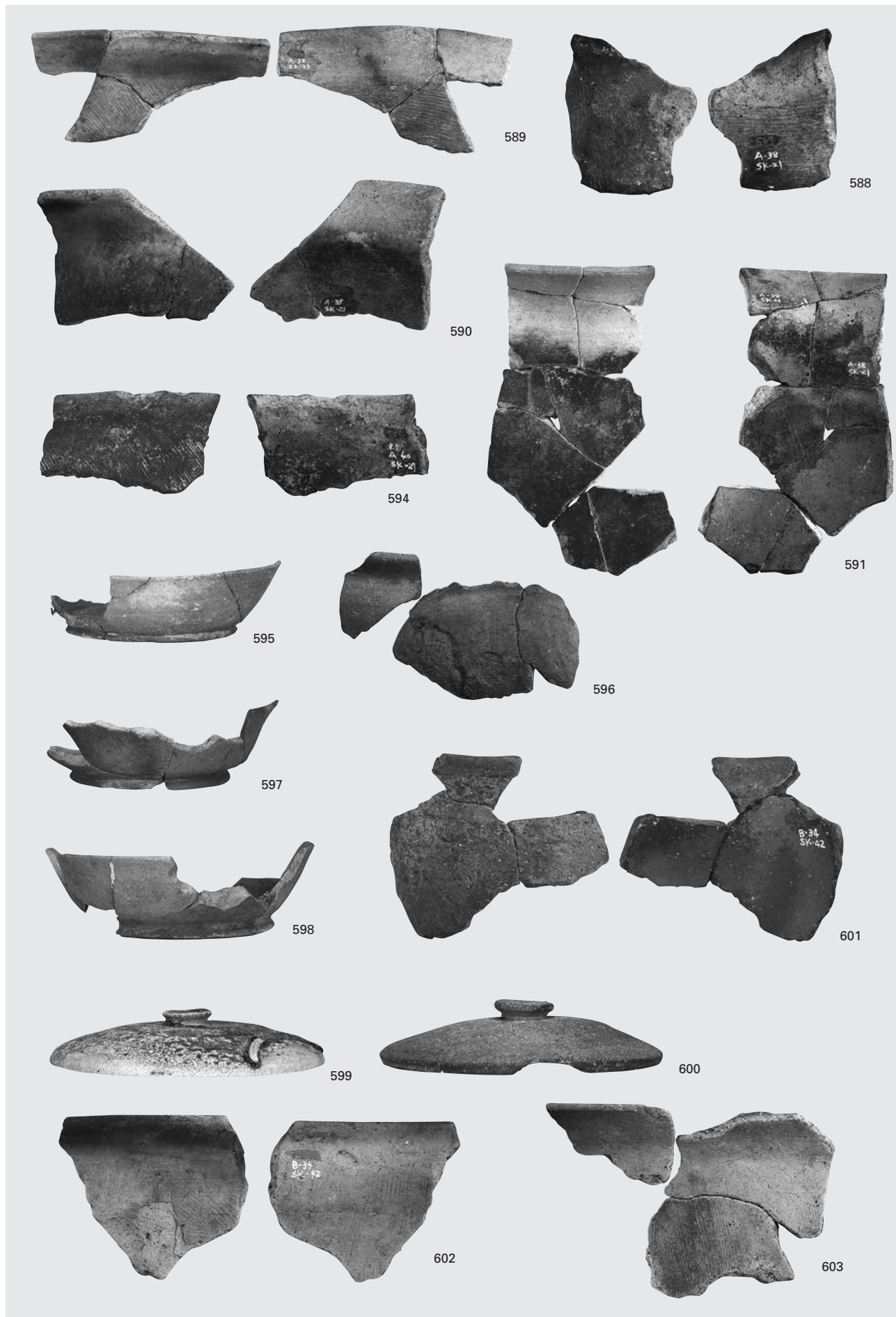


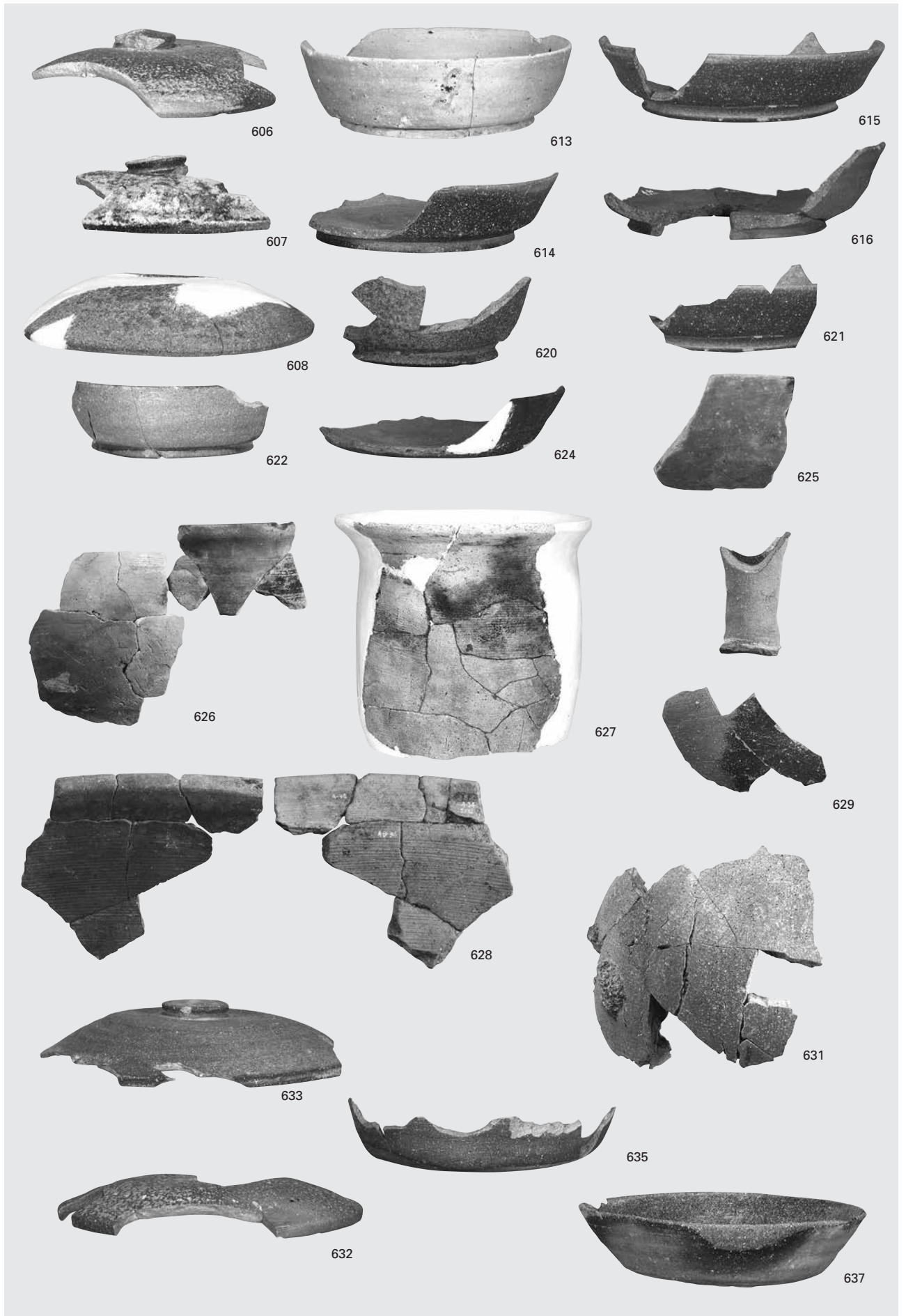




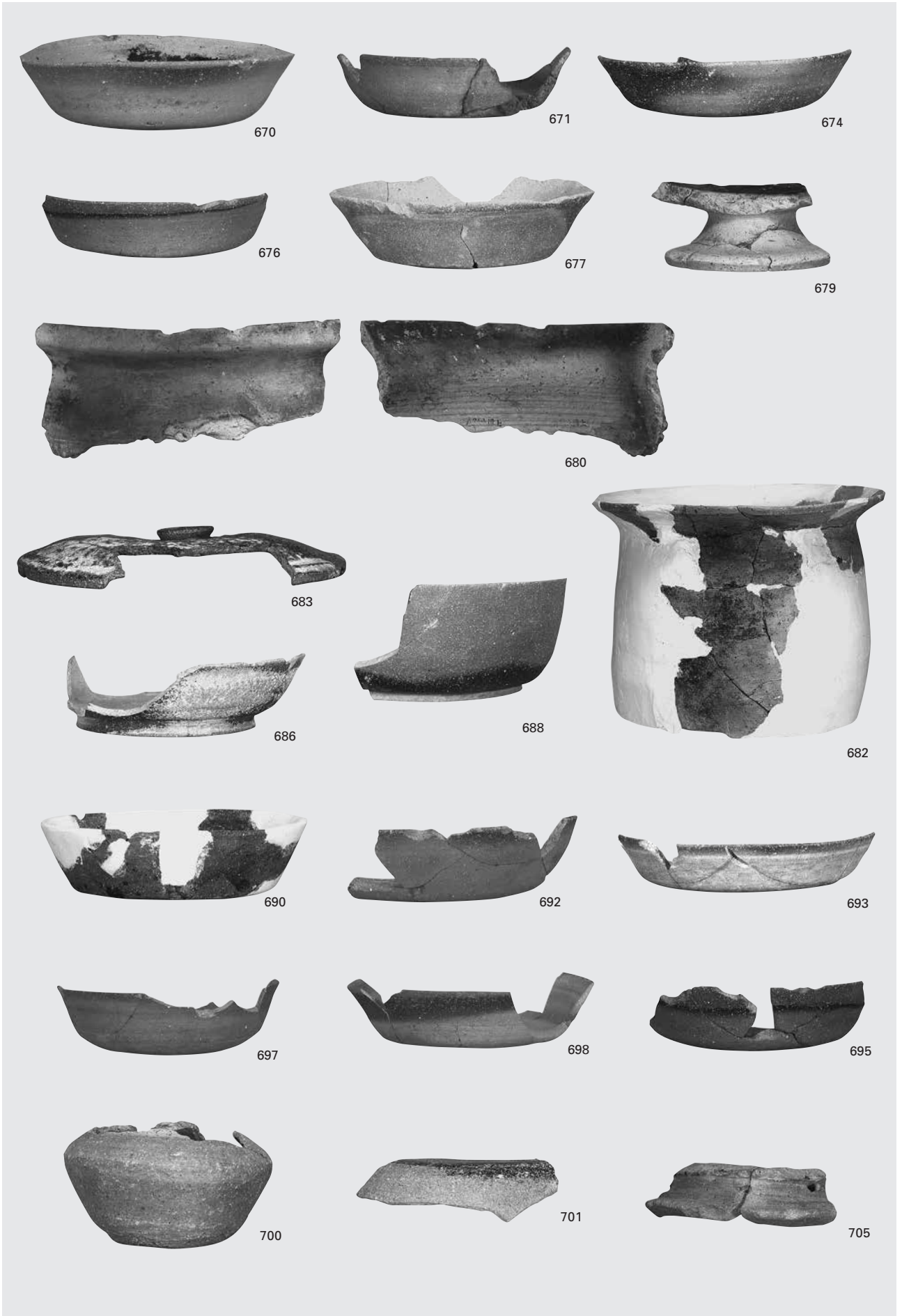


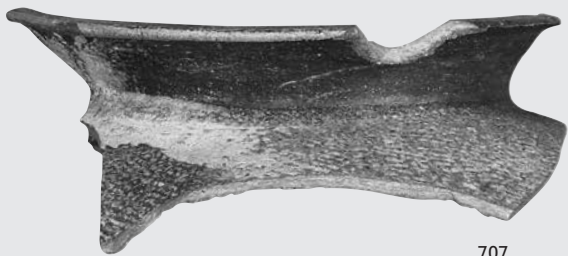












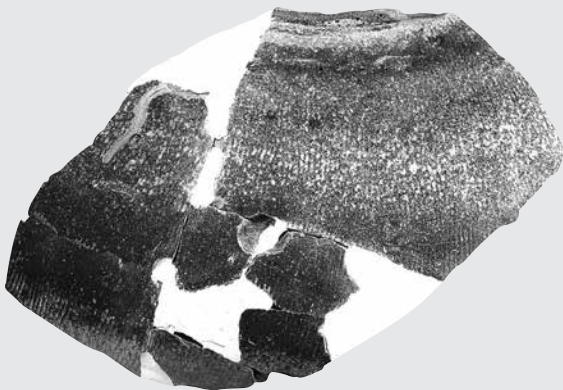
707



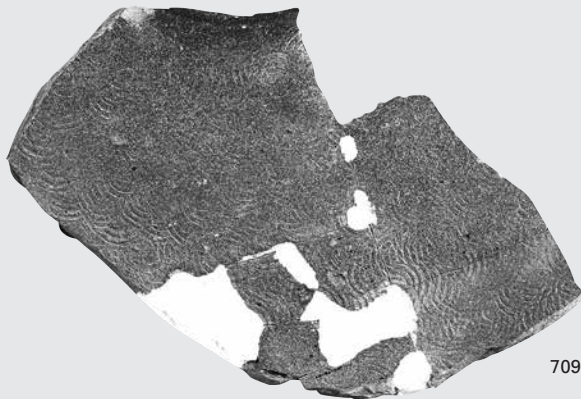
708



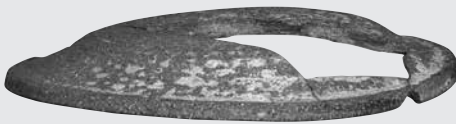
709



709



713



712



715



716



719



720



732



723



727



730



734



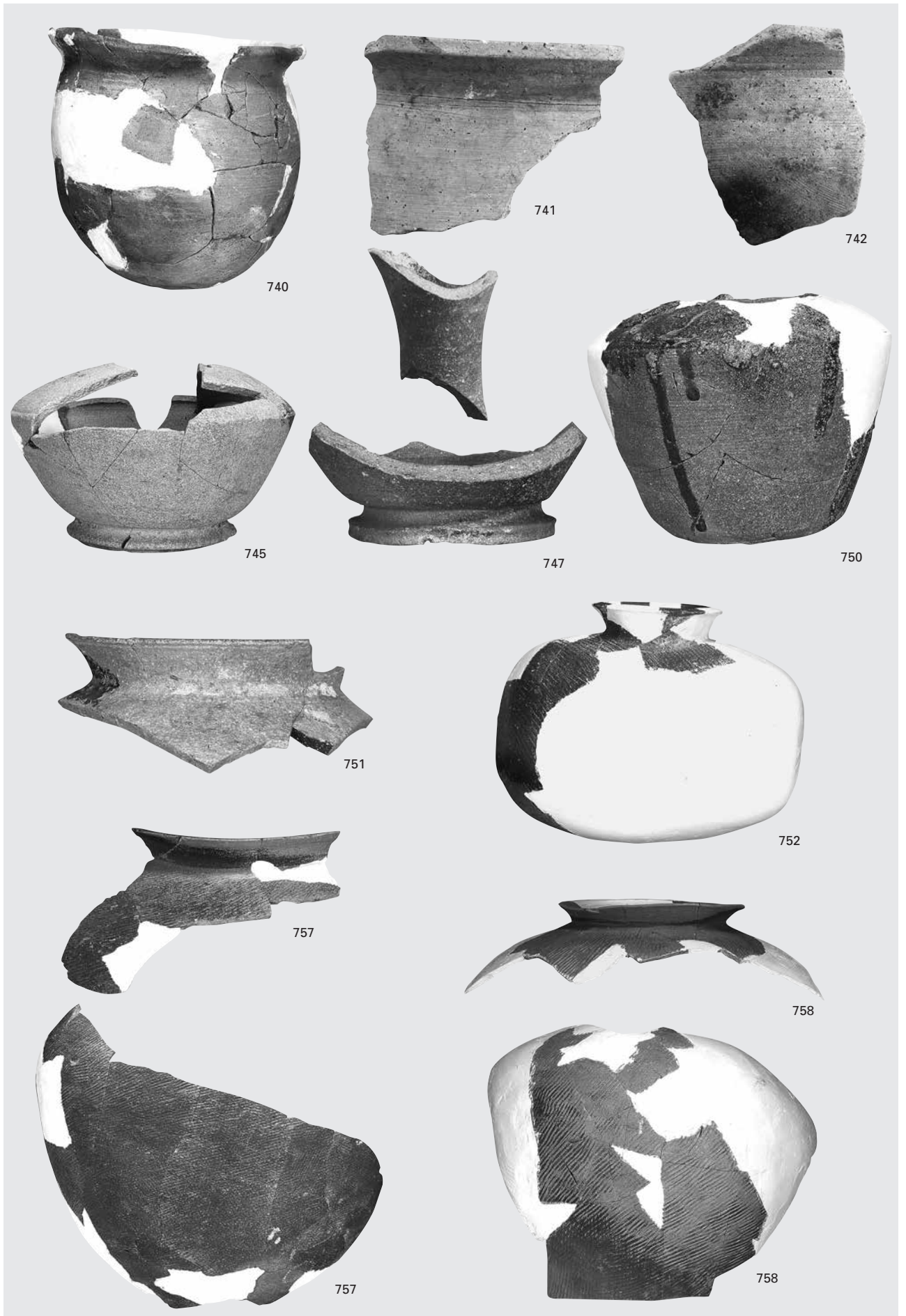
732

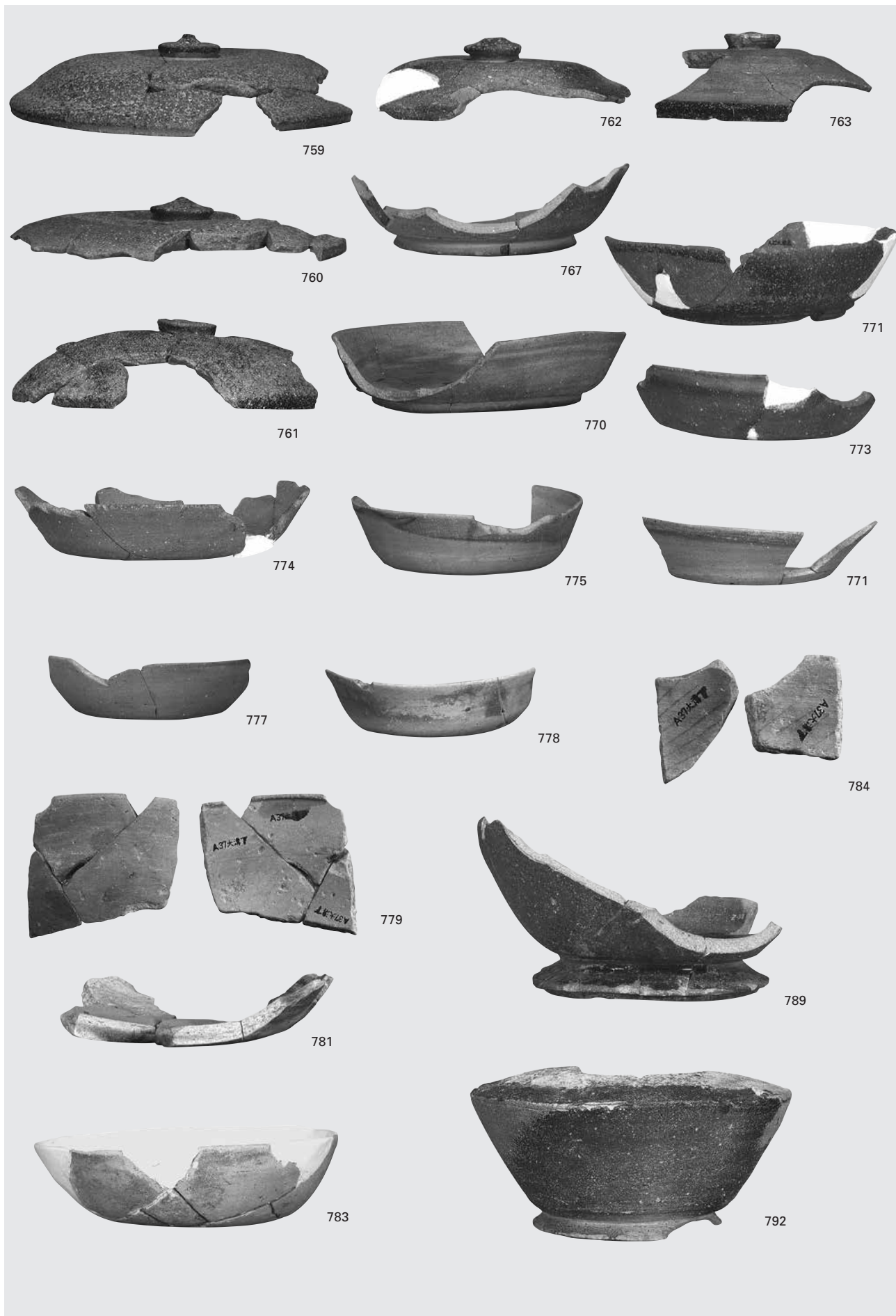


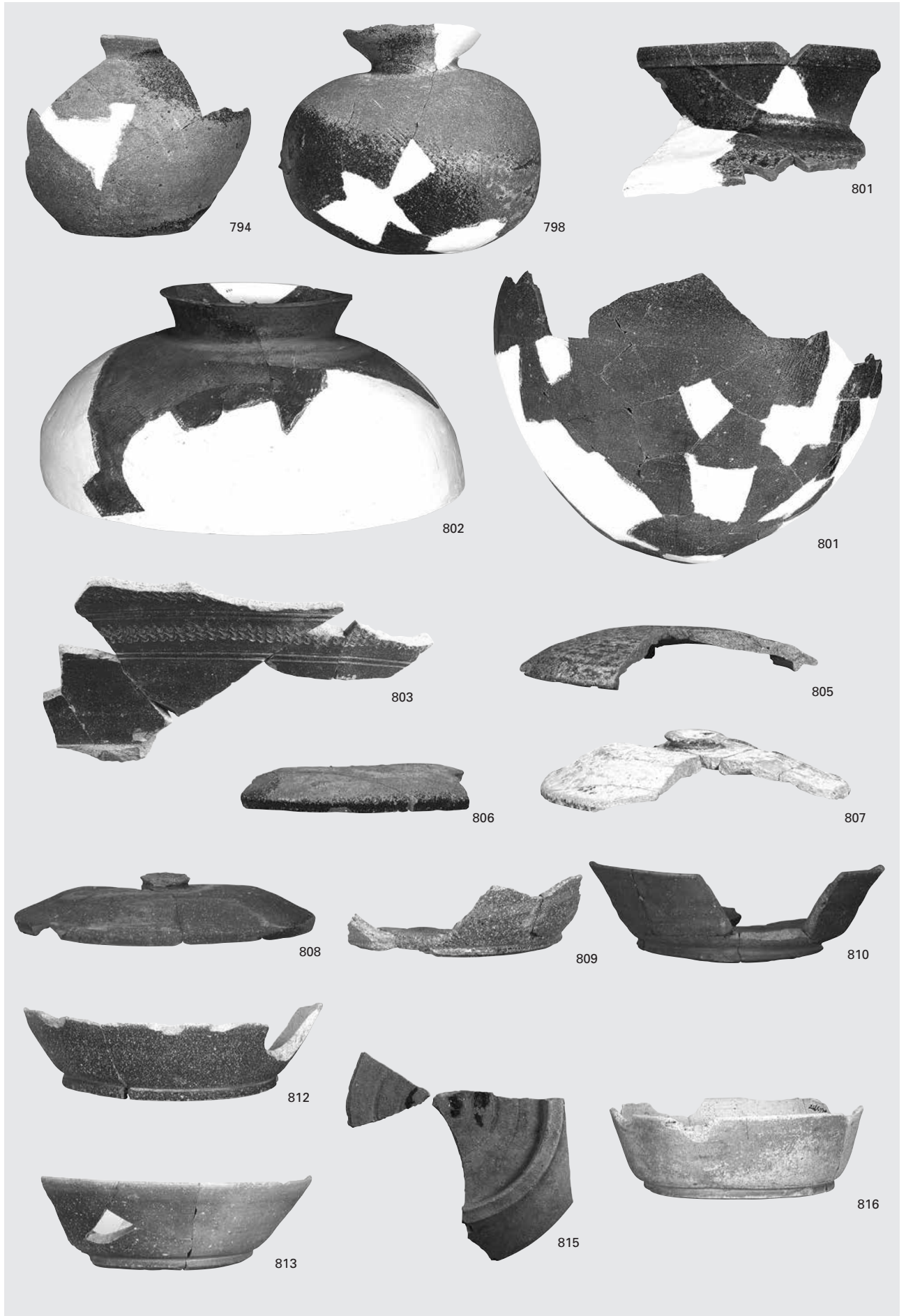
733



739

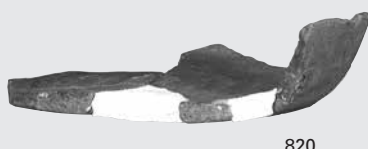








817



820



819



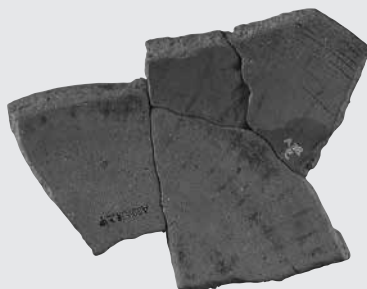
821



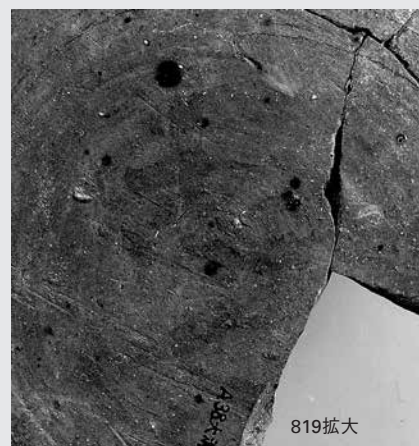
822



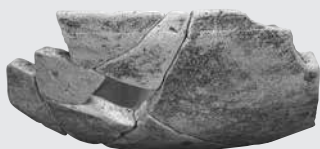
828



827



819扩大



829



831



833



834



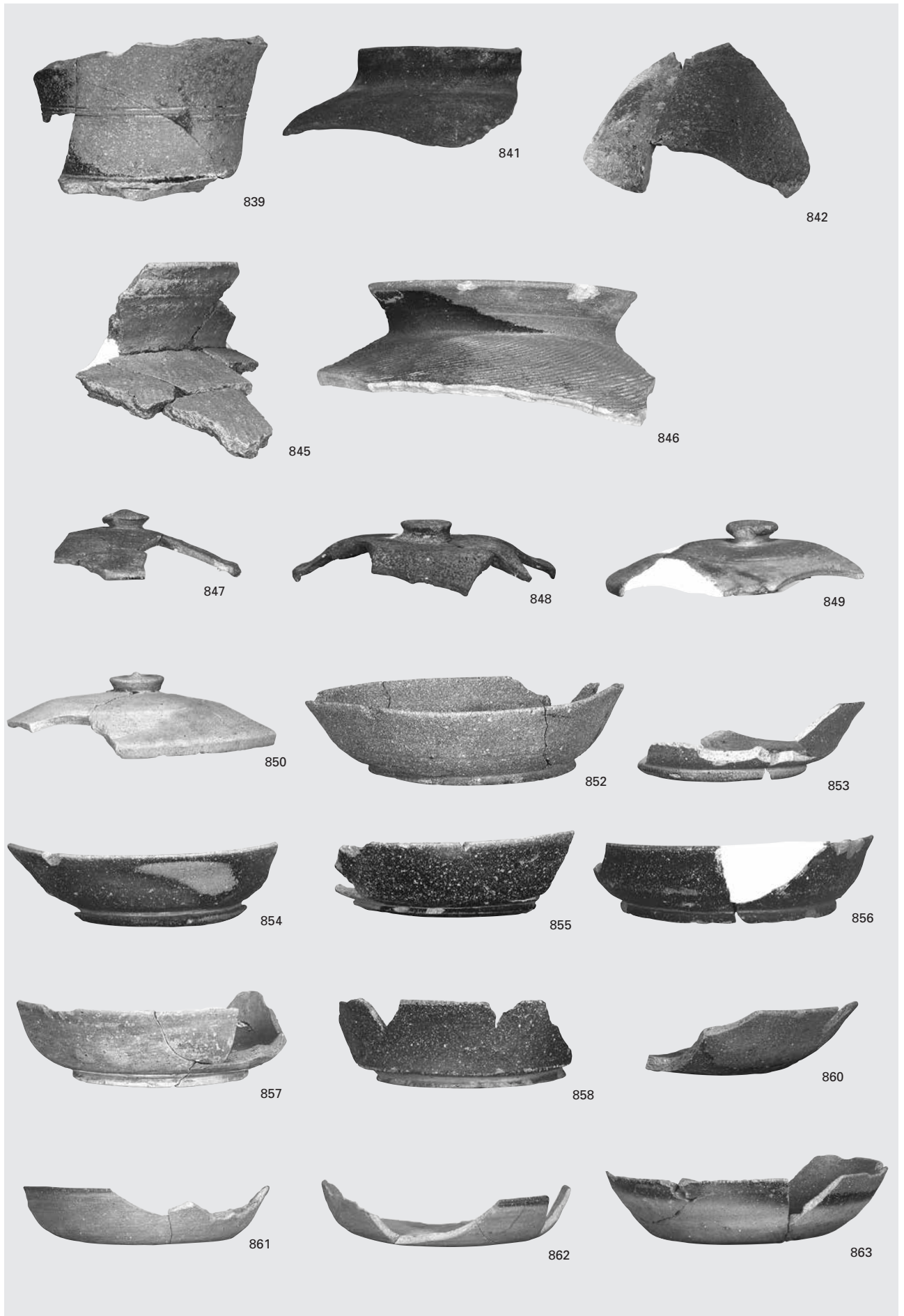
835



837



838

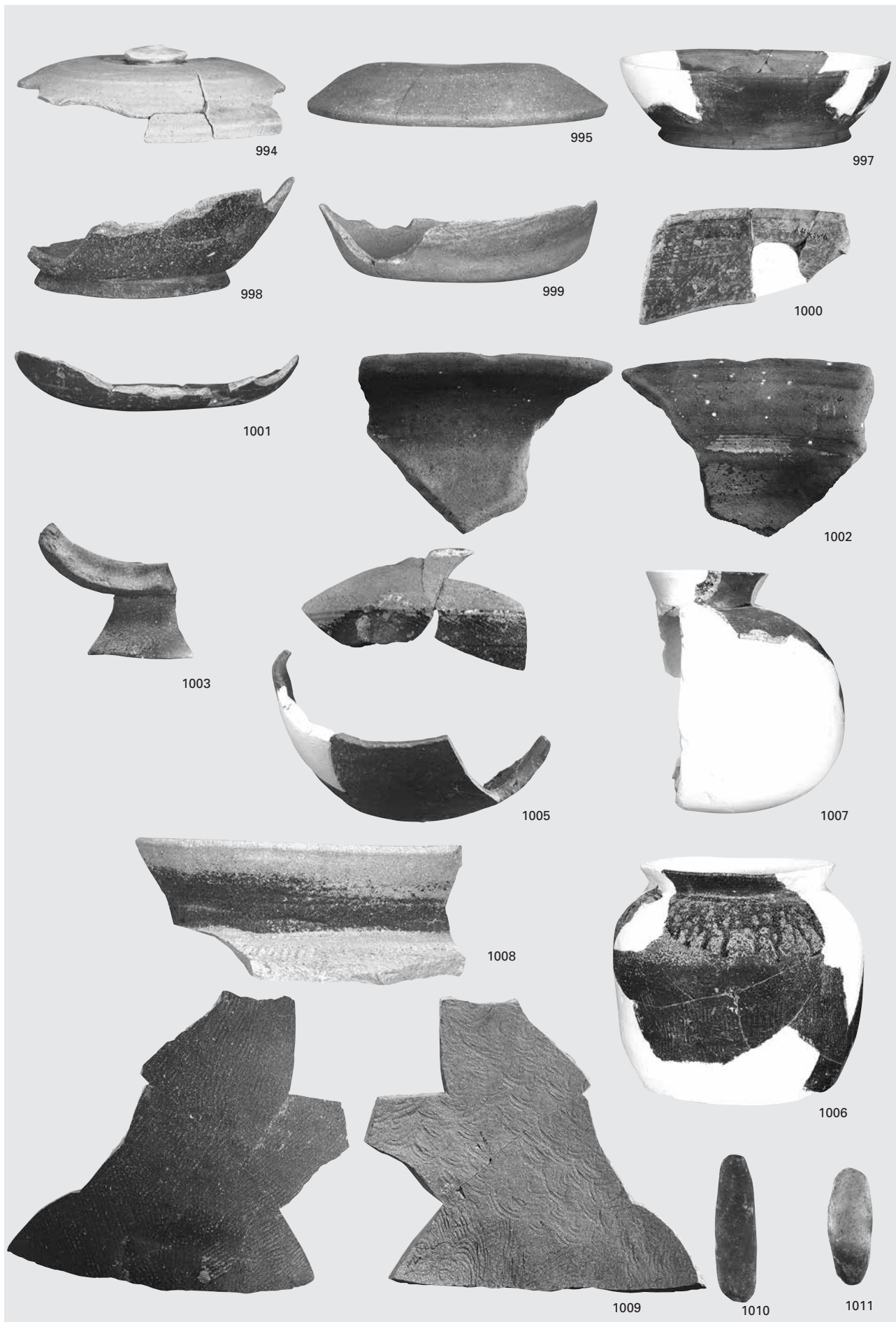


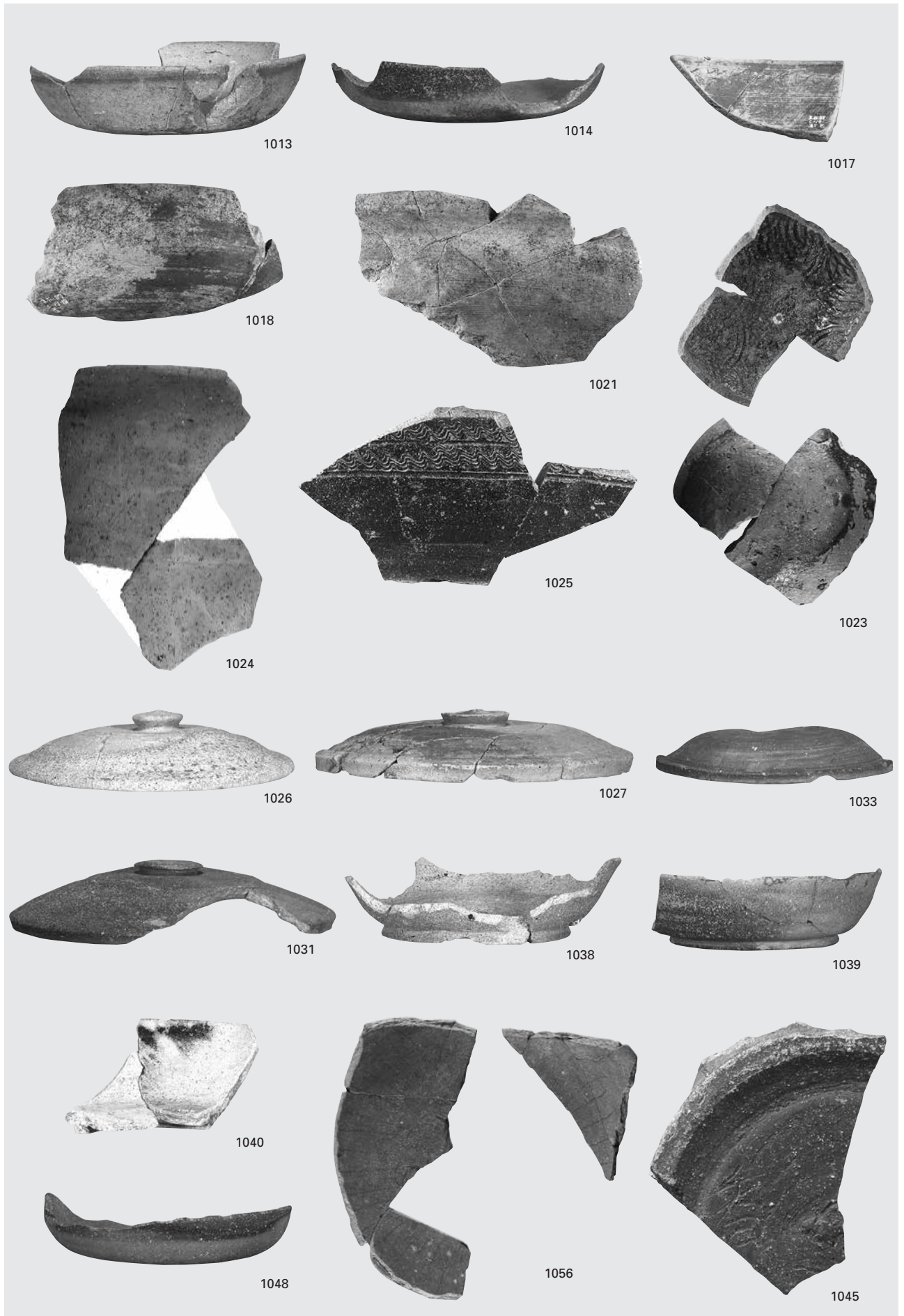




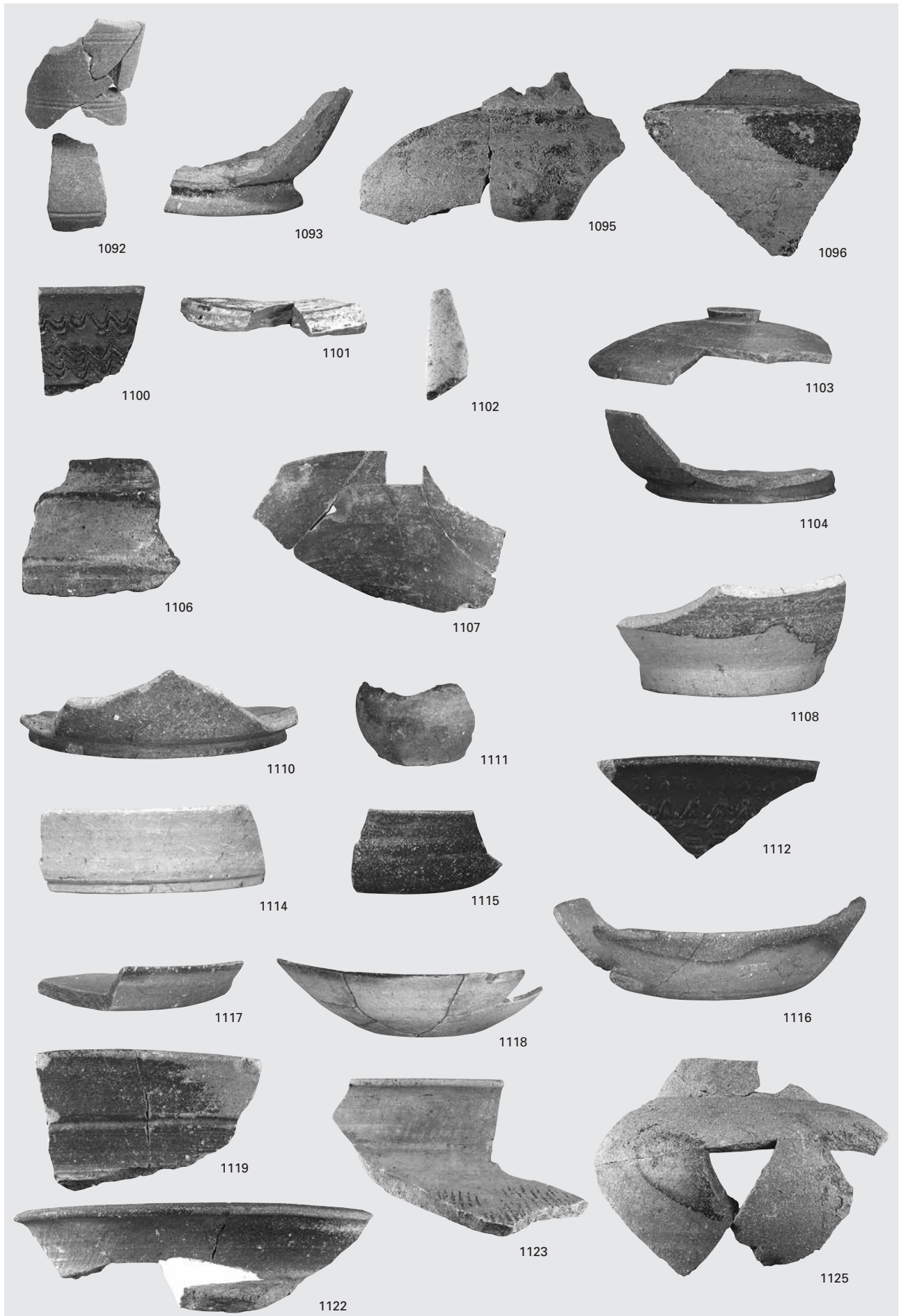


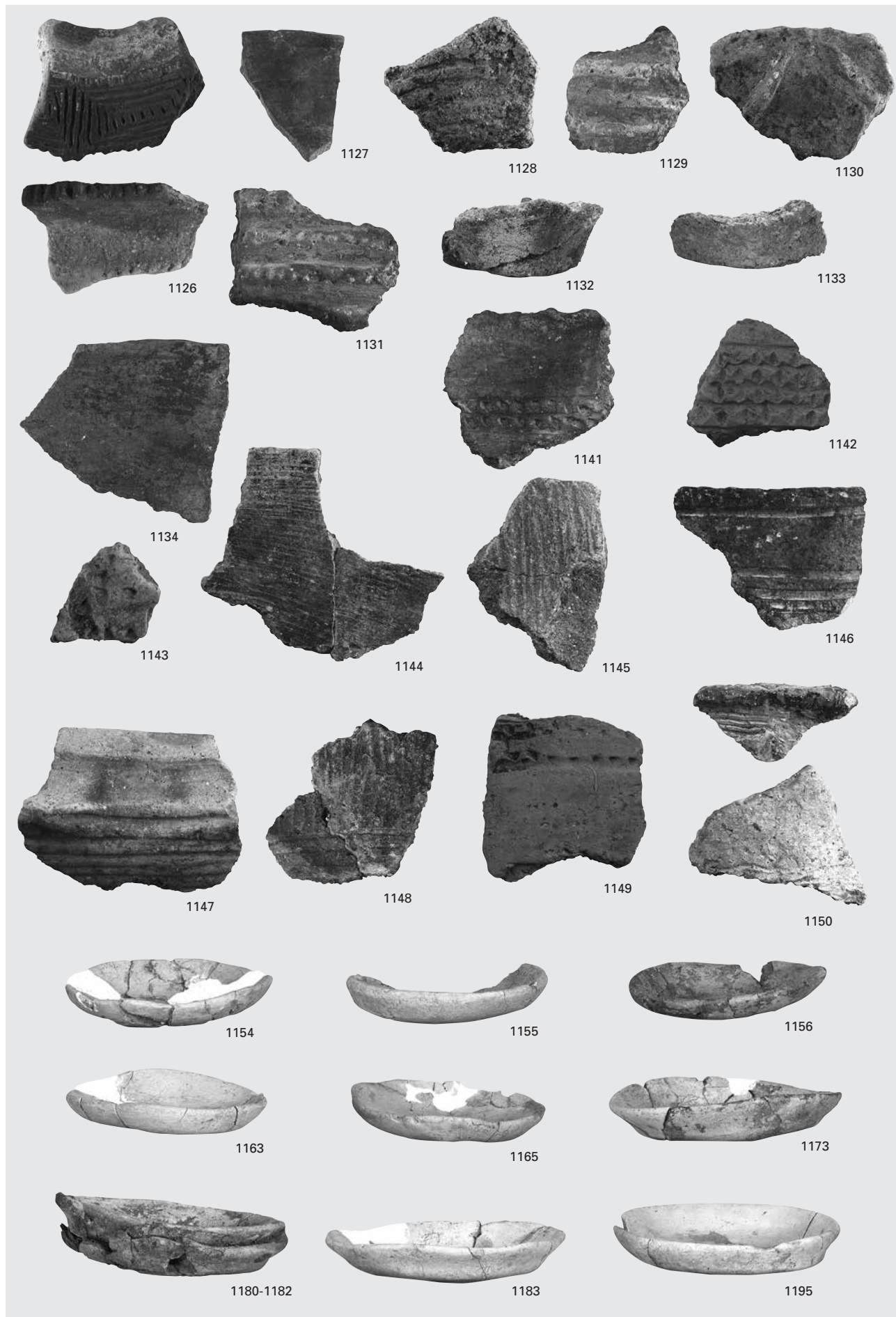


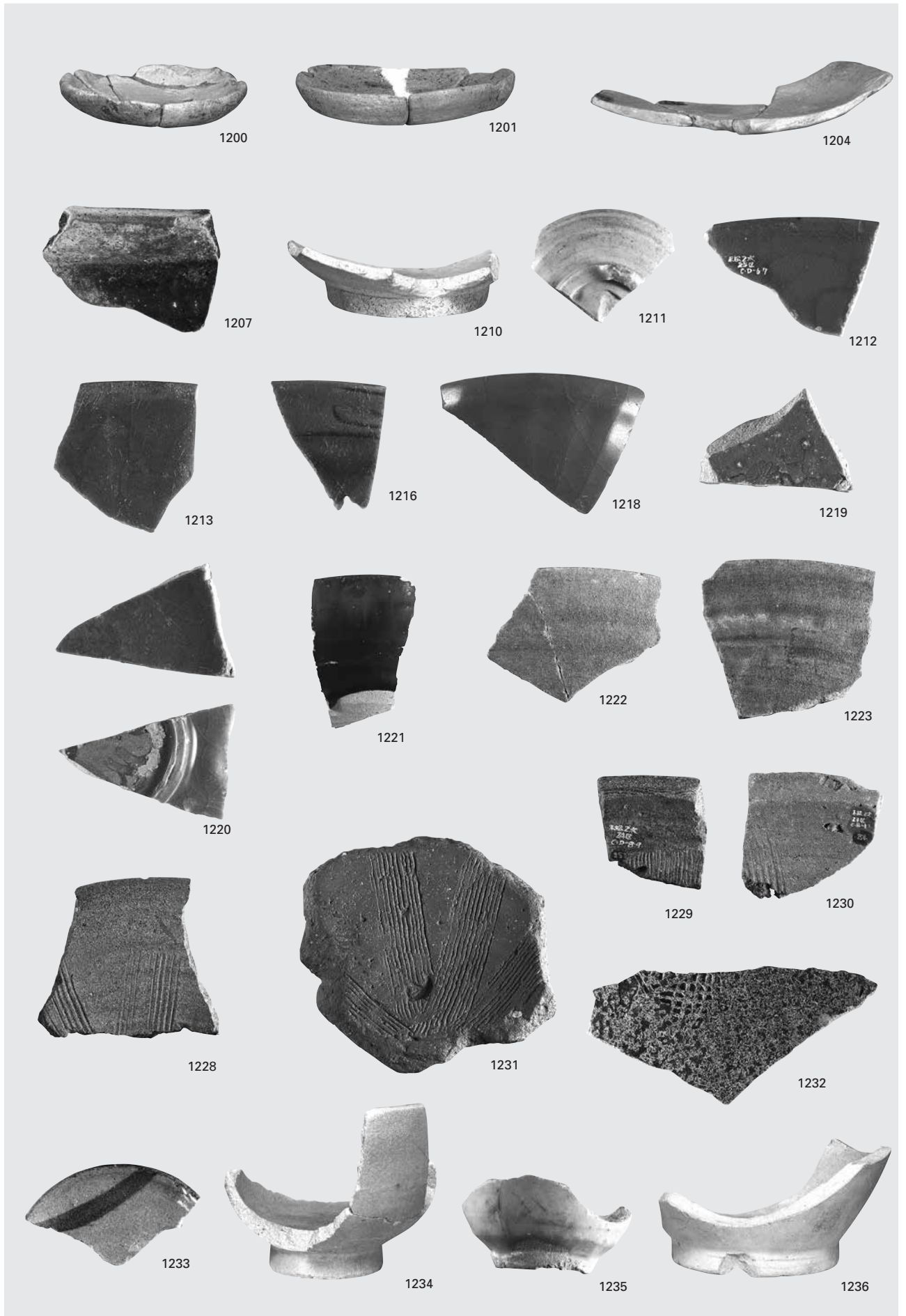


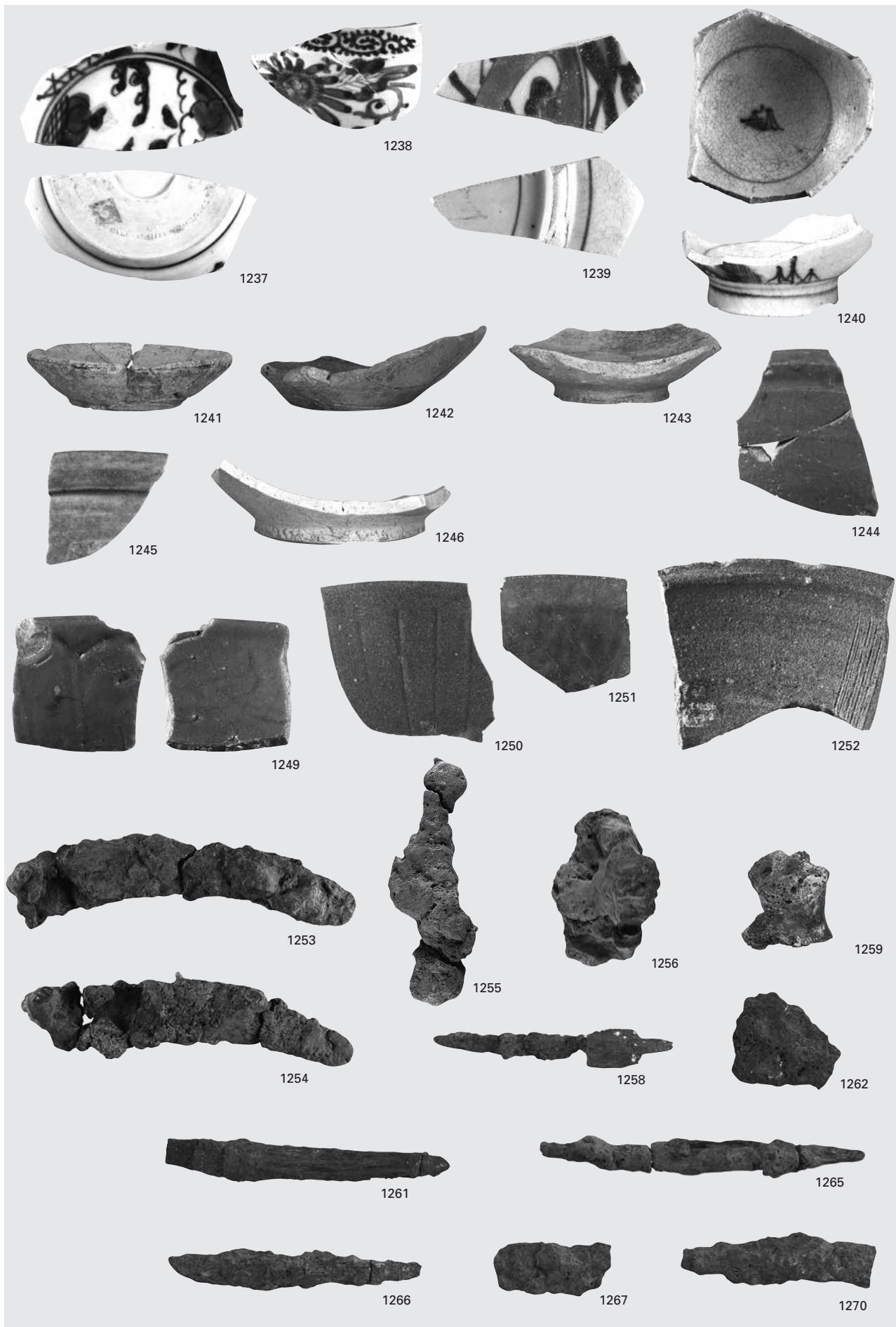


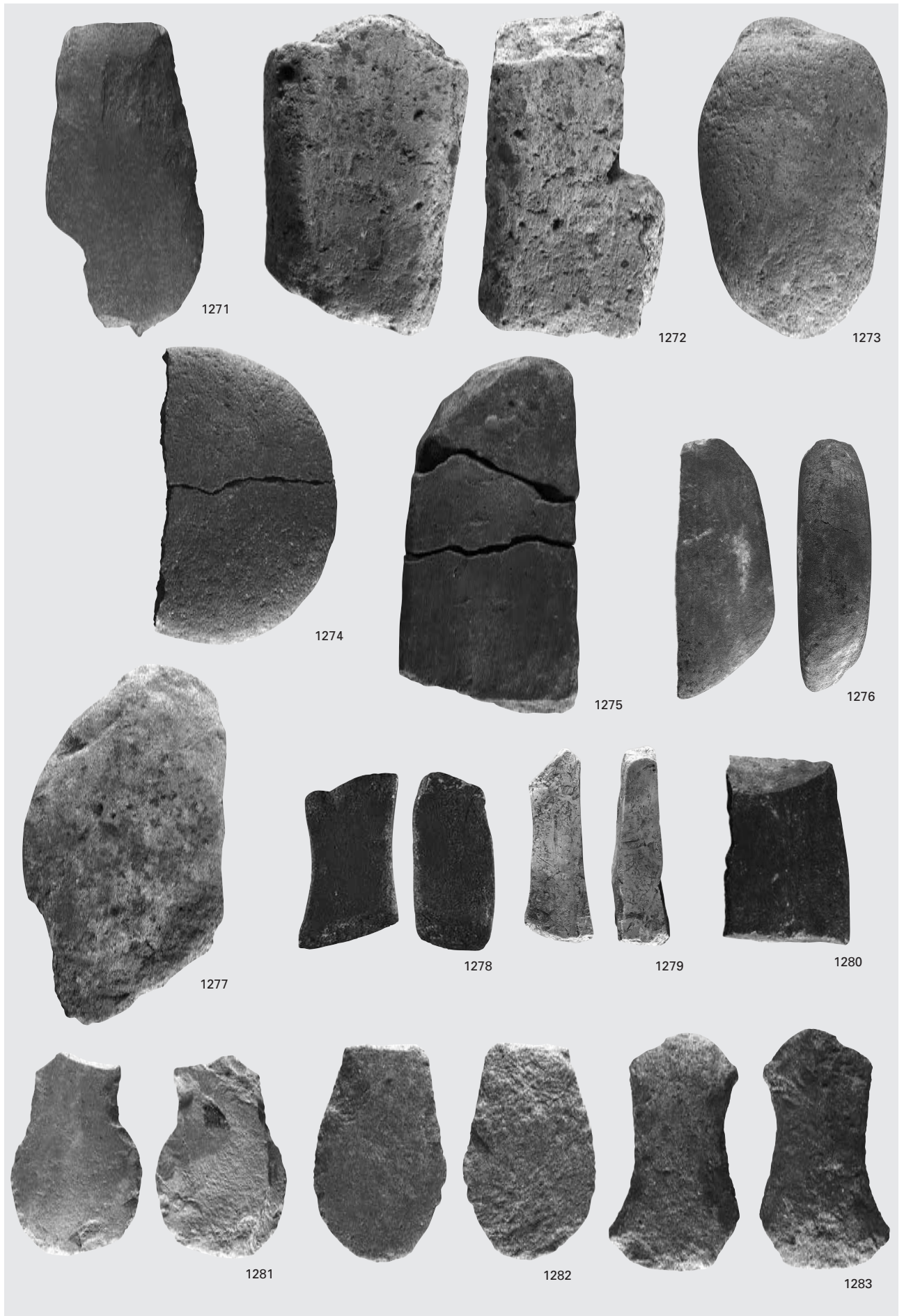
















1312

1313

1314



1315



1316



1317



1318



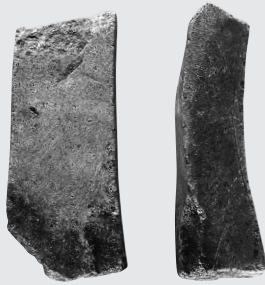
1319



1320



1321



1322



1323



1324



1325



1327



1328



報告書抄録

ふりがな	ののいちまちすえまついせき							
書名	野々市町末松遺跡							
副書名	一般国道157号鶴来バイパス改築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	柿田祐司・布尾和史							
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すえまつえー 末松A遺跡 第1次調査	いしかわけん 石川県 いしかわぐん 石川郡 ののいちまち 野々市町 すえまつ 末松	173444	16009	36度 30分 28秒	136度 35分 43秒	19850717 ～ 19851214	2,600㎡	道路建設
第2次調査						19860801 ～ 19861210	2,800㎡	
第3次調査						19870624 ～ 19871119	4,000㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
末松A遺跡	散布地	縄文・弥生時代		縄文土器・弥生土器・打製石斧				
	集落	飛鳥時代	竪穴建物	土師器・須恵器	壁溝に石を敷きつめた竪穴建物・青野型や近江型甕			
	集落	奈良・平安時代	竪穴建物・掘立柱建物・大溝	土師器・須恵器				
	集落	中世	総掘立柱建物・ピット・河道	土師器・珠洲焼・青磁・白磁				
要約	<p>7世紀後葉から8世紀前半代の竪穴建物を中心とした集落とその後の掘立柱建物を中心とした集落への転換が読み取れる。特に壁柱をもつ竪穴建物や近江型や青野型（丹波）といった土師器煮炊具が出土する7世紀後葉から8世紀初頭の集落は、それぞれの地からの直接的な移住が想定できる。彼らは、北陸では最も古い段階に創建された末松廃寺と直接的あるいは間接的に関与したと考えられ、古代における扇状地開発の中心的役割を担ったと考えられる。</p> <p>また、中世の土師器埋納ピットからは土師器皿が大量に出土したが、北陸の土師器編年の基準資料となっている。</p>							

野々市町 末松遺跡

発行日 平成17（2005）年3月31日

発行者 石川県教育委員会
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人 石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 前田印刷株式会社